

別記様式第2号（その1の1）

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部の設置							
フリガナ設置者	コリツカクイフクホクジン シンシュウイブク 国立大学法人 信州大学							
フリガナ大学の名称	シンシュウイブク 信州大学 (Shinshu University)							
大学本部の位置	長野県松本市旭三丁目1番1号							
大学の目的	教育基本法（平成18年法律第120号）の精神に則り、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用能力を展開させることを目的とする。							
新設学部等の目的	<p>経法学部は、経済学と法学の二つの学問分野を専門の軸足として、身に付けた専門性を現代社会のさまざまな課題の現場で発揮し、課題解決のために能動的に貢献できる人材を養成することを教育目標として、応用経済学科と総合法律学科の2学科で編成する。その人材養成のために、①体系的な社会科学の専門教育、②社会的課題に対応した学際的教育、③課題直結の実践的教育の3つの柱からなる特徴的な教育課程を構築する。</p> <p>また、こうした応用・実践的な能力を涵養する教育を行うために、それぞれの学科に現代社会が直面する喫緊の課題を応用分野として設定した3コースを設ける。応用経済学科では、リスク分析コース、公共経済コース、法と企業の経済分析コースを設定する。一方、総合法律学科では、環境法務コース、経済・起業法務コース、都市・行政法務コースを設定する。これらのコースで取り上げる具体的課題に取り組む教育を通じて、応用・実践力を身に付けて組織や地域で活躍できる人材を育成する。</p>							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	経法学部 [Faculty of Economics and Law]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	長野県松本市旭三丁目1番1号
	応用経済学科 [Department of Applied Economics]	4	100	2年次 10	430	学士 (経済学)	平成28年4月 第1年次 平成29年4月 第2年次	
	総合法律学科 [Department of Law]	4	80	2年次 10	350	学士 (法学)	平成28年4月 第1年次 平成29年4月 第2年次	
計		180	20	780				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>[学部] 教育学部 学校教育教員養成課程[定員増] (20)</p> <p>特別支援学校教員養成課程 (廃止) (△ 20) 生涯スポーツ課程 (廃止) (△ 25) 教育カウンセリング課程 (廃止) (△ 15) ※平成28年4月学生募集停止</p> <p>経済学部 (廃止) 経済学科 (△125) (3年次編入学定員) (△ 20) 経済システム法学科 (△ 60) (3年次編入学定員) (△ 10) ※平成28年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は平成30年4月募集停止)</p>							

工学部

物質化学科	(95)	(平成27年5月事前伺い予定)
(3年次編入学定員)	(4)	
電子情報システム工学科	(170)	(平成27年5月事前伺い予定)
(3年次編入学定員)	(7)	
水環境・土木工学科	(60)	(平成27年5月事前伺い予定)
(3年次編入学定員)	(3)	
機械システム工学科	(100)	(平成27年5月事前伺い予定)
(3年次編入学定員)	(4)	
建築学科	(60)	(平成27年5月事前伺い予定)
(3年次編入学定員)	(2)	

機械システム工学科 (廃止)	(△ 80)	
(3年次編入学定員)	(△ 3)	
電気電子工学科 (廃止)	(△ 95)	
(3年次編入学定員)	(△ 3)	
土木工学科 (廃止)	(△ 45)	
(3年次編入学定員)	(△ 2)	
建築学科 (廃止)	(△ 50)	
(3年次編入学定員)	(△ 2)	
物質工学科 (廃止)	(△ 60)	
(3年次編入学定員)	(△ 3)	
情報工学科 (廃止)	(△ 90)	
(3年次編入学定員)	(△ 5)	
環境機能工学科 (廃止)	(△ 50)	
(3年次編入学定員)	(△ 2)	

※平成28年4月学生募集停止
(3年次編入学定員は平成30年4月募集停止)

繊維学部

先進繊維・感性工学科	(65)	(平成27年5月事前伺い予定)
(3年次編入学定員)	(2)	
機械・ロボット学科	(60)	(平成27年5月事前伺い予定)
(3年次編入学定員)	(2)	
化学・材料学科	(105)	(平成27年5月事前伺い予定)
(3年次編入学定員)	(4)	
応用生物科学科	(50)	(平成27年5月事前伺い予定)
(3年次編入学定員)	(2)	

先進繊維工学課程 (廃止)	(△ 30)	
(3年次編入学定員)	(△ 1)	
感性工学課程 (廃止)	(△ 30)	
(3年次編入学定員)	(△ 1)	
機能機械学課程 (廃止)	(△ 30)	
(3年次編入学定員)	(△ 1)	
バイオエンジニアリング課程 (廃止)	(△ 25)	
(3年次編入学定員)	(△ 1)	
応用化学課程 (廃止)	(△ 37)	
(3年次編入学定員)	(△ 1)	
材料化学工学課程 (廃止)	(△ 37)	
(3年次編入学定員)	(△ 1)	
機能高分子学課程 (廃止)	(△ 36)	
(3年次編入学定員)	(△ 2)	
生物機能科学課程 (廃止)	(△ 25)	
(3年次編入学定員)	(△ 1)	
生物資源・環境科学課程 (廃止)	(△ 25)	
(3年次編入学定員)	(△ 1)	

※平成28年4月学生募集停止
(3年次編入学定員は平成30年4月募集停止)

[大学院]

教育学研究科

学校教育専攻[定員増]	(12)	
高度教職実践専攻	(20)	(平成27年3月設置計画書提出)
教科教育専攻 (廃止)	(△ 32)	

※教科教育専攻については平成28年4月学生募集停止

	繊維学部 先進繊維・感性工学科	10 (10)	9 (9)	0 (0)	3 (3)	22 (22)	0 (0)	77 (77)	平成27年5月申請 予定(事前伺い)	
	機械・ロボット学科	8 (8)	9 (9)	0 (0)	1 (1)	18 (18)	0 (0)	74 (74)		”
	化学・材料学科	15 (15)	17 (17)	0 (0)	4 (4)	36 (36)	0 (0)	73 (73)		”
	応用生物科学科	11 (11)	6 (6)	0 (0)	3 (3)	20 (20)	0 (0)	76 (76)		”
	全学教育機構	15 (15)	17 (25)	5 (1)	2 (2)	39 (43)	0 (0)	32 (32)		
	計	275 (277)	263 (269)	25 (22)	175 (175)	738 (743)	6 (6)	— (—)		
	合計	292 (291)	278 (283)	29 (26)	177 (177)	776 (777)	6 (6)	— (—)		
教員以外の 職員の概要	職種	専任		兼任		計				
	事務職員	396 (396)		444 (444)		840 (840)				
	技術職員	930 (930)		408 (408)		1,338 (1,338)				
	図書館専門職員	22 (22)		0 (0)		22 (22)				
	その他の職員	5 (5)		7 (7)		12 (12)				
	計	1,353 (1,353)		859 (859)		2,212 (2,212)				
校地等	区分	専用	共用	共用する他の 学校等の専用		計				
	校舎敷地	538,821㎡	0㎡	0㎡		538,821㎡				
	運動場用地	208,855㎡	0㎡	0㎡		208,855㎡				
	小計	747,676㎡	0㎡	0㎡		747,676㎡				
	その他	5,693,928㎡	0㎡	0㎡		5,693,928㎡				
	合計	6,441,604㎡	0㎡	0㎡		6,441,604㎡				
校舎	専用	共用	共用する他の 学校等の専用		計					
	433,734㎡ (433,734㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)		433,734㎡ (433,734㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			大学全体		
	158室	189室	1,371室	13室 (補助職員0人)	2室 (補助職員0人)					
専任教員研究室	新設学部等の名称			室数						
	経法学部			50室						
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特 定不能なため、 大学全体の数		
	経法学部	1,246,902 〔374,237〕 (1,246,902) (〔374,237〕)	28,578 〔9,123〕 (28,578) (〔9,123〕)	13,521 〔12,487〕 (13,521) (〔12,487〕)	3,754 (3,754)	58,388 (58,388)	147,488 (147,488)			
	計	1,246,902 〔374,237〕 (1,246,902) (〔374,237〕)	28,578 〔9,123〕 (28,578) (〔9,123〕)	13,521 〔12,487〕 (13,521) (〔12,487〕)	3,754 (3,754)	58,388 (58,388)	147,488 (147,488)			
図書館	面積	閲覧座席数		収納可能冊数				大学全体		
	11,472㎡	1,081		935,389						
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要						大学全体		
	8,085㎡	プール		武道場・弓道場						

経費の見積り方法及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による	
		教員1人当り研究費等		-	-	-	-	-		-
		共同研究費等		-	-	-	-	-		-
		図書購入費	-	-	-	-	-	-		-
		設備購入費	-	-	-	-	-	-		-
学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		-								
既設大学等の状況	大学の名称		信州大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	人文学部	年	人	年次人	人		倍		長野県松本市旭3丁目1番1号	
	人間情報学科	4	-	-	-	学士(文学)	-	平成7年度	※平成25年度より学生募集停止	
	文化コミュニケーション学科	4	-	-	-	学士(文学)	-	平成7年度	〃	
	人文学科	4	155	3年次5	470	学士(文学)	1.05	平成25年度		
	教育学部						1.02		長野県長野市大字西長野6のロ	
	学校教育教員養成課程	4	220	-	880	学士(教育学)	1.01	平成11年度		
	特別支援学校教員養成課程	4	20	-	80	学士(教育学)	1.06	平成11年度		
	生涯スポーツ課程	4	25	-	100	学士(教育学)	1.06	平成11年度		
	教育カウンセリング課程	4	15	-	60	学士(教育学)	1.03	平成11年度		
	経済学部						1.04		長野県松本市旭3丁目1番1号	
	経済学科	4	125	3年次20	540	学士(経済学)	1.05	昭和53年度		
	経済システム法学科	4	60	3年次10	260	学士(経済学)	1.02	平成7年度		
	理学部						1.01		長野県松本市旭3丁目1番1号	
	数理・自然情報科学科	4	-	-	-	学士(理学)	-	平成7年度	※平成27年度より学生募集停止	
	物理科学科	4	-	-	-	学士(理学)	-	平成7年度	〃	
	化学科	4	-	-	-	学士(理学)	-	平成7年度	〃	
	地質科学科	4	-	-	-	学士(理学)	-	平成7年度	〃	
	生物科学科	4	-	-	-	学士(理学)	-	平成7年度	〃	
	物質循環学科	4	-	-	-	学士(理学)	-	平成7年度	〃	
	数学科	4	54	3年次1	54	学士(理学)	1.09	平成27年度		
	理学科	4	151	3年次3	151	学士(理学)	1.01	平成27年度		
	医学部						0.99 1.02		長野県松本市旭3丁目1番1号	
	医学科	6	120	-	703	学士(医学)	0.99	昭和26年度	6年制学科 4年制学科	
	保健学科	4	143	3年次17	606	学士(看護学) 学士(保健学)	1.02	平成15年度		
	工学部						1.04		長野県長野市若里4丁目17番1号	
	社会開発工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	平成元年度	※平成20年度より学生募集停止	

機械システム工学科	4	80	3年次 3	326	学士（工学）	1.03	平成10年度	長野県上伊那郡 南箕輪村8304	※平成27年度より 学生募集停止
電気電子工学科	4	95	3年次 3	386	学士（工学）	1.04	平成元年度		
土木工学科	4	45	3年次 2	184	学士（工学）	1.02	平成20年度		
建築学科	4	50	3年次 2	204	学士（工学）	1.06	平成20年度		
物質工学科	4	60	3年次 3	246	学士（工学）	1.03	平成10年度		
情報工学科	4	90	3年次 5	370	学士（工学）	1.04	平成元年度		
環境機能工学科	4	50	3年次 2	204	学士（工学）	1.07	平成10年度		
農学部						1.03			
食料生産科学科	4	—	—	—	学士（農学）	—	平成9年度		
森林科学科	4	—	—	—	学士（農学）	—	平成9年度		
応用生命科学科	4	—	—	—	学士（農学）	—	平成9年度		
農学生命科学科	4	170	3年次 6	170	学士（農学）	1.08	平成27年度	長野県上田市常田 3丁目15番1号	
繊維学部						1.03			
先進繊維工学課程	4	30	3年次 1	122	学士（工学）	1.05	平成20年度		
感性工学課程	4	30	3年次 1	122	学士（工学）	1.11	平成20年度		
機能機械学課程	4	30	3年次 1	122	学士（工学）	1.03	平成20年度		
バイオエンジニアリング課程	4	25	3年次 1	102	学士（工学）		平成20年度		
応用化学課程	4	37	3年次 1	150	学士（工学）	1.02	平成20年度		
材料化学工学課程	4	37	3年次 1	150	学士（工学）		平成20年度		
機能高分子学課程	4	36	3年次 2	148	学士（工学）	1.00	平成20年度		
生物機能科学課程	4	25	3年次 1	102	学士（工学）		平成20年度		
生物資源・環境科学課程	4	25	3年次 1	102	学士（農学）	平成20年度			
研究科等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又は 称号	定員 超過率	開設 年度	所在地	
人文科学研究科		年	人	年次 人	人	倍		長野県松本市旭3丁目1番1号	
地域文化専攻 （修士課程）	2	5	—	10	修士（文学）	0.20	昭和57年度		
言語文化専攻 （修士課程）	2	5	—	10	修士（文学）	1.30	昭和57年度		
教育学研究科						0.93		長野県長野市大字 西長野6の口	
学校教育専攻 （修士課程）	2	8	—	16	修士（教育学）	1.74	平成3年度		
教科教育専攻 （修士課程）	2	32	—	64	修士（教育学）	0.73	平成3年度		
経済・社会政策科学研究科						0.96		長野県松本市旭3丁目1番1号	
経済・社会政策科学 専攻（修士課程）	2	6	—	12	修士（経済学）	0.91	平成元年度		
イノベーション・マ ネジメント専攻 （修士課程）	2	10	—	20	修士（マネジメント）	1.00	平成15年度		

工学系研究科													
情報工学専攻 (修士課程)	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成17年度	長野県長野市若里 4丁目17番1号	※平成24年度より 学生募集停止				
理工学系研究科						1.08							
数理・自然情報科学 専攻(修士課程)	2	16	—	32	修士(理学)	0.68	平成24年度	長野県松本市旭3丁 目1番1号					
物質基礎科学専攻 (修士課程)	2	26	—	52	修士(理学)	1.15	平成24年度						
地球生物圏科学専攻 (修士課程)	2	28	—	56	修士(理学)	0.80	平成24年度						
機械システム工学 専攻(修士課程)	2	32	—	64	修士(工学)	1.09	平成24年度	長野県長野市若里 4丁目17番1号					
電気電子工学専攻 (修士課程)	2	45	—	90	修士(工学)	1.12	平成24年度						
土木工学専攻 (修士課程)	2	12	—	24	修士(工学)	0.66	平成24年度						
建築学専攻 (修士課程)	2	30	—	60	修士(工学)	0.93	平成24年度						
物質工学専攻 (修士課程)	2	30	—	60	修士(工学)	0.94	平成24年度						
情報工学専攻 (修士課程)	2	45	—	90	修士(工学)	0.92	平成24年度						
環境機能工学専攻 (修士課程)	2	20	—	40	修士(工学)	1.15	平成24年度						
繊維・感性工学専攻 (修士課程)	2	34	—	68	修士(工学)	1.38	平成24年度	長野県上田市常田 3丁目15番1号					
機械・ロボット学 専攻(修士課程)	2	28	—	56	修士(工学)	1.39	平成24年度						
化学・材料専攻 (修士課程)	2	64	—	128	修士(工学)	1.24	平成24年度						
応用生物科学専攻 (修士課程)	2	24	—	48	修士(農学)	1.16	平成24年度						
農学研究科						0.78		長野県上伊那郡 南箕輪村8304					
食料生産科学専攻 (修士課程)	2	20	—	40	修士(農学)	0.77	平成13年度						
森林科学専攻 (修士課程)	2	17	—	34	修士(農学)	0.46	平成4年度						
応用生命科学専攻 (修士課程)	2	16	—	32	修士(農学)	1.27	平成13年度						
機能性食料開発学 専攻(修士課程)	2	16	—	32	修士(農学)	0.65	平成13年度						
医学系研究科 〔修士課程〕						1.05		長野県松本市旭3丁 目1番1号					
医科学専攻 (修士課程)	2	12	—	24	修士(医科学)	1.04	平成14年度						
保健学専攻 (博士前期課程)	2	14	—	28	修士(看護学) 修士(保健学)	1.07	平成19年度						
医学系研究科 〔博士課程〕						1.66 1.15		長野県松本市旭3丁 目1番1号	3年制専攻 4年制専攻				
医学系専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学)	—	平成15年度		※平成24年度より 学生募集停止				
臓器移植細胞工学医 科学系専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学)	—	平成12年度		〃				
加齢適応医科学系 専攻(博士課程)	4	—	—	—	博士(医学)	—	平成15年度		〃				
保健学専攻 (博士後期課程)	3	4	—	12	博士(保健学)	1.66	平成21年度						
医学系専攻 (博士課程)	4	40	—	160	博士(医学)	1.16	平成24年度						
疾患予防医科学系 専攻(博士課程)	4	8	—	32	博士(医学)	1.15	平成24年度						

総合工学系研究科						0.90		長野県松本市旭3丁目1番1号
生命機能・フアイバー工学専攻 (博士課程)	3	15	—	45	博士(学術) 博士(工学) 博士(農学)	0.80	平成17年度	長野県長野市若里4丁目17番1号
システム開発工学専攻 (博士課程)	3	12	—	36	博士(学術) 博士(理学) 博士(工学)	0.99	平成17年度	長野県上伊那郡南箕輪村8304
物質創成科学専攻 (博士課程)	3	7	—	21	博士(学術) 博士(理学) 博士(工学)	1.09	平成17年度	長野県上田市常田3丁目15番1号
山岳地域環境科学専攻 (博士課程)	3	8	—	24	博士(学術) 博士(理学) 博士(工学) 博士(農学)	0.79	平成17年度	
生物・食料科学専攻 (博士課程)	3	7	—	21	博士(学術) 博士(理学) 博士(農学)	0.94	平成17年度	
法曹法務研究科						—		長野県松本市旭3丁目1番1号
法曹法務専攻 (専門職学位課程)	3	—	—	—	法務博士(専門職)	—	平成17年度	※平成27年度より学生募集停止

附属施設の概要	<p>名称：中央図書館 目的：学術情報基盤組織として教育・研究を推進する。 所在地：長野県松本市旭3-1-1 設置年月：平成23年4月 規模等：土地 松本キャンパス (258,126㎡) の一部 建物 5,131㎡</p>	
	<p>名称：全学教育機構 目的：共通教育に係る教育課程の企画及び円滑な実施を図る。 所在地：長野県松本市旭3-1-1 設置年月：平成18年4月 規模等：土地 松本キャンパス (258,126㎡) の一部 建物 13,003㎡</p>	
	<p>名称：総合健康安全センター 目的：学生・教職員の健康管理や教育研究現場及び職場の快適な環境の実現を図る。 所在地：長野県松本市旭3-1-1 設置年月：平成22年4月 規模等：土地 松本キャンパス (258,126㎡) の一部 建物 本部 (16,764㎡) の一部</p>	
	<p>名称：総合情報センター 目的：キャンパスを結ぶネットワークや情報処理システム等の維持・管理を行うと共に、学術研究、情報処理教育システムなどの開発・提供を行う。 所在地：長野県松本市旭3-1-1 設置年月：平成21年10月 規模等：土地 松本キャンパス (258,126㎡) の一部 建物 234㎡</p>	
	<p>名称：医学部附属病院 目的：診療・教育・研究を遂行する。また先進的医療を行うとともに、次代を担う国際的な医療人の育成・研修の充実を図る。 所在地：長野県松本市旭3-1-1 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地 松本キャンパス (258,126㎡) の一部 建物 81,224㎡</p>	
	<p>名称：アドミッションセンター 目的：入学者選抜及びセンター試験の円滑な実施を図り、アドミッションポリシーに即した入試システムの研究開発と入学希望者に対する広報活動を行う。 所在地：長野県松本市旭3-1-1 設置年月：平成14年10月 規模等：土地 松本キャンパス (258,126㎡) の一部 建物 全学教育機構 (13,003㎡) の一部</p>	

<p>名称：高等教育研究センター 目的：大学における体系的な教育課程の構築を支援するとともに、教育の質保証に係る戦略及び教学関連の施策実施のための手法に係る研究開発を行う。 所在地：長野県松本市旭3-1-1 設置年月：平成23年4月 規模等：土地 松本キャンパス（258,126㎡）の一部 建物 全学教育機構（13,003㎡）の一部</p>	
<p>名称：e-Learningセンター 目的：情報通信技術を活用した教育の改革と改善を支援する。 所在地：長野県松本市旭3-1-1 設置年月：平成19年4月 規模等：土地 松本キャンパス（258,126㎡）の一部 建物 全学教育機構（13,003㎡）の一部</p>	
<p>名称：環境マインド推進センター 目的：自然と社会と個人の調和を生み出す環境マインド育成を推進する。 所在地：長野県松本市旭3-1-1 設置年月：平成20年4月 規模等：土地 松本キャンパス（258,126㎡）の一部 建物 全学教育機構（13,003㎡）の一部</p>	
<p>名称：学生相談センター 目的：学生生活の悩み・不安などの相談を受け付け、学生の快適なキャンパスライフをサポートする。 所在地：長野県松本市旭3-1-1 設置年月：平成24年4月 規模等：土地 松本キャンパス（258,126㎡）の一部 建物 全学教育機構（13,003㎡）の一部</p>	
<p>名称：学生総合支援センター 目的：一元的な学生支援体制を実現し、学生生活全般の教育・指導・支援を行う。 所在地：長野県松本市旭3-1-1 設置年月：平成18年4月 規模等：土地 松本キャンパス（258,126㎡）の一部 建物 全学教育機構（13,003㎡）の一部</p>	
<p>名称：キャリアサポートセンター 目的：充実したキャリアを形成していくための効果的な支援を行う。 所在地：長野県松本市旭3-1-1 設置年月：平成18年4月 規模等：土地 松本キャンパス（258,126㎡）の一部 建物 全学教育機構（13,003㎡）の一部</p>	
<p>名称：教員免許更新支援センター 目的：教育職員免許法に規定する免許状更新講習の企画及び円滑な実施を図る。 所在地：長野県松本市旭3-1-1 設置年月：平成20年4月 規模等：土地 松本キャンパス（258,126㎡）の一部 建物 全学教育機構（13,003㎡）の一部</p>	

経済・社会政策科学研究科			
経済・社会政策科学専攻 (M)	6	—	12
イノベーション・マネジメント専攻 (M)	10	—	20

理工学系研究科

数理・自然情報科学専攻 (M)	16	—	32
物質基礎科学専攻 (M)	26	—	52
地球生物圏科学専攻 (M)	28	—	56
機械システム工学専攻 (M)	32	—	64
電気電子工学専攻 (M)	45	—	90
土木工学専攻 (M)	12	—	24
建築学専攻 (M)	30	—	60
物質工学専攻 (M)	30	—	60
情報工学専攻 (M)	45	—	90
環境機能工学専攻 (M)	20	—	40
繊維・感性工学専攻 (M)	34	—	68
機械・ロボット学専攻 (M)	28	—	56
化学・材料専攻 (M)	64	—	128
応用生物科学専攻 (M)	24	—	48

農学研究科

食料生産科学専攻 (M)	20	—	40
森林科学専攻 (M)	17	—	34
応用生命科学専攻 (M)	16	—	32
機能性食料開発学専攻 (M)	16	—	32

医学系研究科

医科学専攻 (M)	12	—	24
保健学専攻 (M)	14	—	28
保健学専攻 (3年制D)	4	—	12
医学系専攻 (4年制D)	40	—	160
疾患予防医科学系専攻 (4年制D)	8	—	32

総合工学系研究科

生命機能・ファイバー工学専攻 (3年制D)	15	—	45
システム開発工学専攻 (3年制D)	12	—	36
物質創成科学専攻 (3年制D)	7	—	21
山岳地域環境科学専攻 (3年制D)	8	—	24
生物・食料科学専攻 (3年制D)	7	—	21

計 696 — 1541

経済・社会政策科学研究科			
経済・社会政策科学専攻 (M)	6	—	12
イノベーション・マネジメント専攻 (M)	10	—	20

0	—	0
0	—	0
0	—	0
0	—	0
0	—	0
0	—	0
0	—	0
0	—	0
0	—	0
0	—	0
0	—	0
0	—	0
0	—	0
0	—	0
0	—	0

平成28年4月学生募集停止

0	—	0
0	—	0
0	—	0
0	—	0

平成28年4月学生募集停止

総合理工学研究科

理学専攻 (M)	75	—	150
工学専攻 (M)	240	—	480
繊維学専攻 (M)	160	—	320
農学専攻 (M)	65	—	130
生命医工学専攻 (M)	35	—	70

専攻の設置(事前伺い申請)

医学系研究科

医科学専攻 (M)	12	—	24
保健学専攻 (M)	14	—	28
保健学専攻 (3年制D)	4	—	12
医学系専攻 (4年制D)	40	—	160
疾患予防医科学系専攻 (4年制D)	8	—	32

総合工学系研究科

生命機能・ファイバー工学専攻 (3年制D)	15	—	45
システム開発工学専攻 (3年制D)	12	—	36
物質創成科学専攻 (3年制D)	7	—	21
山岳地域環境科学専攻 (3年制D)	8	—	24
生物・食料科学専攻 (3年制D)	7	—	21

計 768 — 1685

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要																	
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通教育科目	教養ゼミナール群	環境問題を化学者と考えるゼミ	1後	2				○							兼1	※2単位選択必修 オムニバス・集中	
		生態資源論ゼミ	1前	2				○							兼1		
		地球白書ゼミ	1前	2					○						兼1		
		環境マインドを現場で体験するゼミ	1前	2					○						兼2		
		「時」について考えるゼミ	1後	2					○						兼1		
		原書で読むシャーロック・ホームズゼミ	1前	2					○						兼1		
		現代ドイツの言語と日常ゼミ	1前	2					○						兼1		
		現代ドイツ事情ゼミ	1後	2					○						兼1		
		異文化研究ゼミ	1後	2					○						兼1		
		感覚で攻める英文法ゼミ～覚える英文法から感じる英文法へ	1前・後	2					○						兼1		
		スポーツ・ホスピタリティゼミ 秋冬編(松本山雅FC連携ゼミ)	1後	2					○						兼1		
		スポーツ・ホスピタリティゼミ 春夏編(松本山雅FC連携ゼミ)	1前	2					○						兼1		
		スポーツ観戦文化論ゼミ	1前・後	2					○						兼1		
		テレビのメディアリテラシー(テレビ信州参与ゼミ)	1前	2					○						兼1		
		「考える」ゼミ	1前・後	2					○						兼1		
		化学計算入門ゼミ	1前・後	2					○						兼1		
		文系学生のための野外地質学ゼミ	1前	2					○						兼1		集中
		統計図解ゼミ	1前・後	2					○						兼1		
		アナログ再発見ゼミ	1前	2					○						兼1		
		情報社会論ゼミ	1前・後	2					○						兼1		
		大学生基礎力ゼミ	1前	2					○						兼4		
	グローバルに生きるゼミ	1前	2					○						兼2	オムニバス		
	新聞をつくろう！(タウン情報制作ゼミ)	1前	2					○						兼1			
	スポーツ活動論ゼミⅠ	1前	2					○						兼1			
	スポーツ活動論ゼミⅡ	1後	2					○						兼1			
	ドイツ環境ゼミ	1後	2					○						兼1	集中		
	社会科学の方法ゼミ	1前	2					○						兼1			
	環境科学群	環境社会学入門	1前	2				○							兼1	※2単位選択必修 オムニバス	
		熱帯雨林と社会	1前	2				○							兼1		
		環境～その人文・社会科学のアプローチ	1後	2				○							兼5		
		ライフサイクルアセスメント入門	1前・後	2				○							兼1		
		環境と生活とのかかわり	1前・後	2				○							兼1		
		地球環境の歴史	1前	2				○							兼1		
ネイチャーライティングのすすめ(環境文学Ⅰ)		1前	2				○							兼1			
環境文学のすすめ(環境文学Ⅱ)		1後	2				○							兼1			
自然環境と文化		1後	2				○							兼1			
生物と環境		1後	2				○							兼1			
自然災害と環境		1前	2				○							兼1			
生活の中の科学		1後	2				○							兼1			
環境法入門		1後	2				○							兼1			
人文科学群		日本学入門	1前	2				○							兼1		※2単位選択必修
	日本近代文学入門	1後	2				○							兼1			
	映像・人類学	1前	2				○							兼1			
	Top Level English(トップレベルイングリッシュ)	1前・後	2				○							兼2			
	「田園環境健康都市須坂」を「共創」(須坂市寄附講義)	1後	2				○							兼1			
	韓国の文化(食文化)	1前	2				○							兼1			
	韓国の文化(映画で学ぶ)	1前	2				○							兼1			
	韓国の文化(若者の世界)	1後	2				○							兼1			
	韓国の文化(メディア)	1後	2				○							兼1			
	フランスの文化Ⅰ	1前	2				○							兼1			
フランスの文化Ⅱ	1後	2				○							兼1				

教 育 課 程 等 の 概 要

(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通教育科目	教養科目 人文科学群	ドイツ語圏の文化Ⅰ	1前	2		○									兼1		
		ドイツ語圏の文化Ⅱ	1後	2		○									兼1		
		アフリカ文化論	1後	2		○									兼1		
	社会科学群	スポーツ考現学	1前・後	2			○									兼1	※2単位選択必修
		スポーツ文化を考える	1後	2			○									兼1	
		新聞と私たちの社会 (信濃毎日新聞社寄附講義)	1後	2			○									兼1	
		数を読む技術	1前	2			○									兼1	
		電子出版の現代	1前・後	2			○									兼1	
		世界経済の歩み	1前	2			○			1							
		ミクロ経済学入門	1後	2			○			2	3					オムニバス	
		マクロ経済学入門	1前	2			○			3	2					オムニバス	
		大学生が会おう経済・経営問題	1前	2			○			2	3					オムニバス	
		公法入門	1後	2			○									兼1	
		法学入門	1前	2			○									兼1	
		大学生が会おう法律問題	1前	2			○									兼10	
	現代政治分析	1前	2			○									兼1		
	自然科学群	数と形	1前	2			○									兼1	※当科学群または「体育・スポーツ群」から2単位選択必修
		伝えておきたい数学	1後	2			○									兼1	
		素数の不思議	1前	2			○									兼1	
		教養としての物理学	1前	2			○									兼1	
		観測天文学入門	1後	2			○									兼1	
		生活のなかの天文学	1前	2			○									兼1	
		生態学入門	1後	2			○									兼1	
		地域から学ぶ地球	1前	2			○									兼1	
		教養としての物質科学	1後	2			○									兼1	
		ネットワーク社会における情報科学	1前・後	2			○									兼1	
		統計学の基礎	1前・後	2			○									兼1	
		検索の科学	1前・後	2			○									兼1	
		脳の不思議を探る (認知神経科学入門)	1前	2			○									兼1	
		脳の不思議をもっと探る (認知神経科学入門)	1後	2			○									兼1	
		宇宙から原子への旅	1前	2			○									兼12	
	体育・スポーツ群	ソフトボール	1前	1					○							兼1	※当科学群または「自然科学群」から2単位選択必修
		テニス	1前	1					○							兼1	
アダブテッドスポーツ		1前	1					○							兼1		
弓道		1前	1					○							兼1		
コオーディネーションエクササイズ		1前	1					○							兼1		
剣道形の世界		1前	1					○							兼1		
バドミントン		1前	1					○							兼1		
コンディショニングバレエ		1前	1					○							兼1		
サッカー		1前・後	1					○							兼1		
バレーボール		1前	1					○							兼1		
トレッキング		1前	1					○							兼1		
ゴルフ		1前	1					○							兼1		
スポーツフィッシング		1前	1					○							兼1		
マリンスポーツ		1前	1					○							兼1		
信大マラソン		1前	1					○							兼2		
アウトドアの達人	1前	1					○							兼2			
サバイバル活動	1前	1					○							兼1			
スクーバダイビング	1前	1					○							兼1			

教 育 課 程 等 の 概 要

(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通教育科目	教養科目 体育・スポーツ群	レジャースポーツ	1前	1				○							兼1	集中	
		スポーツボウリング	1後	1				○							兼1		
		ニュースポーツ	1後	1				○							兼1		
		アスレティックトレーニング	1後	1				○							兼1		
		バスケットボール	1後	1				○							兼1		
		ネイチャースキー	1後	1				○							兼1		
		スノー・スポーツ	1後	1				○							兼4		
		フライングディスク	1前	1				○							兼1		
		小計 (108科目)	—	0	190	0	—			7	9	0	0	0	兼42		—
		基礎科目	外国語科目	英語	フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅠ (上級)	1前	1				○						
フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅠ (中級)	1前				1				○							兼3	
フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅠ (初級)	1前				1				○							兼2	
フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅡ (上級)	1後				1				○							兼1	
フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅡ (中級)	1後				1				○							兼3	
フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅡ (初級)	1後				1				○							兼2	
リスニング&リーディングⅠ (上級)	1前				1				○							兼1	
リスニング&リーディングⅠ (中級)	1前				1				○							兼2	
リスニング&リーディングⅠ (初級)	1前				1				○							兼2	
リスニング&リーディングⅡ (上級)	1後				1				○							兼1	
リスニング&リーディングⅡ (中級)	1後				1				○							兼2	
リスニング&リーディングⅡ (初級)	1後				1				○							兼2	
アカデミック・イングリッシュⅠ (上級)	2前				2				○							兼1	
アカデミック・イングリッシュⅠ (中級)	2前				2				○							兼3	
アカデミック・イングリッシュⅠ (初級)	2前				2				○							兼3	
アカデミック・イングリッシュⅡ (上級)	2後				2				○							兼1	
アカデミック・イングリッシュⅡ (中級)	2後				2				○							兼3	
アカデミック・イングリッシュⅡ (初級)	2後				2				○							兼3	
ドイツ語	ドイツ語初級 (総合)Ⅰ		1前	1				○							兼1		
	ドイツ語初級 (総合)Ⅱ		1後	1				○							兼1		
	ドイツ語初級 (文法)Ⅰ		1前	1				○							兼1		
	ドイツ語初級 (文法)Ⅱ		1後	1				○							兼1		
	ドイツ語初級 (読解・会話)Ⅰ		1前	1				○							兼1		
	ドイツ語初級 (読解・会話)Ⅱ		1後	1				○							兼1		
	ドイツ語中級 (読解)Ⅰ		2前	2				○							兼1		
	ドイツ語中級 (読解)Ⅱ		2後	2				○							兼1		
ドイツ語中級 (会話)Ⅰ	2前		2				○							兼1			
ドイツ語中級 (会話)Ⅱ	2後		2				○							兼1			
フランス語	フランス語初級 (総合)Ⅰ		1前	1				○							兼1		
	フランス語初級 (総合)Ⅱ		1後	1				○							兼1		
	フランス語初級 (文法)Ⅰ		1前	1				○							兼1		
	フランス語初級 (文法)Ⅱ		1後	1				○							兼1		
	フランス語初級 (読解・会話)Ⅰ		1前	1				○							兼1		
	フランス語初級 (読解・会話)Ⅱ		1後	1				○							兼1		
	フランス語中級 (読解・会話)Ⅰ		2前	2				○							兼1		
	フランス語中級 (読解・会話)Ⅱ		2後	2				○							兼1		
中国語	中国語初級 (総合)Ⅰ		1前	1				○							兼1		
	中国語初級 (総合)Ⅱ		1後	1				○							兼1		
	中国語初級 (文法)Ⅰ		1前	1				○							兼1		
	中国語初級 (文法)Ⅱ		1後	1				○							兼1		
	中国語初級 (読解・会話)Ⅰ		1前	1				○							兼1		
	中国語初級 (読解・会話)Ⅱ		1後	1				○							兼1		
	中国語演習Ⅰ	2前	2				○							兼1			
	中国語演習Ⅱ	2後	2				○							兼1			
ハンゲル	ハンゲル初級 (総合)Ⅰ	1前	1				○							兼1			
	ハンゲル初級 (総合)Ⅱ	1後	1				○							兼1			
	ハンゲル初級 (文法)Ⅰ	1前	1				○							兼1			
	ハンゲル初級 (文法)Ⅱ	1後	1				○							兼1			
	ハンゲル初級 (読解・会話)Ⅰ	1前	1				○							兼1			
	ハンゲル初級 (読解・会話)Ⅱ	1後	1				○							兼1			

教 育 課 程 等 の 概 要

(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目	基礎科目	ハングル初級 (読解・会話) II	1後		1				○							兼1	
		ハングル中級 (読解・会話) I	2前		2				○							兼1	
		ハングル中級 (読解・会話) II	2後		2				○							兼1	
		小計 (52科目)	—	0	68	0			—	0	0	0	0	0	0	兼14	—
	健康科学科目	健康科学・理論と実践	1前	1					○							兼7	※実技・オムニバス
		小計 (1科目)	—	1	0	0			—	0	0	0	0	0	0	兼7	—
		新入生ゼミナール	1前	2					○		8	9	2			兼5	
	新入生ゼミナール	新入生ゼミナールII	1後	2					○		8	9	2			兼4	
		小計 (2科目)	—	4	0	0			—	8	9	2	0	0	0	兼9	—
		日本語・日本事情	日本語	読解 (日本語) I	1前		1				○						兼1
	読解 (日本語) II		1後		1					○					兼1		
	作文 (日本語) I		1前		1					○					兼1		
	作文 (日本語) II		1後		1					○					兼1		
	ビジネス・ジャパニーズ I		1前		1					○					兼1		
	ビジネス・ジャパニーズ II		1後		1					○					兼1		
科学技術日本語 I	1前			1					○					兼1			
科学技術日本語 II	1後			1					○					兼1			
日本事情	日本社会と日本人 I		1前		2				○						兼1	※外国人留学生のみ	
	日本社会と日本人 II		1後		2				○					兼1			
	武道・伝統文化実習 I	1前		1					○					兼2	オムニバス		
	武道・伝統文化実習 II	1後		1					○					兼2	オムニバス		
小計 (12科目)	—	0	14	0			—	0	0	0	0	0	0	兼4	—		
専門科目	経済学基礎科目	統計学 I	1後	2					○		1						
		統計学 II	2前	4					○		1						
		経済数学A	1前	2					○					1			
		経済数学B	1後	2					○					1			
		ミクロ経済学 I	2前	4					○		1						
		ミクロ経済学 II	1後	4					○			1					
		マクロ経済学 I	2・3後		2				○		1						
		マクロ経済学 II	2・3前		2				○			1					
		ゲーム理論入門	2後		2				○			1					
		環境経済学 I	2・3後		2				○				1				
		社会経済学	2・3後		4				○				1				隔年
		経済史	2・3前		4				○				1				隔年
		世界経済論	2・3後		2				○				1				隔年
		経営学	2・3前		2				○				1				
		簿記・会計入門	2・3後		2				○				1				
		情報処理A	2・3前・後		2				○			1					
		情報処理B	2・3前・後		2				○			1					
		国際金融	2・3後		2				○			1					隔年
		財政学	2・3後		4				○			1					
		国際経済学	2・3後		2				○			1					隔年
		金融論A	2・3前		2				○			1					
		金融論B	2・3後		2				○				1				
		産業組織	2・3後		4				○				1				
		アジア経済論	2・3前		2				○			1					
		現代産業論	2・3前		2				○			2					共同
		現代職業論	2・3前		2				○			1					
		経営者と企業	2・3後		2				○			1	1				共同
		英語文献研究	2・3前・後		2					○		1	2				
小計 (28科目)	—	18	52	0			—	7	6	1	1	0		—			

教 育 課 程 等 の 概 要

(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目	リスク分析コース専門科目Ⅰ	ファイナンス理論	3・4前	2			○				1						
		ファイナンス応用	3・4後	2			○				1						
		確率過程論	3・4前	2			○				1						
		数理統計学	3・4後	2			○			1							
		計量経済学	3・4後	2			○					1					
		生保数理	3・4前	2			○										兼1
		年金数理	3・4前	2			○										兼1
		損保数理	3・4前	2			○										兼1
		数理モデル論	3・4後	2			○										兼1
		確率論基礎	3・4後	2			○										兼1
		公共経済学	3・4前	2			○					1					
		経済学演習Ⅰ	2後	2					○		8	9	2				
		経済学演習Ⅱ	3通	4					○		8	9	2				
		健康・スポーツ・自然演習Ⅰ	3・4前	2					○								兼1
		健康・スポーツ・自然演習Ⅱ	3・4後	2					○								兼1
		卒業論文	4通	6					○		8	9	2				
小計 (16科目)		—	10	28	0	—	—	—	8	9	2	0	0	兼6	—		
専門科目	リスク分析コース専門科目Ⅱ	医療経済学	3・4後	4			○				1						
		医療制度論	3・4後	2			○				1						
		社会政策論	3・4後	2			○			1							
		社会保障政策論	3・4前	2			○			1							
		経営組織論	3・4後	2			○				1						
		都市政策論	3・4後	2			○				1						
		地方財政	3・4後	2			○				1						
		経済地理学	3・4前	2			○				1						
		自然環境概論	3・4後	2			○			1							
		自然環境フィールドワークの理論と実践	3・4後	2			○									兼1	
		経営労務論	3・4後	2			○				1						
		財務会計	3・4前	2			○				1						
		管理会計	3・4後	2			○				1						
		公認会計士実務	3・4後	2			○				1						
		会社法Ⅱ	3・4前	2			○									兼1	
		行政学概論	3・4前	2			○									兼1	
自治行政	3・4後	2			○									兼1			
政治学基礎	3・4前	2			○									兼1			
国際政治	3・4後	4			○									兼1			
国際政治演習	3・4後	2					○							兼1			
小計 (20科目)		—	0	44	0	—	—	—	2	5	0	0	0	兼4	—		
実践教育科目	実践教育科目	実証日本経済論	3・4前	2			○			1							
		行動・実験経済学	3・4後	2			○			1							
		計量分析	3・4前	2			○					1					
		地域調査法	3・4前	2			○				1					※実習・隔年	
		地域包括ケアシステム論	3・4前	2			○			1	1					※実習・隔年・共同	
		地域社会統計分析	3・4前	2			○			1						隔年	
		経済規制の実務	3・4後	2			○			1							
		会計事例	3・4後	2			○				1					※実習・隔年	
小計 (8科目)		—	0	16	0	—	—	—	5	3	1	0	0		—		

教 育 課 程 等 の 概 要

(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	法学系選択科目	憲法	3・4前	4		○									兼1	共同
		統治機構論	3・4前	2		○									兼1	
		行政救済法	3・4前	2		○									兼1	
		民法総則	3・4前	2		○									兼1	
		契約法Ⅰ	3・4前	2		○									兼1	
		契約法Ⅱ	3・4後	2		○									兼1	
		契約法Ⅲ	3・4前	2		○									兼1	
		不法行為法	3・4後	2		○									兼1	
		担保法	3・4後	2		○									兼1	
		民事執行・保全法	3・4後	2		○									兼1	
		刑法Ⅰ	3・4後	4		○									兼1	
		刑法Ⅱ	3・4前	2		○									兼1	
		市民税法	3・4前	2		○									兼1	
		法人税法	3・4後	2		○									兼1	
		租税法実務	3・4後	2		○									兼2	
		知的財産法基礎	3・4後	2		○									兼1	
		知的財産法Ⅰ	3・4前	2		○									兼1	
		知的財産法Ⅱ	3・4後	2		○									兼1	
		危機管理法務	3・4前	2		○									兼1	
		小計 (19科目)		—	0	42	0	—	—	—	0	0	0	0	0	
メキ ンヤ トリア 科目 デベ ロッ プ	ボランティア	2・3・4前・後		2				○	1						兼1	共同
	インターンシップ	2・3・4前・後		2				○	1						兼1	共同
	Global Political Economy	2・3・4前		2			○								兼1	
	Global Business	2・3・4後		2			○								兼1	
	American Law and Society	2・3・4前		2			○								兼1	集中
	海外短期演習	2・3・4後		4			○								兼1	※実習・集中
小計 (6科目)		—	0	14	0	—	—	—	1	0	0	0	0	兼2	—	
合計 (272科目)		—	33	468	0	—	—	—	8	9	2	1	0	兼68	—	
学位又は称号		学士 (経済学)			学位又は学科の分野			経済学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
<p>1. 共通教育科目 37単位以上</p> <p>(1) 教養科目 24単位以上</p> <p>① 教養ゼミナール群 2単位以上</p> <p>② 環境科学群 2単位以上</p> <p>③ 人文科学群 2単位以上</p> <p>④ 社会科学群 2単位以上</p> <p>⑤ 自然科学群または体育・スポーツ群 2単位以上</p> <p>(2) 外国語科目 8単位</p> <p>英語または中国語 同一言語で8単位</p> <p>(3) 健康科学科目 1単位</p> <p>(4) 新入生ゼミナール科目 4単位</p> <p>※(2)の要件を超えて修得した外国語科目の単位については、4単位まで(1)の単位の算入することができる。</p> <p>※外国人留学生は、日本語・日本事情科目のうち「日本語」4単位が必修。「日本語」4単位は(2)の単位の算入することができる。また、(2)に算入した単位を超える日本語・日本事情科目の単位数は、(1)の単位の算入することができる。</p> <p>2. 専門科目 90単位以上</p> <p>(1) 経済学基礎科目</p> <p>必修科目 18単位</p> <p>選択科目 24単位以上</p> <p>(2) リスク分析コース専門科目Ⅰ</p> <p>必修科目 10単位</p> <p>選択科目 18単位以上</p> <p>(3) 実践教育科目 2単位以上</p> <p>3. 履修科目の登録の上限</p> <p>① 共通教育科目は1学期あたり24単位</p> <p>② 共通教育科目と専門科目を合わせて、年間44単位</p>							1学年の学期区分		2期							
							1学期の授業期間		15週							
							1時限の授業時間		90分							

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要																
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目	教養ゼミナール群	環境問題を化学者と考えるゼミ	1後	2				○							兼1	※2単位選択必修 オムニバス・集中
		生態資源論ゼミ	1前	2				○							兼1	
		地球白書ゼミ	1前	2					○						兼1	
		環境マインドを現場で体験するゼミ	1前	2					○						兼2	
		「時」について考えるゼミ	1後	2					○						兼1	
		原書で読むシャーロック・ホームズゼミ	1前	2					○						兼1	
		現代ドイツの言語と日常ゼミ	1前	2					○						兼1	
		現代ドイツ事情ゼミ	1後	2					○						兼1	
		異文化研究ゼミ	1後	2					○						兼1	
		感覚で攻める英文法ゼミ～覚える英文法から感じる英文法へ	1前・後	2					○						兼1	
		スポーツ・ホスピタリティゼミ 秋冬編(松本山雅FC連携ゼミ)	1後	2					○						兼1	
		スポーツ・ホスピタリティゼミ 春夏編(松本山雅FC連携ゼミ)	1前	2					○						兼1	
		スポーツ観戦文化論ゼミ	1前・後	2					○						兼1	
		テレビのメディアリテラシー (テレビ信州参加ゼミ)	1前	2					○						兼1	
		「考える」ゼミ	1前・後	2					○						兼1	
		化学計算入門ゼミ	1前・後	2					○						兼1	
		文系学生のための野外地質学ゼミ	1前	2					○						兼1	
		統計図解ゼミ	1前・後	2					○						兼1	
		アナログ再発見ゼミ	1前	2					○						兼1	
		情報社会論ゼミ	1前・後	2					○						兼1	
	大学生基礎力ゼミ	1前	2					○						兼4		
	グローバルに生きるゼミ	1前	2					○						兼2		
	新聞をつくらう！(タウン情報制作ゼミ)	1前	2					○						兼1		
	スポーツ活動論ゼミ I	1前	2					○						兼1		
	スポーツ活動論ゼミ II	1後	2					○						兼1		
	ドイツ環境ゼミ	1後	2					○						兼1		
	社会科学の方法ゼミ	1前	2					○						兼1		
	環境科学群	環境社会学入門	1前	2					○						兼1	※2単位選択必修 オムニバス
		熱帯雨林と社会	1前	2					○						兼1	
		環境～その人文・社会的アプローチ	1後	2					○						兼5	
		ライフサイクルアセスメント入門	1前・後	2					○						兼1	
		環境と生活とのかかわり	1前・後	2					○						兼1	
		地球環境の歴史	1前	2					○						兼1	
		ネイチャーライティングのすすめ (環境文学 I)	1前	2					○						兼1	
		環境文学のすすめ (環境文学 II)	1後	2					○						兼1	
		自然環境と文化	1後	2					○						兼1	
生物と環境		1後	2					○						兼1		
自然災害と環境		1前	2					○						兼1		
生活の中の科学		1後	2					○						兼1		
環境法入門	1後	2					○						兼1			
人文科学群	日本学入門	1前	2					○						兼1	※2単位選択必修	
	日本近代文学入門	1後	2					○						兼1		
	映像・人類学	1前	2					○						兼1		
	Top Level English (トップレベルイングリッシュ)	1前・後	2					○						兼2		
	「田園環境健康都市須坂」を「共創」(須坂市寄附講義)	1後	2					○						兼1		
	韓国の文化(食文化)	1前	2					○						兼1		
	韓国の文化(映画で学ぶ)	1前	2					○						兼1		
	韓国の文化(若者の世界)	1後	2					○						兼1		
	韓国の文化(メディア)	1後	2					○						兼1		
	フランスの文化 I	1前	2					○						兼1		
フランスの文化 II	1後	2					○						兼1			

教 育 課 程 等 の 概 要

(経法学部応用経済学科 公共経済コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目	教養科目 人文科学群	ドイツ語圏の文化Ⅰ	1前	2		○									兼1	
		ドイツ語圏の文化Ⅱ	1後	2		○									兼1	
		アフリカ文化論	1後	2		○									兼1	
	社会科学群	スポーツ考現学	1前・後		2		○								兼1	※2単位選択必修
		スポーツ文化を考える	1後		2		○								兼1	
		新聞と私たちの社会 (信濃毎日新聞社寄附講義)	1後		2		○								兼1	
		数を読む技術	1前		2		○								兼1	
		電子出版の現代	1前・後		2		○								兼1	
		世界経済の歩み	1前		2		○			1						
		ミクロ経済学入門	1後		2		○			2	3				オムバス	
		マクロ経済学入門	1前		2		○			3	2				オムバス	
		大学生が会おう経済・経営問題	1前		2		○			2	3				オムバス	
		公法入門	1後		2		○								兼1	
		法学入門	1前		2		○								兼1	
		大学生が会おう法律問題	1前		2		○								兼10	
	現代政治分析	1前		2		○								兼1		
	自然科学群	数と形	1前		2		○								兼1	※当科学群または「体育・スポーツ群」から2単位選択必修
		伝えておきたい数学	1後		2		○								兼1	
		素数の不思議	1前		2		○								兼1	
		教養としての物理学	1前		2		○								兼1	
		観測天文学入門	1後		2		○								兼1	
		生活のなかの天文学	1前		2		○								兼1	
		生態学入門	1後		2		○								兼1	
		地域から学ぶ地球	1前		2		○								兼1	
		教養としての物質科学	1後		2		○								兼1	
		ネットワーク社会における情報科学	1前・後		2		○								兼1	
		統計学の基礎	1前・後		2		○								兼1	
		検索の科学	1前・後		2		○								兼1	
		脳の不思議を探る (認知神経科学入門)	1前		2		○								兼1	
		脳の不思議をもっと探る (認知神経科学入門)	1後		2		○								兼1	
		宇宙から原子への旅	1前		2		○								兼12	
	体育・スポーツ群	ソフトボール	1前		1				○						兼1	※当科学群または「自然科学群」から2単位選択必修
		テニス	1前		1				○						兼1	
アダプテッドスポーツ		1前		1				○						兼1		
弓道		1前		1				○						兼1		
コーディネーションエクササイズ		1前		1				○						兼1		
剣道形の世界		1前		1				○						兼1		
バドミントン		1前		1				○						兼1		
コンディショニングバレエ		1前		1				○						兼1		
サッカー		1前・後		1				○						兼1		
バレーボール		1前		1				○						兼1		
トレッキング		1前		1				○						兼1		
ゴルフ		1前		1				○						兼1		
スポーツフィッシング		1前		1				○						兼1		
マリンスポーツ		1前		1				○						兼1		
信大マラソン		1前		1				○						兼2		
アウトドアの達人	1前		1				○						兼2			
サバイバル活動	1前		1				○						兼1			
スクーバダイビング	1前		1				○						兼1			

教 育 課 程 等 の 概 要

(経法学部応用経済学科 公共経済コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手						
共通教育科目	教養科目 体育・スポーツ群	レジャースポーツ	1前	1					○							兼1	集中		
		スポーツボウリング	1後	1					○							兼1			
		ニュースポーツ	1後	1					○							兼1			
		アスレティックトレーニング	1後	1					○							兼1			
		バスケットボール	1後	1					○							兼1			
		ネイチャースキー	1後	1					○							兼1	集中		
		スノー・スポーツ	1後	1					○							兼4	集中		
		フライングディスク	1前	1					○							兼1			
		小計 (108科目)	—	—	0	190	0			—	7	9	0	0	0	兼42	—		
		基礎科目	外国語科目	英語	フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ I (上級)	1前	1					○						兼1	
フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ I (中級)	1前				1												兼3		
フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ I (初級)	1前				1												兼2		
フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ II (上級)	1後				1												兼1		
フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ II (中級)	1後				1												兼3		
フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ II (初級)	1後				1												兼2		
リスニング&リーディング I (上級)	1前				1												兼1		
リスニング&リーディング I (中級)	1前				1												兼2		
リスニング&リーディング I (初級)	1前				1												兼2		
リスニング&リーディング II (上級)	1後				1												兼1		
リスニング&リーディング II (中級)	1後				1												兼2		
リスニング&リーディング II (初級)	1後				1												兼2		
アカデミック・イングリッシュ I (上級)	2前				2						○						兼1		
アカデミック・イングリッシュ I (中級)	2前				2						○						兼3		
アカデミック・イングリッシュ I (初級)	2前				2						○						兼3		
アカデミック・イングリッシュ II (上級)	2後				2						○						兼1		
アカデミック・イングリッシュ II (中級)	2後				2						○						兼3		
アカデミック・イングリッシュ II (初級)	2後				2						○						兼3		
ドイツ語	ドイツ語初級 (総合) I				1前	1						○						兼1	
	ドイツ語初級 (総合) II				1後	1						○						兼1	
	ドイツ語初級 (文法) I	1前	1						○						兼1				
	ドイツ語初級 (文法) II	1後	1						○						兼1				
	ドイツ語初級 (読解・会話) I	1前	1						○						兼1				
	ドイツ語初級 (読解・会話) II	1後	1						○						兼1				
	ドイツ語中級 (読解) I	2前	2						○						兼1				
	ドイツ語中級 (読解) II	2後	2						○						兼1				
	ドイツ語中級 (会話) I	2前	2						○						兼1				
ドイツ語中級 (会話) II	2後	2						○						兼1					
フランス語	フランス語初級 (総合) I	1前	1						○						兼1				
	フランス語初級 (総合) II	1後	1						○						兼1				
	フランス語初級 (文法) I	1前	1						○						兼1				
	フランス語初級 (文法) II	1後	1						○						兼1				
	フランス語初級 (読解・会話) I	1前	1						○						兼1				
	フランス語初級 (読解・会話) II	1後	1						○						兼1				
	フランス語中級 (読解・会話) I	2前	2						○						兼1				
	フランス語中級 (読解・会話) II	2後	2						○						兼1				
中国語	中国語初級 (総合) I	1前	1						○						兼1				
	中国語初級 (総合) II	1後	1						○						兼1				
	中国語初級 (文法) I	1前	1						○						兼1				
	中国語初級 (文法) II	1後	1						○						兼1				
	中国語初級 (読解・会話) I	1前	1						○						兼1				
	中国語初級 (読解・会話) II	1後	1						○						兼1				
	中国語演習 I	2前	2						○						兼1				
	中国語演習 II	2後	2						○						兼1				
ハンブル	ハンブル初級 (総合) I	1前	1						○						兼1				
	ハンブル初級 (総合) II	1後	1						○						兼1				
	ハンブル初級 (文法) I	1前	1						○						兼1				
	ハンブル初級 (文法) II	1後	1						○						兼1				

教 育 課 程 等 の 概 要

(経法学部応用経済学科 公共経済コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
共通教育科目	外国語科目 ハングル	ハングル初級(読解・会話)Ⅰ	1前	1					○							兼1		
		ハングル初級(読解・会話)Ⅱ	1後	1					○							兼1		
		ハングル中級(読解・会話)Ⅰ	2前	2					○							兼1		
		ハングル中級(読解・会話)Ⅱ	2後	2					○							兼1		
	小計(52科目)		—	0	68	0			—		0	0	0	0	0	兼14	—	
	健康科学科目	健康科学・理論と実践	1前	1					○							兼7	※実技・ホムバース	
		小計(1科目)		—	1	0	0		—		0	0	0	0	0	兼7	—	
		新入生ゼミナール	新入生ゼミナールⅠ	1前	2					○		8	9	2			兼5	
	新入生ゼミナールⅡ		1後	2					○		8	9	2			兼4		
	小計(2科目)		—	4	0	0		—		8	9	2	0	0	兼9	—		
	日本語・日本事情	日本語	読解(日本語)Ⅰ	1前	1					○							兼1	※外国人留学生のみ
			読解(日本語)Ⅱ	1後	1					○							兼1	
			作文(日本語)Ⅰ	1前	1					○							兼1	
			作文(日本語)Ⅱ	1後	1					○							兼1	
ビジネス・ジャパニーズⅠ			1前	1					○							兼1		
ビジネス・ジャパニーズⅡ			1後	1					○							兼1		
科学技術日本語Ⅰ			1前	1					○							兼1		
科学技術日本語Ⅱ			1後	1					○							兼1		
日本事情		日本社会と日本人Ⅰ	1前	2					○							兼1	※外国人留学生のみ	
		日本社会と日本人Ⅱ	1後	2					○							兼1		
		武道・伝統文化実習Ⅰ	1前	1												兼2	ホムバース	
		武道・伝統文化実習Ⅱ	1後	1												兼2	ホムバース	
小計(12科目)		—	0	14	0		—			0	0	0	0	0	兼4	—		
専門科目	経済学基礎科目	統計学Ⅰ	1後	2					○		1							
		統計学Ⅱ	2前	4					○		1							
		経済数学A	1前	2					○					1				
		経済数学B	1後	2					○					1				
		ミクロ経済学Ⅰ	2前	4					○		1							
		マクロ経済学Ⅰ	1後	4					○			1						
		ミクロ経済学Ⅱ	2・3後	2					○		1							
		マクロ経済学Ⅱ	2・3前	2					○			1						
		ゲーム理論入門	2後	2					○			1						
		環境経済学Ⅰ	2・3後	2					○				1					
		社会経済学	2・3後	4					○			1					隔年	
		経済史	2・3前	4					○			1					隔年	
		世界経済論	2・3後	2					○			1					隔年	
		経営学	2・3前	2					○			1						
		簿記・会計入門	2・3後	2					○			1						
		情報処理A	2・3前・後	2					○		1							
		情報処理B	2・3前・後	2					○		1							
		国際金融	2・3後	2					○		1						隔年	
		財政学	2・3後	4					○		1							
		国際経済学	2・3後	2					○		1						隔年	
		金融論A	2・3前	2					○		1							
		金融論B	2・3後	2					○			1						
		産業組織	2・3後	4					○			1						
		アジア経済論	2・3前	2					○		1							
		現代産業論	2・3前	2					○		2						共同	
		現代職業論	2・3前	2					○		1						共同	
		経営者と企業	2・3後	2					○		1	1					共同	
		英語文献研究	2・3前・後	2						○	1	2						
小計(28科目)		—	18	52	0		—			7	6	1	1	0		—		

教 育 課 程 等 の 概 要

(経法学部応用経済学科 公共経済コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門科目	公共経済コース専門科目Ⅰ	医療経済学	3・4後	4			○				1							
		社会政策論	3・4後	2			○			1								
		地方財政	3・4後	2			○				1							
		公共経済学	3・4前	2			○				1							
		医療制度論	3・4後		2			○			1							
		社会保障政策論	3・4前		2			○		1							隔年	
		比較社会保障論	3・4後		2			○		1								
		計量経済学	3・4後		2			○				1						隔年
		経済地理学	3・4前		2			○			1							
		自然環境概論	3・4後		2			○			1							
		医療社会学	3・4前		2			○										兼1
		健康政策論	3・4前		2			○			1	1						兼3
		都市政策論	3・4後		2			○				1						
		環境経済学Ⅱ	3・4前		2			○					1					
		自然環境フィールドワークの理論と実践	3・4後		2			○										兼1
		経済学演習Ⅰ	2後		2				○		8	9	2					
		経済学演習Ⅱ	3通		4				○		8	9	2					
		健康・スポーツ・自然演習Ⅰ	3・4前		2				○									兼1 ※実習
		健康・スポーツ・自然演習Ⅱ	3・4後		2				○									兼1 ※実習
		卒業論文	4通		6				○		8	9	2					
小計 (20科目)		—	10	38	0		—		8	9	2	0	0	兼4	—			
公共経済コース専門科目Ⅱ	法と経済学Ⅰ	法と経済学Ⅰ	3・4前		2		○			1								
		経営組織論	3・4後		2		○				1							隔年
		経営労務論	3・4後		2		○				1							
		財務会計	3・4前		2		○				1							
		管理会計	3・4後		2		○				1							
		公認会計士実務	3・4後		2		○				1							
		生保数理	3・4前		2		○											兼1
		年金数理	3・4前		2		○											兼1
		損保数理	3・4前		2		○											兼1
		数理モデル論	3・4後		2		○											兼1
		確率論基礎	3・4後		2		○											兼1
		数理統計学	3・4後		2		○				1							
		労働法	3・4前		4		○											兼1
		社会保障法	3・4後		2		○											兼1
		行政法	3・4後		4		○											兼1
		行政学概論	3・4前		2		○											兼1
		自治行政	3・4後		2		○											兼1
		政治学基礎	3・4前		2		○											兼1
		国際政治	3・4後		4		○											兼1
		国際政治演習	3・4後		2			○										兼1
小計 (20科目)		—	0	46	0		—		2	2	0	0	0	兼9	—			
実践教育科目	実証日本経済論	実証日本経済論	3・4前		2		○			1								
		行動・実験経済学	3・4後		2		○			1								
		計量分析	3・4前		2		○					1						※実習・隔年
		地域調査法	3・4前		2		○				1							※実習・隔年・共同
		地域包括ケアシステム論	3・4前		2		○			1	1							隔年
		地域社会統計分析	3・4前		2		○			1								
		経済規制の実務	3・4後		2		○			1								
		会計事例	3・4後		2		○				1							※実習・隔年
小計 (8科目)		—	0	16	0		—		5	3	1	0	0		—			

教 育 課 程 等 の 概 要

(経法学部応用経済学科 公共経済コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	法学系選択科目	憲法	3・4前	4		○									兼1	共同
		統治機構論	3・4前	2		○									兼1	
		行政救済法	3・4前	2		○									兼1	
		民法総則	3・4前	2		○									兼1	
		契約法Ⅰ	3・4前	2		○									兼1	
		契約法Ⅱ	3・4後	2		○									兼1	
		契約法Ⅲ	3・4前	2		○									兼1	
		不法行為法	3・4後	2		○									兼1	
		担保法	3・4後	2		○									兼1	
		民事執行・保全法	3・4後	2		○									兼1	
		刑法Ⅰ	3・4後	4		○									兼1	
		刑法Ⅱ	3・4前	2		○									兼1	
		市民税法	3・4前	2		○									兼1	
		法人税法	3・4後	2		○									兼1	
		租税法実務	3・4後	2		○									兼2	
		知的財産法基礎	3・4後	2		○									兼1	
		知的財産法Ⅰ	3・4前	2		○									兼1	
		知的財産法Ⅱ	3・4後	2		○									兼1	
		危機管理法務	3・4前	2		○									兼1	
小計 (19科目)		—	0	42	0	—			0	0	0	0	0	兼14	—	
メキヤトリ科目デベロップ	ボランティア	2・3・4前・後		2				○	1					兼1	共同	
	インターンシップ	2・3・4前・後		2				○	1					兼1	共同	
	Global Political Economy	2・3・4前		2			○							兼1		
	Global Business	2・3・4後		2			○							兼1		
	American Law and Society	2・3・4前		2			○							兼1	集中	
	海外短期演習	2・3・4後		4			○							兼1	※実習・集中	
小計 (6科目)		—	0	14	0	—			1	0	0	0	0	兼2	—	
合計 (276科目)		—	33	480	0	—			8	9	2	1	0	兼71	—	
学位又は称号			学士 (経済学)			学位又は学科の分野			経済学関係							
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
<p>1. 共通教育科目 37単位以上</p> <p>(1) 教養科目 24単位以上</p> <p>① 教養ゼミナール群 2単位以上</p> <p>② 環境科学群 2単位以上</p> <p>③ 人文科学群 2単位以上</p> <p>④ 社会科学群 2単位以上</p> <p>⑤ 自然科学群または体育・スポーツ群 2単位以上</p> <p>(2) 外国語科目 8単位</p> <p>英語または中国語 同一言語で8単位</p> <p>(3) 健康科学科目 1単位</p> <p>(4) 新入生ゼミナール科目 4単位</p> <p>※(2)の要件を超えて修得した外国語科目の単位については、4単位まで(1)の単位に算入することができる。</p> <p>※外国人留学生は、日本語・日本事情科目のうち「日本語」4単位が必修。「日本語」4単位は(2)の単位に算入することができる。また、(2)に算入した単位を超える日本語・日本事情科目の単位数は、(1)の単位に算入することができる。</p> <p>2. 専門科目 90単位以上</p> <p>(1) 経済学基礎科目</p> <p>必修科目 18単位</p> <p>選択科目 24単位以上</p> <p>(2) 公共経済コース専門科目Ⅰ</p> <p>必修科目 10単位</p> <p>選択科目 18単位以上</p> <p>(3) 実践教育科目 2単位以上</p> <p>3. 履修科目の登録の上限</p> <p>① 共通教育科目は1学期あたり24単位</p> <p>② 共通教育科目と専門科目を合わせて、年間44単位</p>						1 学年の学期区分			2 期							
						1 学期の授業期間			1 5 週							
						1 時限の授業時間			9 0 分							

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要																
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目	教養ゼミナール群	環境問題を化学者と考えるゼミ	1後	2				○							兼1	※2単位選択必修 オムニバス・集中
		生態資源論ゼミ	1前	2				○							兼1	
		地球白書ゼミ	1前	2					○						兼1	
		環境マインドを現場で体験するゼミ	1前	2					○						兼2	
		「時」について考えるゼミ	1後	2					○						兼1	
		原書で読むシャーロック・ホームズゼミ	1前	2					○						兼1	
		現代ドイツの言語と日常ゼミ	1前	2					○						兼1	
		現代ドイツ事情ゼミ	1後	2					○						兼1	
		異文化研究ゼミ	1後	2					○						兼1	
		感覚で攻める英文法ゼミ～覚える英文法から感じる英文法へ	1前・後	2					○						兼1	
		スポーツ・ホスピタリティゼミ 秋冬編(松本山雅FC連携ゼミ)	1後	2					○						兼1	
		スポーツ・ホスピタリティゼミ 春夏編(松本山雅FC連携ゼミ)	1前	2					○						兼1	
		スポーツ観戦文化論ゼミ	1前・後	2					○						兼1	
		テレビのメディアリテラシー (テレビ信州参加ゼミ)	1前	2					○						兼1	
		「考える」ゼミ	1前・後	2					○						兼1	
		化学計算入門ゼミ	1前・後	2					○						兼1	
		文系学生のための野外地質学ゼミ	1前	2					○						兼1	
		統計図解ゼミ	1前・後	2					○						兼1	
		アナログ再発見ゼミ	1前	2					○						兼1	
		情報社会論ゼミ	1前・後	2					○						兼1	
	大学生基礎力ゼミ	1前	2					○						兼4		
	グローバルに生きるゼミ	1前	2					○						兼2		
	新聞をつくらう！(タウン情報制作ゼミ)	1前	2					○						兼1		
	スポーツ活動論ゼミ I	1前	2					○						兼1		
	スポーツ活動論ゼミ II	1後	2					○						兼1		
	ドイツ環境ゼミ	1後	2					○						兼1		
	社会科学の方法ゼミ	1前	2					○						兼1		
	環境科学群	環境社会学入門	1前	2					○						兼1	※2単位選択必修 オムニバス
		熱帯雨林と社会	1前	2					○						兼1	
		環境～その人文・社会的アプローチ	1後	2					○						兼5	
		ライフサイクルアセスメント入門	1前・後	2					○						兼1	
		環境と生活とのかかわり	1前・後	2					○						兼1	
		地球環境の歴史	1前	2					○						兼1	
		ネイチャーライティングのすすめ (環境文学 I)	1前	2					○						兼1	
		環境文学のすすめ (環境文学 II)	1後	2					○						兼1	
		自然環境と文化	1後	2					○						兼1	
		生物と環境	1後	2					○						兼1	
		自然災害と環境	1前	2					○						兼1	
		生活の中の科学	1後	2					○						兼1	
		環境法入門	1後	2					○						兼1	
	人文科学群	日本学入門	1前	2					○						兼1	※2単位選択必修
		日本近代文学入門	1後	2					○						兼1	
		映像・人類学	1前	2					○						兼1	
		Top Level English (トップレベルイングリッシュ)	1前・後	2					○						兼2	
		「田園環境健康都市須坂」を「共創」(須坂市寄附講義)	1後	2					○						兼1	
		韓国の文化 (食文化)	1前	2					○						兼1	
		韓国の文化 (映画で学ぶ)	1前	2					○						兼1	
韓国の文化 (若者の世界)		1後	2					○						兼1		
韓国の文化 (メディア)		1後	2					○						兼1		
フランスの文化 I		1前	2					○						兼1		
フランスの文化 II		1後	2					○						兼1		

教 育 課 程 等 の 概 要

(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目	教養科目 人文科学群	ドイツ語圏の文化Ⅰ	1前	2		○									兼1	
		ドイツ語圏の文化Ⅱ	1後	2		○									兼1	
		アフリカ文化論	1後	2		○									兼1	
	社会科学群	スポーツ考現学	1前・後		2		○								兼1	※2単位選択必修
		スポーツ文化を考える	1後		2		○								兼1	
		新聞と私たちの社会 (信濃毎日新聞社寄附講義)	1後		2		○								兼1	
		数を読む技術	1前		2		○								兼1	
		電子出版の現代	1前・後		2		○								兼1	
		世界経済の歩み	1前		2		○			1						
		ミクロ経済学入門	1後		2		○			2	3				オムバース	
		マクロ経済学入門	1前		2		○			3	2				オムバース	
		大学生が会おう経済・経営問題	1前		2		○			2	3				オムバース	
		公法入門	1後		2		○								兼1	
		法学入門	1前		2		○								兼1	
		大学生が会おう法律問題	1前		2		○								兼10	
	現代政治分析	1前		2		○								兼1		
	自然科学群	数と形	1前		2		○								兼1	※当科学群または「体育・スポーツ群」から2単位選択必修
		伝えておきたい数学	1後		2		○								兼1	
		素数の不思議	1前		2		○								兼1	
		教養としての物理学	1前		2		○								兼1	
		観測天文学入門	1後		2		○								兼1	
		生活のなかの天文学	1前		2		○								兼1	
		生態学入門	1後		2		○								兼1	
		地域から学ぶ地球	1前		2		○								兼1	
		教養としての物質科学	1後		2		○								兼1	
		ネットワーク社会における情報科学	1前・後		2		○								兼1	
		統計学の基礎	1前・後		2		○								兼1	
		検索の科学	1前・後		2		○								兼1	
		脳の不思議を探る (認知神経科学入門)	1前		2		○								兼1	
		脳の不思議をもっと探る (認知神経科学入門)	1後		2		○								兼1	
		宇宙から原子への旅	1前		2		○								兼12	
	体育・スポーツ群	ソフトボール	1前		1				○						兼1	※当科学群または「自然科学群」から2単位選択必修
		テニス	1前		1				○						兼1	
アダブテッドスポーツ		1前		1				○						兼1		
弓道		1前		1				○						兼1		
コーディネーションエクササイズ		1前		1				○						兼1		
剣道形の世界		1前		1				○						兼1		
バドミントン		1前		1				○						兼1		
コンディショニングパレエ		1前		1				○						兼1		
サッカー		1前・後		1				○						兼1		
バレーボール		1前		1				○						兼1		
トレッキング		1前		1				○						兼1		
ゴルフ		1前		1				○						兼1		
スポーツフィッシング		1前		1				○						兼1		
マリンスポーツ		1前		1				○						兼1		
信大マラソン		1前		1				○						兼2		
アウトドアの達人	1前		1				○						兼2			
サバイバル活動	1前		1				○						兼1			
スクーバダイビング	1前		1				○						兼1			

教 育 課 程 等 の 概 要

(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目	教養科目 体育・スポーツ群	レジャースポーツ	1前		1				○						兼1	集中 集中 集中
		スポーツボウリング	1後		1				○						兼1	
		ニュースポーツ	1後		1				○						兼1	
		アスレティックトレーニング	1後		1				○						兼1	
		バスケットボール	1後		1				○						兼1	
		ネイチャースキー	1後		1				○						兼1	
		スノー・スポーツ	1後		1				○						兼4	
		フライングディスク	1前		1				○						兼1	
		小計 (108科目)	—	0	190	0	—	—	—	7	9	0	0	0	兼42	
	基礎科目	外国語科目 英語	フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ I (上級)	1前		1				○						兼1
フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ I (中級)			1前		1				○						兼3	
フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ I (初級)			1前		1				○						兼2	
フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ II (上級)			1後		1				○						兼1	
フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ II (中級)			1後		1				○						兼3	
フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ II (初級)			1後		1				○						兼2	
リスニング&リーディング I (上級)			1前		1				○						兼1	
リスニング&リーディング I (中級)			1前		1				○						兼2	
リスニング&リーディング I (初級)			1前		1				○						兼2	
リスニング&リーディング II (上級)			1後		1				○						兼1	
リスニング&リーディング II (中級)			1後		1				○						兼2	
リスニング&リーディング II (初級)			1後		1				○						兼2	
アカデミック・イングリッシュ I (上級)			2前		2				○						兼1	
アカデミック・イングリッシュ I (中級)			2前		2				○						兼3	
アカデミック・イングリッシュ I (初級)		2前		2				○						兼3		
アカデミック・イングリッシュ II (上級)		2後		2				○						兼1		
アカデミック・イングリッシュ II (中級)		2後		2				○						兼3		
アカデミック・イングリッシュ II (初級)		2後		2				○						兼3		
ドイツ語		ドイツ語初級 (総合) I	1前		1				○						兼1	
		ドイツ語初級 (総合) II	1後		1				○						兼1	
		ドイツ語初級 (文法) I	1前		1				○						兼1	
		ドイツ語初級 (文法) II	1後		1				○						兼1	
		ドイツ語初級 (読解・会話) I	1前		1				○						兼1	
		ドイツ語初級 (読解・会話) II	1後		1				○						兼1	
		ドイツ語中級 (読解) I	2前		2				○						兼1	
		ドイツ語中級 (読解) II	2後		2				○						兼1	
ドイツ語中級 (会話) I		2前		2				○						兼1		
ドイツ語中級 (会話) II	2後		2				○						兼1			
フランス語	フランス語初級 (総合) I	1前		1				○						兼1		
	フランス語初級 (総合) II	1後		1				○						兼1		
	フランス語初級 (文法) I	1前		1				○						兼1		
	フランス語初級 (文法) II	1後		1				○						兼1		
	フランス語初級 (読解・会話) I	1前		1				○						兼1		
	フランス語初級 (読解・会話) II	1後		1				○						兼1		
	フランス語中級 (読解・会話) I	2前		2				○						兼1		
	フランス語中級 (読解・会話) II	2後		2				○						兼1		
中国語	中国語初級 (総合) I	1前		1				○						兼1		
	中国語初級 (総合) II	1後		1				○						兼1		
	中国語初級 (文法) I	1前		1				○						兼1		
	中国語初級 (文法) II	1後		1				○						兼1		
	中国語初級 (読解・会話) I	1前		1				○						兼1		
	中国語初級 (読解・会話) II	1後		1				○						兼1		
	中国語演習 I	2前		2				○						兼1		
	中国語演習 II	2後		2				○						兼1		
ハングル	ハングル初級 (総合) I	1前		1				○						兼1		
	ハングル初級 (総合) II	1後		1				○						兼1		
	ハングル初級 (文法) I	1前		1				○						兼1		
	ハングル初級 (文法) II	1後		1				○						兼1		

教 育 課 程 等 の 概 要

(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通教育科目	外国語科目 ハングル	ハングル初級(読解・会話)Ⅰ	1前	1					○							兼1	
		ハングル初級(読解・会話)Ⅱ	1後	1					○							兼1	
		ハングル中級(読解・会話)Ⅰ	2前	2					○							兼1	
		ハングル中級(読解・会話)Ⅱ	2後	2					○							兼1	
		小計(52科目)	—	0	68	0	—	—	—	—	0	0	0	0	0	兼14	—
	健康科学科目	健康科学・理論と実践	健康科学・理論と実践	1前	1				○							兼7	※実技・オムニバス
			小計(1科目)	—	1	0	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼7	—
		新入生ゼミナール	新入生ゼミナールⅠ	1前	2				○		8	9	2			兼5	
		新入生ゼミナールⅡ	1後	2				○		8	9	2			兼4		
		小計(2科目)	—	4	0	0	—	—	—	8	9	2	0	0	兼9	—	
	日本語・日本事情	日本語・日本事情科目	読解(日本語)Ⅰ	1前	1					○						兼1	※外国人留学生のみ
			読解(日本語)Ⅱ	1後	1					○						兼1	
			作文(日本語)Ⅰ	1前	1					○						兼1	
			作文(日本語)Ⅱ	1後	1					○						兼1	
			ビジネス・ジャパニーズⅠ	1前	1					○						兼1	
ビジネス・ジャパニーズⅡ			1後	1					○						兼1		
科学技術日本語Ⅰ			1前	1					○						兼1		
科学技術日本語Ⅱ			1後	1					○						兼1		
日本事情		日本社会と日本人Ⅰ	1前	2				○							兼1	※外国人留学生のみ	
		日本社会と日本人Ⅱ	1後	2				○							兼1		
		武道・伝統文化実習Ⅰ	1前	1					○						兼2	オムニバス	
		武道・伝統文化実習Ⅱ	1後	1					○						兼2	オムニバス	
	小計(12科目)	—	0	14	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼4	—		
専門科目	経済学基礎科目	統計学Ⅰ	1後	2				○		1							
		統計学Ⅱ	2前	4				○		1							
		経済数学A	1前	2				○					1				
		経済数学B	1後	2				○					1				
		ミクロ経済学Ⅰ	2前	4				○		1							
		マクロ経済学Ⅰ	1後	4				○			1						
		ミクロ経済学Ⅱ	2・3後	2				○		1							
		マクロ経済学Ⅱ	2・3前	2				○			1						
		ゲーム理論入門	2後	2				○			1						
		環境経済学Ⅰ	2・3後	2				○				1					
		社会経済学	2・3後	4				○			1					隔年	
		経済史	2・3前	4				○			1					隔年	
		世界経済論	2・3後	2				○			1					隔年	
		経営学	2・3前	2				○			1						
		簿記・会計入門	2・3後	2				○			1						
		情報処理A	2・3前・後	2				○		1							
		情報処理B	2・3前・後	2				○		1							
		国際金融	2・3後	2				○		1						隔年	
		財政学	2・3後	4				○		1							
		国際経済学	2・3後	2				○		1						隔年	
		金融論A	2・3前	2				○		1							
		金融論B	2・3後	2				○			1						
		産業組織	2・3後	4				○			1						
		アジア経済論	2・3前	2				○		1							
		現代産業論	2・3前	2				○		2						共同	
		現代職業論	2・3前	2				○		1						共同	
	経営者と企業	2・3後	2				○		1	1					共同		
	英語文献研究	2・3前・後	2					○	1	2							
	小計(28科目)	—	18	52	0	—	—	—	7	6	1	1	0	—			
法と企業の経済分析 コース専門科目Ⅰ	法と経済学Ⅰ	3・4前	2				○		1								
	独占禁止法の経済学	3・4前	2				○			1							
	環境経済学Ⅱ	3・4前	2				○				1						
	経営組織論	3・4後	2				○			1							

教 育 課 程 等 の 概 要

(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	法と企業の経済分析コース専門科目Ⅰ	財務会計	3・4前	2		○				1					隔年 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1
		管理会計	3・4後	2		○				1					
		公認会計士実務	3・4後	2		○				1					
		法と経済学Ⅱ	3・4後	2		○				1					
		社会政策論	3・4後	2		○				1					
		計量経済学	3・4後	2		○					1				
		経済法	3・4後	2		○									
		労働法	3・4前	4		○									
		社会保障法	3・4後	2		○									
		会社法Ⅰ	3・4後	4		○									
		会社法Ⅱ	3・4前	2		○									
		倒産法	3・4前	2		○									
		行政法	3・4後	4		○									
		行政学概論	3・4前	2		○									
		自治行政	3・4後	2		○									
		政治学基礎	3・4前	2		○									
		国際政治	3・4後	4		○									
		国際政治演習	3・4後	2			○								
		経済学演習Ⅰ	2後	2			○			8	9	2			
		経済学演習Ⅱ	3通	4			○			8	9	2			
健康・スポーツ・自然演習Ⅰ	3・4前	2			○										
健康・スポーツ・自然演習Ⅱ	3・4後	2			○										
卒業論文	4通	6			○			8	9	2					
小計(27科目)		—	10	58	0	—		8	9	2	0	0	兼8	—	
法と企業の経済分析コース専門科目Ⅱ	ファイナンス理論	3・4前		2		○				1				隔年 隔年 兼1 兼1 兼3 隔年 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	
	ファイナンス応用	3・4後		2		○				1					
	地方財政	3・4後		2		○				1					
	公共経済学	3・4前		2		○				1					
	医療経済学	3・4後		4		○				1					
	医療制度論	3・4後		2		○				1					
	社会保障政策論	3・4前		2		○			1						
	比較社会保障論	3・4後		2		○			1						
	経済地理学	3・4前		2		○				1					
	自然環境概論	3・4後		2		○			1						
	自然環境フィールドワークの理論と実践	3・4後		2		○									
	医療社会学	3・4前		2		○									
	健康政策論	3・4前		2		○			1	1					
	都市政策論	3・4後		2		○				1					
	経営労務論	3・4後		2		○				1					
	生保数理	3・4前		2		○									
	年金数理	3・4前		2		○									
	損保数理	3・4前		2		○									
数理モデル論	3・4後		2		○										
確率論基礎	3・4後		2		○										
数理統計学	3・4後		2		○			1							
小計(21科目)		—	0	44	0	—		4	5	0	0	0	兼9	—	
実践教育科目	実証日本経済論	3・4前		2			○		1					※実習・隔年 ※実習・隔年・共同 隔年 ※実習・隔年	
	行動・実験経済学	3・4後		2			○		1						
	計量分析	3・4前		2			○			1					
	地域調査法	3・4前		2			○			1					
	地域包括ケアシステム論	3・4前		2			○		1	1					
	地域社会統計分析	3・4前		2			○		1						
	経済規制の実務	3・4後		2			○		1						
	会計事例	3・4後		2			○			1					
小計(8科目)		—	0	16	0	—		5	3	1	0	0	—		

教 育 課 程 等 の 概 要

(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	法学系選択科目	憲法	3・4前	4		○									兼1	共同
		統治機構論	3・4前	2		○									兼1	
		行政救済法	3・4前	2		○									兼1	
		民法総則	3・4前	2		○									兼1	
		契約法Ⅰ	3・4前	2		○									兼1	
		契約法Ⅱ	3・4後	2		○									兼1	
		契約法Ⅲ	3・4前	2		○									兼1	
		不法行為法	3・4後	2		○									兼1	
		担保法	3・4後	2		○									兼1	
		民事執行・保全法	3・4後	2		○									兼1	
		刑法Ⅰ	3・4後	4		○									兼1	
		刑法Ⅱ	3・4前	2		○									兼1	
		市民税法	3・4前	2		○									兼1	
		法人税法	3・4後	2		○									兼1	
		租税法実務	3・4後	2		○									兼2	
		知的財産法基礎	3・4後	2		○									兼1	
		知的財産法Ⅰ	3・4前	2		○									兼1	
		知的財産法Ⅱ	3・4後	2		○									兼1	
		危機管理法務	3・4前	2		○									兼1	
小計 (19科目)		—	0	42	0	—			0	0	0	0	0	兼14	—	
メキヤトリ科目	グローバル	ボランティア	2・3・4前・後	2				○	1						兼1	共同
		インターンシップ	2・3・4前・後	2				○	1						兼1	共同
		Global Political Economy	2・3・4前	2				○							兼1	
		Global Business	2・3・4後	2				○							兼1	
		American Law and Society	2・3・4前	2				○							兼1	集中
		海外短期演習	2・3・4後	4				○							兼1	※実習・集中
小計 (6科目)		—	0	14	0	—			1	0	0	0	0	兼2	—	
合計 (284科目)		—	33	498	0	—			8	9	2	1	0	兼72	—	
学位又は称号			学士 (経済学)			学位又は学科の分野			経済学関係							
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
1. 共通教育科目 37単位以上 (1) 教養科目 24単位以上 ① 教養ゼミナール群 2単位以上 ② 環境科学群 2単位以上 ③ 人文科学群 2単位以上 ④ 社会科学群 2単位以上 ⑤ 自然科学群または体育・スポーツ群 2単位以上 (2) 外国語科目 8単位 英語または中国語 同一言語で8単位 (3) 健康科学科目 1単位 (4) 新入生ゼミナール科目 4単位 ※(2)の要件を超えて修得した外国語科目の単位については、4単位まで(1)の単位に算入することができる。 ※外国人留学生は、日本語・日本事情科目のうち「日本語」4単位が必修。「日本語」4単位は(2)の単位に算入することができる。また、(2)に算入した単位を超える日本語・日本事情科目の単位数は、(1)の単位に算入することができる。 2. 専門科目 90単位以上 (1) 経済学基礎科目 必修科目 18単位 選択科目 24単位以上 (2) 法と企業の経済分析コース専門科目Ⅰ 必修科目 10単位 選択科目 18単位以上 (3) 実践教育科目 2単位以上 3. 履修科目の登録の上限 ① 共通教育科目は1学期あたり24単位 ② 共通教育科目と専門科目を合わせて、年間44単位						1 学年の学期区分			2 期							
						1 学期の授業期間			1 5 週							
						1 時限の授業時間			9 0 分							

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要																
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目	教養ゼミナール群	環境問題を化学者と考えるゼミ	1後	2				○							兼1	※2単位選択必修 オムニバス・集中
		生態資源論ゼミ	1前	2				○							兼1	
		地球白書ゼミ	1前	2				○							兼1	
		環境マインドを現場で体験するゼミ	1前	2				○							兼2	
		「時」について考えるゼミ	1後	2				○							兼1	
		原書で読むシャーロック・ホームズゼミ	1前	2				○							兼1	
		現代ドイツの言語と日常ゼミ	1前	2				○							兼1	
		現代ドイツ事情ゼミ	1後	2				○							兼1	
		異文化研究ゼミ	1後	2				○							兼1	
		感覚で攻める英文法ゼミ～覚える英文法から感じる英文法へ	1前・後	2				○							兼1	
		スポーツ・ホスピタリティゼミ 秋冬編(松本山雅FC連携ゼミ)	1後	2				○							兼1	
		スポーツ・ホスピタリティゼミ 春夏編(松本山雅FC連携ゼミ)	1前	2				○							兼1	
		スポーツ観戦文化論ゼミ	1前・後	2				○							兼1	
		テレビのメディアリテラシー (テレビ信州参加ゼミ)	1前	2				○							兼1	
		「考える」ゼミ	1前・後	2				○							兼1	
		化学計算入門ゼミ	1前・後	2				○							兼1	
		文系学生のための野外地質学ゼミ	1前	2				○							兼1	
		統計図解ゼミ	1前・後	2				○							兼1	
		アナログ再発見ゼミ	1前	2				○							兼1	
		情報社会論ゼミ	1前・後	2				○							兼1	
	大学生基礎力ゼミ	1前	2				○							兼4		
	グローバルに生きるゼミ	1前	2				○							兼2		
	新聞をつくらう！(タウン情報制作ゼミ)	1前	2				○							兼1		
	スポーツ活動論ゼミ I	1前	2				○							兼1		
	スポーツ活動論ゼミ II	1後	2				○							兼1		
	ドイツ環境ゼミ	1後	2				○							兼1		
	社会科学の方法ゼミ	1前	2				○			1				兼1		
	環境科学群	環境社会学入門	1前	2				○							兼1	※2単位選択必修 オムニバス
		熱帯雨林と社会	1前	2				○							兼1	
		環境～その人文・社会的アプローチ	1後	2				○							兼5	
		ライフサイクルアセスメント入門	1前・後	2				○							兼1	
		環境と生活とのかかわり	1前・後	2				○							兼1	
		地球環境の歴史	1前	2				○							兼1	
		ネイチャーライティングのすすめ (環境文学 I)	1前	2				○							兼1	
		環境文学のすすめ (環境文学 II)	1後	2				○							兼1	
		自然環境と文化	1後	2				○							兼1	
		生物と環境	1後	2				○							兼1	
		自然災害と環境	1前	2				○							兼1	
		生活の中の科学	1後	2				○							兼1	
		環境法入門	1後	2				○			1				兼1	
	人文科学群	日本学入門	1前	2				○							兼1	※2単位選択必修
		日本近代文学入門	1後	2				○							兼1	
		映像・人類学	1前	2				○							兼1	
		Top Level English (トップレベルイングリッシュ)	1前・後	2				○							兼2	
		「田園環境健康都市須坂」を「共創」(須坂市寄附講義)	1後	2				○							兼1	
		韓国の文化 (食文化)	1前	2				○							兼1	
		韓国の文化 (映画で学ぶ)	1前	2				○							兼1	
韓国の文化 (若者の世界)		1後	2				○							兼1		
韓国の文化 (メディア)		1後	2				○							兼1		
フランスの文化 I		1前	2				○							兼1		
フランスの文化 II		1後	2				○							兼1		

教 育 課 程 等 の 概 要

(経法学部総合法律学科 環境法務コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目	教養科目 人文科学群	ドイツ語圏の文化Ⅰ	1前	2		○									兼1	
		ドイツ語圏の文化Ⅱ	1後	2		○									兼1	
		アフリカ文化論	1後	2		○									兼1	
	社会科学群	スポーツ考現学	1前・後		2		○								兼1	※2単位選択必修
		スポーツ文化を考える	1後		2		○								兼1	
		新聞と私たちの社会 (信濃毎日新聞社寄附講義)	1後		2		○								兼1	
		数を読む技術	1前		2		○								兼1	
		電子出版の現代	1前・後		2		○								兼1	
		世界経済の歩み	1前		2		○								兼1	
		マイクロ経済学入門	1後		2		○								兼5	
		マクロ経済学入門	1前		2		○								兼5	
		大学生が会おう経済・経営問題	1前		2		○								兼5	
		公法入門	1後		2		○				1					
		法学入門	1前		2		○				1					
		大学生が会おう法律問題	1前		2		○			2	6	2				
	現代政治分析	1前		2		○			1							
	自然科学群	数と形	1前		2		○								兼1	※当科学群または「体育・スポーツ群」から2単位選択必修
		伝えておきたい数学	1後		2		○								兼1	
		素数の不思議	1前		2		○								兼1	
		教養としての物理学	1前		2		○								兼1	
		観測天文学入門	1後		2		○								兼1	
		生活のなかの天文学	1前		2		○								兼1	
		生態学入門	1後		2		○								兼1	
		地域から学ぶ地球	1前		2		○								兼1	
		教養としての物質科学	1後		2		○								兼1	
		ネットワーク社会における情報科学	1前・後		2		○								兼1	
		統計学の基礎	1前・後		2		○								兼1	
		検索の科学	1前・後		2		○								兼1	
		脳の不思議を探る (認知神経科学入門)	1前		2		○								兼1	
		脳の不思議をもっと探る (認知神経科学入門)	1後		2		○								兼1	
宇宙から原子への旅		1前		2		○								兼12		
体育・スポーツ群	ソフトボール	1前		1				○						兼1	※当科学群または「自然科学群」から2単位選択必修	
	テニス	1前		1				○						兼1		
	アダブテッドスポーツ	1前		1				○						兼1		
	弓道	1前		1				○						兼1		
	コーディネーションエクササイズ	1前		1				○						兼1		
	剣道形の世界	1前		1				○						兼1		
	バドミントン	1前		1				○						兼1		
	コンディショニングパレエ	1前		1				○						兼1		
	サッカー	1前・後		1				○						兼1		
	バレーボール	1前		1				○						兼1		
	トレッキング	1前		1				○						兼1		
	ゴルフ	1前		1				○						兼1		
	スポーツフィッシング	1前		1				○						兼1		
	マリンスポーツ	1前		1				○						兼1		
	信大マラソン	1前		1				○						兼2		
アウトドアの達人	1前		1				○		1				兼1			
サバイバル活動	1前		1				○		1							
スクーバダイビング	1前		1				○		1							

教 育 課 程 等 の 概 要

(経法学部総合法律学科 環境法務コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
共通教育科目	教養科目 体育・スポーツ群	レジャースポーツ	1前	1					○	1						兼1	集中 集中 集中	
		スポーツボウリング	1後	1					○							兼1		
		ニュースポーツ	1後	1					○							兼1		
		アスレティックトレーニング	1後	1					○							兼1		
		バスケットボール	1後	1					○							兼1		
		ネイチャースキー	1後	1					○							兼1		
		スノー・スポーツ	1後	1					○	1						兼3		
		フライングディスク	1前	1					○							兼1		
		小計 (108科目)	—	0	190	0	—	—	—	5	6	2	0	0	兼45	—		
		基礎科目	外国語科目	英語	フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ I (上級)	1前	1				○							
フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ I (中級)	1前				1					○							兼3	
フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ I (初級)	1前				1					○							兼2	
フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ II (上級)	1後				1					○							兼1	
フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ II (中級)	1後				1					○							兼3	
フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ II (初級)	1後				1					○							兼2	
リスニング&リーディング I (上級)	1前				1					○							兼1	
リスニング&リーディング I (中級)	1前				1					○							兼2	
リスニング&リーディング I (初級)	1前				1					○							兼2	
リスニング&リーディング II (上級)	1後				1					○							兼1	
リスニング&リーディング II (中級)	1後				1					○							兼2	
リスニング&リーディング II (初級)	1後				1					○							兼2	
アカデミック・イングリッシュ I (上級)	2前				2					○							兼1	
アカデミック・イングリッシュ I (中級)	2前				2					○							兼3	
アカデミック・イングリッシュ I (初級)	2前				2					○							兼3	
アカデミック・イングリッシュ II (上級)	2後				2					○							兼1	
アカデミック・イングリッシュ II (中級)	2後				2					○							兼3	
アカデミック・イングリッシュ II (初級)	2後				2					○							兼3	
ドイツ語	ドイツ語初級 (総合) I				1前	1					○							兼1
	ドイツ語初級 (総合) II				1後	1					○							兼1
	ドイツ語初級 (文法) I	1前	1					○							兼1			
	ドイツ語初級 (文法) II	1後	1					○							兼1			
	ドイツ語初級 (読解・会話) I	1前	1					○							兼1			
	ドイツ語初級 (読解・会話) II	1後	1					○							兼1			
	ドイツ語中級 (読解) I	2前	2					○							兼1			
	ドイツ語中級 (読解) II	2後	2					○							兼1			
	ドイツ語中級 (会話) I	2前	2					○							兼1			
	ドイツ語中級 (会話) II	2後	2					○							兼1			
フランス語	フランス語初級 (総合) I	1前	1					○							兼1			
	フランス語初級 (総合) II	1後	1					○							兼1			
	フランス語初級 (文法) I	1前	1					○							兼1			
	フランス語初級 (文法) II	1後	1					○							兼1			
	フランス語初級 (読解・会話) I	1前	1					○							兼1			
	フランス語初級 (読解・会話) II	1後	1					○							兼1			
	フランス語中級 (読解・会話) I	2前	2					○							兼1			
	フランス語中級 (読解・会話) II	2後	2					○							兼1			
中国語	中国語初級 (総合) I	1前	1					○							兼1			
	中国語初級 (総合) II	1後	1					○							兼1			
	中国語初級 (文法) I	1前	1					○							兼1			
	中国語初級 (文法) II	1後	1					○							兼1			
	中国語初級 (読解・会話) I	1前	1					○							兼1			
	中国語初級 (読解・会話) II	1後	1					○							兼1			
	中国語演習 I	2前	2					○							兼1			
	中国語演習 II	2後	2					○							兼1			
ハングル	ハングル初級 (総合) I	1前	1					○							兼1			
	ハングル初級 (総合) II	1後	1					○							兼1			
	ハングル初級 (文法) I	1前	1					○							兼1			
	ハングル初級 (文法) II	1後	1					○							兼1			

教 育 課 程 等 の 概 要

(経法学部総合法律学科 環境法務コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
共通教育科目	外国語科目 ハングル	ハングル初級 (読解・会話) I	1前	1				○								兼1		
		ハングル初級 (読解・会話) II	1後	1				○								兼1		
		ハングル中級 (読解・会話) I	2前	2				○								兼1		
		ハングル中級 (読解・会話) II	2後	2				○								兼1		
	小計 (52科目)		—	0	68	0	—			0	0	0	0	0	0	兼14	—	
	健康科学科目	健康科学・理論と実践	1前	1				○								兼7	※実技・ホムバース	
		小計 (1科目)		—	1	0	0	—		0	0	0	0	0	0	兼7	—	
		新入生ゼミナール	新入生ゼミナール I	1前	2				○		3		2				兼19	
	新入生ゼミナール II		1後	2				○		1	3					兼19		
	小計 (2科目)		—	4	0	0	—		4	3	2	0	0		兼19	—		
	日本語・日本事情	日本語	読解 (日本語) I	1前	1				○								兼1	※外国人留学生のみ
			読解 (日本語) II	1後	1				○								兼1	
			作文 (日本語) I	1前	1				○								兼1	
作文 (日本語) II			1後	1				○								兼1		
ビジネス・ジャパニーズ I			1前	1				○								兼1		
ビジネス・ジャパニーズ II			1後	1				○								兼1		
科学技術日本語 I			1前	1				○								兼1		
科学技術日本語 II			1後	1				○								兼1		
日本事情		日本社会と日本人 I	1前		2			○								兼1	※外国人留学生のみ	
		日本社会と日本人 II	1後		2			○								兼1		
		武道・伝統文化実習 I	1前		1				○							兼2	ホムバース	
		武道・伝統文化実習 II	1後		1				○							兼2	ホムバース	
小計 (12科目)		—	0	14	0	—			0	0	0	0	0	0	兼4	—		
専門科目	法律基礎科目	憲法	2前	4				○										
		刑法 I	1後	4				○										
		刑法 II	2前		2				○									
		民法総則	1前		2				○			1						
		物権法	1後		2				○			1						
		契約法 I	2前		2				○				1					
		契約法 II	2後		2				○				1					
		契約法 III	3・4前		2				○				1					
		不法行為法	2後		2				○			1						
		会社法 I	2後		4				○				1					
		刑事訴訟法	2前		4				○				1					
		民事訴訟法	2・3前		2				○				1					
		民事執行・保全法	2・3・4後		2				○				1					
		行政法	2後		4				○				1					
		政治学基礎	2前		2				○				1					
		自然環境概論	2後		2				○								兼1	
		知的財産法基礎	2後		2				○								兼1	
小計 (17科目)		—	16	28	0	—			4	5	2	0	0		兼2	—		

教 育 課 程 等 の 概 要

(経法学部総合法律学科 環境法務コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目	コース専門科目 環境法務科目	環境法Ⅰ	2前	2			○			1							
		環境法Ⅱ	2後		2			○		1							
		水環境法	3・4後		2			○								兼1	
		国際環境法	3・4前	2				○								兼2	集中・私ニパス
		都市環境と行政法	3・4後	2				○			1						
		環境と刑法	3・4前		2			○		1							
		環境経済学Ⅰ	3・4後		2			○								兼1	
		環境経済学Ⅱ	3・4前		2			○								兼1	
		環境テクノロジー	3・4前	2				○								兼1	
		環境理学概論	3・4前		2			○								兼1	
		環境社会学概論	3・4前		2			○								兼1	
		環境教育概論	3・4前		2			○								兼1	
		環境農学概論	3・4後		2			○								兼1	
		環境と憲法訴訟	3・4後		2			○			1						
		自然環境フィールドワークの理論と実践	3・4後		2			○			1						
		国際政治	3・4後		4			○			1						
		小計 (16科目)		—	8	26	0	—			5	1	0	0	0	兼9	—
経済・企業法務科目	労働法	3・4前		4			○			1							
	企業取引法	3・4前		2			○				1						
	会社法Ⅱ	3・4前		2			○				1						
	担保法	3・4後		2			○			1							
	親族・相続法	3・4前		2			○		1								
	倒産法	3・4前		2			○		1								
	簿記・会計入門	3・4後		2			○								兼1		
	管理会計	3・4後		2			○								兼1		
	経営学	3・4前		2			○								兼1		
	法人税法	3・4後		2			○								兼1		
	テクノロジー概論	3・4前		2			○								兼1		
	知的財産法Ⅰ	3・4前		2			○								兼1		
	知的財産法Ⅱ	3・4後		2			○								兼1		
	経済法	3・4後		2			○								兼1		
	危機管理法務	3・4前		2			○								兼1		
小計 (15科目)		—	0	32	0	—			2	2	1	0	0	兼8	—		
都市・行政法務科目	統治機構論	2前		2			○			1							
	行政救済法	3・4前		2			○			1							
	自治体法	3・4前		2			○								兼1		
	都市行政と刑法	3・4前		2			○		1								
	社会保障法	3・4後		2			○			1							
	行政学概論	2前		2			○		1								
	自治行政	2後		2			○		1								
	都市テクノロジー	3・4前		2			○								兼1		
	統計学Ⅰ	3・4後		2			○								兼1		
	都市政策論	3・4後		2			○								兼1		
	ミクロ経済学Ⅰ	3・4前		4			○								兼1		
	マクロ経済学Ⅰ	3・4後		4			○								兼1		
	計量経済学	3・4後		2			○								兼1		
市民税法	3・4前		2			○								兼1			
小計 (14科目)		—	0	32	0	—			3	2	0	0	0	兼8	—		
実務系科目	実務講義科目	行政実務	2前		2		○				1						
	現代法務	2後		2			○				1						
	租税法実務	3・4後		2			○		1			1			共同		
	小計 (3科目)		—	0	6	0	—		1	2	0	1	0	0	—		
	法務実習科目	行政法務実習	3・4通		2				○	1						※演習	
環境法務実習	3・4通		2					○	1						※演習		
税務実習	3・4通		2					○	1		1				※演習・共同		
労働法務実習	3・4通		2					○	1						※演習		
契約法務実習	3・4通		2					○	1						※演習		

教 育 課 程 等 の 概 要

(経法学部総合法律学科 環境法務コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門科目	実務系科目 法務実習科目	知財法務実習	3・4通		2				○							兼1	※演習	
		裁判法務実習	3・4通		2				○		1					兼1	※演習	
		捜査法務実習	3・4通		2				○							兼1	※演習	
		小計(8科目)	—	0	16	0	—			2	4	0	1	0		兼2	—	
	演習系科目 発展演習科目	基礎演習科目	基礎演習Ⅰ	2通	4				○		3	3	2					
			基礎演習Ⅱ	3通	4				○		3	3	2					
		小計(2科目)	—	4	4	0	—			3	3	2	0	0	0		—	
		行政法演習	3・4後		2				○			1						
		刑事訴訟法演習	3・4前		2				○			1						
		民事訴訟法演習	3・4前		2				○		1							
		倒産法演習	3・4後		2				○			1						
		労働法演習	3・4前		2				○			1						
		社会保障法演習	3・4後		2				○			1						
		環境法演習Ⅰ	3・4前		2				○		1							
		環境法演習Ⅱ	3・4後		2				○		1							
		国際政治演習	3・4後		2				○		1							
		行政学演習	3・4前		2				○		1							
		健康・スポーツ・自然演習Ⅰ	3・4前		2				○		1						※実習	
	健康・スポーツ・自然演習Ⅱ	3・4後		2				○		1						※実習		
	総合法律学演習Ⅰ	3・4前		2				○			1							
	総合法律学演習Ⅱ	3・4後		2				○			1							
	小計(14科目)	—	0	28	0	—			5	3	0	0	0	0		—		
論文科目	卒業論文	4通		6				○		8	6	2						
	小計(1科目)	—	0	6	0	—			8	6	2	0	0	0		—		
経済系選択科目	ミクロ経済学Ⅱ	3・4後		2				○							兼1			
	マクロ経済学Ⅱ	3・4前		2				○							兼1			
	ゲーム理論入門	3・4後		2				○							兼1			
	経営組織論	3・4後		2				○							兼1			
	財務会計	3・4前		2				○							兼1			
	公認会計士実務	3・4後		2				○							兼1			
	社会保障政策論	3・4前		2				○							兼1	隔年		
	財政学	3・4後		4				○							兼1			
	地方財政	3・4後		2				○							兼1			
	経済史	3・4前		4				○							兼1	隔年		
	経営労務論	3・4後		2				○							兼1	隔年		
	独占禁止法の経済学	3・4前		2				○							兼1			
	法と経済学Ⅰ	3・4前		2				○							兼1			
	法と経済学Ⅱ	3・4後		2				○							兼1	隔年		
	医療制度論	3・4後		2				○							兼1			
	社会政策論	3・4後		2				○							兼1			
	健康政策論	3・4前		2				○		1					兼4	隔年・私ハス		
	情報処理A	3・4前・後		2				○							兼1			
	情報処理B	3・4前・後		2				○							兼1			
	現代産業論	3・4前		2				○							兼2	共同		
	現代職業論	3・4前		2				○							兼1			
	経営者と企業	3・4後		2				○							兼2	共同		
小計(22科目)	—	0	48	0	—			1	0	0	0	0	0	兼15	—			
メキヤントリア科目デベロップ	ボランティア	2・3・4前・後		2					○	1					兼1	共同		
	インターンシップ	2・3・4前・後		2					○	1					兼1	共同		
	Global Political Economy	2・3・4前		2				○		1								
	Global Business	2・3・4後		2				○							兼1			
	American Law and Society	2・3・4前		2				○		1						集中		
	海外短期演習	2・3・4後		4				○		1						※実習・集中		
小計(6科目)	—	0	14	0	—			1	0	0	0	0	0	兼2	—			
合計(293科目)		—	33	512	0	—			9	6	2	0	0	兼80	—			

教 育 課 程 等 の 概 要

(経法学部総合法律学科 環境法務コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
学位又は称号		学士 (法学)		学位又は学科の分野			法学関係							
卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法						授 業 期 間 等								
<p>1. 共通教育科目 37単位以上 (1) 教養科目 24単位以上 ①教養ゼミナール群 2単位以上 ②環境科学群 2単位以上 ③人文科学群 2単位以上 ④社会科学群 2単位以上 ⑤自然科学群または体育・スポーツ群 2単位以上 (2) 外国語科目 8単位 英語または中国語 同一言語で8単位 (3) 健康科学科目 1単位 (4) 新入生ゼミナール科目 4単位 ※(2)の要件を超えて修得した外国語科目の単位については、4単位まで(1)の単位に算入することができる。 ※外国人留学生は、日本語・日本事情科目のうち「日本語」4単位が必修。「日本語」4単位は(2)の単位に算入することができる。また、(2)に算入した単位を超える日本語・日本事情科目の単位数は、(1)の単位に算入することができる。</p> <p>2. 専門科目 90単位以上 (1) 法律基礎科目 36単位以上 必修科目 16単位 選択科目 20単位以上 (2) コース専門科目 30単位以上 環境法務科目 24単位以上 (うち必修8単位) (3) 実務系科目 法務実習科目 2単位以上 (4) 演習系科目 14単位以上 (うち必修4単位)</p> <p>3. 履修科目の登録の上限 ①共通教育科目は1学期あたり24単位 ②共通教育科目と専門科目を合わせて、年間44単位</p>						1 学年の学期区分	2 期							
						1 学期の授業期間	1 5 週							
						1 時限の授業時間	9 0 分							

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要																
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目	教養ゼミナール群	環境問題を化学者と考えるゼミ	1後	2				○							兼1	※2単位選択必修 オムニバス・集中
		生態資源論ゼミ	1前	2				○							兼1	
		地球白書ゼミ	1前	2					○						兼1	
		環境マインドを現場で体験するゼミ	1前	2					○						兼2	
		「時」について考えるゼミ	1後	2					○						兼1	
		原書で読むシャーロック・ホームズゼミ	1前	2					○						兼1	
		現代ドイツの言語と日常ゼミ	1前	2					○						兼1	
		現代ドイツ事情ゼミ	1後	2					○						兼1	
		異文化研究ゼミ	1後	2					○						兼1	
		感覚で攻める英文法ゼミ～覚える英文法から感じる英文法へ	1前・後	2					○						兼1	
		スポーツ・ホスピタリティゼミ 秋冬編(松本山雅FC連携ゼミ)	1後	2					○						兼1	
		スポーツ・ホスピタリティゼミ 春夏編(松本山雅FC連携ゼミ)	1前	2					○						兼1	
		スポーツ観戦文化論ゼミ	1前・後	2					○						兼1	
		テレビのメディアリテラシー (テレビ信州参与ゼミ)	1前	2					○						兼1	
		「考える」ゼミ	1前・後	2					○						兼1	
		化学計算入門ゼミ	1前・後	2					○						兼1	
		文系学生のための野外地質学ゼミ	1前	2					○						兼1	
		統計図解ゼミ	1前・後	2					○						兼1	
		アナログ再発見ゼミ	1前	2					○						兼1	
		情報社会論ゼミ	1前・後	2					○						兼1	
	大学生基礎力ゼミ	1前	2					○						兼4		
	グローバルに生きるゼミ	1前	2					○						兼2		
	新聞をつくろう！(タウン情報制作ゼミ)	1前	2					○						兼1		
	スポーツ活動論ゼミⅠ	1前	2					○						兼1		
	スポーツ活動論ゼミⅡ	1後	2					○						兼1		
	ドイツ環境ゼミ	1後	2					○						兼1		
	社会科学の方法ゼミ	1前	2					○		1				兼1		
	環境科学群	環境社会学入門	1前	2				○							兼1	※2単位選択必修 オムニバス
		熱帯雨林と社会	1前	2				○							兼1	
		環境～その人文・社会科学的アプローチ	1後	2				○							兼5	
		ライフサイクルアセスメント入門	1前・後	2				○							兼1	
		環境と生活とのかかわり	1前・後	2				○							兼1	
		地球環境の歴史	1前	2				○							兼1	
ネイチャーライティングのすすめ (環境文学Ⅰ)		1前	2				○							兼1		
環境文学のすすめ (環境文学Ⅱ)		1後	2				○							兼1		
自然環境と文化		1後	2				○							兼1		
生物と環境		1後	2				○							兼1		
自然災害と環境		1前	2				○							兼1		
生活の中の科学		1後	2				○							兼1		
環境法入門		1後	2				○			1				兼1		
人文科学群	日本学入門	1前	2				○							兼1	※2単位選択必修	
	日本近代文学入門	1後	2				○							兼1		
	映像・人類学	1前	2				○							兼1		
	Top Level English (トップレベルイングリッシュ)	1前・後	2				○							兼2		
	「田園環境健康都市須坂」を「共創」(須坂市寄附講義)	1後	2				○							兼1		
	韓国の文化 (食文化)	1前	2				○							兼1		
	韓国の文化 (映画で学ぶ)	1前	2				○							兼1		
	韓国の文化 (若者の世界)	1後	2				○							兼1		
	韓国の文化 (メディア)	1後	2				○							兼1		
	フランスの文化Ⅰ	1前	2				○							兼1		
フランスの文化Ⅱ	1後	2				○							兼1			

教 育 課 程 等 の 概 要

(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目	教養科目 人文科学群	ドイツ語圏の文化Ⅰ	1前	2		○									兼1	
		ドイツ語圏の文化Ⅱ	1後	2		○									兼1	
		アフリカ文化論	1後	2		○									兼1	
	社会科学群	スポーツ考現学	1前・後	2			○								兼1	※2単位選択必修
		スポーツ文化を考える	1後	2			○								兼1	
		新聞と私たちの社会 (信濃毎日新聞社寄附講義)	1後	2			○								兼1	
		数を読む技術	1前	2			○								兼1	
		電子出版の現代	1前・後	2			○								兼1	
		世界経済の歩み	1前	2			○								兼1	
		ミクロ経済学入門	1後	2			○								兼5	オムニバス
		マクロ経済学入門	1前	2			○								兼5	オムニバス
		大学生が会おう経済・経営問題	1前	2			○								兼5	オムニバス
		公法入門	1後	2			○				1					
		法学入門	1前	2			○				1					
	大学生が会おう法律問題	1前	2			○				2	6	2				
	現代政治分析	1前	2			○				1					オムニバス	
	自然科学群	数と形	1前	2			○								兼1	※当科学群または「体育・スポーツ群」から2単位選択必修
		伝えておきたい数学	1後	2			○								兼1	
		素数の不思議	1前	2			○								兼1	
		教養としての物理学	1前	2			○								兼1	
		観測天文学入門	1後	2			○								兼1	
		生活のなかの天文学	1前	2			○								兼1	
		生態学入門	1後	2			○								兼1	
		地域から学ぶ地球	1前	2			○								兼1	
		教養としての物質科学	1後	2			○								兼1	
		ネットワーク社会における情報科学	1前・後	2			○								兼1	
		統計学の基礎	1前・後	2			○								兼1	
		検索の科学	1前・後	2			○								兼1	
		脳の不思議を探る (認知神経科学入門)	1前	2			○								兼1	
		脳の不思議をもっと探る (認知神経科学入門)	1後	2			○								兼1	
	宇宙から原子への旅	1前	2			○								兼12	オムニバス	
	体育・スポーツ群	ソフトボール	1前	1					○						兼1	※当科学群または「自然科学群」から2単位選択必修
		テニス	1前	1					○						兼1	
アダブテッドスポーツ		1前	1					○						兼1		
弓道		1前	1					○						兼1		
コオーディネーションエクササイズ		1前	1					○						兼1		
剣道形の世界		1前	1					○						兼1		
バドミントン		1前	1					○						兼1		
コンディショニングバレエ		1前	1					○						兼1		
サッカー		1前・後	1					○						兼1		
バレーボール		1前	1					○						兼1		
トレッキング		1前	1					○						兼1	集中	
ゴルフ		1前	1					○						兼1	集中	
スポーツフィッシング		1前	1					○						兼1	集中	
マリンスポーツ		1前	1					○						兼1	集中	
信大マラソン		1前	1					○						兼2	集中	
アウトドアの達人	1前	1					○		1				兼1	集中		
サバイバル活動	1前	1					○		1					集中		
スクーバダイビング	1前	1					○		1					集中		

教 育 課 程 等 の 概 要

(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通教育科目	教養科目 体育・スポーツ群	レジャースポーツ	1前		1				○	1						兼1	集中
		スポーツボウリング	1後		1				○							兼1	
		ニュースポーツ	1後		1				○							兼1	
		アスレティックトレーニング	1後		1				○							兼1	
		バスケットボール	1後		1				○							兼1	
		ネイチャースキー	1後		1				○							兼1	
		スノー・スポーツ	1後		1				○	1						兼3	
		フライングディスク	1前		1				○							兼1	
		小計 (108科目)	—	0	190	0	—				5	6	2	0	0	兼45	
	基礎科目	外国語科目 英語	フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅠ (上級)	1前		1				○							兼1
フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅠ (中級)			1前		1				○							兼3	
フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅠ (初級)			1前		1				○							兼2	
フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅡ (上級)			1後		1				○							兼1	
フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅡ (中級)			1後		1				○							兼3	
フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅡ (初級)			1後		1				○							兼2	
リスニング&リーディングⅠ (上級)			1前		1				○							兼1	
リスニング&リーディングⅠ (中級)			1前		1				○							兼2	
リスニング&リーディングⅠ (初級)			1前		1				○							兼2	
リスニング&リーディングⅡ (上級)			1後		1				○							兼1	
リスニング&リーディングⅡ (中級)			1後		1				○							兼2	
リスニング&リーディングⅡ (初級)			1後		1				○							兼2	
アカデミック・イングリッシュⅠ (上級)			2前		2				○							兼1	
アカデミック・イングリッシュⅠ (中級)			2前		2				○							兼3	
アカデミック・イングリッシュⅠ (初級)			2前		2				○							兼3	
アカデミック・イングリッシュⅡ (上級)		2後		2				○							兼1		
アカデミック・イングリッシュⅡ (中級)		2後		2				○							兼3		
アカデミック・イングリッシュⅡ (初級)		2後		2				○							兼3		
ドイツ語		ドイツ語初級 (総合)Ⅰ	1前		1				○							兼1	
		ドイツ語初級 (総合)Ⅱ	1後		1				○							兼1	
		ドイツ語初級 (文法)Ⅰ	1前		1				○							兼1	
		ドイツ語初級 (文法)Ⅱ	1後		1				○							兼1	
		ドイツ語初級 (読解・会話)Ⅰ	1前		1				○							兼1	
		ドイツ語初級 (読解・会話)Ⅱ	1後		1				○							兼1	
		ドイツ語中級 (読解)Ⅰ	2前		2				○							兼1	
		ドイツ語中級 (読解)Ⅱ	2後		2				○							兼1	
ドイツ語中級 (会話)Ⅰ		2前		2				○							兼1		
ドイツ語中級 (会話)Ⅱ		2後		2				○							兼1		
フランス語		フランス語初級 (総合)Ⅰ	1前		1				○							兼1	
		フランス語初級 (総合)Ⅱ	1後		1				○							兼1	
		フランス語初級 (文法)Ⅰ	1前		1				○							兼1	
		フランス語初級 (文法)Ⅱ	1後		1				○							兼1	
		フランス語初級 (読解・会話)Ⅰ	1前		1				○							兼1	
		フランス語初級 (読解・会話)Ⅱ	1後		1				○							兼1	
		フランス語中級 (読解・会話)Ⅰ	2前		2				○							兼1	
		フランス語中級 (読解・会話)Ⅱ	2後		2				○							兼1	
中国語		中国語初級 (総合)Ⅰ	1前		1				○							兼1	
		中国語初級 (総合)Ⅱ	1後		1				○							兼1	
		中国語初級 (文法)Ⅰ	1前		1				○							兼1	
		中国語初級 (文法)Ⅱ	1後		1				○							兼1	
		中国語初級 (読解・会話)Ⅰ	1前		1				○							兼1	
		中国語初級 (読解・会話)Ⅱ	1後		1				○							兼1	
	中国語演習Ⅰ	2前		2				○							兼1		
	中国語演習Ⅱ	2後		2				○							兼1		
ハンゲル	ハンゲル初級 (総合)Ⅰ	1前		1				○							兼1		
	ハンゲル初級 (総合)Ⅱ	1後		1				○							兼1		
	ハンゲル初級 (文法)Ⅰ	1前		1				○							兼1		
	ハンゲル初級 (文法)Ⅱ	1後		1				○							兼1		

教 育 課 程 等 の 概 要

(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通教育科目	外国語科目 ハングル	ハングル初級（読解・会話）Ⅰ	1前	1				○								兼1	
		ハングル初級（読解・会話）Ⅱ	1後	1				○								兼1	
		ハングル中級（読解・会話）Ⅰ	2前	2				○								兼1	
		ハングル中級（読解・会話）Ⅱ	2後	2				○								兼1	
		小計（52科目）	—	0	68	0		—		0	0	0	0	0	0	兼14	—
	健康科学科目 健康科学・理論と実践	健康科学・理論と実践	1前	1				○								兼7	※実技・オムニバス
		小計（1科目）	—	1	0	0		—		0	0	0	0	0	0	兼7	—
		小計（2科目）	—	4	0	0		—		3	2					兼19	—
	日本語・日本事情	日本語 読解（日本語）Ⅰ 読解（日本語）Ⅱ 作文（日本語）Ⅰ 作文（日本語）Ⅱ ビジネス・ジャパニーズⅠ ビジネス・ジャパニーズⅡ 科学技術日本語Ⅰ 科学技術日本語Ⅱ	1前	1				○								兼1	※外国人留学生のみ
			1後	1				○								兼1	
			1前	1				○								兼1	
			1後	1				○								兼1	
			1前	1				○								兼1	
			1後	1				○								兼1	
			1前	1				○								兼1	
		日本事情	日本社会と日本人Ⅰ	1前	2			○								兼1	※外国人留学生のみ オムニバス オムニバス
			日本社会と日本人Ⅱ	1後	2			○								兼1	
			武道・伝統文化実習Ⅰ	1前	1				○							兼2	
			武道・伝統文化実習Ⅱ	1後	1				○							兼2	
小計（12科目）	—	0	14	0		—		4	3	2	0	0	0	兼19	—		
専門科目	法律基礎科目	憲法	2前	4			○				1						
		刑法Ⅰ	1後	4			○						1				
		刑法Ⅱ	2前	2			○						1				
		民法総則	1前	2			○				1						
		物権法	1後	2			○										
		契約法Ⅰ	2前	2			○					1					
		契約法Ⅱ	2後	2			○					1					
		契約法Ⅲ	3・4前	2			○					1					
		不法行為法	2後	2			○				1						
		会社法Ⅰ	2後	4			○						1				
		刑事訴訟法	2前	4			○					1					
		民事訴訟法	2・3前	2			○				1						
		民事執行・保全法	2・3・4後	2			○				1						
		行政法	2後	4			○					1					
		政治学基礎	2前	2			○				1						
		自然環境概論	2後	2			○									兼1	
		知的財産法基礎	2後	2			○									兼1	
小計（17科目）	—	16	28	0		—		4	5	2	0	0	0	兼2	—		

教 育 課 程 等 の 概 要

(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	コース専門科目 環境法務科目	環境法Ⅰ	2前	2		○			1							
		環境法Ⅱ	2後	2		○			1							
		水環境法	3・4後	2		○									兼1	集中・ねばス
		国際環境法	3・4前	2		○									兼2	
		都市環境と行政法	3・4後	2		○					1					
		環境と刑法	3・4前	2		○			1							
		環境経済学Ⅰ	3・4後	2		○									兼1	
		環境経済学Ⅱ	3・4前	2		○									兼1	
		環境テクノロジー	3・4前	2		○									兼1	
		環境理学概論	3・4前	2		○									兼1	
		環境社会学概論	3・4前	2		○									兼1	
		環境教育概論	3・4前	2		○									兼1	
		環境農学概論	3・4後	2		○									兼1	
		環境と憲法訴訟	3・4後	2		○			1							
		自然環境フィールドワークの理論と実践	3・4後	2		○			1							
		国際政治	3・4後	4		○			1							
小計(16科目)		—	0	34	0	—	—	5	1	0	0	0	兼9	—		
専門科目	経済・企業法務科目	労働法	3・4前	4		○				1						
		企業取引法	3・4前	2		○						1				
		会社法Ⅱ	3・4前	2		○						1				
		担保法	3・4後	2		○				1						
		親族・相続法	3・4前	2		○			1							
		倒産法	3・4前	2		○			1							
		簿記・会計入門	3・4後	2		○									兼1	
		管理会計	3・4後	2		○									兼1	
		経営学	3・4前	2		○									兼1	
		法人税法	3・4後	2		○									兼1	
		テクノロジー概論	3・4前	2		○									兼1	
		知的財産法Ⅰ	3・4前	2		○									兼1	
		知的財産法Ⅱ	3・4後	2		○									兼1	
		経済法	3・4後	2		○									兼1	
		危機管理法務	3・4前	2		○									兼1	
小計(15科目)		—	6	26	0	—	—	2	2	1	0	0	兼8	—		
専門科目	都市・行政法務科目	統治機構論	2前	2		○			1							
		行政救済法	3・4前	2		○				1						
		自治体法	3・4前	2		○									兼1	
		都市行政と刑法	3・4前	2		○			1							
		社会保障法	3・4後	2		○					1					
		行政学概論	2前	2		○			1							
		自治行政	2後	2		○			1							
		都市テクノロジー	3・4前	2		○									兼1	
		統計学Ⅰ	3・4後	2		○									兼1	
		都市政策論	3・4後	2		○									兼1	
		ミクロ経済学Ⅰ	3・4前	4		○									兼1	
		マクロ経済学Ⅰ	3・4後	4		○									兼1	
		計量経済学	3・4後	2		○									兼1	
		市民税法	3・4前	2		○									兼1	
小計(14科目)		—	0	32	0	—	—	3	2	0	0	0	兼8	—		
実務系科目	実務講義科目	行政実務	2前	2		○				1						
		現代法務	2後	2		○					1					
		租税法実務	3・4後	2		○			1			1			共同	
	小計(3科目)		—	0	6	0	—	—	1	2	0	1	0	0	—	
	法務実習科目	行政法務実習	3・4通	2					○	1					※演習	
環境法務実習	3・4通	2						○	1					※演習		
税務実習	3・4通	2						○	1		1			※演習・共同		
労働法務実習	3・4通	2						○	1					※演習		
契約法務実習	3・4通	2						○	1					※演習		

教 育 課 程 等 の 概 要

(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目	実務系科目 法務実習科目	知財法務実習	3・4通		2				○							兼1	※演習
		裁判法務実習	3・4通		2				○		1					兼1	※演習
		捜査法務実習	3・4通		2				○							兼1	※演習
		小計(8科目)	—	0	16	0	—	—	—	—	2	4	0	1	0	兼2	—
	演習系科目 基礎演習科目	基礎演習Ⅰ	2通	4					○		3	3	2				
		基礎演習Ⅱ	3通		4				○		3	3	2				
		小計(2科目)	—	4	4	0	—	—	—	3	3	2	0	0	0		—
	演習系科目 発展演習科目	行政法演習	3・4後		2				○			1					
		刑事訴訟法演習	3・4前		2				○			1					
		民事訴訟法演習	3・4前		2				○		1						
		倒産法演習	3・4後		2				○		1						
		労働法演習	3・4前		2				○			1					
		社会保障法演習	3・4後		2				○			1					
		環境法演習Ⅰ	3・4前		2				○		1						
		環境法演習Ⅱ	3・4後		2				○		1						
		国際政治演習	3・4後		2				○		1						
		行政学演習	3・4前		2				○		1						
		健康・スポーツ・自然演習Ⅰ	3・4前		2				○		1						※実習
		健康・スポーツ・自然演習Ⅱ	3・4後		2				○		1						※実習
		総合法律学演習Ⅰ	3・4前		2				○			1					
総合法律学演習Ⅱ		3・4後		2				○			1						
小計(14科目)	—	0	28	0	—	—	—	—	5	3	0	0	0	0		—	
論文科目	卒業論文	4通		6				○		8	6	2					
	小計(1科目)	—	0	6	0	—	—	—	8	6	2	0	0	0		—	
経済系選択科目	ミクロ経済学Ⅱ	3・4後		2				○								兼1	
	マクロ経済学Ⅱ	3・4前		2				○								兼1	
	ゲーム理論入門	3・4後		2				○								兼1	
	経営組織論	3・4後		2				○								兼1	
	財務会計	3・4前		2				○								兼1	
	公認会計士実務	3・4後		2				○								兼1	
	社会保障政策論	3・4前		2				○								兼1 隔年	
	財政学	3・4後		4				○								兼1	
	地方財政	3・4後		2				○								兼1	
	経済史	3・4前		4				○								兼1 隔年	
	経営労務論	3・4後		2				○								兼1 隔年	
	独占禁止法の経済学	3・4前		2				○								兼1	
	法と経済学Ⅰ	3・4前		2				○								兼1	
	法と経済学Ⅱ	3・4後		2				○								兼1 隔年	
	医療制度論	3・4後		2				○								兼1	
	社会政策論	3・4後		2				○								兼1	
	健康政策論	3・4前		2				○		1						兼4 隔年・ホニバス	
	情報処理A	3・4前・後		2				○								兼1	
	情報処理B	3・4前・後		2				○								兼1	
	現代産業論	3・4前		2				○								兼2 共同	
	現代職業論	3・4前		2				○								兼1	
	経営者と企業	3・4後		2				○								兼2 共同	
小計(22科目)	—	0	48	0	—	—	—	—	1	0	0	0	0	0	兼15	—	
メキヤトリアデベロップ	ボランティア	2・3・4前・後		2				○		1						兼1 共同	
	インターンシップ	2・3・4前・後		2				○		1						兼1 共同	
	Global Political Economy	2・3・4前		2				○		1							
	Global Business	2・3・4後		2				○								兼1	
	American Law and Society	2・3・4前		2				○		1						兼1 集中	
	海外短期演習	2・3・4後		4				○		1						※実習・集中	
小計(6科目)	—	0	14	0	—	—	—	1	0	0	0	0	0	兼2	—		
合計(293科目)		—	31	514	0	—	—	—	9	6	2	0	0	0	兼80	—	

教 育 課 程 等 の 概 要

(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号		学士(法学)		学位又は学科の分野				法学関係						
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
<p>1. 共通教育科目 37単位以上</p> <p>(1) 教養科目 24単位以上</p> <p>①教養ゼミナール群 2単位以上</p> <p>②環境科学群 2単位以上</p> <p>③人文科学群 2単位以上</p> <p>④社会科学群 2単位以上</p> <p>⑤自然科学群または体育・スポーツ群 2単位以上</p> <p>(2) 外国語科目 8単位</p> <p>英語または中国語 同一言語で8単位</p> <p>(3) 健康科学科目 1単位</p> <p>(4) 新入生ゼミナール科目 4単位</p> <p>※(2)の要件を超えて修得した外国語科目の単位については、4単位まで(1)の単位の算入することができる。</p> <p>※外国人留学生は、日本語・日本事情科目のうち「日本語」4単位が必修。「日本語」4単位は(2)の単位の算入することができる。また、(2)に算入した単位を超える日本語・日本事情科目の単位数は、(1)の単位の算入することができる。</p> <p>2. 専門科目 90単位以上</p> <p>(1) 法律基礎科目 36単位以上</p> <p>必修科目 16単位</p> <p>選択科目 20単位以上</p> <p>(2) コース専門科目 30単位以上</p> <p>経済・企業法務科目 24単位以上(うち必修6単位)</p> <p>環境法務科目 2単位以上</p> <p>(3) 実務系科目</p> <p>法務実習科目 2単位以上</p> <p>(4) 演習系科目 14単位以上(うち必修4単位)</p> <p>3. 履修科目の登録の上限</p> <p>①共通教育科目は1学期あたり24単位</p> <p>②共通教育科目と専門科目を合わせて、年間44単位</p>						1 学年の学期区分	2 期							
						1 学期の授業期間	1 5 週							
						1 時限の授業時間	9 0 分							

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要																
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目	教養ゼミナール群	環境問題を化学者と考えるゼミ	1後	2				○							兼1	※2単位選択必修 オムニバス・集中
		生態資源論ゼミ	1前	2				○							兼1	
		地球白書ゼミ	1前	2					○						兼1	
		環境マインドを現場で体験するゼミ	1前	2					○						兼2	
		「時」について考えるゼミ	1後	2					○						兼1	
		原書で読むシャーロック・ホームズゼミ	1前	2					○						兼1	
		現代ドイツの言語と日常ゼミ	1前	2					○						兼1	
		現代ドイツ事情ゼミ	1後	2					○						兼1	
		異文化研究ゼミ	1後	2					○						兼1	
		感覚で攻める英文法ゼミ～覚える英文法から感じる英文法へ	1前・後	2					○						兼1	
		スポーツ・ホスピタリティゼミ 秋冬編(松本山雅FC連携ゼミ)	1後	2					○						兼1	
		スポーツ・ホスピタリティゼミ 春夏編(松本山雅FC連携ゼミ)	1前	2					○						兼1	
		スポーツ観戦文化論ゼミ	1前・後	2					○						兼1	
		テレビのメディアリテラシー(テレビ信州参与ゼミ)	1前	2					○						兼1	
		「考える」ゼミ	1前・後	2					○						兼1	
		化学計算入門ゼミ	1前・後	2					○						兼1	
		文系学生のための野外地質学ゼミ	1前	2					○						兼1	
		統計図解ゼミ	1前・後	2					○						兼1	
		アナログ再発見ゼミ	1前	2					○						兼1	
		情報社会論ゼミ	1前・後	2					○						兼1	
		大学生基礎力ゼミ	1前	2					○						兼4	
		グローバルに生きるゼミ	1前	2					○						兼2	
		新聞をつくろう！(タウン情報制作ゼミ)	1前	2					○						兼1	
		スポーツ活動論ゼミⅠ	1前	2					○						兼1	
		スポーツ活動論ゼミⅡ	1後	2					○						兼1	
		ドイツ環境ゼミ	1後	2					○						兼1	
	社会科学の方法ゼミ	1前	2					○		1				兼1		
	環境科学群	環境社会学入門	1前	2				○							兼1	※2単位選択必修 オムニバス
		熱帯雨林と社会	1前	2				○							兼1	
		環境～その人文・社会科学的アプローチ	1後	2				○							兼5	
		ライフサイクルアセスメント入門	1前・後	2				○							兼1	
		環境と生活とのかかわり	1前・後	2				○							兼1	
		地球環境の歴史	1前	2				○							兼1	
ネイチャーライティングのすすめ(環境文学Ⅰ)		1前	2				○							兼1		
環境文学のすすめ(環境文学Ⅱ)		1後	2				○							兼1		
自然環境と文化		1後	2				○							兼1		
生物と環境		1後	2				○							兼1		
自然災害と環境		1前	2				○							兼1		
生活の中の科学		1後	2				○							兼1		
環境法入門		1後	2				○			1				兼1		
人文科学群		日本学入門	1前	2				○							兼1	
	日本近代文学入門	1後	2				○							兼1		
	映像・人類学	1前	2				○							兼1		
	Top Level English(トップレベルイングリッシュ)	1前・後	2				○							兼2		
	「田園環境健康都市須坂」を「共創」(須坂市寄附講義)	1後	2				○							兼1		
	韓国の文化(食文化)	1前	2				○							兼1		
	韓国の文化(映画で学ぶ)	1前	2				○							兼1		
	韓国の文化(若者の世界)	1後	2				○							兼1		
	韓国の文化(メディア)	1後	2				○							兼1		
	フランスの文化Ⅰ	1前	2				○							兼1		
フランスの文化Ⅱ	1後	2				○							兼1			

教 育 課 程 等 の 概 要

(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目	教養科目 人文科学群	ドイツ語圏の文化Ⅰ	1前	2		○									兼1	
		ドイツ語圏の文化Ⅱ	1後	2		○									兼1	
		アフリカ文化論	1後	2		○									兼1	
	社会科学群	スポーツ考現学	1前・後	2		○									兼1	※2単位選択必修
		スポーツ文化を考える	1後	2		○									兼1	
		新聞と私たちの社会 (信濃毎日新聞社寄附講義)	1後	2		○									兼1	
		数を読む技術	1前	2		○									兼1	
		電子出版の現代	1前・後	2		○									兼1	
		世界経済の歩み	1前	2		○									兼1	
		ミクロ経済学入門	1後	2		○									兼5	
		マクロ経済学入門	1前	2		○									兼5	
		大学生が会おう経済・経営問題	1前	2		○									兼5	
		公法入門	1後	2		○					1					
		法学入門	1前	2		○					1					
		大学生が会おう法律問題	1前	2		○					2	6	2			
	現代政治分析	1前	2		○					1						
	自然科学群	数と形	1前	2		○									兼1	※当科学群または「体育・スポーツ群」から2単位選択必修
		伝えておきたい数学	1後	2		○									兼1	
		素数の不思議	1前	2		○									兼1	
		教養としての物理学	1前	2		○									兼1	
		観測天文学入門	1後	2		○									兼1	
		生活のなかの天文学	1前	2		○									兼1	
		生態学入門	1後	2		○									兼1	
		地域から学ぶ地球	1前	2		○									兼1	
		教養としての物質科学	1後	2		○									兼1	
		ネットワーク社会における情報科学	1前・後	2		○									兼1	
		統計学の基礎	1前・後	2		○									兼1	
		検索の科学	1前・後	2		○									兼1	
		脳の不思議を探る (認知神経科学入門)	1前	2		○									兼1	
		脳の不思議をもっと探る (認知神経科学入門)	1後	2		○									兼1	
		宇宙から原子への旅	1前	2		○									兼12	
	体育・スポーツ群	ソフトボール	1前	1					○						兼1	※当科学群または「自然科学群」から2単位選択必修
		テニス	1前	1					○						兼1	
アダブテッドスポーツ		1前	1					○						兼1		
弓道		1前	1					○						兼1		
コオーディネーションエクササイズ		1前	1					○						兼1		
剣道形の世界		1前	1					○						兼1		
バドミントン		1前	1					○						兼1		
コンディショニングバレエ		1前	1					○						兼1		
サッカー		1前・後	1					○						兼1		
バレーボール		1前	1					○						兼1		
トレッキング		1前	1					○						兼1		
ゴルフ		1前	1					○						兼1		
スポーツフィッシング		1前	1					○						兼1		
マリンスポーツ		1前	1					○						兼1		
信大マラソン		1前	1					○						兼2		
アウトドアの達人	1前	1					○		1				兼1			
サバイバル活動	1前	1					○		1							
スクーバダイビング	1前	1					○		1							

教 育 課 程 等 の 概 要

(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通教育科目	教養科目 体育・スポーツ群	レジャースポーツ	1前	1				○	1						兼1	集中	
		スポーツボウリング	1後	1				○							兼1		
		ニュースポーツ	1後	1				○							兼1		
		アスレティックトレーニング	1後	1				○							兼1		
		バスケットボール	1後	1				○							兼1		
		ネイチャースキー	1後	1				○							兼1		
		スノー・スポーツ	1後	1				○		1					兼3		
		フライングディスク	1前	1				○							兼1		
		小計 (108科目)	—	0	190	0	—	—	—	5	6	2	0	0	兼45		—
	基礎科目	外国語科目	英語	フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅠ (上級)	1前	1				○						兼1	
フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅠ (中級)				1前	1				○							兼3	
フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅠ (初級)				1前	1				○							兼2	
フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅡ (上級)				1後	1				○							兼1	
フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅡ (中級)				1後	1				○							兼3	
フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅡ (初級)				1後	1				○							兼2	
リスニング&リーディングⅠ (上級)				1前	1				○							兼1	
リスニング&リーディングⅠ (中級)				1前	1				○							兼2	
リスニング&リーディングⅠ (初級)				1前	1				○							兼2	
リスニング&リーディングⅡ (上級)				1後	1				○							兼1	
リスニング&リーディングⅡ (中級)				1後	1				○							兼2	
リスニング&リーディングⅡ (初級)				1後	1				○							兼2	
アカデミック・イングリッシュⅠ (上級)				2前	2				○							兼1	
アカデミック・イングリッシュⅠ (中級)				2前	2				○							兼3	
アカデミック・イングリッシュⅠ (初級)				2前	2				○							兼3	
アカデミック・イングリッシュⅡ (上級)		2後	2				○							兼1			
アカデミック・イングリッシュⅡ (中級)		2後	2				○							兼3			
アカデミック・イングリッシュⅡ (初級)		2後	2				○							兼3			
ドイツ語		ドイツ語初級 (総合)Ⅰ	1前	1				○							兼1		
		ドイツ語初級 (総合)Ⅱ	1後	1				○							兼1		
		ドイツ語初級 (文法)Ⅰ	1前	1				○							兼1		
		ドイツ語初級 (文法)Ⅱ	1後	1				○							兼1		
		ドイツ語初級 (読解・会話)Ⅰ	1前	1				○							兼1		
		ドイツ語初級 (読解・会話)Ⅱ	1後	1				○							兼1		
		ドイツ語中級 (読解)Ⅰ	2前	2				○							兼1		
		ドイツ語中級 (読解)Ⅱ	2後	2				○							兼1		
ドイツ語中級 (会話)Ⅰ		2前	2				○							兼1			
ドイツ語中級 (会話)Ⅱ		2後	2				○							兼1			
フランス語		フランス語初級 (総合)Ⅰ	1前	1				○							兼1		
		フランス語初級 (総合)Ⅱ	1後	1				○							兼1		
		フランス語初級 (文法)Ⅰ	1前	1				○							兼1		
		フランス語初級 (文法)Ⅱ	1後	1				○							兼1		
		フランス語初級 (読解・会話)Ⅰ	1前	1				○							兼1		
		フランス語初級 (読解・会話)Ⅱ	1後	1				○							兼1		
		フランス語中級 (読解・会話)Ⅰ	2前	2				○							兼1		
フランス語中級 (読解・会話)Ⅱ		2後	2				○							兼1			
中国語		中国語初級 (総合)Ⅰ	1前	1				○							兼1		
		中国語初級 (総合)Ⅱ	1後	1				○							兼1		
		中国語初級 (文法)Ⅰ	1前	1				○							兼1		
		中国語初級 (文法)Ⅱ	1後	1				○							兼1		
		中国語初級 (読解・会話)Ⅰ	1前	1				○							兼1		
		中国語初級 (読解・会話)Ⅱ	1後	1				○							兼1		
		中国語演習Ⅰ	2前	2				○							兼1		
中国語演習Ⅱ		2後	2				○							兼1			
ハンゲル		ハンゲル初級 (総合)Ⅰ	1前	1				○							兼1		
	ハンゲル初級 (総合)Ⅱ	1後	1				○							兼1			
	ハンゲル初級 (文法)Ⅰ	1前	1				○							兼1			
	ハンゲル初級 (文法)Ⅱ	1後	1				○							兼1			

教 育 課 程 等 の 概 要

(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通教育科目	外国語科目 ハングル	ハングル初級(読解・会話)Ⅰ	1前	1				○								兼1	
		ハングル初級(読解・会話)Ⅱ	1後	1				○								兼1	
		ハングル中級(読解・会話)Ⅰ	2前	2				○								兼1	
		ハングル中級(読解・会話)Ⅱ	2後	2				○								兼1	
	小計(52科目)		—	0	68	0		—		0	0	0	0	0	0	兼14	—
	健康科学科目 健康科学・理論と実践	健康科学・理論と実践	1前	1				○								兼7	※実技・オムニバス
		小計(1科目)		—	1	0	0	—		0	0	0	0	0	0	兼7	—
		小計(2科目)		—	4	0	0	—		3	2					兼19	—
	日本語・日本事情	日本語 読解(日本語)Ⅰ 読解(日本語)Ⅱ 作文(日本語)Ⅰ 作文(日本語)Ⅱ ビジネス・ジャパニーズⅠ ビジネス・ジャパニーズⅡ 科学技術日本語Ⅰ 科学技術日本語Ⅱ	1前	1				○								兼1	※外国人留学生のみ
			1後	1				○							兼1		
			1前	1				○							兼1		
			1後	1				○							兼1		
			1前	1				○							兼1		
			1後	1				○							兼1		
			1前	1				○							兼1		
			1後	1				○							兼1		
		日本事情 日本社会と日本人Ⅰ 日本社会と日本人Ⅱ 武道・伝統文化実習Ⅰ 武道・伝統文化実習Ⅱ	1前	2				○								兼1	※外国人留学生のみ オムニバス オムニバス
			1後	2				○							兼1		
			1前	1					○						兼2		
1後			1					○						兼2			
小計(12科目)		—	0	14	0	—			4	3	2	0	0	兼19	—		
専門科目	法律基礎科目	憲法	2前	4				○			1						
		刑法Ⅰ	1後	4				○					1				
		刑法Ⅱ	2前	2				○					1				
		民法総則	1前	2				○			1						
		物権法	1後	2				○			1						
		契約法Ⅰ	2前	2				○				1					
		契約法Ⅱ	2後	2				○				1					
		契約法Ⅲ	3・4前	2				○				1					
		不法行為法	2後	2				○			1						
		会社法Ⅰ	2後	4				○					1				
		刑事訴訟法	2前	4				○				1					
		民事訴訟法	2・3前	2				○			1						
		民事執行・保全法	2・3・4後	2				○			1						
		行政法	2後	4				○				1					
		政治学基礎	2前	2				○			1						
		自然環境概論	2後	2				○								兼1	
		知的財産法基礎	2後	2				○								兼1	
小計(17科目)		—	16	28	0	—			4	5	2	0	0	兼2	—		

教 育 課 程 等 の 概 要

(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専 門 科 目	コ ー ス 専 門 科 目	環 境 法 務 科 目	環境法Ⅰ	2前	2		○			1								
			環境法Ⅱ	2後	2		○			1								
			水環境法	3・4後	2		○										兼1	集中・ねこバス
			国際環境法	3・4前	2		○									兼2		
			都市環境と行政法	3・4後	2		○					1						
			環境と刑法	3・4前	2		○				1							
			環境経済学Ⅰ	3・4後	2		○									兼1		
			環境経済学Ⅱ	3・4前	2		○									兼1		
			環境テクノロジー	3・4前	2		○									兼1		
			環境理学概論	3・4前	2		○									兼1		
			環境社会学概論	3・4前	2		○									兼1		
			環境教育概論	3・4前	2		○									兼1		
			環境農学概論	3・4後	2		○									兼1		
			環境と憲法訴訟	3・4後	2		○				1							
			自然環境フィールドワークの理論と実践	3・4後	2		○				1							
			国際政治	3・4後	4		○				1							
小計 (16科目)	—	0	34	0	—	—	—	5	1	0	0	0	兼9	—				
専 門 科 目	コ ー ス 専 門 科 目	経 済 ・ 企 業 法 務 科 目	労働法	3・4前	4		○				1							
			企業取引法	3・4前	2		○						1					
			会社法Ⅱ	3・4前	2		○						1					
			担保法	3・4後	2		○					1						
			親族・相続法	3・4前	2		○				1							
			倒産法	3・4前	2		○				1							
			簿記・会計入門	3・4後	2		○									兼1		
			管理会計	3・4後	2		○									兼1		
			経営学	3・4前	2		○									兼1		
			法人税法	3・4後	2		○									兼1		
			テクノロジー概論	3・4前	2		○									兼1		
			知的財産法Ⅰ	3・4前	2		○									兼1		
			知的財産法Ⅱ	3・4後	2		○									兼1		
			経済法	3・4後	2		○									兼1		
			危機管理法務	3・4前	2		○									兼1		
小計 (15科目)	—	0	32	0	—	—	—	2	2	1	0	0	兼8	—				
専 門 科 目	コ ー ス 専 門 科 目	都 市 ・ 行 政 法 務 科 目	統治機構論	2前	2		○			1								
			行政救済法	3・4前	2		○					1						
			自治体法	3・4前	2		○									兼1		
			都市行政と刑法	3・4前	2		○				1							
			社会保障法	3・4後	2		○					1						
			行政学概論	2前	2		○				1							
			自治行政	2後	2		○				1							
			都市テクノロジー	3・4前	2		○									兼1		
			統計学Ⅰ	3・4後	2		○									兼1		
			都市政策論	3・4後	2		○									兼1		
			ミクロ経済学Ⅰ	3・4前	4		○									兼1		
			マクロ経済学Ⅰ	3・4後	4		○									兼1		
			計量経済学	3・4後	2		○									兼1		
			市民税法	3・4前	2		○									兼1		
小計 (14科目)	—	6	26	0	—	—	—	3	2	0	0	0	兼8	—				
実 務 系 科 目	実 務 講 義 科 目	行政実務	2前	2		○				1								
		現代法務	2後	2		○					1							
		租税法実務	3・4後	2		○				1			1			共同		
		小計 (3科目)	—	0	6	0	—	—	—	1	2	0	1	0	0	—		
		法務実習科目	行政法務実習	3・4通	2					○		1					※演習	
環境法務実習	3・4通	2						○	1						※演習			
税務実習	3・4通	2						○	1		1				※演習・共同			
労働法務実習	3・4通	2						○		1					※演習			
契約法務実習	3・4通	2						○		1					※演習			

教 育 課 程 等 の 概 要

(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目	実務系科目 法務実習科目	知財法務実習	3・4通		2				○							兼1	※演習
		裁判法務実習	3・4通		2				○		1					兼1	※演習
		捜査法務実習	3・4通		2				○							兼1	※演習
		小計(8科目)	—	0	16	0	—	—	—	—	2	4	0	1	0	兼2	—
	演習系科目 基礎演習科目	基礎演習Ⅰ	2通	4					○		3	3	2				
		基礎演習Ⅱ	3通		4				○		3	3	2				
		小計(2科目)	—	4	4	0	—	—	—	—	3	3	2	0	0	0	—
	演習系科目 発展演習科目	行政法演習	3・4後		2				○			1					
		刑事訴訟法演習	3・4前		2				○			1					
		民事訴訟法演習	3・4前		2				○		1						
		倒産法演習	3・4後		2				○		1						
		労働法演習	3・4前		2				○			1					
		社会保障法演習	3・4後		2				○			1					
		環境法演習Ⅰ	3・4前		2				○		1						
		環境法演習Ⅱ	3・4後		2				○		1						
		国際政治演習	3・4後		2				○		1						
		行政学演習	3・4前		2				○		1						
		健康・スポーツ・自然演習Ⅰ	3・4前		2				○		1						※実習
		健康・スポーツ・自然演習Ⅱ	3・4後		2				○		1						※実習
		総合法律学演習Ⅰ	3・4前		2				○			1					
総合法律学演習Ⅱ		3・4後		2				○			1						
小計(14科目)	—	0	28	0	—	—	—	—	5	3	0	0	0	0	—		
論文科目	卒業論文	4通		6				○		8	6	2					
	小計(1科目)	—	0	6	0	—	—	—	—	8	6	2	0	0	0	—	
経済系選択科目	ミクロ経済学Ⅱ	3・4後		2				○								兼1	
	マクロ経済学Ⅱ	3・4前		2				○								兼1	
	ゲーム理論入門	3・4後		2				○								兼1	
	経営組織論	3・4後		2				○								兼1	
	財務会計	3・4前		2				○								兼1	
	公認会計士実務	3・4後		2				○								兼1	
	社会保障政策論	3・4前		2				○								兼1 隔年	
	財政学	3・4後		4				○								兼1	
	地方財政	3・4後		2				○								兼1	
	経済史	3・4前		4				○								兼1 隔年	
	経営労務論	3・4後		2				○								兼1 隔年	
	独占禁止法の経済学	3・4前		2				○								兼1	
	法と経済学Ⅰ	3・4前		2				○								兼1	
	法と経済学Ⅱ	3・4後		2				○								兼1 隔年	
	医療制度論	3・4後		2				○								兼1	
	社会政策論	3・4後		2				○								兼1	
	健康政策論	3・4前		2				○		1						兼4 隔年・ホニバス	
	情報処理A	3・4前・後		2				○								兼1	
	情報処理B	3・4前・後		2				○								兼1	
	現代産業論	3・4前		2				○								兼2 共同	
	現代職業論	3・4前		2				○								兼1	
	経営者と企業	3・4後		2				○								兼2 共同	
小計(22科目)	—	0	48	0	—	—	—	—	1	0	0	0	0	0	兼15	—	
メキヤトリアデベロップ	ボランティア	2・3・4前・後		2				○		1						兼1 共同	
	インターンシップ	2・3・4前・後		2				○		1						兼1 共同	
	Global Political Economy	2・3・4前		2				○		1							
	Global Business	2・3・4後		2				○								兼1	
	American Law and Society	2・3・4前		2				○		1						兼1 集中	
	海外短期演習	2・3・4後		4				○		1						※実習・集中	
小計(6科目)	—	0	14	0	—	—	—	—	1	0	0	0	0	兼2	—		
合計(293科目)		—	31	514	0	—	—	—	—	9	6	2	0	0	兼80	—	

教 育 課 程 等 の 概 要

(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号		学士(法学)		学位又は学科の分野				法学関係						
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
<p>1. 共通教育科目 37単位以上</p> <p>(1) 教養科目 24単位以上</p> <p>①教養ゼミナール群 2単位以上</p> <p>②環境科学群 2単位以上</p> <p>③人文科学群 2単位以上</p> <p>④社会科学群 2単位以上</p> <p>⑤自然科学群または体育・スポーツ群 2単位以上</p> <p>(2) 外国語科目 8単位</p> <p>英語または中国語 同一言語で8単位</p> <p>(3) 健康科学科目 1単位</p> <p>(4) 新入生ゼミナール科目 4単位</p> <p>※(2)の要件を超えて修得した外国語科目の単位については、4単位まで(1)の単位に算入することができる。</p> <p>※外国人留学生は、日本語・日本事情科目のうち「日本語」4単位が必修。「日本語」4単位は(2)の単位に算入することができる。また、(2)に算入した単位を超える日本語・日本事情科目の単位数は、(1)の単位に算入することができる。</p> <p>2. 専門科目 90単位以上</p> <p>(1) 法律基礎科目 36単位以上</p> <p>必修科目 16単位</p> <p>選択科目 20単位以上</p> <p>(2) コース専門科目 30単位以上</p> <p>都市・行政法務科目 24単位以上(うち必修6単位)</p> <p>環境法務科目 2単位以上</p> <p>(3) 実務系科目</p> <p>法務実習科目 2単位以上</p> <p>(4) 演習系科目 14単位以上(うち必修4単位)</p> <p>3. 履修科目の登録の上限</p> <p>①共通教育科目は1学期あたり24単位</p> <p>②共通教育科目と専門科目を合わせて、年間44単位</p>							1 学年の学期区分	2 期						
							1 学期の授業期間	1 5 週						
							1 時限の授業時間	9 0 分						

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目 教養ゼミ ナール群	環境問題を化学者と考えるゼミ 第1回目の講義時に各種環境問題を教員から問題提起し、2回目以降のテーマを担当する発表者を決定する。主発表者は毎回1～2名でA4レポート用紙2枚にまとめてレジメを作り15分程発表(プレゼンテーション)する。発表者以外の人はその小テーマについて調べておく。そして4～5人のグループに分かれ、発表者の発表後、全員で20分ほど討論する。(コミュニケーション能力の向上) そして、その結果をレポートにする。(言語能力の向上) さらに、それらの結果を基に各グループが意見を交換する。(コミュニケーション能力の向上) 「一人一人が自分で調べ、考え、自分なりの考え方を持つ」ということがこのゼミのキーワードであり最終目標である。	
	生態資源論ゼミ	各人(班)はそれぞれ関心をもった生態資源について、まずは文献資料にあたり、報告する。それをもとに、受講者全員で質疑応答を行う。 各班の調査方法としては、各種文献やインターネットの参照のほか、関係者への聞きとりを行う(メールや電話での聞きとりも可とする)。また各報告に対して質疑応答を行う。 また、授業期間内に1度、受講者全員が参加する学外見学・体験の機会を設ける。	
	地球白書ゼミ	本授業では、地球が直面している問題群を比較的平易な英文とそこに挿入されている図表から学ぶ。各人はそれぞれ関心のある項目について、テキストの読解を行い、発表・報告する。それをもとに、受講者全員で質疑応答を行う。授業の目標は、鍵となる単語や表現を覚えることに加え、問題の背景や構造を理解し、さらに私たちに求められる「かかわり」について議論することである。	
	環境マインドを現場で体験するゼミ	(1)水生生物の基づく環境調査、(2)地下水利用をめぐる聞きとり調査、(3)成果発表と討論を行う。 まず、ナノ水車発電の技術の体験的学習では、工学部における技術開発の現場と、エネルギーの地産地消を目指した応用現場に立ち会い、討論を通してこれからのエネルギー生産と消費のあり方を考えさせる。 次に、環境調査会社(株式会社 環境アセスメントセンター)によって環境保全の作業が行われている現場を訪問する。ここでは、実際に水生生物の調査を担当することによって実際の調査を体験するとともに、協同作業を進める方法を工夫してほしい。 さらに、地下水利用の現状と課題について、地下水開発会社(株)サクセン、飲料メーカー、わさび農園、住民などへの聞きとりを通じて、体験的に理解する。地域の水資源を活用しながら、同時にその水環境をまもっていく方策について議論する。 (オムニバス方式/全16回) (52 金澤謙太郎/8回) 水生生物の基づく環境調査 成果発表と討論 (26 大塚勉/8回) 地下水利用をめぐる聞きとり調査 成果発表と討論	オムニバス方式 集中
	「時」について考えるゼミ	「時」についての理解を深める。主として輪講形式。「時」をキーワードとしたいろいろなテーマを取り上げ、受講生主体の自由な討論を行いたい。対象学生は文理所属を問わない。教材は受講生の興味や予備知識に合わせて調整する。	
原書で読むシャーロック・ホームズゼミ	4つの長篇と56の短篇からなるホームズ物語のうち、『ストランド・マガジン』への連載をきっかけに一躍人気を博した代表的短篇をとりあげる。シドニー・パジェットによる挿し絵が添えられたテキストを読み解く作業を中心に授業を進めるが、英語特有の表現、構文など、形式的・文法的な知識の確認と同時に、文化的文脈を踏まえた、テキストの内容の正確な解釈・理解にも意を用いたい。その際、英文の内容と味わいを達意の日本語で表現するために、英和辞典、国語辞典をはじめ、各種の辞典類を充分に活用してもらいたい。また随時、英国のグラナダテレビによって製作された定評ある映像化作品も視聴し、原作テキストとの比較も試みたい。		

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目	教養ゼミナール群 現代ドイツの言語と日常ゼミ	既習言語であるドイツ語を実際に用いて、ドイツ語を通してしか得られない現代ドイツ語圏の日常・文化生活に触れ、異文化に直に触れることにより、より高度な国際理解感覚を身につけつつ、ドイツ語運用能力を高める。 到達目標： 1. 辞書を用いれば、現代ドイツのアクチュアルな文章を読むことができるレベルのドイツ語読解能力を身につける。 2. 文章を読む際に、日本語の感覚ではなく、ドイツ語の感覚で読む習慣を身につける。 3. 日本語に頼ることなく、外国語から直接外国の情報を入手し、それを処理する国際理解感覚を身につける。 4. 独検秋季試験で2級に合格するドイツ語力の習得を目指す。	
	現代ドイツ事情ゼミ	現代のドイツ語圏の事情は、日本の新聞や雑誌ではなかなか目にすることがない。そのようなアクチュアルな文章を読む際には、テキストの文字だけを見ていても、その背景にあるドイツの現状を知らなければ、理解するのは難しいだろう。（もちろんこれは、ドイツ語に限ったことではなく、英語でも同じことが言える。） そのような意味で、異文化理解や国際感覚というものをより高度なものにするために必要な視点や姿勢を、しっかりと身につけてもらいたい。	
	異文化研究ゼミ	本ゼミでは、各受講生が関心を持っている異文化について学び、学んだことを発表することを通じて、自ら課題を探索し、自分の主張を的確に表現する能力を養う。 はじめに各受講生が関心を持っていることについて話してもらい、その関心をどのように深めてゆけばよいのか話し合う。 最終的にはレポートを執筆し提出する。その上で、アカデミック・ライティングの指導を行う。随時グループワークを実施することで、コミュニケーション能力を高めるとともに、受講生どうしの相互理解を深める。	
	感覚で攻める英文法ゼミ～ 覚える英文法から感じる英文法へ	本ゼミでは、英文法のトピックを取り上げ、受講者の理解度に合わせゆくり進めていく。 まず、各トピックの基本事項を講義し、そのトピックを理解するのに必要な事項を概観し全体像を把握する。その後、グループワーク・ディスカッションやプレゼンテーションを通して受講者全員でそのトピックにまつわる「なぜ」という疑問や「どうして」という関心を自由で大胆且つ独創的な発想を交え積極的に話し合い、受講者全員の共同作業により各自が「英文法」を体感し、「使える英文法」を体得する。	
	スポーツ・ホスピタリティゼミ 秋冬編(松本山雅FC連携ゼミ)	本ゼミではスポーツ・ホスピタリティ、具体的には地域密着型スポーツクラブ、プロスポーツ、一般市民のスポーツ施設、あるいはレジャー施設におけるボランティアの望ましいあり方をアカデミックかつ実践的に理解する。本講では主に信州におけるサッカーを中心としたスポーツクラブやその他のトップスポーツや、近隣のスポーツ施設や公園が直接の対象となるが、海外におけるホスピタリティ事情も文献やインターネットで検討する。そこでのホスピタリティがどのような歴史社会的背景、教育的、政治的、経済的要因で成立し、受容されて（あるいは忌み嫌われて）いるのかを実際のフィールドワークも取り入れながら検討してゆく。 フィールドワークは2012年シーズンからJリーグ入りを果たした松本山雅FCの試合運営にボランティアとして関わること及びその他スポーツスタジアムやスポーツイベントのホスピタリティ体験を通じて望ましいあり方を学習する予定である。	
	スポーツ・ホスピタリティゼミ 春夏編(松本山雅FC連携ゼミ)	本ゼミではスポーツ・ボランティア、具体的には地域密着型スポーツクラブ、プロスポーツ、一般市民のスポーツ施設、あるいはレジャー施設におけるボランティアの望ましいあり方をアカデミックかつ実践的に理解する。本講では主に信州におけるサッカーを中心としたスポーツクラブやその他のトップスポーツや、近隣のスポーツ施設が直接の対象となるが、海外におけるホスピタリティ事情も文献やインターネットで検討する。そこでのホスピタリティがどのような歴史社会的背景、教育的、政治的、経済的要因で成立し、受容されて（あるいは忌み嫌われて）いるのかを実際のフィールドワークも取り入れながら検討してゆく。 フィールドワークは2012年シーズンからJリーグ入りを果たした松本山雅FCの試合運営にボランティアとして関わることを通じて望ましいあり方を学習する予定である。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 教養ゼミナール群	スポーツ観戦文化論ゼミ	ここでの観戦学とはいわゆるスポーツの戦略やスキルの専門的知識を追求することではない。スポーツの生観戦，スポーツのテレビ観戦のアカデミックな理解にあたって，まず，チームやクラブのエンブレムやユニフォーム，愛称，サポーターズ・ソング，等の諸シンボルが対象となる。それらが支持・愛される理由・要因を，歴史社会的背景，教育的，政治的，経済的要因などに注目しながら検討する。また，同様に，観戦にあたってよいスタジアムとは何か，サポーター&サポーターズカルチャーとはいかなるものかについても，実際のフィールドワークも取り入れながら検討してゆく。	
	テレビのメディアリテラシー（テレビ信州参与ゼミ）	この講義はテレビ信州の全面的協力の下に開講するもので，ニュースや技術，カメラ，アナウンスなどの担当者をゲストスピーカーとして迎える。現場での経験，経験の中からの学び，喜怒哀楽等々，ナマの声を耳を傾け，質疑応答の中で，テレビメディアの今を知る。併せてミニ番組を制作し，作品はテレビ信州の番組と長野市インターネット放送局「愛テレビながの」の中でOAする道も開かれている。ただし，この制作実習は，テクニックの習得というより，むしろ，送り手と受け手の双方の立場を体験し感じ取り，討論することを通じて，メディアリテラシー向上に資することを主眼としている。	
	「考える」ゼミ	「考える力」や「伝える力」は，受身的な学習により身に付くものではない。「考える力」と「伝える力」を獲得するためには，実際に「考える」そして「伝える」という“実践トレーニング”が欠かせない。 「考える」ゼミ(以下考ゼミ)では，その「考える」「伝える」ことを実践するために，トレーニングの【場】となる様々な仕掛けや素材が毎回用意されている。そして，普段はできないような新鮮な経験となりそうな機会を提供する。この【場】や【経験】は，教室内とは限らず，街場(地域)に繰り出し体験型の活動を行う。その【場】では，様々な“指令(〇〇しなさい)”が出され，それら指令をこなすことで，新鮮な経験を得つつ「考える力」「伝える力」を鍛え上げていく。 このように，受講者は，毎回毎時，“考える”そして“伝える”実践トレーニングを行う。	
	化学計算入門ゼミ	表計算ソフトは基本的なソフトであり，種々の分野において広く使われている。本ゼミでは，この表計算ソフトを化学実験の結果の解析や種々の化学計算等を行なうことにより，基礎知識を進展させ，理解を深める。本ゼミでは，以下の点を目標にする。 1. 表計算ソフトExcelの基本的な操作を覚える。 2. 化学計算ができる。 3. 実験結果の解析ができる。	
	文系学生のための野外地質学ゼミ	前期の土・日曜日を利用して野外に3回，学内で1回の授業に臨む。 信州には多くの活断層が存在し，近い将来地震災害をもたらすのではないかと心配されている。また，山岳地域であるため，常に自然災害に見舞われている。そのように判断される根拠となる野外地質現象を訪ねる。 信州の地質を特徴づけるフォッサマグナとはなんだろうか。フォッサマグナを特徴付ける岩石が露出している地点と，そこから産出した化石を収蔵する博物館を訪れる。さらに，身近にある河川-女鳥羽川を歩き，地質学的な自然現象が語っていることを学ぶ。 各内容では，かなりの距離を歩くことになる。現地では地質現象を観察して記録をとり，後でレポートを作成する。現地で観察して議論し，考えたことを発表してもらう。	集中
統計図解ゼミ	身近な状況の中から，数値情報の現れている課題あるいは欠落している課題などを，コンピュータを活用してグラフなどに図解していく。各自が図解に作成したファイルを，大学提供の学習システムeALPS上に提出することにより毎回の演習は完結する。 処理する題材はインターネット上で公開されている数値情報を中心に扱い，とくに環境，教育，地域，ジェンダーおよびスポーツに関係した資料を多く扱う。 表計算の利用においては，とくに作業効率に関係したスキルを中心に扱う。 実習の進め方は，個人活動を中心に進め，課題によってはグループでの作業とする。 なお表計算Excelをよく使う人も多いが，このツールに関するいくつかの問題点も同時に演習を通じて指摘していく。		

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 教養ゼミナール群	アナログ再発見ゼミ	単純に数えること、あるいは私たちの身体感覚を通じて測定できるいくつかの課題に取り組むことを通じてアナログ量やデジタル量の測定について体験し、それらのデータを計算処理を通じて表現する。 課題内容に応じて、個人またはグループで取り組む。 数値情報の表現においては、有効数字や誤差の扱いも学ぶ。	
	情報社会論ゼミ	ここ数年のコンピュータと情報通信技術の普及によって、コミュニケーションのあり方、意思決定・判断の方法を含めて私たちの生活スタイルは大きく変化した。私たちが記憶しなければならなかった事柄のかなりの部分は、携帯電話やコンピュータが担うようになっている。かつて調べるのに大変な労力を要した事柄も、いくつかのキーワードを入力するだけで簡単に調べることができるようになった。しかし負担が減った分、私たちの脳はより良い使われ方をしているだろうか。 このゼミでは、情報社会に関する様々なテーマについて検討することを通して、ネットワーク社会の光と陰について理解を深めてもらいたいと思う。	
	大学生基礎力ゼミ	受講生が学ぶのは、信州大学に関する知識と、大学生として4年間必要になる基礎的な知識・技術・態度である。そのために、授業と授業外で、自分たちが大学生になっていく過程を観察し、記録し、分析していく作業を繰り返すが、そこで学生が実際に体験し、練習するのは、 (1) 受講している学生および教員との信頼関係および生産的関係の構築 (2) 大学の学びに必要な諸技術（聞く・話す・読む・書く・分析する・協働する・受け入れる・主張する・異議を唱える・働きかける、等々） (3) 信州大学の環境の理解と施設や支援の利用 (4) 異なる人々や新しい価値体系の受容と、自分の視野と度量の拡張の4つである。 この経験を記録し、分析し、今後に生かすために、学生は毎週ふりかえりを書き、大学の施設を学びながら協働して課題に取り組み、それらをポートフォリオとして保存して、はじめての学期の経験を総括するレポートを書く。授業ではこれらの経験を話し合うことで理解を深め、大学生として生活を組み立て、学習を深めるための基礎力を身につける作業を繰り返す。	
	グローバルに生きるゼミ	この授業は、「グループワーク」、「ディスカッション」、「プレゼンテーション」が中心となる。「知識を得る」のではなく、情報を得て、それについて考え、自分の問題として発信することを要求する。 毎回の授業の大まかな流れは、以下のようなものである。 1. 資料あるいは短いレクチャーを通して、テーマごとの問題点を明確にする。 2. その問題点についてグループワークやディスカッションを通して理解を深めつつ、自分以外の視点についても触れ、自分の問題として考える。 3. ディスカッションの結果をグループで（あるいは個人で）まとめて発表する。 4. 授業内容のまとめとして、毎回短い文章を提出してもらう。 (オムニバス方式／全15回) (47 松岡幸司／13回) オリエンテーション：「グローバル（に生きる）とは何か？」 グローバルな人材とは？（自分の問題として考える） 海外へ行く、海外で暮らす/学ぶとは？(1) グループ発表 様々なテーマで「グローバル」ということについて、自分の問題として考える。 個人発表 (44 RUZICKA DAVID EDWARD／2回) 海外へ行く、海外で暮らす/学ぶとは？(2)	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	教養ゼミナール群	新聞をつくろう！（タウン情報制作ゼミ）	『松本平タウン情報』は、松本、安曇野、塩尻市など中信地方で11万8700部を発行するタブロイド判16ページの地域情報紙であり、毎週3回発行され、信濃毎日新聞の朝刊に折り込まれている。その紙面づくりに学生自身が加わることを通じ、「地域におけるメディアとは何か」を学び、その過程で、分かりやすい文章の書き方、コミュニケーションの方法などを身に付けることを目的とする。 ゼミでは、新聞をつくるための基礎知識を学び、実際の紙面をつくる。メディアのあり方、取材の仕方、写真の撮り方、新聞の組み方などを講義する。以上のことは編集会議を重ねながら、実際に取材、執筆、整理制作を進める。	
		スポーツ活動論ゼミⅠ	身体の健康を図ることは人生を通しての課題といえる。本ゼミは「人間の身体は素晴らしい」をテーマに運動をとおして人間の生活習慣やスポーツ活動について、学生諸君とともに考えていくことをねらいとしている。またゼミではスポーツの理論と実践を重視するため、問題発見、問題解決能力が身に付く。学生の自主性により内容を決定するので、ゼミの運営を行うことによるコミュニケーション能力の向上を目指す。様々なスポーツ活動を調べ、学んだ上で、実際にスポーツを体験する。 また、信州の自然を生かしたスポーツ活動を行うため、休業期間を利用し、合宿形式でのゼミを実施する。 ゼミの時間帯にはその活動に必要な知識、技術、ルール・マナーをグループ発表により学習する。 なお、本年度より、体育スポーツの授業の信大マラソンの管理運営にかかわり、スポーツマネジメントの基礎についても学び、実際にマラソンの大会運営に携わる。	
		スポーツ活動論ゼミⅡ	身体の健康を図ることは人生を通しての課題といえる。本ゼミは「人間の身体は素晴らしい」をテーマに運動をとおして人間の生活習慣やスポーツ活動について、学生諸君とともに考えていくことをねらいとしている。またゼミではスポーツの理論と実践を重視するため、問題発見、問題解決能力が身に付く。また、学生の自主性により内容を決定するので、ゼミの運営を行うことによるコミュニケーション能力の向上を目指す。さまざまなスポーツ活動を調べ、学んだ上で、実際にスポーツを体験する。 また、信州の自然を生かしたスポーツ活動（スノースポーツなど）を行うため、休業期間を利用し、合宿形式でのゼミを実施する。 ゼミの時間帯にはその活動に必要な知識、技術、ルール・マナーをグループ発表により学習する。	
		ドイツ環境ゼミ	中心になるのは、2～3月に行われる「短期ドイツ研修」である。これは、「語学学校において2週間のドイツ語コースに参加」した後、「1週間程度、環境関連施設等を訪問・視察」するものである。 そのために、11月から2月初旬にかけて、eALPSを併用しつつ、月に1・2回程度の事前学習のための授業を行う。その際に、自分のテーマを決め、理解を深めていく。 また帰国後には、自分のテーマに従って視察内容をまとめ、「公開報告会」を行い、レポートを提出するとともに、「ドイツ語技能検定試験3級」の合格を義務づける。	集中
		社会科学の方法ゼミ	1年次生が高校の社会科（「地理歴史」「公民」あるいは「総合学習」）を学ぶことから社会科学を学ぶことへの円滑な移行を図れるよう、社会学、経済学、経営学、政治学等のさまざまな学問領域の文献を読解することを通じて、広く社会科学の先人たちがどのような方法を用いて社会事象を読み解いてきたのか、を跡づける。	
	環境科学群	環境社会学入門	主な論点として、第一に環境問題の加害・被害構造、制度・組織の特性、第二に環境行動・運動の契機とその結果、集団行動の困難・障害、第三に環境の歴史・価値・思想、生業とのかかわり、などについて、世界中で起こっているさまざまな環境問題を例に考えていく。また、環境社会学は、人間が作り出した環境問題の解決を志向する「行動する社会学」でもある。 受講生には、この講義を通じて、自らの生活実践への示唆についても積極的に学びとってくれることを期待する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 環境科学群	熱帯雨林と社会	熱帯産のさまざまなモノを切り口として、熱帯雨林の自然と人間の暮らしについて理解を深める。主な事例を東マレーシア、サラワク州（ボルネオ島）のパラム河流域からとり上げる。授業計画の前半では、サゴヤシ、陸稲、沈香などの生態資源を例に、熱帯雨林に暮らす狩猟採集民の生活や生業の様式を概観し、彼らの食糧の確保、資源やエネルギーの利用にみられる諸特徴を理解する。後半は、木材、パーム油、バナナ、エビ、コーヒーなどの一次産品を例に、社会経済的なグローバル化をめぐる問題群について考える。 この講義を通じて、東南アジアの熱帯雨林と私たちとの関係や両者が抱える現代的課題を追究しながら、他人や地球をできるだけ傷つけない社会への手がかりや可能性を探っていく。	
	環境～その人文・社会科学的アプローチ	人文・社会科学的な環境マインドを構築するにあたり、スポーツ社会学、環境社会学、文化人類学、ドイツ文学、脳神経科学など、様々なパースペクティブから環境を検討・理解する。 ここで扱う環境は、自然環境のみでなく、人間が人間として活動する生活環境全般が対象となる。 (オムニバス方式／全15回) (52 金澤謙太郎／3回) 環境社会学の視点から (57 分藤大翼／3回) 文化人類学の視点から (47 松岡幸司／3回) ドイツ文学の視点から (60 有路憲一／3回) 生活環境における脳神経科学 (27 橋本純一／3回) スポーツ社会学の視点から	オムニバス方式
	ライフサイクルアセスメント入門	LCAは製品やサービスの資源採取から廃棄に至るまでのライフサイクル(一生涯)における環境負荷量や環境影響量を客観的に、且つ、定量的に評価する手法である。その評価手法を修得するため、生活の身近な製品を例題にしてLCA演習を行う。そして、LCA結果を用いた新たなCO2削減のためのカーボンフットプリント制度やタイプⅢ環境ラベルなどを理解し、さらに、今後のLCA展開および新たな環境指標について講述する。また、信州大学の全てのキャンパス・学部・学科で取り組んでいる環境マネジメントシステム(EMS: Environmental Management System)について解説し、LCAとEMSを両立させた新たな環境保全活動について考える。	
	環境と生活とのかかわり	環境調和型社会の形成は、製品やサービスの提供側と消費者の協同で行われなければならない。そのため地球環境問題の取り組みを概観しながら、生活に身近な環境法規、製品やサービスの環境影響評価手法、組織と利害関係者のインターフェースになる環境報告書・環境ラベルなど環境情報の見方、身近な製品やサービスにおける環境への取り組み事例、カーボンオフセットなどを中心に講述し、環境と日常生活とのかかわりについて考える。また、信州大学の全てのキャンパス・学部・学科で取り組んでいる環境マネジメントシステムと環境保全活動について解説する。	
	地球環境の歴史	環境マインドを備えた人材を育成するための教養科目である。同時に、グループ学習を通して、コミュニケーション力やチームワーク力を養う。 地球の過去の調べ方、年代測定法、地球の誕生、大気組成の変遷、生命の誕生と進化、大陸移動とプレートテクトニクス、気候変動といったテーマを、地球の歴史に沿って、トピックを取り上げながら授業を展開する。授業では、必要に応じてビデオ教材を用いる。 授業では、地球環境に関するテーマについて各学生が書物によって学習した結果に基づいてグループ間で意見を交換し、最終的にどのような意見をもつに至ったかを発表する。	
	ネイチャーライティングのすすめ(環境文学Ⅰ)	自然や環境について語る際、「こころの問題」として、つまり自分との関係で語ることはあまり多くない。本講義ではこの観点から自然や環境にアプローチしていく。 最初の3回で自然・環境・人間の関係について概観した後、個々の文学作品、特にネイチャーライティング作品を通して、上記三者の関係について考えていく。扱う作品は、H.D.ソロー、レイチェル・カーソン、シュティフター、サン＝テグジュペリ、ギッシン、ヘルマン・ヘッセなどの作品を予定しており、少なくとも該当部分に関して授業前に読んでおく必要がある。講義では、毎回「授業内容確認課題」を書くことにより簡単なまとめを行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	環境科学群 環境文学のすすめ（環境文学Ⅱ）	自然や環境について語る際、「こころの問題」として、つまり自分との関係で語ることはあまり多くない。本講義ではこの観点から自然や環境にアプローチしていく。 最初の3回で自然・環境・人間の関係について概観した後、個々の文学作品、特に環境文学作品を通して、上記三者の関係について考えていく。扱う作品は、宮沢賢治『注文の多い料理店』彭見明『山の郵便配達』をはじめ様々な作品を予定しており、少なくとも該当部分に関して授業前に読んでおく必要がある。講義では、毎回「授業内容確認課題」を書くことにより簡単なまとめを行う。	
		自然環境と文化	はじめに人類学とは何かということ概説する。その上で、人類学的な知見にもとづいて、食文化、健康と病、病と癒し、死と儀礼、音楽・舞踊、装いとといった項目について自然環境と密接に関わりながら生きている人々の文化を紹介する。また同じ項目について、私たちの文化のありようについても紹介し、今後の私たちの生き方、自然環境との望ましい関わり方について考える。	
		生物と環境	私たち人類も含めてすべての生物は地球上の環境から影響を受け、また環境に対して影響を及ぼしながら生活している。そうしたさまざまな環境における生物個体群の分布や生活様式、生物群集における個体群間の相互作用、生物群集とそれを取り巻く環境から構成される生態系の構造と機能について基礎知識や基本概念を解説する。さらに私たちの身の回りから地球規模に至るまでの生物と環境にかかわる問題について、具体的な事例を取り上げてパワーポイントやビデオ教材を用いて講義を行う。	
		自然災害と環境	信州は火山が集中している地域でもある。火山活動が起きる場所にはある法則性がある。そのことをまず理解した上で、火山活動の起こる仕組み、火山活動の種類、火山活動への対処方法などを事例に即して講述する。 また、人間の生活の場となっている平地は河川や海洋によって直接的な影響を受ける場所である。地球が温暖化する中で、川や海で起こる現象やしみをよく理解し、将来予測や対策に役立てる必要がある。 松本は大地震発生の確率がとくに高いとされている。信州では、最近、多くの活断層が身近に存在していることが明らかになってきている。地震はこれらの活断層の運動の結果生じるものである。信州の特殊な地質条件と予想される災害との関係を知ってほしい。 さらに、このような環境の中で、人間は自然を利用して社会や文化を維持している。自然利用の方法やその失敗の事例を学ぶ。	
		生活の中の科学	高校までに習っていた化学などの自然科学は理系の研究を行う上で必要不可欠な知識という点において極めて重要である。しかし日常生活を続けていく上で、あまりその科学的知識との関連について詳しく教えられてこなかった事が多いのが現実である。本授業では科学をより身近なものとして実感し、各自の今後の人生に活かせるよう、日常生活で利用、体験している事柄で科学と深く関連している事柄をピックアップしてそれを解説する。 さらに地球温暖化などの社会問題にも言及するので、信大の環境マインドを理解した社会人として考え、行動するステップとしてほしい。	
		環境法入門	環境問題へのアプローチの方法は数多くあるが、問題を実際に発見し、解決していくためには法律学の知見が不可欠である。この講義では、①環境問題を法的に考える際に不可欠な必要最小限度の法律学の知識を学んだ上で、②環境問題に法的にアプローチする場合の基本的な考え方、手法、組織、紛争解決手法を概観し、③自然保護、廃棄物・リサイクル、大気汚染・温暖化といった個別のトピックスについて、法的にいかなる点が問題となり、どのような法的手法が用意されているのか考えていく。	
	人文科学群	日本学入門	ヨーロッパと日本の出会いは、マルコ・ポーロによるジバングの紹介に始まり、宣教師の渡来によって前進した。しかし、本格的には19世紀以降、日本の開国で交流が加速する。なかでも芸術の中心地フランスには日本の物や人が集まり、日本文化の流行が起こった。その歴史を学び、ヨーロッパで受け入れられた日本の価値観や美意識とはいかなるものだったのか、美術・文学・音楽等の事例をたどりながら考察する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 人文科学群	日本近代文学入門	日本の近代作家にとって外国経験（留学・遊学・旅行等）は大きな問題の一つで、それを綴った作品も数多く存在する。そのなかから代表的な例を取り上げ、作家たちが外国に行くまでの経緯や時代背景、文化交流、旅の様子を知ると共に、どのような問題にぶつかり、悩み、それをいかに解決したり克服したりしたのかを、作品（小説、エッセー、短歌等）を通して学んでいく。	
	映像・人類学	人類学は異文化との出会いから始まる。言い換えると、人類学者は異文化に生きる人々との出会いから、その学問的な営みを始める。本授業では、異文化に生きる人々との出会いを表現するために、主にドキュメンタリー映画を視聴する。スクリーンを介して様々な人々と遭遇することを通じて、人の生き方や考え方について学ぶ。	
	Top Level English (トップレベルイングリッシュ)	(英文) The content of the class will be decided according to the needs of the students enrolled. Possible activities include the following: presentations; structured discussions and debates; and practice for the interview in international tests of English such as IELTS or Cambridge ESOL. (和訳) 授業内容については、受講生の要望に応じて柔軟に対応する。プレゼンテーション、ディスカッションやディベート、IELTSやケンブリッジ英語検定などの面接試験に向けた練習を行う予定である。	
	「田園環境健康都市須坂」を「共創」（須坂市寄附講義）	全国的に、人口減少、超少子高齢化、厳しい経済状況、雇用状況など課題が山積しており、課題解決に対する基礎自治体である市町村と住民の役割は増大している。 本講義では、課題解決のために、市民と行政が第五次須坂市総合計画（平成23年4月策定）に沿ったまちづくりを「共創（同じ目的に向かって、確かな信頼関係の上で、分野の異なる人々が、お互いの特性をいかし、連携し、創造していくこと）」により行っている須坂市の事例を、携わっている本人自身が説明することによって、地域づくりの現状を理解し、広く参考にしていく。	
	韓国の文化（食文化）	韓国食文化に関するビデオ教材を用いて、様々な韓国の食文化とその背景や街の様子を紹介していく。合わせて日本の食文化も一緒に考えてみる。毎回の授業の流れは次の通りである。①前回の授業内容に対する学生の感想や意見を紹介した後、質問に答える ②その日に取り上げる食文化を理解する ③感想や意見、質問を出席シートに書く。	
	韓国の文化（映画で学ぶ）	映画の背景にある韓国の文化、歴史、習慣を説明した後、映画を観る。映画を観た後、意見交換をする。映画は一回の授業では最後まで観られないので一本の映画を授業二回にわたって鑑賞する。授業の流れは次の通りである。①前回の授業内容に対する学生の感想や意見を紹介した後、質問に答える ②その日に取り上げる韓国文化を理解する ③感想や意見、質問を出席シートに書く。	
	韓国の文化（若者の世界）	韓国の若者の文化（音楽・映画・恋愛事情など）を、ビデオ教材や資料を用いて紹介していく。韓国の若者の話も聞く。毎回の授業の流れは次の通りである。①前回の授業内容に対する学生の感想や意見を紹介した後、質問に答える ②その日に取り上げる若者文化を理解する ③感想や意見、質問を出席シートに書く。	
	韓国の文化（メディア）	韓国の様々なメディアを用いて韓国文化や現在の社会の様子を紹介し、それについての意見を交換する。次の授業に備えて事前に予習が必要な事項に関しては、eALPSにアップするので、常に確認が必要である。毎回の授業の流れは次の通りである。①前回の授業内容に対する学生の感想や意見を紹介した後、質問に答える ②その日に取り上げる韓国文化を理解する ③感想や意見、質問を出席シートに書く。	
フランスの文化 I	この講義では、ヨーロッパの文化を率いてきた国のひとつであるフランスについて様々な角度から学んでいく。 具体的にはテキストに沿って、視聴覚資料もまじえながら、フランスの言語、風土、歳時記、歴史、文化などに関する理解を深める。また、関連する芸術作品（美術、音楽、舞踊など）や文学作品の紹介も行う。こうした知識を踏まえて、各自関心のある分野を調査し、レポートにまとめる。		

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	教養科目 人文科学群	フランスの文化Ⅱ	この講義では、ヨーロッパの文化を率いてきた国のひとつであるフランスについて様々な角度から学んでいく。 具体的には、フランスの食文化、カフェと公園、マルシェ（市場）、ファッション、教育制度、家族事情、宗教事情などの文化、社会に関する理解を深めるとともに、政治や産業技術についてもとりあげる。こうした知識を踏まえて、各自関心のある分野を調査し、レポートにまとめる。	
		ドイツ語圏の文化Ⅰ	本講義では、ドイツ語圏文化を通して、国際理解・異文化理解の促進を目標とし、言語と文化の関連を常に意識しつつ、単なる情報ではない、息づくドイツの文化を学んでいく。 具体的には、ドイツ概観、ドイツ人と森、オーストリア、ドイツの環境についてとりあげる。教員からの情報提供の他にグループワークやプレゼンテーションなども取り入れる。	
		ドイツ語圏の文化Ⅱ	本講義では、ドイツ語圏文化を通して、国際理解・異文化理解の促進を目標とし、言語と文化の関連を常に意識しつつ、単なる情報ではない、息づくドイツの文化を学んでいく。 具体的には、ドイツ語圏の歴史、ドイツ語圏の文学、ドイツの音楽（グレゴリオ聖歌から交響曲まで）、ドイツの教育、シュタイナー教育についてとりあげる。教員からの情報提供の他にグループワークやプレゼンテーションなども取り入れる。	
		アフリカ文化論	アフリカは、約3030万平方キロメートル（日本の約80倍）の大陸であり、約10億の人々が55の国や地域に暮らしている。本講義では、この広大で豊かな地域の文化的な魅力と現代的な問題を紹介し、アフリカ文化の可能性と課題について考える。また、アフリカの文化を紹介することを通じて、世界の文化的な多様性と、その多様性を失いつつある世界の両方を考察する手がかりを提供する。	
社会科学群	スポーツ考現学	本講では、スポーツにまつわる様々な現象を、特に、観戦学、スペクタクル、権力、ナショナリズム、グローバリズム、メディア、ジェンダー、人種、階級、テクノロジー、コモディティズムといった視点から、写真、ビデオ映像などのヴィジュアル化された資料を適宜混じえて検討・理解する。		
	スポーツ文化を考える	スポーツ文化、身体文化に関してのさまざまな文献を読むことを前提として講義は展開される。国内外のスポーツ文化や身体文化に関する諸事情や考え方をビデオ映像なども混じえて検討する。 オリジナルテキストまたはプリントを用意するので受講生は毎回それを深く、クリティカルに読み込み、読後コメントを提出する。その上で講義や映像により知見を広め、小グループに分かれてテーマに関するディスカッションを行う《グループワーク》。ディスカッションは、毎回コーディネーター、書記、発表（報告）者の役割を決めてから行う。最後に全体討論を行う。		
	新聞と私たちの社会（信濃毎日新聞社寄附講義）	毎回、信濃毎日新聞社の方をゲストスピーカーとして招き、新聞の作られ方や読み方、社会的な役割について講演していただく。また、講演後に質疑応答を行い、受講生に新聞社の方々と直接対話する機会を設ける。さらに感想と質問を書いて提出してもらうことによって対話を深める。 本授業を通じて養う能力を試す上で、「新聞スクラップ」を2回提出してもらう。この課題は、受講生に新聞と用紙を配布し、一つの記事を選んで用紙に貼り付け、選択した理由や感想を書くというものである。また最後には、日本新聞協会の「HAPPY NEWS」に応募してもらう。		
	数を読む技術	情報化社会における数値情報の適切な扱い方はますます必要となっている。この授業では数値情報の利用に関する社会的状況を踏まえて、その適切な扱い方への理解を深めていく。 具体的には、図表資料の解釈、代表値（平均値でなく中央値を使うことの勧め）、散布度（分散、四分位範囲、幹葉図、箱ヒゲ図）、データの図示（ヒストグラム）、データの図示（二次元の分布；散布図）、比率の推定（世論調査など各首長さ）と解釈、行列待ち現象の分析、ランダムな現象とそうでない現象の違い、コンピュータによるデータ処理、その他身近な数値現象にまつわる話題についてとりあげる。		

授 業 科 目 の 概 要					
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)					
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通 教育 科目	教 養 科 目	社 会 科 学 群	電子出版の現代	紙媒体以外のインターネットやCD-ROMを通じた出版を総じて電子出版と呼ぶ。この授業では電子出版が生まれた社会背景を踏まえうえで現代の状況に対する総合的な理解を深めていく。 具体的には、書くことの歴史と現在、グーテンベルクの印刷革命と現在、インターネット百科事典Wikipediaについて、書物の歴史と現在、インターネットの歴史と現在、読書端末の歴史と現在、知的財産権（主に著作権）と電子書籍、DTPの誕生と現在の電子出版、電子出版で扱う素材（文書、画像など）、文字の歴史と現在（コンピュータ上の扱いを含む）、日本語入力の話、これからの出版とウェブページの編集（とくにEPUB）、その他身近な電子出版にまつわる話題についてとりあげる。	
			世界経済の歩み	この講義では、世界経済の現状を、その歴史的発展を振り返りながら概観する。講義の主要な内容としては、16世紀から19世紀におけるイギリス資本主義の勃興とバックス・ブリタニカの成立、19世紀後半から20世紀初頭にかけてのドイツ等の後発諸国の台頭を見た後、強力な耐久消費財産型重化学工業を有するアメリカを中心とした世界編成・世界システムであるバックス・アメリカナの成立、展開、崩壊という視点より第2次世界大戦後の世界経済の歩みを押さえたうえで、世界経済の現状を論じていく。	
			ミクロ経済学入門	この講義では、消費者、企業などの経済行動を分析対象とするミクロ経済学の基礎知識を身に付け、経済現象を経済理論に基づいて分析する基礎を養うことを目的とする。授業は5人の教員が分担してオムニバス方式で行う。具体的内容は、まず、経済学的な考え方に関する基礎知識として、機会費用や比較優位、トレード・オフなどの概念を解説する。その上で、経済学の考え方の基本である、需要と供給の理論について説明する。これを基に、価格変化や所得変化への消費者の反応など、市場取引の特徴について理解を深める。最後に、需要と供給の理論に基づいて、市場の効率性についての経済学的考え方を解説した上で、参入規制や輸入規制など現実に行われた政府の政策の効果を検討する。 (オムニバス方式/全15回) (5 西村直子/3回) ミクロ経済学の基礎概念として、市場メカニズムを通じた資源配分の問題や、機会費用や比較優位、トレード・オフ、インセンティブといった経済学特有の概念を解説する。 (16 海老名剛/3回) 需要と供給の基礎理論として、需要曲線と供給曲線の基本概念を説明し、価格以外の要因変化が、需要曲線・供給曲線をシフトさせることなどを解説する。 (7 廣瀬純夫/3回) 価格変化や所得変化への消費者の反応を弾力性の概念で整理するなど、市場取引の特徴を解説する。 (13 増原宏明/3回) 消費者余剰と生産余剰の概念を説明し、余剰分析を通じて、市場メカニズムが効率的な資源配分を実現することを解説する。 (15 大野太郎/3回) 余剰分析の手法を応用して、参入規制や輸入規制などの経済政策が、市場の効率性に及ぼす影響について解説する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	教 養 科 目	社 会 科 学 群	<p>この授業は、マクロ経済学の分野と、この分野に関係が深い経済データの見方に焦点を当てた経済学入門科目である。授業は5人の教員が分担してオムニバス方式で行う。授業の前半は、マクロ経済学の観点から経済現象をみる見方について解説する。授業の後半では、経済データがどのような形で収集・活用されているか、またどのような特徴をもっているかについて解説する。各担当教員の担当内容は次の通りである。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (4 徳井丞次/3回) 景気循環の指標、GDPを通して見えてくる世界、消費関数を巡る論争を取り上げて解説しながら、マクロ経済学の眼鏡を通して社会をみることの面白さを紹介する。</p> <p>(① 山沖義和/3回) 日本の財政制度・税制・国債制度を巡る議論を取り上げて解説しながら、これらの問題がマクロ経済とも密接に関係していることを説明する。</p> <p>(④ 青木周平/3回) 近年、「経済成長」や「所得格差」を巡り論争が活発になっている。経済データとマクロ経済学を使ってこれらの論争を整理し、「経済成長」や「所得格差」に関する理解を深める。</p> <p>(6 椎名洋/3回) 統計データは官公庁を中心に様々な種類のもので作成されている。どんな種類の統計データがあるか、どのような方法でそれらが収集されているか、データの処理に関して注意すべき点を学ぶことで、経済学における実証分析のための予備知識を獲得する。</p> <p>(17 加藤恭/3回) 金融・ファイナンスにおけるデータは様々な特徴を持っている。例えば金融機関の損失データはファットテール性を持つ事が知られており、統計的手法の適用の際には注意が必要である。また近年の株式取引等に関する高頻度データの活用の際にも多くの課題が残されている。これらのデータの特徴や利用方法について学ぶ。</p>	オムニバス方式
			<p>大学生が出会う経済・経営問題</p> <p>大学生が日常生活を営む上で実際に遭遇する幾つかの問題をとりあげ、それを経済学や経営学の視点で見るとどうなるかを、わかりやすく解説する。経済学・経営学がどのような学問であるかを、具体的な問題を通して知ること、学部での専門的な教育への導入を図る。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (8 井上信宏/3回) 生活を支える制度の話として、社会保障の体系と課題について以下の三点を中心に解説する。①社会保障というしくみが生み出された背景、②社会保険、社会扶助、社会福祉の3つの制度、③「社会保障と税の一体改革」に見られる社会保障の課題。</p> <p>(2 金早雪/3回) 経済発展をとりあげ、先進国と後進国のせめぎあいを、以下の三点を中心に解説する。①経済発展の要因とそこから生まれるひずみや不均衡、②先進国型の産業にキャッチアップするための方策、③世界の貿易構造。</p> <p>(12 武者忠彦/3回) 都市空間の「近代化」と「空洞化」について、以下の三点を中心に解説する。①近代化による都市空間の画一化、②売らない、貸さない、直さないことによる空洞化、③場所についての社会的な記憶の蓄積の欠如。</p> <p>(② 関利恵子/3回) 会社がどんな経営状態にあるかを知るための方法を、以下の三点を中心に解説する。①就職活動で企業の経営状態を調べたいときにどうするか、②企業の経営成績や財政状態はどうすればわかるか、③安全な起業かどうか、儲かっているかどうかをどうやって調べるか。</p> <p>(③ 岩田一哲/3回) 人間が働く時にやる気が上がったり下がったりする状況を考えるために、以下の三点を中心に解説する。①人はどのような欲求を持っているのか、②企業は人をどのように管理すべきか、③上司は部下をどのように管理すべきか。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	教養科目 社会科学群	公法入門	この講義では、自律的で責任感のある市民の育成という見地から、主として憲法学の基本的な諸概念を理解すること、また、法的なものの方を見方を学ぶことをねらいとする。このねらいを達成するために、日本国憲法を支えている立憲主義という考え方について、また、基本的人権について説明する。この講義を通じて、日本国憲法に関する基本的な知識を習得すること、法的な思考方法を身につけること、自らの考えを正確に表現する力を養うことを目的とする。	
		法学入門	この講義では、法学の勉強を始めるにあたってまず知っておいた方がよいと思われる事項について学習する。具体的には、法学にはどのような分野があるのか（公法・民法・刑事法等）、法律とはなにか、法律の役割とはなにか、どうして法律ができるのか、判例とは何かなどについて、解説する。この講義を通じて、法的なものの方や考え方とはなにかを学び、今後、それぞれの法分野に関する科目を学習するための下地を築くことを目的とする。	
		大学生が出会う法律問題	大学生が生活をする上では、交通事故を起こしたり、自転車を盗まれたり、アルバイトで休憩なしに7時間以上働かされる等々、さまざまなトラブルに遭うことがある。これらのトラブルは、すべて法律問題であり、法学の知識を有することによって解決、あるいは防止できるものが多い。そこで、この講義では、それぞれの法分野を専門とする教員がオムニバス方式で、学生生活に関連する法律問題について解説する。学生生活を送る上で必要な法学に関する知識を学び、トラブルに対処する力を身につけることを目的とする。 (オムニバス方式/全15回) (65 丸橋昌太郎/2回) ガイダンス・総括 (58 赤川理/1回) 憲法分野 (66 大江裕幸/2回) 行政法分野 (34 池田秀敏/1回) 民法分野—契約一般、賃貸借、交通事故等 (64 栗田晶/1回) 民法分野—契約一般、賃貸借、交通事故等 (68 山代忠邦/1回) 民法分野—契約一般、賃貸借、交通事故等 (76 寺前慎太郎/2回) 商法分野 (75 濱田新/2回) 刑法分野 (41 小林寛/1回) 環境法分野 (70 島村暁代/2回) 労働法分野、社会保障法分野	オムニバス方式
		現代政治分析	日本の政治課題をどのように解決していくか、現代の政治課題に関する情報を収集分析し理解を深め、解決を考える技法を学ぶ。グローバル化が進展する中で、少子高齢化への対応、地方再生、環境やエネルギー問題、社会福祉や経済改革、外交や安全保障問題など政治課題は多岐にわたる。具体的な政策課題を取り上げ、現実的な課題解決方法を考察していく。毎回、課題を課し、授業の中で議論し理解を深めていく。自ら主体的に学び考え、それを口頭または文章で伝える能力を向上させる。	
自然科学群	数と形	古くから積み上げられてきた人類の英知を学び、また日常生活における数学の応用例を見ることで数学に対する見方が変わり、楽しさを知ることができる。授業名「数と形」のように前半では日常使用している「数」特に整数の性質について学び、その不思議さ深遠さを理解する。後半ではグラフ理論のように数と形の両方の概念をもつ具体的な問題等、いくつかの話題を取り上げて数名でのグループ作業を取り入れながら性質や応用について考える。		
	伝えておきたい数学	数学の基礎科目（微積分学や線形代数）では伝えられないが、教養として是非おさえておきたい数学について、様々な観点から紹介する。数学の身近さ、創造の世界を感じ取ることで、数学の世界への理解を深めることをねらいとする。講義形式、討論形式、発表形式などを取り入れながら行っていく。講義形式では教養としての数学の知識を、討論形式ではグループに分かれて自分の考えを異分野の人にもわかりやすく話す能力を、発表形式ではプレゼンテーション能力を身につけられるようにする。		
	素数の不思議	この講義では素数という根源的な不思議な存在について、図書の識別記号である(JB) ISBN記号、RSA公開鍵暗号を主な題材として、いくつかの話題を提供する。素数はなぜ重要か、科学的な面からも、生活上の面からも考えてみたい。参加型の講義である。実際に手を動かして計算を行い、共に考え、話し合いを行う。講義の途上で2人組を作り、互いに課題（例えば数当てなど）を解決し合う取り組みも行う。これらの活動に積極的に取り組むことによって理解を深め、興味を喚起できる。		

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	教養 科目 自然 科学 群	教養としての物理学	物理学がどのようなものかを知り、自然を論理的に把握する立場を学ぶ。扱うテーマは、物理学の中の区分けで言うと「力学」「電磁気学」「相対論」である。それぞれにつき取り上げる話題は限られるが、単なる知識の寄せ集めにならないよう、話の流れを大切にしていきたい。物体の運動、電磁気現象、時間と空間、の各テーマについて、それぞれ数回ずつの授業をあてて解説して行く。レポートの作成は、物理学に対して、多面的、重層的な視点をもってもらうことを企図した、この授業の重要な構成要素、活動である。	
		観測天文学入門	最初に天体観測の概要に触れたあと、基本的に講義の大部分は教養としての天文学を学ぶことに割かれる（観測手法が主題ではないので注意して欲しい）。過去数年間に話題になった研究成果のうち、毎回ひとつのトピックを選び、それらがどのような着想および観測事実に基づいたものであるのかについて考えを深める。期間中に興味深い発見があった場合は適宜講義で扱う可能性がある。宇宙に興味のある、あらゆる学生の履修を歓迎する。	
		生活のなかの天文学	宇宙の始まりであるビッグバンから地球上の生命の起源にいたるまで、宇宙の進化の歴史を幅広く学ぶ。その知識をもとに、現代社会の諸問題と天文学のつながりを、毎回テーマを絞って考えを深める。講義では、基礎科学（物理、化学、生物、地学）から、それらと現代社会（社会活動、人間活動）との関係まで幅広く扱う。星々の世界は、さらに身近な存在になりつつある。分野横断研究（学際的研究）に興味を持つ、あらゆる学生の履修を歓迎する。	
		生態学入門	生物は環境からさまざまな影響を受けて生活しているが、生物の構造や機能、さらに生活様式にはその生息環境への適応が広く認められる。そうした生物の生活をその環境との関係で解き明かす科学が生態学である。この講義では生態学の基礎知識や基本概念を学ぶことを目的として、生物の多様性と進化、生物の集団（個体群）の性質、生物群集での個体群間のさまざまな相互関係、生態系の構造と機能について、パワーポイントやプリントなどを用いて講義を行う。	
		地域から学ぶ地球	山岳県である信州は多様な地質現象が観察される場所であり、そこに見られる地質現象を紹介し、それらが地球のどのような動きの結果かたち作られたのか、現場の現象からどのような地球の姿が明らかにされてきたのかについて学ぶ。この授業を通して、自然の見方、地球に関する研究の方法、さらに信州の自然の魅力を知ることができる。地球を調べる方法、日本最古の化石と地層、熱帯・火山島・深海の証拠、プレート運動、フォッサマグナ、火山、活断層と地震、災害などについて、実体験に基づく信州の地質の状況と、野外の現象から地球のどのような構造や動きが読み取れるかを解説する。	
		教養としての物質科学	物質をミクロな立場から考える視点を学び、我々が日常何気なく目にし、利用している物質・材料の背後にある科学、技術の一端を知る。鉄鋼材料や半導体など、我々の文明を支えている様々な物質・材料に焦点をあてる。また、そうした話題を通じて、「結晶学」「金属物理」「熱・統計力学」「量子論」等の学問分野の雰囲気も副次的に伝えたい。物質の構造、状態の変化、電子の振る舞いの各テーマについて、それぞれ数回の授業をあてて解説して行く。	
		ネットワーク社会における情報科学	高度情報化社会、ネットワーク社会と呼ばれる今日、情報処理やコンピュータに関する知識は社会生活を送る上で必要不可欠なものになっている。コンピュータの普及が私たちの生活に何をもたらしたのか、また将来的にはどのようなことが可能になるのだろうか。ここではコンピュータの動作原理を平易に解説する他、コンピュータ・ネットワークの基礎技術、情報社会の現状と問題点について講義する。コンピュータの歴史と進歩、コンピュータの動作原理、情報社会を支える様々な技術的背景、コンピュータネットワークの普及がもたらす意味について理解し、説明することができるようになることを目指す。	
		統計学の基礎	人間の行動を対象とした研究に携わる上で必要になる統計的なデータ解析手法を理解し、効果的な研究計画をたてるための知識を習得する。この授業を受講することで、数値データの整理法、統計学的検定の考え方や活用法などの知識を獲得することができる。各回の授業は、各種統計手法について解説した後、パソコンを用いてデータ解析の実際を学ぶ。データ解析には表計算ソフトを用いるが、基本的な使い方は説明しないので、各自復習しておいて欲しい。	

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通 教育 科目	教 養 科 目 自 然 科 学 群	検索の科学	検索サイトGoogleを実際に多角的に活用した事例の紹介を通じてインターネット上の検索技術の概要を把握する。その後、検索の各技術の背景にある科学的側面の理解を進めていく。単なる検索操作では終わらない、その背後にある統計学や情報科学の学習まで進める。検索技術は現在進行中のものであり、また世の中で常用される技術を対象としていることを踏まえて、環境、教育、地域、ジェンダーの問題など、なるべくタイムリーな話題を扱いながら授業の展開を進める。	
		脳の不思議を探る（認知神経科学入門）	脳の謎を材料とし、自分で考え・探ることで、「考える力」そして「問題を解決する力」を磨き、納得解を得ること、「知識」ではなく「知恵」を獲得することを狙いとする。 「脳」についての基本知識のみは講義しておき、「脳の不思議」にまつわる理・情・欲、軽率な脳、騙される脳その他様々なトピックを基に、各自の独創的で大胆な発想に基づいた積極的な議論を重ねることによって受講者全員で理解を深める「受講者参加型」の形式を取る。受講者は受身ではなく、自ら疑問を持ち主体的に考えることが必要である。	
		脳の不思議をもっと探る（認知神経科学入門）	脳の謎を材料とし、受講者の関心を交えつつ、前期に扱わなかった中からトピックを抽出して進めていく。自分で考え・探ることで、「考える力」そして「問題を解決する力」を磨き、納得解を得ること、「知識」ではなく「知恵」を獲得することを狙いとする。 前期同様、「脳」についての基本知識のみは講義しておき、「脳の不思議」にまつわる理・情・欲、軽率な脳、騙される脳その他様々なトピックを基に、各自の独創的で大胆な発想に基づいた積極的な議論を重ねることによって受講者全員で理解を深める「受講者参加型」の形式を取る。受講者は受身ではなく、自ら疑問を持ち主体的に考えることが必要である。	
	宇宙から原子への旅	私たちを取り巻く世界を大きさに注目して、宇宙から原子にいたる様々な現象を全学教育機構の自然科学系の複数の教員が分担して解き明かす。文系の学生にも配慮した内容である。 (オムニバス方式/全15回) (25 佐々木洋城/3回) 導入 世界のスケール、通信と数学 (62 三澤透/2回) 銀河系と第2の地球探し、天地明察－天文編－ (54 片長教子/1回) 天地明察－和算編－ (26 大塚勉/1回) 地球環境の変遷 (28 湯田彰夫/1回) アルゴリズムとヒューリスティックス (33 高野嘉寿彦/1回) 円周率の歴史をみてみよう (30 鈴木治郎/1回) スケールフリーの世界 自己相似の幾何学 (46 今津道夫/1回) 微生物の世界 (49 伊藤靖夫/1回) 身の回りの問いと生命の存在理由 (20 村上好成/1回) 高分子の鎖 (35 勝木明夫/1回) 光の化学、磁気科学 (51 安達弘通/1回) 原子から宇宙へ	オムニバス方式	
体 育 ・ ス ポ ー ツ 群	ソフトボール	本実践演習はグループ毎のディスカッションを通して問題や課題を発見し、その解決法を探りながら学習していく。まず2人組でキャッチ・ボールしながら「ウインドミル投法」の体験、4人組での「トスとフリー・バッティング」の技術獲得。更にチーム毎に打撃、守備、走塁等の基本技術を磨き戦術を考え、効果的な運動処方を書き出しながら「ゲーム」を中心とした授業を展開していく。		
	テニス	本実践演習は、技術的に経験知が少ない者でも早い段階からゲーム感覚に親しみ、「硬式テニス」に必要な基本的技術を分解練習しながら学び取っていく。また、リーダー中心に個人の欠点など「課題」を見つけ、仲間と共に協力しながら探求していく。加えて、「ゲームでの戦術」も考え、基礎練習と応用練習とを織り交ぜながら実際場面に対応できる感覚と積極的な行動力を養っていく。		

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 体育・スポーツ群	アダプテッドスポーツ	この授業は、アダプテッドスポーツの体験を通して、障害のある人との関わり方や、新しいスポーツについて考えていくものである。車いすやアイマスクを使用した校内移動や、アダプテッドスポーツの体験を通して、スポーツの楽しさの広がりや、特別なニーズのある人との関わり方を学ぶ。さらに、設定に応じたアダプテッドスポーツをグループで考え、発表し共有していく。そのため、毎回体を動かしながら学習していくとともに、誰でも楽しめる新しいスポーツを考える柔軟な思考と積極性を必要とする。	
	弓道	本授業では日本古来の武道として、また現代社会における生涯スポーツとしての弓道の基礎を体験することによって、文化としての弓道および身体と精神の相互作用を学ぶ。全日本弓道連盟制定の射法を基準に、射術及び競技方法やルール、弓具の扱い方を習得する。徐々に的との距離を伸ばしながら練習していき、正しい姿勢や心構え、射術等を習得していく。最後にまとめとして、射会を行い、射会の運営も含めて弓道の楽しさを味わえるようにする。多くの学生にとって初めての競技であるため、技術向上のために授業中の積極的な取り組みと、自主練習を必要とする。	
	コーディネーションエクササイズ	本授業では、四肢の協調や思考と行動の連動に注意を向けた運動ができるようになることを目的として、身体の動かし方に対する「気付き」と総合的な体力向上の獲得を目指す。種々の用具を用い、簡単に実践できるエクササイズから少し専門的なエクササイズを行う。例えば、バランスマットを使用したバランスエクササイズや、ジャンプ系と敏捷系を組み合わせた複合エクササイズを行う。また、子どもの頃から慣れ親しんできた遊びの中からピックアップしたものをアレンジし、授業のねらいを達成するための「オリジナルエクササイズ」を考案する。オリジナルエクササイズの考案と実践はグループ単位で行う。	
	剣道形の世界	本授業では、日本の伝統的運動文化である武道の学習法の一つ、形の実践を行う。形稽古を通して武道の礼法・作法を学ぶ中で、日本の伝統的運動文化の価値について理解を深めることを目的とする。「木刀による剣道基本技稽古法」と「日本剣道形」を習得する。グループで学習を進め、「木刀による剣道基本技稽古法」の成果を演武会で披露し、「日本剣道形」の成果を演武大会でグループ毎に競い合う。日本剣道形は、習熟度に応じて小太刀の形の学習も行う予定である。また、素振りや足さばき等の剣道の基本動作も行い、動きの質の向上を目指す。	
	バドミントン	本授業ではバドミントン競技の特性を理解し、ゲームとグループ活動の実践を通して技能・戦術等の個人的資質やコミュニケーション能力を向上させ、自己実現を図るとともに、生涯スポーツのリーダーとして、具体的実践方法を習得することを目指す。具体的には、バドミントン競技の技能・戦術とその応用力並びにルール・スコアリングについて習得し、グループ毎に練習計画を立案し、チーム力の向上を図る。授業ではグループ学習を多く取り入れ、8人のグループ毎に課題を設定してグループ対抗戦を行う。	
	コンディショニングバレエ	バレエダンサーの均整のとれた身体、美しい姿勢はどのようなトレーニングによりつくられているかを学ぶことにより、自身の身体への認識を高め、日常姿勢の癖を矯正するためのトレーニング方法を見出すことを目的とする。実際に身体を使って表現し踊り、バレエ動作と自己表現のつながりについて（踊ると動くの違い）を学び、ダンサーの動きを体感し、自身の身体との違いを発見する。バレエストレッチ、トレーニングを実践し、自身の身体（筋肉、関節）の左右のバランスを確認し問題を解決するためのトレーニング方法を学ぶ。グループに分かれて各々のトレーニング方法についてディスカッションを行う。最終課題として、グループごとに音楽に合わせた作品を創り（ストレッチ・トレーニング方法やダンス）発表する。	
	サッカー	本講座は、ミニゲームを展開し、サッカーの基本技術や基本戦術の習得に取り組む。基本的には身方や敵の動きに応じて適切な状況判断ができるようにし、周囲とのコミュニケーションを図り、互いに協力してカバーしあい、全員で行うゲームの楽しさを理解することを目指す。グループ毎にミニゲームの問題点を挙げ、その解決方法を考える。チームを作り、ポジションの役割を理解し、学生が主体的にフォーメーションを決めて、11対11のゲームを行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通 教育 科目	教 養 科 目 体 育 ・ ス ポ ー ツ 群	バレーボール	本講座は、バレーボールの基礎技術の習得に簡単に楽しく取り組み、ミニゲームを展開して学生が主体的にゲーム運営にかかわることで、他者とのコミュニケーションを図り、互いがカバーしあうこと、全員で楽しむことができるゲーム環境を作ることを学ぶ。スポーツを楽しむ喜びを感じ、生涯スポーツへの導入を目指す。ボールコントロールからスタートし基礎技術のコツをつかみながら応用技術を加えチームを作り、学生が主体となりコンビネーションやフォーメーションを決める。男子は6人制中心に女子はソフトバレーボールを中心にゲームを楽しむ。	
		トレッキング	本授業では「信州の自然体感」をテーマに、トレッキングを通して自己の身体を再確認し、歩行運動の重要性の認識と生涯学習への導入を図るとともに、信州の自然環境を体感することにより環境問題についての理解を深めることをねらいとする。グループ活動を導入し、コミュニケーション能力の向上も目指す。夏期休暇中に4日間の集中形式で実施する。松本市周辺の自然に恵まれた地域(安曇野、白馬八方尾根、上高地、乗鞍高原)を訪れ、約8kmから15kmのトレッキングを行い、信州の豊かな自然を体感する。幾つかのグループを編成し、歩行のペース、休憩の取り方等について各グループで検討し実践するとともに、環境問題についても考える。また、宿泊を伴うので生活マナーについても学習する。	集中
		ゴルフ	ゴルフのスイング、道具の選び方を学ぶ。またコースに出ることによって、実際のプレーを体験し、将来社会人の持つべき教養の一つとしてのゴルフを身につける。また、グループでゴルフの練習方法などのディスカッションを通して深くゴルフを理解するとともに、ゴルフ場でのマナーを学び、生涯にわたってゴルフを楽しむ素養を養う。大学でスイングの基礎を習得した後、ゴルフ練習場(松本中央ゴルフ場)で、練習を行い、その後、松本カントリークラブで、ハーフラウンドと1ラウンドの実習を行う。	集中
		スポーツフィッシング	本授業は、信州の自然を生かした溪流釣り(えさ釣り、フライフィッシング)を体験し、自然との関わりの中でどのように自己をコントロールするか学ぶとともに、生涯にわたってレジャー活動を楽しむための導入を図る。また、併せて、信州の自然に接することによって環境に対する意識を高めることも目的とする。3泊4日の集中授業で行い、溪流つりの実践方法を学ぶとともに、グループごとに自然との協調性をどのようにしたら育むことができるかについてディスカッションと発表を行い、環境への意識を高める。(場所:伊那市周辺の河川)	集中
		マリンスポーツ	本授業は、信州の自然を生かしたマリンスポーツのうち、ヨット、カヌー、ボードセーリングといった種目を体験し、それぞれの種目の特性やルール、マナーおよびその考え方について学び、生涯スポーツへの導入を図ることを目的とする。8月に3泊4日の集中授業で、ヨット、カヌー、ボードセーリングの基礎を学び、協力してマリンスポーツを行うにはどうすれば良いか、グループワークによるディスカッションを行う。また、役割分担によって各グループでの自己の責務を自覚させ、積極的に実習に取り組むよう仕向ける。(場所:高遠湖)	集中
		信大マラソン	生涯スポーツとして人気のある「マラソン」について、心身への負荷、トレーニング法などについて栄養学、生理学、トレーニング科学などの面から学習し、その実践としてスカイパークでのマラソン完走を目標とする。講義と実践を通し、生涯スポーツとしてのマラソンの価値と可能性について考察する。授業は1ヶ月に一日ごと4日間の集中授業として行う。当然、授業時間だけでは完走できる体力はつかないため、授業時間以外の自主トレーニングが前提となる。また、走力に応じてグループ分けを行うので、自分のできる範囲での完走を目指す。	集中
		アウトドアの達人	本授業は、信州の自然(特に乗鞍高原)における野外活動の体験をとおして「アウトドアの達人」になるために必要な野外活動の基礎的知識、技術、ルール・マナーとその考え方について学び、生涯スポーツへの導入を図ることをねらいとする。全てのプログラムはグループワークをとおして行うため、コミュニケーション能力・チームワーク力・リーダーシップ力・フォローアップ力を養うことができる。2泊3日の集中形式で2回実施し、夏期には説図、コンパスワーク、溪流釣り、ロープワーク、夏のソロ活動の知識と技術の習得を図る活動を行い、冬期にはクロスカントリースキーツアー体験、アニマルトラッキング、氷瀑観察、灯籠作りの知識と技術の習得を図る活動を行う。	集中

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	教養科目 体育・スポーツ群	サバイバル活動	本授業は、海浜での主に『食』に関するサバイバル活動をとおして野外活動に必要な知識、技術とその考え方を実践的に学び、生涯スポーツへの導入を図ることをねらいとする。活動の計画立案・実施に至るまでグループワークをとおして行うため、コミュニケーション能力・チームワーク力・リーダーシップ力・フォロアーシップ力を養うことができる。夏季休業期間中に4泊5日の集中形式で実施し、食（特にタンパク質）のサバイバルをとおして生きる力を養う。到達目標の概要は、スキндаイビングの知識と技術の習得、狩猟活動の知識と技術の習得、野外料理の知識と技術の習得、野外活動に必要な知識と技術の習得、グループワーク力の習得である。	集中
		スクーバダイビング	本授業は、海洋スポーツの一つであるスクーバダイビングに必要な基礎的知識、技術、ルール・マナーとその考え方について学び、生涯スポーツへの導入を図ることをねらいとする。全てのプログラムはグループワークをとおして行うため、コミュニケーション能力・チームワーク力・リーダーシップ力・フォロアーシップ力を養うことができる。3泊4日の集中形式で実施し、主にスクーバダイビングのCカード取得のための理論講習と実技講習を行う。到達目標は、スキндаイビングの知識と技術の習得、スクーバダイビングの知識と技術の習得、海洋生物の知識の習得、海洋環境の知識の習得、グループワーク力の習得である。	集中
		レジャースポーツ	本授業は、『水・空・雪』をテーマに、信州の自然を活かした様々なレジャースポーツを体験する。それらの体験をとおして、それぞれの種目に必要な基礎的知識、技術、ルール・マナーとその考え方について学び、生涯スポーツへの導入を図ることをねらいとする。全てのプログラムはグループワークをとおして行うため、コミュニケーション能力・チームワーク力・リーダーシップ力・フォロアーシップ力を養うことができる。『水・空・雪』をテーマに、1泊2日の集中形式で3回実施する。到達目標は、それぞれテーマ別に、『水』：カヌー、ヨット、ボードセイリングの基礎理論と技術の習得、『空』：パラグライダーの基礎理論と技術の習得、『雪』：クロスカントリースキーの基礎知識と技術の習得である。	集中
		スポーツボウリング	本授業は、ボウリングのルール、マナーおよびその技術について学び、生涯スポーツへの導入を図ることを目的とする。ゲームを通して、学生のコミュニケーション能力の向上を図り、ボウリングを通して、身体を用いた自己表現、自己実現や問題解決の方法を学ぶことを目的とする。ゲームの運営を分担して行い、リーダーシップ力を養うとともに、グループでのディスカッションを通して、身体感覚と実際の運動結果との相違について理解を深め、運動学習の方法の理解を高める。	
		ニュースポーツ	ニュースポーツは、老若男女問わず誰もが楽しめるスポーツであり、数多くの種目が考案され、世界的な広がりとなっている。本授業では、いくつかのニュースポーツを取り上げて実践する。基本ルールを理解し、仲間とコミュニケーションを図りながら取り組み、最終的には生涯スポーツを実践するきっかけとなることを目的とする。はじめにニュースポーツの各種目を紹介する。各種目でルールを理解しながら実践し、さらには技術レベルも向上するように進めていく。ニュースポーツは単純明快なルールであるにも関わらず、その実奥深いものであることを認識させ、実践にあたっては、各種目が考案されてきた歴史的背景についても学ぶ。小テスト1回、小レポート1回を課す。	
		アスレティックトレーニング	スポーツは体力を保持増進し健康な日々を送るのに効果的であるが、それと同時にスポーツを原因とした外傷および障害の発生により、健康を害する要因ともなり得る。本授業では、スポーツ外傷・障害を予防するトレーニングや競技力向上の基礎となるトレーニングを体験し、総合的な体力向上とトレーニングを計画・実施できる力を身に付けることをねらいとする。競技スポーツ現場にて運動能力の向上を目的として行なわれる様々なトレーニングを体験する。また、授業の最初と最後でフィットネスチェックおよびフィールドテストを実施し、自身の能力がどのように変化するかを体験する。グループでコミュニケーションをとりながら授業を進める。	

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	教養科目 体育・スポーツ群	バスケットボール	本授業では、グループに分かれディスカッションを通して問題や課題を発見し、その解決法を探りながら学習していく。バスケットボールのファンダメンタルを習得しながら個人技術を磨き、本場の「スリー・オン・スリー」なども楽しむ。チーム編成の中でリーダーを中心に各個人の役割を考え、効果的な人材を模索する。さらに、チーム力を高めながら「戦術」を考え、駆け引きのある「ゲーム」を楽しむ、運動量の確保と共に経験知の質を一層高めていく。	
		ネイチャースキー	ネイチャースキーとは、整備されていない雪山や森の中を、踵が固定されていないスキー用具を使って移動（歩く・登る・滑る）する活動である。この授業では、信州の冬の山や森を楽しく安全に移動できるようになることを目指し、登坂や滑降（テレマーク技術）に必要な技能を学ぶとともに、地図や方位磁石の使い方などを実践的に学ぶ。自然の中での活動を通して、健全な身体的感性を育み、自己の健康観を確立するとともに、人と人とのコミュニケーション能力を育てることを目的とする。スキー場周辺において3泊4日の集中形式で実施する。	集中
		スノー・スポーツ	本授業では、信州の自然に触れ、対話しながら思い通りのシュプールを描き、みずから環境的な心を深め理解できるようになること、スノー・スポーツに関する知識・技術・ルール・マナーを身につけ、生涯にわたる運動習慣の形成を考えられるようになること、グループ・ワークを通してコミュニケーション能力、チームワーク力、リーダーシップを身につけ、本学の学生・卒業生として期待される人間像を表現し、活力ある健全な社会の形成に貢献できるようになることを目指し、総じて「ひとり立ち出来るスキーヤー」となることをねらいとするアルペンスキーのグループ・ワーク授業である。技術レベル毎に分かれてディスカッションを行い、問題や課題を発見し解決法を探りながら学習していく。	集中
		フライングディスク	本授業はフライングディスクを通して、身体を用いた自己表現、自己実現や問題解決の方法を学ぶことを目的とする。生涯スポーツとして最適なフライングディスクの種目の様々な特定を学ぶ。フライングディスクの競技のうちチームスポーツであるアルティメットを通じて、コミュニケーション能力の向上も図る。生涯にわたって実践できる健康づくり・体力作りへの意識作りと方法について学習する。アルティメットのリーグ戦を通してコミュニケーション能力の習得を目指す。	
基礎科目	外国語科目	英語 フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅠ（上級）	文法、コロケーション、語彙や構文に配慮しながら、正しい英文が書けるようになるように演習を行う。リーディングに関しては、文レベルできちんと英文が理解できるようになるように演習を行う。これらの演習は、英語の読解力および作文力のみならず、スピーキング力や英語によるディスカッション力の養成にも資するものである。なお、テキストは上級レベルに対応したものを使用する。	
		フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅠ（中級）	文法、コロケーション、語彙や構文に配慮しながら、正しい英文が書けるようになるように演習を行う。リーディングに関しては、文レベルできちんと英文が理解できるようになるように演習を行う。これらの演習は、英語の読解力および作文力のみならず、スピーキング力や英語によるディスカッション力の養成にも資するものである。なお、テキストは中級レベルに対応したものを使用する。	
		フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅠ（初級）	文法、コロケーション、語彙や構文に配慮しながら、正しい英文が書けるようになるように演習を行う。リーディングに関しては、文レベルできちんと英文が理解できるようになるように演習を行う。これらの演習は、英語の読解力および作文力のみならず、スピーキング力や英語によるディスカッション力の養成にも資するものである。なお、テキストは初級レベルに対応したものを使用する。	
		フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅡ（上級）	パラグラフレベルのライティングに対応したテキストを用い、原因と結果、記述、議論など、様々な種類のパラグラフの構成や、リスティング・クラスタリングなどのアイディア推敲作業を学び、きちんとした英語のパラグラフが書けるように演習を行う。リーディングに関しては、パラグラフレベルできちんと英文が理解できるようになるように演習を行う。これらの演習は、英語の読解力および作文力のみならず、スピーキング力や英語によるディスカッション力の養成にも資するものである。なお、テキストは上級レベルに対応したものを使用する。	

授 業 科 目 の 概 要						
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)						
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考		
共通 教育 科目	基礎 科目	外国 語科 目	英語	フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅡ (中級)	パラグラフレベルのライティングに対応したテキストを用い、原因と結果、記述、議論など、様々な種類のパラグラフの構成や、リスティング・クラスタリングなどのアイディア推敲作業を学び、きちんとした英語のパラグラフが書けるように演習を行う。リーディングに関しては、パラグラフレベルできちんと英文が理解できるようになるように演習を行う。これらの演習は、英語の読解力および作文力のみならず、スピーキング力や英語によるディスカッション力の養成にも資するものである。なお、テキストは中級レベルに対応したものを使用する。	
				フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅡ (初級)	パラグラフレベルのライティングに対応したテキストを用い、原因と結果、記述、議論など、様々な種類のパラグラフの構成や、リスティング・クラスタリングなどのアイディア推敲作業を学び、きちんとした英語のパラグラフが書けるように演習を行う。リーディングに関しては、パラグラフレベルできちんと英文が理解できるようになるように演習を行う。これらの演習は、英語の読解力および作文力のみならず、スピーキング力や英語によるディスカッション力の養成にも資するものである。なお、テキストは初級レベルのものを使用する。	
				リスニング&リーディングⅠ (上級)	上級レベルにおいて、バラエティに富んだ題材を扱った英文を用いて、ジャンルに応じた読解法・聴解法を修得する。また、語彙やイディオムなどの確認・整理も行う。 学部や学科によっては、求められるものや興味などが異なる場合があるので、それらにも配慮する。 なお、必要に応じて、専門に関連した教材や資格試験対策教材などの補助教材も適宜使用する場合がある。 初回時にテキストや内容についてガイダンスを行う。	
				リスニング&リーディングⅠ (中級)	中級レベルにおいて、バラエティに富んだ題材を扱った英文を用いて、ジャンルに応じた読解法・聴解法を修得する。また、語彙やイディオムなどの確認・整理も行う。 学部や学科によっては、求められるものや興味などが異なる場合があるので、それらにも配慮する。 なお、必要に応じて、専門に関連した教材や資格試験対策教材などの補助教材も適宜使用する場合がある。 初回時にテキストや内容についてガイダンスを行う。	
				リスニング&リーディングⅠ (初級)	初級レベルにおいて、バラエティに富んだ題材を扱った英文を用いて、ジャンルに応じた読解法・聴解法を修得する。また、語彙やイディオムなどの確認・整理も行う。 学部や学科によっては、求められるものや興味などが異なる場合があるので、それらにも配慮する。 なお、必要に応じて、専門に関連した教材や資格試験対策教材などの補助教材も適宜使用する場合がある。 初回時にテキストや内容についてガイダンスを行う。	
				リスニング&リーディングⅡ (上級)	Ⅰで学んだ内容を踏まえ、上級レベルにおいて、バラエティに富んだ題材を扱った英文を用いて、ジャンルに応じた読解法・聴解法を修得する。また、語彙やイディオムなどの確認・整理も行う。 学部や学科によっては、求められるものや興味などが異なる場合があるので、それらにも配慮する。 なお、必要に応じて、専門に関連した教材や資格試験対策教材などの補助教材も適宜使用する場合がある。 初回時にテキストや内容についてガイダンスを行う。	
				リスニング&リーディングⅡ (中級)	Ⅰで学んだ内容を踏まえ、中級レベルにおいて、バラエティに富んだ題材を扱った英文を用いて、ジャンルに応じた読解法・聴解法を修得する。また、語彙やイディオムなどの確認・整理も行う。 学部や学科によっては、求められるものや興味などが異なる場合があるので、それらにも配慮する。 なお、必要に応じて、専門に関連した教材や資格試験対策教材などの補助教材も適宜使用する場合がある。 初回時にテキストや内容についてガイダンスを行う。	
				リスニング&リーディングⅡ (初級)	Ⅰで学んだ内容を踏まえ、初級レベルにおいて、バラエティに富んだ題材を扱った英文を用いて、ジャンルに応じた読解法・聴解法を修得する。また、語彙やイディオムなどの確認・整理も行う。 学部や学科によっては、求められるものや興味などが異なる場合があるので、それらにも配慮する。 なお、必要に応じて、専門に関連した教材や資格試験対策教材などの補助教材も適宜使用する場合がある。 初回時にテキストや内容についてガイダンスを行う。	

授 業 科 目 の 概 要						
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)						
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考		
共通 教育 科目	基礎 科目	外国 語 科 目	英語	アカデミック・イングリッシュ I (上級)	上級レベルにおいて、エッセイ・ライティング用のテキストを用いて演習を行うが、1年次に引き続き、パラグラフの構成の学習から始める。リーディングに関しては、パラグラフ単位で意味をつかみ、かつパラグラフ間の整合性に注意を向けつつ、一定の長さの英文を読む練習を行う。	
			アカデミック・イングリッシュ I (中級)	中級レベルにおいて、エッセイ・ライティング用のテキストを用いて演習を行うが、1年次に引き続き、パラグラフの構成の学習から始める。リーディングに関しては、パラグラフ単位で意味をつかみ、かつパラグラフ間の整合性に注意を向けつつ、一定の長さの英文を読む練習を行う。		
			アカデミック・イングリッシュ I (初級)	初級レベルにおいて、エッセイ・ライティング用のテキストを用いて演習を行うが、1年次に引き続き、パラグラフの構成の学習から始める。リーディングに関しては、パラグラフ単位で意味をつかみ、かつパラグラフ間の整合性に注意を向けつつ、一定の長さの英文を読む練習を行う。		
			アカデミック・イングリッシュ II (上級)	上級レベルにおいて、エッセイ・ライティング用のテキストを用いて演習を行うが、前期に引き続き、パラグラフの構成の学習から始める。リーディングに関しては、パラグラフ単位で意味をつかみ、かつパラグラフ間の整合性に注意を向けつつ、一定の長さの英文を読む練習を行う。		
			アカデミック・イングリッシュ II (中級)	中級レベルにおいて、エッセイ・ライティング用のテキストを用いて演習を行うが、前期に引き続き、パラグラフの構成の学習から始める。リーディングに関しては、パラグラフ単位で意味をつかみ、かつパラグラフ間の整合性に注意を向けつつ、一定の長さの英文を読む練習を行う。		
			アカデミック・イングリッシュ II (初級)	初級レベルにおいて、エッセイ・ライティング用のテキストを用いて演習を行うが、前期に引き続き、パラグラフの構成の学習から始める。リーディングに関しては、パラグラフ単位で意味をつかみ、かつパラグラフ間の整合性に注意を向けつつ、一定の長さの英文を読む練習を行う。		
	ドイツ 語		ドイツ語初級(総合) I	ドイツ語の構造について:「学習」した個々の項目を自由自在に組み合わせ、読み・書き・話し・聞くことができるようになるのが目標である。そのためには、授業で扱った内容を次の授業までにしっかりと復習し、疑問点を明確にし、定着させて進んでいかなければならない。 発音について:ドイツ語の発音の出発点は「ローマ字読み」である。その例外となる発音に着目して習得を目指してほしい。そのためには、目で読むだけでなく、常に音読して、ドイツ語のリズムを共に身につけていく必要がある。 授業の全体像:最初の数回の授業で発音の基礎を学習するが、その後も引き続いてチェックを行う。数詞の暗唱や短い文章の朗読といった口頭テストも行う。 基本的に1課終了ごとに確認テストを行うことで、自己評価(チェック)に役立ててもらう。その他に、発音チェックの口頭試験、期末試験を行う。		
			ドイツ語初級(総合) II	文法学習について:前期に習得したことを土台として、さらに「学習」した個々の項目を自由自在に組み合わせ、読み・書き・話し・聞くための能力を伸ばすことが目標である。そのためには、授業で扱った内容を次の授業までにしっかりと復習し、疑問点を明確にし、定着させて進んでいかなければならない。 発音について:前期に引き続き、重点をおく。 授業の全体像:最初の2回の授業で前期の復習を行うが、以後、授業内で既習事項の確認を行う。積極的な自習によって新規学習事項との関連を確認するように。 基本的に1課終了ごとに確認テストを行うことで、自己評価(チェック)に役立ててもらう。その他に、発音チェックの口頭試験、期末試験を行う。		

授 業 科 目 の 概 要						
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)						
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考		
共通 教育 科目	基礎 科目	外国 語科 目	ドイ ツ語	ドイツ語初級（文法）Ⅰ	<p>国際化が進む現代社会で生きていくために、多様なものの見かたができるようになることを目指し、英語以外の外国語（この授業ではドイツ語）の基礎を習得する。言語の基本は「音」であるので、発音も重視しつつ、使えるドイツ語の基礎を習得してもらいたい。夏休み中も自主学習を続けることで、独検4級の秋期試験に合格する程度のドイツ語力をつけることも目標の一つである。</p> <p>学ぶべきこと： 1. ドイツ語の基本的な構造 2. ドイツ語の発音 3. 言語を媒介としたグローバル感覚</p>	
				ドイツ語初級（文法）Ⅱ	<p>ドイツ語初級（文法）Ⅰに引き続き、国際化が進む現代社会で生きていくために、多様なものの見かたができるようになることを目指し、英語以外の外国語（この授業ではドイツ語）の基礎を習得する。言語の基本は「音」であるので、発音も重視しつつ、使えるドイツ語の基礎を習得してもらいたい。夏休み中も自主学習を続けることで、進級後の独検3級の春季試験に合格する程度のドイツ語力をつけることも目標の一つである。</p> <p>学ぶべきこと： 1. ドイツ語の基本的な構造 2. ドイツ語の発音 3. 言語を媒介としたグローバル感覚</p>	
				ドイツ語初級（読解・会話）Ⅰ	<p>この授業では、初級レベルにおいて口頭でドイツ語のセンテンスを作ることに重点を置いて、授業を行う。</p> <p>授業中、発音練習、グループワーク、インタビュー活動等の口頭でのやりとりに、多くの時間を費やす。しっかりとした基礎的なドイツ語のレベルを目指すため、授業では他の3つの言語能力（聞く、書く、読む）も訓練する。また、文法の要素も重要不可欠である。</p> <p>受講者には授業への積極的な参加が要求される。また、授業ではほぼ毎回復習小テストを行い、小さな宿題を出す。セメスターの期間中、各課終了後の小テストも行う。各課終了後の小テストや期末試験は、筆記試験と口答試験からなる。</p>	
				ドイツ語初級（読解・会話）Ⅱ	<p>この授業では、Ⅰで学んだ内容を踏まえ、初級レベルにおいて口頭でドイツ語のセンテンスを作ることに重点を置いて、授業を行う。</p> <p>授業中、発音練習、グループワーク、インタビュー活動等の口頭でのやりとりに、多くの時間を費やす。しっかりとした基礎的なドイツ語のレベルを目指すため、授業では他の4つの言語能力（聞く、書く、読む）も訓練する。また、文法の要素も重要不可欠である。</p> <p>受講者には授業への積極的な参加が要求される。また、授業ではほぼ毎回復習小テストを行い、小さな宿題を出す。セメスターの期間中、各課終了後の小テストも行う。各課終了後の小テストや期末試験は、筆記試験と口答試験からなる。</p>	
			ドイツ語中級（読解）Ⅰ	<p>ドイツ語読解能力について：外国語は、単なる学ぶ対象ではなく、実際に用いてこそ初めて学習する価値が生まれる。そのためにも、既習事項とその習熟度を自ら理解し、統合的に用いる能力を身につけるトレーニングを行う。また、辞書をひく際も、最初の訳語を見て用いるのではなく、納得がいくまでしっかりと調べて、実際に書かれている内容が腑に落ちるまで考える習慣をつけてほしい。</p> <p>国際理解感覚について：異文化理解は、外国語の文章を読む際にも問題になる。日本語の感覚だけで読もうとしても書き手の論や感覚を受けとめることはできない。自分がすでに持っている情報で処理しようとするのではなく、常に新しいものを求め、わからないことは納得するまで調べ、自分の中の国際感覚の奥行きを広げる意識を身につける。</p> <p>授業全体について：学期の前半は、1年次の学習事項の復習と補足を行いつつ、読解に慣れていってもらおう。 Lektionが終わるごとに確認の小テストを行い、自己確認・復習に役立ててもらおう。 後半では、「学習のために作られたのではないドイツ語文」を読み、ドイツ語のテキストに慣れていってもらおう。</p>		

授 業 科 目 の 概 要						
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)						
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考		
共通教育科目	基礎科目	外国語科目	ドイツ語	ドイツ語中級（読解）Ⅱ	この授業はドイツ語中級（読解）Ⅰの継続であり、Ⅰで学んだ内容を踏まえ、初級ドイツ語文法の復習と、新たに初中級ドイツ語文法の習得を目指す。さらに、この授業は、和文独訳、聞き取り・書き取り練習、会話表現練習によって、初中級のドイツ語運用能力の獲得と、「外国語を用い、的確に読み、書き、聞き、他者に伝えることができる言語能力」と、「対話を通じて他者と協力し、目標実現のために方向性を示すことができるコミュニケーション能力」を持つ教養人育成を目指す。ドイツ語の日常的言い回しによるテキストを読み、和訳できるようにする。	
			ドイツ語中級（会話）Ⅰ	ドイツ語のセンテンスを中級レベルにおいて口頭と筆記で作ることに重点をおいて授業を行う。授業中、発音練習、グループワーク、インタビュー活動等の口頭でのやりとりに、多くの時間を費やす。しっかりとした基礎的なドイツ語のレベルを目指すため、授業では他の3つの言語能力（聞く、書く、読む）も訓練する。また、文法の要素も重要不可欠である。 受講者には授業への積極的な参加が要求される。また、授業ではほぼ毎回復習小テストを行い、小さな宿題を出します。セメスターの期間中、各課終了後の小テストも行う。各課終了後の小テストや期末試験の内容は筆記試験と口答試験からなる。		
			ドイツ語中級（会話）Ⅱ	ドイツ語のセンテンスをⅠで学んだ内容を踏まえ、中級レベルにおいて口頭と筆記で作ることに重点をおいて授業を行う。授業中、発音練習、グループワーク、インタビュー活動等の口頭でのやりとりに、多くの時間を費やす。しっかりとした基礎的なドイツ語のレベルを目指すため、授業では他の3つの言語能力（聞く、書く、読む）も訓練する。また、文法の要素も重要不可欠である。 受講者には授業への積極的な参加が要求される。また、授業ではほぼ毎回復習小テストを行い、小さな宿題を出します。セメスターの期間中、各課終了後の小テストも行う。各課終了後の小テストや期末試験の内容は筆記試験と口答試験からなる。		
	フランス語			フランス語初級（総合）Ⅰ	フランス語の基礎文法を理解したうえで、日常においてよく使われる会話文の発音・語彙・表現を学ぶ。それらを踏まえて、リスニング力も磨いていく。また、視聴覚資料を取り入れながら、フランスの生活や文化も紹介する。 「フランス語初級（総合）Ⅰ」においては、フランス語のルールを学んだうえで、視聴覚資料等を通じて、生活や文化について解説する。	
				フランス語初級（総合）Ⅱ	フランス語の基礎文法を理解したうえで、日常においてよく使われる会話文の発音・語彙・表現を学ぶ。それらを踏まえて、リスニング力も磨いていく。また、視聴覚資料を取り入れながら、フランスの生活や文化も紹介する。 「フランス語初級（総合）Ⅱ」においては、Ⅰで学んだ内容を踏まえ、日常的な行動の中において正しい発音で基本的なコミュニケーションがとれる運用能力を学ぶ。さらに、国や文化についての知識を得て、国際感覚を養う。	
				フランス語初級（文法）Ⅰ	定評のある教科書を使い、教員による解説、受講生による演習を行うことによってフランス語文法の基礎をしっかりと身につける。文法は外国語学習の根幹である。言葉とは複雑であり、その勉強は楽なものではない。しかし、だからといって特別難しいものでもない。努力に応じて着実に実力はついていくものである。できるだけわかりやすい授業の展開を目指す。	
				フランス語初級（文法）Ⅱ	定評のある教科書を使い、Ⅰで学んだ内容を踏まえ、教員による解説、受講生による演習を行うことによってフランス語文法の基礎をしっかりと身につける。文法は外国語学習の根幹である。言葉とは複雑であり、その勉強は楽なものではない。しかし、だからといって特別難しいものでもない。努力に応じて着実に実力はついていくものである。できるだけわかりやすい授業の展開を目指す。	
				フランス語初級（読解・会話）Ⅰ	日常的なコミュニケーションのなかで出会う様々な読解および会話のパターンを集中的に学ぶ。発音練習、リスニング、ペアもしくはグループによる会話練習にも力を入れていく。また、視聴覚資料を取り入れながら、フランスの生活や文化も紹介していく。 「フランス語初級（読解・会話）Ⅰ」においては、挨拶・自身の紹介・各場面における尋ねる力等を学び、練習を通じて会話パターンが身につくよう進める。	

授 業 科 目 の 概 要					
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)					
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	基礎科目	外国語科目	フランス語初級（読解・会話）Ⅱ	日常的なコミュニケーションのなかで出会う様々な読解および会話のパターンを集中的に学ぶ。発音練習、リスニング、ペアもしくはグループによる会話練習にも力を入れていく。また、視聴覚資料を取り入れながら、フランスの生活や文化も紹介していく。 「フランス語初級（読解・会話）Ⅱ」においては、Ⅰで学んだ内容を踏まえ、自身で発信できる力を身につけるよう目指す。さらに、国や文化についての知識を得て、国際感覚を養う。	
			フランス語中級（読解・会話）Ⅰ	授業で得られる要素を達成するために、テキストはフランス庶民社会で起る様々なドラマを扱った短編小説を使用する。本授業は初級から中級への橋渡しの位置づけであるので、単なる訳読にとどまらず、文法の復習も積極的に行う。	
			フランス語中級（読解・会話）Ⅱ	授業で得られる要素を達成するために、テキストはフランス庶民社会で起る様々なドラマを扱った短編小説を使用する。本授業は初級から中級への橋渡しの位置づけであるので、Ⅰで学んだ内容を踏まえ、単なる訳読にとどまらず、文法の復習も積極的に行う。	
	中国語		中国語初級（総合）Ⅰ	テキスト1課につき2回のペースで、解説に加えて、課題の練習（音読・翻訳）、小テスト（音声・筆記）による復習といった構成で、初歩的な中国語を読み・書き・聞き・話す練習を反復しながら授業を進める。 中国語の発音・聞き取りの練習から始め、基本的な文法、語彙の学習にあわせてやさしいテキストを読み、総合的な力を養う。	
			中国語初級（総合）Ⅱ	教科書を中心に行う。前期「中国語初級（総合）Ⅰ」で学んだ内容を踏まえ、引き続き中国語の基本的な文法、語彙を学んでいく。各課終了後に小テストを実施する。また、必要に応じて中国の社会事情や文化なども紹介する。	
			中国語初級（文法）Ⅰ	テキストに沿って授業を進める。まず最初の一か月間は「発音編」を学ぶ。ここで発音と発音記号を習得し、中国語学習の土台を築き上げる。「発音編」は一つの大きな山である。これを頑張って乗り越えれば次の「文法編」の理解も容易になる。「文法編」は一時間に一課の進捗で進む。毎回の授業では文法事項の確認をした後、日本語訳、音読、練習問題などに取り組み理解を深めていく。	
			中国語初級（文法）Ⅱ	テキストに沿って、一時間に一課、授業を進める。本授業では、前期からの学習に続き第十三課から始まる予定である。毎回の授業では文法事項の確認をした後、日本語訳、音読、練習問題などに取り組み理解を深めていく。まとめでは、中国語で書かれた「桃太郎」を読み、またその音読の発表を一人ずつしてもらい予定である。	
			中国語初級（読解・会話）Ⅰ	中国語の背景にある中国の社会、文化を紹介しながら中国語の発音、基本的な構文を学び、練習する。授業中初修者にとって区別しにくい音の把握に重点を置き、解説するだけではなく、十分な練習の時間を設ける。本文は会話形式なので、その役割練習を行うことによって自然に単語の用法と中国語による問いかけと答え方を把握するように授業を進める。中国語検定を参考に、使用頻度の高い語彙の運用能力を身につけるように目指す。中国の歴史、文化に関する参考書についての感想を話し合う時間も設け、中国への関心を高める。	
			中国語初級（読解・会話）Ⅱ	「中国語初級（読解・会話）Ⅱ」においては、Ⅰで学んだ内容を復習し、中国語の背景にある中国の社会、文化を紹介しながら中国語の発音、基本的な構文を学び、練習する。授業中初修者にとって区別しにくい音の把握に重点を置き、解説するだけではなく、十分な練習の時間を設ける。本文は会話形式なので、その役割練習を行うことによって自然に単語の用法と中国語による問いかけと答え方を把握するように授業を進める。中国語検定を参考に、使用頻度の高い語彙の運用能力を身につけるように目指す。中国の歴史、文化に関する参考書についての感想を話し合う時間も設け、中国への関心を高める。	
			中国語演習Ⅰ	中国語の背景にある中国の社会、文化を紹介し、会話練習のために、まず本文の朗読から始まるが、その後ペアで会話の発表を行う。会話能力の向上とともに読解・作文の能力を培うことを目指す。教科書の短い文章には日本人学生が中国へ留学した場合によく使う語彙が盛り込まれているので、留学時の発信力に自信を持つように授業を進める。中国の歴史、文化に関する参考書についての感想を話し合う時間も設け、中国への関心を高める。	

授 業 科 目 の 概 要					
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)					
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	基礎科目 外国語科目	中国語	中国語演習Ⅱ	「中国語演習Ⅱ」においては、Ⅰで学んだ内容を踏まえ、中国語の背景にある中国の社会、文化を紹介し、会話練習のために、まず本文の朗読から始まるが、その後ペアで会話の発表を行う。会話能力の向上とともに読解・作文の能力を培うことを目指す。教科書の短い文章には日本人学生が中国へ留学した場合によく使う語彙が盛り込まれているので、留学時の発信力に自信を持つように授業を進める。中国の歴史、文化に関する参考書についての感想を話し合う時間も設け、中国への関心を高める。	
		ハンゲル	ハンゲル初級（総合）Ⅰ	韓国語の文字、発音、初級文法を説明する。初期段階での韓国語の発音は日本語母語話者にとっては難しいかも知れないが、日本語の発音と関連付けて分かりやすく解説をしながら発音の練習をしていく。文字や発音をマスターした後は基礎文法を勉強する。韓国語の文法は日本語と似ているため理解しやすいが、誤用の危険性もあるので、その点もしっかり説明する。文字と基礎文法をマスターすれば簡単な会話がすぐ出来るようになる。そのような会話力が確実に定着するように、話すことに時間をかけて授業を進める。授業の後半（約15分間）にはビデオ教材を取り入れて、聞き取りの力がつくようにする。	
		ハンゲル	ハンゲル初級（総合）Ⅱ	「ハンゲル初級（総合）Ⅰ」の続きとして、韓国語の初級文法を説明し、その文法知識がしっかり身につくように練習問題を解いた後、応用文を作り、それをもとに会話練習をしていく。韓国語コミュニケーション能力をしっかりと身につけるためには、たくさん話すことが何より大事なことで、たくさん話すことに時間をかけて授業を進めていく。またビデオ教材をたくさん利用して聴き取りの力をつけていく。そして、言葉の背景にある韓国文化も紹介する。	
		ハンゲル	ハンゲル初級（文法）Ⅰ	韓国語の文字、発音、初級文法を説明する。初期段階での韓国語の発音は、日本語母語話者にとっては難しいかも知れないが、日本語の発音と関連付けて分かりやすく解説をしながら発音の練習をしていく。文字や発音をマスターした後は基礎文法を勉強する。韓国語の文法は日本語と似ているので、日本語と比較しながらわかりやすく説明する。そして毎回授業の後半（約15分間）にビデオ教材を取り入れて、聞き取りの力がつくようにする。また復習がしっかり出来るように復習シートを使って、確実に韓国語文法がマスターできるように進める。そして言葉の背景にある韓国文化も紹介する。	
		ハンゲル	ハンゲル初級（文法）Ⅱ	発音の面では、正確な発音が出来るように練習する。文法の面では、初級文法を説明していく。初級文法をマスターし、単語力を増やせば、応用会話が出来るようになる。そのような会話力が確実に定着するように話すことに時間をかけて授業を進めていく。そして、毎回授業の後半（約15分間）にビデオ教材を取り入れて、聞き取りの力をつけていく。復習がしっかり出来るように復習シートを使って、確実に韓国語能力が身につくように進める。そして言葉の背景にある韓国文化も紹介する。	
		ハンゲル	ハンゲル初級（読解・会話）Ⅰ	韓国語の文字、発音、基礎文法を説明する。韓国語の読解力と会話力を養うことに重点を置いて授業を進める。初期段階での韓国語の発音は日本語母語話者にとっては、難しいかも知れないが、日本語の発音と関連付けて分かりやすく解説をしながら発音の練習をしていく。毎回残り15分間は、ビデオ教材を取り入れつつ聞き取りの力をつけていく。そして、言葉の背景にある文化も紹介する。	
		ハンゲル	ハンゲル初級（読解・会話）Ⅱ	韓国語でコミュニケーションを取る際には、正確な発音で話すことが大事である。前期に続き、正確な発音が出来るように練習する。そしてテキストに沿って会話のペースとなる初級文法を説明する。全体的には韓国語の読解力と会話力を養うことに重点を置いて授業を進める。ビデオ教材もたくさん取り入れつつ聞き取りの力をつけていく。そして、言葉の背景にある文化も紹介する。	
		ハンゲル	ハンゲル中級（読解・会話）Ⅰ	1年次に学習した内容を元に、テキストに沿って韓国語の正しい発音、文法、言い回しなどを説明していく。そして、毎回授業の後半（約15分間）にビデオ教材を取り入れて、聞き取りの力をつけていく。復習がしっかり出来るように復習シートを使って、確実に韓国語能力が身につくように進める。そして言葉の背景にある韓国文化も紹介する。	

授 業 科 目 の 概 要					
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)					
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	基礎科目	外国語科目 ハングル	ハングル中級（読解・会話）Ⅱ	正しい発音とより高いレベルの文法、言い回しなどを説明していく。韓国語会話能力をしっかりと定着させるために最も重要なことは、たくさん話すことなので、授業で与えた知識を利用して、十分な会話練習ができるように授業を進めていく。毎回授業の後半（約15分間）にビデオ教材を取り入れて、聞き取りの力もつけていく。そして言葉の背景にある韓国文化も紹介する。	
		健康科学科目 健康科学・理論と実践	健康科学・理論と実践	◆理論7回、実践8回で構成される。 (オムニバス方式/全15回) 【理論】(7回) 健康は個人、社会、地球環境にまたがる大きな課題である。この科目は心身の健康、キャンパスにおける安全、社会における望ましい人間関係、環境と健康、などについての知識と行動規範の修得を目標とし、以下の7つのカテゴリーから構成されている。 (19 川茂幸/1回) カテゴリー1 イントロダクション、健康なキャンパスライフのために (71 金子稔/1回) カテゴリー2 メンタルヘルス概論 (38 杉本光公/1回) カテゴリー3 ライフスキルアップ (67 速水達也/1回) カテゴリー4 健康を守る（スポーツと健康、AIDS 予防、性感染症予防、地球環境と健康） (19 川茂幸/1回) カテゴリー5 生活習慣病を予防する（肥満、糖尿病、喫煙、アルコール） (73 内田満夫/1回) カテゴリー6 薬物乱用の予防 (19 川茂幸/1回) カテゴリー7 性感染症予防・正しい性の知識 【実践】(8回) (79 加藤彩乃/8回) (78 廣野準一/8回) 半セメスターの期間中に、体力測定及びウォーキング、ジョギング、エクササイズの方法などを実践し、運動習慣獲得のための導入を行う。身体に障害のある学生は別メニューとなるため、ガイダンスの日程等を4月初めに全学教育機構<公用掲示板>で確認すること。	オムニバス方式 講義 14時間 実技 16時間
	新入生ゼミナール科目	新入生ゼミナール	新入生ゼミナールⅠ	新入生のために、大学での学習や生活のオリエンテーションとケアを目的として開講する。大学生活における学習に関する諸問題を中心に、学習の基本的な方法の修得、生活習慣、人間関係の構築方法、卒業後の就職に向けて必要な事柄を学ぶ。これらの今後の学生生活に必要な基礎的なスキルを身につけることを授業の目的とする。授業は、1クラス20人程度の少人数に分かれて演習形式で行い、一部の内容については大教室を使って行う。同時開講の各クラスは別々の教員が担当するが、教員間で緊密に打合せを行い授業内容と成績評価の統一化を図る。	
		新入生ゼミナール	新入生ゼミナールⅡ	少人数・学生主体型の授業で、文章読解（クリティカルリーディング）、情報収集と分析、プレゼンテーション、グループ討論、レポート作成等を行う。社会科学を学ぶために必要な基礎的なスキルを身につけることを授業の目的とする。少数の学生が集まって、積極的に討議を行う学生参加型の授業により、学生が主体的に学ぶ姿勢を身につけ、コミュニケーション能力を向上させることが期待される。授業は、1クラス20人程度の少人数に分かれて演習形式で行う。同時開講の各クラスは別々の教員が担当するが、教員間で緊密に打合せを行い授業内容と成績評価の統一化を図る。	
日本語・日本事情	日本語・日本事情科目	日本語	読解（日本語）Ⅰ	本講義の目的は、日本語で書かれた様々な資料を読んで理解し、多くの知識が得られるようになることを目指す。読むためのテクニック、戦略（ストラテジー）、知識などを身につける。授業の最初はあまり難しくない文章を読み、その日の読解のポイントを勉強・練習し、最後に少し長い文章を読む。	
		日本語	読解（日本語）Ⅱ	学期最初は、読解の基本的な考え方や戦略（ストラテジー）を学ぶ。その後、論文を読んでから、「構造」、「読むための文法」、「言葉の練習」を勉強する。論文は次第に長くなっていく。内容は、いじめ、製品からみる人間工学、ガン告知、雨の中の無機成分の特徴、入社後研修における文化摩擦など広範囲にわたる。	

授 業 科 目 の 概 要					
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)					
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	日本語・日本事情	日本語	作文（日本語）Ⅰ	作文でよく使われる語彙や表現の練習をする。次にそれらを用いて短文作成をする。さらに、自由度が大きくやや長い文章を書く。学期の前半には意見文、アピール文など様々なタイプの文の練習をし、後半にはレポートの書き方を練習する。時々、学習者が書いた課題作文や構成メモを他の学習者たちと一緒に見ながら、どこがいいか、間違っているか考える活動もする。	
		日本語	作文（日本語）Ⅱ	論文で使われる語彙および表現をしっかり学習・練習する。その後、論文の構成を要素ごとに学び、深く理解する。最後に自分のテーマと構成メモを作成し、それに基づいて論文を執筆する。時々、学習者が書いた課題作文や構成メモを他の学習者たちと一緒に見ながら、どこがいいか、間違っているか考える活動もする。	
		日本語	ビジネス・ジャパニーズⅠ	前半では、敬語の学習を深めつつビジネス会話のパターンを数多く練習する。また、ビジネス文書の書き方も、単純から複雑なものへと練習を重ねる。後半では、ビジネス上の適切な対処と、相手の立場に立って考えつつ会話を組み立てる練習をする。また、文書形式を身につけ、ビジネスメールの基本的な言葉使いを練習する。ディスカッションを行う。	
		日本語	ビジネス・ジャパニーズⅡ	前半では、敬語の練習を深めつつ、社内・社外における会話を多く練習する。 ビジネス文書は、さらに言葉づかいに注意を払い、要点を押さえ、よく伝わる書き方を練習する。 後半では、受け答えだけに終わらず能動的に会話を組み立てる練習をする。文書作成は、誤解を生じず心遣いのある文章の読解と練習を多く行う。 また、日本人の働く姿を見るためにDVDを2回程度視聴し、ディスカッションを行う。	
		日本語	科学技術日本語Ⅰ	配布資料により、科学技術特有な表現語彙の習得、用例の学習により語彙力を高める。更に、一般紙・専門紙などの科学技術関連記事、科学技術に関する評論・解説文などの題材を通じて読解力を高めてゆく。また、ケースに応じてグループディスカッションによる論理的思考力を鍛える。	
		日本語	科学技術日本語Ⅱ	配布資料により、科学技術特有な表現語彙の習得、用例の学習により語彙力を高め、科学技術論文の読解力、レポート・論文作成能力を演習により高めてゆく。また、ケースに応じてグループディスカッションによる論理的思考力を鍛える。	
	日本事情	日本語	日本社会と日本人Ⅰ	日本社会の特徴を、家族と福祉、国土と中央・地方、企業と企業モデル、温暖化によるさまざまな環境問題、などの特定の問題設定のもとで理解する。 よく話題に上る現代社会の特徴や社会問題をビデオ教材を通して見、毎回配布する資料を参考にして、ビデオ内容についての課題にこたえる。その課題への答えとしてのレポートを授業毎に提出する。	
		日本語	日本社会と日本人Ⅱ	日本の産業構造の特徴を、自動車・電機などの製造業、スーパー・百貨店などの流通・小売り、不動産・金融業などの業種毎にとらえる。 講義とディスカッションにより日本の産業構造を概観し、ビデオ教材、新聞・雑誌記事などにより、日本企業の業務内容、対外戦略、経営方針を具体的にみる。毎回参考資料を配布し、課題を与える。ビデオ教材の内容を理解しているかどうかを課題によって確認する。	
		日本語	武道・伝統文化実習Ⅰ	武道の授業では、日本の伝統的運動文化である武道の歴史と現状を紹介し、スポーツとの相違点と共通点を探しながら、日本の伝統的な運動をより深く理解してもらおう。伝統文化の授業では、日本人でもなかなか接する機会が少ない伝統文化を、実習を通じてより深く勉強・体験する。 授業は、ビデオやスライドを使っての武道・伝統文化の説明と、指導教員のもとで実際に体験する実習授業からなる。 (オムニバス方式／全16回) (43 村田明／9回) 日本の伝統文化（茶道、そば打ち、箏）の授業を担当する。 (78 廣野準一／7回) 日本の伝統的な運動（柔道、剣道、空手道、合気道、相撲、剣道）の授業を担当する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 経済学基礎科目	マクロ経済学Ⅰ	マクロ経済学は、一国の経済全体の景気変動や経済成長の要因を分析する学問である。この講義では、短期の景気変動に関する理論を中心にマクロ経済学の入門的内容を講義していく。最初にGDPなどの基本的なマクロ経済指標が、どのような概念であるのかを学習する。次に、現実のマクロ経済に関するもの見方・考え方として、ケインジアンと新古典派という2つの見解があるが、これらがどのようなものかを経済モデルに基づいて理解していく。最初は簡単なモデルを分析することから始めて、徐々に現実経済の様々な要素をモデルに取り入れて拡張していく。この作業を通じて、現実のマクロ経済をより深く理解できるようになることを目指す。	
	ミクロ経済学Ⅱ	「ミクロ経済学Ⅱ」では、市場メカニズムが、効率的資源配分を実現することを学ぶ。しかし、現実の経済社会では、市場メカニズムに調整を委ねるだけで効率的資源配分が実現するとは限らない。その理由は、市場メカニズムの円滑な機能を妨げる要因があるからである。代表的な障害要因の一つが、「情報の非対称性」の問題である。情報の非対称性の問題は、大きく2つに分けられる。「取引前」の情報の非対称性である「逆淘汰」と、「取引後」の情報の非対称性である「モラル・ハザード」である。講義の初めでは、これらの問題を上げる上で必要となる「期待効用」や「不確実性下の意思決定」について解説する。その上で、情報の非対称性が引き起こす問題や、その問題を解決するメカニズムについて説明する。	
	マクロ経済学Ⅱ	この講義では、「マクロ経済学Ⅰ」の内容を前提として、長期の経済成長を分析する理論である新古典派成長理論を中心に、マクロ経済学のより上級のトピックを講義していく。最初にソロー・モデル、成長会計を説明し、これらを使って、1950年代から60年代の日本の高度経済成長や、「失われた20年」ともいわれる最近の日本の経済停滞の原因を分析する。次に、家計の消費の最適化の初歩を説明し、これを組み入れた新古典派成長理論が、日本のマクロ経済の動きを上手く説明できるかを分析する。講義を通じて、データを用いてマクロ経済理論を検証することや、理論を用いて現実のマクロ経済を解釈することができるようになることを目指す。	
	ゲーム理論入門	本講義は、ゲーム理論の基礎を身につけることを目的としている。「ゲーム理論」とは、経済や社会におけるさまざまな意思決定と行動の相互依存状況を数理的なモデルと論理を用いて分析する学問である。本講義の目的は、以下の2点を習得することである。1つは日常のビジネスや政策決定の場に応用できる「戦略的思考の技法」として、ゲーム理論を身につけること。もう1つは、近年、経済学や法学を含む社会科学の多くの分野に用いられているゲーム理論を理解できるようになることで、それらの分野の理解を一層深められるようになること。特に、ゲーム理論の基礎である完備情報ゲームとその応用を中心として講義を進める。	
	環境経済学Ⅰ	本講義では、経済と環境の関係性について、ミクロ経済学的な側面から学ぶ。現在や過去の環境問題が何故引き起こされたか、そしてそれらの問題を我々はどうやって解決してきたのか、またどうやって解決していこうとしているのか。本講義では、これらの課題について、ミクロ経済学理論を用いた手法によって分析することで、受講者がなぜ環境問題が発生するのかを理解し、その発生原因と政策的解決手段を経済学的見地から論理的に説明できるようになることを目標とする。	
	社会経済学	この講義は、資本主義経済の基本的なメカニズムを歴史的・社会的観点から理解することを目的とする。 私たちが今、そのもとで暮らしている資本主義社会は、16世紀ヨーロッパの一角に発生し、その後、数百年のうちにほぼ全世界を覆うにいたった経済社会である。この講義では、そうした数百年にわたる資本主義の歴史的变化の根底にある市場経済のメカニズム、資本主義である限りそこから離れることのできない共通な経済社会の原理を取り扱う。歴史上に現れたさまざまな資本主義は、時代ごとに、あるいは国ごとに、歴史的・社会的要因に規定されてそれぞれ大きく異なっているが、こうした違いを超えて、その基礎には資本主義としての同じ原理が流れている。そしてこの原理は、ごくわずかな法則を持ったひとつの堅固な体系にまとめあげることが出来る。この講義は、この資本主義の原理的体系を解明するとともに、歴史的・空間的に変貌をとってきた現代の資本主義を分析するための基本となる視角を提供する。 講義では、教材として資料を配付し、またスライド等も併用する。	隔年

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	経済学基礎科目	経済史	この講義では、経済社会の歴史を主に資本主義経済の勃興と発展を中心に概観する。 現代の経済は、過去から受け継いできた経済の発展の上にある。今日、われわれがそのもとで暮らしている資本主義経済を正確に理解するためには、何よりも過去の経済をある程度知っておく必要がある。この講義では、そうした過去に存在した様々な経済社会を大きな史的枠組み、すなわち1) 資本主義社会以前の諸社会、2) 16世紀の「大航海時代」からの資本主義経済の勃興、3) 19世紀における資本主義経済の確立、4) 19世紀後半から第1次世界大戦までの資本主義経済の変容、5) 第1次世界大戦以降の現代資本主義、という歴史的な流れに沿って論じる。 講義では、教材として配付資料・教科書を中心に、スライド等も併用する。	隔年
		世界経済論	この講義では、現代経済をめぐるカレントな諸問題のなかでも、とりわけ経済変動・景気循環に関連するトピックを主にしながら、世界経済を理論・歴史・学説から総合的に理解することを目的とする。 アメリカ発のサブプライム金融危機、EUの財政危機、日本のマイナス成長等々、現代においても経済の循環的な変動は私たちの生活に大きく影響を与えている。好況や不況といった局面を有する経済の変動は、市場経済が拡大した19世紀以降から存在し、先人はさまざまなアプローチによってこうした現象を解明しようとしてきた。 ここでは、複雑化する現代経済において、そうした経済変動・景気循環がなぜ発生するのか（理論）、これまでどのように発生してきたのか（歴史）、そして先人たちはこれをどのように分析してきたのか（学説）、といった観点から鳥瞰する。	隔年
		経営学	この講義の達成目標は、経営学の基礎的な知識の習得と、習得した経営学の知識をもとに、実際の経営の現場に生かす方法を考えることの2点である。経営学で検討する内容は、企業運営の仕組みや、利益との関係を検討することである。講義の概要は、まず、経営学とは何か、企業とは何かといった、企業経営にまつわる基礎理論を検討した後、経営戦略、経営組織、経営管理、経営課題といった、さらに詳細な内容へと進める。前半は組織レベルの議論、後半は個人レベルの議論であり、組織レベルと個人レベルの両者から経営学の諸問題に接近する。	
		簿記・会計入門	企業規模に関わらず日々の経営活動を記録する技術が簿記であり、企業会計を理解するためには、簿記の知識は不可欠である。 そこで本講義では、簿記の基本的な仕組みの説明からはじめ、各種取引（商品売買、現金預金取引、手形取引、有価証券取引、固定資産取引、その他取引など）、そして決算手続きを経て財務諸表が作成されるまでの内容を講義する。本講義によって、日々の活動の記録から財務諸表作成までの一連の流れを理解し、把握することによって企業会計を理解することが可能になる。	
		情報処理A	社会の様々な分野で有用な表計算ソフトをより高度に使いこなすことを目指す科目である。具体的には、現在のde facto standard表計算ソフトであるExcelのマクロを記述するプログラミング言語VBAの文法について学ぶ。現在、VBAの使用頻度は非常に高いと言われている。VBAで記述するExcelマクロを使用することで、定型化した処理の自動実行、条件分岐処理、反復処理などの利用が可能となり、表計算ソフトの利便性が向上する。VBAの文法を学ぶとともに、具体的なデータへの適用を、学生が所持するノートパソコンを使って確認しながら、より段階的に高度な内容へと進行する。	
		情報処理B	コンピュータの高度な活用を通して、デジタル情報処理の仕組みが理解できる。 多くのプログラミング言語の基本となった言語がC言語であり、現在も実用的に使用される場面が多く、最も普及している言語の一つである。また、プログラミングの学習用にも適した言語と言われている。本科目の目的は、C言語によるプログラミングの基本を学ぶことである。この科目で基本文法を習得すれば、他の言語への応用も可能となる。文法を習得しながら、学生が所持するノートパソコンにインストールしたCコンパイラを使用して入力から実行までの操作も行い、理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 経済学基礎科目	国際金融	異なる通貨を使う国際取引には、通貨の交換に伴って生じる特有の経済現象が発生する。こうした経済現象を扱う経済学の応用分野は「国際金融」と呼ばれている。国境を越えた企業活動や資金移動が盛んになった現在、現実の経済を語るうえでこうした「国際金融」の知識は不可欠である。この講義では、広義の外国為替市場で行われる様々な取引にはどのような意味があるのか、為替リスクは企業行動にどのような影響を与えるのか、またそうした為替リスクを回避するにはどのような手段があるのか、為替レートの変動をもたらす長期と短期・中期の要因にはどのようなものがあるのか、またマクロ経済政策からどのような影響を受けるのか、通貨危機はなぜ起こるのかなどについて理解できるようにする。またそれらに加えて、現代の世界で様々な為替レート制度がとられていることの理由を説明し、国際通貨制度の歴史の変遷を簡単に振り返ったあと、現在注目度の高いユーロ圏と中国の人民元を取り上げて、その背景と今後の課題について論じる。	隔年
	財政学	・現代の経済社会において重要な役割を果たしている財政分野を中心とした経済政策について、その制度の概要と課題を取り上げ、現実の問題点を経済理論と関連付けて解説する。 ・そのため、財政に関する経済理論について解説した上で、我が国における政府活動の諸制度の概要や財政的な課題を紹介し、これらの諸課題について経済理論を応用して説明する。 ・政府活動・財政政策とは何かという問題から、社会保障と税の一体改革やアベノミクスなど時事的な課題まで取り上げる。	
	国際経済学	この講義では、国境を越えて行われる経済活動のうち国際貿易と直接投資に焦点を当てる。別の言葉で言い換えれば、国際経済活動のなかの金融的活動を除いた、実体的活動を取り扱う。この分野を巡る議論は経済学の誕生とともに始まり、現代まで著しい理論的發展を経て内容豊かなものとなっている。この知識を正確に理解しておくことは、大学で経済学を学んだものとして必須のものと言えよう。講義で取り扱う主な内容には、比較優位、生産要素の賦存と国際貿易、生産技術と国際貿易、伝統的貿易政策の理論、不完全競争と貿易政策、規模の経済と産業内貿易、戦略的貿易政策、直接投資、技術移転、海外アウトソーシング、国際貿易ルールと貿易交渉などが含まれる。	隔年
	金融論A	・金融理論の基礎的な知識を紹介した上で、我が国や世界の金融制度の概要や政策上の課題、最近の動向等を解説する。 ・特に、金融制度については金融庁・日本銀行・金融機関の役割や金融商品の概要、金融自由化の流れなどの基礎的な事項からリーマンショックに端を発した世界同時金融危機の影響やイスラム金融、アジア債券市場育成策など時事的な課題、さらには地域金融機関に求められる役割まで取り上げる。	
	金融論B	この講義では、「マクロ経済学I」の内容を前提として、現在の日本におけるデフレーションの原因や金融政策に関係した、マクロ経済学のより上級のトピックを講義していく。デフレーションや金融政策を議論する上で、経済主体の将来に関する予想がどのように形成されるかを分析することが重要となる。そのため、この講義では、最初にIS-LMモデルやAD-ASモデルを復習した後、経済主体の予想形成を分析するという観点から、これらのモデルを拡張していく。具体的には、ケーガン・モデルと、ニューケインジアン・モデルの2つを説明し、これらのモデルを使って現代日本のデフレーションや金融政策について分析していく。講義を通じて、データを用いてマクロ経済理論を検証することや、理論を用いて現実のマクロ経済を解釈することができるようになることを目指す。	
	産業組織	この講義では、産業組織に関する標準的な理論を修得することを目的とする。「産業組織」の理論とは、ミクロ経済学およびゲーム理論を応用した学問であり、対象とする産業について、その参加者(企業、消費者、政府)の行動を分析・評価し、公共政策への理論的・実証的な基礎を与えることを目指す学問である。具体的には、企業は戦略的にどのような行動を選択するのか、また、その結果、社会厚生にどのような影響を及ぼすか、について考察する。そのうえで、独占禁止法や知的財産法といった諸政策が、各産業に与える影響について分析し、望ましい産業政策について検討する。	
	アジア経済論	1960年代以降にアジアNIESなどが急速な工業化によって脱貧困を果たしたことは、戦後世界経済の重大トピックの1つに数えられる。さらに近年は中国、ASEAN諸国、インドなどもそうしたテイクオフを果たしつつある。こうした後発・新興アジア諸国の後発的發展(キャッチアップ)の動態とその理論仮説を検証し、さらに躍動するアジアにおける日本経済・企業の位置と役割を考察する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	経済学基礎科目	現代産業論	この講義は前身の信州大学経済学部時代の1988年から「産業論特論」の名称で毎年開講してきた講義で、平成26年度までで27年目の開講を数えた。新学部でもこれを引き継ぎ、新たに「現代産業論」の名称で開講するものである。この講義の内容は、毎年現代産業に係るテーマを設定し、そのテーマに関して日本の産業活動をリードする企業人や政府等の政策担当者からオムニバス方式形式で講義を組み立てる方法で開講するものである。対象となる産業分野はその年度のテーマによるが、これまでの累積では製造業のほかに、建設業、不動産業、流通業、食品産業、エネルギー産業、金融業などと多岐に渡っている。近年のこの講義で取り上げたテーマとしては、平成24年度が「大災害の経験と教訓」、平成25年度が「企業のグローバル化戦略と経済連携協定の課題」、平成26年度が「リスク社会への備えー保険と社会保障を中心として」であった。講義の進め方は、前半がゲスト講師による講義、後半が質疑応答、レポート作成となっている。授業のコーディネートと毎回のレポート採点による成績評価は学部専任教員① 山沖義和、4 徳井丞次が担当する。	共同
		現代職業論	実社会において職業上担うべき責務とは何か、求められる役割とモチベーションの持続を以下に継続し得るかについて、現実と直面する前に真摯に検討させる。その一助として、本学部卒業生をゲスト講師に迎え、在学時の学習状況、就職活動及び実社会に出てからの職業体験、現在の職場・仕事内容等を披歴することで、キャリア形成観の育成を涵養するとともに、本学部の目標とする、学士として得た能力を即戦的に現場で応用できる職業人のイメージを喚起する。ゲスト講師は多岐に亘る産業、職種の中から活躍の場を広げている有意な人物を選出する。	
		経営者と企業	本講義は、信州大学が所在する長野県を拠点に活躍する企業の経営者から自社の発展と今後の課題を語ってもらい、学生に地元企業の魅力とそれを指揮する経営トップの活力に触れてもらうことを目的として、前身の経済学部時代（2000年）から開設し毎年継続してきた科目である。長野県内には40社ほどの上場企業と裾野の広い中堅・中小企業が多数存在し、そのなかには最近注目されているグローバル・ニッチトップ企業と呼べるような会社や、業態を変えながら数百年事業を継承してきた会社など特色ある企業が多数含まれる。学生がこの科目を履修することによって、こうした地域や世界で活躍する地元企業経営者から経営課題を聴いて経済学・経営学分野の諸科目で学んだ概念やものの見方の具体的な応用場面に気づくことができる教育効果に加えて、地元企業の「隠れた」魅力に接することによって将来地域創成を担う人材育成にも資するところがあるものと期待される。この授業は、長野県経営者協会からの協力を得て複数の企業に依頼し、その経営者をゲスト講師としてオムニバス方式形式で講義を行うものである。毎回の授業は講師による講義、質疑応答、講義内容に基づくレポート提出からなる。授業のコーディネートと毎回のレポート採点による成績評価は学部専任教員（4 徳井丞次、② 関利恵子）が担当する。	共同
		英語文献研究	経済学に関連する英語文献の講読を行う。 新聞・雑誌、論文、書籍等の英語文献の講読を通じて、経済学部生に必要とされる英語力を養うことを目的とする。経済のグローバル化が進展する現代において、インターネットを含むさまざまな媒体から情報を収集するためにも、英語の読解力は社会生活を送るうえでますます重要になっている。授業で扱うトピックはさまざまだが、いずれも現代経済を理解するのに好個のものを取り上げ読み進めていく予定である。受講生は必ず予習を行い、積極的な態度で授業に臨むことが求められる。 具体的な教材や授業の進め方については、授業中に指示する。	
	リスク分析コース専門科目 I	ファイナンス理論	数理（計量）ファイナンス、あるいは金融工学と呼ばれる分野における代表的な三つのトピック（①ポートフォリオ理論②デリバティブ価格評価理論③金融リスク計測手法）それぞれに関する基礎的な理論を学習し、金融リスクの計測・管理のための確率論的手法を用いた定量的手法を習得する。ファイナンス理論では金融商品価格等の将来の不確実性を定量的に取り扱う事が重要となり、そのためには確率論や統計数学といった数学理論・数理的手法が要となる。そのため、本講義でも簡単な確率論の復習を扱う予定だが受講のためには基本的な確率論または統計数学を学習している事が望ましい。またファイナンス理論の先端的な研究や実務への応用に関する概観を掴むため、少し高度な数学を用いた発展的な内容も紹介する。その際、必須ではないが「確率過程論」を履修していると理解の助けになると考えられる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	リスク分析コース専門科目 I	ファイナンス応用	ファイナンス理論の実践として、デリバティブの価格計算・リスク管理やポートフォリオ最適化に関する、プログラミングを用いた計算演習を行う。具体的には、①株価データを用いて平均分散理論に基づいたポートフォリオ最適化計算と効率的フロンティアの作成②多期間モデルを用いたオプションや先物の価格計算③モンテカルロシミュレーションを用いた金融リスク量計算等を扱う。自ら手を動かして計算を行う事で、ファイナンス理論をより深く理解し、また実際の金融機関における定量的業務のイメージを掴む事が出来る。受講のためには R, Excel VBA またはその他の言語によるプログラミング経験(数値計算, データ処理, グラフの作成)がある事が望ましい。また「ファイナンス理論」を履修している事が望ましい。必須ではないが、「確率過程論」を履修していると②のデリバティブ価格計算についてより深く理解する事が出来ると考えられる。
		確率過程論	証券価格の動的な変化を数学的に記述するためには、将来一時点の不確実性を記述する確率変数だけでなく、多期間のランダムな変動を伴う確率変数列または確率過程を用いる必要がある。例えば「コインを投げて表が出たら一歩前に進み、裏が出たら一歩下がる」というゲームを反復すると、プレイヤーの将来の位置はコインの投げ方によって変化し得る、不確実性を伴ったものとなる。この場合、プレイヤーの動きは「ランダムウォーク」と呼ばれ、最も基本的な確率過程の一つとなっている。本講義では確率過程論の基礎を学習し、特に「マルチンゲール理論」と呼ばれる、現代の確率解析の礎となる理論の考え方を学ぶ。またこの理論はデリバティブ(金融派生商品)の価格付け理論と密接な繋がりがあり、応用として「無裁定価格理論」と「数理ファイナンスの基本定理」についても紹介する。受講のためには基本的な確率論または統計数学を学習している事が望ましい。
		数理統計学	「統計学Ⅰ」「統計学Ⅱ」の授業で学んだ幾つかの知識を、より精密に理解することを目的にしている。上記科目で学んだことの範囲をさらに広げるといっても、そこで直感的に、漠然と理解した事柄のいくつかについて、数学(数Ⅱ・Ⅲ程度の微積分)を用いて、厳密な理論展開をしていく。個々の統計的手法よりも、その背後にある基本的な原理を中心に学習する。内容に関する講義と並行して、毎回課題として指定される教科書の練習問題を解くことで、証明力や数理的な思考力を磨いていく。
		計量経済学	経済学にはさまざまな理論が存在するが、それらの理論がどれくらい現実の経済を説明することができるかについては、経済理論から導かれるモデルが経済データにどれくらいあてはまり、説明力を持ったモデルであるかを、データを用いて検証する必要がある。あるいは逆に、データから帰納的に適合する経済モデルを見つけ構築していくことも経済学の発展にとっては不可欠の作業である。このように理論から導かれる数学モデルと経済データからの双方向のやり取りの中で、現実の経済に対して説明力のある経済モデルを構築して、経済の現状を分析することが計量経済学の課題である。 この授業では、計量経済学の基礎理論を学び、経済モデルを構築し、データをあてはめ、経済理論を検証し、経済の実証分析を行うために基本となる手法を学ぶ。
		生保数理	この講義では、生命保険を題材に保険数理の基礎を学ぶことができる。他の講義で予定されている年金数理あるいは損保数理にも共通の概念、表現形式を扱う。この概念、表現形式を正確に理解しておくことは、保険数理を取扱うアクチュアリー資格を目指すものとして必須のものと言えよう。講義で取り扱う主な内容には、利息、割引、現価、終価および死亡率の概念、保険料、責任準備金、基数表の計算技術、保険数理記号の習得などが含まれる。
	年金数理	アクチュアリアルな数理の分野には生命保険数理、年金数理、損害保険数理の3分野があるが、この講義の対象は年金数理である。講義では確率統計の手法をベースとして、年金制度に対して数学的側面からアプローチをし、年金の数理的構造、年金財政をアクチュアリアルに理解することを目的とし、年金数理の基礎的知識の体系的、年金財政の仕組み、年金の概論的な理解を目指す。本講義では、年金数理の基礎、年金財政の概要、財政計算、年金財政の検証、等を講義する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	リスク 分 析 コ ー ス 専 門 科 目 I	損保数理	損害保険数理は確率・統計・経済における条件付確率、統計的推測・決定問題、確率過程、リスク評価の実務的側面もあり、本講義ではその応用数理的な基礎知識について学ぶ。併せて興味を持った学生が日本アクチュアリー会で課している「損保数理」を受験できるための基礎知識の習得も目指す。具体的には損害保険の仕組み、損害保険料率算定、支払保険金分析、リスクセオリー(破産確率等)、リスク評価(リスクの計量化)について講義する。	集中
	数理モデル論	この講義では、実世界における種々の現象の本質を失わない範囲で簡明かつ厳密な数学的なモデルを構築し、それを数学的に解析し、導かれた結果を実世界の現象と比較してその現象の本質的な構造を明らかにする手法である数理モデルの考え方を講義する。講義においては、具体的な対象として株価変動の2項モデルを中心に扱い、オプションの価格付けや複製ポートフォリオの構成を扱う。必要となる確率論の基礎事項についても講義中に解説する。		
	確率論基礎	世の中にはランダムな現象が多く存在する。確率論は様々なランダムな現象を数学モデルに定式化するための重要な理論である。この授業では、初等確率モデルで記述される具体例の紹介に基づき、確率論における基本的な諸概念、例えば、確率変数、確率分布を解説し、それから期待値、分散、標準偏差なども説明し、演習問題を通じ、理解度を高める。なお、それらの応用として、確率変数数列の収束に関する話題を紹介し、独立同分布な確率変数数列に関する基本定理、大数の法則や中心極限定理を紹介する。	隔年	
	公共経済学	政府の財政をテーマに、その経済学的な分析について解説する。主に政策の機能等を捉える「理論」を中心に扱い、政策の意義や留意点について考察する。家計・企業などの自由な取引に基づく経済社会の中で、政府の果たすべき役割として「効率的資源配分」「所得再分配」「経済安定化」(財政の3機能)を担うことが求められる。政府はなぜこれらのことを担うべきなのか、またその目的を達成する上でどのような政策手段が求められるかなどについて扱う。		
	経済学演習 I	経済学演習 I は、少人数の演習クラスに分かれて担当教員の指導のもとに、演習形式で行われる。2年次後期から始まるこの演習は、3年次の「経済学演習 II」、4年次での「卒業論文」へと繋がる少人数指導の重要な入口と位置づけられているので履修が強く推奨される。各演習では、担当教員の専門分野に沿って演習のテーマが設定され、その分野の専門的知識を身に付け、3年次の経済学演習 II での演習論文作成のための基礎固めすることが教育目的となる。 経済学演習 I を担当する各教員が取り上げるテーマは次の通りである。 (1 柳町晴美) この演習では、産業発展と自然環境保全に関する様々な課題を取り扱う。持続可能な発展のために、地域で問題となる事例について地域調査、オープンデータを活用した分析などにより、報告と討論を行う。 (2 金早雪) この演習では、アジア等の新興諸国の経済発展や開発政策について、それぞれの政治体制や社会変化との相互関連のもとで考察する。具体的にはASEANの経済統合、中国の外資導入戦略、韓国・台湾の民主化・社会変化と社会保障政策、IMF・世界銀行や日本の開発援助政策などから文献・論文または英字記事などを選んで輪読し、報告と討論を行う。 (① 山沖義和) この演習では、我が国のブルーデンス政策や金融政策など主として金融分野の諸課題について取り上げます。財務省・金融庁等における行政経験を有する教員と一緒に金融分野に関する文献輪読とともに、日本経済の直面する課題についてグループ発表・グループディスカッションなどを通じて自らが考える力を養わせる。また、夏休みには官公庁・企業等を訪問する合宿を予定している。 (4 徳井丞次) この演習では、日本経済を巡る様々な課題を取り扱う。若年者の雇用問題、団塊世代の定年、人口減少、社会保障、中小企業論、生産性、大災害の経済的影響、世界金融不況、国際通貨制度、マクロ経済など幅広いトピックのなかから文献を選んで輪読し、報告と討論を行う。		

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	リスク分析コース専門科目 I	<p>経済学演習 I</p> <p>(5 西村直子) この演習では、近年の経済学研究において経済実験手法が果たす役割について学習する。個人が経済活動を評価する際に仮定される効用関数本体の実測から始まり、複数の人間が関与するゲームの状況における行動の観測を経験してみる。また、それらの測定結果が、既存の経済学理論とどのような対応になっているのか、文献を参照しながら、現在の行動・実験経済学での論点について、グループによる報告と討論を介して学習する。</p> <p>(6 椎名洋) この演習では推測統計学の基本を再確認する。授業の「統計学Ⅰ」「統計学Ⅱ」の内容を再度勉強しながら、練習問題を解き、その解法をプレゼンしてお互いに確認し合う。さらに、統計プログラミング言語「R」の基礎的な使用法を学び、これを使って実際のデータに統計手法を応用する。</p> <p>(7 廣瀬純夫) この演習は、ミクロ経済学の基本的な考え方を身につけ、“経済学的視点から物事を考えるセンスを養う”ことを目的とする。目指すところは、目先の現実にとらわれず、物事の全体像を認識して、問題解決の方向性を考えるセンスを身に付けることにある。同時に、ミクロ経済学の理論が現実経済にあてはまるかどうかを検証する作業として、統計分析の基礎的なテクニックを、Excel等を用いて学習する。</p> <p>(8 井上信宏) この演習では、社会保障、社会福祉、生活問題といった社会政策の課題群から研究テーマを選定し、グループワークによる文献調査、社会調査、収集データの分析方法を体験的に学ぶことになる。</p> <p>(9 吉村信之) 演習Ⅰでは、経済理論および日本経済・世界経済の現状分析を主なテーマとして、広範な文献を輪読し、報告と討論を行う。演習で取り扱う文献は、①経済学の理論的文献・古典的著作、②現代の日本経済・世界経済に関する書籍、であり、またそれらに加えて、合宿などにおいて③経済学に隣接する分野——社会学その他——の文献、等も取り上げる。</p> <p>(② 関利恵子) この演習では、会計全般（財務会計・管理会計）の理論を報告と議論形式で学んでいく。そのうえで、関心のあるテーマについて文献検索を行ない会計への知識を深めていく。さらに実際の企業分析も行い経営と会計の関連についても議論していく。</p> <p>(③ 岩田一哲) この演習では、経営学、特に、従業員の行動に関する課題を取り扱う。仕事へのモチベーション、リーダーシップ、ストレス、キャリアといった従業員の組織内の行動の検討が中心である。従業員の行動にまつわる特定の課題を、チーム単位と個人単位の両者の方法で報告をしてもらう中で、演習論文を作成するための基礎的な枠組みを確立してもらう。</p> <p>(12 武者忠彦) フィールドワークにもとづく論文執筆のため、文献や資料の検索方法、インタビュー実習、グラフィックソフトを用いた作図、GIS（地理情報システム）実習、文章構成の技法などの基本的なスキルを身につける。</p> <p>(13 増原宏明) この演習では、医療経済を巡る様々な課題を取り扱う。医療・介護保険、診療報酬制度と薬価、受療行動の経済分析、供給者誘発需要と医療機関の行動、医療専門職の労働市場、医療・介護制度の国際比較、医療計量経済学など幅広いトピックのなかから文献を選んで輪読し、報告と討論を行う。</p> <p>(④ 青木周平) この演習では、学生は、経済成長、所得格差、政策などのトピックの中で、各自が重要だと考える課題を設定し、その課題に関する既存研究の調査を行う。その上で、既存文献で明らかになっていない問題を整理する。課題に関連したデータの収集も行う。ゼミでは、これらに関する報告と討論を行う。あわせて、分析のために必要な統計手法やソフトウェアなどに関する勉強会も行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	リスク 分 析 コ ー ス 専 門 科 目 I	<p>経済学演習 I</p> <p>(15 大野太郎) 公共経済学・地方財政に関するテキストを用いて輪読を行う。各回の授業では、まず報告者が当日の内容をレジュメにまとめて報告する。次にコメンテーターが報告内容に関連するコメントや質問を行い、最後に全員でディスカッションを行う。</p> <p>(16 海老名剛) この演習では、企業の経営戦略（産業組織論、ゲーム理論、経営学）および競争政策（独占禁止法）の基礎について学習する。目標は、2年次最後の春休みに演習論文のアウトライン5,000字、および文献研究5,000字の計10,000字からなるプロポーザルを作成することである。そのため、上記のテーマに関する文献の輪読および討論を行う。またプロポーザル作成の練習のため、夏休みにグループで課題に取り組み、グループ発表を行う。</p> <p>(17 加藤恭) この演習では、ファイナンス・金融工学における入門的なトピック、及びその理解に必要な数学について、テキストの輪読・ゼミ発表等を通じた学生主体の学習を行う。</p> <p>(⑤ 矢部竜太) 計量経済学の上級理論を学んだり、実際のデータを用いた実証分析を行う上で必要となる基礎的な統計学を身につけるためにテキストの輪読を行う。受講者は担当箇所の報告を行い、演習問題を各自解く必要がある。また英語の文献を読み解く能力が研究を進めていくために必須であるため、テキストは英語のものとする。</p> <p>(⑥ 金本圭一朗) この演習では、環境経済学の文献を輪読し、環境経済学の研究を行う上で、用いられている手法を学ぶ。さらに、受講者が各章を報告し、全体で討論を行うことで、環境経済学における専門的知識を身に付ける。具体的には、産業連関分析、ライフサイクル評価、貿易と環境等に関する専門的知識を学ぶ。</p>	
		経済学演習 II	<p>経済学演習 IIは、少人数の演習クラスに分かれて担当教員の指導のもとに、演習形式で行われる。各演習で取り上げる分野の専門的知識を身につけ、その知識を前提にして学生各自が選択した研究テーマに沿って研究発表と討論を行い、演習論文を作成する。このプロセスを通じて、研究テーマの設定、データや資料の収集と分析、口頭発表でのプレゼンテーション、論文の作成を経験させることによって、問題発見・解決の能力と口頭及び文章でのコミュニケーション力を養うことを教育目的とする。</p> <p>経済学演習 IIは、2年生後期に履修する経済学演習 Iを継続して、同じ担当教員の演習を受講するのが原則だが、合理的な理由がある場合には学生の申し出により、別の担当教員の演習に移ることを許可する。</p> <p>経済学演習 IIを担当する各教員が取り上げるテーマは次の通りである。</p> <p>(1 柳町晴美) この演習では、持続可能な発展のために、地域で問題となる事例について、地域調査、オープンデータを活用した分析などから地域を比較し、環境問題解決に繋がる課題を発見し、演習論文作成に取り組む。</p> <p>(2 金早雪) この演習では、アジアや新興諸国の経済を巡る様々なトピックをとりあげて報告と討論を行い、演習論文の研究テーマ発見に繋げる。学生は演習論文作成のため、普段からアジア等の経済情報をフォローし、できれば実際に出かけたりもして、論文のテーマを定めて中間発表を2回程度は行い、他の演習参加者からの質問、コメントなども参考にして演習論文を完成させる。</p> <p>(① 山沖義和) この演習では、行政経験を有する教員の指導の下、ブルームズ政策や金融政策など金融分野を中心とした日本経済の直面する諸課題に関して報告・討論を行い、演習論文の研究テーマを決めるとともに、テーマ発表・中間発表等を通じて、指導教員だけでなく他の演習参加者からの質問・コメントも参考にしつつ演習論文を完成させる。また、夏休みには官公庁・企業等を訪問する合宿を予定している。</p>

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	リスク分析コース専門科目 I	<p>経済学演習 II</p> <p>(4 徳井丞次) この演習では、日本経済を巡る様々なトピックをとりあげて報告と討論を行い、演習論文の研究テーマ発見に繋げる。学生は演習論文作成のため、年間を通じて何回かテーマ発表、中間発表などを行い、指導教官だけでなく他の演習参加者からの質問、コメントも参考にしながら演習論文を完成させる。</p> <p>(5 西村直子) この演習では、行動・実験経済学で論点になっている最新トピックを選び、自ら実験に参加してデータを採取する。理論分析から実験仮説を構築する方法を学び、統計学手法を利用したデータ分析が理論検証にどのように活かせるのかを、グループワークを中心に学習する。最終的には、自らデザインした実験に基づいて演習論文を書くことを目標とする。それに向けて、テーマ発表や中間報告を実施する。</p> <p>(6 椎名洋) この演習では、統計学が応用される様々な分野ごとのより専門的なデータ分析の手法を学ぶ。年によって、テーマは違うが、機械学習、多変量解析、ファイナンスといった分野の研究を予定している。理論の把握とともに「R」を使った実際のデータの解析を行う。</p> <p>(7 廣瀬純夫) この演習では、演習 I で習得した、ミクロ経済学の応用による経済現象の分析手法と、統計的分析テクニックを駆使して、1年間に2～3のテーマについて、研究分析を行う。夏休みには、他のゼミとの合同報告会を行い、分析内容の改善の余地について、報告会参加者の中で議論を行う。取り上げたテーマの中で、もっとも完成度の高いものを演習論文としてまとめる。また、ゼミ参加者の関心に応じて、産業組織論、労働経済学、金融論などミクロ経済学の応用分野の学習も行う。</p> <p>(8 井上信宏) この演習では、社会保障、社会福祉、生活問題といった社会政策の課題群から個人の研究テーマを選定し、文献調査、社会調査、収集データの分析、討論を重ねて解決に向けた政策提言を導きだし、それらを演習論文としてまとめるまでを体験的に学ぶことになる。</p> <p>(9 吉村信之) 演習 II では、演習 I と同様、経済理論および日本経済・世界経済の現状分析を主なテーマに、文献の輪読および報告と討論を行う。演習 I に所属する学生と同じ文献を輪読し、教員および演習 I の学生からの質問等に解説・解答を与え、最終的には各自のテーマを設定して演習論文を作成することを目標とする。年度を通じてテーマ発表や演習論文の中間報告を行う。</p> <p>(② 関利恵子) この演習では、会計全般の問題について議論・報告をしていく一方で、演習論文のテーマ選びも進めていく。年間を通して、演習論文執筆のための指導を実施する。論文成果については、他研究室を交えて成果報告会を実施する。</p> <p>(③ 岩田一哲) この演習では、従業員の行動に関する課題について報告ならびに討論を行い、演習論文を執筆することを目的とする。ここでは、通常の演習ならびに中間発表会などの方法で学生各人が卒業論文の内容について発表する中で、演習の内外からの質問等を参考にしながら、演習論文を作成してもらいたい。</p> <p>(12 武者忠彦) 経済学演習 I で身につけたスキルをもとに、調査対象地域に関する研究テーマを設定し、問いと仮説を立て、複数回にわたるフィールドワークを通じてデータや資料を収集し、論文を執筆する。</p> <p>(13 増原宏明) この演習では、医療経済を巡る様々なトピックをとりあげて報告と討論を行い、演習論文の研究テーマ発見に繋げる。学生は演習論文作成のため、年間を通じてテーマ発表、データを用いた実証分析の中間発表を行う。指導教員だけでなく他の演習参加者からの質問、コメントも参考にしながら演習論文を完成させる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	リスク分析コース専門科目 I	<p>④ 青木周平) この演習では、学生は、経済学演習 I で行った作業をもとに、既存文献で明らかになっていない問題を分析し、その結果を演習論文の形にまとめる。学生は演習論文作成のため、分析の内容に関して発表を行う。演習参加者からの質問、コメントを参考にして、演習論文の内容をブラッシュアップさせる。</p> <p>(15 大野太郎) 学生各自が関心のある研究テーマを設定し、それに関する文献にあたって考察を深める。各回の授業では、まず報告者が当日の内容をレジュメにまとめて報告する。次にコメンテーターが報告内容に関連するコメントや質問を行い、最後に全員でディスカッションを行う。学生はこれらの取り組みを通して調査・分析の成果をまとめ、卒業論文を完成させる。</p> <p>(16 海老名剛) この演習では、企業の経営戦略および競争政策を巡る様々なトピックをとりあげて報告と討論を行い、演習論文の作成に繋げる。学生は演習論文作成のため、年間を通じて何回かテーマ発表、中間発表などを行う。また、学生同士のピア・レビューを行い、指導教官だけでなく他の演習参加者からの質問、コメントも参考にしながら演習論文を完成させる。</p> <p>(17 加藤恭) この演習では、数理ファイナンス・金融工学に関して、学生の希望に従い演習論文の研究テーマを設定し、演習論文作成のための報告や討論を行う事で演習論文の完成を目指す。また研究内容に関する口頭発表を都度行い、プレゼンテーション資料の作り方や発表の仕方についても学習する。</p> <p>(⑤ 矢部竜太) 前期では計量経済学の様々な理論や分野を知ってもらうために洋書の輪読を行う。後期では参加者の関心に応じてグループによる実証研究を行う。まず、テーマを決定するために興味のある先行研究を報告し、議論を通じて研究分野の理解を深める。その後、実証分析を行い、結果の報告と議論を行う。</p> <p>(⑥ 金本圭一朗) この演習では、環境問題に関するトピック、例えば生物多様性と貿易を設定し、そのトピックについてグループ別に環境経済学に関連した背景、研究手法、主要な結果を報告し、全体での討論を行う。そこで得られた知識をもとに、演習論文の課題の発見へと繋げ、演習論文を完成させる。</p>	
	健康・スポーツ・自然演習 I	<p>本演習は、「心身の積極的健康づくり」をテーマに、健康づくりのための運動・スポーツ、また自然環境の中でのレジャー諸活動の理論と実践について演習形式で理解を深めつつ、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力、コミュニケーション能力、そしてコーディネート力を身につけることを目的とする。学生は、健康づくりのための方策を如何にコーディネートすれば人々に実践してもらえるかを調査・研究・報告をし、議論を行うことを通じて、健康・スポーツ・自然に関する理解を深める。</p>	演習 20時間 実習 20時間
	健康・スポーツ・自然演習 II	<p>本演習は、健康・スポーツ・自然演習 I に引き続き、「心身の積極的健康づくり」をテーマに、健康づくりのための運動・スポーツ、また自然環境の中でのレジャー諸活動の理論と実践について演習形式で発展的な理解を深めつつ、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力、コミュニケーション能力、そしてコーディネート力を身につけることを目的とする。学生は、健康づくりのための方策を如何にコーディネートすれば人々に実践してもらえるかを調査・研究・報告をし、議論を行うことを通じて、健康・スポーツ・自然に関する理解を深める。</p>	演習 20時間 実習 20時間

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	リスク分析コース専門科目Ⅰ	卒業論文	学生には大学での勉学の集大成として卒業論文の作成が推奨される。応用経済学科の学生の卒業論文作成の指導は、原則として「経済学演習Ⅱ」の指導教員が務める。4年次に進級した学生で卒業論文の作成を希望するものは、年度の始めに「卒業論文」の履修登録を行い、指導教員と相談して卒業論文作成計画書を作成する。学生は、この計画書のスケジュールに従って卒業論文の進捗状況を定期的に指導教員に報告しながら指導を受け、卒業論文を完成させる。卒業論文の形式要件としては、2万字程度を原則とし、研究領域・内容の性格上字数がこの目安から大きく乖離する場合には、卒業論文作成計画書を作成する段階で事前に指導教員の承諾を得ておく必要がある。その他書式の詳細については、学生便覧で指示する。	
	リスク分析コース専門科目Ⅱ	医療経済学	医療経済学は大きく、制度、経済理論、実証研究の3つから成り立つ。まず制度では、医療には多くの規制がかかる。これらを整理しながら、医療制度の特徴を把握する。次に、医療制度のもとでのインセンティブ構造が決まり、資源配分が歪むかどうか、経済理論によって確かめる。最後に、医療制度の下、経済理論によって説明される行動が実際に起こっているかについては、実際のデータを用いて検証しなければならぬ。マイクロ計量経済学の手法を用いて、実証分析で確かめる。	
		医療制度論	医療は情報の非対称性を回避することができないので、さまざまな規制が存在する。そこで本講義では、医療サービスの需要側、供給側に対する規制を紹介し、それらを整理しながら望ましい医療制度のあり方を考察する。具体的には、需要側の規制として、まず全国民が強制的に加入させられる医療保険制度と、高齢者の医療制度の仕組みを概説する。次に、供給側に対して課される規制として、医療法・医師法、医療職の免許制度と、施設基準、診療報酬制度・薬価基準を議論し、それらの長所短所を整理する。	
		社会政策論	社会政策とは、個人のみでは解決できない社会問題を解決するための公共政策であり、社会保障、社会福祉、労働問題、労使関係をはじめ、教育学やジェンダー研究、生活問題といった課題群（カテゴリー）から構成されている。この授業では、少子高齢化が社会問題化することになった1970年代以降を射程に、主に日本における社会問題の実情を知り、問題解決に向けた社会政策の制度体系を学ぶことになる。 この授業は、1.社会政策が直面する少子高齢化の現状と課題、社会政策の体系、福祉国家の類型を概観し（社会政策概論）、2.典型的な労働問題を取り上げながら労働市場政策を学び（労働問題と社会政策）、3.制度ごとに構成された生活支援の基本的な枠組みを学ぶ（生活保障と社会政策）、以上の3部構成となる。	
		社会保障政策論	現在の日本において、政府支出の最も大きな割合を占めているのが社会保障関係費であることは良く知られている。社会保障に限らず、公共の福祉にかかる様々な社会的サービスは、私たちが日常生活の中で利用している社会のセイフティネットといえるしくみである。 この授業は、日本に暮らす私たちの日常生活におけるリスクを管理するセイフティネットのしくみ、すなわち、社会保障、公衆衛生、居住、教育など、公共の福祉にかかるテーマをとりあげ、それぞれの制度が生まれた背景を歴史を遡って整理し、その政策効果を考える。 特に、社会保障政策の理念や機能、制度枠組みなど、基礎的な知識を学んだ上で、公的年金、医療保障制度、介護保険制度、公的扶助、社会福祉などを取り上げて、それぞれの政策が策定された背景、現状と現代の課題を学ぶ。	隔年
経営組織論	この講義の達成目標は、経営組織の基礎的な知識の習得と、習得した知識をもとに、組織での意思決定や実際の活動を円滑に行う方法を考えることの2点である。講義ではまず、組織とは何かといった根本的議論からスタートし、組織図を中心とする組織構造、従業員の意識を中心とする組織過程、組織の性格を表す組織文化、組織が変わる瞬間を捉える組織変革などを検討する。さらに、実際の組織での仕事を想定したチームでの仕事についての内容を深めることで、より実践的な講義を行う。			

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	リスク分析コース専門科目II	都市政策論	本講義は、人口減少、脱工業化、環境志向、グローバル化、東京一極集中といった時代の趨勢のなかで生じている現代の都市問題に対して、どのような都市政策が望ましいのか論理的に思考できるようにすることを目的としている。全体は三部構成となっている。第一部では、都市政策がなぜ必要となったのかについて、市場経済の出現と都市問題の拡大を背景として近代都市計画が成立したことを説明し、官僚主義や計画主義によって多様に展開していくことを、海外諸都市などを事例に整理する。第二部では、戦災復興を契機とした都市計画によって、先進国の諸都市が近代化していく過程について、主に日本の都市政策を中心に説明する。第三部では、現在の都市政策の趨勢について、コンパクトシティやクリエイティブシティなどの議論をふまえて説明する。	
	地方財政	日本の地方財政をテーマに、その経済学的な分析について解説する。地方財政に関する「実態・制度」と、政策の機能等を捉える「理論」双方を扱い、政策の意義や課題について考察する。まず家計・企業などの自由な取引に基づく経済社会の中で「政府の果たすべき役割は何か」（財政の3機能）、さらに「国と地方自治体の役割分担をどのように行うべきか」（機能配分論）に関して基本的な考え方を整理する。その後、歳出面では地方自治体が担うべき政策、歳入面では地方自治体に賦与されるべき税源や、目的に応じた補助金のあり方などについて扱う。		
	経済地理学	私たちの生活や経済活動が営まれる場として、きわめて重要な意味を持つようになった都市について、その立地の動態と理論を学ぶ講義である。全体は二部構成となっている。第一部では、都市の立地について、経済（比較優位と集積の経済）、政治（空間の生産をめぐる政治）、技術（交通・建築・計画）という3つの側面から説明する。第二部では、チューネン・アロンゾモデルやウェーバーの工業立地論、都市システム論などを用いて、都市に立地する個別の産業の動態について学ぶ。	隔年	
	自然環境概論	環境保全、持続可能な開発のための地域政策や企業活動に必要な自然環境に関する知識の習得を目指す科目である。主に、気候環境（世界の気候、日本の気候、地球温暖化）に関する領域を扱う。気候の地域差をもたらす要因について基礎的な知識を習得し、気候の特徴をグローバルスケールからより小スケールへと解説し、各スケールにおける地域差、地域差をもたらす要因について理解を深める。日本の気候、長野県の気候の特徴も概観する。地域によって気候は多様であるとともに、共通性もあること、気候は人間生活にどのように影響するのか、逆に、人間活動が環境を改変し、ヒートアイランド現象や地球温暖化をもたらしたことについて考察する。		
	自然環境フィールドワークの理論と実践	われわれ人間は、いわゆる自然という環境からたくさんの恩恵を受けている。そのことが自然環境にとって、また人間にとってどのような意味をもつのであろうか。この講義では、「自然環境の中での人間のあり方」、「自然環境とは」をテーマに、「自然環境における人間の営み」について考えることをねらいとしている。具体的には、自然環境の中での人間の諸活動が及ぼす影響（環境問題）、また自然環境からの恩恵（レジャー活動や心身の健康づくりへの寄与）について考える。講義は自然環境と人間の関係を実際に体感するために、信州の自然を活動場所として休日を利用したフィールドワークを実施する。フィールドワークにあたっては、その計画立案から実施にいたるまでグループワークにより進め、それに必要な知識・態度・ルール・マナーを学習する。そしてフィールドワークから感じとったことなどをテーマにグループでの研究発表を行い、自然環境と人間の営みについて理解を深める。		
	経営労務論	この講義の達成目標は、経営労務の基礎的な知識を習得し、経営労務の問題を解決する方法論を考えることにある。経営労務は、企業だけでなく、医療や福祉政策などのより広範な社会との関係も深い。例えば、従業員のストレスや長時間労働は、過労死・過労自殺などの過労による疾患に結びつき、医療との関係が深い。また、従業員の待遇に関する議論は賃金や福利厚生に制度に関係するだけでなく、セーフティネットなどの福祉政策にも影響を与える。したがって、経営労務の視点から広く社会への問題にもアプローチする。	隔年	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	リスク 分 析 コ ー ス 専 門 科 目 II	財務会計	財務会計は、企業の経営成績や財政状態について財務諸表を通じて、企業外部の利害関係者に報告することを目的としている。本講義では、財務会計の機能、企業会計を取り巻く制度や会計基準について説明したうえで、適正な期間損益計算をするための収益と費用の認識・測定や利益測定、資産評価の基準などの概念について学ぶ。そのうえで、資産、負債、純資産の各項目や連結財務諸表などをとりあげ、企業会計の仕組みの全体像を把握していく。 また、会計は経営と密接な関係にある。そこで本講義では、企業経営と会計との関係がイメージしやすいように、適宜、企業事例や新聞記事を取りあげて説明する。なお、本講義履修にあたっては、「簿記・会計入門」の履修を前提とする。
	管理会計	管理会計は、財務会計と異なり、主に企業内部の経営者や管理者が利用する会計である。具体的には、企業をマネジメントするための会計が管理会計であり、企業経営と管理会計は表裏一体な関係にある。管理会計の主な手法は、業績管理、コスト管理、意思決定である。本講義では、管理会計手法の理論的習得を目指す一方で、実際の企業経営にどのように管理会計が関わっているのかを事例を取り上げながら説明する。	
	公認会計士実務	公認会計士実務は、現場で活躍する公認会計士によって、企業を取り巻く会計監査に関する実践的な講義が展開される。講義内容は、公認会計士法及びディスクロージャー制度の概要、会計監査に必要な監査論と監査実務について、公認会計士の具体的な業務（監査・FA・税務）などである。	
	会社法II	本講義は、会社法Iに続いて、わが国の会社法のうち、株式、新株予約権、社債に関する法ルールを解説するものであり、株式会社の資金調達と法ルールの基本的な関わりを受講生に理解してもらうことを目的とする。 条文や判例の基礎的な内容を中心に説明するが、受講生が具体的なイメージをもって学習できるように、適宜、新聞報道や実際の紛争事例などを説明に組み込むことを予定している。なお、上場会社の資金調達は、金融商品取引法や取引所の上場規則によっても規律されるため、必要に応じて、これらの内容にも言及する。	
	行政学概論	この講義では、学習する対象をNational Government、そのうち国の行政の制度と運用を中心にすえている。国の行政の「制度」については、他の講義（憲法、行政法等）においても学ぶことになる。この講義においても「制度」を理解してもらうためのメニューを用意しているが、学習の重心は「運用」の方においている。 というのは、しばしば「行政とは法の執行である」という説明のされ方がなされるが、そうした定義のしかたは「行政」というものを理解するうえでまったく不十分なのであって、むしろ行政の運営は法令以外のルールー予算、計画、行政規則そして慣行に統制されているからである。 講義では明治維新、戦後改革に次ぐ「第三の改革」ともいわれている「中央省庁等改革」をはじめとする近年の行政改革を材料として扱い、省庁制、内閣制、稟議制、行政職員の裁量、行政責任等を検討する。	
	自治行政	地方分権推進一括法の制定にともなって地方制度の大改革が実現した。この分権改革のねらいは、都道府県や市町村の裁量の範囲を拡大することによって、地域の問題はその自治体、住民の力で自ら解決できるようなくみにしようというものである。 この改革によって、自治体がどういう仕事をどういうふうにするかによって、私たちの生活がよくなるか、そうならないかが決まるようになる、といっても必ずしも過言ではない。それだけに、私たちが今後、自治体にどうかかわっていくかということを考えることがより重要になる。 講義ではまず、地方自治の基礎知識を身につけてもらう。そのうえで、これまで地方自治のあり方の何が問題とされているのかを明らかにする。また、地方自治に関連する最近の事件を取りあげ、私たちの身の回りに起こっていることが、自治体とどのようにかかわっているかを検討する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	リスク分析コース専門科目II	<p>多様な価値と利害を調整し、どのように社会の課題を解決していくか。複雑な公共政策の課題を理解するために必要な政治学の基礎的な知識と概念を理解する。社会の一員として、投票行動や様々な社会的な活動に主体的に参加するために必要な政治・政策分析能力、メディア・リテラシーを向上させる。</p> <p>社会科学とは何か。政治学とはどのような特徴を持っているのか。まず、政治権力、公共性、デモクラシーなど、政治学の基礎的な概念を解説する。次に政治のルール（制度）と政治主体に関する問題を考察する。さらに経済・社会・外交政策など重要な公共政策課題を理解するための基礎知識を整理する。</p> <p>レスポンスシートを利用し、授業の理解度を確認し、質問を把握する。論述試験を課し、自分の考えを適切に文章にまとめる能力を向上させる。</p>	
	国際政治	<p>国際社会の課題である貧困と開発、環境問題、平和構築などのグローバル・イシューズについての基礎的な知識を身につけ、その歴史的経緯、解決への模索及びその問題点について理解を深めていく。講義を通じて、時事問題への関心を高め、基礎的な学習能力と問題解決のための思考力を養う。全体は、以下の3つに大きく分けられる。まず第I部では、貧困と開発に関する問題について理解を深める。第II部では、紛争と平和に関する課題について考察する。第III部では、グローバル・イシューズに対応するための国際社会のあり方やグローバル・ガバナンスの課題に焦点を当てる。レスポンスシートやグループ・ディスカッション、発表を取り入れ授業への参加を促す。</p>	
	国際政治演習	<p>国際政治経済及び国際開発の分野について、演習形式で発展的な理解を深める。さらにプレゼンテーション能力やディスカッション能力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。学生は、国際社会の課題に関する図書及び雑誌記事・論文などの日本語及び英語文献や報告書を元に、調査・研究、報告をした上で、議論を行うことを通じて、国際政治経済及び国際開発分野に関する理解を深める。外部講師なども依頼し、実務的な能力への理解を深め、インタビュースキルなども身につける。また、英語による学習能力やコミュニケーション能力の向上を目指す。</p>	
実践教育科目	実証日本経済論	<p>この授業は、日本経済のデータを使った分析演習を行いながら、利用するデータへの理解、分析ツールの習得、日本経済の特徴への適切な理解を同時に獲得することを目指す。授業で扱うテーマには、マクロ経済指標からみた日本経済の構造変化、財政再建の条件、成長会計と成長戦略目標の達成条件、地域間格差、産業連関による産業波及、企業規模間格差などを含む。授業で取り上げるデータには、国民経済計算、財政の現状、産業連関表、法人企業統計などのほかに、授業担当者が作成に参加し一般公開されている2つのデータベース（日本産業生産性データベース、都道府県別産業生産性データベース）も使う。授業の進め方は、データと分析方法を説明する回と、前回出された宿題に沿って学生自らがデータ分析を行ってきてそれを発表する回を交互に行い、そのなかにより発展的な分析事例の紹介を差し挟む。学生が宿題に使う分析ツールとしては、ほとんどのパソコンに標準装備されているExcelと、統計分析のためのフリーソフトウェアであるRを使う。</p>	
	行動・実験経済学	<p>実験経済学の手法を理解した上で、理論検証に適した実験をデザインできるようにすることを目的とする。実験で採取したデータを使い、それをどのように統計的に扱うか、そこからどのような結果を読み取れるかを学習し、自分で適切な統計手法を選んで分析できるようにすることを目標とする。</p> <p>実験経済学では、実験室のなかで経済モデルと整合的な状況を作り、そこで実験参加者に行動してもらい、それをデータとする。その結果に基づいて、理論モデルと現実との対応関係を把握し、理論をより有効に現実へ応用させるてがかりとする。</p> <p>この授業はグループワークを使った演習形式で行う。各自PCを利用し、実験実施及びデータ解析を体験する。</p>	
	計量分析	<p>計量分析では、線形回帰モデルなどの基礎的な計量経済学の理論を学んだ学生に対し、実証分析を行う上で必要な発展的な計量経済学の理論とコンピュータを用いた分析手法内容を扱う。いくつかの実証分析を紹介し、そこで扱われている統計学の手法とRと呼ばれる統計ソフトを用いたプログラミングについて講義する。受講者は統計学の演習問題を解き、プログラムを書くことが求められる。この授業では、発展的な統計学の理論を理解し、シミュレーションや実際のデータの分析を自力で行う能力を身につけることを目標とする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 実践教育科目	地域調査法	本演習では、地域活性化や地域的課題の解決の基礎として、地域の実態を分析する手法を身につけることがねらいである。全体は二部構成となっている。第一部では、地域分析の概念や公開統計の入手方法を学んだ上で、地域統計データを利用して、コーホート分析やシフトシェア分析、修正ウィーバー法などの分析手法を学ぶ。第二部では、実際に地域に出向いて、観察調査や関係主体へのインタビューなどを通じて、都市の構造や経済活動の実態を理解するためのフィールドワークを行う。	隔年 演習 27時間 実習 6時間
	地域包括ケアシステム論	医療・介護の連携による高齢者の在宅介護の推進は、持続可能な医療保険制度、介護保険制度を作るだけではなく、サービスを利用する高齢者等のQOL向上のために欠かせない取り組みであり、その実現には「他職種連携」が重要だと指摘されている。 この授業は、「地域包括ケアシステム」に直接関わる、行政、医療、介護、地域福祉等の支援セクターが抱える課題をグループワークでリサーチし、そこで得られた仮説を携えてそれぞれのセクターに参与観察に入り、それらの成果をもとにグループワークを通じて課題の解決策をまとめ、プレゼンテーションを行なう、演習形式をとる。 この授業は、事前学習(5回)+現場実習(1日4時間を3日間)+事後学習(5回)の構成である。事前学習では、実習先の担当者による講義、グループワーク等を実施する。現場実習は、日中の就業時間中に実習現場に入り参与観察を行なうと共に、担当者との意見交換の中で現場の抱える課題を明らかにする。事後学習は、グループワークでそれぞれの施設等の課題を整理、その解決策を考え、プレゼンテーションを行なう。 担当者2名(8 井上信宏, 13 増原宏明)は、事前学習、事後学習を中心に、この授業全般の統括運営を担う。 確保済みの実習先は、松本市役所(3名)、松本市社会福祉協議会(9名)、信州大学医学部附属病院(6名)、国立病院機構 まつもと医療センター(3名)、相澤病院(3名)である。	隔年 共同 演習 24時間 実習 12時間
	地域社会統計分析	ヘルスケア領域をはじめ、データ分析の有効活用可能な分野で活躍できる人材育成のために、保健・医療政策などに関連する地域社会統計(人口動態統計、国勢調査など)の情報処理能力を開発することを目標とする。すなわち、GIS(地理情報システム)利用のための知識の習得、GIS活用のための実践的な技能の育成を目指す科目である。具体的には、特定地域を対象とした空間情報データの入手、オープンソースGISを用いた情報処理、結果分析、分析結果のプレゼンテーションを講義・実習を交えながら実施する。	隔年
	経済規制の実務	財務省、経済産業省、長野県庁、松本市役所などで、規制の策定・実施に携わる実務家を招き、事例紹介・意見交換を行うことで現実の規制の実務を考察する機会を提供する。規制の経済的役割について、講義で得た専門知識と規制の現場で必要となるスキルとの関係を確認し、専門知識を実務へ応用する術を学習することを目的とする。授業の進行は、最初に具体的事例紹介のために実務家を招き、意見交換等を行う講義を5回程度実施する。そして、事例紹介等で得た規制の現場の情報を基に、規制の実施による問題改善の可能性をグループワークで検討・整理する。検討結果を最終レポートとしてまとめ、研究報告を行う。研究報告には、外部講師や報告に関連する機関のスタッフ等を招く予定である。	
	会計事例	財務会計で学習した基礎知識をもとに、EDINETなどから有価証券報告書を入手し、定量・定性情報の両面から企業分析を行うことで理論の理解力を高め、近年盛んに発生している粉飾決算といった企業事例についても分析する。さらに社会人になってからは企業運営・経営に関連した管理会計の理論・実践の知識も不可欠であり、会計理論と実務の密接な関わりを理解するため、会計事務所での実習も実施する。	隔年 演習 27時間 実習 6時間
法学系選択科目	憲法	日本国憲法の「第三章 国民の権利及び義務」に関する基礎理論を取り扱う。この講義では、各種の基本的な人権を保障するために、日本国憲法がどのような構造を有しているのかを体系的に理解させることを目的とする。具体的には、次の二つのことに重点を置く。第一は、基本的な人権に関する基本条文、基本概念を正しく理解させることである。第二は、基本的な人権を保障するための構造に対する理解を通して、立憲主義という考え方に対する理解を深めさせることである。民法、刑法の基礎知識があることを前提に進める。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 法学系 選択科目	統治機構論	日本国憲法の規定する順序に沿って、日本国の統治構造を解説する。憲法の統治機構の条文解釈は、憲法の抛ってたつ原理からその規範内容が導きだされなければならないが、その原理の理解は学説の立場によって異なり、その差異が個々の条文解釈の差異となってあらわれる。重要なのは、統治機構の条文解釈は、解釈者の理解する憲法原理と整合しなければならないということである。受講生が、代表的な憲法学説と判例の立場を十分に理解し、日本国の統治構造を立憲主義の観点から整合的に解釈する能力を身につけることができるように配慮する。	
	行政救済法	行政法に属する領域のうち、行政救済法の部分を取り扱う。具体的には、行政訴訟の仕組みについて行政不服審査法、行政事件訴訟法の基本的な考え方と条文を理解させ、さらに国家補償の仕組みについて国家賠償法等の基本的な考え方と条文を理解させることを通じて、国民の立場から違法・不当な行政活動を是正し、行政活動に起因する損害・損失を填補するためにいかなる手法を取るべきか、行政の立場からこれにいかに対応すべきかについて具体的場面に即して考えられるようになることを目的とする。	
	民法総則	民法典第1編(民法総則)について講義する。民法に触れる最初の講義であることから、まず私法の一般法である民法の基本原則や基本的な概念に触れ、そのうえで、民法総則が規定する権利能力、行為能力、意思表示とその取消、代理、時効といった各制度について講義を行う。この講義は、この領域に関する条文・判例に基づく基本的な知識と法律的な考え方を修得することを目的とするものである。また、これらの概念や制度が、民法全体の中でどのような意義をも持ち、民法を扱う他の講義内容とどのように関連しているのかを理解し、民法の全体像を掴むことを目的とする。	
	契約法Ⅰ	法律効果の発生(権利変動)原因となる当事者間の合意を契約といい、民法には、13種類の契約類型が規定されている。この講義は、各種契約類型に共通する問題として、契約が拘束力を有するのはなぜか、契約が成立するための事実的条件は何か、債務者が契約上の債務を履行しなかった場合に債権者はいかなる措置をとり得るか等の諸問題について検討する。民法典の体系に則して言えば、この講義で扱う領域は、債権総則の一部(債権の目的、債務不履行に基づく損害賠償)と契約総則に相当する。民法起草過程における議論状況を踏まえつつ、歴史的背景と関連付けながら現在の解釈論を伝える。	
	契約法Ⅱ	我々の日常生活と密接に関わる民法の契約法のうち、契約各則の部分に置かれた諸制度を取り上げ、各制度の基礎にある考え方及び具体的な制度内容について解説する。具体的には、典型契約である贈与、売買、交換、消費貸借、使用貸借、賃貸借、請負、委任、寄託、組合及び和解を取り上げ、また、民法典に規定されていない契約も取り上げる。そして、各制度の基礎にある考え方及び基本問題を具体的な場面に関係付けて理解できるようになることを目標とする。	
	契約法Ⅲ	債権者が債務者に対して債権を有していたとしても、債務者がこれを弁済しない又は弁済するだけの財産を有していない場合には、どのようにして債権の回収を図るかが問題となりうる。そこで、民法上の債権回収に関わる諸制度を取り上げ、各制度の基礎にある考え方及び具体的な制度内容について解説する。具体的には、弁済、相殺、債権譲渡、債権者代位権、債権者取消権を取り上げ、主要な論点について設例を用いるなどして詳しく解説する。そして、各制度の基礎にある考え方及び基本問題を具体的な場面に関係付けて理解できるようになることを目標とする。	
	不法行為法	民法典第3編(債権)のうち、法定債権と呼ばれる法領域、すなわち第3章(事務管理)・第4章(不当利得)・第5章(不法行為)について講義する。民法体系におけるこの法領域の位置づけや基本概念を理解したうえで、条文・判例に基づく要件及び効果に関する基本的な知識を修得することを目的とする。また、この法領域においては判例が重要であることを踏まえ、とくに主要論点に関する判例については、具体的な事案内容や判例の変遷を把握し、そのうえで判例法理を理解することを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 法学系選択科目	担保法	一般の債権者は、債務者の資産状況の悪化により、債権を回収できなくなるリスクを負っており、このような債務者無資力のリスクに備える方法を担保という。この講義は、各種担保の成立のための条件、担保権者及び担保設定者間の権利関係、他人のために担保を引受けた者の地位等について検討する。民法典の体系に則して言えば、この講義で扱う領域は、債権総則の一部(連帯債務、保証)と、物権の一部(留置権、先取特権、質権、抵当権)に相当する。民法起草過程における議論状況を踏まえつつ、歴史的背景と関連付けながら現在の解釈を伝える。	
	民事執行・保全法	民事訴訟法で修得した権利の観念的形成過程についての基本的理解を前提に、判決等を債務名義としてなされる権利の事実的形成過程について、基本的な知識と理解を獲得することができるよう講義を行う。計15回の講義では、強制執行を中心に、担保権実行、執行の暫定的措置たる保全手続を取り上げ、この全体を通して、民法が規定する権利・義務が、民事訴訟手続を経て、現実にもどのように具体化していくのかを理解し、民事法全体についての体系的な理解と知見の獲得を図る。	
	刑法 I	刑法学の犯罪論のうち、総論(共犯、刑罰論を除く)および各論(個人の重要法益)を取り扱い、刑法の犯罪論の基礎を身につけることを目的とする。受講生が具体的にイメージしやすいよう、まず犯罪論の基本的な考え方を理解させた上で、刑法各論、刑法総論と講義を進める。授業では、判例や学説の検討を中心に行うが、受講生が講義を聞きながら主体的に考える力を養えるように、講義前には毎回問題を提示することとする。最終的には、判例と同種の事案解決だけでなく、未知の事案をも解決し得る思考力を獲得できるようにすることを目標とする。	
	刑法 II	刑法 I に引き続き、刑法 I で取り扱えなかった共犯論、刑法各論の残りと刑罰論について取り扱う。刑法 I では、単独犯を予定した構成要件の理解が中心となるが、刑法 II では、修正された構成要件である共犯について理解できるようにする。また、社会的法益・国家的法益や、犯罪論のゴールである刑罰論についても取り扱う予定である。刑法 II では応用力が問われる場面もあるので、必要に応じて刑法 I での基礎知識を確認しつつ、授業を進めることにしたい。また、刑法 I と同様、授業前に毎回問題を提示し、受講生の知識の定着と、主体的な思考力の獲得を目指す。	
	市民税法	所得税法、消費税法及び国税通則法から、一般的な市民生活の中で生じる租税法律関係に関する部分を取り上げ、基礎となる考え方を理解させることを目的とする。 包括的所得概念を基礎概念として視座に据え、事業所得と譲渡所得に対する所得税法の原則的な課税を理解させたい。市民生活に深く関わる給与所得や利子・配当所得に対する源泉徴収課税、寄附金、医療費や社会保険料などの所得控除、事業者と消費税の課税を理解させる。権利救済手続を中心に、租税手続法の全体像についても理解を得させる。	
	法人税法	わが国の法人税法のうち、課税標準及びその計算(第二編第一章第一節)における基本的事項を扱い、法人所得計算の基礎となる考え方を理解させることを目的とする。 企業会計における利益計算を法人所得概念の基礎としてイメージさせながら、二重課税や課税繰延べ、法人成りなど法人課税に固有な問題の存在を認識させ、実現主義と評価損益、資産概念と取得価額の機能、損金算入制限と課税ベース、損失控除と債務確定要件について、基本的な考え方を理解させる。	
	租税法実務	この授業は、関東信越税理士会長野県支部連合会との学術協定に基づき、税理士をゲスト講師としてオムニバス方式で講義を行うものである。 実務上の具体的な事例に関する租税法の適用関係について講義する。実社会では、一個の経済的取引について、所得税法、法人税法、相続税法が同時に適用され、様々な課税関係を生じさせることが珍しくはない。また、租税法適用の前提として、民商法の適用関係が問題となることも多い。この講義は、実務上の具体的事例においては、このように多面的な法適用の検討が必要であることを理解し、租税法や民商法の知識を統合し、法律問題についての総合的な応用能力、実践的な解決能力を身につけることを目的とする。 ゲスト講師のコーディネーターと成績評価は学部専任教員(34 池田秀敏, 77 橋本彩)が担当する。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	法学系選択科目	知的財産法基礎	知的財産法がなぜ重要なのか、日本経済を取り巻く歴史的な変化を踏まえて解説し、その上で、内外の最近の事象を素材に、知的財産法の基本的な考え方を講義する。法律学の初学者が興味を持って知的財産法に入門できるようにすることが目的である。想定される素材は、アップル対サムスン、途上国における医薬品の普及と特許権、環太平洋経済連携協定(TPP)交渉、職務発明、孤児著作物問題、並行輸入、著名標識の保護、営業秘密などである。	
		知的財産法Ⅰ	技術的創作に経済的な価値を与える法制度について講義する。その中核をなすのは出願により公開された発明に対して特許権を付与する特許制度であるが、秘匿された技術に対して法的保護を与える営業秘密制度(不正競争防止法)にも説き及ぶ。また、医薬品・バイオ、化学、機械、電気・電子、情報技術といった、技術分野別の特徴にも注意する。知的財産法の国際的側面などにも、必要に応じて触れる。	
		知的財産法Ⅱ	創作的表現について権利を与える著作権制度について講義する。美術や出版などを対象とする古典的な著作権法制が、コンピュータ・プログラムを制度の対象として取り込み、さらにインターネットの発達によって大きな変容を遂げつつある様相を解説する。また、営業上の信用に対して法的保護を与える制度(不正競争防止法・商標法など)にも説き及ぶ。	
		危機管理法務	架空循環取引など、企業不祥事は後を絶たない。企業は、不祥事を抑止するために、その業態に応じ、コンプライアンス体制を適切に整備することを求められている。コンプライアンス体制を実質的に機能させるためには、関連法令の知識のみならず、事前・事後対応を含む危機管理のノウハウを身につけた人材が不可欠である。本講義においては、企業等において危機管理を担う人材の育成を目的として、主要な不正類型について、過去の具体的な事例を取り上げて関連法令や当該不正事例の原因・再発防止策等を解説する。	
キャリアアデベロップメント科目		ボランティア	安全で平穏な社会生活には近隣などの助け合いも不可欠である。また自分にできる社会貢献を見出すことは自己発見でもある。東北震災復興支援、信大附属託児所、自然保全活動、福祉関連NPO法人などさまざまな地域・社会課題に取り組む非営利団体・活動にボランティア人材として自発的に関わることを通じて、＜共助＞を理解し自己発見にもいたることを目的とする。「交流系科目部会」教員が指導・運営(単位認定)にあたる。合同説明会(4月)に出席し、事前レポート登録を経て、夏期などに原則60～80時間、ボランティア活動に従事し(無償)、ボランティア活動実施証明を付したレポート(4000字)に合格し、発表会(12月)に参加することを義務付ける。	共同
		インターンシップ	企業・公務職場などの組織における就業体験をもとに単位を認定する。「交流系科目部会」教員がその指導・運営(単位認定)にあたる。合同説明会(4月)を経て、事前レポート登録を行い、夏期などに原則60～80時間、体験就業(無償)に従事し、インターンシップ修了証明を付した事後レポート(4000字)に合格し、発表会(12月)に参加することを要する。	共同
		Global Political Economy	グローバル化の進展の中で、国際社会が直面する課題について学習する重要性が増している。また、社会で仕事をする上で、実用的な能力としての英語力を向上させる必要性も増している。この授業では、貧困と開発、国際経済秩序、安全保障、環境問題など国際政治経済の課題について、主に英語教材を使用し学習する。基礎的な国際社会の課題を理解すると共に、社会科学を学ぶための英語能力の向上を目的とする。少人数の参加型の授業を通じて、情報収集・分析、プレゼンテーション、文章作成能力を向上させる。	
		Global Business	本演習は、グローバルビジネスにおいて重要視されている概念、分析手法、戦略、戦術などを、主にマーケティングの観点から学ぶことを目的とする。本演習ではまた、グローバル市場で活躍する上で不可欠な概念の理解と、スキルの構築に焦点を置く。履修者はこの演習を通じて、日本および世界で活躍している組織および個人による最新のビジネス活動について学び、事例研究を行う。毎回の演習に備えて履修者は、学内および学外における多岐にわたる調査活動、ディスカッションに向けた事前学習の実施が必要となる。この演習では、履修者個々の文化的・経済的・社会的観点を生かし、共に学ぶ履修者とネットワークを構築しながら、様々なグループ活動を通じて学ぶことが期待される。毎回の演習は、講師による講義、質疑応答、講義内容に基づくディスカッション、プレゼンテーションの実施、小テストと期末テストから構成されている。	

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 リスク分析コース)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	キャリアアデベロップメント科目	American Law and Society	アメリカの法と公共政策について学ぶ。日本社会とは異なる法・政策の体系とアプローチを学ぶことにより、日本社会の法・政策の特徴を理解する。学術研究教育交流協定を結んでいるハワイ大学ロースクールと行政学プログラム (Public Administration Program) より客員教授を招聘し、夏期の集中講義期間に行う。講師は毎年交代し、様々な法と公共政策の専門分野の科目を開講する。英語で授業を行い、英語での学習能力を向上させる。授業は、アメリカの法や公共政策教育で行われる参加型のアクティブ・ラーニングスタイルで行う。授業のコーディネーター、ガイダンス、学生に対するサポートは、学部専任教員（⑧ 美甘信吾）が担当する。	集中
		海外短期演習	ハワイ（アメリカ）社会・政治経済制度について学び、地域振興や多文化共生など地域社会が直面する課題について理解を深める。海外の大学での学習体験を通じ、異文化理解を促進し、英語学習を奨励する。海外研修の効果を高めるために英語学習や日本語での基礎知識の習得など事前学習を行う。ハワイ大学での授業、フィールドトリップ、報告書作成を通じて、経済学・政治学の基礎知識の体系的理解、社会における課題発見力と行動力、言語（英語）能力、コミュニケーション能力、自己管理能力、チームワーク力、リーダーシップを身につける。	集中 演習 54時間 実習 12時間

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	教養科目	教養ゼミナール群	環境問題を化学者と考えるゼミ 第1回目の講義時に各種環境問題を教員から問題提起し、2回目以降のテーマを担当する発表者を決定する。主発表者は毎回1～2名でA4レポート用紙2枚にまとめてレジメを作り15分程発表(プレゼンテーション)する。発表者以外の人はその小テーマについて調べておく。そして4～5人のグループに分かれ、発表者の発表後、全員で20分ほど討論する。(コミュニケーション能力の向上) そして、その結果をレポートにする。(言語能力の向上) さらに、それらの結果を基に各グループが意見を交換する。(コミュニケーション能力の向上) 「一人一人が自分で調べ、考え、自分なりの考えを持つ」ということがこのゼミのキーワードであり最終目標である。	
		生態資源論ゼミ	各人(班)はそれぞれ関心をもった生態資源について、まずは文献資料にあたり、報告する。それをもとに、受講者全員で質疑応答を行う。 各班の調査方法としては、各種文献やインターネットの参照のほか、関係者への聞きとりを行う(メールや電話での聞きとりも可とする)。また各報告に対して質疑応答を行う。 また、授業期間内に1度、受講者全員が参加する学外見学・体験の機会を設ける。	
		地球白書ゼミ	本授業では、地球が直面している問題群を比較的平易な英文とそこに挿入されている図表から学ぶ。各人はそれぞれ関心のある項目について、テキストの読解を行い、発表・報告する。それをもとに、受講者全員で質疑応答を行う。授業の目標は、鍵となる単語や表現を覚えることに加え、問題の背景や構造を理解し、さらに私たちに求められる「かかわり」について議論することである。	
		環境マインドを現場で体験するゼミ	(1)水生生物の基づく環境調査、(2)地下水利用をめぐる聞きとり調査、(3)成果発表と討論を行う。 まず、ナノ水車発電の技術の体験的学習では、工学部における技術開発の現場と、エネルギーの地産地消を目指した応用現場に立ち会い、討論を通してこれからのエネルギー生産と消費のあり方を考えさせる。 次に、環境調査会社(株式会社 環境アセスメントセンター)によって環境保全の作業が行われている現場を訪問する。ここでは、実際に水生生物の調査を担当することによって実際の調査を体験するとともに、協同作業を進める方法を工夫してほしい。 さらに、地下水利用の現状と課題について、地下水開発会社(株)サクセン、飲料メーカー、わさび農園、住民などへの聞きとりを通じて、体験的に理解する。地域の水資源を活用しながら、同時にその水環境をまもっていく方策について議論する。 (オムニバス方式/全16回) (52 金澤謙太郎/8回) 水生生物の基づく環境調査 成果発表と討論 (26 大塚勉/8回) 地下水利用をめぐる聞きとり調査 成果発表と討論	オムニバス方式 集中
		「時」について考えるゼミ	「時」についての理解を深める。主として輪講形式。「時」をキーワードとしたいろいろなテーマを取り上げ、受講生主体の自由な討論を行いたい。対象学生は文理所属を問わない。教材は受講生の興味や予備知識に合わせて調整する。	
	原書で読むシャーロック・ホームズゼミ	4つの長篇と56の短篇からなるホームズ物語のうち、『ストランド・マガジン』への連載をきっかけに一躍人気を博した代表的短篇をとりあげる。シドニー・バジェットによる挿し絵が添えられたテキストを読み解く作業を中心に授業を進めるが、英語特有の表現、構文など、形式的・文法的な知識の確認と同時に、文化的文脈を踏まえた、テキストの内容の正確な解釈・理解にも意を用いたい。その際、英文の内容と味わいを達意の日本語で表現するために、英和辞典、国語辞典をはじめ、各種の辞典類を充分に活用してもらいたい。また随時、英国のグラナダテレビによって製作された定評ある映像化作品も視聴し、原作テキストとの比較も試みたい。		

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目	教養ゼミナール群 現代ドイツの言語と日常ゼミ	既習言語であるドイツ語を実際に用いて、ドイツ語を通してしか得られない現代ドイツ語圏の日常・文化生活に触れ、異文化に直に触れることにより、より高度な国際理解感覚を身につけつつ、ドイツ語運用能力を高める。 到達目標： 1. 辞書を用いれば、現代ドイツのアクチュアルな文章を読むことができるレベルのドイツ語読解能力を身につける。 2. 文章を読む際に、日本語の感覚ではなく、ドイツ語の感覚で読む習慣を身につける。 3. 日本語に頼ることなく、外国語から直接外国の情報を入手し、それを処理する国際理解感覚を身につける。 4. 独検秋季試験で2級に合格するドイツ語力の習得を目指す。	
	現代ドイツ事情ゼミ	現代のドイツ語圏の事情は、日本の新聞や雑誌ではなかなか目にすることがない。そのようなアクチュアルな文章を読む際には、テキストの文字だけを見ていても、その背景にあるドイツの現状を知らなければ、理解するのは難しいだろう。（もちろんこれは、ドイツ語に限ったことではなく、英語でも同じことが言える。） そのような意味で、異文化理解や国際感覚というものをより高度なものにするために必要な視点や姿勢を、しっかりと身につけてもらいたい。	
	異文化研究ゼミ	本ゼミでは、各受講生が関心を持っている異文化について学び、学んだことを発表することを通じて、自ら課題を探索し、自分の主張を的確に表現する能力を養う。 はじめに各受講生が関心を持っていることについて話してもらい、その関心をどのように深めてゆけばよいか話し合う。 最終的にはレポートを執筆し提出する。その上で、アカデミック・ライティングの指導を行う。随時グループワークを実施することで、コミュニケーション能力を高めるとともに、受講生どうしの相互理解を深める。	
	感覚で攻める英文法ゼミ～ 覚える英文法から感じる英文法へ	本ゼミでは、英文法のトピックを取り上げ、受講者の理解度に合わせゆくり進めていく。 まず、各トピックの基本事項を講義し、そのトピックを理解するのに必要な事項を概観し全体像を把握する。その後、グループワーク・ディスカッションやプレゼンテーションを通して受講者全員でそのトピックにまつわる「なぜ」という疑問や「どうして」という関心を自由で大胆且つ独創的な発想を交え積極的に話し合い、受講者全員の共同作業により各自が「英文法」を体感し、「使える英文法」を体得する。	
	スポーツ・ホスピタリティゼミ 秋冬編(松本山雅FC連携ゼミ)	本ゼミではスポーツ・ホスピタリティ、具体的には地域密着型スポーツクラブ、プロスポーツ、一般市民のスポーツ施設、あるいはレジャー施設におけるボランティアの望ましいあり方をアカデミックかつ実践的に理解する。本講では主に信州におけるサッカーを中心としたスポーツクラブやその他のトップスポーツや、近隣のスポーツ施設や公園が直接の対象となるが、海外におけるホスピタリティ事情も文献やインターネットで検討する。そこでのホスピタリティがどのような歴史社会的背景、教育的、政治的、経済的要因で成立し、受容されて（あるいは忌み嫌われて）いるのかを実際のフィールドワークも取り入れながら検討してゆく。 フィールドワークは2012年シーズンからJリーグ入りを果たした松本山雅FCの試合運営にボランティアとして関わること及びその他スポーツスタジアムやスポーツイベントのホスピタリティ体験を通じて望ましいあり方を学習する予定である。	
	スポーツ・ホスピタリティゼミ 春夏編(松本山雅FC連携ゼミ)	本ゼミではスポーツ・ボランティア、具体的には地域密着型スポーツクラブ、プロスポーツ、一般市民のスポーツ施設、あるいはレジャー施設におけるボランティアの望ましいあり方をアカデミックかつ実践的に理解する。本講では主に信州におけるサッカーを中心としたスポーツクラブやその他のトップスポーツや、近隣のスポーツ施設が直接の対象となるが、海外におけるホスピタリティ事情も文献やインターネットで検討する。そこでのホスピタリティがどのような歴史社会的背景、教育的、政治的、経済的要因で成立し、受容されて（あるいは忌み嫌われて）いるのかを実際のフィールドワークも取り入れながら検討してゆく。 フィールドワークは2012年シーズンからJリーグ入りを果たした松本山雅FCの試合運営にボランティアとして関わることを通じて望ましいあり方を学習する予定である。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 教養ゼミナール群	スポーツ観戦文化論ゼミ	ここでの観戦学とはいわゆるスポーツの戦略やスキルの専門的知識を追求することではない。スポーツの生観戦，スポーツのテレビ観戦のアカデミックな理解にあたって，まず，チームやクラブのエンブレムやユニフォーム，愛称，サポーターズ・ソング，等の諸シンボルが対象となる。それらが支持・愛される理由・要因を，歴史社会的背景，教育的，政治的，経済的要因などに注目しながら検討する。また，同様に，観戦にあたってよいスタジアムとは何か，サポーター&サポーターズカルチャーとはいかなるものかについても，実際のフィールドワークも取り入れながら検討してゆく。	
	テレビのメディアリテラシー（テレビ信州参与ゼミ）	この講義はテレビ信州の全面的協力の下に開講するもので，ニュースや技術，カメラ，アナウンスなどの担当者をゲストスピーカーとして迎える。現場での経験，経験の中からの学び，喜怒哀楽等々，ナマの声に耳を傾け，質疑応答の中で，テレビメディアの今を知る。併せてミニ番組を制作し，作品はテレビ信州の番組と長野市インターネット放送局「愛テレビながの」の中でOAする道も開かれている。ただし，この制作実習は，テクニックの習得というより，むしろ，送り手と受け手の双方の立場を体験し感じ取り，討論することを通じて，メディアリテラシー向上に資することを主眼としている。	
	「考える」ゼミ	「考える力」や「伝える力」は，受身的な学習により身に付くものではない。「考える力」と「伝える力」を獲得するためには，実際に「考える」そして「伝える」という“実践トレーニング”が欠かせない。 「考える」ゼミ（以下考ゼミ）では，その「考える」「伝える」ことを実践するために，トレーニングの【場】となる様々な仕掛けや素材が毎回用意されている。そして，普段はできないような新鮮な経験となりそうな機会を提供する。この【場】や【経験】は，教室内とは限らず，街場（地域）に繰り出し体験型の活動を行う。その【場】では，様々な“指令（〇〇しなさい）”が出され，それら指令をこなすことで，新鮮な経験を得つつ「考える力」「伝える力」を鍛え上げていく。 このように，受講者は，毎回毎時，“考える”そして“伝える”実践トレーニングを行う。	
	化学計算入門ゼミ	表計算ソフトは基本的なソフトであり，種々の分野において広く使われている。本ゼミでは，この表計算ソフトを化学実験の結果の解析や種々の化学計算等を行なうことにより，基礎知識を進展させ，理解を深める。本ゼミでは，以下の点を目標にする。 1. 表計算ソフトExcelの基本的な操作を覚える。 2. 化学計算ができる。 3. 実験結果の解析ができる。	
	文系学生のための野外地質学ゼミ	前期の土・日曜日を利用して野外に3回，学内で1回の授業に臨む。 信州には多くの活断層が存在し，近い将来地震災害をもたらすのではないかと心配されている。また，山岳地域であるため，常に自然災害に見舞われている。そのように判断される根拠となる野外地質現象を訪ねる。 信州の地質を特徴づけるフォッサマグナとはなんだろうか。フォッサマグナを特徴付ける岩石が露出している地点と，そこから産出した化石を収蔵する博物館を訪れる。さらに，身近にある河川－女鳥羽川を歩き，地質学的な自然現象が語っていることを学ぶ。 各内容では，かなりの距離を歩くことになる。現地では地質現象を観察して記録をとり，後でレポートを作成する。現地で観察して議論し，考えたことを発表してもらう。	集中
統計図解ゼミ	身近な状況の中から，数値情報の現れている課題あるいは欠落している課題などを，コンピュータを活用してグラフなどに図解していく。各自が図解に作成したファイルを，大学提供の学習システムeALPS上に提出することにより毎回の演習は完結する。 処理する題材はインターネット上で公開されている数値情報を中心に扱い，とくに環境，教育，地域，ジェンダーおよびスポーツに関係した資料を多く扱う。 表計算の利用においては，とくに作業効率に関係したスキルを中心に扱う。 実習の進め方は，個人活動を中心に進め，課題によってはグループでの作業とする。 なお表計算Excelをよく使う人も多いが，このツールに関するいくつかの問題点も同時に演習を通じて指摘していく。		

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 教養ゼミナール群	アナログ再発見ゼミ	単純に数えること、あるいは私たちの身体感覚を通じて測定できるいくつかの課題に取り組むことを通じてアナログ量やデジタル量の測定について体験し、それらのデータを計算処理を通じて表現する。 課題内容に応じて、個人またはグループで取り組む。 数値情報の表現においては、有効数字や誤差の扱いも学ぶ。	
	情報社会論ゼミ	ここ数年のコンピュータと情報通信技術の普及によって、コミュニケーションのあり方、意思決定・判断の方法を含めて私たちの生活スタイルは大きく変化した。私たちが記憶しなければならなかった事柄のかなりの部分は、携帯電話やコンピュータが担うようになっている。かつて調べるのに大変な労力を要した事柄も、いくつかのキーワードを入力するだけで簡単に調べることができるようになった。しかし負担が減った分、私たちの脳はより良い使われ方をしているだろうか。 このゼミでは、情報社会に関する様々なテーマについて検討することを通して、ネットワーク社会の光と陰について理解を深めてもらいたいと思う。	
	大学生基礎力ゼミ	受講生が学ぶのは、信州大学に関する知識と、大学生として4年間必要になる基礎的な知識・技術・態度である。そのために、授業と授業外で、自分たちが大学生になっていく過程を観察し、記録し、分析していく作業を繰り返すが、そこで学生が実際に体験し、練習するのは、 (1) 受講している学生および教員との信頼関係および生産的関係の構築 (2) 大学の学びに必要な諸技術（聞く・話す・読む・書く・分析する・協働する・受け入れる・主張する・異議を唱える・働きかける、等々） (3) 信州大学の環境の理解と施設や支援の利用 (4) 異なる人々や新しい価値体系の受容と、自分の視野と度量の拡張の4つである。 この経験を記録し、分析し、今後に生かすために、学生は毎週ふりかえりを書き、大学の施設を学びながら協働して課題に取り組み、それらをポートフォリオとして保存して、はじめての学期の経験を総括するレポートを書く。授業ではこれらの経験を話し合うことで理解を深め、大学生として生活を組み立て、学習を深めるための基礎力を身につける作業を繰り返す。	
	グローバルに生きるゼミ	この授業は、「グループワーク」、「ディスカッション」、「プレゼンテーション」が中心となる。「知識を得る」のではなく、情報を得て、それについて考え、自分の問題として発信することを要求する。 毎回の授業の大まかな流れは、以下のようなものである。 1. 資料あるいは短いレクチャーを通して、テーマごとの問題点を明確にする。 2. その問題点についてグループワークやディスカッションを通して理解を深めつつ、自分以外の視点についても触れ、自分の問題として考える。 3. ディスカッションの結果をグループで（あるいは個人で）まとめて発表する。 4. 授業内容のまとめとして、毎回短い文章を提出してもらう。 (オムニバス方式／全15回) (47 松岡幸司／13回) オリエンテーション：「グローバル（に生きる）とは何か？」 グローバルな人材とは？（自分の問題として考える） 海外へ行く、海外で暮らす/学ぶとは？(1) グループ発表 様々なテーマで「グローバル」ということについて、自分の問題として考える。 個人発表 (44 RUZICKA DAVID EDWARD／2回) 海外へ行く、海外で暮らす/学ぶとは？(2)	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	教養ゼミナール群	新聞をつくろう！（タウン情報制作ゼミ）	『松本平タウン情報』は、松本、安曇野、塩尻市など中信地方で11万8700部を発行するタブロイド判16ページの地域情報紙であり、毎週3回発行され、信濃毎日新聞の朝刊に折り込まれている。その紙面づくりに学生自身が加わることを通じ、「地域におけるメディアとは何か」を学び、その過程で、分かりやすい文章の書き方、コミュニケーションの方法などを身に付けることを目的とする。 ゼミでは、新聞をつくるための基礎知識を学び、実際の紙面をつくる。メディアのあり方、取材の仕方、写真の撮り方、新聞の組み方などを講義する。以上のことは編集会議を重ねながら、実際に取材、執筆、整理制作を進める。	
		スポーツ活動論ゼミⅠ	身体の健康を図ることは人生を通しての課題といえる。本ゼミは「人間の身体は素晴らしい」をテーマに運動をとおして人間の生活習慣やスポーツ活動について、学生諸君とともに考えていくことをねらいとしている。またゼミではスポーツの理論と実践を重視するため、問題発見、問題解決能力が身に付く。学生の自主性により内容を決定するので、ゼミの運営を行うことによるコミュニケーション能力の向上を目指す。様々なスポーツ活動を調べ、学んだ上で、実際にスポーツを体験する。 また、信州の自然を生かしたスポーツ活動を行うため、休業期間を利用し、合宿形式でのゼミを実施する。 ゼミの時間帯にはその活動に必要な知識、技術、ルール・マナーをグループ発表により学習する。 なお、本年度より、体育スポーツの授業の信大マラソンの管理運営にかかわり、スポーツマネジメントの基礎についても学び、実際にマラソンの大会運営に携わる。	
		スポーツ活動論ゼミⅡ	身体の健康を図ることは人生を通しての課題といえる。本ゼミは「人間の身体は素晴らしい」をテーマに運動をとおして人間の生活習慣やスポーツ活動について、学生諸君とともに考えていくことをねらいとしている。またゼミではスポーツの理論と実践を重視するため、問題発見、問題解決能力が身に付く。また、学生の自主性により内容を決定するので、ゼミの運営を行うことによるコミュニケーション能力の向上を目指す。さまざまなスポーツ活動を調べ、学んだ上で、実際にスポーツを体験する。 また、信州の自然を生かしたスポーツ活動（スノースポーツなど）を行うため、休業期間を利用し、合宿形式でのゼミを実施する。 ゼミの時間帯にはその活動に必要な知識、技術、ルール・マナーをグループ発表により学習する。	
		ドイツ環境ゼミ	中心になるのは、2～3月に行われる「短期ドイツ研修」である。これは、「語学学校において2週間のドイツ語コースに参加」した後、「1週間程度、環境関連施設等を訪問・視察」するものである。 そのために、11月から2月初旬にかけて、eALPSを併用しつつ、月に1・2回程度の事前学習のための授業を行う。その際に、自分のテーマを決め、理解を深めていく。 また帰国後には、自分のテーマに従って視察内容をまとめ、「公開報告会」を行い、レポートを提出するとともに、「ドイツ語技能検定試験3級」の合格を義務づける。	集中
		社会科学の方法ゼミ	1年次生が高校の社会科（「地理歴史」「公民」あるいは「総合学習」）を学ぶことから社会科学を学ぶことへの円滑な移行を図れるよう、社会学、経済学、経営学、政治学等のさまざまな学問領域の文献を読解することを通じて、広く社会科学の先人たちがどのような方法を用いて社会事象を読み解いてきたのか、を跡づける。	
	環境科学群	環境社会学入門	主な論点として、第一に環境問題の加害・被害構造、制度・組織の特性、第二に環境行動・運動の契機とその結果、集団行動の困難・障害、第三に環境の歴史・価値・思想、生業とのかかわり、などについて、世界中で起こっているさまざまな環境問題を例に考えていく。また、環境社会学は、人間が作り出した環境問題の解決を志向する「行動する社会学」でもある。 受講生には、この講義を通じて、自らの生活実践への示唆についても積極的に学びとってくれることを期待する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 環境科学群	熱帯雨林と社会	熱帯産のさまざまなモノを切り口として、熱帯雨林の自然と人間の暮らしについて理解を深める。主な事例を東マレーシア、サラワク州（ボルネオ島）のパラム河流域からとり上げる。授業計画の前半では、サゴヤシ、陸稲、沈香などの生態資源を例に、熱帯雨林に暮らす狩猟採集民の生活や生業の様式を概観し、彼らの食糧の確保、資源やエネルギーの利用にみられる諸特徴を理解する。後半は、木材、パーム油、バナナ、エビ、コーヒーなどの一次産品を例に、社会経済的なグローバル化をめぐる問題群について考える。 この講義を通じて、東南アジアの熱帯雨林と私たちとの関係や両者が抱える現代的課題を追究しながら、他人や地球をできるだけ傷つけない社会への手がかりや可能性を探っていく。	
	環境～その人文・社会科学的アプローチ	人文・社会科学的な環境マインドを構築するにあたり、スポーツ社会学、環境社会学、文化人類学、ドイツ文学、脳神経科学など、様々なパースペクティブから環境を検討・理解する。 ここで扱う環境は、自然環境のみでなく、人間が人間として活動する生活環境全般が対象となる。 (オムニバス方式／全15回) (52 金澤謙太郎／3回) 環境社会学の視点から (57 分藤大翼／3回) 文化人類学の視点から (47 松岡幸司／3回) ドイツ文学の視点から (60 有路憲一／3回) 生活環境における脳神経科学 (27 橋本純一／3回) スポーツ社会学の視点から	オムニバス方式
	ライフサイクルアセスメント入門	LCAは製品やサービスの資源採取から廃棄に至るまでのライフサイクル(一生涯)における環境負荷量や環境影響量を客観的に、且つ、定量的に評価する手法である。その評価手法を修得するため、生活の身近な製品を例題にしてLCA演習を行う。そして、LCA結果を用いた新たなCO2削減のためのカーボンフットプリント制度やタイプⅢ環境ラベルなどを理解し、さらに、今後のLCA展開および新たな環境指標について講述する。また、信州大学の全てのキャンパス・学部・学科で取り組んでいる環境マネジメントシステム(EMS: Environmental Management System)について解説し、LCAとEMSを両立させた新たな環境保全活動について考える。	
	環境と生活とのかかわり	環境調和型社会の形成は、製品やサービスの提供側と消費者の協同で行われなければならない。そのため地球環境問題の取り組みを概観しながら、生活に身近な環境法規、製品やサービスの環境影響評価手法、組織と利害関係者のインターフェースになる環境報告書・環境ラベルなど環境情報の見方、身近な製品やサービスにおける環境への取り組み事例、カーボンオフセットなどを中心に講述し、環境と日常生活とのかかわりについて考える。また、信州大学の全てのキャンパス・学部・学科で取り組んでいる環境マネジメントシステムと環境保全活動について解説する。	
	地球環境の歴史	環境マインドを備えた人材を育成するための教養科目である。同時に、グループ学習を通して、コミュニケーション力やチームワーク力を養う。 地球の過去の調べ方、年代測定法、地球の誕生、大気組成の変遷、生命の誕生と進化、大陸移動とプレートテクトニクス、気候変動といったテーマを、地球の歴史に沿って、トピックを取り上げながら授業を展開する。授業では、必要に応じてビデオ教材を用いる。 授業では、地球環境に関するテーマについて各学生が書物によって学習した結果に基づいてグループ間で意見を交換し、最終的にどのような意見をもつに至ったかを発表する。	
	ネイチャーライティングのすすめ(環境文学Ⅰ)	自然や環境について語る際、「こころの問題」として、つまり自分との関係で語ることはあまり多くない。本講義ではこの観点から自然や環境にアプローチしていく。 最初の3回で自然・環境・人間の関係について概観した後、個々の文学作品、特にネイチャーライティング作品を通して、上記三者の関係について考えていく。扱う作品は、H.D.ソロー、レイチェル・カーソン、シュティフター、サン＝テグジュペリ、ギッシン、ヘルマン・ヘッセなどの作品を予定しており、少なくとも該当部分に関して授業前に読んでおく必要がある。講義では、毎回「授業内容確認課題」を書くことにより簡単なまとめを行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	環境科学群	環境文学のすすめ（環境文学Ⅱ）	自然や環境について語る際、「こころの問題」として、つまり自分との関係で語ることはあまり多くない。本講義ではこの観点から自然や環境にアプローチしていく。 最初の3回で自然・環境・人間の関係について概観した後、個々の文学作品、特に環境文学作品を通して、上記三者の関係について考えていく。扱う作品は、宮沢賢治『注文の多い料理店』彭見明『山の郵便配達』をはじめ様々な作品を予定しており、少なくとも該当部分に関して授業前に読んでおく必要がある。講義では、毎回「授業内容確認課題」を書くことにより簡単なまとめを行う。
		自然環境と文化	はじめに人類学とは何かということ概説する。その上で、人類学的な知見にもとづいて、食文化、健康と病、病と癒し、死と儀礼、音楽・舞踊、装いとといった項目について自然環境と密接に関わりながら生きている人々の文化を紹介する。また同じ項目について、私たちの文化のありようについても紹介し、今後の私たちの生き方、自然環境との望ましい関わり方について考える。
		生物と環境	私たち人類も含めてすべての生物は地球上の環境から影響を受け、また環境に対して影響を及ぼしながら生活している。そうしたさまざまな環境における生物個体群の分布や生活様式、生物群集における個体群間の相互作用、生物群集とそれを取り巻く環境から構成される生態系の構造と機能について基礎知識や基本概念を解説する。さらに私たちの身の回りから地球規模に至るまでの生物と環境にかかわる問題について、具体的な事例を取り上げてパワーポイントやビデオ教材を用いて講義を行う。
		自然災害と環境	信州は火山が集中している地域でもある。火山活動が起きる場所にはある法則性がある。そのことをまず理解した上で、火山活動の起こる仕組み、火山活動の種類、火山活動への対処方法などを事例に即して講述する。 また、人間の生活の場となっている平地は河川や海洋によって直接的な影響を受ける場所である。地球が温暖化する中で、川や海で起こる現象やしみをよく理解し、将来予測や対策に役立てる必要がある。 松本は大地震発生の確率がとくに高いとされている。信州では、最近、多くの活断層が身近に存在していることが明らかになってきている。地震はこれらの活断層の運動の結果生じるものである。信州の特殊な地質条件と予想される災害との関係を知ってほしい。 さらに、このような環境の中で、人間は自然を利用して社会や文化を維持している。自然利用の方法やその失敗の事例を学ぶ。
		生活の中の科学	高校までに習っていた化学などの自然科学は理系の研究を行う上で必要不可欠な知識という点において極めて重要である。しかし日常生活を続けていく上で、あまりその科学的知識との関連について詳しく教えられてこなかった事が多いのが現実である。本授業では科学をより身近なものとして実感し、各自の今後の人生に活かせるよう、日常生活で利用、体験している事柄で科学と深く関連している事柄をピックアップしてそれを解説する。 さらに地球温暖化などの社会問題にも言及するので、信大の環境マインドを理解した社会人として考え、行動するステップとしてほしい。
		環境法入門	環境問題へのアプローチの方法は数多くあるが、問題を実際に発見し、解決していくためには法学の知見が不可欠である。この講義では、①環境問題を法的に考える際に不可欠な必要最小限度の法学の知識を学んだ上で、②環境問題に法的にアプローチする場合の基本的な考え方、手法、組織、紛争解決手法を概観し、③自然保護、廃棄物・リサイクル、大気汚染・温暖化といった個別のトピックスについて、法的にいかなる点が問題となり、どのような法的手法が用意されているのか考えていく。
	人文科学群	日本学入門	ヨーロッパと日本の出会いは、マルコ・ポーロによるジバングの紹介に始まり、宣教師の渡来によって前進した。しかし、本格的には19世紀以降、日本の開国で交流が加速する。なかでも芸術の中心地フランスには日本の物や人が集まり、日本文化の流行が起こった。その歴史を学び、ヨーロッパで受け入れられた日本の価値観や美意識とはいかなるものだったのか、美術・文学・音楽等の事例をたどりながら考察する。

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 人文科学群	日本近代文学入門	日本の近代作家にとって外国経験（留学・遊学・旅行等）は大きな問題の一つで、それを綴った作品も数多く存在する。そのなかから代表的な例を取り上げ、作家たちが外国に行くまでの経緯や時代背景、文化交流、旅の様子を知ると共に、どのような問題にぶつかり、悩み、それをいかに解決したり克服したりしたのかを、作品（小説、エッセー、短歌等）を通して学んでいく。	
	映像・人類学	人類学は異文化との出会いから始まる。言い換えると、人類学者は異文化に生きる人々との出会いから、その学問的な営みを始める。本授業では、異文化に生きる人々との出会いを表現するために、主にドキュメンタリー映画を視聴する。スクリーンを介して様々な人々と遭遇することを通じて、人の生き方や考え方について学ぶ。	
	Top Level English (トップレベルイングリッシュ)	(英文) The content of the class will be decided according to the needs of the students enrolled. Possible activities include the following: presentations; structured discussions and debates; and practice for the interview in international tests of English such as IELTS or Cambridge ESOL. (和訳) 授業内容については、受講生の要望に応じて柔軟に対応する。プレゼンテーション、ディスカッションやディベート、IELTSやケンブリッジ英語検定などの面接試験に向けた練習を行う予定である。	
	「田園環境健康都市須坂」を「共創」（須坂市寄附講義）	全国的に、人口減少、超少子高齢化、厳しい経済状況、雇用状況など課題が山積しており、課題解決に対する基礎自治体である市町村と住民の役割は増大している。 本講義では、課題解決のために、市民と行政が第五次須坂市総合計画（平成23年4月策定）に沿ったまちづくりを「共創（同じ目的に向かって、確かな信頼関係の上で、分野の異なる人々が、お互いの特性をいかし、連携し、創造していくこと）」により行っている須坂市の事例を、携わっている本人自身が説明することによって、地域づくりの現状を理解し、広く参考にしていく。	
	韓国の文化（食文化）	韓国食文化に関するビデオ教材を用いて、様々な韓国の食文化とその背景や街の様子を紹介していく。合わせて日本の食文化も一緒に考えてみる。毎回の授業の流れは次の通りである。①前回の授業内容に対する学生の感想や意見を紹介した後、質問に答える ②その日に取り上げる食文化を理解する ③感想や意見、質問を出席シートに書く。	
	韓国の文化（映画で学ぶ）	映画の背景にある韓国の文化、歴史、習慣を説明した後、映画を観る。映画を観た後、意見交換をする。映画は一回の授業では最後まで観られないので一本の映画を授業二回にわたって鑑賞する。授業の流れは次の通りである。①前回の授業内容に対する学生の感想や意見を紹介した後、質問に答える ②その日に取り上げる韓国文化を理解する ③感想や意見、質問を出席シートに書く。	
	韓国の文化（若者の世界）	韓国の若者の文化（音楽・映画・恋愛事情など）を、ビデオ教材や資料を用いて紹介していく。韓国の若者の話も聞く。毎回の授業の流れは次の通りである。①前回の授業内容に対する学生の感想や意見を紹介した後、質問に答える ②その日に取り上げる若者文化を理解する ③感想や意見、質問を出席シートに書く。	
	韓国の文化（メディア）	韓国の様々なメディアを用いて韓国文化や現在の社会の様子を紹介し、それについての意見を交換する。次の授業に備えて事前に予習が必要な事項に関しては、eALPSにアップするので、常に確認が必要である。毎回の授業の流れは次の通りである。①前回の授業内容に対する学生の感想や意見を紹介した後、質問に答える ②その日に取り上げる韓国文化を理解する ③感想や意見、質問を出席シートに書く。	
フランスの文化 I	この講義では、ヨーロッパの文化を率いてきた国のひとつであるフランスについて様々な角度から学んでいく。 具体的にはテキストに沿って、視聴覚資料もまじえながら、フランスの言語、風土、歳時記、歴史、文化などに関する理解を深める。また、関連する芸術作品（美術、音楽、舞踊など）や文学作品の紹介も行う。こうした知識を踏まえて、各自関心のある分野を調査し、レポートにまとめる。		

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	教養科目 人文科学群	フランスの文化Ⅱ	この講義では、ヨーロッパの文化を率いてきた国のひとつであるフランスについて様々な角度から学んでいく。 具体的には、フランスの食文化、カフェと公園、マルシェ（市場）、ファッション、教育制度、家族事情、宗教事情などの文化、社会に関する理解を深めるとともに、政治や産業技術についてもとりあげる。こうした知識を踏まえて、各自関心のある分野を調査し、レポートにまとめる。	
		ドイツ語圏の文化Ⅰ	本講義では、ドイツ語圏文化を通して、国際理解・異文化理解の促進を目標とし、言語と文化の関連を常に意識しつつ、単なる情報ではない、息づくドイツの文化を学んでいく。 具体的には、ドイツ概観、ドイツ人と森、オーストリア、ドイツの環境についてとりあげる。教員からの情報提供の他にグループワークやプレゼンテーションなども取り入れる。	
		ドイツ語圏の文化Ⅱ	本講義では、ドイツ語圏文化を通して、国際理解・異文化理解の促進を目標とし、言語と文化の関連を常に意識しつつ、単なる情報ではない、息づくドイツの文化を学んでいく。 具体的には、ドイツ語圏の歴史、ドイツ語圏の文学、ドイツの音楽（グレゴリオ聖歌から交響曲まで）、ドイツの教育、シュタイナー教育についてとりあげる。教員からの情報提供の他にグループワークやプレゼンテーションなども取り入れる。	
		アフリカ文化論	アフリカは、約3030万平方キロメートル（日本の約80倍）の大陸であり、約10億の人々が55の国や地域に暮らしている。本講義では、この広大で豊かな地域の文化的な魅力と現代的な問題を紹介し、アフリカ文化の可能性と課題について考える。また、アフリカの文化を紹介することを通じて、世界の文化的な多様性と、その多様性を失いつつある世界の両方を考察する手がかりを提供する。	
社会科学群	スポーツ考現学	本講では、スポーツにまつわる様々な現象を、特に、観戦学、スペクタクル、権力、ナショナリズム、グローバリズム、メディア、ジェンダー、人種、階級、テクノロジー、コモディティズムといった視点から、写真、ビデオ映像などのヴィジュアル化された資料を適宜混じえて検討・理解する。		
	スポーツ文化を考える	スポーツ文化、身体文化に関してのさまざまな文献を読むことを前提として講義は展開される。国内外のスポーツ文化や身体文化に関する諸事情や考え方をビデオ映像なども混じえて検討する。 オリジナルテキストまたはプリントを用意するので受講生は毎回それを深く、クリティカルに読み込み、読後コメントを提出する。その上で講義や映像により知見を広め、小グループに分かれてテーマに関するディスカッションを行う《グループワーク》。ディスカッションは、毎回コーディネーター、書記、発表（報告）者の役割を決めてから行う。最後に全体討論を行う。		
	新聞と私たちの社会（信濃毎日新聞社寄附講義）	毎回、信濃毎日新聞社の方をゲストスピーカーとして招き、新聞の作られ方や読み方、社会的な役割について講演していただく。また、講演後に質疑応答を行い、受講生に新聞社の方々と直接対話する機会を設ける。さらに感想と質問を書いて提出してもらうことによって対話を深める。 本授業を通じて養う能力を試す上で、「新聞スクラップ」を2回提出してもらう。この課題は、受講生に新聞と用紙を配布し、一つの記事を選んで用紙に貼り付け、選択した理由や感想を書くというものである。また最後には、日本新聞協会の「HAPPY NEWS」に応募してもらう。		
	数を読む技術	情報化社会における数値情報の適切な扱い方はますます必要となっている。この授業では数値情報の利用に関する社会的状況を踏まえて、その適切な扱い方への理解を深めていく。 具体的には、図表資料の解釈、代表値（平均値でなく中央値を使うことの勧め）、散布度（分散、四分位範囲、幹葉図、箱ヒゲ図）、データの図示（ヒストグラム）、データの図示（二次元の分布；散布図）、比率の推定（世論調査など各首長さ）と解釈、行列待ち現象の分析、ランダムな現象とそうでない現象の違い、コンピュータによるデータ処理、その他身近な数値現象にまつわる話題についてとりあげる。		

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	教養科目 社会科学群	電子出版の現代	紙媒体以外のインターネットやCD-ROMを通じた出版を総じて電子出版と呼ぶ。この授業では電子出版が生まれた社会背景を踏まえうえで現代の状況に対する総合的な理解を深めていく。 具体的には、書くことの歴史と現在、グーテンベルクの印刷革命と現在、インターネット百科事典Wikipediaについて、書物の歴史と現在、インターネットの歴史と現在、読書端末の歴史と現在、知的財産権(主に著作権)と電子書籍、DTPの誕生と現在の電子出版、電子出版で扱う素材(文書、画像など)、文字の歴史と現在(コンピュータ上の扱いを含む)、日本語入力の話、これからの出版とウェブページの編集(とくにEPUB)、その他身近な電子出版にまつわる話題についてとりあげる。	
		世界経済の歩み	この講義では、世界経済の現状を、その歴史的発展を振り返りながら概観する。講義の主要な内容としては、16世紀から19世紀におけるイギリス資本主義の勃興とバックス・ブリタニカの成立、19世紀後半から20世紀初頭にかけてのドイツ等の後発諸国の台頭を見た後、強力な耐久消費財産型重化学工業を有するアメリカを中心とした世界編成・世界システムであるバックス・アメリカナの成立、展開、崩壊という視点より第2次世界大戦後の世界経済の歩みを押さえたうえで、世界経済の現状を論じていく。	
		ミクロ経済学入門	この講義では、消費者、企業などの経済行動を分析対象とするミクロ経済学の基礎知識を身に付け、経済現象を経済理論に基づいて分析する基礎を養うことを目的とする。授業は5人の教員が分担してオムニバス方式で行う。具体的内容は、まず、経済学的な考え方に関する基礎知識として、機会費用や比較優位、トレード・オフなどの概念を解説する。その上で、経済学の考え方の基本である、需要と供給の理論について説明する。これを基に、価格変化や所得変化への消費者の反応など、市場取引の特徴について理解を深める。最後に、需要と供給の理論に基づいて、市場の効率性についての経済学的考え方を解説した上で、参入規制や輸入規制など現実に行われた政府の政策の効果を検討する。 (オムニバス方式/全15回) (5 西村直子/3回) ミクロ経済学の基礎概念として、市場メカニズムを通じた資源配分の問題や、機会費用や比較優位、トレード・オフ、インセンティブといった経済学特有の概念を解説する。 (16 海老名剛/3回) 需要と供給の基礎理論として、需要曲線と供給曲線の基本概念を説明し、価格以外の要因変化が、需要曲線・供給曲線をシフトさせることなどを解説する。 (7 廣瀬純夫/3回) 価格変化や所得変化への消費者の反応を弾力性の概念で整理するなど、市場取引の特徴を解説する。 (13 増原宏明/3回) 消費者余剰と生産余剰の概念を説明し、余剰分析を通じて、市場メカニズムが効率的な資源配分を実現することを解説する。 (15 大野太郎/3回) 余剰分析の手法を応用して、参入規制や輸入規制などの経済政策が、市場の効率性に及ぼす影響について解説する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 社会科学群	マクロ経済学入門	<p>この授業は、マクロ経済学の分野と、この分野に関係が深い経済データの見方に焦点を当てた経済学入門科目である。授業は5人の教員が分担してオムニバス方式で行う。授業の前半は、マクロ経済学の観点から経済現象をみる見方について解説する。授業の後半では、経済データがどのような形で収集・活用されているか、またどのような特徴をもっているかについて解説する。各担当教員の担当内容は次の通りである。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (4 徳井丞次/3回) 景気循環の指標、GDPを通して見えてくる世界、消費関数を巡る論争を取り上げて解説しながら、マクロ経済学の眼鏡を通して社会をみることの面白さを紹介する。</p> <p>(① 山沖義和/3回) 日本の財政制度・税制・国債制度を巡る議論を取り上げて解説しながら、これらの問題がマクロ経済とも密接に関係していることを説明する。</p> <p>(④ 青木周平/3回) 近年、「経済成長」や「所得格差」を巡り論争が活発になっている。経済データとマクロ経済学を使ってこれらの論争を整理し、「経済成長」や「所得格差」に関する理解を深める。</p> <p>(6 椎名洋/3回) 統計データは官公庁を中心に様々な種類のもので作成されている。どんな種類の統計データがあるか、どのような方法でそれらが収集されているか、データの処理に関して注意すべき点を学ぶことで、経済学における実証分析のための予備知識を獲得する。</p> <p>(17 加藤恭/3回) 金融・ファイナンスにおけるデータは様々な特徴を持っている。例えば金融機関の損失データはファットテール性を持つ事が知られており、統計的手法の適用の際には注意が必要である。また近年の株式取引等に関する高頻度データの活用の際にも多くの課題が残されている。これらのデータの特徴や利用方法について学ぶ。</p>	オムニバス方式
	大学生が会う経済・経営問題	<p>大学生が日常生活を営む上で実際に遭遇する幾つかの問題をとりあげ、それを経済学や経営学の視点で見るとどうなるかを、わかりやすく解説する。経済学・経営学がどのような学問であるかを、具体的な問題を通して知ること、学部の専門的な教育への導入を図る。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (8 井上信宏/3回) 生活を支える制度の話として、社会保障の体系と課題について以下の三点を中心に解説する。①社会保障というしくみが生み出された背景、②社会保険、社会扶助、社会福祉の3つの制度、③「社会保障と税の一体改革」に見られる社会保障の課題。</p> <p>(2 金早雪/3回) 経済発展をとりあげ、先進国と後進国のせめぎあいを、以下の三点を中心に解説する。①経済発展の要因とそこから生まれるひずみや不均衡、②先進国型の産業にキャッチアップするための方策、③世界の貿易構造。</p> <p>(12 武者忠彦/3回) 都市空間の「近代化」と「空洞化」について、以下の三点を中心に解説する。①近代化による都市空間の画一化、②売らない、貸さない、直さないことによる空洞化、③場所についての社会的な記憶の蓄積の欠如。</p> <p>(② 関利恵子/3回) 会社がどんな経営状態にあるかを知るための方法を、以下の三点を中心に解説する。①就職活動で企業の経営状態を調べたいときにどうするか、②企業の経営成績や財政状態はどうすればわかるか、③安全な起業かどうか、儲かっているかどうかをどうやって調べるか。</p> <p>(③ 岩田一哲/3回) 人間が働く時にやる気が上がったり下がったりする状況を考えるために、以下の三点を中心に解説する。①人はどのような欲求を持っているのか、②企業は人をどのように管理すべきか、③上司は部下をどのように管理すべきか。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	教養科目 社会科学群	公法入門	この講義では、自律的で責任感のある市民の育成という見地から、主として憲法学の基本的な諸概念を理解すること、また、法的なものの方を見方を学ぶことをねらいとする。このねらいを達成するために、日本国憲法を支えている立憲主義という考え方について、また、基本的人権について説明する。この講義を通じて、日本国憲法に関する基本的な知識を習得すること、法的な思考方法を身につけること、自らの考えを正確に表現する力を養うことを目的とする。	
		法学入門	この講義では、法学の勉強を始めるにあたってまず知っておいた方がよいと思われる事項について学習する。具体的には、法学にはどのような分野があるのか（公法・民事法・刑事法等）、法律とはなにか、法律の役割とはなにか、どうして法律ができるのか、判例とは何かなどについて、解説する。この講義を通じて、法的なものの方や考え方とはなにかを学び、今後、それぞれの法分野に関する科目を学習するための下地を築くことを目的とする。	
		大学生が出会う法律問題	大学生が生活をする上では、交通事故を起こしたり、自転車を盗まれたり、アルバイトで休憩なしに7時間以上働かされる等々、さまざまなトラブルに遭うことがある。これらのトラブルは、すべて法律問題であり、法学の知識を有することによって解決、あるいは防止できるものが多い。そこで、この講義では、それぞれの法分野を専門とする教員がオムニバス方式で、学生生活に関連する法律問題について解説する。学生生活を送る上で必要な法学に関する知識を学び、トラブルに対処する力を身につけることを目的とする。 (オムニバス方式/全15回) (65 丸橋昌太郎/2回) ガイダンス・総括 (58 赤川理/1回) 憲法分野 (66 大江裕幸/2回) 行政法分野 (34 池田秀敏/1回) 民法分野—契約一般、賃貸借、交通事故等 (64 栗田晶/1回) 民法分野—契約一般、賃貸借、交通事故等 (68 山代忠邦/1回) 民法分野—契約一般、賃貸借、交通事故等 (76 寺前慎太郎/2回) 商法分野 (75 濱田新/2回) 刑法分野 (41 小林寛/1回) 環境法分野 (70 島村暁代/2回) 労働法分野、社会保障法分野	オムニバス方式
		現代政治分析	日本の政治課題をどのように解決していくか、現代の政治課題に関する情報を収集分析し理解を深め、解決を考える技法を学ぶ。グローバル化が進展する中で、少子高齢化への対応、地方再生、環境やエネルギー問題、社会福祉や経済改革、外交や安全保障問題など政治課題は多岐にわたる。具体的な政策課題を取り上げ、現実的な課題解決方法を考察していく。毎回、課題を課し、授業の中で議論し理解を深めていく。自ら主体的に学び考え、それを口頭または文章で伝える能力を向上させる。	
自然科学群	数と形	古くから積み上げられてきた人類の英知を学び、また日常生活における数学の応用例を見ることで数学に対する見方が変わり、楽しさを知ることができる。授業名「数と形」のように前半では日常使用している「数」特に整数の性質について学び、その不思議さ深遠さを理解する。後半ではグラフ理論のように数と形の両方の概念をもつ具体的な問題等、いくつかの話題を取り上げて数名でのグループ作業を取り入れながら性質や応用について考える。		
	伝えておきたい数学	数学の基礎科目（微積分学や線形代数学）では伝えられないが、教養として是非おさえておきたい数学について、様々な観点から紹介する。数学の身近さ、創造の世界を感じ取ることで、数学の世界への理解を深めることをねらいとする。講義形式、討論形式、発表形式などを取り入れながら行っていく。講義形式では教養としての数学の知識を、討論形式ではグループに分かれて自分の考えを異分野の人にもわかりやすく話す能力を、発表形式ではプレゼンテーション能力を身につけられるようにする。		
	素数の不思議	この講義では素数という根源的な不思議な存在について、図書の識別記号である(JB) ISBN記号、RSA公開鍵暗号を主な題材として、いくつかの話題を提供する。素数はなぜ重要か、科学的な面からも、生活上の面からも考えてみたい。参加型の講義である。実際に手を動かして計算を行い、共に考え、話し合いを行う。講義の途上で2人組を作り、互いに課題（例えば数当てなど）を解決し合う取り組みを行う。これらの活動に積極的に取り組むことによって理解を深め、興味を喚起できる。		

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 自然科学群	教養としての物理学	物理学がどのようなものかを知り、自然を論理的に把握する立場を学ぶ。扱うテーマは、物理学の中の区分けで言うと「力学」「電磁気学」「相対論」である。それぞれにつき取り上げる話題は限られるが、単なる知識の寄せ集めにならないよう、話の流れを大切にしていきたい。物体の運動、電磁気現象、時間と空間、の各テーマについて、それぞれ数回ずつの授業をあてて解説して行く。レポートの作成は、物理学に対して、多面的、重層的な視点をもってもらうことを企図した、この授業の重要な構成要素、活動である。	
	観測天文学入門	最初に天体観測の概要に触れたあと、基本的に講義の大部分は教養としての天文学を学ぶことに割かれる（観測手法が主題ではないので注意して欲しい）。過去数年間に話題になった研究成果のうち、毎回ひとつのトピックを選び、それらがどのような着想および観測事実に基づいたものであるのかについて考えを深める。期間中に興味深い発見があった場合は適宜講義で扱う可能性がある。宇宙に興味のある、あらゆる学生の履修を歓迎する。	
	生活のなかの天文学	宇宙の始まりであるビッグバンから地球上の生命の起源にいたるまで、宇宙の進化の歴史を幅広く学ぶ。その知識をもとに、現代社会の諸問題と天文学のつながりを、毎回テーマを絞って考えを深める。講義では、基礎科学（物理、化学、生物、地学）から、それらと現代社会（社会活動、人間活動）との関係まで幅広く扱う。星々の世界は、さらに身近な存在になりつつある。分野横断研究（学際的研究）に興味を持つ、あらゆる学生の履修を歓迎する。	
	生態学入門	生物は環境からさまざまな影響を受けて生活しているが、生物の構造や機能、さらに生活様式にはその生息環境への適応が広く認められる。そうした生物の生活をその環境との関係で解き明かす科学が生態学である。この講義では生態学の基礎知識や基本概念を学ぶことを目的として、生物の多様性と進化、生物の集団（個体群）の性質、生物群集での個体群間のさまざまな相互関係、生態系の構造と機能について、パワーポイントやプリントなどを用いて講義を行う。	
	地域から学ぶ地球	山岳県である信州は多様な地質現象が観察される場所であり、そこに見られる地質現象を紹介し、それらが地球のどのような動きの結果かたち作られたのか、現場の現象からどのような地球の姿が明らかにされてきたのかについて学ぶ。この授業を通して、自然の見方、地球に関する研究の方法、さらに信州の自然の魅力を知ることができる。地球を調べる方法、日本最古の化石と地層、熱帯・火山島・深海の証拠、プレート運動、フォッサマグナ、火山、活断層と地震、災害などについて、実体験に基づく信州の地質の状況と、野外の現象から地球のどのような構造や動きが読み取れるかを解説する。	
	教養としての物質科学	物質をミクロな立場から考える視点を学び、我々が日常何気なく目にし、利用している物質・材料の背後にある科学、技術の一端を知る。鉄鋼材料や半導体など、我々の文明を支えている様々な物質・材料に焦点をあてる。また、そうした話題を通じて、「結晶学」「金属物理」「熱・統計力学」「量子論」等の学問分野の雰囲気も副次的に伝えたい。物質の構造、状態の変化、電子の振る舞いの各テーマについて、それぞれ数回の授業をあてて解説して行く。	
	ネットワーク社会における情報科学	高度情報化社会、ネットワーク社会と呼ばれる今日、情報処理やコンピュータに関する知識は社会生活を送る上で必要不可欠なものになっている。コンピュータの普及が私たちの生活に何をもたらしたのか、また将来的にはどのようなことが可能になるのだろうか。ここではコンピュータの動作原理を平易に解説する他、コンピュータ・ネットワークの基礎技術、情報社会の現状と問題点について講義する。コンピュータの歴史と進歩、コンピュータの動作原理、情報社会を支える様々な技術的背景、コンピュータネットワークの普及がもたらす意味について理解し、説明することができるようになることを目指す。	
統計学の基礎	人間の行動を対象とした研究に携わる上で必要になる統計的なデータ解析手法を理解し、効果的な研究計画をたてるための知識を習得する。この授業を受講することで、数値データの整理法、統計学的検定の考え方や活用法などの知識を獲得することができる。各回の授業は、各種統計手法について解説した後、パソコンを用いてデータ解析の実際を学ぶ。データ解析には表計算ソフトを用いるが、基本的な使い方は説明しないので、各自復習しておいて欲しい。		

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 自然科学群	検索の科学	検索サイトGoogleを実際に多角的に活用した事例の紹介を通じてインターネット上の検索技術の概要を把握する。その後、検索の各技術の背景にある科学的側面の理解を進めていく。単なる検索操作では終わらない、その背後にある統計学や情報科学の学習まで進める。検索技術は現在進行中のものであり、また世の中で常用される技術を対象としていることを踏まえて、環境、教育、地域、ジェンダーの問題など、なるべくタイムリーな話題を扱いながら授業の展開を進める。	
	脳の不思議を探る（認知神経科学入門）	脳の謎を材料とし、自分で考え・探ることで、「考える力」そして「問題を解決する力」を磨き、納得解を得ること、「知識」ではなく「知恵」を獲得することを狙いとする。 「脳」についての基本知識のみは講義しておき、「脳の不思議」にまつわる理・情・欲、軽率な脳、騙される脳その他様々なトピックを基に、各自の独創的で大胆な発想に基づいた積極的な議論を重ねることによって受講者全員で理解を深める「受講者参加型」の形式を取る。受講者は受身ではなく、自ら疑問を持ち主体的に考えることが必要である。	
	脳の不思議をもっと探る（認知神経科学入門）	脳の謎を材料とし、受講者の関心を交えつつ、前期に扱わなかった中からトピックを抽出して進めていく。自分で考え・探ることで、「考える力」そして「問題を解決する力」を磨き、納得解を得ること、「知識」ではなく「知恵」を獲得することを狙いとする。 前期同様、「脳」についての基本知識のみは講義しておき、「脳の不思議」にまつわる理・情・欲、軽率な脳、騙される脳その他様々なトピックを基に、各自の独創的で大胆な発想に基づいた積極的な議論を重ねることによって受講者全員で理解を深める「受講者参加型」の形式を取る。受講者は受身ではなく、自ら疑問を持ち主体的に考えることが必要である。	
	宇宙から原子への旅	私たちを取り巻く世界を大きさに注目して、宇宙から原子にいたる様々な現象を全学教育機構の自然科学系の複数の教員が分担して解き明かす。文系の学生にも配慮した内容である。 (オムニバス方式/全15回) (25 佐々木洋城/3回) 導入 世界のスケール、通信と数学 (62 三澤透/2回) 銀河系と第2の地球探し、天地明察－天文編－ (54 片長敦子/1回) 天地明察－和算編－ (26 大塚勉/1回) 地球環境の変遷 (28 湯田彰夫/1回) アルゴリズムとヒューリスティックス (33 高野嘉寿彦/1回) 円周率の歴史をみてみよう (30 鈴木治郎/1回) スケールフリーの世界 自己相似の幾何学 (46 今津道夫/1回) 微生物の世界 (49 伊藤靖夫/1回) 身の回りの問いと生命の存在理由 (20 村上好成/1回) 高分子の鎖 (35 勝木明夫/1回) 光の化学、磁気の科学 (51 安達弘通/1回) 原子から宇宙へ	オムニバス方式
体育・スポーツ群	ソフトボール	本実践演習はグループ毎のディスカッションを通して問題や課題を発見し、その解決法を探りながら学習していく。まず2人組でキャッチ・ボールしながら「ウインドミル投法」の体験、4人組での「トスとフリー・バッティング」の技術獲得。更にチーム毎に打撃、守備、走塁等の基本技術を磨き戦術を考え、効果的な運動処方を書き出しながら「ゲーム」を中心とした授業を展開していく。	
	テニス	本実践演習は、技術的に経験知が少ない者でも早い段階からゲーム感覚に親しみ、「硬式テニス」に必要な基本的技術を分解練習しながら学び取っていく。また、リーダー中心に個人の欠点など「課題」を見つけ、仲間と共に協力しながら探求していく。加えて、「ゲームでの戦術」も考え、基礎練習と応用練習とを織り交ぜながら実際場面に対応できる感覚と積極的な行動力を養っていく。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 体育・スポーツ群	アダプテッドスポーツ	この授業は、アダプテッドスポーツの体験を通して、障害のある人との関わり方や、新しいスポーツについて考えていくものである。車いすやアイマスクを使用した校内移動や、アダプテッドスポーツの体験を通して、スポーツの楽しさの広がりや、特別なニーズのある人との関わり方を学ぶ。さらに、設定に応じたアダプテッドスポーツをグループで考え、発表し共有していく。そのため、毎回体を動かしながら学習していくとともに、誰でも楽しめる新しいスポーツを考える柔軟な思考と積極性を必要とする。	
	弓道	本授業では日本古来の武道として、また現代社会における生涯スポーツとしての弓道の基礎を体験することによって、文化としての弓道および身体と精神の相互作用を学ぶ。全日本弓道連盟制定の射法を基準に、射術及び競技方法やルール、弓具の扱い方を習得する。徐々に的との距離を伸ばしながら練習していき、正しい姿勢や心構え、射術等を習得していく。最後にまとめとして、射会を行い、射会の運営も含めて弓道の楽しさを味わえるようにする。多くの学生にとって初めての競技であるため、技術向上のために授業中の積極的な取り組みと、自主練習を必要とする。	
	コーディネーションエクササイズ	本授業では、四肢の協調や思考と行動の連動に注意を向けた運動ができるようになることを目的として、身体の動かし方に対する「気づき」と総合的な体力向上の獲得を目指す。種々の用具を用い、簡単に実践できるエクササイズから少し専門的なエクササイズを行う。例えば、バランスマットを使用したバランスエクササイズや、ジャンプ系と敏捷系を組み合わせた複合エクササイズを行う。また、子どもの頃から慣れ親しんできた遊びの中からピックアップしたものをアレンジし、授業のねらいを達成するための「オリジナルエクササイズ」を考案する。オリジナルエクササイズの考案と実践はグループ単位で行う。	
	剣道形の世界	本授業では、日本の伝統的運動文化である武道の学習法の一つ、形の実践を行う。形稽古を通して武道の礼法・作法を学ぶ中で、日本の伝統的運動文化の価値について理解を深めることを目的とする。「木刀による剣道基本技稽古法」と「日本剣道形」を習得する。グループで学習を進め、「木刀による剣道基本技稽古法」の成果を演武会で披露し、「日本剣道形」の成果を演武大会でグループ毎に競い合う。日本剣道形は、習熟度に応じて小太刀の形の学習も行う予定である。また、素振りや足さばき等の剣道の基本動作も行い、動きの質の向上を目指す。	
	バドミントン	本授業ではバドミントン競技の特性を理解し、ゲームとグループ活動の実践を通して技能・戦術等の個人的資質やコミュニケーション能力を向上させ、自己実現を図るとともに、生涯スポーツのリーダーとして、具体的実践方法を習得することを目指す。具体的には、バドミントン競技の技能・戦術とその応用力並びにルール・スコアリングについて習得し、グループ毎に練習計画を立案し、チーム力の向上を図る。授業ではグループ学習を多く取り入れ、8人のグループ毎に課題を設定してグループ対抗戦を行う。	
	コンディショニングバレエ	バレエダンサーの均整のとれた身体、美しい姿勢はどのようなトレーニングによりつくられているかを学ぶことにより、自身の身体への認識を高め、日常姿勢の癖を矯正するためのトレーニング方法を見出すことを目的とする。実際に身体を使って表現し踊り、バレエ動作と自己表現のつながりについて（踊ると動くの違い）を学び、ダンサーの動きを体感し、自身の身体との違いを発見する。バレエストレッチ、トレーニングを実践し、自身の身体（筋肉、関節）の左右のバランスを確認し問題を解決するためのトレーニング方法を学ぶ。グループに分かれて各々のトレーニング方法についてディスカッションを行う。最終課題として、グループごとに音楽に合わせた作品を創り（ストレッチ・トレーニング方法やダンス）発表する。	
	サッカー	本講座は、ミニゲームを展開し、サッカーの基本技術や基本戦術の習得に取り組む。基本的には身方や敵の動きに応じて適切な状況判断ができるようにし、周囲とのコミュニケーションを図り、互いに協力してカバーしあい、全員で行うゲームの楽しさを理解することを目指す。グループ毎にミニゲームの問題点を挙げ、その解決方法を考える。チームを作り、ポジションの役割を理解し、学生が主体的にフォーメーションを決めて、11対11のゲームを行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 体育・スポーツ群	バレーボール	本講座は、バレーボールの基礎技術の習得に簡単に楽しく取り組み、ミニゲームを展開して学生が主体的にゲーム運営にかかわることで、他者とのコミュニケーションを図り、互いがカバーしあうこと、全員で楽しむことができるゲーム環境を作ることを学ぶ。スポーツを楽しむ喜びを感じ、生涯スポーツへの導入を目指す。ボールコントロールからスタートし基礎技術のコツをつかみながら応用技術を加えチームを作り、学生が主体となりコンビネーションやフォーメーションを決める。男子は6人制中心に女子はソフトバレーボールを中心にゲームを楽しむ。	
	トレッキング	本授業では「信州の自然体感」をテーマに、トレッキングを通して自己の身体を再確認し、歩行運動の重要性の認識と生涯学習への導入を図るとともに、信州の自然環境を体感することにより環境問題についての理解を深めることをねらいとする。グループ活動を導入し、コミュニケーション能力の向上も目指す。夏期休暇中に4日間の集中形式で実施する。松本市周辺の自然に恵まれた地域(安曇野、白馬八方尾根、上高地、乗鞍高原)を訪れ、約8kmから15kmのトレッキングを行い、信州の豊かな自然を体感する。幾つかのグループを編成し、歩行のペース、休憩の取り方等について各グループで検討し実践するとともに、環境問題についても考える。また、宿泊を伴うので生活マナーについても学習する。	集中
	ゴルフ	ゴルフのスイング、道具の選び方を学ぶ。またコースに出ることによって、実際のプレーを体験し、将来社会人の持つべき教養の一つとしてのゴルフを身につける。また、グループでゴルフの練習方法などのディスカッションを通して深くゴルフを理解するとともに、ゴルフ場でのマナーを学び、生涯にわたってゴルフを楽しむ素養を養う。大学でスイングの基礎を習得した後、ゴルフ練習場(松本中央ゴルフ場)で、練習を行い、その後、松本カントリークラブで、ハーフラウンドと1ラウンドの実習を行う。	集中
	スポーツフィッシング	本授業は、信州の自然を生かした溪流釣り(えさ釣り、フライフィッシング)を体験し、自然との関わりの中でどのように自己をコントロールするか学ぶとともに、生涯にわたってレジャー活動を楽しむための導入を図る。また、併せて、信州の自然に接することによって環境に対する意識を高めることも目的とする。3泊4日の集中授業で行い、溪流つりの実践方法を学ぶとともに、グループごとに自然との協調性をどのようにしたら育むことができるかについてディスカッションと発表を行い、環境への意識を高める。(場所:伊那市周辺の河川)	集中
	マリンスポーツ	本授業は、信州の自然を生かしたマリンスポーツのうち、ヨット、カヌー、ボードセーリングといった種目を体験し、それぞれの種目の特性やルール、マナーおよびその考え方について学び、生涯スポーツへの導入を図ることを目的とする。8月に3泊4日の集中授業で、ヨット、カヌー、ボードセーリングの基礎を学び、協力してマリンスポーツを行うにはどうすれば良いか、グループワークによるディスカッションを行う。また、役割分担によって各グループでの自己の責務を自覚させ、積極的に実習に取り組むよう仕向ける。(場所:高遠湖)	集中
	信大マラソン	生涯スポーツとして人気のある「マラソン」について、心身への負荷、トレーニング法などについて栄養学、生理学、トレーニング科学などの面から学習し、その実践としてスカイパークでのマラソン完走を目標にする。講義と実践を通し、生涯スポーツとしてのマラソンの価値と可能性について考察する。授業は1ヶ月に一日ごと4日間の集中授業として行う。当然、授業時間だけでは完走できる体力はつかないため、授業時間以外の自主トレーニングが前提となる。また、走力に応じてグループ分けを行うので、自分のできる範囲での完走を目指す。	集中
	アウトドアの達人	本授業は、信州の自然(特に乗鞍高原)における野外活動の体験をとおして「アウトドアの達人」になるために必要な野外活動の基礎的知識、技術、ルール・マナーとその考え方について学び、生涯スポーツへの導入を図ることをねらいとする。全てのプログラムはグループワークをとおして行うため、コミュニケーション能力・チームワーク力・リーダーシップ力・フォロアシップ力を養うことができる。2泊3日の集中形式で2回実施し、夏期には説図、コンパスワーク、溪流釣り、ロープワーク、夏のソロ活動の知識と技術の習得を図る活動を行い、冬期にはクロスカントリースキーツアー体験、アニマルトラッキング、氷瀑観察、灯籠作りの知識と技術の習得を図る活動を行う。	集中

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 体育・スポーツ群	サバイバル活動	本授業は、海浜での主に『食』に関するサバイバル活動をとおして野外活動に必要な知識、技術とその考え方を実践的に学び、生涯スポーツへの導入を図ることをねらいとする。活動の計画立案・実施に至るまでグループワークをとおして行うため、コミュニケーション能力・チームワーク力・リーダーシップ力・フォロアーシップ力を養うことができる。夏季休業期間中に4泊5日の集中形式で実施し、食（特にタンパク質）のサバイバルをとおして生きる力を養う。到達目標の概要は、スキндаイビングの知識と技術の習得、狩猟活動の知識と技術の習得、野外料理の知識と技術の習得、野外活動に必要な知識と技術の習得、グループワーク力の習得である。	集中
	スクーバダイビング	本授業は、海洋スポーツの一つであるスクーバダイビングに必要な基礎的知識、技術、ルール・マナーとその考え方について学び、生涯スポーツへの導入を図ることをねらいとする。全てのプログラムはグループワークをとおして行うため、コミュニケーション能力・チームワーク力・リーダーシップ力・フォロアーシップ力を養うことができる。3泊4日の集中形式で実施し、主にスクーバダイビングのCカード取得のための理論講習と実技講習を行う。到達目標は、スキндаイビングの知識と技術の習得、スクーバダイビングの知識と技術の習得、海洋生物の知識の習得、海洋環境の知識の習得、グループワーク力の習得である。	集中
	レジャースポーツ	本授業は、『水・空・雪』をテーマに、信州の自然を活かした様々なレジャースポーツを体験する。それらの体験をとおして、それぞれの種目に必要な基礎的知識、技術、ルール・マナーとその考え方について学び、生涯スポーツへの導入を図ることをねらいとする。全てのプログラムはグループワークをとおして行うため、コミュニケーション能力・チームワーク力・リーダーシップ力・フォロアーシップ力を養うことができる。『水・空・雪』をテーマに、1泊2日の集中形式で3回実施する。到達目標は、それぞれテーマ別に、『水』：カヌー、ヨット、ボードセイリングの基礎理論と技術の習得、『空』：パラグライダーの基礎理論と技術の習得、『雪』：クロスカントリースキーの基礎知識と技術の習得である。	集中
	スポーツボウリング	本授業は、ボウリングのルール、マナーおよびその技術について学び、生涯スポーツへの導入を図ることを目的とする。ゲームを通して、学生のコミュニケーション能力の向上を図り、ボウリングを通して、身体を用いた自己表現、自己実現や問題解決の方法を学ぶことを目的とする。ゲームの運営を分担して行い、リーダーシップ力を養うとともに、グループでのディスカッションを通して、身体感覚と実際の運動結果との相違について理解を深め、運動学習の方法の理解を高める。	
	ニュースポーツ	ニュースポーツは、老若男女問わず誰もが楽しめるスポーツであり、数多くの種目が考案され、世界的な広がりとなっている。本授業では、いくつかのニュースポーツを取り上げて実践する。基本ルールを理解し、仲間とコミュニケーションを図りながら取り組み、最終的には生涯スポーツを実践するきっかけとなることを目的とする。はじめにニュースポーツの各種目を紹介する。各種目でルールを理解しながら実践し、さらには技術レベルも向上するように進めていく。ニュースポーツは単純明快なルールであるにも関わらず、その実奥深いものであることを認識させ、実践にあたっては、各種目が考案されてきた歴史的背景についても学ぶ。小テスト1回、小レポート1回を課す。	
	アスレティックトレーニング	スポーツは体力を保持増進し健康な日々を送るのに効果的であるが、それと同時にスポーツを原因とした外傷および障害の発生により、健康を害する要因ともなり得る。本授業では、スポーツ外傷・障害を予防するトレーニングや競技力向上の基礎となるトレーニングを体験し、総合的な体力向上とトレーニングを計画・実施できる力を身に付けることをねらいとする。競技スポーツ現場にて運動能力の向上を目的として行なわれる様々なトレーニングを体験する。また、授業の最初と最後でフィットネスチェックおよびフィールドテストを実施し、自身の能力がどのように変化するかを体験する。グループでコミュニケーションをとりながら授業を進める。	

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	教養科目 体育・スポーツ群	バスケットボール	本授業では、グループに分かれディスカッションを通して問題や課題を発見し、その解決法を探りながら学習していく。バスケットボールのファンダメンタルを習得しながら個人技術を磨き、本場の「スリー・オン・スリー」なども楽しむ。チーム編成の中でリーダーを中心に各個人の役割を考え、効果的な人材を模索する。さらに、チーム力を高めながら「戦術」を考え、駆け引きのある「ゲーム」を楽しむ、運動量の確保と共に経験知の質を一層高めていく。	
		ネイチャースキー	ネイチャースキーとは、整備されていない雪山や森の中を、踵が固定されていないスキー用具を使って移動（歩く・登る・滑る）する活動である。この授業では、信州の冬の間や森を楽しく安全に移動できるようにすることを旨とし、登坂や滑降（テレマーク技術）に必要な技能を学ぶとともに、地図や方位磁石の使い方などを実践的に学ぶ。自然の中での活動を通して、健全な身体的感性を育み、自己の健康観を確立するとともに、人と人とのコミュニケーション能力を育てることを目的とする。スキー場周辺において3泊4日の集中形式で実施する。	集中
		スノー・スポーツ	本授業では、信州の自然に触れ、対話しながら思い通りのシュプールを描き、みずから環境的な心を深め理解できるようになること、スノー・スポーツに関する知識・技術・ルール・マナーを身につけ、生涯にわたる運動習慣の形成を考えられるようになること、グループ・ワークを通してコミュニケーション能力、チームワーク力、リーダーシップを身につけ、本学の学生・卒業生として期待される人間像を表現し、活力ある健全な社会の形成に貢献できるようになることを目指し、総じて「ひとり立ち出来るスキーヤー」となることをねらいとするアルペンスキーのグループ・ワーク授業である。技術レベル毎に分かれてディスカッションを行い、問題や課題を発見し解決法を探りながら学習していく。	集中
		フライングディスク	本授業はフライングディスクを通して、身体を用いた自己表現、自己実現や問題解決の方法を学ぶことを目的とする。生涯スポーツとして最適なフライングディスクの種目の様々な特定を学ぶ。フライングディスクの競技のうちチームスポーツであるアルティメットを通じて、コミュニケーション能力の向上も図る。生涯にわたって実践できる健康づくり・体力作りへの意識作りと方法について学習する。アルティメットのリーグ戦を通してコミュニケーション能力の習得を目指す。	
基礎科目	外国語科目	英語 フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅠ（上級）	文法、コロケーション、語彙や構文に配慮しながら、正しい英文が書けるようになるように演習を行う。リーディングに関しては、文レベルできちんと英文が理解できるようになるように演習を行う。これらの演習は、英語の読解力および作文力のみならず、スピーキング力や英語によるディスカッション力の養成にも資するものである。なお、テキストは上級レベルに対応したものを使用する。	
		フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅠ（中級）	文法、コロケーション、語彙や構文に配慮しながら、正しい英文が書けるようになるように演習を行う。リーディングに関しては、文レベルできちんと英文が理解できるようになるように演習を行う。これらの演習は、英語の読解力および作文力のみならず、スピーキング力や英語によるディスカッション力の養成にも資するものである。なお、テキストは中級レベルに対応したものを使用する。	
		フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅠ（初級）	文法、コロケーション、語彙や構文に配慮しながら、正しい英文が書けるようになるように演習を行う。リーディングに関しては、文レベルできちんと英文が理解できるようになるように演習を行う。これらの演習は、英語の読解力および作文力のみならず、スピーキング力や英語によるディスカッション力の養成にも資するものである。なお、テキストは初級レベルに対応したものを使用する。	
		フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅡ（上級）	パラグラフレベルのライティングに対応したテキストを用い、原因と結果、記述、議論など、様々な種類のパラグラフの構成や、リスティング・クラスタリングなどのアイデア推敲作業を学び、きちんとした英語のパラグラフが書けるように演習を行う。リーディングに関しては、パラグラフレベルできちんと英文が理解できるようになるように演習を行う。これらの演習は、英語の読解力および作文力のみならず、スピーキング力や英語によるディスカッション力の養成にも資するものである。なお、テキストは上級レベルに対応したものを使用する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基礎科目 外国語科目	英語 フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅡ (中級)	パラグラフレベルのライティングに対応したテキストを用い、原因と結果、記述、議論など、様々な種類のパラグラフの構成や、リスニング・クラスタリングなどのアイディア推敲作業を学び、きちんとした英語のパラグラフが書けるように演習を行う。リーディングに関しては、パラグラフレベルできちんと英文が理解できるようになるように演習を行う。これらの演習は、英語の読解力および作文力のみならず、スピーキング力や英語によるディスカッション力の養成にも資するものである。なお、テキストは中級レベルに対応したものを使用する。	
	フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅡ (初級)	パラグラフレベルのライティングに対応したテキストを用い、原因と結果、記述、議論など、様々な種類のパラグラフの構成や、リスニング・クラスタリングなどのアイディア推敲作業を学び、きちんとした英語のパラグラフが書けるように演習を行う。リーディングに関しては、パラグラフレベルできちんと英文が理解できるようになるように演習を行う。これらの演習は、英語の読解力および作文力のみならず、スピーキング力や英語によるディスカッション力の養成にも資するものである。なお、テキストは初級レベルのものを使用する。	
	リスニング&リーディングⅠ (上級)	上級レベルにおいて、バラエティに富んだ題材を扱った英文を用いて、ジャンルに応じた読解法・聴解法を修得する。また、語彙やイディオムなどの確認・整理も行う。 学部や学科によっては、求められるものや興味などが異なる場合があるので、それらにも配慮する。 なお、必要に応じて、専門に関連した教材や資格試験対策教材などの補助教材も適宜使用する場合がある。 初回時にテキストや内容についてガイダンスを行う。	
	リスニング&リーディングⅠ (中級)	中級レベルにおいて、バラエティに富んだ題材を扱った英文を用いて、ジャンルに応じた読解法・聴解法を修得する。また、語彙やイディオムなどの確認・整理も行う。 学部や学科によっては、求められるものや興味などが異なる場合があるので、それらにも配慮する。 なお、必要に応じて、専門に関連した教材や資格試験対策教材などの補助教材も適宜使用する場合がある。 初回時にテキストや内容についてガイダンスを行う。	
	リスニング&リーディングⅠ (初級)	初級レベルにおいて、バラエティに富んだ題材を扱った英文を用いて、ジャンルに応じた読解法・聴解法を修得する。また、語彙やイディオムなどの確認・整理も行う。 学部や学科によっては、求められるものや興味などが異なる場合があるので、それらにも配慮する。 なお、必要に応じて、専門に関連した教材や資格試験対策教材などの補助教材も適宜使用する場合がある。 初回時にテキストや内容についてガイダンスを行う。	
	リスニング&リーディングⅡ (上級)	Iで学んだ内容を踏まえ、上級レベルにおいて、バラエティに富んだ題材を扱った英文を用いて、ジャンルに応じた読解法・聴解法を修得する。また、語彙やイディオムなどの確認・整理も行う。 学部や学科によっては、求められるものや興味などが異なる場合があるので、それらにも配慮する。 なお、必要に応じて、専門に関連した教材や資格試験対策教材などの補助教材も適宜使用する場合がある。 初回時にテキストや内容についてガイダンスを行う。	
	リスニング&リーディングⅡ (中級)	Iで学んだ内容を踏まえ、中級レベルにおいて、バラエティに富んだ題材を扱った英文を用いて、ジャンルに応じた読解法・聴解法を修得する。また、語彙やイディオムなどの確認・整理も行う。 学部や学科によっては、求められるものや興味などが異なる場合があるので、それらにも配慮する。 なお、必要に応じて、専門に関連した教材や資格試験対策教材などの補助教材も適宜使用する場合がある。 初回時にテキストや内容についてガイダンスを行う。	
	リスニング&リーディングⅡ (初級)	Iで学んだ内容を踏まえ、初級レベルにおいて、バラエティに富んだ題材を扱った英文を用いて、ジャンルに応じた読解法・聴解法を修得する。また、語彙やイディオムなどの確認・整理も行う。 学部や学科によっては、求められるものや興味などが異なる場合があるので、それらにも配慮する。 なお、必要に応じて、専門に関連した教材や資格試験対策教材などの補助教材も適宜使用する場合がある。 初回時にテキストや内容についてガイダンスを行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	基礎科目 外国語科目	英語 アカデミック・イングリッシュ I (上級)	上級レベルにおいて、エッセイ・ライティング用のテキストを用いて演習を行うが、1年次に引き続き、パラグラフの構成の学習から始める。リーディングに関しては、パラグラフ単位で意味をつかみ、かつパラグラフ間の整合性に注意を向けつつ、一定の長さの英文を読む練習を行う。	
		アカデミック・イングリッシュ I (中級)	中級レベルにおいて、エッセイ・ライティング用のテキストを用いて演習を行うが、1年次に引き続き、パラグラフの構成の学習から始める。リーディングに関しては、パラグラフ単位で意味をつかみ、かつパラグラフ間の整合性に注意を向けつつ、一定の長さの英文を読む練習を行う。	
		アカデミック・イングリッシュ I (初級)	初級レベルにおいて、エッセイ・ライティング用のテキストを用いて演習を行うが、1年次に引き続き、パラグラフの構成の学習から始める。リーディングに関しては、パラグラフ単位で意味をつかみ、かつパラグラフ間の整合性に注意を向けつつ、一定の長さの英文を読む練習を行う。	
		アカデミック・イングリッシュ II (上級)	上級レベルにおいて、エッセイ・ライティング用のテキストを用いて演習を行うが、前期に引き続き、パラグラフの構成の学習から始める。リーディングに関しては、パラグラフ単位で意味をつかみ、かつパラグラフ間の整合性に注意を向けつつ、一定の長さの英文を読む練習を行う。	
		アカデミック・イングリッシュ II (中級)	中級レベルにおいて、エッセイ・ライティング用のテキストを用いて演習を行うが、前期に引き続き、パラグラフの構成の学習から始める。リーディングに関しては、パラグラフ単位で意味をつかみ、かつパラグラフ間の整合性に注意を向けつつ、一定の長さの英文を読む練習を行う。	
		アカデミック・イングリッシュ II (初級)	初級レベルにおいて、エッセイ・ライティング用のテキストを用いて演習を行うが、前期に引き続き、パラグラフの構成の学習から始める。リーディングに関しては、パラグラフ単位で意味をつかみ、かつパラグラフ間の整合性に注意を向けつつ、一定の長さの英文を読む練習を行う。	
	ドイツ語	ドイツ語初級(総合) I	ドイツ語の構造について:「学習」した個々の項目を自由自在に組み合わせ、読み・書き・話し・聞くことができるようになるのが目標である。そのためには、授業で扱った内容を次の授業までにしかりと復習し、疑問点を明確にし、定着させて進んでいかなければならない。 発音について:ドイツ語の発音の出発点は「ローマ字読み」である。その例外となる発音に着目して習得を目指してほしい。そのためには、目で読むだけでなく、常に音読して、ドイツ語のリズムを共に身につけていく必要がある。 授業の全体像:最初の数回の授業で発音の基礎を学習するが、その後も引き続いてチェックを行う。数詞の暗唱や短い文章の朗読といった口頭テストも行う。 基本的に1課終了ごとに確認テストを行うことで、自己評価(チェック)に役立ててもらおう。その他に、発音チェックの口頭試験、期末試験を行う。	
		ドイツ語初級(総合) II	文法学習について:前期に習得したことを土台として、さらに「学習」した個々の項目を自由自在に組み合わせ、読み・書き・話し・聞くための能力を伸ばすことが目標である。そのためには、授業で扱った内容を次の授業までにしかりと復習し、疑問点を明確にし、定着させて進んでいかなければならない。 発音について:前期に引き続き、重点をおく。 授業の全体像:最初の2回の授業で前期の復習を行うが、以後、授業内で既習事項の確認を行う。積極的な自習によって新規学習事項との関連を確認するように。 基本的に1課終了ごとに確認テストを行うことで、自己評価(チェック)に役立ててもらおう。その他に、発音チェックの口頭試験、期末試験を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基礎科目 外国語科目	ドイツ語初級（文法）Ⅰ	<p>国際化が進む現代社会で生きていくために、多様なものの見かたができるようになることを目指し、英語以外の外国語（この授業ではドイツ語）の基礎を習得する。言語の基本は「音」であるので、発音も重視しつつ、使えるドイツ語の基礎を習得してもらいたい。夏休み中も自主学習を続けることで、独検4級の秋期試験に合格する程度のドイツ語力をつけることも目標の一つである。</p> <p>学ぶべきこと： 1. ドイツ語の基本的な構造 2. ドイツ語の発音 3. 言語を媒介としたグローバル感覚</p>	
	ドイツ語初級（文法）Ⅱ	<p>ドイツ語初級（文法）Ⅰに引き続き、国際化が進む現代社会で生きていくために、多様なものの見かたができるようになることを目指し、英語以外の外国語（この授業ではドイツ語）の基礎を習得する。言語の基本は「音」であるので、発音も重視しつつ、使えるドイツ語の基礎を習得してもらいたい。夏休み中も自主学習を続けることで、進級後の独検3級の春季試験に合格する程度のドイツ語力をつけることも目標の一つである。</p> <p>学ぶべきこと： 1. ドイツ語の基本的な構造 2. ドイツ語の発音 3. 言語を媒介としたグローバル感覚</p>	
	ドイツ語初級（読解・会話）Ⅰ	<p>この授業では、初級レベルにおいて口頭でドイツ語のセンテンスを作ることに重点を置いて、授業を行う。 授業中、発音練習、グループワーク、インタビュー活動等の口頭でのやりとりに、多くの時間を費やす。しっかりとした基礎的なドイツ語のレベルを目指すため、授業では他の3つの言語能力（聞く、書く、読む）も訓練する。また、文法の要素も重要不可欠である。 受講者には授業への積極的な参加が要求される。また、授業ではほぼ毎回復習小テストを行い、小さな宿題を出す。セメスターの期間中、各課終了後の小テストも行う。各課終了後の小テストや期末試験は、筆記試験と口答試験からなる。</p>	
	ドイツ語初級（読解・会話）Ⅱ	<p>この授業では、Ⅰで学んだ内容を踏まえ、初級レベルにおいて口頭でドイツ語のセンテンスを作ることに重点を置いて、授業を行う。 授業中、発音練習、グループワーク、インタビュー活動等の口頭でのやりとりに、多くの時間を費やす。しっかりとした基礎的なドイツ語のレベルを目指すため、授業では他の4つの言語能力（聞く、書く、読む）も訓練する。また、文法の要素も重要不可欠である。 受講者には授業への積極的な参加が要求される。また、授業ではほぼ毎回復習小テストを行い、小さな宿題を出す。セメスターの期間中、各課終了後の小テストも行う。各課終了後の小テストや期末試験は、筆記試験と口答試験からなる。</p>	
	ドイツ語中級（読解）Ⅰ	<p>ドイツ語読解能力について：外国語は、単なる学ぶ対象ではなく、実際に用いてこそ初めて学習する価値が生まれる。そのためにも、既習事項とその習熟度を自ら理解し、統合的に用いる能力を身につけるトレーニングを行う。また、辞書をひく際も、最初の訳語を見て用いるのではなく、納得がいくまでしっかりと調べて、実際に書かれている内容が腑に落ちるまで考える習慣をつけてほしい。 国際理解感覚について：異文化理解は、外国語の文章を読む際にも問題になる。日本語の感覚だけで読もうとしても書き手の論や感覚を受けとめることはできない。自分がすでに持っている情報で処理しようとするのではなく、常に新しいものを求め、わからないことは納得するまで調べ、自分の中の国際感覚の奥行きを広げる意識を身につける。 授業全体について：学期の前半は、1年次の学習事項の復習と補足を行いつつ、読解に慣れていってもらおう。 Lektionが終わるごとに確認の小テストを行い、自己確認・復習に役立ててもらおう。 後半では、「学習のために作られたのではないドイツ語文」を読み、ドイツ語のテキストに慣れていってもらおう。</p>	

授 業 科 目 の 概 要						
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)						
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考		
共通教育科目	基礎科目	外国語科目	ドイツ語	ドイツ語中級（読解）Ⅱ	この授業はドイツ語中級（読解）Ⅰの継続であり、Ⅰで学んだ内容を踏まえ、初級ドイツ語文法の復習と、新たに初中級ドイツ語文法の習得を目指す。さらに、この授業は、和文独訳、聞き取り・書き取り練習、会話表現練習によって、初中級のドイツ語運用能力の獲得と、「外国語を用い、的確に読み、書き、聞き、他者に伝えることができる言語能力」と、「対話を通じて他者と協力し、目標実現のために方向性を示すことができるコミュニケーション能力」を持つ教養人育成を目指す。ドイツ語の日常的言い回しによるテキストを読み、和訳できるようにする。	
			ドイツ語中級（会話）Ⅰ	ドイツ語のセンテンスを中級レベルにおいて口頭と筆記で作ることに重点をおいて授業を行う。授業中、発音練習、グループワーク、インタビュー活動等の口頭でのやりとりに、多くの時間を費やす。しっかりとした基礎的なドイツ語のレベルを目指すため、授業では他の3つの言語能力（聞く、書く、読む）も訓練する。また、文法の要素も重要不可欠である。 受講者には授業への積極的な参加が要求される。また、授業ではほぼ毎回復習小テストを行い、小さな宿題を出します。セメスターの期間中、各課終了後の小テストも行う。各課終了後の小テストや期末試験の内容は筆記試験と口答試験からなる。		
			ドイツ語中級（会話）Ⅱ	ドイツ語のセンテンスをⅠで学んだ内容を踏まえ、中級レベルにおいて口頭と筆記で作ることに重点をおいて授業を行う。授業中、発音練習、グループワーク、インタビュー活動等の口頭でのやりとりに、多くの時間を費やす。しっかりとした基礎的なドイツ語のレベルを目指すため、授業では他の3つの言語能力（聞く、書く、読む）も訓練する。また、文法の要素も重要不可欠である。 受講者には授業への積極的な参加が要求される。また、授業ではほぼ毎回復習小テストを行い、小さな宿題を出します。セメスターの期間中、各課終了後の小テストも行う。各課終了後の小テストや期末試験の内容は筆記試験と口答試験からなる。		
	フランス語			フランス語初級（総合）Ⅰ	フランス語の基礎文法を理解したうえで、日常においてよく使われる会話文の発音・語彙・表現を学ぶ。それらを踏まえて、リスニング力も磨いていく。また、視聴覚資料を取り入れながら、フランスの生活や文化も紹介する。 「フランス語初級（総合）Ⅰ」においては、フランス語のルールを学んだうえで、視聴覚資料等を通じて、生活や文化について解説する。	
				フランス語初級（総合）Ⅱ	フランス語の基礎文法を理解したうえで、日常においてよく使われる会話文の発音・語彙・表現を学ぶ。それらを踏まえて、リスニング力も磨いていく。また、視聴覚資料を取り入れながら、フランスの生活や文化も紹介する。 「フランス語初級（総合）Ⅱ」においては、Ⅰで学んだ内容を踏まえ、日常的な行動の中において正しい発音で基本的なコミュニケーションがとれる運用能力を学ぶ。さらに、国や文化についての知識を得て、国際感覚を養う。	
				フランス語初級（文法）Ⅰ	定評のある教科書を使い、教員による解説、受講生による演習を行うことによってフランス語文法の基礎をしっかりと身につける。文法は外国語学習の根幹である。言葉とは複雑であり、その勉強は楽なものではない。しかし、だからといって特別難しいものでもない。努力に応じて着実に実力はついていくものである。できるだけわかりやすい授業の展開を目指す。	
				フランス語初級（文法）Ⅱ	定評のある教科書を使い、Ⅰで学んだ内容を踏まえ、教員による解説、受講生による演習を行うことによってフランス語文法の基礎をしっかりと身につける。文法は外国語学習の根幹である。言葉とは複雑であり、その勉強は楽なものではない。しかし、だからといって特別難しいものでもない。努力に応じて着実に実力はついていくものである。できるだけわかりやすい授業の展開を目指す。	
				フランス語初級（読解・会話）Ⅰ	日常的なコミュニケーションのなかで出会う様々な読解および会話のパターンを集中的に学ぶ。発音練習、リスニング、ペアもしくはグループによる会話練習にも力を入れていく。また、視聴覚資料を取り入れながら、フランスの生活や文化も紹介していく。 「フランス語初級（読解・会話）Ⅰ」においては、挨拶・自身の紹介・各場面における尋ねる力等を学び、練習を通じて会話パターンが身につくよう進める。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基礎科目 外国語科目	フランス語 フランス語初級（読解・会話）Ⅱ	日常的なコミュニケーションのなかで出会う様々な読解および会話のパターンを集中的に学ぶ。発音練習、リスニング、ペアもしくはグループによる会話練習にも力を入れていく。また、視聴覚資料を取り入れながら、フランスの生活や文化も紹介していく。 「フランス語初級（読解・会話）Ⅱ」においては、Ⅰで学んだ内容を踏まえ、自身で発信できる力を身につけるよう目指す。さらに、国や文化についての知識を得て、国際感覚を養う。	
	フランス語中級（読解・会話）Ⅰ	授業で得られる要素を達成するために、テキストはフランス庶民社会で起る様々なドラマを扱った短編小説を使用する。本授業は初級から中級への橋渡しの位置づけであるので、単なる訳読にとどまらず、文法の復習も積極的に行う。	
	フランス語中級（読解・会話）Ⅱ	授業で得られる要素を達成するために、テキストはフランス庶民社会で起る様々なドラマを扱った短編小説を使用する。本授業は初級から中級への橋渡しの位置づけであるので、Ⅰで学んだ内容を踏まえ、単なる訳読にとどまらず、文法の復習も積極的に行う。	
	中国語 中国語初級（総合）Ⅰ	テキスト1課につき2回のペースで、解説に加えて、課題の練習（音読・翻訳）、小テスト（音声・筆記）による復習といった構成で、初歩的な中国語を読み・書き・聞き・話す練習を反復しながら授業を進める。 中国語の発音・聞き取りの練習から始め、基本的な文法、語彙の学習にあわせてやさしいテキストを読み、総合的な力を養う。	
	中国語初級（総合）Ⅱ	教科書を中心に行う。前期「中国語初級（総合）Ⅰ」で学んだ内容を踏まえ、引き続き中国語の基本的な文法、語彙を学んでいく。各課終了後に小テストを実施する。また、必要に応じて中国の社会事情や文化なども紹介する。	
	中国語初級（文法）Ⅰ	テキストに沿って授業を進める。まず最初の一か月間は「発音編」を学ぶ。ここで発音と発音記号を習得し、中国語学習の土台を築き上げる。「発音編」は一つの大きな山である。これを頑張って乗り越えれば次の「文法編」の理解も容易になる。「文法編」は一時間に一課の進捗で進む。毎回の授業では文法事項の確認をした後、日本語訳、音読、練習問題などに取り組み理解を深めていく。	
	中国語初級（文法）Ⅱ	テキストに沿って、一時間に一課、授業を進める。本授業では、前期からの学習に続き第十三課から始まる予定である。毎回の授業では文法事項の確認をした後、日本語訳、音読、練習問題などに取り組み理解を深めていく。まとめでは、中国語で書かれた「桃太郎」を読み、またその音読の発表を一人ずつしてもらい予定である。	
	中国語初級（読解・会話）Ⅰ	中国語の背景にある中国の社会、文化を紹介しながら中国語の発音、基本的な構文を学び、練習する。授業中初修者にとって区別しにくい音の把握に重点を置き、解説するだけではなく、十分な練習の時間を設ける。本文は会話形式なので、その役割練習を行うことによって自然に単語の用法と中国語による問いかけと答え方を把握するように授業を進める。中国語検定を参考に、使用頻度の高い語彙の運用能力を身につけるように目指す。中国の歴史、文化に関する参考書についての感想を話し合う時間も設け、中国への関心を高める。	
	中国語初級（読解・会話）Ⅱ	「中国語初級（読解・会話）Ⅱ」においては、Ⅰで学んだ内容を復習し、中国語の背景にある中国の社会、文化を紹介しながら中国語の発音、基本的な構文を学び、練習する。授業中初修者にとって区別しにくい音の把握に重点を置き、解説するだけではなく、十分な練習の時間を設ける。本文は会話形式なので、その役割練習を行うことによって自然に単語の用法と中国語による問いかけと答え方を把握するように授業を進める。中国語検定を参考に、使用頻度の高い語彙の運用能力を身につけるように目指す。中国の歴史、文化に関する参考書についての感想を話し合う時間も設け、中国への関心を高める。	
	中国語演習Ⅰ	中国語の背景にある中国の社会、文化を紹介し、会話練習のために、まず本文の朗読から始まるが、その後ペアで会話の発表を行う。会話能力の向上とともに読解・作文の能力を培うことを目指す。教科書の短い文章には日本人学生が中国へ留学した場合によく使う語彙が盛り込まれているので、留学時の発信力に自信を持つように授業を進める。中国の歴史、文化に関する参考書についての感想を話し合う時間も設け、中国への関心を高める。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基礎科目 外国語科目	中国語	中国語演習Ⅱ	「中国語演習Ⅱ」においては、Ⅰで学んだ内容を踏まえ、中国語の背景にある中国の社会、文化を紹介し、会話練習のために、まず本文の朗読から始まるが、その後ペアで会話の発表を行う。会話能力の向上とともに読解・作文の能力を培うことを目指す。教科書の短い文章には日本人学生が中国へ留学した場合によく使う語彙が盛り込まれているので、留学時の発信力に自信を持つように授業を進める。中国の歴史、文化に関する参考書についての感想を話し合う時間も設け、中国への関心を高める。
	ハンゲル	ハンゲル初級（総合）Ⅰ	韓国語の文字、発音、初級文法を説明する。初期段階での韓国語の発音は日本語母語話者にとっては難しいかも知れないが、日本語の発音と関連付けて分かりやすく解説をしながら発音の練習をしていく。文字や発音をマスターした後は基礎文法を勉強する。韓国語の文法は日本語と似ているため理解しやすいが、誤用の危険性もあるので、その点もしっかり説明する。文字と基礎文法をマスターすれば簡単な会話がすぐ出来るようになる。そのような会話力が確実に定着するように、話すことに時間をかけて授業を進める。授業の後半（約15分間）にはビデオ教材を取り入れて、聞き取りの力がつくようにする。
	ハンゲル	ハンゲル初級（総合）Ⅱ	「ハンゲル初級（総合）Ⅰ」の続きとして、韓国語の初級文法を説明し、その文法知識がしっかり身につくように練習問題を解いた後、応用文を作り、それをもとに会話練習をしていく。韓国語コミュニケーション能力をしっかりと身につけるためには、たくさん話すことが何より大事なことで、たくさん話すことに時間をかけて授業を進めていく。またビデオ教材をたくさん利用して聴き取りの力をつけていく。そして、言葉の背景にある韓国文化も紹介する。
	ハンゲル	ハンゲル初級（文法）Ⅰ	韓国語の文字、発音、初級文法を説明する。初期段階での韓国語の発音は、日本語母語話者にとっては難しいかも知れないが、日本語の発音と関連付けて分かりやすく解説をしながら発音の練習をしていく。文字や発音をマスターした後は基礎文法を勉強する。韓国語の文法は日本語と似ているので、日本語と比較しながらわかりやすく説明する。そして毎回授業の後半（約15分間）にビデオ教材を取り入れて、聞き取りの力がつくようにする。また復習がしっかり出来るように復習シートを使って、確実に韓国語文法がマスターできるように進める。そして言葉の背景にある韓国文化も紹介する。
	ハンゲル	ハンゲル初級（文法）Ⅱ	発音の面では、正確な発音が出来るように練習する。文法の面では、初級文法を説明していく。初級文法をマスターし、単語力を増やせば、応用会話が出来るようになる。そのような会話力が確実に定着するように話すことに時間をかけて授業を進めていく。そして、毎回授業の後半（約15分間）にビデオ教材を取り入れて、聞き取りの力をつけていく。復習がしっかり出来るように復習シートを使って、確実に韓国語能力が身につくように進める。そして言葉の背景にある韓国文化も紹介する。
	ハンゲル	ハンゲル初級（読解・会話）Ⅰ	韓国語の文字、発音、基礎文法を説明する。韓国語の読解力と会話力を養うことに重点を置いて授業を進める。初期段階での韓国語の発音は日本語母語話者にとっては、難しいかも知れないが、日本語の発音と関連付けて分かりやすく解説をしながら発音の練習をしていく。毎回残り15分間は、ビデオ教材を取り入れつつ聞き取りの力をつけていく。そして、言葉の背景にある文化も紹介する。
	ハンゲル	ハンゲル初級（読解・会話）Ⅱ	韓国語でコミュニケーションを取る際には、正確な発音で話すことが大事である。前期に続き、正確な発音が出来るように練習する。そしてテキストに沿って会話のペースとなる初級文法を説明する。全体的には韓国語の読解力と会話力を養うことに重点を置いて授業を進める。ビデオ教材もたくさん取り入れつつ聞き取りの力をつけていく。そして、言葉の背景にある文化も紹介する。
	ハンゲル	ハンゲル中級（読解・会話）Ⅰ	1年次に学習した内容を元に、テキストに沿って韓国語の正しい発音、文法、言い回しなどを説明していく。そして、毎回授業の後半（約15分間）にビデオ教材を取り入れて、聞き取りの力をつけていく。復習がしっかり出来るように復習シートを使って、確実に韓国語能力が身につくように進める。そして言葉の背景にある韓国文化も紹介する。

授 業 科 目 の 概 要					
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)					
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	基礎科目	外国語科目 ハングル	ハングル中級（読解・会話）Ⅱ	正しい発音とより高いレベルの文法、言い回しなどを説明していく。韓国語会話能力をしっかりと定着させるために最も重要なことは、たくさん話すことなので、授業で与えた知識を利用して、十分な会話練習ができるように授業を進めていく。毎回授業の後半（約15分間）にビデオ教材を取り入れて、聞き取りの力もつけていく。そして言葉の背景にある韓国文化も紹介する。	
		健康科学科目 健康科学・理論と実践	健康科学・理論と実践	◆理論7回、実践8回で構成される。 (オムニバス方式/全15回) 【理論】(7回) 健康は個人、社会、地球環境にまたがる大きな課題である。この科目は心身の健康、キャンパスにおける安全、社会における望ましい人間関係、環境と健康、などについての知識と行動規範の修得を目標とし、以下の7つのカテゴリーから構成されている。 (19 川茂幸/1回) カテゴリー1 イントロダクション、健康なキャンパスライフのために (71 金子稔/1回) カテゴリー2 メンタルヘルス概論 (38 杉本光公/1回) カテゴリー3 ライフスキルアップ (67 速水達也/1回) カテゴリー4 健康を守る（スポーツと健康、AIDS 予防、性感染症予防、地球環境と健康） (19 川茂幸/1回) カテゴリー5 生活習慣病を予防する（肥満、糖尿病、喫煙、アルコール） (73 内田満夫/1回) カテゴリー6 薬物乱用の予防 (19 川茂幸/1回) カテゴリー7 性感染症予防・正しい性の知識 【実践】(8回) (79 加藤彩乃/8回) (78 廣野準一/8回) 半セメスターの期間中に、体力測定及びウォーキング、ジョギング、エクササイズの方法などを実践し、運動習慣獲得のための導入を行う。身体に障害のある学生は別メニューとなるため、ガイダンスの日程等を4月初めに全学教育機構<公用掲示板>で確認すること。	オムニバス方式 講義 14時間 実技 16時間
	新入生ゼミナール科目	新入生ゼミナール	新入生ゼミナールⅠ	新入生のために、大学での学習や生活のオリエンテーションとケアを目的として開講する。大学生活における学習に関する諸問題を中心に、学習の基本的な方法の修得、生活習慣、人間関係の構築方法、卒業後の就職に向けて必要な事柄を学ぶ。これらの今後の学生生活に必要な基礎的なスキルを身につけることを授業の目的とする。授業は、1クラス20人程度の少人数に分かれて演習形式で行い、一部の内容については大教室を使って行う。同時開講の各クラスは別々の教員が担当するが、教員間で緊密に打合せを行い授業内容と成績評価の統一化を図る。	
		新入生ゼミナール	新入生ゼミナールⅡ	少人数・学生主体型の授業で、文章読解（クリティカルリーディング）、情報収集と分析、プレゼンテーション、グループ討論、レポート作成等を行う。社会科学を学ぶために必要な基礎的なスキルを身につけることを授業の目的とする。少数の学生が集まって、積極的に討議を行う学生参加型の授業により、学生が主体的に学ぶ姿勢を身につけ、コミュニケーション能力を向上させることが期待される。授業は、1クラス20人程度の少人数に分かれて演習形式で行う。同時開講の各クラスは別々の教員が担当するが、教員間で緊密に打合せを行い授業内容と成績評価の統一化を図る。	
日本語・日本事情	日本語・日本事情科目	日本語	読解（日本語）Ⅰ	本講義の目的は、日本語で書かれた様々な資料を読んで理解し、多くの知識が得られるようになることを目指す。読むためのテクニック、戦略（ストラテジー）、知識などを身につける。授業の最初はあまり難しくない文章を読み、その日の読解のポイントを勉強・練習し、最後に少し長い文章を読む。	
		日本語	読解（日本語）Ⅱ	学期最初は、読解の基本的な考え方や戦略（ストラテジー）を学ぶ。その後、論文を読んでから、「構造」、「読むための文法」、「言葉の練習」を勉強する。論文は次第に長くなっていく。内容は、いじめ、製品からみる人間工学、ガン告知、雨の中の無機成分の特徴、入社後研修における文化摩擦など広範囲にわたる。	

授 業 科 目 の 概 要					
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)					
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	日本語・日本事情	日本語	作文（日本語）Ⅰ	作文でよく使われる語彙や表現の練習をする。次にそれらを用いて短文作成をする。さらに、自由度が大きくやや長い文章を書く。学期の前半には意見文、アピール文など様々なタイプの文の練習をし、後半にはレポートの書き方を練習する。時々、学習者が書いた課題作文や構成メモを他の学習者たちと一緒に見ながら、どこがいいか、間違っているか考える活動もする。	
		日本語	作文（日本語）Ⅱ	論文で使われる語彙および表現をしっかり学習・練習する。その後、論文の構成を要素ごとに学び、深く理解する。最後に自分のテーマと構成メモを作成し、それに基づいて論文を執筆する。時々、学習者が書いた課題作文や構成メモを他の学習者たちと一緒に見ながら、どこがいいか、間違っているか考える活動もする。	
		日本語	ビジネス・ジャパニーズⅠ	前半では、敬語の学習を深めつつビジネス会話のパターンを数多く練習する。また、ビジネス文書の書き方も、単純から複雑なものへと練習を重ねる。後半では、ビジネス上の適切な対処と、相手の立場に立って考えつつ会話を組み立てる練習をする。また、文書形式を身につけ、ビジネスメールの基本的な言葉使いを練習する。ディスカッションを行う。	
		日本語	ビジネス・ジャパニーズⅡ	前半では、敬語の練習を深めつつ、社内・社外における会話を多く練習する。 ビジネス文書は、さらに言葉づかいに注意を払い、要点を押さえ、よく伝わる書き方を練習する。 後半では、受け答えだけに終わらず能動的に会話を組み立てる練習をする。文書作成は、誤解を生じず心遣いのある文章の読解と練習を多く行う。 また、日本人の働く姿を見るためにDVDを2回程度視聴し、ディスカッションを行う。	
		日本語	科学技術日本語Ⅰ	配布資料により、科学技術特有な表現語彙の習得、用例の学習により語彙力を高める。更に、一般紙・専門紙などの科学技術関連記事、科学技術に関する評論・解説文などの題材を通じて読解力を高めてゆく。また、ケースに応じてグループディスカッションによる論理的思考力を鍛える。	
		日本語	科学技術日本語Ⅱ	配布資料により、科学技術特有な表現語彙の習得、用例の学習により語彙力を高め、科学技術論文の読解力、レポート・論文作成能力を演習により高めてゆく。また、ケースに応じてグループディスカッションによる論理的思考力を鍛える。	
	日本事情	日本語	日本社会と日本人Ⅰ	日本社会の特徴を、家族と福祉、国土と中央・地方、企業と企業モデル、温暖化によるさまざまな環境問題、などの特定の問題設定のもとで理解する。 よく話題に上る現代社会の特徴や社会問題をビデオ教材を通して見、毎回配布する資料を参考にして、ビデオ内容についての課題にこたえる。その課題への答えとしてのレポートを授業毎に提出する。	
		日本語	日本社会と日本人Ⅱ	日本の産業構造の特徴を、自動車・電機などの製造業、スーパー・百貨店などの流通・小売り、不動産・金融業などの業種毎にとらえる。 講義とディスカッションにより日本の産業構造を概観し、ビデオ教材、新聞・雑誌記事などにより、日本企業の業務内容、対外戦略、経営方針を具体的にみる。毎回参考資料を配布し、課題を与える。ビデオ教材の内容を理解しているかどうかを課題によって確認する。	
		日本語	武道・伝統文化実習Ⅰ	武道の授業では、日本の伝統的運動文化である武道の歴史と現状を紹介し、スポーツとの相違点と共通点を探しながら、日本の伝統的な運動をより深く理解してもらおう。伝統文化の授業では、日本人でもなかなか接する機会の少ない伝統文化を、実習を通じてより深く勉強・体験する。 授業は、ビデオやスライドを使っての武道・伝統文化の説明と、指導教員のもとで実際に体験する実習授業からなる。 (オムニバス方式／全16回) (43 村田明／9回) 日本の伝統文化（茶道、そば打ち、箏）の授業を担当する。 (78 廣野準一／7回) 日本の伝統的な運動（柔道、剣道、空手道、合気道、相撲、剣道）の授業を担当する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要						
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)						
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考		
共通教育科目	日本語・日本事情	日本語・日本事情科目	日本事情	武道・伝統文化実習Ⅱ	<p>前期に続き、外国人留学生に武道と日本の伝統文化を教える。</p> <p>武道の授業では、日本の伝統的運動文化である武道の歴史と現状を紹介し、スポーツとの相違点と共通点を探しながら、日本の伝統的な運動をより深く理解してもらう。伝統文化の授業では、日本人でもなかなか接する機会の少ない伝統文化を、実習を通じてより深く勉強・体験する。</p> <p>授業は、ビデオやスライドを使っての武道・伝統文化の説明と、指導教員のもとで実際に体験する実習授業からなる。</p> <p>(オムニバス方式/全16回) (43 村田明/9回) 日本の伝統文化(茶道、華道、書道、日本の建築)の授業を担当する。</p> <p>(78 廣野準一/7回) 日本の伝統的な運動(銃剣道、なぎなた、弓道、少林寺拳法、鍛刀)の授業を担当する。</p>	オムニバス方式
				専門科目	経済学基礎科目	統計学Ⅰ
				統計学Ⅱ	<p>今日の高度情報化社会のなかで、データを統計的に処理し、解析する機会は増加し続けており、日常生活の場においても統計的知識がさまざまに用いられている。この授業では次の二つを学習する。</p> <p>1) モデル構築に必要な確率分布について学ぶ。具体的には、確率変数、確率分布、期待値、分散、共分散・相関係数、二項分布、ポワソン分布、正規分布等について学ぶ。</p> <p>2) モデルの未知の母数について、それをどうやって推測するか(推測統計学)について学ぶ。具体的には、推定の基本概念、比率や平均の区間推定、検定の基本概念、比率や平均の検定等について学ぶ。</p>	
				経済数学A	<p>本講義では、数理的な情報解析の基礎知識である微分積分学について学ぶ。経済学において各種データを解析する際に、数式で得られた関数を考察する機会が多い。この関数の情報を調べることにより、対象となっている事柄の性質を解析できる。特に、特異な状態はその関数の最大・最小、極大・極小、変曲点などに対応しているため、微分を用いてそれらを求める手法を学習する。また、統計などで用いられる平均値や分散などの情報は積分を用いて計算される。多変数を調べる際には、多変数を考える必要があり、偏微分、重積分の概念により解析する。</p>	
				経済数学B	<p>論理的・数量的な分析を行う経済学・社会科学・情報科学の根幹を成す基礎科目である線形代数学を学ぶ。主には行列の演算で基本的な計算に習熟し、その一般論の証明により理論的な思考を養うことを目的とする。また経済波及効果の計測など、複雑な経済分析手法を理解するための予備知識を身につける。その一例として、本講義では確率行列を用いた対象の遷移過程のモデルから、固有値・固有ベクトルにより、定常状態を求める手法を紹介する。本講義では計算を正確に行うことは勿論のこと、証明により理論的な説明を果たすことが求められる。</p>	
				マイクロ経済学Ⅰ	<p>「マイクロ経済学Ⅰ」では、個々の消費者や生産者の意思決定プロセスの分析から出発し、市場での「価格」シグナルがいかに資源配分・所得配分を決定するかを解説する。この講義では、市場機能の有効性と限界を説明し、市場機能はその市場特定の取引ルールに敏感に依存することを解説する。また、ゲーム理論の基礎を概観し、それに基づいてブランド(寡占)市場の分析や、株式市場における入札分析など、初歩的な応用へ導く。マイクロ経済学Ⅱ、産業組織・公共経済学等で扱うマイクロ経済学の発展的領域をはじめ、マクロ経済学の各分野にも及ぶ近代経済学の土台部分を理解するための最初の一步となる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 経済学基礎科目	マクロ経済学Ⅰ	マクロ経済学は、一国の経済全体の景気変動や経済成長の要因を分析する学問である。この講義では、短期の景気変動に関する理論を中心にマクロ経済学の入門的内容を講義していく。最初にGDPなどの基本的なマクロ経済指標が、どのような概念であるのかを学習する。次に、現実のマクロ経済に関するもの見方・考え方として、ケインジアンと新古典派という2つの見解があるが、これらがどのようなものかを経済モデルに基づいて理解していく。最初は簡単なモデルを分析することから始めて、徐々に現実経済の様々な要素をモデルに取り入れて拡張していく。この作業を通じて、現実のマクロ経済をより深く理解できるようになることを目指す。	
	ミクロ経済学Ⅱ	「ミクロ経済学Ⅱ」では、市場メカニズムが、効率的資源配分を実現することを学ぶ。しかし、現実の経済社会では、市場メカニズムに調整を委ねるだけで効率的資源配分が実現するとは限らない。その理由は、市場メカニズムの円滑な機能を妨げる要因があるからである。代表的な障害要因の一つが、「情報の非対称性」の問題である。情報の非対称性の問題は、大きく2つに分けられる。「取引前」の情報の非対称性である「逆淘汰」と、「取引後」の情報の非対称性である「モラル・ハザード」である。講義の初めでは、これらの問題を上げる上で必要となる「期待効用」や「不確実性下の意思決定」について解説する。その上で、情報の非対称性が引き起こす問題や、その問題を解決するメカニズムについて説明する。	
	マクロ経済学Ⅱ	この講義では、「マクロ経済学Ⅰ」の内容を前提として、長期の経済成長を分析する理論である新古典派成長理論を中心に、マクロ経済学のより上級のトピックを講義していく。最初にソロー・モデル、成長会計を説明し、これらを使って、1950年代から60年代の日本の高度経済成長や、「失われた20年」ともいわれる最近の日本の経済停滞の原因を分析する。次に、家計の消費の最適化の初歩を説明し、これを組み入れた新古典派成長理論が、日本のマクロ経済の動きを上手く説明できるかを分析する。講義を通じて、データを用いてマクロ経済理論を検証することや、理論を用いて現実のマクロ経済を解釈することができるようになることを目指す。	
	ゲーム理論入門	本講義は、ゲーム理論の基礎を身につけることを目的としている。「ゲーム理論」とは、経済や社会におけるさまざまな意思決定と行動の相互依存状況を数理的なモデルと論理を用いて分析する学問である。本講義の目的は、以下の2点を習得することである。1つは日常のビジネスや政策決定の場に応用できる「戦略的思考の技法」として、ゲーム理論を身につけること。もう1つは、近年、経済学や法学を含む社会科学の多くの分野に用いられているゲーム理論を理解できるようになることで、それらの分野の理解を一層深められるようになること。特に、ゲーム理論の基礎である完備情報ゲームとその応用を中心として講義を進める。	
	環境経済学Ⅰ	本講義では、経済と環境の関係性について、ミクロ経済学的な側面から学ぶ。現在や過去の環境問題が何故引き起こされたか、そしてそれらの問題を我々はどうやって解決してきたのか、またどうやって解決していこうとしているのか。本講義では、これらの課題について、ミクロ経済学理論を用いた手法によって分析することで、受講者がなぜ環境問題が発生するのかを理解し、その発生原因と政策的解決手段を経済学的見地から論理的に説明できるようになることを目標とする。	
	社会経済学	この講義は、資本主義経済の基本的なメカニズムを歴史的・社会的観点から理解することを目的とする。 私たちが今、そのもとで暮らしている資本主義社会は、16世紀ヨーロッパの一角に発生し、その後、数百年のうちにほぼ全世界を覆うにいたった経済社会である。この講義では、そうした数百年にわたる資本主義の歴史的变化の根底にある市場経済のメカニズム、資本主義である限りそこから離れることのできない共通な経済社会の原理を取り扱う。歴史上に現れたさまざまな資本主義は、時代ごとに、あるいは国ごとに、歴史的・社会的要因に規定されてそれぞれ大きく異なっているが、こうした違いを超えて、その基礎には資本主義としての同じ原理が流れている。そしてこの原理は、ごくわずかな法則を持ったひとつの堅固な体系にまとめあげることが出来る。この講義は、この資本主義の原理的体系を解明するとともに、歴史的・空間的に変貌をとってきた現代の資本主義を分析するための基本となる視角を提供する。 講義では、教材として資料を配付し、またスライド等も併用する。	隔年

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 経済学基礎科目	経済史	この講義では、経済社会の歴史を主に資本主義経済の勃興と発展を中心に概観する。 現代の経済は、過去から受け継いできた経済の発展の上にある。今日、われわれがそのもとで暮らしている資本主義経済を正確に理解するためには、何よりも過去の経済をある程度知っておく必要がある。この講義では、そうした過去に存在した様々な経済社会を大きな史的枠組み、すなわち1) 資本主義社会以前の諸社会、2) 16世紀の「大航海時代」からの資本主義経済の勃興、3) 19世紀における資本主義経済の確立、4) 19世紀後半から第1次世界大戦までの資本主義経済の変容、5) 第1次世界大戦以降の現代資本主義、という歴史的な流れに沿って論じる。 講義では、教材として配付資料・教科書を中心に、スライド等も併用する。	隔年
	世界経済論	この講義では、現代経済をめぐるカレントな諸問題のなかでも、とりわけ経済変動・景気循環に関連するトピックを主にしながら、世界経済を理論・歴史・学説から総合的に理解することを目的とする。 アメリカ発のサブプライム金融危機、EUの財政危機、日本のマイナス成長等々、現代においても経済の循環的な変動は私たちの生活に大きく影響を与えている。好況や不況といった局面を有する経済の変動は、市場経済が拡大した19世紀以降から存在し、先人はさまざまなアプローチによってこうした現象を解明しようとしてきた。 ここでは、複雑化する現代経済において、そうした経済変動・景気循環がなぜ発生するのか（理論）、これまでどのように発生してきたのか（歴史）、そして先人たちはこれをどのように分析してきたのか（学説）、といった観点から鳥瞰する。	隔年
	経営学	この講義の達成目標は、経営学の基礎的な知識の習得と、習得した経営学の知識をもとに、実際の経営の現場に生かす方法を考えることの2点である。経営学で検討する内容は、企業運営の仕組みや、利益との関係を検討することである。講義の概要は、まず、経営学とは何か、企業とは何かといった、企業経営にまつわる基礎理論を検討した後、経営戦略、経営組織、経営管理、経営課題といった、さらに詳細な内容へと進める。前半は組織レベルの議論、後半は個人レベルの議論であり、組織レベルと個人レベルの両者から経営学の諸問題に接近する。	
	簿記・会計入門	企業規模に関わらず日々の経営活動を記録する技術が簿記であり、企業会計を理解するためには、簿記の知識は不可欠である。 そこで本講義では、簿記の基本的な仕組みの説明からはじめ、各種取引（商品売買、現金預金取引、手形取引、有価証券取引、固定資産取引、その他取引など）、そして決算手続きを経て財務諸表が作成されるまでの内容を講義する。本講義によって、日々の活動の記録から財務諸表作成までの一連の流れを理解し、把握することによって企業会計を理解することが可能になる。	
	情報処理A	社会の様々な分野で有用な表計算ソフトをより高度に使いこなすことを目指す科目である。具体的には、現在のde facto standard表計算ソフトであるExcelのマクロを記述するプログラミング言語VBAの文法について学ぶ。現在、VBAの使用頻度は非常に高いと言われている。VBAで記述するExcelマクロを使用することで、定型化した処理の自動実行、条件分岐処理、反復処理などの利用が可能となり、表計算ソフトの利便性が向上する。VBAの文法を学ぶとともに、具体的なデータへの適用を、学生が所持するノートパソコンを使って確認しながら、より段階的に高度な内容へと進行する。	
	情報処理B	コンピュータの高度な活用を通して、デジタル情報処理の仕組みが理解できる。 多くのプログラミング言語の基本となった言語がC言語であり、現在も実用的に使用される場面が多く、最も普及している言語の一つである。また、プログラミングの学習用にも適した言語と言われている。本科目の目的は、C言語によるプログラミングの基本を学ぶことである。この科目で基本文法を習得すれば、他の言語への応用も可能となる。文法を習得しながら、学生が所持するノートパソコンにインストールしたCコンパイラを使用して入力から実行までの操作も行い、理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	経済学 基礎 科目	国際金融	異なる通貨を使う国際取引には、通貨の交換に伴って生じる特有の経済現象が発生する。こうした経済現象を扱う経済学の応用分野は「国際金融」と呼ばれている。国境を越えた企業活動や資金移動が盛んになった現在、現実の経済を語るうえでこうした「国際金融」の知識は不可欠である。この講義では、広義の外国為替市場で行われる様々な取引にはどのような意味があるのか、為替リスクは企業行動にどのような影響を与えるのか、またそうした為替リスクを回避するにはどのような手段があるのか、為替レートの変動をもたらす長期と短期・中期の要因にはどのようなものがあるのか、またマクロ経済政策からどのような影響を受けるのか、通貨危機はなぜ起こるのかなどについて理解できるようにする。またそれらに加えて、現代の世界で様々な為替レート制度がとられていることの原因を説明し、国際通貨制度の歴史の変遷を簡単に振り返ったあと、現在注目度の高いユーロ圏と中国の人民元を取り上げて、その背景と今後の課題について論じる。	隔年
		財政学	・現代の経済社会において重要な役割を果たしている財政分野を中心とした経済政策について、その制度の概要と課題を取り上げ、現実の問題点を経済理論と関連付けて解説する。 ・そのため、財政に関する経済理論について解説した上で、我が国における政府活動の諸制度の概要や財政的な課題を紹介し、これらの諸課題について経済理論を応用して説明する。 ・政府活動・財政政策とは何かという問題から、社会保障と税の一体改革やアベノミクスなど時事的な課題まで取り上げる。	
		国際経済学	この講義では、国境を越えて行われる経済活動のうち国際貿易と直接投資に焦点を当てる。別の言葉で言い換えれば、国際経済活動のなかの金融的活動を除いた、実体的活動を取り扱う。この分野を巡る議論は経済学の誕生とともに始まり、現代まで著しい理論的發展を経て内容豊かなものとなっている。この知識を正確に理解しておくことは、大学で経済学を学んだものとして必須のものと言えよう。講義で取り扱う主な内容には、比較優位、生産要素の賦存と国際貿易、生産技術と国際貿易、伝統的貿易政策の理論、不完全競争と貿易政策、規模の経済と産業内貿易、戦略的貿易政策、直接投資、技術移転、海外アウトソーシング、国際貿易ルールと貿易交渉などが含まれる。	隔年
		金融論A	・金融理論の基礎的な知識を紹介した上で、我が国や世界の金融制度の概要や政策上の課題、最近の動向等を解説する。 ・特に、金融制度については金融庁・日本銀行・金融機関の役割や金融商品の概要、金融自由化の流れなどの基礎的な事項からリーマンショックに端を発した世界同時金融危機の影響やイスラム金融、アジア債券市場育成策など時事的な課題、さらには地域金融機関に求められる役割まで取り上げる。	
		金融論B	この講義では、「マクロ経済学I」の内容を前提として、現在の日本におけるデフレーションの原因や金融政策に関係した、マクロ経済学のより上級のトピックを講義していく。デフレーションや金融政策を議論する上で、経済主体の将来に関する予想がどのように形成されるかを分析することが重要となる。そのため、この講義では、最初にIS-LMモデルやAD-ASモデルを復習した後、経済主体の予想形成を分析するという観点から、これらのモデルを拡張していく。具体的には、ケーンズ・モデルと、ニューケインジアン・モデルの2つを説明し、これらのモデルを使って現代日本のデフレーションや金融政策について分析していく。講義を通じて、データを用いてマクロ経済理論を検証することや、理論を用いて現実のマクロ経済を解釈することができるようになることを目指す。	
		産業組織	この講義では、産業組織に関する標準的な理論を修得することを目的とする。「産業組織」の理論とは、ミクロ経済学およびゲーム理論を応用した学問であり、対象とする産業について、その参加者(企業、消費者、政府)の行動を分析・評価し、公共政策への理論的・実証的な基礎を与えることを目指す学問である。具体的には、企業は戦略的にどのような行動を選択するのか、また、その結果、社会厚生にどのような影響を及ぼすか、について考察する。そのうえで、独占禁止法や知的財産法といった諸政策が、各産業に与える影響について分析し、望ましい産業政策について検討する。	
		アジア経済論	1960年代以降にアジアNIESなどが急速な工業化によって脱貧困を果たしたことは、戦後世界経済の重大トピックの1つに数えられる。さらに近年は中国、ASEAN諸国、インドなどもそうしたテイクオフを果たしつつある。こうした後発・新興アジア諸国の後発的發展(キャッチアップ)の動態とその理論仮説を検証し、さらに躍動するアジアにおける日本経済・企業の位置と役割を考察する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	経済学基礎科目	現代産業論	この講義は前身の信州大学経済学部時代の1988年から「産業論特論」の名称で毎年開講してきた講義で、平成26年度までで27年目の開講を数えた。新学部でもこれを引き継ぎ、新たに「現代産業論」の名称で開講するものである。この講義の内容は、毎年現代産業に係るテーマを設定し、そのテーマに関して日本の産業活動をリードする企業人や政府等の政策担当者からオムニバス方式形式で講義を組み立てる方法で開講するものである。対象となる産業分野はその年度のテーマによるが、これまでの累積では製造業のほか、建設業、不動産業、流通業、食品産業、エネルギー産業、金融業などと多岐に渡っている。近年のこの講義で取り上げたテーマとしては、平成24年度が「大災害の経験と教訓」、平成25年度が「企業のグローバル化戦略と経済連携協定の課題」、平成26年度が「リスク社会への備えー保険と社会保障を中心として」であった。講義の進め方は、前半がゲスト講師による講義、後半が質疑応答、レポート作成となっている。授業のコーディネートと毎回のレポート採点による成績評価は学部専任教員① 山沖義和、4 徳井丞次が担当する。	共同
	現代職業論	実社会において職業上担うべき責務とは何か、求められる役割とモチベーションの持続を以下に継続し得るかについて、現実と直面する前に真摯に検討させる。その一助として、本学部卒業生をゲスト講師に迎え、在学時の学習状況、就職活動及び実社会に出てからの職業体験、現在の職場・仕事内容等を披歴することで、キャリア形成観の育成を涵養するとともに、本学部の目標とする、学士として得た能力を即戦的に現場で応用できる職業人のイメージを喚起する。ゲスト講師は多岐に亘る産業、職種の中から活躍の場を広げている有意な人物を選出する。		
	経営者と企業	本講義は、信州大学が所在する長野県を拠点に活躍する企業の経営者から自社の発展と今後の課題を語ってもらい、学生に地元企業の魅力とそれを指揮する経営トップの活力に触れてもらうことを目的として、前身の経済学部時代（2000年）から開設し毎年継続してきた科目である。長野県内には40社ほどの上場企業と裾野の広い中堅・中小企業が多数存在し、そのなかには最近注目されているグローバル・ニッチトップ企業と呼べるような会社や、業態を変えながら数百年事業を継承してきた会社など特色ある企業が多数含まれる。学生がこの科目を履修することによって、こうした地域や世界で活躍する地元企業経営者から経営課題を聴いて経済学・経営学分野の諸科目で学んだ概念やものの見方の具体的な応用場面に気づくことができる教育効果に加えて、地元企業の「隠れた」魅力に接することによって将来地域創成を担う人材育成にも資するところがあるものと期待される。この授業は、長野県経営者協会からの協力を得て複数の企業に依頼し、その経営者をゲスト講師としてオムニバス方式形式で講義を行うものである。毎回の授業は講師による講義、質疑応答、講義内容に基づくレポート提出からなる。授業のコーディネートと毎回のレポート採点による成績評価は学部専任教員（4 徳井丞次、② 関利恵子）が担当する。	共同	
	英語文献研究	経済学に関連する英語文献の講読を行う。 新聞・雑誌、論文、書籍等の英語文献の講読を通じて、経済学部生に必要とされる英語力を養うことを目的とする。経済のグローバル化が進展する現代において、インターネットを含むさまざまな媒体から情報を収集するためにも、英語の読解力は社会生活を送るうえでますます重要になっている。授業で扱うトピックはさまざまだが、いずれも現代経済を理解するのに好個のものを取り上げ読み進めていく予定である。受講生は必ず予習を行い、積極的な態度で授業に臨むことが求められる。 具体的な教材や授業の進め方については、授業中に指示する。		
門公共目経I 経済コース専	医療経済学	医療経済学は大きく、制度、経済理論、実証研究の3つから成り立つ。まず制度では、医療には多くの規制がかかる。これらを整理しながら、医療制度の特徴を把握する。次に、医療制度のもとでのインセンティブ構造が決まり、資源配分が歪むかどうか、経済理論によって確かめる。最後に、医療制度の下、経済理論によって説明される行動が実際に起こっているかについては、実際のデータを用いて検証しなければならない。マイクロ計量経済学的手法を用いて、実証分析で確かめる。		

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	公共 経 済 コ ー ス 専 門 科 目 I	社会政策論	社会政策とは、個人のみでは解決できない社会問題を解決するための公共政策であり、社会保障、社会福祉、労働問題、労使関係をはじめ、教育学やジェンダー研究、生活問題といった課題群（カテゴリー）から構成されている。この授業では、少子高齢化が社会問題化することになった1970年代以降を射程に、主に日本における社会問題の実情を知り、問題解決に向けた社会政策の制度体系を学ぶことになる。 この授業は、1. 社会政策が直面する少子高齢化の現状と課題、社会政策の体系、福祉国家の類型を概観し（社会政策概論）、2. 典型的な労働問題を取り上げながら労働市場政策を学び（労働問題と社会政策）、3. 制度ごとに構成された生活支援の基本的な枠組みを学ぶ（生活保障と社会政策）、以上の3部構成となる。	
		地方財政	日本の地方財政をテーマに、その経済学的な分析について解説する。地方財政に関する「実態・制度」と、政策の機能等を捉える「理論」双方を扱い、政策の意義や課題について考察する。まず家計・企業などの自由な取引に基づく経済社会の中で「政府の果たすべき役割は何か」（財政の3機能）、さらに「国と地方自治体の役割分担をどのように行うべきか」（機能配分論）に関して基本的な考え方を整理する。その後、歳出面では地方自治体が担うべき政策、歳入面では地方自治体に賦与されるべき税源や、目的に応じた補助金のあり方などについて扱う。	
		公共経済学	政府の財政をテーマに、その経済学的な分析について解説する。主に政策の機能等を捉える「理論」を中心に扱い、政策の意義や留意点について考察する。家計・企業などの自由な取引に基づく経済社会の中で、政府の果たすべき役割として「効率的資源配分」「所得再分配」「経済安定化」（財政の3機能）を担うことが求められる。政府はなぜこれらのことを担うべきなのか、またその目的を達成する上でどのような政策手段が求められるかなどについて扱う。	
		医療制度論	医療は情報の非対称性を回避することができないので、さまざまな規制が存在する。そこで本講義では、医療サービスの需要側、供給側に対する規制を紹介し、それらを整理しながら望ましい医療制度のあり方を考察する。具体的には、需要側の規制として、まず国民が強制的に加入させられる医療保険制度と、高齢者の医療制度の仕組みを概説する。次に、供給側に対して課される規制として、医療法・医師法、医療職の免許制度と、施設基準、診療報酬制度・薬価基準を議論し、それらの長所短所を整理する。	
		社会保障政策論	現在の日本において、政府支出の最も大きな割合を占めているのが社会保障関係費であることは良く知られている。社会保障に限らず、公共の福祉にかかる様々な社会的サービスは、私たちが日常生活の中で利用している社会のセイフティネットといえるしくみである。 この授業は、日本に暮らす私たちの日常生活におけるリスクを管理するセイフティネットのしくみ、すなわち、社会保障、公衆衛生、居住、教育など、公共の福祉にかかるテーマをとりあげ、それぞれの制度が生まれた背景を歴史を遡って整理し、その政策効果を考える。 特に、社会保障政策の理念や機能、制度枠組みなど、基礎的な知識を学んだ上で、公的年金、医療保障制度、介護保険制度、公的扶助、社会福祉などを取り上げて、それぞれの政策が策定された背景、現状と現代の課題を学ぶ。	隔年
		比較社会保障論	すべての国民に、「人間らしい生活」（韓国憲法第30条）を保障することはできるだろうか。先進工業諸国の社会保障制度は多くの新しい課題日工面しているが、他方、アジアNIESなどの新興工業諸国では、急速な工業化・都市化を経て、目下、急速な少子高齢化が進行するなかで社会保障制度の構築と改革に取り組んでいる。こうした世界の社会保障制度の構築と改革について、先進諸国と後発・新興諸国との比較考察を通じて、〈自助〉〈共助〉〈公助〉の多様なあり方を考える。主な内容は、(1) 戦後福祉国家の形成と揺らぎ、(2) 新興工業国から新興福祉国家へ～分断国家韓国の市民福祉革命を中心に～、(3) 現代福祉政策の国際比較の3部構成となる。	

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	公共 経 済 コ ー ス 専 門 科 目 I	計量経済学	<p>経済学にはさまざまな理論が存在するが、それらの理論がどれくらい現実の経済を説明することができるかについては、経済理論から導かれるモデルが経済データにどれくらいあてはまり、説明力を持ったモデルであるかを、データを用いて検証する必要がある。あるいは逆に、データから帰納的に適合する経済モデルを見つけ構築していくことも経済学の発展にとっては不可欠の作業である。このように理論から導かれる数学モデルと経済データからの双方向のやり取りの中で、現実の経済に対して説明力のある経済モデルを構築して、経済の現状を分析することが計量経済学の課題である。</p> <p>この授業では、計量経済学の基礎理論を学び、経済モデルを構築し、データをあてはめ、経済理論を検証し、経済の実証分析を行うために基本となる手法を学ぶ。</p>	
		経済地理学	<p>私たちの生活や経済活動が営まれる場として、きわめて重要な意味を持つようになった都市について、その立地の動態と理論を学ぶ講義である。全体は二部構成となっている。第一部では、都市の立地について、経済（比較優位と集積の経済）、政治（空間の生産をめぐる政治）、技術（交通・建築・計画）という3つの側面から説明する。第二部では、チューネン・アロンゾモデルやウェーバーの工業立地論、都市システム論などを用いて、都市に立地する個別の産業の動態について学ぶ。</p>	隔年
		自然環境概論	<p>環境保全、持続可能な開発のための地域政策や企業活動に必要な自然環境に関する知識の習得を目指す科目である。主に、気候環境（世界の気候、日本の気候、地球温暖化）に関する領域を扱う。気候の地域差をもたらす要因について基礎的な知識を習得し、気候の特徴をグローバルスケールからより小スケールへと解説し、各スケールにおける地域差、地域差をもたらす要因について理解を深める。日本の気候、長野県の気候の特徴も概観する。地域によって気候は多様であるとともに、共通性もあること、気候は人間生活にどのように影響するのか、逆に、人間活動が環境を改変し、ヒートアイランド現象や地球温暖化をもたらしたことについて考察する。</p>	
		医療社会学	<p>この講義では、近現代社会で生まれ育ち、若い、病み、死ぬという高度に医療化された経験を、社会学が提供する社会と個の関係を読み解く視点からとらえなおしていく。とりあげるテーマには、病気行動、死亡率/有病率、QOL、社会支援、社会関係資本、慢性疾患、根拠に基づく医療（EBM）と語りに基づく医療（NBM）、精神疾患、逸脱、スティグマ、患者中心の医療、監視医療、医師-患者関係、セルフケア、家族ケア、コミュニティケア、セルフヘルプグループ、医療体制、資源の配分、政府による医療への介入、社会統制などが含まれる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 公共経済コース 専門科目 I	健康政策論	<p>健康づくりに関する諸施策は、個人の健康面の改善効果のみならず、日本の社会保障制度を持続可能なものに変えていくためにも、現在重要な位置づけにあるといえる。さらに、健康づくりに関する諸施策は、個別の社会保障制度が対象とする課題を超えて、ソーシャルキャピタルの育成にかかる基礎自治体を始めとするまちづくりや地域づくりに関する諸政策に強い影響を及ぼしつつある。</p> <p>健康政策論では、健康づくりに関する諸施策の今日的課題のいくつかについてテーマを絞り、健康づくりと福祉のまちづくりにおける公共政策が抱える現状と課題を学ぶ。</p> <p>この授業は、専任教員2名（井上信宏、増原宏明）、兼任教員3名（古屋顯一教授〔総合法律学科〕、中澤勇一准教授〔医学部医学科地域医療推進学講座〕、関口健二特任教授〔医学部附属病院総合診療科〕）がオムニバス方式で担当し、途中でゲスト講師を招聘する。それぞれの担当は、次の通りである。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(8 井上信宏/3回) イントロダクション、福祉のまちづくり等</p> <p>(13 増原宏明/3回) イントロダクション、医療と介護の連携による社会保障コストの削減等</p> <p>(29 古屋顯一/2回) ヘルスプロモーションにおけるスポーツの役割</p> <p>(45 中澤勇一/2回) 地域医療推進の現状と課題</p> <p>(42 関口健二/2回) 総合診療の促進における現状と課題</p> <p>このほかに、基礎自治体における健康政策の推進について（ゲスト講師、1回）、基礎自治体におけるソーシャルキャピタル育成の取り組みについて（ゲスト講師、1回）、高齢者の在宅介護の推進の現状と課題（ゲスト講師、1回）などを実施する。ゲスト講師の回は、専任教員が担当する。</p>	隔年 オムニバス方式
	都市政策論	<p>本講義は、人口減少、脱工業化、環境志向、グローバル化、東京一極集中といった時代の趨勢のなかで生じている現代の都市問題に対して、どのような都市政策が望ましいのか論理的に思考できるようにすることを目的としている。全体は三部構成となっている。第一部では、都市政策がなぜ必要となったのかについて、市場経済の出現と都市問題の拡大を背景として近代都市計画が成立したことを説明し、官僚主義や計画主義によって多様に展開していくことを、海外諸都市などを事例に整理する。第二部では、震災復興を契機とした都市計画によって、先進国の諸都市が近代化していく過程について、主に日本の都市政策を中心に説明する。第三部では、現在の都市政策の趨勢について、コンパクトシティやクリエイティブシティなどの議論をふまえて説明する。</p>	
	環境経済学Ⅱ	<p>環境経済学Ⅰでは、環境問題の発生メカニズムと、問題解決のための経済的手法として有効な政策手段について学んだ。環境経済学ⅡではⅠの応用として、現在、環境経済学の研究と中心となっている課題について、単純な事例をもとに最先端の研究に触れる。具体的には、環境被害額と対策費用の割引現在価値、環境影響評価、ライフサイクル評価等を扱うことで、受講者は最先端の研究手法の論理を理解し、卒業研究等での課題を見つけることを目標とする。</p>	
	自然環境フィールドワークの理論と実践	<p>われわれ人間は、いわゆる自然という環境からたくさんの恩恵を受けている。そのことが自然環境にとって、また人間にとってどのような意味をもつのであろうか。この講義では、「自然環境の中での人間のあり方」、「自然環境とは」をテーマに、「自然環境における人間の営み」について考えることをねらいとしている。具体的には、自然環境の中での人間の諸活動が及ぼす影響（環境問題）、また自然環境からの恩恵（レジャー活動や心身の健康づくりへの寄与）について考える。講義は自然環境と人間の関係を実際に体感するために、信州の自然を活動場所として休日を利用したフィールドワークを実施する。フィールドワークにあたっては、その計画立案から実施にいたるまでグループワークにより進め、それに必要な知識・態度・ルール・マナーを学習する。そしてフィールドワークから感じとったことなどをテーマにグループでの研究発表を行い、自然環境と人間の営みについて理解を深める。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 公共経済コース 専門科目 I	経済学演習 I	<p>経済学演習 I は、少人数の演習クラスに分かれて担当教員の指導のもとに、演習形式で行われる。2 年次後期から始まるこの演習は、3 年次の「経済学演習 II」、4 年次での「卒業論文」へと繋がる少人数指導の重要な入口と位置づけられているので履修が強く推奨される。各演習では、担当教員の専門分野に沿って演習のテーマが設定され、その分野の専門的知識を身に付け、3 年次の経済学演習 II での演習論文作成のための基礎固めすることが教育目的となる。</p> <p>経済学演習 I を担当する各教員が取り上げるテーマは次の通りである。</p> <p>(1 柳町晴美) この演習では、産業発展と自然環境保全に関する様々な課題を取り扱う。持続可能な発展のために、地域で問題となる事例について地域調査、オープンデータを活用した分析などにより、報告と討論を行う。</p> <p>(2 金早雪) この演習では、アジア等の新興諸国の経済発展や開発政策について、それぞれの政治体制や社会変化との相互関連のもとで考察する。具体的には ASEAN の経済統合、中国の外資導入戦略、韓国・台湾の民主化・社会変化と社会保障政策、IMF・世界銀行や日本の開発援助政策などから文献・論文または英字記事などを選んで輪読し、報告と討論を行う。</p> <p>(① 山沖義和) この演習では、我が国のプルーデンス政策や金融政策など主として金融分野の諸課題について取り上げます。財務省・金融庁等における行政経験を有する教員と一緒に金融分野に関する文献輪読とともに、日本経済の直面する課題についてグループ発表・グループディスカッションなどを通じて自らが考える力を養わせる。また、夏休みには官公庁・企業等を訪問する合宿を予定している。</p> <p>(4 徳井丞次) この演習では、日本経済を巡る様々な課題を取り扱う。若年者の雇用問題、団塊世代の定年、人口減少、社会保障、中小企業論、生産性、大災害の経済的影響、世界金融不況、国際通貨制度、マクロ経済など幅広いトピックのなかから文献を選んで輪読し、報告と討論を行う。</p> <p>(5 西村直子) この演習では、近年の経済学研究において経済実験手法が果たす役割について学習する。個人が経済活動を評価する際に仮定される効用関数本体の実測から始まり、複数の人間が関与するゲームの状況における行動の観測を経験してみる。また、それらの測定結果が、既存の経済学理論とどのような対応になっているのか、文献を参照しながら、現在の行動・実験経済学での論点について、グループによる報告と討論を介して学習する。</p> <p>(6 椎名洋) この演習では推測統計学の基本を再確認する。授業の「統計学 I」「統計学 II」の内容を再度勉強しながら、練習問題を解き、その解法をプレゼンしてお互いに確認し合う。さらに、統計プログラミング言語「R」の基礎的な使用法を学び、これを使って実際のデータに統計手法を応用する。</p> <p>(7 廣瀬純夫) この演習は、ミクロ経済学の基本的な考え方を身につけ、“経済学的視点から物事を考えるセンスを養う”ことを目的とする。目指すところは、目先の現実にとらわれず、物事の全体像を認識して、問題解決の方向性を考えるセンスを身に付けることにある。同時に、ミクロ経済学の理論が現実経済にあてはまるかどうかを検証する作業として、統計分析の基礎的なテクニックを、Excel等を用いて学習する。</p> <p>(8 井上信宏) この演習では、社会保障、社会福祉、生活問題といった社会政策の課題群から研究テーマを選定し、グループワークによる文献調査、社会調査、収集データの分析方法を体験的に学ぶことになる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	公 共 経 済 コ ー ス 専 門 科 目 I	経済学演習 I	<p>(9 吉村信之) 演習 I では、経済理論および日本経済・世界経済の現状分析を主なテーマとして、広範な文献を輪読し、報告と討論を行う。演習で取り扱う文献は、①経済学の理論的文献・古典的著作、②現代の日本経済・世界経済に関する書籍、であり、またそれらに加えて、合宿などにおいて③経済学に隣接する分野——社会学その他——の文献、等も取り上げる。</p> <p>(② 関利恵子) この演習では、会計全般（財務会計・管理会計）の理論を報告と議論形式で学んでいく。そのうえで、関心のあるテーマについて文献検索を行ない会計への知識を深めていく。さらに実際の企業分析も行い経営と会計の関連についても議論していく。</p> <p>(③ 岩田一哲) この演習では、経営学、特に、従業員の行動に関する課題を取り扱う。仕事へのモチベーション、リーダーシップ、ストレス、キャリアといった従業員の組織内の行動の検討が中心である。従業員の行動にまつわる特定の課題を、チーム単位と個人単位の両者の方法で報告をしてもらう中で、演習論文を作成するための基礎的な枠組みを確立してもらう。</p> <p>(12 武者忠彦) フィールドワークにもとづく論文執筆のため、文献や資料の検索方法、インタビュー実習、グラフィックソフトを用いた作図、GIS（地理情報システム）実習、文章構成の技法などの基本的なスキルを身につける。</p> <p>(13 増原宏明) この演習では、医療経済を巡る様々な課題を取り扱う。医療・介護保険、診療報酬制度と薬価、受療行動の経済分析、供給者誘発需要と医療機関の行動、医療専門職の労働市場、医療・介護制度の国際比較、医療計量経済学など幅広いトピックのなかから文献を選んで輪読し、報告と討論を行う。</p> <p>(④ 青木周平) この演習では、学生は、経済成長、所得格差、政策などのトピックの中で、各自が重要だと考える課題を設定し、その課題に関する既存研究の調査を行う。その上で、既存文献で明らかになっていない問題を整理する。課題に関連したデータの収集も行う。ゼミでは、これらに関する報告と討論を行う。あわせて、分析のために必要な統計手法やソフトウェアなどに関する勉強会も行う。</p> <p>(15 大野太郎) 公共経済学・地方財政に関するテキストを用いて輪読を行う。各回の授業では、まず報告者が当日の内容をレジュメにまとめて報告する。次にコメンテーターが報告内容に関連するコメントや質問を行い、最後に全員でディスカッションを行う。</p> <p>(16 海老名剛) この演習では、企業の経営戦略（産業組織論、ゲーム理論、経営学）および競争政策（独占禁止法）の基礎について学習する。目標は、2年次最後の春休みに演習論文のアウトライン5,000字、および文献研究5,000字の計10,000字からなるプロポーザルを作成することである。そのため、上記のテーマに関する文献の輪読および討論を行う。またプロポーザル作成の練習のため、夏休みにグループで課題に取り組み、グループ発表を行う。</p> <p>(17 加藤恭) この演習では、ファイナンス・金融工学における入門的なトピック、及びその理解に必要な数学について、テキストの輪読・ゼミ発表等を通じた学生主体の学習を行う。</p> <p>(⑤ 矢部竜太) 計量経済学の上級理論を学んだり、実際のデータを用いた実証分析を行う上で必要となる基礎的な統計学を身につけるためにテキストの輪読を行う。受講者は担当箇所の報告を行い、演習問題を各自解く必要がある。また英語の文献を読み解く能力が研究を進めていくために必須であるため、テキストは英語のものとする。</p>

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	公共経済コース専門科目 I	経済学演習 I	<p>⑥ 金本圭一朗)</p> <p>この演習では、環境経済学の文献を輪読し、環境経済学の研究を行う上で、用いられている手法を学ぶ。さらに、受講者が各章を報告し、全体で討論を行うことで、環境経済学における専門的知識を身に付ける。具体的には、産業連関分析、ライフサイクル評価、貿易と環境等に関する専門的知識を学ぶ。</p>	
	経済学演習 II	<p>経済学演習 II は、少人数の演習クラスに分かれて担当教員の指導のもとに、演習形式で行われる。各演習で取り上げる分野の専門的知識を身に付け、その知識を前提にして学生各自が選択した研究テーマに沿って研究発表と討論を行い、演習論文を作成する。このプロセスを通じて、研究テーマの設定、データや資料の収集と分析、口頭発表でのプレゼンテーション、論文の作成を経験させることによって、問題発見・解決の能力と口頭及び文章でのコミュニケーション力を養うことを教育目的とする。</p> <p>経済学演習 II は、2年生後期に履修する経済学演習 I を継続して、同じ担当教員の演習を受講するのが原則だが、合理的な理由がある場合には学生の申し出により、別の担当教員の演習に移ることを許可する。</p> <p>経済学演習 II を担当する各教員が取り上げるテーマは次の通りである。</p> <p>(1 柳町晴美)</p> <p>この演習では、持続可能な発展のために、地域で問題となる事例について、地域調査、オープンデータを活用した分析などから地域を比較し、環境問題解決に繋がる課題を発見し、演習論文作成に取り組む。</p> <p>(2 金早雪)</p> <p>この演習では、アジアや新興諸国の経済を巡る様々なトピックをとりあげて報告と討論を行い、演習論文の研究テーマ発見に繋げる。学生は演習論文作成のため、普段からアジア等の経済情報をフォローし、できれば実際に出かけたりもして、論文のテーマを定めて中間発表を2回程度は行い、他の演習参加者からの質問、コメントなども参考にし、演習論文を完成させる。</p> <p>① 山沖義和)</p> <p>この演習では、行政経験を有する教員の指導の下、ブルーデンス政策や金融政策など金融分野を中心とした日本経済の直面する諸課題に関して報告・討論を行い、演習論文の研究テーマを決めるとともに、テーマ発表・中間発表等を通じて、指導教員だけでなく他の演習参加者からの質問・コメントも参考にしつつ演習論文を完成させる。また、夏休みには官公庁・企業等を訪問する合宿を予定している。</p> <p>(4 徳井丞次)</p> <p>この演習では、日本経済を巡る様々なトピックをとりあげて報告と討論を行い、演習論文の研究テーマ発見に繋げる。学生は演習論文作成のため、年間を通じて何回かテーマ発表、中間発表などを行い、指導教官だけでなく他の演習参加者からの質問、コメントも参考にしながら演習論文を完成させる。</p> <p>(5 西村直子)</p> <p>この演習では、行動・実験経済学で論点になっている最新トピックを選び、自ら実験に参加してデータを採取する。理論分析から実験仮説を構築する方法を学び、統計学手法を利用したデータ分析が理論検証にどのように活かせるのかを、グループワークを中心に学習する。最終的には、自らデザインした実験に基づいて演習論文を書くことを目標とする。それに向けて、テーマ発表や中間報告を実施する。</p> <p>(6 椎名洋)</p> <p>この演習では、統計学が応用される様々な分野ごとのより専門的なデータ分析の手法を学ぶ。年によって、テーマは違うが、機械学習、多変量解析、ファイナンスといった分野の研究を予定している。理論の把握とともに「R」を使った実際のデータの解析を行う。</p>		

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	公 共 経 済 コ ー ス 専 門 科 目 I	経済学演習 II	<p>(7 廣瀬純夫) この演習では、演習 I で習得した、ミクロ経済学の応用による経済現象の分析手法と、統計的分析テクニックを駆使して、1年間に2~3のテーマについて、研究分析を行う。夏休みには、他のゼミとの合同報告会を行い、分析内容の改善の余地について、報告会参加者の間で議論を行う。取り上げたテーマの中で、もっとも完成度の高いものを演習論文としてまとめる。また、ゼミ参加者の関心に応じて、産業組織論、労働経済学、金融論などミクロ経済学の応用分野の学習も行う。</p> <p>(8 井上信宏) この演習では、社会保障、社会福祉、生活問題といった社会政策の課題群から個人の研究テーマを選定し、文献調査、社会調査、収集データの分析、討論を重ねて解決に向けた政策提言を導きだし、それらを演習論文としてまとめるまでを体験的に学ぶことになる。</p> <p>(9 吉村信之) 演習 II では、演習 I と同様、経済理論および日本経済・世界経済の現状分析を主なテーマに、文献の輪読および報告と討論を行う。演習 I に所属する学生と同じ文献を輪読し、教員および演習 I の学生からの質問等に解説・解答を与えるとともに、最終的には各自のテーマを設定して演習論文を作成することを目標とする。年度を通じてテーマ発表や演習論文の中間報告を行う。</p> <p>(② 関利恵子) この演習では、会計全般の問題について議論・報告をしていく一方で、演習論文のテーマ選びも進めていく。年間を通して、演習論文執筆のための指導を実施する。論文成果については、他研究室を交えて成果報告会を実施する。</p> <p>(③ 岩田一哲) この演習では、従業員の行動に関する課題について報告ならびに討論を行い、演習論文を執筆することを目的とする。ここでは、通常の演習ならびに中間発表会などの方法で学生各人が卒業論文の内容について発表する中で、演習の内外からの質問等を参考にしながら、演習論文を作成してもらいたい。</p> <p>(12 武者忠彦) 経済学演習 I で身につけたスキルをもとに、調査対象地域に関する研究テーマを設定し、問いと仮説を立て、複数回にわたるフィールドワークを通じてデータや資料を収集し、論文を執筆する。</p> <p>(13 増原宏明) この演習では、医療経済を巡る様々なトピックをとりあげて報告と討論を行い、演習論文の研究テーマ発見に繋げる。学生は演習論文作成のため、年間を通じてテーマ発表、データを用いた実証分析の中間発表を行う。指導教員だけでなく他の演習参加者からの質問、コメントも参考にしながら演習論文を完成させる。</p> <p>(④ 青木周平) この演習では、学生は、経済学演習 I で行った作業をもとに、既存文献で明らかになっていない問題を分析し、その結果を演習論文の形にまとめる。学生は演習論文作成のため、分析の内容に関して発表を行う。演習参加者からの質問、コメントを参考にして、演習論文の内容をブラッシュアップさせる。</p> <p>(15 大野太郎) 学生各自が関心のある研究テーマを設定し、それに関する文献にあたって考察を深める。各回の授業では、まず報告者が当日の内容をレジュメにまとめて報告する。次にコメンテーターが報告内容に関連するコメントや質問を行い、最後に全員でディスカッションを行う。学生はこれらの取り組みを通して調査・分析の成果をまとめ、卒業論文を完成させる。</p> <p>(16 海老名剛) この演習では、企業の経営戦略および競争政策を巡る様々なトピックをとりあげて報告と討論を行い、演習論文の作成に繋げる。学生は演習論文作成のため、年間を通じて何回かテーマ発表、中間発表などを行う。また、学生同士のピア・レビューを行い、指導教官だけでなく他の演習参加者からの質問、コメントも参考にしながら演習論文を完成させる。</p>

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	公共経済コース専門科目 I	<p>経済学演習 II</p> <p>(17 加藤恭) この演習では、数理ファイナンス・金融工学に関して、学生の希望に従い演習論文の研究テーマを設定し、演習論文作成のための報告や討論を行う事で演習論文の完成を目指す。また研究内容に関する口頭発表を都度行い、プレゼンテーション資料の作り方や発表の仕方についても学習する。</p> <p>(5 矢部竜太) 前期では計量経済学の様々な理論や分野を知ってもらうために洋書の輪読を行う。後期では参加者の関心に応じてグループによる実証研究を行う。まず、テーマを決定するために興味のある先行研究を報告し、議論を通じて研究分野の理解を深める。その後、実証分析を行い、結果の報告と議論を行う。</p> <p>(6 金本圭一朗) この演習では、環境問題に関するトピック、例えば生物多様性と貿易を設定し、そのトピックについてグループ別に環境経済学に関連した背景、研究手法、主要な結果を報告し、全体での討論を行う。そこで得られた知識をもとに、演習論文の課題の発見へと繋げ、演習論文を完成させる。</p>	
	健康・スポーツ・自然演習 I	<p>本演習は、「心身の積極的健康づくり」をテーマに、健康づくりのための運動・スポーツ、また自然環境の中でのレジャー諸活動の理論と実践について演習形式で理解を深めつつ、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力、コミュニケーション能力、そしてコーディネート力を身につけることを目的とする。学生は、健康づくりのための方策を如何にコーディネートすれば人々に実践してもらえるかを調査・研究・報告をし、議論を行うことを通じて、健康・スポーツ・自然に関する理解を深める。</p>	演習 20時間 実習 20時間
	健康・スポーツ・自然演習 II	<p>本演習は、健康・スポーツ・自然演習 I に引き続き、「心身の積極的健康づくり」をテーマに、健康づくりのための運動・スポーツ、また自然環境の中でのレジャー諸活動の理論と実践について演習形式で発展的な理解を深めつつ、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力、コミュニケーション能力、そしてコーディネート力を身につけることを目的とする。学生は、健康づくりのための方策を如何にコーディネートすれば人々に実践してもらえるかを調査・研究・報告をし、議論を行うことを通じて、健康・スポーツ・自然に関する理解を深める。</p>	演習 20時間 実習 20時間
	卒業論文	<p>学生には大学での勉学の集大成として卒業論文の作成が推奨される。応用経済学科の学生の卒業論文作成の指導は、原則として「経済学演習 II」の指導教員が務める。4年次に進級した学生で卒業論文の作成を希望するものは、年度の始めに「卒業論文」の履修登録を行い、指導教員と相談して卒業論文作成計画書を作成する。学生は、この計画書のスケジュールに従って卒業論文の進捗状況を定期的に指導教員に報告しながら指導を受け、卒業論文を完成させる。卒業論文の形式要件としては、2万字程度を原則とし、研究領域・内容の性格上字数がこの目安から大きく乖離する場合には、卒業論文作成計画書を作成する段階で事前に指導教員の承諾を得ておく必要がある。その他書式の詳細については、学生便覧で指示する。</p>	
	公共経済コース専門科目 II	<p>法と経済学 I</p> <p>この講義では、経済学が提供する社会現象・企業行動等に関する理論を用いて、法制度に関わる諸問題を考えることで、直感に頼らず、論理的に社会問題への対応策を検討できるようになることを目指す。商法、会社法といった経済活動に直接関わる法律は、経済学的視点による解釈が、従来の法解釈へ影響を与え始めている。また、従業員の解雇に関連して、解雇規制の存在が雇用環境や企業活動全般へ、どのような影響を及ぼすのか、経済学の分野で議論が展開されている。そこで、情報の経済学やゲーム理論といったミクロ経済理論の分析手法を用いて、企業金融や企業統治、解雇規制、知的所有権などのトピックスを取り上げ、法制度解釈への経済学の応用例を紹介していく予定である。</p>	
	経営組織論	<p>この講義の達成目標は、経営組織の基礎的な知識の習得と、習得した知識をもとに、組織での意思決定や実際の活動を円滑に行う方法を考えることの2点である。講義ではまず、組織とは何かといった根本の議論からスタートし、組織図を中心とする組織構造、従業員の意識を中心とする組織過程、組織の性格を表す組織文化、組織が変わる瞬間を捉える組織変革などを検討する。さらに、実際の組織での仕事を想定したチームでの仕事についての内容を深めることで、より実践的な講義を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	公 共 経 済 コ ー ス 専 門 科 目 Ⅱ	経営労務論	この講義の達成目標は、経営労務の基礎的な知識を習得し、経営労務の問題を解決する方法論を考えることにある。経営労務は、企業だけでなく、医療や福祉政策などのより広範な社会との関係も深い。例えば、従業員のストレスや長時間労働は、過労死・過労自殺などの過労による疾患に結びつき、医療との関係が深い。また、従業員の待遇に関する議論は賃金や福利厚生との関係するだけでなく、セーフティネットなどの福祉政策にも影響を与える。したがって、経営労務の視点から広く社会への問題にもアプローチする。	隔年
		財務会計	財務会計は、企業の経営成績や財政状態について財務諸表を通じて、企業外部の利害関係者に報告することを目的としている。本講義では、財務会計の機能、企業会計を取り巻く制度や会計基準について説明したうえで、適正な期間損益計算をするための収益と費用の認識・測定や利益測定、資産評価の基準などの概念について学ぶ。そのうえで、資産、負債、純資産の各項目や連結財務諸表などをとりあげ、企業会計の仕組みの全体像を把握していく。 また、会計は経営と密接な関係にある。そこで本講義では、企業経営と会計との関係がイメージしやすいように、適宜、企業事例や新聞記事をとりあげて説明する。なお、本講義履修にあたっては、「簿記・会計入門」の履修を前提とする。	
		管理会計	管理会計は、財務会計と異なり、主に企業内部の経営者や管理者が利用する会計である。具体的には、企業をマネジメントするための会計が管理会計であり、企業経営と管理会計は表裏一体な関係にある。管理会計の主な手法は、業績管理、コスト管理、意思決定である。本講義では、管理会計手法の理論的習得を目指す一方で、実際の企業経営にどのように管理会計が関わっているのかを事例を取り上げながら説明する。	
		公認会計士実務	公認会計士実務は、現場で活躍する公認会計士によって、企業を取り巻く会計監査に関する実践的な講義が展開される。講義内容は、公認会計士法及びディスクロージャー制度の概要、会計監査に必要な監査論と監査実務について、公認会計士の具体的な業務(監査・FA・税務)などである。	
		生保数理	この講義では、生命保険を題材に保険数理の基礎を学ぶことができる。他の講義で予定されている年金数理あるいは損保数理にも共通の概念、表現形式を扱う。この概念、表現形式を正確に理解しておくことは、保険数理を取扱うアクチュアリー資格を目指すものとして必須のものと言えよう。講義で取り扱う主な内容には、利息、割引、現価、終価および死亡率の概念、保険料、責任準備金、基数表の計算技術、保険数理記号の習得などが含まれる。	
		年金数理	アクチュアリアルな数理の分野には生命保険数理、年金数理、損害保険数理の3分野があるが、この講義の対象は年金数理である。講義では確率統計の手法をベースとして、年金制度に対して数学的側面からアプローチをし、年金の数理的構造、年金財政をアクチュアリアルに理解することを目的とし、年金数理の基礎的知識の体系的、年金財政の仕組み、年金の概論的な理解を目指す。本講義では、年金数理の基礎、年金財政の概要、財政計算、年金財政の検証、等を講義する。	
		損保数理	損害保険数理は確率・統計・経済における条件付確率、統計的推測・決定問題、確率過程、リスク評価の実務的側面もあり、本講義ではその応用数理的な基礎知識について学ぶ。併せて興味を持った学生が日本アクチュアリー会で課している「損保数理」を受験できるための基礎知識の習得も目指す。具体的には損害保険の仕組み、損害保険料率算定、支払保険金分析、リスクセオリー(破産確率等)、リスク評価(リスクの計量化)について講義する。	集中
数理モデル論	この講義では、実世界における種々の現象の本質を失わない範囲で簡明かつ厳密な数学的なモデルを構築し、それを数学的に解析し、導かれた結果を実世界の現象と比較してその現象の本質的な構造を明らかにする手法である数理モデルの考え方を講義する。講義においては、具体的な対象として株価変動の2項モデルを中心に扱い、オプションの価格付けや複製ポートフォリオの構成を扱う。必要となる確率論の基礎事項についても講義中に解説する。			

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 公共経済コース 専門科目Ⅱ	確率論基礎	世の中にはランダムな現象が多く存在する。確率論は様々なランダムな現象を数学モデルに定式化するための重要な理論である。この授業では、初等確率モデルで記述される具体例の紹介に基づき、確率論における基本的な諸概念、例えば、確率変数、確率分布を解説し、それから期待値、分散、標準偏差なども説明し、演習問題を通じ、理解度を高める。なお、それらの応用として、確率変数数列の収束に関する話題を紹介し、独立同分布な確率変数数列に関する基本定理、大数の法則や中心極限定理を紹介する。	隔年
	数理統計学	「統計学Ⅰ」「統計学Ⅱ」の授業で学んだ幾つかの知識を、より精密に理解することを目的としている。上記科目で学んだことの範囲をさらに広げるといっても、そこで直感的に、漠然と理解した事柄のいくつかについて、数学(数Ⅱ・Ⅲ程度の微積分)を用いて、厳密な理論展開をしていく。個々の統計的手法よりも、その背後にある基本的な原理を中心に学習する。内容に関する講義と並行して、毎回課題として指定される教科書の練習問題を解くことで、証明力や数理的な思考力を磨いていく。	
	労働法	労働法では、急速に変化しているわが国の雇用慣行と法政策について、個別的労働関係法と集団的労働関係法を主たる範囲として講義する(労働市場法や紛争処理法についても必要に応じて言及する)。具体的に個別的労働関係法では、労働基準法と労働契約法の解釈を中心に、基本的な条文や基本的な概念を整理し、理解させる。集団的労働関係法では、労働組合や労働協約などの基本的な概念を押さえた上で、労働組合法の解釈を中心的に扱う。最新の法改正や理論状況、判例法理の動向を見据えて、労働法に関する基礎的な知識や思考方法を体得することを目的とする。	
	社会保障法	社会保障法では、わが国の社会保障法をめぐる制度を概観し、各制度における法律問題について学習する。具体的には、健康保険法や医療法等を主たる対象とする医療保障制度や、国民年金法や厚生年金保険法等を対象とする年金制度、労働災害や雇用保険を対象とする労働保険制度や、生活保護法をはじめとする公的扶助制度などを取り扱う。社会保障法に関する制度の全体像を掴むと共に、これら社会に出て働く上で理解しておいた方がいいと思われる制度について、基本的な仕組みと法的紛争についての知識を得ることを目的とする。基本的な概念を押さえることと関連する裁判例をとりあげることが重視される。	
	行政法	行政法に属する領域のうち、総論部分と行政組織法の部分を取り扱う。具体的には、標準的な体系に基づいて、行政法の基本原理、行政組織法、行政過程論(行政の行為形式、一般的制度)についての基本的な考え方と行政手続法、国家行政組織法等の通則的な法律についての基本的な条文を理解させたい。行政組織、行政活動にいかなる法的な規律が及んでおり、いかなる形で行政組織を構築し、行政活動を行うべきかについて具体的な場面に即して考えられるようになることを目的とする。	
	行政学概論	この講義では、学習する対象をNational Government、そのうち国の行政府の制度と運用を中心にすえている。国の行政府の「制度」については、他の講義(憲法、行政法等)においても学ぶことになる。この講義においても「制度」を理解してもらうためのメニューを用意しているが、学習の重心は「運用」の方においている。 というのは、しばしば「行政とは法の執行である」という説明のされ方がなされるが、そうした定義のしかたは「行政」というものを理解するうえではまったく不十分なのであって、むしろ行政の運営は法令以外のルールー予算、計画、行政規則そして慣行に統制されているからである。 講義では明治維新、戦後改革に次ぐ「第三の改革」ともいわれている「中央省庁等改革」をはじめとする近年の行政改革を材料として扱い、省庁制、内閣制、稟議制、行政職員の裁量、行政責任等を検討する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 公共経済コース 専門科目Ⅱ	自治行政	<p>地方分権推進一括法の制定にともなって地方制度の大改革が実現した。この分権改革のねらいは、都道府県や市町村の裁量の範囲を拡大することによって、地域の問題はその自治体、住民の力で自ら解決できるようにしくみにしようというものである。</p> <p>この改革によって、自治体がどのような仕事をどういうふうにするかによって、私たちの生活がよくなるか、そうならないかが決まるようになる、といっても必ずしも過言ではない。それだけに、私たちが今後、自治体にどうかかわっていくかということを考えることがより重要になる。</p> <p>講義ではまず、地方自治の基礎知識を身につけてもらう。そのうえで、これまで地方自治のあり方の何が問題とされているのかを明らかにする。また、地方自治に関連する最近の事件をとりあげ、私たちの身の回りに起こっていることが、自治体とどのようにかかわっているかを検討する。</p>	
	政治学基礎	<p>多様な価値と利害を調整し、どのように社会の課題を解決していくか。複雑な公共政策の課題を理解するために必要な政治学の基礎的な知識と概念を理解する。社会の一員として、投票行動や様々な社会的な活動に主体的に参加するために必要な政治・政策分析能力、メディア・リテラシーを向上させる。</p> <p>社会科学とは何か、政治学とはどのような特徴を持っているのか。まず、政治権力、公共性、デモクラシーなど、政治学の基礎的な概念を解説する。次に政治のルール（制度）と政治主体に関する問題を考察する。さらに経済・社会・外交政策など重要な公共政策課題を理解するための基礎知識を整理する。</p> <p>レスポンスシートを利用し、授業の理解度を確認し、質問を把握する。論述試験を課し、自分の考えを適切に文章にまとめる能力を向上させる。</p>	
	国際政治	<p>国際社会の課題である貧困と開発、環境問題、平和構築などのグローバル・イシューズについての基礎的な知識を身につけ、その歴史的経緯、解決への模索及びその問題点について理解を深めていく。講義を通じて、時事問題への関心を高め、基礎的な学習能力と問題解決のための思考力を養う。全体は、以下の3つに大きく分けられる。まず第Ⅰ部では、貧困と開発に関する問題について理解を深める。第Ⅱ部では、紛争と平和に関する課題について考察する。第Ⅲ部では、グローバル・イシューズに対応するための国際社会のあり方やグローバル・ガバナンスの課題に焦点を当てる。レスポンスシートやグループ・ディスカッション、発表を取り入れ授業への参加を促す。</p>	
	国際政治演習	<p>国際政治経済及び国際開発の分野について、演習形式で発展的な理解を深める。さらにプレゼンテーション能力やディスカッション能力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。学生は、国際社会の課題に関する図書及び雑誌記事・論文などの日本語及び英語文献や報告書を元に、調査・研究、報告をした上で、議論を行うことを通じて、国際政治経済及び国際開発分野に関する理解を深める。外部講師なども依頼し、実務的な能力への理解を深め、インタビュースキルなども身につける。また、英語による学習能力やコミュニケーション能力の向上を目指す。</p>	
実践教育科目	実証日本経済論	<p>この授業は、日本経済のデータを使った分析演習を行いながら、利用するデータへの理解、分析ツールの習得、日本経済の特徴への適切な理解を同時に獲得することを目標とする。授業で扱うテーマには、マクロ経済指標からみた日本経済の構造変化、財政再建の条件、成長会計と成長戦略目標の達成条件、地域間格差、産業連関による産業波及、企業規模間格差などを含む。授業で取り上げるデータには、国民経済計算、財政の現状、産業連関表、法人企業統計などのほかに、授業担当者が作成に参加し一般公開されている2つのデータベース（日本産業生産性データベース、都道府県別産業生産性データベース）も使う。授業の進め方は、データと分析方法を説明する回と、前回出された宿題に沿って学生自らがデータ分析を行ってそれを発表する回を交互に行い、そのなかにより発展的な分析事例の紹介を差し挟む。学生が宿題に使う分析ツールとしては、ほとんどのパソコンに標準装備されているExcelと、統計分析のためのフリーソフトウェアであるRを使う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 実践教育科目	行動・実験経済学	<p>実験経済学の手法を理解した上で、理論検証に適した実験をデザインできるようになることを目的とする。実験で採取したデータを使い、それをどのように統計的に扱うか、そこからどのような結果を読み取れるかを学習し、自分で適切な統計手法を選んで分析できるようになることを目標とする。</p> <p>実験経済学では、実験室のなかで経済モデルと整合的な状況を作り、そこで実験参加者に行動してもらい、それをデータとする。その結果に基づいて、理論モデルと現実との対応関係を把握し、理論をより有効に現実へ応用させるのがかりとする。</p> <p>この授業はグループワークを使った演習形式で行う。各自PCを利用し、実験実施及びデータ解析を体験する。</p>	
	計量分析	<p>計量分析では、線形回帰モデルなどの基礎的な計量経済学の理論を学んだ学生に対し、実証分析を行う上で必要な発展的な計量経済学の理論とコンピュータを用いた分析手法内容を扱う。いくつかの実証分析を紹介し、そこで扱われている統計学の手法とRと呼ばれる統計ソフトを用いたプログラミングについて講義する。受講者は統計学の演習問題を解き、プログラムを書くことが求められる。この授業では、発展的な統計学の理論を理解し、シミュレーションや実際のデータの分析を自力で行う能力を身につけることを目標とする。</p>	
	地域調査法	<p>本演習では、地域活性化や地域課題の解決の基礎として、地域の実態を分析する手法を身につけることがねらいである。全体は二部構成となっている。第一部では、地域分析の概念や公開統計の入手方法を学んだ上で、地域統計データを利用して、コーホート分析やシフトシェア分析、修正ウィーバー法などの分析手法を学ぶ。第二部では、実際に地域に出向いて、観察調査や関係主体へのインタビューなどを通じて、都市の構造や経済活動の実態を理解するためのフィールドワークを行う。</p>	隔年 演習 27時間 実習 6時間
	地域包括ケアシステム論	<p>医療・介護の連携による高齢者の在宅介護の推進は、持続可能な医療保険制度、介護保険制度を作るだけではなく、サービスを利用する高齢者等のQOL向上のために欠かせない取り組みであり、その実現には「他職種連携」が重要だと指摘されている。</p> <p>この授業は、「地域包括ケアシステム」に直接関わる、行政、医療、介護、地域福祉等の支援セクターが抱える課題をグループワークでリサーチし、そこで得られた仮説を携えてそれぞれのセクターに参与観察に入り、それらの成果をもとにグループワークを通じて課題の解決策をまとめ、プレゼンテーションを行なう、演習形式とする。</p> <p>この授業は、事前学習（5回）＋現場実習（1日4時間を3日間）＋事後学習（5回）の構成である。事前学習では、実習先の担当者による講義、グループワーク等を実施する。現場実習は、日中の就業時間中に実習現場に入り参与観察を行なうと共に、担当者との意見交換の中で現場の抱える課題を明らかにする。事後学習は、グループワークでそれぞれの施設等の課題を整理、その解決策を考え、プレゼンテーションを行なう。</p> <p>担当者2名（8 井上信宏、13 増原宏明）は、事前学習、事後学習を中心に、この授業全般の統括運営を担う。</p> <p>確保済みの実習先は、松本市役所（3名）、松本市社会福祉協議会（9名）、信州大学医学部附属病院（6名）、国立病院機構 まつもと医療センター（3名）、相澤病院（3名）である。</p>	隔年 共同 演習 24時間 実習 12時間
	地域社会統計分析	<p>ヘルスケア領域をはじめ、データ分析の有効活用可能な分野で活躍できる人材育成のために、保健・医療政策などに関連する地域社会統計（人口動態統計、国勢調査など）の情報処理能力を開発することを目標とする。すなわち、GIS（地理情報システム）利用のための知識の習得、GIS活用のための実践的な技能の育成を目指す科目である。</p> <p>具体的には、特定地域を対象とした空間情報データの入手、オープンソースGISを用いた情報処理、結果分析、分析結果のプレゼンテーションを講義・実習を交えながら実施する。</p>	隔年
	経済規制の実務	<p>財務省、経済産業省、長野県庁、松本市役所などで、規制の策定・実施に携わる実務家を招き、事例紹介・意見交換を行うことで現実の規制の実務を考察する機会を提供する。規制の経済的役割について、講義で得た専門知識と規制の現場で必要となるスキルとの関係を確認し、専門知識を実務へ応用する術を学習することを目的とする。授業の進行は、最初に具体的事例紹介のために実務家を招き、意見交換等を行う講義を5回程度実施する。そして、事例紹介等で得た規制の現場の情報を基に、規制の実施による問題改善の可能性をグループワークで検討・整理する。検討結果を最終レポートとしてまとめ、研究報告を行う。研究報告には、外部講師や報告に関連する機関のスタッフ等を招く予定である。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	実践教育科目	会計事例	財務会計で学習した基礎知識をもとに、EDINETなどから有価証券報告書入手し、定量・定性情報の両面から企業分析を行うことで理論の理解力を高め、近年盛んに発生している粉飾決算といった企業事例についても分析する。さらに社会人になってからは企業運営・経営に関連した管理会計の理論・実践の知識も不可欠であり、会計理論と実務の密接な関わりを理解するため、会計事務所での実習も実施する。	隔年 演習 27時間 実習 6時間
	法学系選択科目	憲法	日本国憲法の「第三章 国民の権利及び義務」に関する基礎理論を取り扱う。この講義では、各種の基本的人権を保障するために、日本国憲法がどのような構造を有しているのかを体系的に理解させることを目的とする。具体的には、次の二つのことに重点を置く。第一は、基本的人権に関する基本条文、基本概念を正しく理解させることである。第二は、基本的人権を保障するための構造に対する理解を通して、立憲主義という考え方に対する理解を深めさせることである。民法、刑法の基礎知識があることを前提に進める。	
		統治機構論	日本国憲法の規定する順序に沿って、日本国の統治構造を解説する。憲法の統治機構の条文解釈は、憲法の掘ってたつ原理からその規範内容が導きだされなければならないが、その原理の理解は学説の立場によって異なり、その差異が個々の条文解釈の差異となってあらわれる。重要なのは、統治機構の条文解釈は、解釈者の理解する憲法原理と整合しなければならないということである。受講生が、代表的な憲法学説と判例の立場を十分に理解し、日本国の統治構造を立憲主義の観点から整合的に解釈する能力を身につけることができるように配慮する。	
		行政救済法	行政法に属する領域のうち、行政救済法の部分を取り扱う。具体的には、行政争訟の仕組みについて行政不服審査法、行政事件訴訟法の基本的な考え方と条文を理解させ、さらに国家補償の仕組みについて国家賠償法等の基本的な考え方と条文を理解させることを通じて、国民の立場から違法・不当な行政活動を是正し、行政活動に起因する損害・損失を填補するためいかなる手法を取るべきか、行政の立場からこれにいかに対応すべきかについて具体的場面に即して考えられるようになることを目的とする。	
		民法総則	民法典第1編（民法総則）について講義する。民法に触れる最初の講義であることから、まず私法の一般法である民法の基本原則や基本的な概念に触れ、そのうえで、民法総則が規定する権利能力、行為能力、意思表示とその取消、代理、時効といった各制度について講義を行う。この講義は、この領域に関する条文・判例に基づく基本的な知識と法律的な考え方を修得することを目的とするものである。また、これらの概念や制度が、民法全体の中でどのような意義を持ち、民法を扱う他の講義内容とどのように関連しているのかを理解し、民法の全体像を掴むことを目的とする。	
		契約法Ⅰ	法律効果の発生（権利変動）原因となる当事者間の合意を契約といい、民法には、13種類の契約類型が規定されている。この講義は、各種契約類型に共通する問題として、契約が拘束力を有するのはなぜか、契約が成立するための事実的条件は何か、債務者が契約上の債務を履行しなかった場合に債権者はいかなる措置をとり得るか等の諸問題について検討する。民法典の体系に則して言えば、この講義で扱う領域は、債権総則の一部（債権の目的、債務不履行に基づく損害賠償）と契約総則に相当する。民法起草過程における議論状況を踏まえつつ、歴史的背景と関連付けながら現在の解釈論を伝える。	
		契約法Ⅱ	我々の日常生活と密接に関わる民法の契約法のうち、契約各則の部分に置かれた諸制度を取り上げ、各制度の基礎にある考え方及び具体的な制度内容について解説する。具体的には、典型契約である贈与、売買、交換、消費貸借、使用貸借、賃貸借、請負、委任、組合及び和解を取り上げ、また、民法典に規定されていない契約も取り上げる。そして、各制度の基礎にある考え方及び基本問題を具体的な場面に関係付けて理解できるようになることを目標とする。	
		契約法Ⅲ	債権者が債務者に対して債権を有していたとしても、債務者がこれを弁済しない又は弁済するだけの財産を有していない場合には、どのようにして債権の回収を図るかが問題となりうる。そこで、民法上の債権回収に関わる諸制度を取り上げ、各制度の基礎にある考え方及び具体的な制度内容について解説する。具体的には、弁済、相殺、債権譲渡、債権者代位権、債権者取消権を取り上げ、主要な論点について設例を用いるなどして詳しく解説する。そして、各制度の基礎にある考え方及び基本問題を具体的な場面に関係付けて理解できるようになることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 法学系選択科目	不法行為法	民法第3編(債権)のうち、法定債権と呼ばれる法領域、すなわち第3章(事務管理)・第4章(不当利得)・第5章(不法行為)について講義する。民法体系におけるこの法領域の位置づけや基本概念を理解したうえで、条文・判例に基づく要件及び効果に関する基本的な知識を修得することを目的とする。また、この法領域においては判例が重要であることを踏まえ、とくに主要論点に関する判例については、具体的な事案内容や判例の変遷を把握し、そのうえで判例法理を理解することを目的とする。	
	担保法	一般の債権者は、債務者の資産状況の悪化により、債権を回収できなくなるリスクを負っており、このような債務者無資力のリスクに備える方法を担保という。この講義は、各種担保の成立のための条件、担保権者及び担保設定者間の権利関係、他人のために担保を引受けた者の地位等について検討する。民法典の体系に則して言えば、この講義で扱う領域は、債権総則の一部(連帯債務、保証)と、物権の一部(留置権、先取特権、質権、抵当権)に相当する。民法起草過程における議論状況を踏まえつつ、歴史的背景と関連付けながら現在の解釈を伝える。	
	民事執行・保全法	民事訴訟法で修得した権利の観念的・形成過程についての基本的理解を前提に、判決等を債務名義としてなされる権利の事後的形成過程について、基本的な知識と理解を獲得することができるよう講義を行う。計15回の講義では、強制執行を中心に、担保権実行、執行の暫定的措置たる保全手続を取り上げ、この全体を通して、民法が規定する権利・義務が、民事訴訟手続を経て、現実にもどのように具体化していくのかを理解し、民事法全体についての体系的な理解と知見の獲得を図る。	
	刑法Ⅰ	刑法学の犯罪論のうち、総論(共犯、刑罰論を除く)および各論(個人の重要法益)を取り扱い、刑法の犯罪論の基礎を身につけることを目的とする。受講生が具体的にイメージしやすいよう、まず犯罪論の基本的な考え方を理解させた上で、刑法各論、刑法総論と講義を進める。授業では、判例や学説の検討を中心に行うが、受講生が講義を聞きながら主体的に考える力を養えるように、講義前には毎回問題を提示することとする。最終的には、判例と同種の事案解決だけでなく、未知の事案をも解決し得る思考力を獲得できるようになることを目標とする。	
	刑法Ⅱ	刑法Ⅰに引き続き、刑法Ⅰで取り扱えなかった共犯論、刑法各論の残り刑罰論について取り扱う。刑法Ⅰでは、単独犯を予定した構成要件の理解が中心となるが、刑法Ⅱでは、修正された構成要件である共犯について理解できるようにする。また、社会的法益・国家的法益や、犯罪論のゴールである刑罰論についても取り扱う予定である。刑法Ⅱでは応用力が問われる場面もあるので、必要に応じて刑法Ⅰでの基礎知識を確認しつつ、授業を進めることにしたい。また、刑法Ⅰと同様、授業前に毎回問題を提示し、受講生の知識の定着と、主体的な思考力の獲得を目指す。	
	市民税法	所得税法、消費税法及び国税通則法から、一般的な市民生活の中で生じる租税法律関係に関する部分を取り上げ、基礎となる考え方を理解させることを目的とする。 包括的所得概念を基礎概念として視座に据え、事業所得と譲渡所得に対する所得税法の原則的な課税を理解させたうえで、市民生活に深く関わる給与所得や利子・配当所得に対する源泉徴収課税、寄附金、医療費や社会保険料などの所得控除、事業者と消費税の課税を理解させる。権利救済手続を中心に、租税手続法の全体像についても理解を得させる。	
	法人税法	わが国の法人税法のうち、課税標準及びその計算(第二編第一章第一節)における基本的事項を扱い、法人所得計算の基礎となる考え方を理解させることを目的とする。 企業会計における利益計算を法人所得概念の基礎としてイメージさせながら、二重課税や課税繰延べ、法人成りなど法人課税に固有な問題の存在を認識させ、実現主義と評価損益、資産概念と取得価額の機能、損金算入制限と課税ベース、損失控除と債務確定要件について、基本的な考え方を理解させる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 法学系 選択科目	租税法実務	この授業は、関東信越税理士会長野県支部連合会との学術協定に基づき、税理士をゲスト講師としてオムニバス方式で講義を行うものである。 実務上の具体的な事例に関する租税法の適用関係について講義する。実社会では、一個の経済的取引について、所得税法、法人税法、相続税法が同時に適用され、様々な課税関係を生じさせることが珍しくはない。また、租税法適用の前提として、民法法の適用関係が問題となることも多い。この講義は、実務上の具体的事例においては、このように多面的な法適用の検討が必要であることを理解し、租税法や民法法の知識を統合し、法律問題についての総合的な応用能力、実践的な解決能力を身につけることを目的とする。 ゲスト講師のコーディネーターと成績評価は学部専任教員(34 池田秀敏, 77 橋本彩)が担当する。	共同
	知的財産法基礎	知的財産法がなぜ重要なのか、日本経済を取り巻く歴史的な変化を踏まえて解説し、その上で、内外の最近の事象を素材に、知的財産法の基本的な考え方を講義する。法律学の初学者が興味を持って知的財産法に入門できるようにすることが目的である。想定される素材は、アップル対サムスン、途上国における医薬品の普及と特許権、環太平洋経済連携協定(TPP)交渉、職務発明、孤児著作物問題、並行輸入、著名標識の保護、営業秘密などである。	
	知的財産法Ⅰ	技術的創作に経済的な価値を与える法制度について講義する。その中核をなすのは出願により公開された発明に対して特許権を付与する特許制度であるが、秘匿された技術に対して法的保護を与える営業秘密制度(不正競争防止法)にも説き及ぶ。また、医薬品・バイオ、化学、機械、電気・電子、情報技術といった、技術分野別の特徴にも注意する。知的財産法の国際的側面などにも、必要に応じて触れる。	
	知的財産法Ⅱ	創作的表現について権利を与える著作権制度について講義する。美術や出版などを対象とする古典的な著作権法制が、コンピュータ・プログラムを制度の対象として取り込み、さらにインターネットの発達によって大きな変容を遂げつつある様相を解説する。また、営業上の信用に対して法的保護を与える制度(不正競争防止法・商標法など)にも説き及ぶ。	
	危機管理法務	架空循環取引など、企業不祥事は後を絶たない。企業は、不祥事を抑止するために、その態態に応じ、コンプライアンス体制を適切に整備することを求められている。コンプライアンス体制を実質的に機能させるためには、関連法令の知識のみならず、事前・事後対応を含む危機管理のノウハウを身につけた人材が不可欠である。本講義においては、企業等において危機管理を担う人材の育成を目的として、主要な不正類型について、過去の具体的な事例を取り上げて関連法令や当該不正事例の原因・再発防止策等を解説する。	
キャリア ア デ ベ ロ ッ プ メ ン ト 科 目	ボランティア	安全で平穏な社会生活には近隣などの助け合いも不可欠である。また自分にできる社会貢献を見出すことは自己発見でもある。東北震災復興支援、信大附属託児所、自然保全活動、福祉関連NPO法人などさまざまな地域・社会課題に取り組む非営利団体・活動にボランティア人材として自発的に関わることを通じて、<共助>を理解し自己発見にもいたることを目的とする。「交流系科目部会」教員が指導・運営(単位認定)にあたる。合同説明会(4月)に出席し、事前レポート登録を経て、夏期などに原則60～80時間、ボランティア活動に従事し(無償)、ボランティア活動実施証明を付したレポート(4000字)に合格し、発表会(12月)に参加することを義務付ける。	共同
	インターンシップ	企業・公務職場などの組織における就業体験をもとに単位を認定する。「交流系科目部会」教員がその指導・運営(単位認定)にあたる。合同説明会(4月)を経て、事前レポート登録を行い、夏期などに原則60～80時間、体験就業(無償)に従事し、インターンシップ修了証明を付した事後レポート(4000字)に合格し、発表会(12月)に参加することを要する。	共同
	Global Political Economy	グローバル化の進展の中で、国際社会が直面する課題について学習する重要性が増している。また、社会で仕事をする上で、実用的な能力としての英語力を向上させる必要性も増している。この授業では、貧困と開発、国際経済秩序、安全保障、環境問題など国際政治経済の課題について、主に英語教材を使用し学習する。基礎的な国際社会の課題を理解すると共に、社会科学を学ぶための英語能力の向上を目的とする。少人数の参加型の授業を通じて、情報収集・分析、プレゼンテーション、文章作成能力を向上させる。	

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 公共経済コース)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	キャリア ア デ ベ ロ ッ プ メ ン ト 科 目	Global Business	本演習は、グローバルビジネスにおいて重要視されている概念、分析手法、戦略、戦術などを、主にマーケティングの観点から学ぶことを目的とする。本演習ではまた、グローバル市場で活躍する上で不可欠な概念の理解と、スキルの構築に焦点を置く。履修者はこの演習を通じて、日本および世界で活躍している組織および個人による最新のビジネス活動について学び、事例研究を行う。毎回の演習に備えて履修者は、学内および学外における多岐にわたる調査活動、ディスカッションに向けた事前学習の実施が必要となる。この演習では、履修者個々の文化的・経済的・社会的観点を生かし、共に学ぶ履修者とネットワークを構築しながら、様々なグループ活動を通じて学ぶことが期待される。毎回の演習は、講師による講義、質疑応答、講義内容に基づくディスカッション、プレゼンテーションの実施、小テストと期末テストから構成されている。	
	American Law and Society	アメリカの法と公共政策について学ぶ。日本社会とは異なる法・政策の体系とアプローチを学ぶことにより、日本社会の法・政策の特徴を理解する。学術研究教育交流協定を結んでいるハワイ大学ロースクールと行政学プログラム (Public Administration Program) より客員教授を招聘し、夏期の集中講義期間に行う。講師は毎年交代し、様々な法と公共政策の専門分野の科目を開講する。英語で授業を行い、英語での学習能力を向上させる。授業は、アメリカの法や公共政策教育で行われる参加型のアクティブ・ラーニングスタイルで行う。授業のコーディネーター、ガイダンス、学生に対するサポートは、学部専任教員（⑧ 美甘信吾）が担当する。	集中	
	海外短期演習	ハワイ（アメリカ）社会・政治経済制度について学び、地域振興や多文化共生など地域社会が直面する課題について理解を深める。海外の大学での学習体験を通じ、異文化理解を促進し、英語学習を奨励する。海外研修の効果を高めるために英語学習や日本語での基礎知識の習得など事前学習を行う。ハワイ大学での授業、フィールドトリップ、報告書作成を通じて、経済学・政治学の基礎知識の体系的理解、社会における課題発見力と行動力、言語（英語）能力、コミュニケーション能力、自己管理能力、チームワーク力、リーダーシップを身につける。	集中 演習 54時間 実習 12時間	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 教養ゼミナール群	環境問題を化学者と考えるゼミ	第1回目の講義時に各種環境問題を教員から問題提起し、2回目以降のテーマを担当する発表者を決定する。主発表者は毎回1～2名でA4レポート用紙2枚にまとめてレジメを作り15分程発表(プレゼンテーション)する。発表者以外の人はその小テーマについて調べておく。そして4～5人のグループに分かれ、発表者の発表後、全員で20分ほど討論する。(コミュニケーション能力の向上) そして、その結果をレポートにする。(言語能力の向上) さらに、それらの結果を基に各グループが意見を交換する。(コミュニケーション能力の向上) 「一人一人が自分で調べ、考え、自分なりの考え方を持つ」ということがこのゼミのキーワードであり最終目標である。	
	生態資源論ゼミ	各人(班)はそれぞれ関心をもった生態資源について、まずは文献資料にあたり、報告する。それをもとに、受講者全員で質疑応答を行う。 各班の調査方法としては、各種文献やインターネットの参照のほか、関係者への聞きとりを行う(メールや電話での聞きとりも可とする)。また各報告に対して質疑応答を行う。 また、授業期間内に1度、受講者全員が参加する学外見学・体験の機会を設ける。	
	地球白書ゼミ	本授業では、地球が直面している問題群を比較的平易な英文とそこに挿入されている図表から学ぶ。各人はそれぞれ関心のある項目について、テキストの読解を行い、発表・報告する。それをもとに、受講者全員で質疑応答を行う。授業の目標は、鍵となる単語や表現を覚えることに加え、問題の背景や構造を理解し、さらに私たちに求められる「かかわり」について議論することである。	
	環境マインドを現場で体験するゼミ	(1)水生生物の基づく環境調査、(2)地下水利用をめぐる聞きとり調査、(3)成果発表と討論を行う。 まず、ナノ水車発電の技術の体験的学習では、工学部における技術開発の現場と、エネルギーの地産地消を目指した応用現場に立ち会い、討論を通してこれからのエネルギー生産と消費のあり方を考えさせる。 次に、環境調査会社(株式会社 環境アセスメントセンター)によって環境保全の作業が行われている現場を訪問する。ここでは、実際に水生生物の調査を担当することによって実際の調査を体験するとともに、協同作業を進める方法を工夫してほしい。 さらに、地下水利用の現状と課題について、地下水開発会社(株)サクセン、飲料メーカー、わさび農園、住民などへの聞きとりを通じて、体験的に理解する。地域の水資源を活用しながら、同時にその水環境をまもっていく方策について議論する。 (オムニバス方式/全16回) (52 金澤謙太郎/8回) 水生生物の基づく環境調査 成果発表と討論 (26 大塚勉/8回) 地下水利用をめぐる聞きとり調査 成果発表と討論	オムニバス方式 集中
	「時」について考えるゼミ	「時」についての理解を深める。主として輪講形式。「時」をキーワードとしたいろいろなテーマを取り上げ、受講生主体の自由な討論を行いたい。対象学生は文理所属を問わない。教材は受講生の興味や予備知識に合わせて調整する。	
原書で読むシャーロック・ホームズゼミ	4つの長篇と56の短篇からなるホームズ物語のうち、『ストランド・マガジン』への連載をきっかけに一躍人気を博した代表的短篇をとりあげる。シドニー・バジェットによる挿し絵が添えられたテキストを読み解く作業を中心に授業を進めるが、英語特有の表現、構文など、形式的・文法的な知識の確認と同時に、文化的文脈を踏まえた、テキストの内容の正確な解釈・理解にも意を用いたい。その際、英文の内容と味わいを達意の日本語で表現するために、英和辞典、国語辞典をはじめ、各種の辞典類を充分に活用してもらいたい。また随時、英国のグラナダテレビによって製作された定評ある映像化作品も視聴し、原作テキストとの比較も試みたい。		

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 教養ゼミナール群	現代ドイツの言語と日常ゼミ	既習言語であるドイツ語を実際に用いて、ドイツ語を通してしか得られない現代ドイツ語圏の日常・文化生活に触れ、異文化に直に触れることにより、より高度な国際理解感覚を身につけつつ、ドイツ語運用能力を高める。 到達目標： 1. 辞書を用いれば、現代ドイツのアクチュアルな文章を読むことができるレベルのドイツ語読解能力を身につける。 2. 文章を読む際に、日本語の感覚ではなく、ドイツ語の感覚で読む習慣を身につける。 3. 日本語に頼ることなく、外国語から直接外国の情報を入手し、それを処理する国際理解感覚を身につける。 4. 独検秋季試験で2級に合格するドイツ語力の習得を目指す。	
	現代ドイツ事情ゼミ	現代のドイツ語圏の事情は、日本の新聞や雑誌ではなかなか目にすることがない。そのようなアクチュアルな文章を読む際には、テキストの文字だけを見ていても、その背景にあるドイツの現状を知らなければ、理解するのは難しいだろう。(もちろんこれは、ドイツ語に限ったことではなく、英語でも同じことが言える。) そのような意味で、異文化理解や国際感覚というものをより高度なものにするために必要な視点や姿勢を、しっかりと身につけてもらいたい。	
	異文化研究ゼミ	本ゼミでは、各受講生が関心を持っている異文化について学び、学んだことを発表することを通じて、自ら課題を探索し、自分の主張を的確に表現する能力を養う。 はじめに各受講生が関心を持っていることについて話してもらい、その関心をどのように深めてゆけばよいのか話し合う。 最終的にはレポートを執筆し提出する。その上で、アカデミック・ライティングの指導を行う。随時グループワークを実施することで、コミュニケーション能力を高めるとともに、受講生どうしの相互理解を深める。	
	感覚で攻める英文法ゼミ～ 覚える英文法から感じる英文法へ	本ゼミでは、英文法のトピックを取り上げ、受講者の理解度に合わせゆくり進めていく。 まず、各トピックの基本事項を講義し、そのトピックを理解するのに必要な事項を概観し全体像を把握する。その後、グループワーク・ディスカッションやプレゼンテーションを通して受講者全員でそのトピックにまつわる「なぜ」という疑問や「どうして」という関心を自由で大胆且つ独創的な発想を交え積極的に話し合い、受講者全員の共同作業により各自が「英文法」を体感し、「使える英文法」を体得する。	
	スポーツ・ホスピタリティゼミ 秋冬編(松本山雅FC連携ゼミ)	本ゼミではスポーツ・ホスピタリティ、具体的には地域密着型スポーツクラブ、プロスポーツ、一般市民のスポーツ施設、あるいはレジャー施設におけるボランティアの望ましいあり方をアカデミックかつ実践的に理解する。本講では主に信州におけるサッカーを中心としたスポーツクラブやその他のトップスポーツや、近隣のスポーツ施設や公園が直接の対象となるが、海外におけるホスピタリティ事情も文献やインターネットで検討する。そこでのホスピタリティがどのような歴史社会的背景、教育的、政治的、経済的要因で成立し、受容されて(あるいは忌み嫌われて)いるのかを実際のフィールドワークも取り入れながら検討してゆく。 フィールドワークは2012年シーズンからJリーグ入りを果たした松本山雅FCの試合運営にボランティアとして関わること及びその他スポーツスタジアムやスポーツイベントのホスピタリティ体験を通じて望ましいあり方を学習する予定である。	
	スポーツ・ホスピタリティゼミ 春夏編(松本山雅FC連携ゼミ)	本ゼミではスポーツ・ボランティア、具体的には地域密着型スポーツクラブ、プロスポーツ、一般市民のスポーツ施設、あるいはレジャー施設におけるボランティアの望ましいあり方をアカデミックかつ実践的に理解する。本講では主に信州におけるサッカーを中心としたスポーツクラブやその他のトップスポーツや、近隣のスポーツ施設が直接の対象となるが、海外におけるホスピタリティ事情も文献やインターネットで検討する。そこでのホスピタリティがどのような歴史社会的背景、教育的、政治的、経済的要因で成立し、受容されて(あるいは忌み嫌われて)いるのかを実際のフィールドワークも取り入れながら検討してゆく。 フィールドワークは2012年シーズンからJリーグ入りを果たした松本山雅FCの試合運営にボランティアとして関わることを通じて望ましいあり方を学習する予定である。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 教養ゼミナール群	スポーツ観戦文化論ゼミ	ここでの観戦学とはいわゆるスポーツの戦略やスキルの専門的知識を追求することではない。スポーツの生観戦，スポーツのテレビ観戦のアカデミックな理解にあたって，まず，チームやクラブのエンブレムやユニフォーム，愛称，サポーターズ・ソング，等の諸シンボルが対象となる。それらが支持・愛される理由・要因を，歴史社会的背景，教育的，政治的，経済的要因などに注目しながら検討する。また，同様に，観戦にあたってよいスタジアムとは何か，サポーター&サポーターズカルチャーとはいかなるものかについても，実際のフィールドワークも取り入れながら検討してゆく。	
	テレビのメディアリテラシー（テレビ信州参与ゼミ）	この講義はテレビ信州の全面的協力の下に開講するもので，ニュースや技術，カメラ，アナウンスなどの担当者をゲストスピーカーとして迎える。現場での経験，経験の中からの学び，喜怒哀楽等々，ナマの声を耳を傾け，質疑応答の中で，テレビメディアの今を知る。併せてミニ番組を制作し，作品はテレビ信州の番組と長野市インターネット放送局「愛テレビながの」の中でOAする道も開かれている。ただし，この制作実習は，テクニックの習得というより，むしろ，送り手と受け手の双方の立場を体験し感じ取り，討論することを通じて，メディアリテラシー向上に資することを主眼としている。	
	「考える」ゼミ	「考える力」や「伝える力」は，受身的な学習により身に付くものではない。「考える力」と「伝える力」を獲得するためには，実際に「考える」そして「伝える」という“実践トレーニング”が欠かせない。 「考える」ゼミ（以下考ゼミ）では，その「考える」「伝える」ことを実践するために，トレーニングの【場】となる様々な仕掛けや素材が毎回用意されている。そして，普段はできないような新鮮な経験となりそうな機会を提供する。この【場】や【経験】は，教室内とは限らず，街場（地域）に繰り出し体験型の活動を行う。その【場】では，様々な“指令（〇〇しなさい）”が出され，それら指令をこなすことで，新鮮な経験を得つつ「考える力」「伝える力」を鍛え上げていく。 このように，受講者は，毎回毎時，「考える」そして「伝える」実践トレーニングを行う。	
	化学計算入門ゼミ	表計算ソフトは基本的なソフトであり，種々の分野において広く使われている。本ゼミでは，この表計算ソフトを化学実験の結果の解析や種々の化学計算等を行なうことにより，基礎知識を進展させ，理解を深める。本ゼミでは，以下の点を目標にする。 1. 表計算ソフトExcelの基本的な操作を覚える。 2. 化学計算ができる。 3. 実験結果の解析ができる。	
	文系学生のための野外地質学ゼミ	前期の土・日曜日を利用して野外に3回，学内で1回の授業に臨む。 信州には多くの活断層が存在し，近い将来地震災害をもたらすのではないかと心配されている。また，山岳地域であるため，常に自然災害に見舞われている。そのように判断される根拠となる野外地質現象を訪ねる。 信州の地質を特徴づけるフォッサマグナとはなんだろうか。フォッサマグナを特徴付ける岩石が露出している地点と，そこから産出した化石を収蔵する博物館を訪れる。さらに，身近にある河川－女鳥羽川を歩き，地質学的な自然現象が語っていることを学ぶ。 各内容では，かなりの距離を歩くことになる。現地では地質現象を観察して記録をとり，後でレポートを作成する。現地で観察して議論し，考えたことを発表してもらう。	集中
統計図解ゼミ	身近な状況の中から，数値情報の現れている課題あるいは欠落している課題などを，コンピュータを活用してグラフなどに図解していく。各自が図解に作成したファイルを，大学提供の学習システムeALPS上に提出することにより毎回の演習は完結する。 処理する題材はインターネット上で公開されている数値情報を中心に扱い，とくに環境，教育，地域，ジェンダーおよびスポーツに関係した資料を多く扱う。 表計算の利用においては，とくに作業効率に関係したスキルを中心に扱う。 実習の進め方は，個人活動を中心に進め，課題によってはグループでの作業とする。 なお表計算Excelをよく使う人も多いが，このツールに関するいくつかの問題点も同時に演習を通じて指摘していく。		

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 教養ゼミナール群	アナログ再発見ゼミ	単純に数えること、あるいは私たちの身体感覚を通じて測定できるいくつかの課題に取り組むことを通じてアナログ量やデジタル量の測定について体験し、それらのデータを計算処理を通じて表現する。 課題内容に応じて、個人またはグループで取り組む。 数値情報の表現においては、有効数字や誤差の扱いも学ぶ。	
	情報社会論ゼミ	ここ数年のコンピュータと情報通信技術の普及によって、コミュニケーションのあり方、意思決定・判断の方法を含めて私たちの生活スタイルは大きく変化した。私たちが記憶しなければならなかった事柄のかなりの部分は、携帯電話やコンピュータが担うようになっている。かつて調べるのに大変な労力を要した事柄も、いくつかのキーワードを入力するだけで簡単に調べることができるようになった。しかし負担が減った分、私たちの脳はより良い使われ方をしているだろうか。 このゼミでは、情報社会に関する様々なテーマについて検討することを通して、ネットワーク社会の光と陰について理解を深めてもらいたいと思う。	
	大学生基礎力ゼミ	受講生が学ぶのは、信州大学に関する知識と、大学生として4年間必要になる基礎的な知識・技術・態度である。そのために、授業と授業外で、自分たちが大学生になっていく過程を観察し、記録し、分析していく作業を繰り返すが、そこで学生が実際に体験し、練習するのは、 (1) 受講している学生および教員との信頼関係および生産的関係の構築 (2) 大学の学びに必要な諸技術（聞く・話す・読む・書く・分析する・協働する・受け入れる・主張する・異議を唱える・働きかける、等々） (3) 信州大学の環境の理解と施設や支援の利用 (4) 異なる人々や新しい価値体系の受容と、自分の視野と度量の拡張の4つである。 この経験を記録し、分析し、今後に生かすために、学生は毎週ふりかえりを書き、大学の施設を学びながら協働して課題に取り組み、それらをポートフォリオとして保存して、はじめての学期の経験を総括するレポートを書く。授業ではこれらの経験を話し合うことで理解を深め、大学生として生活を組み立て、学習を深めるための基礎力を身につける作業を繰り返す。	
	グローバルに生きるゼミ	この授業は、「グループワーク」、「ディスカッション」、「プレゼンテーション」が中心となる。「知識を得る」のではなく、情報を得て、それについて考え、自分の問題として発信することを要求する。 毎回の授業の大まかな流れは、以下のようなものである。 1. 資料あるいは短いレクチャーを通して、テーマごとの問題点を明確にする。 2. その問題点についてグループワークやディスカッションを通して理解を深めつつ、自分以外の視点についても触れ、自分の問題として考える。 3. ディスカッションの結果をグループで（あるいは個人で）まとめて発表する。 4. 授業内容のまとめとして、毎回短い文章を提出してもらう。 (オムニバス方式／全15回) (47 松岡幸司／13回) オリエンテーション：「グローバル（に生きる）とは何か？」 グローバルな人材とは？（自分の問題として考える） 海外へ行く、海外で暮らす/学ぶとは？(1) グループ発表 様々なテーマで「グローバル」ということについて、自分の問題として考える。 個人発表 (44 RUZICKA DAVID EDWARD／2回) 海外へ行く、海外で暮らす/学ぶとは？(2)	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	教養ゼミナール群	新聞をつくろう！（タウン情報制作ゼミ）	『松本平タウン情報』は、松本、安曇野、塩尻市など中信地方で11万8700部を発行するタブロイド判16ページの地域情報紙であり、毎週3回発行され、信濃毎日新聞の朝刊に折り込まれている。その紙面づくりに学生自身が加わることを通じ、「地域におけるメディアとは何か」を学び、その過程で、分かりやすい文章の書き方、コミュニケーションの方法などを身に付けることを目的とする。 ゼミでは、新聞をつくるための基礎知識を学び、実際の紙面をつくる。メディアのあり方、取材の仕方、写真の撮り方、新聞の組み方などを講義する。以上のことは編集会議を重ねながら、実際に取材、執筆、整理制作を進める。	
		スポーツ活動論ゼミⅠ	身体の健康を図ることは人生を通しての課題といえる。本ゼミは「人間の身体は素晴らしい」をテーマに運動をとおして人間の生活習慣やスポーツ活動について、学生諸君とともに考えていくことをねらいとしている。またゼミではスポーツの理論と実践を重視するため、問題発見、問題解決能力が身に付く。学生の自主性により内容を決定するので、ゼミの運営を行うことによるコミュニケーション能力の向上を目指す。様々なスポーツ活動を調べ、学んだ上で、実際にスポーツを体験する。 また、信州の自然を生かしたスポーツ活動を行うため、休業期間を利用し、合宿形式でのゼミを実施する。 ゼミの時間帯にはその活動に必要な知識、技術、ルール・マナーをグループ発表により学習する。 なお、本年度より、体育スポーツの授業の信大マラソンの管理運営にかかわり、スポーツマネジメントの基礎についても学び、実際にマラソンの大会運営に携わる。	
		スポーツ活動論ゼミⅡ	身体の健康を図ることは人生を通しての課題といえる。本ゼミは「人間の身体は素晴らしい」をテーマに運動をとおして人間の生活習慣やスポーツ活動について、学生諸君とともに考えていくことをねらいとしている。またゼミではスポーツの理論と実践を重視するため、問題発見、問題解決能力が身に付く。また、学生の自主性により内容を決定するので、ゼミの運営を行うことによるコミュニケーション能力の向上を目指す。さまざまなスポーツ活動を調べ、学んだ上で、実際にスポーツを体験する。 また、信州の自然を生かしたスポーツ活動（スノースポーツなど）を行うため、休業期間を利用し、合宿形式でのゼミを実施する。 ゼミの時間帯にはその活動に必要な知識、技術、ルール・マナーをグループ発表により学習する。	
		ドイツ環境ゼミ	中心になるのは、2～3月に行われる「短期ドイツ研修」である。これは、「語学学校において2週間のドイツ語コースに参加」した後、「1週間程度、環境関連施設等を訪問・視察」するものである。 そのために、11月から2月初旬にかけて、eALPSを併用しつつ、月に1・2回程度の事前学習のための授業を行う。その際に、自分のテーマを決め、理解を深めていく。 また帰国後には、自分のテーマに従って視察内容をまとめ、「公開報告会」を行い、レポートを提出するとともに、「ドイツ語技能検定試験3級」の合格を義務づける。	集中
		社会科学の方法ゼミ	1年次生が高校の社会科（「地理歴史」「公民」あるいは「総合学習」）を学ぶことから社会科学を学ぶことへの円滑な移行を図れるよう、社会学、経済学、経営学、政治学等のさまざまな学問領域の文献を読解することを通じて、広く社会科学の先人たちがどのような方法を用いて社会事象を読み解いてきたのか、を跡づける。	
	環境科学群	環境社会学入門	主な論点として、第一に環境問題の加害・被害構造、制度・組織の特性、第二に環境行動・運動の契機とその結果、集団行動の困難・障害、第三に環境の歴史・価値・思想、生業とのかかわり、などについて、世界中で起こっているさまざまな環境問題を例に考えていく。また、環境社会学は、人間が作り出した環境問題の解決を志向する「行動する社会学」でもある。 受講生には、この講義を通じて、自らの生活実践への示唆についても積極的に学びとってくれることを期待する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 環境科学群	熱帯雨林と社会	熱帯産のさまざまなモノを切り口として、熱帯雨林の自然と人間の暮らしについて理解を深める。主な事例を東マレーシア、サラワク州（ボルネオ島）のパラム河流域からとり上げる。授業計画の前半では、サゴヤシ、陸稲、沈香などの生態資源を例に、熱帯雨林に暮らす狩猟採集民の生活や生業の様式を概観し、彼らの食糧の確保、資源やエネルギーの利用にみられる諸特徴を理解する。後半は、木材、パーム油、バナナ、エビ、コーヒーなどの一次産品を例に、社会経済的なグローバル化をめぐる問題群について考える。 この講義を通じて、東南アジアの熱帯雨林と私たちとの関係や両者が抱える現代的課題を追究しながら、他人や地球をできるだけ傷つけない社会への手がかりや可能性を探っていく。	
	環境～その人文・社会科学的アプローチ	人文・社会科学的な環境マインドを構築するにあたり、スポーツ社会学、環境社会学、文化人類学、ドイツ文学、脳神経科学など、様々なパースペクティブから環境を検討・理解する。 ここで扱う環境は、自然環境のみでなく、人間が人間として活動する生活環境全般が対象となる。 (オムニバス方式／全15回) (52 金澤謙太郎／3回) 環境社会学の視点から (57 分藤大翼／3回) 文化人類学の視点から (47 松岡幸司／3回) ドイツ文学の視点から (60 有路憲一／3回) 生活環境における脳神経科学 (27 橋本純一／3回) スポーツ社会学の視点から	オムニバス方式
	ライフサイクルアセスメント入門	LCAは製品やサービスの資源採取から廃棄に至るまでのライフサイクル(一生涯)における環境負荷量や環境影響量を客観的に、且つ、定量的に評価する手法である。その評価手法を修得するため、生活の身近な製品を例題にしてLCA演習を行う。そして、LCA結果を用いた新たなCO2削減のためのカーボンフットプリント制度やタイプⅢ環境ラベルなどを理解し、さらに、今後のLCA展開および新たな環境指標について講述する。また、信州大学の全てのキャンパス・学部・学科で取り組んでいる環境マネジメントシステム(EMS: Environmental Management System)について解説し、LCAとEMSを両立させた新たな環境保全活動について考える。	
	環境と生活とのかかわり	環境調和型社会の形成は、製品やサービスの提供側と消費者の協同で行われなければならない。そのため地球環境問題の取り組みを概観しながら、生活に身近な環境法規、製品やサービスの環境影響評価手法、組織と利害関係者のインターフェースになる環境報告書・環境ラベルなど環境情報の見方、身近な製品やサービスにおける環境への取り組み事例、カーボンオフセットなどを中心に講述し、環境と日常生活とのかかわりについて考える。また、信州大学の全てのキャンパス・学部・学科で取り組んでいる環境マネジメントシステムと環境保全活動について解説する。	
	地球環境の歴史	環境マインドを備えた人材を育成するための教養科目である。同時に、グループ学習を通して、コミュニケーション力やチームワーク力を養う。 地球の過去の調べ方、年代測定法、地球の誕生、大気組成の変遷、生命の誕生と進化、大陸移動とプレートテクトニクス、気候変動といったテーマを、地球の歴史に沿って、トピックを取り上げながら授業を展開する。授業では、必要に応じてビデオ教材を用いる。 授業では、地球環境に関するテーマについて各学生が書物によって学習した結果に基づいてグループ間で意見を交換し、最終的にどのような意見をもつに至ったかを発表する。	
	ネイチャーライティングのすすめ(環境文学Ⅰ)	自然や環境について語る際、「こころの問題」として、つまり自分との関係で語ることはあまり多くない。本講義ではこの観点から自然や環境にアプローチしていく。 最初の3回で自然・環境・人間の関係について概観した後、個々の文学作品、特にネイチャーライティング作品を通して、上記三者の関係について考えていく。扱う作品は、H.D.ソロー、レイチェル・カーソン、シュティフター、サン＝テグジュペリ、ギッシン、ヘルマン・ヘッセなどの作品を予定しており、少なくとも該当部分に関して授業前に読んでおく必要がある。講義では、毎回「授業内容確認課題」を書くことにより簡単なまとめを行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	環境科学群	環境文学のすすめ（環境文学Ⅱ）	自然や環境について語る際、「このころの問題」として、つまり自分との関係で語ることはあまり多くない。本講義ではこの観点から自然や環境にアプローチしていく。 最初の3回で自然・環境・人間の関係について概観した後、個々の文学作品、特に環境文学作品を通して、上記三者の関係について考えていく。扱う作品は、宮沢賢治『注文の多い料理店』彭見明『山の郵便配達』をはじめ様々な作品を予定しており、少なくとも該当部分に関して授業前に読んでおく必要がある。講義では、毎回「授業内容確認課題」を書くことにより簡単なまとめを行う。
	自然環境と文化	はじめに人類学とは何かということ概説する。その上で、人類学的な知見にもとづいて、食文化、健康と病、病と癒し、死と儀礼、音楽・舞踊、装いとといった項目について自然環境と密接に関わりながら生きている人々の文化を紹介する。また同じ項目について、私たちの文化のありようについても紹介し、今後の私たちの生き方、自然環境との望ましい関わり方について考える。	
	生物と環境	私たち人類も含めてすべての生物は地球上の環境から影響を受け、また環境に対して影響を及ぼしながら生活している。そうしたさまざまな環境における生物個体群の分布や生活様式、生物群集における個体群間の相互作用、生物群集とそれを取り巻く環境から構成される生態系の構造と機能について基礎知識や基本概念を解説する。さらに私たちの身の回りから地球規模に至るまでの生物と環境にかかわる問題について、具体的な事例を取り上げてパワーポイントやビデオ教材を用いて講義を行う。	
	自然災害と環境	信州は火山が集中している地域でもある。火山活動が起きる場所にはある法則性がある。そのことをまず理解した上で、火山活動の起こる仕組み、火山活動の種類、火山活動への対処方法などを事例に即して講述する。 また、人間の生活の場となっている平地は河川や海洋によって直接的な影響を受ける場所である。地球が温暖化する中で、川や海で起こる現象やしみをよく理解し、将来予測や対策に役立てる必要がある。 松本は大地震発生の確率がとくに高いとされている。信州では、最近、多くの活断層が身近に存在していることが明らかになってきている。地震はこれらの活断層の運動の結果生じるものである。信州の特殊な地質条件と予想される災害との関係を知ってほしい。 さらに、このような環境の中で、人間は自然を利用して社会や文化を維持している。自然利用の方法やその失敗の事例を学ぶ。	
	生活の中の科学	高校までに習っていた化学などの自然科学は理系の研究を行う上で必要不可欠な知識という点において極めて重要である。しかし日常生活を続けていく上で、あまりその科学的知識との関連について詳しく教えられてこなかった事が多いのが現実である。本授業では科学をより身近なものとして実感し、各自の今後の人生に活かせるよう、日常生活で利用、体験している事柄で科学と深く関連している事柄をピックアップしてそれを解説する。 さらに地球温暖化などの社会問題にも言及するので、信大の環境マインドを理解した社会人として考え、行動するステップとしてほしい。	
	環境法入門	環境問題へのアプローチの方法は数多くあるが、問題を実際に発見し、解決していくためには法学の知見が不可欠である。この講義では、①環境問題を法的に考える際に不可欠な必要最小限度の法学の知識を学んだ上で、②環境問題に法的にアプローチする場合の基本的な考え方、手法、組織、紛争解決手法を概観し、③自然保護、廃棄物・リサイクル、大気汚染・温暖化といった個別のトピックスについて、法的にいかなる点が問題となり、どのような法的手法が用意されているのか考えていく。	
	人文科学群	日本学入門	ヨーロッパと日本の出会いは、マルコ・ポーロによるジパングの紹介に始まり、宣教師の渡来によって前進した。しかし、本格的には19世紀以降、日本の開国で交流が加速する。なかでも芸術の中心地フランスには日本の物や人が集まり、日本文化の流行が起こった。その歴史を学び、ヨーロッパで受け入れられた日本の価値観や美意識とはいかなるものだったのか、美術・文学・音楽等の事例をたどりながら考察する。

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 人文科学群	日本近代文学入門	日本の近代作家にとって外国経験（留学・遊学・旅行等）は大きな問題の一つで、それを綴った作品も数多く存在する。そのなかから代表的な例を取り上げ、作家たちが外国に行くまでの経緯や時代背景、文化交流、旅の様子を知ると共に、どのような問題にぶつかり、悩み、それをいかに解決したり克服したりしたのかを、作品（小説、エッセー、短歌等）を通して学んでいく。	
	映像・人類学	人類学は異文化との出会いから始まる。言い換えると、人類学者は異文化に生きる人々との出会いから、その学問的な営みを始める。本授業では、異文化に生きる人々との出会いを表現するために、主にドキュメンタリー映画を視聴する。スクリーンを介して様々な人々と遭遇することを通じて、人の生き方や考え方について学ぶ。	
	Top Level English (トップレベルイングリッシュ)	(英文) The content of the class will be decided according to the needs of the students enrolled. Possible activities include the following: presentations; structured discussions and debates; and practice for the interview in international tests of English such as IELTS or Cambridge ESOL. (和訳) 授業内容については、受講生の要望に応じて柔軟に対応する。プレゼンテーション、ディスカッションやディベート、IELTSやケンブリッジ英語検定などの面接試験に向けた練習を行う予定である。	
	「田園環境健康都市須坂」を「共創」（須坂市寄附講義）	全国的に、人口減少、超少子高齢化、厳しい経済状況、雇用状況など課題が山積しており、課題解決に対する基礎自治体である市町村と住民の役割は増大している。 本講義では、課題解決のために、市民と行政が第五次須坂市総合計画（平成23年4月策定）に沿ったまちづくりを「共創（同じ目的に向かって、確かな信頼関係の上で、分野の異なる人々が、お互いの特性をいかし、連携し、創造していくこと）」により行っている須坂市の事例を、携わっている本人自身が説明することによって、地域づくりの現状を理解し、広く参考にしていく。	
	韓国の文化（食文化）	韓国食文化に関するビデオ教材を用いて、様々な韓国の食文化とその背景や街の様子を紹介していく。合わせて日本の食文化も一緒に考えてみる。毎回の授業の流れは次の通りである。①前回の授業内容に対する学生の感想や意見を紹介した後、質問に答える ②その日に取り上げる食文化を理解する ③感想や意見、質問を出席シートに書く。	
	韓国の文化（映画で学ぶ）	映画の背景にある韓国の文化、歴史、習慣を説明した後、映画を観る。映画を観た後、意見交換をする。映画は一回の授業では最後まで観られないので一本の映画を授業二回にわたって鑑賞する。授業の流れは次の通りである。①前回の授業内容に対する学生の感想や意見を紹介した後、質問に答える ②その日に取り上げる韓国文化を理解する ③感想や意見、質問を出席シートに書く。	
	韓国の文化（若者の世界）	韓国の若者の文化（音楽・映画・恋愛事情など）を、ビデオ教材や資料を用いて紹介していく。韓国の若者の話も聞く。毎回の授業の流れは次の通りである。①前回の授業内容に対する学生の感想や意見を紹介した後、質問に答える ②その日に取り上げる若者文化を理解する ③感想や意見、質問を出席シートに書く。	
	韓国の文化（メディア）	韓国の様々なメディアを用いて韓国文化や現在の社会の様子を紹介し、それについての意見を交換する。次の授業に備えて事前に予習が必要な事項に関しては、eALPSにアップするので、常に確認が必要である。毎回の授業の流れは次の通りである。①前回の授業内容に対する学生の感想や意見を紹介した後、質問に答える ②その日に取り上げる韓国文化を理解する ③感想や意見、質問を出席シートに書く。	
フランスの文化 I	この講義では、ヨーロッパの文化を率いてきた国のひとつであるフランスについて様々な角度から学んでいく。 具体的にはテキストに沿って、視聴覚資料もまじえながら、フランスの言語、風土、歳時記、歴史、文化などに関する理解を深める。また、関連する芸術作品（美術、音楽、舞踊など）や文学作品の紹介も行う。こうした知識を踏まえて、各自関心のある分野を調査し、レポートにまとめる。		

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	教養科目 人文科学群	フランスの文化Ⅱ	この講義では、ヨーロッパの文化を率いてきた国のひとつであるフランスについて様々な角度から学んでいく。 具体的には、フランスの食文化、カフェと公園、マルシェ（市場）、ファッション、教育制度、家族事情、宗教事情などの文化、社会に関する理解を深めるとともに、政治や産業技術についてもとりあげる。こうした知識を踏まえて、各自関心のある分野を調査し、レポートにまとめる。	
		ドイツ語圏の文化Ⅰ	本講義では、ドイツ語圏文化を通して、国際理解・異文化理解の促進を目標とし、言語と文化の関連を常に意識しつつ、単なる情報ではない、息づくドイツの文化を学んでいく。 具体的には、ドイツ概観、ドイツ人と森、オーストリア、ドイツの環境についてとりあげる。教員からの情報提供の他にグループワークやプレゼンテーションなども取り入れる。	
		ドイツ語圏の文化Ⅱ	本講義では、ドイツ語圏文化を通して、国際理解・異文化理解の促進を目標とし、言語と文化の関連を常に意識しつつ、単なる情報ではない、息づくドイツの文化を学んでいく。 具体的には、ドイツ語圏の歴史、ドイツ語圏の文学、ドイツの音楽（グレゴリオ聖歌から交響曲まで）、ドイツの教育、シュタイナー教育についてとりあげる。教員からの情報提供の他にグループワークやプレゼンテーションなども取り入れる。	
		アフリカ文化論	アフリカは、約3030万平方キロメートル（日本の約80倍）の大陸であり、約10億の人々が55の国や地域に暮らしている。本講義では、この広大で豊かな地域の文化的な魅力と現代的な問題を紹介し、アフリカ文化の可能性と課題について考える。また、アフリカの文化を紹介することを通じて、世界の文化的な多様性と、その多様性を失いつつある世界の両方を考察する手がかりを提供する。	
社会科学群	スポーツ考現学	本講では、スポーツにまつわる様々な現象を、特に、観戦学、スペクタクル、権力、ナショナリズム、グローバリズム、メディア、ジェンダー、人種、階級、テクノロジー、コモディティズムといった視点から、写真、ビデオ映像などのヴィジュアル化された資料を適宜混じえて検討・理解する。		
	スポーツ文化を考える	スポーツ文化、身体文化に関してのさまざまな文献を読むことを前提として講義は展開される。国内外のスポーツ文化や身体文化に関する諸事情や考え方をビデオ映像なども混じえて検討する。 オリジナルテキストまたはプリントを用意するので受講生は毎回それを深く、クリティカルに読み込み、読後コメントを提出する。その上で講義や映像により知見を広め、小グループに分かれてテーマに関するディスカッションを行う《グループワーク》。ディスカッションは、毎回コーディネーター、書記、発表（報告）者の役割を決めてから行う。最後に全体討論を行う。		
	新聞と私たちの社会（信濃毎日新聞社寄附講義）	毎回、信濃毎日新聞社の方をゲストスピーカーとして招き、新聞の作られ方や読み方、社会的な役割について講演していただく。また、講演後に質疑応答を行い、受講生に新聞社の方々と直接対話する機会を設ける。さらに感想と質問を書いて提出してもらうことによって対話を深める。 本授業を通じて養う能力を試す上で、「新聞スクラップ」を2回提出してもらう。この課題は、受講生に新聞と用紙を配布し、一つの記事を選んで用紙に貼り付け、選択した理由や感想を書くというものである。また最後には、日本新聞協会の「HAPPY NEWS」に応募してもらう。		
	数を読む技術	情報化社会における数値情報の適切な扱い方はますます必要となっている。この授業では数値情報の利用に関する社会的状況を踏まえて、その適切な扱い方への理解を深めていく。 具体的には、図表資料の解釈、代表値（平均値でなく中央値を使うことの勧め）、散布度（分散、四分位範囲、幹葉図、箱ヒゲ図）、データの図示（ヒストグラム）、データの図示（二次元の分布；散布図）、比率の推定（世論調査など各首長さ）と解釈、行列待ち現象の分析、ランダムな現象とそうでない現象の違い、コンピュータによるデータ処理、その他身近な数値現象にまつわる話題についてとりあげる。		

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	教養科目 社会科学群	電子出版の現代	紙媒体以外のインターネットやCD-ROMを通じた出版を総じて電子出版と呼ぶ。この授業では電子出版が生まれた社会背景を踏まえうえで現代の状況に対する総合的な理解を深めていく。 具体的には、書くことの歴史と現在、グーテンベルクの印刷革命と現在、インターネット百科事典Wikipediaについて、書物の歴史と現在、インターネットの歴史と現在、読書端末の歴史と現在、知的財産権(主に著作権)と電子書籍、DTPの誕生と現在の電子出版、電子出版で扱う素材(文書、画像など)、文字の歴史と現在(コンピュータ上の扱いを含む)、日本語入力の話、これからの出版とウェブページの編集(とくにEPUB)、その他身近な電子出版にまつわる話題についてとりあげる。	
		世界経済の歩み	この講義では、世界経済の現状を、その歴史的発展を振り返りながら概観する。講義の主要な内容としては、16世紀から19世紀におけるイギリス資本主義の勃興とバックス・ブリタニカの成立、19世紀後半から20世紀初頭にかけてのドイツ等の後発諸国の台頭を見た後、強力な耐久消費財産型重化学工業を有するアメリカを中心とした世界編成・世界システムであるバックス・アメリカナの成立、展開、崩壊という視点より第2次世界大戦後の世界経済の歩みを押さえたうえで、世界経済の現状を論じていく。	
		ミクロ経済学入門	この講義では、消費者、企業などの経済行動を分析対象とするミクロ経済学の基礎知識を身に付け、経済現象を経済理論に基づいて分析する基礎を養うことを目的とする。授業は5人の教員が分担してオムニバス方式で行う。具体的内容は、まず、経済学的な考え方に関する基礎知識として、機会費用や比較優位、トレード・オフなどの概念を解説する。その上で、経済学の考え方の基本である、需要と供給の理論について説明する。これを基に、価格変化や所得変化への消費者の反応など、市場取引の特徴について理解を深める。最後に、需要と供給の理論に基づいて、市場の効率性についての経済学的考え方を解説した上で、参入規制や輸入規制など現実に行われた政府の政策の効果を検討する。 (オムニバス方式/全15回) (5 西村直子/3回) ミクロ経済学の基礎概念として、市場メカニズムを通じた資源配分の問題や、機会費用や比較優位、トレード・オフ、インセンティブといった経済学特有の概念を解説する。 (16 海老名剛/3回) 需要と供給の基礎理論として、需要曲線と供給曲線の基本概念を説明し、価格以外の要因変化が、需要曲線・供給曲線をシフトさせることなどを解説する。 (7 廣瀬純夫/3回) 価格変化や所得変化への消費者の反応を弾力性の概念で整理するなど、市場取引の特徴を解説する。 (13 増原宏明/3回) 消費者余剰と生産余剰の概念を説明し、余剰分析を通じて、市場メカニズムが効率的な資源配分を実現することを解説する。 (15 大野太郎/3回) 余剰分析の手法を応用して、参入規制や輸入規制などの経済政策が、市場の効率性に及ぼす影響について解説する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	社会科学群	<p>この授業は、マクロ経済学の分野と、この分野に関係が深い経済データの見方に焦点を当てた経済学入門科目である。授業は5人の教員が分担してオムニバス方式で行う。授業の前半は、マクロ経済学の観点から経済現象をみる見方について解説する。授業の後半では、経済データがどのような形で収集・活用されているか、またどのような特徴をもっているかについて解説する。各担当教員の担当内容は次の通りである。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (4 徳井丞次/3回) 景気循環の指標、GDPを通して見えてくる世界、消費関数を巡る論争を取り上げて解説しながら、マクロ経済学の眼鏡を通して社会をみることの面白さを紹介する。</p> <p>(① 山沖義和/3回) 日本の財政制度・税制・国債制度を巡る議論を取り上げて解説しながら、これらの問題がマクロ経済とも密接に関係していることを説明する。</p> <p>(④ 青木周平/3回) 近年、「経済成長」や「所得格差」を巡り論争が活発になっている。経済データとマクロ経済学を使ってこれらの論争を整理し、「経済成長」や「所得格差」に関する理解を深める。</p> <p>(6 椎名洋/3回) 統計データは官公庁を中心に様々な種類のもので作成されている。どんな種類の統計データがあるか、どのような方法でそれらが収集されているか、データの処理に関して注意すべき点を学ぶことで、経済学における実証分析のための予備知識を獲得する。</p> <p>(17 加藤恭/3回) 金融・ファイナンスにおけるデータは様々な特徴を持っている。例えば金融機関の損失データはファットテール性を持つ事が知られており、統計的手法の適用の際には注意が必要である。また近年の株式取引等に関する高頻度データの活用の際にも多くの課題が残されている。これらのデータの特徴や利用方法について学ぶ。</p>	オムニバス方式
	社会科学群	<p>大学生が会える経済・経営問題</p> <p>大学生が日常生活を営む上で実際に遭遇する幾つかの問題をとりあげ、それを経済学や経営学の視点で見るとどうなるかを、わかりやすく解説する。経済学・経営学がどのような学問であるかを、具体的な問題を通して知ることで、学部専門的な教育への導入を図る。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (8 井上信宏/3回) 生活を支える制度の話として、社会保障の体系と課題について以下の三点を中心に解説する。①社会保障というしくみが生み出された背景、②社会保険、社会扶助、社会福祉の3つの制度、③「社会保障と税の一体改革」に見られる社会保障の課題。</p> <p>(2 金早雪/3回) 経済発展をとりあげ、先進国と後進国のせめぎあいを、以下の三点を中心に解説する。①経済発展の要因とそこから生まれるひずみや不均衡、②先進国型の産業にキャッチアップするための方策、③世界の貿易構造。</p> <p>(12 武者忠彦/3回) 都市空間の「近代化」と「空洞化」について、以下の三点を中心に解説する。①近代化による都市空間の画一化、②売らない、貸さない、直さないことによる空洞化、③場所についての社会的な記憶の蓄積の欠如。</p> <p>(② 関利恵子/3回) 会社がどんな経営状態にあるかを知るための方法を、以下の三点を中心に解説する。①就職活動で企業の経営状態を調べたいときにどうするか、②企業の経営成績や財政状態はどうすればわかるか、③安全な起業かどうか、儲かっているかどうかをどうやって調べるか。</p> <p>(③ 岩田一哲/3回) 人間が働く時にやる気が上がったり下がったりする状況を考えるために、以下の三点を中心に解説する。①人はどのような欲求を持っているのか、②企業は人をどのように管理すべきか、③上司は部下をどのように管理すべきか。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	教養科目 社会科学群	公法入門	この講義では、自律的で責任感のある市民の育成という見地から、主として憲法学の基本的な諸概念を理解すること、また、法的なものの方を見方を学ぶことをねらいとする。このねらいを達成するために、日本国憲法を支えている立憲主義という考え方について、また、基本的人権について説明する。この講義を通じて、日本国憲法に関する基本的な知識を習得すること、法的な思考方法を身につけること、自らの考えを正確に表現する力を養うことを目的とする。	
		法学入門	この講義では、法学の勉強を始めるにあたってまず知っておいた方がよいと思われる事項について学習する。具体的には、法学にはどのような分野があるのか（公法・民事法・刑事法等）、法律とはなにか、法律の役割とはなにか、どうして法律ができるのか、判例とは何かなどについて、解説する。この講義を通じて、法的なものの方や考え方とはなにかを学び、今後、それぞれの法分野に関する科目を学習するための下地を築くことを目的とする。	
		大学生が出会う法律問題	大学生が生活をする上では、交通事故を起こしたり、自転車を盗まれたり、アルバイトで休憩なしに7時間以上働かされる等々、さまざまなトラブルに遭うことがある。これらのトラブルは、すべて法律問題であり、法学の知識を有することによって解決、あるいは防止できるものが多い。そこで、この講義では、それぞれの法分野を専門とする教員がオムニバス方式で、学生生活に関連する法律問題について解説する。学生生活を送る上で必要な法学に関する知識を学び、トラブルに対処する力を身につけることを目的とする。 (オムニバス方式/全15回) (65 丸橋昌太郎/2回) ガイダンス・総括 (58 赤川理/1回) 憲法分野 (66 大江裕幸/2回) 行政法分野 (34 池田秀敏/1回) 民法分野—契約一般、賃貸借、交通事故等 (64 栗田晶/1回) 民法分野—契約一般、賃貸借、交通事故等 (68 山代忠邦/1回) 民法分野—契約一般、賃貸借、交通事故等 (76 寺前慎太郎/2回) 商法分野 (75 濱田新/2回) 刑法分野 (41 小林寛/1回) 環境法分野 (70 島村暁代/2回) 労働法分野、社会保障法分野	オムニバス方式
		現代政治分析	日本の政治課題をどのように解決していくか、現代の政治課題に関する情報を収集分析し理解を深め、解決を考える技法を学ぶ。グローバル化が進展する中で、少子高齢化への対応、地方再生、環境やエネルギー問題、社会福祉や経済改革、外交や安全保障問題など政治課題は多岐にわたる。具体的な政策課題を取り上げ、現実的な課題解決方法を考察していく。毎回、課題を課し、授業の中で議論し理解を深めていく。自ら主体的に学び考え、それを口頭または文章で伝える能力を向上させる。	
自然科学群	数と形	古くから積み上げられてきた人類の英知を学び、また日常生活における数学の応用例を見ることで数学に対する見方が変わり、楽しさを知ることができる。授業名「数と形」のように前半では日常使用している「数」特に整数の性質について学び、その不思議さ深遠さを理解する。後半ではグラフ理論のように数と形の両方の概念をもつ具体的な問題等、いくつかの話題を取り上げて数名でのグループ作業を取り入れながら性質や応用について考える。		
	伝えておきたい数学	数学の基礎科目（微積分学や線形代数学）では伝えられないが、教養として是非おさえておきたい数学について、様々な観点から紹介する。数学の身近さ、創造の世界を感じ取ることで、数学の世界への理解を深めることをねらいとする。講義形式、討論形式、発表形式などを取り入れながら行っていく。講義形式では教養としての数学の知識を、討論形式ではグループに分かれて自分の考えを異分野の人にもわかりやすく話す能力を、発表形式ではプレゼンテーション能力を身につけられるようにする。		
	素数の不思議	この講義では素数という根源的な不思議な存在について、図書の識別記号である(JB) ISBN記号、RSA公開鍵暗号を主な題材として、いくつかの話題を提供する。素数はなぜ重要か、科学的な面からも、生活上の面からも考えてみたい。参加型の講義である。実際に手を動かして計算を行い、共に考え、話し合いを行う。講義の途上で2人組を作り、互いに課題（例えば数当てなど）を解決し合う取り組みも行う。これらの活動に積極的に取り組むことによって理解を深め、興味を喚起できる。		

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 自然科学群	教養としての物理学	物理学がどのようなものかを知り、自然を論理的に把握する立場を学ぶ。扱うテーマは、物理学の中の区分けで言うと「力学」「電磁気学」「相対論」である。それぞれにつき取り上げる話題は限られるが、単なる知識の寄せ集めにならないよう、話の流れを大切にしていきたい。物体の運動、電磁気現象、時間と空間、の各テーマについて、それぞれ数回ずつの授業をあてて解説して行く。レポートの作成は、物理学に対して、多面的、重層的な視点をもってもらうことを企図した、この授業の重要な構成要素、活動である。	
	観測天文学入門	最初に天体観測の概要に触れたあと、基本的に講義の大部分は教養としての天文学を学ぶことに割かれる（観測手法が主題ではないので注意して欲しい）。過去数年間に話題になった研究成果のうち、毎回ひとつのトピックを選び、それらがどのような着想および観測事実に基づいたものであるのかについて考えを深める。期間中に興味深い発見があった場合は適宜講義で扱う可能性がある。宇宙に興味のある、あらゆる学生の履修を歓迎する。	
	生活のなかの天文学	宇宙の始まりであるビッグバンから地球上の生命の起源にいたるまで、宇宙の進化の歴史を幅広く学ぶ。その知識をもとに、現代社会の諸問題と天文学のつながりを、毎回テーマを絞って考えを深める。講義では、基礎科学（物理、化学、生物、地学）から、それらと現代社会（社会活動、人間活動）との関係まで幅広く扱う。星々の世界は、さらに身近な存在になりつつある。分野横断研究（学際的研究）に興味を持つ、あらゆる学生の履修を歓迎する。	
	生態学入門	生物は環境からさまざまな影響を受けて生活しているが、生物の構造や機能、さらに生活様式にはその生息環境への適応が広く認められる。そうした生物の生活をその環境との関係で解き明かす科学が生態学である。この講義では生態学の基礎知識や基本概念を学ぶことを目的として、生物の多様性と進化、生物の集団（個体群）の性質、生物群集での個体群間のさまざまな相互関係、生態系の構造と機能について、パワーポイントやプリントなどを用いて講義を行う。	
	地域から学ぶ地球	山岳県である信州は多様な地質現象が観察される場所であり、そこに見られる地質現象を紹介し、それらが地球のどのような動きの結果かたち作られたのか、現場の現象からどのような地球の姿が明らかにされてきたのかについて学ぶ。この授業を通して、自然の見方、地球に関する研究の方法、さらに信州の自然の魅力を知ることができる。地球を調べる方法、日本最古の化石と地層、熱帯・火山島・深海の証拠、プレート運動、フォッサマグナ、火山、活断層と地震、災害などについて、実体験に基づく信州の地質の状況と、野外の現象から地球のどのような構造や動きが読み取れるかを解説する。	
	教養としての物質科学	物質をミクロな立場から考える視点を学び、我々が日常何気なく目にし、利用している物質・材料の背後にある科学、技術の一端を知る。鉄鋼材料や半導体など、我々の文明を支えている様々な物質・材料に焦点をあてる。また、そうした話題を通じて、「結晶学」「金属物理」「熱・統計力学」「量子論」等の学問分野の雰囲気も副次的に伝えたい。物質の構造、状態の変化、電子の振る舞いの各テーマについて、それぞれ数回の授業をあてて解説して行く。	
	ネットワーク社会における情報科学	高度情報化社会、ネットワーク社会と呼ばれる今日、情報処理やコンピュータに関する知識は社会生活を送る上で必要不可欠なものになっている。コンピュータの普及が私たちの生活に何をもたらしたのか、また将来的にはどのようなことが可能になるのだろうか。ここではコンピュータの動作原理を平易に解説する他、コンピュータ・ネットワークの基礎技術、情報社会の現状と問題点について講義する。コンピュータの歴史と進歩、コンピュータの動作原理、情報社会を支える様々な技術的背景、コンピュータネットワークの普及がもたらす意味について理解し、説明することができるようになることを目指す。	
	統計学の基礎	人間の行動を対象とした研究に携わる上で必要になる統計的なデータ解析手法を理解し、効果的な研究計画をたてるための知識を習得する。この授業を受講することで、数値データの整理法、統計学的検定の考え方や活用法などの知識を獲得することができる。各回の授業は、各種統計手法について解説した後、パソコンを用いてデータ解析の実際を学ぶ。データ解析には表計算ソフトを用いるが、基本的な使い方は説明しないので、各自復習しておいて欲しい。	

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	自然科学群	検索の科学	検索サイトGoogleを実際に多角的に活用した事例の紹介を通じてインターネット上の検索技術の概要を把握する。その後、検索の各技術の背景にある科学的側面の理解を進めていく。単なる検索操作では終わらない、その背後にある統計学や情報科学の学習まで進める。検索技術は現在進行中のものであり、また世の中で常用される技術を対象としていることを踏まえて、環境、教育、地域、ジェンダーの問題など、なるべくタイムリーな話題を扱いながら授業の展開を進める。	
		脳の不思議を探る（認知神経科学入門）	脳の謎を材料とし、自分で考え・探ることで、「考える力」そして「問題を解決する力」を磨き、納得解を得ること、「知識」ではなく「知恵」を獲得することを狙いとする。 「脳」についての基本知識のみは講義しておき、「脳の不思議」にまつわる理・情・欲、軽率な脳、騙される脳その他様々なトピックを基に、各自の独創的で大胆な発想に基づいた積極的な議論を重ねることによって受講者全員で理解を深める「受講者参加型」の形式を取る。受講者は受身ではなく、自ら疑問を持ち主体的に考えることが必要である。	
		脳の不思議をもっと探る（認知神経科学入門）	脳の謎を材料とし、受講者の関心を交えつつ、前期に扱わなかった中からトピックを抽出して進めていく。自分で考え・探ることで、「考える力」そして「問題を解決する力」を磨き、納得解を得ること、「知識」ではなく「知恵」を獲得することを狙いとする。 前期同様、「脳」についての基本知識のみは講義しておき、「脳の不思議」にまつわる理・情・欲、軽率な脳、騙される脳その他様々なトピックを基に、各自の独創的で大胆な発想に基づいた積極的な議論を重ねることによって受講者全員で理解を深める「受講者参加型」の形式を取る。受講者は受身ではなく、自ら疑問を持ち主体的に考えることが必要である。	
	宇宙から原子への旅	私たちを取り巻く世界を大きさに注目して、宇宙から原子にいたる様々な現象を全学教育機構の自然科学系の複数の教員が分担して解き明かす。文系の学生にも配慮した内容である。 (オムニバス方式/全15回) (25 佐々木洋城/3回) 導入 世界のスケール、通信と数学 (62 三澤透/2回) 銀河系と第2の地球探し、天地明察－天文編－ (54 片長敦子/1回) 天地明察－和算編－ (26 大塚勉/1回) 地球環境の変遷 (28 湯田彰夫/1回) アルゴリズムとヒューリスティックス (33 高野嘉寿彦/1回) 円周率の歴史をみてみよう (30 鈴木治郎/1回) スケールフリーの世界 自己相似の幾何学 (46 今津道夫/1回) 微生物の世界 (49 伊藤靖夫/1回) 身の回りの問いと生命の存在理由 (20 村上好成/1回) 高分子の鎖 (35 勝木明夫/1回) 光の化学、磁気の科学 (51 安達弘通/1回) 原子から宇宙へ	オムニバス方式	
体育・スポーツ群	ソフトボール	本実践演習はグループ毎のディスカッションを通して問題や課題を発見し、その解決法を探りながら学習していく。まず2人組でキャッチ・ボールしながら「ウインドミル投法」の体験、4人組での「トスとフリー・バッティング」の技術獲得。更にチーム毎に打撃、守備、走塁等の基本技術を磨き戦術を考え、効果的な運動処方を書き出しながら「ゲーム」を中心とした授業を展開していく。		
	テニス	本実践演習は、技術的に経験知が少ない者でも早い段階からゲーム感覚に親しみ、「硬式テニス」に必要な基本的技術を分解練習しながら学び取っていく。また、リーダー中心に個人の欠点など「課題」を見つけ、仲間と共に協力しながら探求していく。加えて、「ゲームでの戦術」も考え、基礎練習と応用練習とを織り交ぜながら実際場面に対応できる感覚と積極的な行動力を養っていく。		

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 体育・スポーツ群	アダプテッドスポーツ	この授業は、アダプテッドスポーツの体験を通して、障害のある人との関わり方や、新しいスポーツについて考えていくものである。車いすやアイマスクを使用している校内移動や、アダプテッドスポーツの体験を通して、スポーツの楽しさの広がりや、特別なニーズのある人との関わり方を学ぶ。さらに、設定に応じたアダプテッドスポーツをグループで考え、発表し共有していく。そのため、毎回体を動かしながら学習していくとともに、誰でも楽しめる新しいスポーツを考える柔軟な思考と積極性を必要とする。	
	弓道	本授業では日本古来の武道として、また現代社会における生涯スポーツとしての弓道の基礎を体験することによって、文化としての弓道および身体と精神の相互作用を学ぶ。全日本弓道連盟制定の射法を基準に、射術及び競技方法やルール、弓具の扱い方を習得する。徐々に的との距離を伸ばしながら練習していき、正しい姿勢や心構え、射術等を習得していく。最後にまとめとして、射会を行い、射会の運営も含めて弓道の楽しさを味わえるようにする。多くの学生にとって初めての競技であるため、技術向上のために授業中の積極的な取り組みと、自主練習を必要とする。	
	コーディネーションエクササイズ	本授業では、四肢の協調や思考と行動の連動に注意を向けた運動ができるようになることを目的として、身体の動かし方に対する「気づき」と総合的な体力向上の獲得を目指す。種々の用具を用い、簡単に実践できるエクササイズから少し専門的なエクササイズを行う。例えば、バランスマットを使用したバランスエクササイズや、ジャンプ系と敏捷系を組み合わせた複合エクササイズを行う。また、子どもの頃から慣れ親しんできた遊びの中からピックアップしたものをアレンジし、授業のねらいを達成するための「オリジナルエクササイズ」を考案する。オリジナルエクササイズの考案と実践はグループ単位で行う。	
	剣道形の世界	本授業では、日本の伝統的運動文化である武道の学習法の一つ、形の実践を行う。形稽古を通して武道の礼法・作法を学ぶ中で、日本の伝統的運動文化の価値について理解を深めることを目的とする。「木刀による剣道基本技稽古法」と「日本剣道形」を習得する。グループで学習を進め、「木刀による剣道基本技稽古法」の成果を演武会で披露し、「日本剣道形」の成果を演武大会でグループ毎に競い合う。日本剣道形は、習熟度に応じて小太刀の形の学習も行う予定である。また、素振りや足さばき等の剣道の基本動作も行い、動きの質の向上を目指す。	
	バドミントン	本授業ではバドミントン競技の特性を理解し、ゲームとグループ活動の実践を通して技能・戦術等の個人的資質やコミュニケーション能力を向上させ、自己実現を図るとともに、生涯スポーツのリーダーとして、具体的実践方法を習得することを目指す。具体的には、バドミントン競技の技能・戦術とその応用力並びにルール・スコアリングについて習得し、グループ毎に練習計画を立案し、チーム力の向上を図る。授業ではグループ学習を多く取り入れ、8人のグループ毎に課題を設定してグループ対抗戦を行う。	
	コンディショニングバレエ	バレエダンサーの均整のとれた身体、美しい姿勢はどのようなトレーニングによりつくられているかを学ぶことにより、自身の身体への認識を高め、日常姿勢の癖を矯正するためのトレーニング方法を見出すことを目的とする。実際に身体を使って表現し踊り、バレエ動作と自己表現のつながりについて（踊ると動くの違い）を学び、ダンサーの動きを体感し、自身の身体との違いを発見する。バレエストレッチ、トレーニングを実践し、自身の身体（筋肉、関節）の左右のバランスを確認し問題を解決するためのトレーニング方法を学ぶ。グループに分かれて各々のトレーニング方法についてディスカッションを行う。最終課題として、グループごとに音楽に合わせた作品を創り（ストレッチ・トレーニング方法やダンス）発表する。	
	サッカー	本講座は、ミニゲームを展開し、サッカーの基本技術や基本戦術の習得に取り組む。基本的には身方や敵の動きに応じて適切な状況判断ができるようにし、周囲とのコミュニケーションを図り、互いに協力してカバーしあい、全員で行うゲームの楽しさを理解することを旨とする。グループ毎にミニゲームの問題点を挙げ、その解決方法を考える。チームを作り、ポジションの役割を理解し、学生が主体的にフォーメーションを決めて、11対11のゲームを行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 体育・スポーツ群	バレーボール	本講座は、バレーボールの基礎技術の習得に簡単に楽しく取り組み、ミニゲームを展開して学生が主体的にゲーム運営にかかわることで、他者とのコミュニケーションを図り、互いがカバーしあうこと、全員で楽しむことができるゲーム環境を作ることを学ぶ。スポーツを楽しむ喜びを感じ、生涯スポーツへの導入を目指す。ボールコントロールからスタートし基礎技術のコツをつかみながら応用技術を加えチームを作り、学生が主体となりコンビネーションやフォーメーションを決める。男子は6人制中心に女子はソフトバレーボールを中心にゲームを楽しむ。	
	トレッキング	本授業では「信州の自然体感」をテーマに、トレッキングを通して自己の身体を再確認し、歩行運動の重要性の認識と生涯学習への導入を図るとともに、信州の自然環境を体感することにより環境問題についての理解を深めることをねらいとする。グループ活動を導入し、コミュニケーション能力の向上も目指す。夏期休暇中に4日間の集中形式で実施する。松本市周辺の自然に恵まれた地域（安曇野、白馬八方尾根、上高地、乗鞍高原）を訪れ、約8kmから15kmのトレッキングを行い、信州の豊かな自然を体感する。幾つかのグループを編成し、歩行のペース、休憩の取り方等について各グループで検討し実践するとともに、環境問題についても考える。また、宿泊を伴うので生活マナーについても学習する。	集中
	ゴルフ	ゴルフのスイング、道具の選び方を学ぶ。またコースに出ることによって、実際のプレーを体験し、将来社会人の持つべき教養の一つとしてのゴルフを身につける。また、グループでゴルフの練習方法などのディスカッションを通して深くゴルフを理解するとともに、ゴルフ場でのマナーを学び、生涯にわたってゴルフを楽しむ素養を養う。大学でスイングの基礎を習得した後、ゴルフ練習場（松本中央ゴルフ場）で、練習を行い、その後、松本カントリークラブで、ハーフラウンドと1ラウンドの実習を行う。	集中
	スポーツフィッシング	本授業は、信州の自然を生かした溪流釣り（えさ釣り、フライフィッシング）を体験し、自然との関わりの中でどのように自己をコントロールするか学ぶとともに、生涯にわたってレジャー活動を楽しむための導入を図る。また、併せて、信州の自然に接することによって環境に対する意識を高めることも目的とする。3泊4日の集中授業で行い、溪流つりの実践方法を学ぶとともに、グループごとに自然との協調性をどのようにしたら育むことができるかについてディスカッションと発表を行い、環境への意識を高める。（場所：伊那市周辺の河川）	集中
	マリンスポーツ	本授業は、信州の自然を生かしたマリンスポーツのうち、ヨット、カヌー、ボードセーリングといった種目を体験し、それぞれの種目の特性やルール、マナーおよびその考え方について学び、生涯スポーツへの導入を図ることを目的とする。8月に3泊4日の集中授業で、ヨット、カヌー、ボードセーリングの基礎を学び、協力してマリンスポーツを行うにはどうすれば良いか、グループワークによるディスカッションを行う。また、役割分担によって各グループでの自己の責務を自覚させ、積極的に実習に取り組むよう仕向ける。（場所：高遠湖）	集中
	信大マラソン	生涯スポーツとして人気のある「マラソン」について、心身への負荷、トレーニング法などについて栄養学、生理学、トレーニング科学などの面から学習し、その実践としてスカイパークでのマラソン完走を目標にする。講義と実践を通し、生涯スポーツとしてのマラソンの価値と可能性について考察する。授業は1ヶ月に一日ごと4日間の集中授業として行う、当然、授業時間だけでは完走できる体力はつかないの、授業時間以外の自主トレーニングが前提となる。また、走力に応じてグループ分けを行うので、自分のできる範囲での完走を目指す。	集中
	アウトドアの達人	本授業は、信州の自然（特に乗鞍高原）における野外活動の体験をとおして「アウトドアの達人」になるために必要な野外活動の基礎的知識、技術、ルール・マナーとその考え方について学び、生涯スポーツへの導入を図ることをねらいとする。全てのプログラムはグループワークをとおして行うため、コミュニケーション能力・チームワーク力・リーダーシップ力・フォロアシップ力を養うことができる。2泊3日の集中形式で2回実施し、夏期には説図、コンパスワーク、溪流釣り、ロープワーク、夏のソロ活動の知識と技術の習得を図る活動を行い、冬期にはクロスカントリースキーツアー体験、アニマルトラッキング、氷瀑観察、灯籠作りの知識と技術の習得を図る活動を行う。	集中

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 体育・スポーツ群	サバイバル活動	本授業は、海浜での主に『食』に関するサバイバル活動をとおして野外活動に必要な知識、技術とその考え方を実践的に学び、生涯スポーツへの導入を図ることをねらいとする。活動の計画立案・実施に至るまでグループワークをとおして行うため、コミュニケーション能力・チームワーク力・リーダーシップ力・フォロアーシップ力を養うことができる。夏季休業期間中に4泊5日の集中形式で実施し、食（特にタンパク質）のサバイバルをとおして生きる力を養う。到達目標の概要は、スキンドайビングの知識と技術の習得、狩猟活動の知識と技術の習得、野外料理の知識と技術の習得、野外活動に必要な知識と技術の習得、グループワーク力の習得である。	集中
	スクーバダイビング	本授業は、海洋スポーツの一つであるスクーバダイビングに必要な基礎的知識、技術、ルール・マナーとその考え方について学び、生涯スポーツへの導入を図ることをねらいとする。全てのプログラムはグループワークをとおして行うため、コミュニケーション能力・チームワーク力・リーダーシップ力・フォロアーシップ力を養うことができる。3泊4日の集中形式で実施し、主にスクーバダイビングのCカード取得のための理論講習と実技講習を行う。到達目標は、スキンドайビングの知識と技術の習得、スクーバダイビングの知識と技術の習得、海洋生物の知識の習得、海洋環境の知識の習得、グループワーク力の習得である。	集中
	レジャースポーツ	本授業は、『水・空・雪』をテーマに、信州の自然を活かした様々なレジャースポーツを体験する。それらの体験をとおして、それぞれの種目に必要な基礎的知識、技術、ルール・マナーとその考え方について学び、生涯スポーツへの導入を図ることをねらいとする。全てのプログラムはグループワークをとおして行うため、コミュニケーション能力・チームワーク力・リーダーシップ力・フォロアーシップ力を養うことができる。『水・空・雪』をテーマに、1泊2日の集中形式で3回実施する。到達目標は、それぞれテーマ別に、『水』：カヌー、ヨット、ボードセイリングの基礎理論と技術の習得、『空』：パラグライダーの基礎理論と技術の習得、『雪』：クロスカントリースキーの基礎知識と技術の習得である。	集中
	スポーツボウリング	本授業は、ボウリングのルール、マナーおよびその技術について学び、生涯スポーツへの導入を図ることを目的とする。ゲームを通して、学生のコミュニケーション能力の向上を図り、ボウリングを通して、身体を用いた自己表現、自己実現や問題解決の方法を学ぶことを目的とする。ゲームの運営を分担して行い、リーダーシップ力を養うとともに、グループでのディスカッションを通して、身体感覚と実際の運動結果との相違について理解を深め、運動学習の方法の理解を高める。	
	ニュースポーツ	ニュースポーツは、老若男女問わず誰もが楽しめるスポーツであり、数多くの種目が考案され、世界的な広がりとなっている。本授業では、いくつかのニュースポーツを取り上げて実践する。基本ルールを理解し、仲間とコミュニケーションを図りながら取り組み、最終的には生涯スポーツを実践するきっかけとなることを目的とする。はじめにニュースポーツの各種目を紹介する。各種目でルールを理解しながら実践し、さらには技術レベルも向上するように進めていく。ニュースポーツは単純明快なルールであるにも関わらず、その実奥深いものであることを認識させ、実践にあたっては、各種目が考案されてきた歴史的背景についても学ぶ。小テスト1回、小レポート1回を課す。	
	アスレティックトレーニング	スポーツは体力を保持増進し健康な日々を送るのに効果的であるが、それと同時にスポーツを原因とした外傷および障害の発生により、健康を害する要因ともなり得る。本授業では、スポーツ外傷・障害を予防するトレーニングや競技力向上の基礎となるトレーニングを体験し、総合的な体力向上とトレーニングを計画・実施できる力を身に付けることをねらいとする。競技スポーツ現場にて運動能力の向上を目的として行なわれる様々なトレーニングを体験する。また、授業の最初と最後でフィットネスチェックおよびフィールドテストを実施し、自身の能力がどのように変化するかを体験する。グループでコミュニケーションをとりながら授業を進める。	

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	教養科目 体育・スポーツ群	バスケットボール	本授業では、グループに分かれディスカッションを通して問題や課題を発見し、その解決法を探りながら学習していく。バスケットボールのファンダメンタルを習得しながら個人技術を磨き、本場の「スリー・オン・スリー」なども楽しむ。チーム編成の中でリーダーを中心に各個人の役割を考え、効果的な人材を模索する。さらに、チーム力を高めながら「戦術」を考え、駆け引きのある「ゲーム」を楽しむ、運動量の確保と共に経験知の質を一層高めていく。	
		ネイチャースキー	ネイチャースキーとは、整備されていない雪山や森の中を、踵が固定されていないスキー用具を使って移動(歩く・登る・滑る)する活動である。この授業では、信州の冬の山や森を楽しく安全に移動できるようになることを目指し、登坂や滑降(テレマーク技術)に必要な技能を学ぶとともに、地図や方位磁石の使い方などを実践的に学ぶ。自然の中での活動を通して、健全な身体的感性を育み、自己の健康観を確立するとともに、人と人とのコミュニケーション能力を育てることを目的とする。スキー場周辺において3泊4日の集中形式で実施する。	集中
		スノー・スポーツ	本授業では、信州の自然に触れ、対話しながら思い通りのシュプールを描き、みずから環境的な心を深め理解できるようになること、スノー・スポーツに関する知識・技術・ルール・マナーを身につけ、生涯にわたる運動習慣の形成を考えられるようになること、グループ・ワークを通してコミュニケーション能力、チームワーク力、リーダーシップを身につけ、本学の学生・卒業生として期待される人間像を表現し、活力ある健全な社会の形成に貢献できるようになることを目指し、総じて「ひとり立ち出来るスキーヤー」となることをねらいとするアルペンスキーのグループ・ワーク授業である。技術レベル毎に分かれてディスカッションを行い、問題や課題を発見し解決法を探りながら学習していく。	集中
		フライングディスク	本授業はフライングディスクを通して、身体を用いた自己表現、自己実現や問題解決の方法を学ぶことを目的とする。生涯スポーツとして最適なフライングディスクの種目の様々な特定を学ぶ。フライングディスクの競技のうちチームスポーツであるアルティメットを通じて、コミュニケーション能力の向上も図る。生涯にわたって実践できる健康づくり・体力作りへの意識作りと方法について学習する。アルティメットのリーグ戦を通してコミュニケーション能力の習得を目指す。	
基礎科目	外国語科目	英語 フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅠ(上級)	文法、コロケーション、語彙や構文に配慮しながら、正しい英文が書けるようになるように演習を行う。リーディングに関しては、文レベルできちんと英文が理解できるようになるように演習を行う。これらの演習は、英語の読解力および作文力のみならず、スピーキング力や英語によるディスカッション力の養成にも資するものである。なお、テキストは上級レベルに対応したものを使用する。	
		フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅠ(中級)	文法、コロケーション、語彙や構文に配慮しながら、正しい英文が書けるようになるように演習を行う。リーディングに関しては、文レベルできちんと英文が理解できるようになるように演習を行う。これらの演習は、英語の読解力および作文力のみならず、スピーキング力や英語によるディスカッション力の養成にも資するものである。なお、テキストは中級レベルに対応したものを使用する。	
		フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅠ(初級)	文法、コロケーション、語彙や構文に配慮しながら、正しい英文が書けるようになるように演習を行う。リーディングに関しては、文レベルできちんと英文が理解できるようになるように演習を行う。これらの演習は、英語の読解力および作文力のみならず、スピーキング力や英語によるディスカッション力の養成にも資するものである。なお、テキストは初級レベルに対応したものを使用する。	
		フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅡ(上級)	パラグラフレベルのライティングに対応したテキストを用い、原因と結果、記述、議論など、様々な種類のパラグラフの構成や、リスティング・クラスタリングなどのアイディア推敲作業を学び、きちんとした英語のパラグラフが書けるように演習を行う。リーディングに関しては、パラグラフレベルできちんと英文が理解できるようになるように演習を行う。これらの演習は、英語の読解力および作文力のみならず、スピーキング力や英語によるディスカッション力の養成にも資するものである。なお、テキストは上級レベルに対応したものを使用する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基礎科目 外国語科目	フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅡ (中級)	パラグラフレベルのライティングに対応したテキストを用い、原因と結果、記述、議論など、様々な種類のパラグラフの構成や、リスニング・クラスタリングなどのアイディア推敲作業を学び、きちんとした英語のパラグラフが書けるように演習を行う。リーディングに関しては、パラグラフレベルできちんと英文が理解できるようになるように演習を行う。これらの演習は、英語の読解力および作文力のみならず、スピーキング力や英語によるディスカッション力の養成にも資するものである。なお、テキストは中級レベルに対応したものを使用する。	
	フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅡ (初級)	パラグラフレベルのライティングに対応したテキストを用い、原因と結果、記述、議論など、様々な種類のパラグラフの構成や、リスニング・クラスタリングなどのアイディア推敲作業を学び、きちんとした英語のパラグラフが書けるように演習を行う。リーディングに関しては、パラグラフレベルできちんと英文が理解できるようになるように演習を行う。これらの演習は、英語の読解力および作文力のみならず、スピーキング力や英語によるディスカッション力の養成にも資するものである。なお、テキストは初級レベルのものを使用する。	
	リスニング&リーディングⅠ (上級)	上級レベルにおいて、バラエティに富んだ題材を扱った英文を用いて、ジャンルに応じた読解法・聴解法を修得する。また、語彙やイディオムなどの確認・整理も行う。 学部や学科によっては、求められるものや興味などが異なる場合があるので、それらにも配慮する。 なお、必要に応じて、専門に関連した教材や資格試験対策教材などの補助教材も適宜使用する場合がある。 初回時にテキストや内容についてガイダンスを行う。	
	リスニング&リーディングⅠ (中級)	中級レベルにおいて、バラエティに富んだ題材を扱った英文を用いて、ジャンルに応じた読解法・聴解法を修得する。また、語彙やイディオムなどの確認・整理も行う。 学部や学科によっては、求められるものや興味などが異なる場合があるので、それらにも配慮する。 なお、必要に応じて、専門に関連した教材や資格試験対策教材などの補助教材も適宜使用する場合がある。 初回時にテキストや内容についてガイダンスを行う。	
	リスニング&リーディングⅠ (初級)	初級レベルにおいて、バラエティに富んだ題材を扱った英文を用いて、ジャンルに応じた読解法・聴解法を修得する。また、語彙やイディオムなどの確認・整理も行う。 学部や学科によっては、求められるものや興味などが異なる場合があるので、それらにも配慮する。 なお、必要に応じて、専門に関連した教材や資格試験対策教材などの補助教材も適宜使用する場合がある。 初回時にテキストや内容についてガイダンスを行う。	
	リスニング&リーディングⅡ (上級)	Iで学んだ内容を踏まえ、上級レベルにおいて、バラエティに富んだ題材を扱った英文を用いて、ジャンルに応じた読解法・聴解法を修得する。また、語彙やイディオムなどの確認・整理も行う。 学部や学科によっては、求められるものや興味などが異なる場合があるので、それらにも配慮する。 なお、必要に応じて、専門に関連した教材や資格試験対策教材などの補助教材も適宜使用する場合がある。 初回時にテキストや内容についてガイダンスを行う。	
	リスニング&リーディングⅡ (中級)	Iで学んだ内容を踏まえ、中級レベルにおいて、バラエティに富んだ題材を扱った英文を用いて、ジャンルに応じた読解法・聴解法を修得する。また、語彙やイディオムなどの確認・整理も行う。 学部や学科によっては、求められるものや興味などが異なる場合があるので、それらにも配慮する。 なお、必要に応じて、専門に関連した教材や資格試験対策教材などの補助教材も適宜使用する場合がある。 初回時にテキストや内容についてガイダンスを行う。	
	リスニング&リーディングⅡ (初級)	Iで学んだ内容を踏まえ、初級レベルにおいて、バラエティに富んだ題材を扱った英文を用いて、ジャンルに応じた読解法・聴解法を修得する。また、語彙やイディオムなどの確認・整理も行う。 学部や学科によっては、求められるものや興味などが異なる場合があるので、それらにも配慮する。 なお、必要に応じて、専門に関連した教材や資格試験対策教材などの補助教材も適宜使用する場合がある。 初回時にテキストや内容についてガイダンスを行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	基礎科目 外国語科目	英語 アカデミック・イングリッシュ I (上級)	上級レベルにおいて、エッセイ・ライティング用のテキストを用いて演習を行うが、1年次に引き続き、パラグラフの構成の学習から始める。リーディングに関しては、パラグラフ単位で意味をつかみ、かつパラグラフ間の整合性に注意を向けつつ、一定の長さの英文を読む練習を行う。	
		アカデミック・イングリッシュ I (中級)	中級レベルにおいて、エッセイ・ライティング用のテキストを用いて演習を行うが、1年次に引き続き、パラグラフの構成の学習から始める。リーディングに関しては、パラグラフ単位で意味をつかみ、かつパラグラフ間の整合性に注意を向けつつ、一定の長さの英文を読む練習を行う。	
		アカデミック・イングリッシュ I (初級)	初級レベルにおいて、エッセイ・ライティング用のテキストを用いて演習を行うが、1年次に引き続き、パラグラフの構成の学習から始める。リーディングに関しては、パラグラフ単位で意味をつかみ、かつパラグラフ間の整合性に注意を向けつつ、一定の長さの英文を読む練習を行う。	
		アカデミック・イングリッシュ II (上級)	上級レベルにおいて、エッセイ・ライティング用のテキストを用いて演習を行うが、前期に引き続き、パラグラフの構成の学習から始める。リーディングに関しては、パラグラフ単位で意味をつかみ、かつパラグラフ間の整合性に注意を向けつつ、一定の長さの英文を読む練習を行う。	
		アカデミック・イングリッシュ II (中級)	中級レベルにおいて、エッセイ・ライティング用のテキストを用いて演習を行うが、前期に引き続き、パラグラフの構成の学習から始める。リーディングに関しては、パラグラフ単位で意味をつかみ、かつパラグラフ間の整合性に注意を向けつつ、一定の長さの英文を読む練習を行う。	
		アカデミック・イングリッシュ II (初級)	初級レベルにおいて、エッセイ・ライティング用のテキストを用いて演習を行うが、前期に引き続き、パラグラフの構成の学習から始める。リーディングに関しては、パラグラフ単位で意味をつかみ、かつパラグラフ間の整合性に注意を向けつつ、一定の長さの英文を読む練習を行う。	
	ドイツ語	ドイツ語初級(総合) I	ドイツ語の構造について:「学習」した個々の項目を自由自在に組み合わせ、読み・書き・話し・聞くことができるようになるのが目標である。そのためには、授業で扱った内容を次の授業までにしっかりと復習し、疑問点を明確にし、定着させて進んでいかなければならない。 発音について:ドイツ語の発音の出発点は「ローマ字読み」である。その例外となる発音に着目して習得を目指してほしい。そのためには、目で読むだけでなく、常に音読して、ドイツ語のリズムを共に身につけていく必要がある。 授業の全体像:最初の数回の授業で発音の基礎を学習するが、その後も引き続きチェックを行う。数詞の暗唱や短い文章の朗読といった口頭テストも行う。 基本的に1課終了ごとに確認テストを行うことで、自己評価(チェック)に役立ててもらおう。その他に、発音チェックの口頭試験、期末試験を行う。	
		ドイツ語初級(総合) II	文法学習について:前期に習得したことを土台として、さらに「学習」した個々の項目を自由自在に組み合わせ、読み・書き・話し・聞くための能力を伸ばすことが目標である。そのためには、授業で扱った内容を次の授業までにしっかりと復習し、疑問点を明確にし、定着させて進んでいかなければならない。 発音について:前期に引き続き、重点をおく。 授業の全体像:最初の2回の授業で前期の復習を行うが、以後、授業内で既習事項の確認を行う。積極的な自習によって新規学習事項との関連を確認するように。 基本的に1課終了ごとに確認テストを行うことで、自己評価(チェック)に役立ててもらおう。その他に、発音チェックの口頭試験、期末試験を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基礎科目 外国語科目	ドイツ語初級(文法) I	国際化が進む現代社会で生きていくために、多様なものを見かたができるようになることを目指し、英語以外の外国語(この授業ではドイツ語)の基礎を習得する。言語の基本は「音」であるので、発音も重視しつつ、使えるドイツ語の基礎を習得してもらいたい。夏休み中も自主学習を続けることで、独検4級の秋期試験に合格する程度のドイツ語力をつけることも目標の一つである。 学ぶべきこと： 1. ドイツ語の基本的な構造 2. ドイツ語の発音 3. 言語を媒介としたグローバル感覚	
	ドイツ語初級(文法) II	ドイツ語初級(文法) I に引き続き、国際化が進む現代社会で生きていくために、多様なものを見かたができるようになることを目指し、英語以外の外国語(この授業ではドイツ語)の基礎を習得する。言語の基本は「音」であるので、発音も重視しつつ、使えるドイツ語の基礎を習得してもらいたい。夏休み中も自主学習を続けることで、進級後の独検3級の春季試験に合格する程度のドイツ語力をつけることも目標の一つである。 学ぶべきこと： 1. ドイツ語の基本的な構造 2. ドイツ語の発音 3. 言語を媒介としたグローバル感覚	
	ドイツ語初級(読解・会話) I	この授業では、初級レベルにおいて口頭でドイツ語のセンテンスを作ることに重点を置いて、授業を行う。 授業中、発音練習、グループワーク、インタビュー活動等の口頭でのやりとりに、多くの時間を費やす。しっかりとした基礎的なドイツ語のレベルを目指すため、授業では他の3つの言語能力(聞く、書く、読む)も訓練する。また、文法の要素も重要不可欠である。 受講者には授業への積極的な参加が要求される。また、授業ではほぼ毎回復習小テストを行い、小さな宿題を出す。セメスターの期間中、各課終了後の小テストも行う。各課終了後の小テストや期末試験は、筆記試験と口答試験からなる。	
	ドイツ語初級(読解・会話) II	この授業では、I で学んだ内容を踏まえ、初級レベルにおいて口頭でドイツ語のセンテンスを作ることに重点を置いて、授業を行う。 授業中、発音練習、グループワーク、インタビュー活動等の口頭でのやりとりに、多くの時間を費やす。しっかりとした基礎的なドイツ語のレベルを目指すため、授業では他の4つの言語能力(聞く、書く、読む)も訓練する。また、文法の要素も重要不可欠である。 受講者には授業への積極的な参加が要求される。また、授業ではほぼ毎回復習小テストを行い、小さな宿題を出す。セメスターの期間中、各課終了後の小テストも行う。各課終了後の小テストや期末試験は、筆記試験と口答試験からなる。	
	ドイツ語中級(読解) I	ドイツ語読解能力について：外国語は、単なる学ぶ対象ではなく、実際に用いてこそ初めて学習する価値が生まれる。そのためにも、既習事項とその習熟度を自ら理解し、統合的に用いる能力を身につけるトレーニングを行う。また、辞書をひく際も、最初の訳語を見て用いるのではなく、納得がいくまでしっかりと調べて、実際に書かれている内容が腑に落ちるまで考える習慣をつけてほしい。 国際理解感覚について：異文化理解は、外国語の文章を読む際にも問題になる。日本語の感覚だけで読もうとしても書き手の論や感覚を受けとめることはできない。自分がすでに持っている情報で処理しようとするのではなく、常に新しいものを求め、わからないことは納得するまで調べ、自分の中の国際感覚の奥行きを広げる意識を身につける。 授業全体について：学期の前半は、1年次の学習事項の復習と補足を行いつつ、読解に慣れていってもらおう。 Lektionが終わるごとに確認の小テストを行い、自己確認・復習に役立ててもらおう。 後半では、「学習のために作られたのではないドイツ語文」を読み、ドイツ語のテキストに慣れていってもらおう。	

授 業 科 目 の 概 要						
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)						
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考		
共通教育科目	基礎科目	外国語科目	ドイツ語	ドイツ語中級（読解）Ⅱ	この授業はドイツ語中級（読解）Ⅰの継続であり、Ⅰで学んだ内容を踏まえ、初級ドイツ語文法の復習と、新たに初中級ドイツ語文法の習得を目指す。さらに、この授業は、和文独訳、聞き取り・書き取り練習、会話表現練習によって、初中級のドイツ語運用能力の獲得と、「外国語を用い、的確に読み、書き、聞き、他者に伝えることができる言語能力」と、「対話を通じて他者と協力し、目標実現のために方向性を示すことができるコミュニケーション能力」を持つ教養人育成を目指す。ドイツ語の日常的言い回しによるテキストを読み、和訳できるようにする。	
			ドイツ語中級（会話）Ⅰ	ドイツ語のセンテンスを中級レベルにおいて口頭と筆記で作ることに重点をおいて授業を行う。授業中、発音練習、グループワーク、インタビュー活動等の口頭でのやりとりに、多くの時間を費やす。しっかりとした基礎的なドイツ語のレベルを目指すため、授業では他の3つの言語能力（聞く、書く、読む）も訓練する。また、文法の要素も重要不可欠である。 受講者には授業への積極的な参加が要求される。また、授業ではほぼ毎回復習小テストを行い、小さな宿題を出します。セメスターの期間中、各課終了後の小テストも行う。各課終了後の小テストや期末試験の内容は筆記試験と口答試験からなる。		
			ドイツ語中級（会話）Ⅱ	ドイツ語のセンテンスをⅠで学んだ内容を踏まえ、中級レベルにおいて口頭と筆記で作ることに重点をおいて授業を行う。授業中、発音練習、グループワーク、インタビュー活動等の口頭でのやりとりに、多くの時間を費やす。しっかりとした基礎的なドイツ語のレベルを目指すため、授業では他の3つの言語能力（聞く、書く、読む）も訓練する。また、文法の要素も重要不可欠である。 受講者には授業への積極的な参加が要求される。また、授業ではほぼ毎回復習小テストを行い、小さな宿題を出します。セメスターの期間中、各課終了後の小テストも行う。各課終了後の小テストや期末試験の内容は筆記試験と口答試験からなる。		
	フランス語	フランス語初級（総合）Ⅰ	フランス語の基礎文法を理解したうえで、日常においてよく使われる会話文の発音・語彙・表現を学ぶ。それらを踏まえて、リスニング力も磨いていく。また、視聴覚資料を取り入れながら、フランスの生活や文化も紹介する。 「フランス語初級（総合）Ⅰ」においては、フランス語のルールを学んだうえで、視聴覚資料等を通じて、生活や文化について解説する。			
		フランス語初級（総合）Ⅱ	フランス語の基礎文法を理解したうえで、日常においてよく使われる会話文の発音・語彙・表現を学ぶ。それらを踏まえて、リスニング力も磨いていく。また、視聴覚資料を取り入れながら、フランスの生活や文化も紹介する。 「フランス語初級（総合）Ⅱ」においては、Ⅰで学んだ内容を踏まえ、日常的な行動の中において正しい発音で基本的なコミュニケーションがとれる運用能力を学ぶ。さらに、国や文化についての知識を得て、国際感覚を養う。			
		フランス語初級（文法）Ⅰ	定評のある教科書を使い、教員による解説、受講生による演習を行うことによってフランス語文法の基礎をしっかりと身につける。文法は外国語学習の根幹である。言葉とは複雑であり、その勉強は楽なものではない。しかし、だからといって特別難しいものでもない。努力に応じて着実に実力はついていくものである。できるだけわかりやすい授業の展開を目指す。			
		フランス語初級（文法）Ⅱ	定評のある教科書を使い、Ⅰで学んだ内容を踏まえ、教員による解説、受講生による演習を行うことによってフランス語文法の基礎をしっかりと身につける。文法は外国語学習の根幹である。言葉とは複雑であり、その勉強は楽なものではない。しかし、だからといって特別難しいものでもない。努力に応じて着実に実力はついていくものである。できるだけわかりやすい授業の展開を目指す。			
フランス語初級（読解・会話）Ⅰ	日常的なコミュニケーションのなかで出会う様々な読解および会話のパターンを集中的に学ぶ。発音練習、リスニング、ペアもしくはグループによる会話練習にも力を入れていく。また、視聴覚資料を取り入れながら、フランスの生活や文化も紹介していく。 「フランス語初級（読解・会話）Ⅰ」においては、挨拶・自身の紹介・各場面における尋ねる力等を学び、練習を通じて会話パターンが身につくよう進める。					

授 業 科 目 の 概 要			
(経済学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基礎科目 外国語科目	フランス語 フランス語初級（読解・会話）Ⅱ	日常的なコミュニケーションのなかで出会う様々な読解および会話のパターンを集中的に学ぶ。発音練習、リスニング、ペアもしくはグループによる会話練習にも力を入れていく。また、視聴覚資料を取り入れながら、フランスの生活や文化も紹介していく。 「フランス語初級（読解・会話）Ⅱ」においては、Ⅰで学んだ内容を踏まえ、自身で発信できる力を身につけるよう目指す。さらに、国や文化についての知識を得て、国際感覚を養う。	
	フランス語中級（読解・会話）Ⅰ	授業で得られる要素を達成するために、テキストはフランス庶民社会で起る様々なドラマを扱った短編小説を使用する。本授業は初級から中級への橋渡しの位置づけであるので、単なる訳読にとどまらず、文法の復習も積極的に行う。	
	フランス語中級（読解・会話）Ⅱ	授業で得られる要素を達成するために、テキストはフランス庶民社会で起る様々なドラマを扱った短編小説を使用する。本授業は初級から中級への橋渡しの位置づけであるので、Ⅰで学んだ内容を踏まえ、単なる訳読にとどまらず、文法の復習も積極的に行う。	
	中国語 中国語初級（総合）Ⅰ	テキスト1課につき2回のペースで、解説に加えて、課題の練習（音読・翻訳）、小テスト（音声・筆記）による復習といった構成で、初歩的な中国語を読み・書き・聞き・話す練習を反復しながら授業を進める。 中国語の発音・聞き取りの練習から始め、基本的な文法、語彙の学習にあわせてやさしいテキストを読み、総合的な力を養う。	
	中国語初級（総合）Ⅱ	教科書を中心に行う。前期「中国語初級（総合）Ⅰ」で学んだ内容を踏まえ、引き続き中国語の基本的な文法、語彙を学んでいく。各課終了後に小テストを実施する。また、必要に応じて中国の社会事情や文化なども紹介する。	
	中国語初級（文法）Ⅰ	テキストに沿って授業を進める。まず最初の一か月間は「発音編」を学ぶ。ここで発音と発音記号を習得し、中国語学習の土台を築き上げる。「発音編」は一つの大きな山である。これを頑張って乗り越えれば次の「文法編」の理解も容易になる。「文法編」は一時間に一課の進捗で進む。毎回の授業では文法事項の確認をした後、日本語訳、音読、練習問題などに取り組み理解を深めていく。	
	中国語初級（文法）Ⅱ	テキストに沿って、一時間に一課、授業を進める。本授業では、前期からの学習に続き第十三課から始まる予定である。毎回の授業では文法事項の確認をした後、日本語訳、音読、練習問題などに取り組み理解を深めていく。まとめでは、中国語で書かれた「桃太郎」を読み、またその音読の発表を一人ずつしてもらい予定である。	
	中国語初級（読解・会話）Ⅰ	中国語の背景にある中国の社会、文化を紹介しながら中国語の発音、基本的な構文を学び、練習する。授業中初修者にとって区別しにくい音の把握に重点を置き、解説するだけでなく、十分な練習の時間を設ける。本文は会話形式なので、その役割練習を行うことによって自然に単語の用法と中国語による問いかけと答え方を把握するように授業を進める。中国語検定を参考に、使用頻度の高い語彙の運用能力を身につけるように目指す。中国の歴史、文化に関する参考書についての感想を話し合う時間も設け、中国への関心を高める。	
	中国語初級（読解・会話）Ⅱ	「中国語初級（読解・会話）Ⅱ」においては、Ⅰで学んだ内容を復習し、中国語の背景にある中国の社会、文化を紹介しながら中国語の発音、基本的な構文を学び、練習する。授業中初修者にとって区別しにくい音の把握に重点を置き、解説するだけでなく、十分な練習の時間を設ける。本文は会話形式なので、その役割練習を行うことによって自然に単語の用法と中国語による問いかけと答え方を把握するように授業を進める。中国語検定を参考に、使用頻度の高い語彙の運用能力を身につけるように目指す。中国の歴史、文化に関する参考書についての感想を話し合う時間も設け、中国への関心を高める。	
	中国語演習Ⅰ	中国語の背景にある中国の社会、文化を紹介し、会話練習のために、まず本文の朗読から始まるが、その後ペアで会話の発表を行う。会話能力の向上とともに読解・作文の能力を培うことを目指す。教科書の短い文章には日本人学生が中国へ留学した場合によく使う語彙が盛り込まれているので、留学時の発信力に自信を持つように授業を進める。中国の歴史、文化に関する参考書についての感想を話し合う時間も設け、中国への関心を高める。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基礎科目 外国語科目	中国語	中国語演習Ⅱ	「中国語演習Ⅱ」においては、Ⅰで学んだ内容を踏まえ、中国語の背景にある中国の社会、文化を紹介し、会話練習のために、まず本文の朗読から始まるが、その後ペアで会話の発表を行う。会話能力の向上とともに読解・作文の能力を培うことを目指す。教科書の短い文章には日本人学生が中国へ留学した場合によく使う語彙が盛り込まれているので、留学時の発信力に自信を持つように授業を進める。中国の歴史、文化に関する参考書についての感想を話し合う時間も設け、中国への関心を高める。
	ハンゲル	ハンゲル初級(総合)Ⅰ	韓国語の文字、発音、初級文法を説明する。初期段階での韓国語の発音は日本語母語話者にとっては難しいかも知れないが、日本語の発音と関連付けて分かりやすく解説をしながら発音の練習をしていく。文字や発音をマスターした後は基礎文法を勉強する。韓国語の文法は日本語と似ているため理解しやすいが、誤用の危険性もあるので、その点もしっかり説明する。文字と基礎文法をマスターすれば簡単な会話がすぐ出来るようになる。そのような会話力が確実に定着するように、話すことに時間をかけて授業を進める。授業の後半(約15分間)にはビデオ教材を取り入れて、聞き取りの力がつくようにする。
	ハンゲル	ハンゲル初級(総合)Ⅱ	「ハンゲル初級(総合)Ⅰ」の続きとして、韓国語の初級文法を説明し、その文法知識がしっかり身につくように練習問題を解いた後、応用文を作り、それをもとに会話練習をしていく。韓国語コミュニケーション能力をしっかりと身につけるためには、たくさん話すことが何より大事なことで、たくさん話すことに時間をかけて授業を進めていく。またビデオ教材をたくさん利用して聞き取りの力をつけていく。そして、言葉の背景にある韓国文化も紹介する。
	ハンゲル	ハンゲル初級(文法)Ⅰ	韓国語の文字、発音、初級文法を説明する。初期段階での韓国語の発音は、日本語母語話者にとっては難しいかも知れないが、日本語の発音と関連付けて分かりやすく解説をしながら発音の練習をしていく。文字や発音をマスターした後は基礎文法を勉強する。韓国語の文法は日本語と似ているので、日本語と比較しながらわかりやすく説明する。そして毎回授業の後半(約15分間)にビデオ教材を取り入れて、聞き取りの力がつくようにする。また復習がしっかり出来るように復習シートを使って、確実に韓国語文法がマスターできるように進める。そして言葉の背景にある韓国文化も紹介する。
	ハンゲル	ハンゲル初級(文法)Ⅱ	発音の面では、正確な発音が出来るように練習する。文法の面では、初級文法を説明していく。初級文法をマスターし、単語力を増やせば、応用会話が出来るようになる。そのような会話力が確実に定着するように話すことに時間をかけて授業を進めていく。そして、毎回授業の後半(約15分間)にビデオ教材を取り入れて、聞き取りの力をつけていく。復習がしっかり出来るように復習シートを使って、確実に韓国語能力が身につくように進める。そして言葉の背景にある韓国文化も紹介する。
	ハンゲル	ハンゲル初級(読解・会話)Ⅰ	韓国語の文字、発音、基礎文法を説明する。韓国語の読解力と会話力を養うことに重点を置いて授業を進める。初期段階での韓国語の発音は日本語母語話者にとっては、難しいかも知れないが、日本語の発音と関連付けて分かりやすく解説をしながら発音の練習をしていく。毎回残り15分間は、ビデオ教材を取り入れつつ聞き取りの力をつけていく。そして、言葉の背景にある文化も紹介する。
	ハンゲル	ハンゲル初級(読解・会話)Ⅱ	韓国語でコミュニケーションを取る際には、正確な発音で話すことが大事である。前期に続き、正確な発音が出来るように練習する。そしてテキストに沿って会話のペースとなる初級文法を説明する。全体的には韓国語の読解力と会話力を養うことに重点を置いて授業を進める。ビデオ教材もたくさん取り入れつつ聞き取りの力をつけていく。そして、言葉の背景にある文化も紹介する。
	ハンゲル	ハンゲル中級(読解・会話)Ⅰ	1年次に学習した内容を元に、テキストに沿って韓国語の正しい発音、文法、言い回しなどを説明していく。そして、毎回授業の後半(約15分間)にビデオ教材を取り入れて、聞き取りの力をつけていく。復習がしっかり出来るように復習シートを使って、確実に韓国語能力が身につくように進める。そして言葉の背景にある韓国文化も紹介する。

授 業 科 目 の 概 要					
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)					
科目区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考	
共通教育科目	基礎科目	外国語科目 ハングル	ハングル中級（読解・会話）Ⅱ	正しい発音とより高いレベルの文法、言い回しなどを説明していく。韓国語会話能力をしっかりと定着させるために最も重要なことは、たくさん話すことなので、授業で与えた知識を利用して、十分な会話練習ができるように授業を進めていく。毎回授業の後半（約15分間）にビデオ教材を取り入れて、聞き取りの力もつけていく。そして言葉の背景にある韓国文化も紹介する。	
		健康科学科目 健康科学・理論と実践	健康科学・理論と実践	◆理論7回、実践8回で構成される。 (オムニバス方式/全15回) 【理論】(7回) 健康は個人、社会、地球環境にまたがる大きな課題である。この科目は心身の健康、キャンパスにおける安全、社会における望ましい人間関係、環境と健康、などについての知識と行動規範の修得を目標とし、以下の7つのカテゴリーから構成されている。 (19 川茂幸/1回) カテゴリー1 イントロダクション、健康なキャンパスライフのために (71 金子稔/1回) カテゴリー2 メンタルヘルス概論 (38 杉本光公/1回) カテゴリー3 ライフスキルアップ (67 速水達也/1回) カテゴリー4 健康を守る（スポーツと健康、AIDS 予防、性感染症予防、地球環境と健康） (19 川茂幸/1回) カテゴリー5 生活習慣病を予防する（肥満、糖尿病、喫煙、アルコール） (73 内田満夫/1回) カテゴリー6 薬物乱用の予防 (19 川茂幸/1回) カテゴリー7 性感染症予防・正しい性の知識 【実践】(8回) (79 加藤彩乃/8回) (78 廣野準一/8回) 半セメスターの期間中に、体力測定及びウォーキング、ジョギング、エクササイズの方法などを実践し、運動習慣獲得のための導入を行う。身体に障害のある学生は別メニューとなるため、ガイダンスの日程等を4月初めに全学教育機構<公用掲示板>で確認すること。	オムニバス方式 講義 14時間 実技 16時間
	新入生ゼミナール科目	新入生ゼミナール	新入生ゼミナールⅠ	新入生のために、大学での学習や生活のオリエンテーションとケアを目的として開講する。大学生活における学習に関する諸問題を中心に、学習の基本的な方法の修得、生活習慣、人間関係の構築方法、卒業後の就職に向けて必要な事柄を学ぶ。これらの今後の学生生活に必要な基礎的なスキルを身につけることを授業の目的とする。授業は、1クラス20人程度の少人数に分かれて演習形式で行い、一部の内容については大教室を使って行う。同時開講の各クラスは別々の教員が担当するが、教員間で緊密に打合せを行い授業内容と成績評価の統一化を図る。	
		新入生ゼミナール	新入生ゼミナールⅡ	少人数・学生主体型の授業で、文章読解（クリティカルリーディング）、情報収集と分析、プレゼンテーション、グループ討論、レポート作成等を行う。社会科学を学ぶために必要な基礎的なスキルを身につけることを授業の目的とする。少数の学生が集まって、積極的に討議を行う学生参加型の授業により、学生が主体的に学ぶ姿勢を身につけ、コミュニケーション能力を向上させることが期待される。授業は、1クラス20人程度の少人数に分かれて演習形式で行う。同時開講の各クラスは別々の教員が担当するが、教員間で緊密に打合せを行い授業内容と成績評価の統一化を図る。	
日本語・日本事情	日本語・日本事情科目	日本語	読解（日本語）Ⅰ	本講義の目的は、日本語で書かれた様々な資料を読んで理解し、多くの知識が得られるようになることを目指す。読むためのテクニック、戦略（ストラテジー）、知識などを身につける。授業の最初はあまり難しくない文章を読み、その日の読解のポイントを勉強・練習し、最後に少し長い文章を読む。	
		日本語	読解（日本語）Ⅱ	学期最初は、読解の基本的な考え方や戦略（ストラテジー）を学ぶ。その後、論文を読んでから、「構造」、「読むための文法」、「言葉の練習」を勉強する。論文は次第に長くなっていく。内容は、いじめ、製品からみる人間工学、ガン告知、雨の中の無機成分の特徴、入社後研修における文化摩擦など広範囲にわたる。	

授 業 科 目 の 概 要					
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)					
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	日本語・日本事情	日本語	作文(日本語)Ⅰ	作文でよく使われる語彙や表現の練習をする。次にそれらを用いて短文作成をする。さらに、自由度が大きくやや長い文章を書く。学期の前半には意見文、アピール文など様々なタイプの文の練習をし、後半にはレポートの書き方を練習する。時々、学習者が書いた課題作文や構成メモを他の学習者たちと一緒に見ながら、どこがいいか、間違っているか考える活動もする。	
		日本語	作文(日本語)Ⅱ	論文で使われる語彙および表現をしっかり学習・練習する。その後、論文の構成を要素ごとに学び、深く理解する。最後に自分のテーマと構成メモを作成し、それに基づいて論文を執筆する。時々、学習者が書いた課題作文や構成メモを他の学習者たちと一緒に見ながら、どこがいいか、間違っているか考える活動もする。	
		日本語	ビジネス・ジャパニーズⅠ	前半では、敬語の学習を深めつつビジネス会話のパターンを数多く練習する。また、ビジネス文書の書き方も、単純から複雑なものへと練習を重ねる。後半では、ビジネス上の適切な対処と、相手の立場に立って考えつつ会話を組み立てる練習をする。また、文書形式を身につけ、ビジネスメールの基本的な言葉使いを練習する。ディスカッションを行う。	
		日本語	ビジネス・ジャパニーズⅡ	前半では、敬語の練習を深めつつ、社内・社外における会話を多く練習する。 ビジネス文書は、さらに言葉づかいに注意を払い、要点を押さえ、よく伝わる書き方を練習する。 後半では、受け答えだけに終わらず能動的に会話を組み立てる練習をする。文書作成は、誤解を生じず心遣いのある文章の読解と練習を多く行う。 また、日本人の働く姿を見るためにDVDを2回程度視聴し、ディスカッションを行う。	
		日本語	科学技術日本語Ⅰ	配布資料により、科学技術特有な表現語彙の習得、用例の学習により語彙力を高める。更に、一般紙・専門紙などの科学技術関連記事、科学技術に関する評論・解説文などの題材を通じて読解力を高めてゆく。また、ケースに応じてグループディスカッションによる論理的思考力を鍛える。	
		日本語	科学技術日本語Ⅱ	配布資料により、科学技術特有な表現語彙の習得、用例の学習により語彙力を高め、科学技術論文の読解力、レポート・論文作成能力を演習により高めてゆく。また、ケースに応じてグループディスカッションによる論理的思考力を鍛える。	
	日本事情	日本語	日本社会と日本人Ⅰ	日本社会の特徴を、家族と福祉、国土と中央・地方、企業と企業モデル、温暖化によるさまざまな環境問題、などの特定の問題設定のもとで理解する。 よく話題に上る現代社会の特徴や社会問題をビデオ教材を通して見、毎回配布する資料を参考にして、ビデオ内容についての課題にこたえる。その課題への答えとしてのレポートを授業毎に提出する。	
		日本語	日本社会と日本人Ⅱ	日本の産業構造の特徴を、自動車・電機などの製造業、スーパー・百貨店などの流通・小売り、不動産・金融業などの業種毎にとらえる。 講義とディスカッションにより日本の産業構造を概観し、ビデオ教材、新聞・雑誌記事などにより、日本企業の業務内容、対外戦略、経営方針を具体的にみる。毎回参考資料を配布し、課題を与える。ビデオ教材の内容を理解しているかどうかを課題によって確認する。	
		日本語	武道・伝統文化実習Ⅰ	武道の授業では、日本の伝統的運動文化である武道の歴史と現状を紹介し、スポーツとの相違点と共通点を探しながら、日本の伝統的な運動をより深く理解してもらおう。伝統文化の授業では、日本人でもなかなか接する機会が少ない伝統文化を、実習を通じてより深く勉強・体験する。 授業は、ビデオやスライドを使っての武道・伝統文化の説明と、指導教員のもとで実際に体験する実習授業からなる。 (オムニバス方式/全16回) (43 村田明/9回) 日本の伝統文化(茶道、そば打ち、箏)の授業を担当する。 (78 廣野準一/7回) 日本の伝統的な運動(柔道、剣道、空手道、合気道、相撲、剣道)の授業を担当する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要								
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)								
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考				
共通教育科目	日本語・日本事情	日本語・日本事情科目	日本事情	武道・伝統文化実習Ⅱ	<p>前期に続き、外国人留学生に武道と日本の伝統文化を教える。</p> <p>武道の授業では、日本の伝統的運動文化である武道の歴史と現状を紹介し、スポーツとの相違点と共通点を探しながら、日本の伝統的な運動をより深く理解してもらう。伝統文化の授業では、日本人でもなかなか接する機会の少ない伝統文化を、実習を通じてより深く勉強・体験する。</p> <p>授業は、ビデオやスライドを使つての武道・伝統文化の説明と、指導教員のもとで実際に体験する実習授業からなる。</p> <p>(オムニバス方式/全16回) (43 村田明/9回) 日本の伝統文化(茶道、華道、書道、日本の建築)の授業を担当する。</p> <p>(78 廣野準一/7回) 日本の伝統的な運動(銃剣道、なぎなた、弓道、少林寺拳法、鍛刀)の授業を担当する。</p>	オムニバス方式		
				専門科目	経済学基礎科目	統計学Ⅰ	<p>今日の高度情報化社会のなかで、データを統計的に処理し、解析する機会は増加し続けており、日常生活の場においても統計的知識がさまざまに用いられている。この授業では次の二つを学習する。</p> <p>1) 確率的なモデルを前提とせずに、データから有益な情報を抽出するための手法(記述統計)に関する基本的事項を習得する。具体的には、平均値、分散、標準偏差、回帰、相関等について学ぶ。</p> <p>2) 確率的なモデルを前提とした統計手法(推測統計学)の基礎となる確率論のうち、初歩的な概念を習得する。具体的には、順列・組合せ、加法定理、乗法定理等について学ぶ。</p>	
						統計学Ⅱ	<p>今日の高度情報化社会のなかで、データを統計的に処理し、解析する機会は増加し続けており、日常生活の場においても統計的知識がさまざまに用いられている。この授業では次の二つを学習する。</p> <p>1) モデル構築に必要な確率分布について学ぶ。具体的には、確率変数、確率分布、期待値、分散、共分散・相関係数、二項分布、ポワソン分布、正規分布等について学ぶ。</p> <p>2) モデルの未知の母数について、それをどうやって推測するか(推測統計学)について学ぶ。具体的には、推定の基本概念、比率や平均の区間推定、検定の基本概念、比率や平均の検定等について学ぶ。</p>	
						経済数学A	<p>本講義では、数理的な情報解析の基礎知識である微分積分学について学ぶ。経済学において各種データを解析する際に、数式で得られた関数を考察する機会が多い。この関数の情報を調べることにより、対象となっている事柄の性質を解析できる。特に、特異な状態はその関数の最大・最小、極大・極小、変曲点などに対応しているため、微分を用いてそれらを求める手法を学習する。また、統計などで用いられる平均値や分散などの情報は積分を用いて計算される。多変数を調べる際には、多変数を考える必要があり、偏微分、重積分の概念により解析する。</p>	
			経済数学B	<p>論理的・数量的な分析を行う経済学・社会科学・情報科学の根幹を成す基礎科目である線形代数学を学ぶ。主には行列の演算で基本的な計算に習熟し、その一般論の証明により理論的な思考を養うことを目的とする。また経済波及効果の計測など、複雑な経済分析手法を理解するための予備知識を身につける。その一例として、本講義では確率行列を用いた対象の遷移過程のモデルから、固有値・固有ベクトルにより、定常状態を求める手法を紹介する。本講義では計算を正確に行うことは勿論のこと、証明により理論的な説明を果たすことが求められる。</p>				
			マイクロ経済学Ⅰ	<p>「マイクロ経済学Ⅰ」では、個々の消費者や生産者の意思決定プロセスの分析から出発し、市場での「価格」シグナルがいかに資源配分・所得配分を決定するかを解説する。この講義では、市場機能の有効性と限界を説明し、市場機能はその市場特定の取引ルールに敏感に依存することを解説する。また、ゲーム理論の基礎を概観し、それに基づいてブランド(寡占)市場の分析や、株式市場における入札分析など、初歩的な応用へ導く。マイクロ経済学Ⅱ、産業組織・公共経済学等で扱うマイクロ経済学の発展的領域をはじめ、マクロ経済学の各分野にも及ぶ近代経済学の土台部分を理解するための最初の一步となる。</p>				

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 経済学基礎科目	マクロ経済学Ⅰ	マクロ経済学は、一国の経済全体の景気変動や経済成長の要因を分析する学問である。この講義では、短期の景気変動に関する理論を中心にマクロ経済学の入門的内容を講義していく。最初にGDPなどの基本的なマクロ経済指標が、どのような概念であるのかを学習する。次に、現実のマクロ経済に関するもの見方・考え方として、ケインジアンと新古典派という2つの見解があるが、これらがどのようなものかを経済モデルに基づいて理解していく。最初は簡単なモデルを分析することから始めて、徐々に現実経済の様々な要素をモデルに取り入れて拡張していく。この作業を通じて、現実のマクロ経済をより深く理解できるようになることを目指す。	
	ミクロ経済学Ⅱ	「ミクロ経済学Ⅱ」では、市場メカニズムが、効率的資源配分を実現することを学ぶ。しかし、現実の経済社会では、市場メカニズムに調整を委ねるだけで効率的資源配分が実現するとは限らない。その理由は、市場メカニズムの円滑な機能を妨げる要因があるからである。代表的な障害要因の一つが、「情報の非対称性」の問題である。情報の非対称性の問題は、大きく2つに分けられる。“取引前”の情報の非対称性である“逆淘汰”と、“取引後”の情報の非対称性である“モラル・ハザード”である。講義の初めでは、これらの問題を取り上げる上で必要となる“期待効用”や“不確実性下の意思決定”について解説する。その上で、情報の非対称性が引き起こす問題や、その問題を解決するメカニズムについて説明する。	
	マクロ経済学Ⅱ	この講義では、「マクロ経済学Ⅰ」の内容を前提として、長期の経済成長を分析する理論である新古典派成長理論を中心に、マクロ経済学のより上級のトピックを講義していく。最初にソロー・モデル、成長会計を説明し、これらを使って、1950年代から60年代の日本の高度経済成長や、「失われた20年」ともいわれる最近の日本の経済停滞の原因を分析する。次に、家計の消費の最適化の初歩を説明し、これを組み入れた新古典派成長理論が、日本のマクロ経済の動きを上手く説明できるかを分析する。講義を通じて、データを用いてマクロ経済理論を検証することや、理論を用いて現実のマクロ経済を解釈することができるようになることを目指す。	
	ゲーム理論入門	本講義は、ゲーム理論の基礎を身につけることを目的としている。「ゲーム理論」とは、経済や社会におけるさまざまな意思決定と行動の相互依存状況を数理的なモデルと論理を用いて分析する学問である。本講義の目的は、以下の2点を習得することである。1つは日常のビジネスや政策決定の場に応用できる「戦略的思考の技法」として、ゲーム理論を身につけること。もう1つは、近年、経済学や法学を含む社会科学の多くの分野に用いられているゲーム理論を理解できるようになることで、それらの分野の理解を一層深められるようになること。特に、ゲーム理論の基礎である完備情報ゲームとその応用を中心として講義を進める。	
	環境経済学Ⅰ	本講義では、経済と環境の関係性について、ミクロ経済学的な側面から学ぶ。現在や過去の環境問題が何故引き起こされたか、そしてそれらの問題を我々はどうやって解決してきたのか、またどうやって解決していこうとしているのか。本講義では、これらの課題について、ミクロ経済学理論を用いた手法によって分析することで、受講者がなぜ環境問題が発生するのかを理解し、その発生原因と政策的解決手段を経済学的見地から論理的に説明できるようになることを目標とする。	
	社会経済学	この講義は、資本主義経済の基本的なメカニズムを歴史的・社会的観点から理解することを目的とする。 私たちが今、そのもとで暮らしている資本主義社会は、16世紀ヨーロッパの一角に発生し、その後、数百年のうちにほぼ全世界を覆うにいたった経済社会である。この講義では、そうした数百年にわたる資本主義の歴史的变化の根底にある市場経済のメカニズム、資本主義である限りそこから離れることのできない共通な経済社会の原理を取り扱う。歴史上に現れたさまざまな資本主義は、時代ごとに、あるいは国ごとに、歴史的・社会的要因に規定されてそれぞれ大きく異なっているが、こうした違いを超えて、その基礎には資本主義としての同じ原理が流れている。そしてこの原理は、ごくわずかな法則を持ったひとつの堅固な体系にまとめあげることが出来る。この講義は、この資本主義の原理的体系を解明するとともに、歴史的・空間的に変貌をとげてきた現代の資本主義を分析するための基本となる視角を提供する。 講義では、教材として資料を配付し、またスライド等も併用する。	隔年

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	経済学 基礎 科目	経済史 この講義では、経済社会の歴史を主に資本主義経済の勃興と発展を中心に概観する。 現代の経済は、過去から受け継いできた経済の発展の上にある。今日、われわれがそのもとで暮らしている資本主義経済を正確に理解するためには、何よりも過去の経済をある程度知っておく必要がある。この講義では、そうした過去に存在した様々な経済社会を大きな史的枠組み、すなわち1) 資本主義社会以前の諸社会、2) 16世紀の「大航海時代」からの資本主義経済の勃興、3) 19世紀における資本主義経済の確立、4) 19世紀後半から第1次世界大戦までの資本主義経済の変容、5) 第1次世界大戦以降の現代資本主義、という歴史的な流れに沿って論じる。 講義では、教材として配付資料・教科書を中心に、スライド等も併用する。	隔年
	世界経済論	この講義では、現代経済をめぐるカレントな諸問題のなかでも、とりわけ経済変動・景気循環に関連するトピックを主にしながら、世界経済を理論・歴史・学説から総合的に理解することを目的とする。 アメリカ発のサブプライム金融危機、EUの財政危機、日本のマイナス成長等々、現代においても経済の循環的な変動は私たちの生活に大きく影響を与えている。好況や不況といった局面を有する経済の変動は、市場経済が拡大した19世紀以降から存在し、先人はさまざまなアプローチによってこうした現象を解明しようとしてきた。 ここでは、複雑化する現代経済において、そうした経済変動・景気循環がなぜ発生するのか(理論)、これまでどのように発生してきたのか(歴史)、そして先人たちはこれをどのように分析してきたのか(学説)、といった観点から鳥瞰する。	隔年
	経営学	この講義の達成目標は、経営学の基礎的な知識の習得と、習得した経営学の知識をもとに、実際の経営の現場に生かす方法を考えることの2点である。経営学で検討する内容は、企業運営の仕組みや、利益との関係を検討することである。講義の概要は、まず、経営学とは何か、企業とは何かといった、企業経営にまつわる基礎理論を検討した後、経営戦略、経営組織、経営管理、経営課題といった、さらに詳細な内容へと進める。前半は組織レベルの議論、後半は個人レベルの議論であり、組織レベルと個人レベルの両者から経営学の諸問題に接近する。	
	簿記・会計入門	企業規模に関わらず日々の経営活動を記録する技術が簿記であり、企業会計を理解するためには、簿記の知識は不可欠である。 そこで本講義では、簿記の基本的な仕組みの説明からはじめ、各種取引(商品売買、現金預金取引、手形取引、有価証券取引、固定資産取引、その他取引など)、そして決算手続きを経て財務諸表が作成されるまでの内容を講義する。本講義によって、日々の活動の記録から財務諸表作成までの一連の流れを理解し、把握することによって企業会計を理解することが可能になる。	
	情報処理A	社会の様々な分野で有用な表計算ソフトをより高度に使いこなすことを目指す科目である。具体的には、現在のde facto standard表計算ソフトであるExcelのマクロを記述するプログラミング言語VBAの文法について学ぶ。現在、VBAの使用頻度は非常に高いと言われている。VBAで記述するExcelマクロを使用することで、定型化した処理の自動実行、条件分岐処理、反復処理などの利用が可能となり、表計算ソフトの利便性が向上する。VBAの文法を学ぶとともに、具体的なデータへの適用を、学生が所持するノートパソコンを使って確認しながら、より段階的に高度な内容へと進行する。	
	情報処理B	コンピュータの高度な活用を通して、デジタル情報処理の仕組みが理解できる。 多くのプログラミング言語の基本となった言語がC言語であり、現在も実用的に使用される場面が多く、最も普及している言語の一つである。また、プログラミングの学習用にも適した言語と言われている。本科目の目的は、C言語によるプログラミングの基本を学ぶことである。この科目で基本文法を習得すれば、他の言語への応用も可能となる。文法を習得しながら、学生が所持するノートパソコンにインストールしたCコンパイラを使用して入力から実行までの操作も行い、理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 経済学基礎科目	国際金融	異なる通貨を使う国際取引には、通貨の交換に伴って生じる特有の経済現象が発生する。こうした経済現象を扱う経済学の応用分野は「国際金融」と呼ばれている。国境を越えた企業活動や資金移動が盛んになった現在、現実の経済を語るうえでこうした「国際金融」の知識は不可欠である。この講義では、広義の外国為替市場で行われる様々な取引にはどのような意味があるのか、為替リスクは企業行動にどのような影響を与えるのか、またそうした為替リスクを回避するにはどのような手段があるのか、為替レートの変動をもたらす長期と短期・中期の要因にはどのようなものがあるのか、またマクロ経済政策からどのような影響を受けるのか、通貨危機はなぜ起こるのかなどについて理解できるようにする。またそれらに加えて、現代の世界で様々な為替レート制度がとられていることの理由を説明し、国際通貨制度の歴史の変遷を簡単に振り返ったあと、現在注目度の高いユーロ圏と中国の人民元を取り上げて、その背景と今後の課題について論じる。	隔年
	財政学	・現代の経済社会において重要な役割を果たしている財政分野を中心とした経済政策について、その制度の概要と課題を取り上げ、現実の問題点を経済理論と関連付けて解説する。 ・そのため、財政に関する経済理論について解説した上で、我が国における政府活動の諸制度の概要や財政的な課題を紹介し、これらの諸課題について経済理論を応用して説明する。 ・政府活動・財政政策とは何かという問題から、社会保障と税の一体改革やアベノミクスなど時事的な課題まで取り上げる。	
	国際経済学	この講義では、国境を越えて行われる経済活動のうち国際貿易と直接投資に焦点を当てる。別の言葉で言い換えれば、国際経済活動のなかの金融的活動を除いた、実体的活動を取り扱う。この分野を巡る議論は経済学の誕生とともに始まり、現代まで著しい理論的發展を経て内容豊かなものとなっている。この知識を正確に理解しておくことは、大学で経済学を学んだものとして必須のものと言えよう。講義で取り扱う主な内容には、比較優位、生産要素の賦存と国際貿易、生産技術と国際貿易、伝統的貿易政策の理論、不完全競争と貿易政策、規模の経済と産業内貿易、戦略的貿易政策、直接投資、技術移転、海外アウトソーシング、国際貿易ルールと貿易交渉などが含まれる。	隔年
	金融論A	・金融理論の基礎的な知識を紹介した上で、我が国や世界の金融制度の概要や政策上の課題、最近の動向等を解説する。 ・特に、金融制度については金融庁・日本銀行・金融機関の役割や金融商品の概要、金融自由化の流れなどの基礎的な事項からリーマンショックに端を発した世界同時金融危機の影響やイスラム金融、アジア債券市場育成策など時事的な課題、さらには地域金融機関に求められる役割まで取り上げる。	
	金融論B	この講義では、「マクロ経済学I」の内容を前提として、現在の日本におけるデフレーションの原因や金融政策に関係した、マクロ経済学のより上級のトピックを講義していく。デフレーションや金融政策を議論する上で、経済主体の将来に関する予想がどのように形成されるかを分析することが重要となる。そのため、この講義では、最初にIS-LMモデルやAD-ASモデルを復習した後、経済主体の予想形成を分析するという観点から、これらのモデルを拡張していく。具体的には、ケーガン・モデルと、ニューケインジアン・モデルの2つを説明し、これらのモデルを使って現代日本のデフレーションや金融政策について分析していく。講義を通じて、データを用いてマクロ経済理論を検証することや、理論を用いて現実のマクロ経済を解釈することができるようになることを目指す。	
	産業組織	この講義では、産業組織に関する標準的な理論を修得することを目的とする。「産業組織」の理論とは、ミクロ経済学およびゲーム理論を応用した学問であり、対象とする産業について、その参加者(企業、消費者、政府)の行動を分析・評価し、公共政策への理論的・実証的な基礎を与えることを目指す学問である。具体的には、企業は戦略的にどのような行動を選択するのか、また、その結果、社会厚生にどのような影響を及ぼすか、について考察する。そのうえで、独占禁止法や知的財産法といった諸政策が、各産業に与える影響について分析し、望ましい産業政策について検討する。	
	アジア経済論	1960年代以降にアジアNIESなどが急速な工業化によって脱貧困を果たしたことは、戦後世界経済の重大トピックの1つに数えられる。さらに近年は中国、ASEAN諸国、インドなどもそうしたテイクオフを果たしつつある。こうした後発・新興アジア諸国の後発的發展(キャッチアップ)の動態とその理論仮説を検証し、さらに躍動するアジアにおける日本経済・企業の位置と役割を考察する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	経済学基礎科目	現代産業論	この講義は前身の信州大学経済学部時代の1988年から「産業論特論」の名称で毎年開講してきた講義で、平成26年度までで27年目の開講を数えた。新学部でもこれを引き継ぎ、新たに「現代産業論」の名称で開講するものである。この講義の内容は、毎年現代産業に係るテーマを設定し、そのテーマに関して日本の産業活動をリードする企業人や政府等の政策担当者からオムニバス方式形式で講義を組み立てる方法で開講するものである。対象となる産業分野はその年度のテーマによるが、これまでの累積では製造業のほか、建設業、不動産業、流通業、食品産業、エネルギー産業、金融業などと多岐に渡っている。近年のこの講義で取り上げたテーマとしては、平成24年度が「大災害の経験と教訓」、平成25年度が「企業のグローバル化戦略と経済連携協定の課題」、平成26年度が「リスク社会への備えー保険と社会保障を中心として」であった。講義の進め方は、前半がゲスト講師による講義、後半が質疑応答、レポート作成となっている。授業のコーディネートと毎回のレポート採点による成績評価は学部専任教員① 山沖義和、4 徳井丞次が担当する。	共同
	現代職業論	実社会において職業上担うべき責務とは何か、求められる役割とモチベーションの持続を以下に継続し得るかについて、現実直面する前に真摯に検討させる。その一助として、本学部卒業生をゲスト講師に迎え、在学時の学習状況、就職活動及び実社会に出てからの職業体験、現在の職場・仕事内容等を披歴することで、キャリア形成観の育成を涵養するとともに、本学部の目標とする、学士として得た能力を即戦的に現場で応用できる職業人のイメージを喚起する。ゲスト講師は多岐に亘る産業、職種の中から活躍の場を広げている有意な人物を選出する。		
	経営者と企業	本講義は、信州大学が所在する長野県を拠点に活躍する企業の経営者から自社の発展と今後の課題を語ってもらい、学生に地元企業の魅力とそれを指揮する経営トップの活力に触れてもらうことを目的として、前身の経済学部時代（2000年）から開設し毎年継続してきた科目である。長野県内には40社ほどの上場企業と裾野の広い中堅・中小企業が多数存在し、そのなかには最近注目されているグローバル・ニッチトップ企業と呼べるような会社や、業態を変えながら数百年事業を継承してきた会社など特色ある企業が多数含まれる。学生がこの科目を履修することによって、こうした地域や世界で活躍する地元企業経営者から経営課題を聴いて経済学・経営学分野の諸科目で学んだ概念やものの見方の具体的な応用場面に気づくことができる教育効果に加えて、地元企業の「隠れた」魅力に接することによって将来地域創成を担う人材育成にも資するところがあるものと期待される。この授業は、長野県経営者協会からの協力を得て複数の企業に依頼し、その経営者をゲスト講師としてオムニバス方式形式で講義を行うものである。毎回の授業は講師による講義、質疑応答、講義内容に基づくレポート提出からなる。授業のコーディネートと毎回のレポート採点による成績評価は学部専任教員（4 徳井丞次、② 関利恵子）が担当する。	共同	
	英語文献研究	経済学に関連する英語文献の講読を行う。 新聞・雑誌、論文、書籍等の英語文献の講読を通じて、経済学部生に必要とされる英語力を養うことを目的とする。経済のグローバル化が進展する現代において、インターネットを含むさまざまな媒体から情報を収集するためにも、英語の読解力は社会生活を送るうえでますます重要になっている。授業で扱うトピックはさまざまだが、いずれも現代経済を理解するのに好個のものを取り上げ読み進めていく予定である。受講生は必ず予習を行い、積極的な態度で授業に臨むことが求められる。 具体的な教材や授業の進め方については、授業中に指示する。		
法専と企業科目のⅠ経済分析コー	法と経済学Ⅰ	この講義では、経済学が提供する社会現象・企業行動等に関する理論を用いて、法制度に関わる諸問題を考えることで、直感に頼らず、論理的に社会問題への対応策を検討できるようになることを目指す。商法、会社法といった経済活動に直接関わる法律は、経済学的視点による解釈が、従来の法解釈へ影響を与え始めている。また、従業員の解雇に関連して、解雇規制の存在が雇用環境や企業活動全般へ、どのような影響を及ぼすのか、経済学の分野で議論が展開されている。そこで、情報の経済学やゲーム理論といったミクロ経済理論の分析手法を用いて、企業金融や企業統治、解雇規制、知的所有権などのトピックスを取り上げ、法制度解釈への経済学的应用例を紹介していく予定である。		

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 法と企業の経済分析コース 専門科目 I	独占禁止法の経済学	この講義は、独占禁止法の概要、および、競争的な市場環境を維持・促進する観点からより望ましい経済政策を実現する政策について学習を進める。独占禁止法は、経済活動を規律する経済法の核をなす基本法であり、その目的は、競争の促進・維持、消費者の利益保護、および経済の発展にある。そこで本講義では、ミクロ経済学、ゲーム理論、および産業組織の理論で学習する経済学的手法を用いて、望ましい競争政策を見出すことを目的とする。そのうえで、海外および日本の産業構造、競争政策に対して理論的・実証的に分析できるようになること、また、ニュース・新聞・雑誌などで報じられる記事に対して経済学の視点から分析し、自分の言葉で説明できるようになることを目指す。	
	環境経済学Ⅱ	環境経済学Ⅰでは、環境問題の発生メカニズムと、問題解決のための経済的手法として有効な政策手段について学んだ。環境経済学ⅡではⅠの応用として、現在、環境経済学の研究と中心となっている課題について、単純な事例をもとに最先端の研究に触れる。具体的には、環境被害額と対策費用の割引現在価値、環境影響評価、ライフサイクル評価等を扱うことで、受講者は最先端の研究手法の論理を理解し、卒業研究等での課題を見つけることを目標とする。	
	経営組織論	この講義の達成目標は、経営組織の基礎的な知識の習得と、習得した知識をもとに、組織での意思決定や実際の活動を円滑に行う方法を考えることの2点である。講義ではまず、組織とは何かといった根本の議論からスタートし、組織図を中心とする組織構造、従業員の意識を中心とする組織過程、組織の性格を表す組織文化、組織が変わる瞬間を捉える組織変革などを検討する。さらに、実際の組織での仕事を想定したチームでの仕事についての内容を深めることで、より実践的な講義を行う。	
	財務会計	財務会計は、企業の経営成績や財政状態について財務諸表を通じて、企業外部の利害関係者に報告することを目的としている。本講義では、財務会計の機能、企業会計を取り巻く制度や会計基準について説明したうえで、適正な期間損益計算をするための収益と費用の認識・測定や利益測定、資産評価の基準などの概念について学ぶ。そのうえで、資産、負債、純資産の各項目や連結財務諸表などをとりあげ、企業会計の仕組みの全体像を把握していく。 また、会計は経営と密接な関係にある。そこで本講義では、企業経営と会計との関係がイメージしやすいように、適宜、企業事例や新聞記事をとりあげて説明する。なお、本講義履修にあたっては、「簿記・会計入門」の履修を前提とする。	
	管理会計	管理会計は、財務会計と異なり、主に企業内部の経営者や管理者が利用する会計である。具体的には、企業をマネジメントするための会計が管理会計であり、企業経営と管理会計は表裏一体な関係にある。管理会計の主な手法は、業績管理、コスト管理、意思決定である。本講義では、管理会計手法の理論的習得を目指す一方で、実際の企業経営にどのように管理会計が関わっているのかを事例を取り上げながら説明する。	
	公認会計士実務	公認会計士実務は、現場で活躍する公認会計士によって、企業を取り巻く会計監査に関する実践的な講義が展開される。講義内容は、公認会計士法及びディスクロージャー制度の概要、会計監査に必要な監査論と監査実務について、公認会計士の具体的な業務（監査・FA・税務）などである。	
	法と経済学Ⅱ	「法と経済学Ⅰ」で学んだ基礎知識を応用して、社会が直面している法的問題について検討を行う。社会的な問題の解決策を探る上で、経済学を基にする利点は、経済学的分析の特徴として、目の前の問題に対する直接的な解決策を考えるだけでなく、一つの解決策が周辺に及ぼす波及効果・副作用までも含めて検討できることにある。具体的に取り上げるトピックスは、株主保護の問題に関連して、買収防衛策導入の影響、少数株主保護、株主代表訴訟の効果、また、債権者保護と倒産処理法制の在り方、さらに、解雇権濫用の法理が労働市場にもたらした影響などである。この講義を通じて、ミクロ経済学の分析手法を活用することで、現実の事例の解決策を探る応用力を養うことを目指す。	隔年

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 法と企業の経済分析コース 専門科目 I	社会政策論	<p>社会政策とは、個人のみでは解決できない社会問題を解決するための公共政策であり、社会保障、社会福祉、労働問題、労使関係をはじめ、教育学やジェンダー研究、生活問題といった課題群(カテゴリー)から構成されている。この授業では、少子高齢化が社会問題化するようになった1970年代以降を射程に、主に日本における社会問題の実情を知り、問題解決に向けた社会政策の制度体系を学ぶことになる。</p> <p>この授業は、1.社会政策が直面する少子高齢化の現状と課題、社会政策の体系、福祉国家の類型を概観し(社会政策概論)、2.典型的な労働問題を取り上げながら労働市場政策を学び(労働問題と社会政策)、3.制度ごとに構成された生活支援の基本的な枠組みを学ぶ(生活保障と社会政策)、以上の3部構成となる。</p>	
	計量経済学	<p>経済学にはさまざまな理論が存在するが、それらの理論がどれくらい現実の経済を説明することができるかについては、経済理論から導かれるモデルが経済データにどれくらいあてはまり、説明力を持ったモデルであるかを、データを用いて検証する必要がある。あるいは逆に、データから帰納的に適合する経済モデルを見つけ構築していくことも経済学の発展にとっては不可欠の作業である。このように理論から導かれる数学モデルと経済データからの双方向のやり取りの中で、現実の経済に対して説明力のある経済モデルを構築して、経済の現状を分析することが計量経済学の課題である。</p> <p>この授業では、計量経済学の基礎理論を学び、経済モデルを構築し、データをあてはめ、経済理論を検証し、経済の実証分析を行うために基本となる手法を学ぶ。</p>	
	経済法	<p>本講義は、経済法の基本法である独占禁止法の理解を通じて、市場における企業等の競争を促進する仕組みについて、理論と実務の両面から理解することを目的とする。本講義では、独占禁止法の規制の柱である不当取引制限、私的独占、不公正な取引方法、企業結合について、これらの基本的な考え方に加え、公正取引委員会の調査・処分やそれに対する争訟の手続、さらには差止めや損害賠償といった事業者間の民事訴訟まで含めて、実体面と手続面を横断した解説を行う。必要に応じて、下請法や景品表示法にも触れる。</p>	
	労働法	<p>労働法では、急速に変化しているわが国の雇用慣行と法政策について、個別的労働関係法と集団的労働関係法を主たる範囲として講義する(労働市場法や紛争処理法についても必要に応じて言及する)。具体的に個別的労働関係法では、労働基準法と労働契約法の解釈を中心に、基本的な条文や基本的な概念を整理し、理解させる。集団的労働関係法では、労働組合や労働協約などの基本的な概念を押さえた上で、労働組合法の解釈を中心的に扱う。最新の法改正や理論状況、判例法理の動向を見据えて、労働法に関する基礎的な知識や思考方法を体得することを目的とする。</p>	
	社会保障法	<p>社会保障法では、わが国の社会保障法をめぐる制度を概観し、各制度における法律問題について学習する。具体的には、健康保険法や医療法等を主たる対象とする医療保障制度や、国民年金法や厚生年金保険法等を対象とする年金制度、労働災害や雇用保険を対象とする労働保険制度や、生活保護法をはじめとする公的扶助制度などを取り扱う。社会保障法に関する制度の全体像を掴むと共に、これら社会に出て働く上で理解しておいた方がいいと思われる制度について、基本的な仕組みと法的紛争についての知識を得ることを目的とする。基本的な概念を押さえることと関連する裁判例をとりあげることを重視する。</p>	
	会社法 I	<p>本講義は、わが国の会社法のうち、総則、設立、会社の経営機構、計算、組織再編、持分会社に関する法ルールを解説するものであり、会社の経営と法ルールの基本的な関わりを受講生に理解してもらうことを目的とする。</p> <p>条文や判例の基礎的な内容を中心に説明するが、受講生が具体的なイメージをもって学習できるように、適宜、新聞報道や実際の紛争事例などを説明に組み込むことを予定している。なお、必要に応じて、会社法のみならず、商法(第一編)や金融商品取引法の内容にも言及する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 法と企業の経済分析コース 専門科目 I	会社法Ⅱ	本講義は、会社法Ⅰに続いて、わが国の会社法のうち、株式、新株予約権、社債に関する法ルールを解説するものであり、株式会社の資金調達と法ルールの基本的な関わりを受講生に理解してもらうことを目的とする。 条文や判例の基礎的な内容を中心に説明するが、受講生が具体的なイメージをもって学習できるように、適宜、新聞報道や実際の紛争事例などを説明に組み込むことを予定している。なお、上場会社の資金調達は、金融商品取引法や取引所の上場規則によっても規律されるため、必要に応じて、これらの内容にも言及する。	
	倒産法	本講義では、清算型倒産処理と再建型倒産処理のそれぞれの一般法である破産法及び民事再生法を中心に、日本の倒産法制についての基礎的な知識及び体系的な理解の習得を図る。さらに、倒産法は平時の民事法秩序の実現が不可能となった非常事態の処理を定めるものであることから、倒産法の学習をとおして、民事法体系全体についての理解の深化・進展が期待される。計15回の講義では、倒産法の基本法である破産法をテーマに9～10回、その応用である民事再生法につき3回、そして残る数回で会社更生法等の特別倒産法を取り上げる。	
	行政法	行政法に属する領域のうち、総論部分と行政組織法の部分を取り扱う。具体的には、標準的な体系に基づいて、行政法の基本原理、行政組織法、行政過程論(行政の行為形式、一般的制度)についての基本的な考え方と行政手続法、国家行政組織法等の通則的な法律についての基本的な条文を理解させたいうえで、行政組織、行政活動にいかなる法的な規律が及んでおり、いかなる形で行政組織を構築し、行政活動を行うべきかについて具体的な場面に即して考えられるようになることを目的とする。	
	行政学概論	この講義では、学習する対象をNational Government、そのうち国の行政府の制度と運用を中心にすえている。国の行政府の「制度」については、他の講義(憲法、行政法等)においても学ぶことになる。この講義においても「制度」を理解してもらうためのメニューを用意しているが、学習の重心は「運用」の方においている。 というのは、しばしば「行政とは法の執行である」という説明のされ方がなされるが、そうした定義のしかたは「行政」というものを理解するうえでまったく不十分なのであって、むしろ行政の運営は法令以外のルールー予算、計画、行政規則そして慣行に統制されているからである。 講義では明治維新、戦後改革に次ぐ「第三の改革」ともいわれている「中央省庁等改革」をはじめとする近年の行政改革を材料として扱い、省庁制、内閣制、稟議制、行政職員の裁量、行政責任等を検討する。	
	自治行政	地方分権推進一括法の制定にともなって地方制度の大改革が実現した。この分権改革のねらいは、都道府県や市町村の裁量の範囲を拡大することによって、地域の問題はその自治体、住民の力で自ら解決できるようなくみにしようというものである。 この改革によって、自治体がどういう仕事をどうふうにするかによって、私たちの生活がよくなるか、そうならないかが決まるようになる、といっても必ずしも過言ではない。それだけに、私たちが今後、自治体にどうかかわっていくかということを考えることがより重要になる。 講義ではまず、地方自治の基礎知識を身につけてもらう。そのうえで、これまで地方自治のあり方の何が問題とされているのかを明らかにする。また、地方自治に関連する最近の事件をとりあげ、私たちの身の回りに起こっていることが、自治体とどのようにかかわっているかを検討する。	
政治学基礎	多様な価値と利害を調整し、どのように社会の課題を解決していくか。複雑な公共政策の課題を理解するために必要な政治学の基礎的な知識と概念を理解する。社会の一員として、投票行動や様々な社会的な活動に主体的に参加するために必要な政治・政策分析能力、メディア・リテラシーを向上させる。 社会科学とは何か。政治学とはどのような特徴を持っているのか。まず、政治権力、公共性、デモクラシーなど、政治学の基礎的な概念を解説する。次に政治のルール(制度)と政治主体に関する問題を考察する。さらに経済・社会・外交政策など重要な公共政策課題を理解するための基礎知識を整理する。 レスポンスシートを利用し、授業の理解度を確認し、質問を把握する。論述試験を課し、自分の考えを適切に文章にまとめる能力を向上させる。		

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 法と企業の経済分析コース 専門科目 I	国際政治	国際社会の課題である貧困と開発、環境問題、平和構築などのグローバル・イシューについての基礎的な知識を身につけ、その歴史的経緯、解決への模索及びその問題点について理解を深めていく。講義を通じて、時事問題への関心を高め、基礎的な学習能力と問題解決のための思考力を養う。全体は、以下の3つに大きく分けられる。まず第Ⅰ部では、貧困と開発に関する問題について理解を深める。第Ⅱ部では、紛争と平和に関する課題について考察する。第Ⅲ部では、グローバル・イシューに対応するための国際社会のあり方やグローバル・ガバナンスの課題に焦点を当てる。レスポンスシートやグループ・ディスカッション、発表を取り入れ授業への参加を促す。	
	国際政治演習	国際政治経済及び国際開発の分野について、演習形式で発展的な理解を深める。さらにプレゼンテーション能力やディスカッション能力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。学生は、国際社会の課題に関する図書及び雑誌記事・論文などの日本語及び英語文献や報告書を元に、調査・研究、報告をした上で、議論を行うことを通じて、国際政治経済及び国際開発分野に関する理解を深める。外部講師なども依頼し、実務的な能力への理解を深め、インタビュースキルなども身につける。また、英語による学習能力やコミュニケーション能力の向上を目指す。	
	経済学演習Ⅰ	<p>経済学演習Ⅰは、少人数の演習クラスに分かれて担当教員の指導のもとに、演習形式で行われる。2年次後期から始まるこの演習は、3年次の「経済学演習Ⅱ」、4年次での「卒業論文」へと繋がる少人数指導の重要な入口と位置づけられているので履修が強く推奨される。各演習では、担当教員の専門分野に沿って演習のテーマが設定され、その分野の専門的知識を身につけ、3年次の経済学演習Ⅱでの演習論文作成のための基礎固めすることが教育目的となる。</p> <p>経済学演習Ⅰを担当する各教員が取り上げるテーマは次の通りである。</p> <p>(1 柳町晴美) この演習では、産業発展と自然環境保全に関する様々な課題を取り扱う。持続可能な発展のために、地域で問題となる事例について地域調査、オープンデータを活用した分析などにより、報告と討論を行う。</p> <p>(2 金早雪) この演習では、アジア等の新興諸国の経済発展や開発政策について、それぞれの政治体制や社会変化との相互関連のもとで考察する。具体的にはASEANの経済統合、中国の外資導入戦略、韓国・台湾の民主化・社会変化と社会保障政策、IMF・世界銀行や日本の開発援助政策などから文献・論文または英字記事などを選んで輪読し、報告と討論を行う。</p> <p>(① 山沖義和) この演習では、我が国のブルーデンス政策や金融政策など主として金融分野の諸課題について取り上げます。財務省・金融庁等における行政経験を有する教員と一緒に金融分野に関する文献輪読とともに、日本経済の直面する課題についてグループ発表・グループディスカッションなどを通じて自らが考える力を養わせる。また、夏休みには官公庁・企業等を訪問する合宿を予定している。</p> <p>(4 徳井丞次) この演習では、日本経済を巡る様々な課題を取り扱う。若年者の雇用問題、団塊世代の定年、人口減少、社会保障、中小企業論、生産性、大災害の経済的影響、世界金融不況、国際通貨制度、マクロ経済など幅広いトピックのなかから文献を選んで輪読し、報告と討論を行う。</p> <p>(5 西村直子) この演習では、近年の経済学研究において経済実験手法が果たす役割について学習する。個人が経済活動を評価する際に仮定される効用関数本体の実測から始まり、複数の人間が関与するゲームの状況における行動の観測を経験してみる。また、それらの測定結果が、既存の経済学理論とどのような対応になっているのか、文献を参照しながら、現在の行動・実験経済学での論点について、グループによる報告と討論を介して学習する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	法と企業の経済分析コース専門科目 I	<p>経済学演習 I</p> <p>(6 椎名洋) この演習では推測統計学の基本を再確認する。授業の「統計学Ⅰ」「統計学Ⅱ」の内容を再度勉強しながら、練習問題を解き、その解法をプレゼンしてお互いに確認し合う。さらに、統計プログラミング言語「R」の基礎的な使用法を学び、これを使って実際のデータに統計手法を応用する。</p> <p>(7 廣瀬純夫) この演習は、ミクロ経済学の基本的な考え方を身につけ、“経済学的視点から物事を考えるセンスを養う”ことを目的とする。目指すところは、目先の現実にとらわれず、物事の全体像を認識して、問題解決の方向性を考えるセンスを身に付けることにある。同時に、ミクロ経済学の理論が現実経済にあてはまるかどうかを検証する作業として、統計分析の基礎的なテクニックを、Excel等を用いて学習する。</p> <p>(8 井上信宏) この演習では、社会保障、社会福祉、生活問題といった社会政策の課題群から研究テーマを選定し、グループワークによる文献調査、社会調査、収集データの分析方法を体験的に学ぶことになる。</p> <p>(9 吉村信之) 演習Ⅰでは、経済理論および日本経済・世界経済の現状分析を主なテーマとして、広範な文献を輪読し、報告と討論を行う。演習で取り扱う文献は、①経済学の理論的文献・古典的著作、②現代の日本経済・世界経済に関する書籍、であり、またそれらに加えて、合宿などにおいて③経済学に隣接する分野——社会学その他——の文献、等も取り上げる。</p> <p>(② 関利恵子) この演習では、会計全般（財務会計・管理会計）の理論を報告と議論形式で学んでいく。そのうえで、関心のあるテーマについて文献検索を行ない会計への知識を深めていく。さらに実際の企業分析も行い経営と会計の関連についても議論していく。</p> <p>(③ 岩田一哲) この演習では、経営学、特に、従業員の行動に関する課題を取り扱う。仕事へのモチベーション、リーダーシップ、ストレス、キャリアといった従業員の組織内の行動の検討が中心である。従業員の行動にまつわる特定の課題を、チーム単位と個人単位の両者の方法で報告をってもらう中で、演習論文を作成するための基礎的な枠組みを確立してもらう。</p> <p>(12 武者忠彦) フィールドワークにもとづく論文執筆のため、文献や資料の検索方法、インタビュー実習、グラフィックソフトを用いた作図、GIS（地理情報システム）実習、文章構成の技法などの基本的なスキルを身につける。</p> <p>(13 増原宏明) この演習では、医療経済を巡る様々な課題を取り扱う。医療・介護保険、診療報酬制度と薬価、受療行動の経済分析、供給者誘発需要と医療機関の行動、医療専門職の労働市場、医療・介護制度の国際比較、医療計量経済学など幅広いトピックのなかから文献を選んで輪読し、報告と討論を行う。</p> <p>(④ 青木周平) この演習では、学生は、経済成長、所得格差、政策などのトピックの中で、各自が重要だと考える課題を設定し、その課題に関する既存研究の調査を行う。その上で、既存文献で明らかになっていない問題を整理する。課題に関連したデータの収集も行う。ゼミでは、これらに関する報告と討論を行う。あわせて、分析のために必要な統計手法やソフトウェアなどに関する勉強会も行う。</p> <p>(15 大野太郎) 公共経済学・地方財政に関するテキストを用いて輪読を行う。各回の授業では、まず報告者が当日の内容をレジュメにまとめて報告する。次にコメンテーターが報告内容に関連するコメントや質問を行い、最後に全員でディスカッションを行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	法と企業の経済分析コース専門科目Ⅰ	<p>経済学演習Ⅰ</p> <p>(16 海老名剛) この演習では、企業の経営戦略（産業組織論、ゲーム理論、経営学）および競争政策（独占禁止法）の基礎について学習する。目標は、2年次最後の春休みに演習論文のアウトライン5,000字、および文献研究5,000字の計10,000字からなるプロポーザルを作成することである。そのため、上記のテーマに関する文献の輪読および討論を行う。またプロポーザル作成の練習のため、夏休みにグループで課題に取り組み、グループ発表を行う。</p> <p>(17 加藤恭) この演習では、ファイナンス・金融工学における入門的なトピック、及びその理解に必要な数学について、テキストの輪読・ゼミ発表等を通じた学生主体の学習を行う。</p> <p>(⑤ 矢部竜太) 計量経済学の上級理論を学んだり、実際のデータを用いた実証分析を行う上で必要となる基礎的な統計学を身につけるためにテキストの輪読を行う。受講者は担当箇所の報告を行い、演習問題を各自解く必要がある。また英語の文献を読み解く能力が研究を進めていくために必須であるため、テキストは英語のものとする。</p> <p>(⑥ 金本圭一朗) この演習では、環境経済学の文献を輪読し、環境経済学の研究を行う上で、用いられている手法を学ぶ。さらに、受講者が各章を報告し、全体で討論を行うことで、環境経済学における専門的知識を身につける。具体的には、産業連関分析、ライフサイクル評価、貿易と環境等に関する専門的知識を学ぶ。</p>	
		<p>経済学演習Ⅱ</p> <p>経済学演習Ⅱは、少人数の演習クラスに分かれて担当教員の指導のもとに、演習形式で行われる。各演習で取り上げる分野の専門的知識を身につけ、その知識を前提にして学生各自が選択した研究テーマに沿って研究発表と討論を行い、演習論文を作成する。このプロセスを通じて、研究テーマの設定、データや資料の収集と分析、口頭発表でのプレゼンテーション、論文の作成を経験させることによって、問題発見・解決の能力と口頭及び文章でのコミュニケーション力を養うことを教育目的とする。</p> <p>経済学演習Ⅱは、2年生後期に履修する経済学演習Ⅰを継続して、同じ担当教員の演習を受講するのが原則だが、合理的な理由がある場合には学生の申し出により、別の担当教員の演習に移ることを許可する。</p> <p>経済学演習Ⅱを担当する各教員が取り上げるテーマは次の通りである。</p> <p>(1 柳町晴美) この演習では、持続可能な発展のために、地域で問題となる事例について、地域調査、オープンデータを活用した分析などから地域を比較し、環境問題解決に繋がる課題を発見し、演習論文作成に取り組む。</p> <p>(2 金早雪) この演習では、アジアや新興諸国の経済を巡る様々なトピックをとりあげて報告と討論を行い、演習論文の研究テーマ発見に繋げる。学生は演習論文作成のため、普段からアジア等の経済情報をフォローし、できれば実際に出かけたりもして、論文のテーマを定めて中間発表を2回程度は行い、他の演習参加者からの質問、コメントなども参考にして演習論文を完成させる。</p> <p>(① 山沖義和) この演習では、行政経験を有する教員の指導の下、ブルードンズ政策や金融政策など金融分野を中心とした日本経済の直面する諸課題に関して報告・討論を行い、演習論文の研究テーマを決めるとともに、テーマ発表・中間発表等を通じて、指導教員だけでなく他の演習参加者からの質問・コメントも参考しつつ演習論文を完成させる。また、夏休みには官公庁・企業等を訪問する合宿を予定している。</p> <p>(4 徳井丞次) この演習では、日本経済を巡る様々なトピックをとりあげて報告と討論を行い、演習論文の研究テーマ発見に繋げる。学生は演習論文作成のため、年間を通じて何回かテーマ発表、中間発表などを行い、指導教官だけでなく他の演習参加者からの質問、コメントも参考にしながら演習論文を完成させる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	法と 企業 の 経 済 分 析 コ ー ス 専 門 科 目 I	<p>経済学演習 II</p> <p>(5 西村直子) この演習では、行動・実験経済学で論点になっている最新トピックを選び、自ら実験に参加してデータを採取する。理論分析から実験仮説を構築する方法を学び、統計学手法を利用したデータ分析が理論検証にどのように活かせるのかを、グループワークを中心に学習する。最終的には、自らデザインした実験に基づいて演習論文を書くことを目標とする。それに向けて、テーマ発表や中間報告を実施する。</p> <p>(6 椎名洋) この演習では、統計学が応用される様々な分野ごとのより専門的なデータ分析の手法を学ぶ。年によって、テーマは違うが、機械学習、多変量解析、ファイナンスといった分野の研究を予定している。理論の把握とともに「R」を使った実際のデータの解析を行う。</p> <p>(7 廣瀬純夫) この演習では、演習 I で習得した、ミクロ経済学の応用による経済現象の分析手法と、統計的分析テクニックを駆使して、1年間に2~3のテーマについて、研究分析を行う。夏休みには、他のゼミとの合同報告会を行い、分析内容の改善の余地について、報告会参加者の間で議論を行う。取り上げたテーマの中で、もっとも完成度の高いものを演習論文としてまとめる。また、ゼミ参加者の関心に応じて、産業組織論、労働経済学、金融論などミクロ経済学の応用分野の学習も行う。</p> <p>(8 井上信宏) この演習では、社会保障、社会福祉、生活問題といった社会政策の課題群から個人の研究テーマを選定し、文献調査、社会調査、収集データの分析、討論を重ねて解決に向けた政策提言を導きだし、それらを演習論文としてまとめるまでを体験的に学ぶことになる。</p> <p>(9 吉村信之) 演習 II では、演習 I と同様、経済理論および日本経済・世界経済の現状分析を主なテーマに、文献の輪読および報告と討論を行う。演習 I に所属する学生と同じ文献を輪読し、教員および演習 I の学生からの質問等に解説・解答を与えるとともに、最終的には各自のテーマを設定して演習論文を作成することを目標とする。年度を通じてテーマ発表や演習論文の中間報告を行う。</p> <p>(② 関利恵子) この演習では、会計全般の問題について議論・報告をしていく一方で、演習論文のテーマ選びも進めていく。年間を通して、演習論文執筆のための指導を実施する。論文成果については、他研究室を交えて成果報告会を実施する。</p> <p>(③ 岩田一哲) この演習では、従業員の行動に関する課題について報告ならびに討論を行い、演習論文を執筆することを目的とする。ここでは、通常の演習ならびに中間発表会などの方法で学生各人が卒業論文の内容について発表する中で、演習の内外からの質問等を参考にしながら、演習論文を作成してもらいたい。</p> <p>(12 武者忠彦) 経済学演習 I で身につけたスキルをもとに、調査対象地域に関する研究テーマを設定し、問いと仮説を立て、複数回にわたるフィールドワークを通じてデータや資料を収集し、論文を執筆する。</p> <p>(13 増原宏明) この演習では、医療経済を巡る様々なトピックをとりあげて報告と討論を行い、演習論文の研究テーマ発見に繋げる。学生は演習論文作成のため、年間を通じてテーマ発表、データを用いた実証分析の中間発表を行う。指導教員だけでなく他の演習参加者からの質問、コメントも参考にしながら演習論文を完成させる。</p> <p>(④ 青木周平) この演習では、学生は、経済学演習 I で行った作業をもとに、既存文献で明らかになっていない問題を分析し、その結果を演習論文の形にまとめる。学生は演習論文作成のため、分析の内容に関して発表を行う。演習参加者からの質問、コメントを参考に、演習論文の内容をブラッシュアップさせる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 法と企業の経済分析コース 専門科目 I	経済学演習 II	<p>(15 大野太郎) 学生各自が関心のある研究テーマを設定し、それに関する文献にあたって考察を深める。各回の授業では、まず報告者が当日の内容をレジュメにまとめて報告する。次にコメンテーターが報告内容に関連するコメントや質問を行い、最後に全員でディスカッションを行う。学生はこれらの取り組みを通して調査・分析の成果をまとめ、卒業論文を完成させる。</p> <p>(16 海老名剛) この演習では、企業の経営戦略および競争政策を巡る様々なトピックをとりあげて報告と討論を行い、演習論文の作成に繋げる。学生は演習論文作成のため、年間を通じて何回かテーマ発表、中間発表などを行う。また、学生同士のピア・レビューを行い、指導教官だけでなく他の演習参加者からの質問、コメントも参考にしながら演習論文を完成させる。</p> <p>(17 加藤恭) この演習では、数理ファイナンス・金融工学に関して、学生の希望に従い演習論文の研究テーマを設定し、演習論文作成のための報告や討論を行う事で演習論文の完成を目指す。また研究内容に関する口頭発表を都度行い、プレゼンテーション資料の作り方や発表の仕方についても学習する。</p> <p>(⑤ 矢部竜太) 前期では計量経済学の様々な理論や分野を知ってもらうために洋書の輪読を行う。後期では参加者の関心に応じてグループによる実証研究を行う。まず、テーマを決定するために興味のある先行研究を報告し、議論を通じて研究分野の理解を深める。その後、実証分析を行い、結果の報告と議論を行う。</p> <p>(⑥ 金本圭一朗) この演習では、環境問題に関するトピック、例えば生物多様性と貿易を設定し、そのトピックについてグループ別に環境経済学に関連した背景、研究手法、主要な結果を報告し、全体での討論を行う。そこで得られた知識をもとに、演習論文の課題の発見へと繋げ、演習論文を完成させる。</p>	
	健康・スポーツ・自然演習 I	本演習は、「心身の積極的健康づくり」をテーマに、健康づくりのための運動・スポーツ、また自然環境の中でのレジャー諸活動の理論と実践について演習形式で理解を深めつつ、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力、コミュニケーション能力、そしてコーディネート力を身につけることを目的とする。学生は、健康づくりのための方策を如何にコーディネートすれば人々に実践してもらえるかを調査・研究・報告をし、議論を行うことを通じて、健康・スポーツ・自然に関する理解を深める。	演習 20時間 実習 20時間
	健康・スポーツ・自然演習 II	本演習は、健康・スポーツ・自然演習 I に引き続き、「心身の積極的健康づくり」をテーマに、健康づくりのための運動・スポーツ、また自然環境の中でのレジャー諸活動の理論と実践について演習形式で発展的な理解を深めつつ、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力、コミュニケーション能力、そしてコーディネート力を身につけることを目的とする。学生は、健康づくりのための方策を如何にコーディネートすれば人々に実践してもらえるかを調査・研究・報告をし、議論を行うことを通じて、健康・スポーツ・自然に関する理解を深める。	演習 20時間 実習 20時間
	卒業論文	学生には大学での勉学の集大成として卒業論文の作成が推奨される。応用経済学科の学生の卒業論文作成の指導は、原則として「経済学演習 II」の指導教員が務める。4年次に進級した学生で卒業論文の作成を希望するものは、年度の始めに「卒業論文」の履修登録を行い、指導教員と相談して卒業論文作成計画書を作成する。学生は、この計画書のスケジュールに従って卒業論文の進捗状況を定期的に指導教員に報告しながら指導を受け、卒業論文を完成させる。卒業論文の形式要件としては、2万字程度を原則とし、研究領域・内容の性格上字数がこの目安から大きく乖離する場合には、卒業論文作成計画書を作成する段階で事前に指導教員の承諾を得ておく必要がある。その他書式の詳細については、学生便覧で指示する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	法と企業の経済分析コース専門科目Ⅱ	ファイナンス理論	数理（計量）ファイナンス、あるいは金融工学と呼ばれる分野における代表的な三つのトピック（①ポートフォリオ理論②デリバティブ価格評価理論③金融リスク計測手法）それぞれに関する基礎的な理論を学習し、金融リスクの計測・管理のための確率論的手法を用いた定量的手法を習得する。ファイナンス理論では金融商品価格等の将来の不確実性を定量的に取り扱う事が重要となり、そのためには確率論や統計数学といった数学理論・数理的手法が要となる。そのため、本講義でも簡単な確率論の復習を扱う予定だが受講のためには基本的な確率論または統計数学を学習している事が望ましい。またファイナンス理論の先端的な研究や実務への応用に関する概観を掴むため、少し高度な数学を用いた発展的な内容も紹介する。その際、必須ではないが「確率過程論」を履修していると理解の助けになると考えられる。
	ファイナンス応用	ファイナンス理論の実践として、デリバティブの価格計算・リスク管理やポートフォリオ最適化に関する、プログラミングを用いた計算演習を行う。具体的には、①株価データを用いて平均分散理論に基づいたポートフォリオ最適化計算と効率的フロンティアの作成②多期間モデルを用いたオプションや先物の価格計算③モンテカルロシミュレーションを用いた金融リスク量計算等を扱う。自ら手を動かして計算を行う事で、ファイナンス理論をより深く理解し、また実際の金融機関における定量的業務のイメージを掴む事が出来る。受講のためには R, Excel VBA またはその他の言語によるプログラミング経験（数値計算、データ処理、グラフの作成）がある事が望ましい。また「ファイナンス理論」を履修している事が望ましい。必須ではないが、「確率過程論」を履修していると②のデリバティブ価格計算についてより深く理解する事が出来ると考えられる。	
	地方財政	日本の地方財政をテーマに、その経済学的な分析について解説する。地方財政に関する「実態・制度」と、政策の機能等を捉える「理論」双方を扱い、政策の意義や課題について考察する。まず家計・企業などの自由な取引に基づく経済社会の中で「政府の果たすべき役割は何か」（財政の3機能）、さらに「国と地方自治体の役割分担をどのように行うべきか」（機能配分論）に関して基本的な考え方を整理する。その後、歳出面では地方自治体が担うべき政策、歳入面では地方自治体に賦与されるべき税源や、目的に応じた補助金のあり方などについて扱う。	
	公共経済学	政府の財政をテーマに、その経済学的な分析について解説する。主に政策の機能等を捉える「理論」を中心に扱い、政策の意義や留意点について考察する。家計・企業などの自由な取引に基づく経済社会の中で、政府の果たすべき役割として「効率的資源配分」「所得再分配」「経済安定化」（財政の3機能）を担うことが求められる。政府はなぜこれらのことを担うべきなのか、またその目的を達成する上でどのような政策手段が求められるかなどについて扱う。	
	医療経済学	医療経済学は大きく、制度、経済理論、実証研究の3つから成り立つ。まず制度では、医療には多くの規制がかかる。これらを整理しながら、医療制度の特徴を把握する。次に、医療制度のもとでのインセンティブ構造が決まり、資源配分が歪むかどうか、経済理論によって確かめる。最後に、医療制度の下、経済理論によって説明される行動が実際に起こっているかについては、実際のデータを用いて検証しなければならない。ミクロ計量経済学的手法を用いて、実証分析で確かめる。	
	医療制度論	医療は情報の非対称性を回避することができないので、さまざまな規制が存在する。そこで本講義では、医療サービスの需要側、供給側に対する規制を紹介し、それらを整理しながら望ましい医療制度のあり方を考察する。具体的には、需要側の規制として、まず全国民が強制的に加入させられる医療保険制度と、高齢者の医療制度の仕組みを概説する。次に、供給側に対して課される規制として、医療法・医師法、医療職の免許制度と、施設基準、診療報酬制度・薬価基準を議論し、それらの長所短所を整理する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	法と企業の経済分析コース専門科目Ⅱ	社会保障政策論	現在の日本において、政府支出の最も大きな割合を占めているのが社会保障関係費であることは良く知られている。社会保障に限らず、公共の福祉にかかる様々な社会的サービスは、私たちが日常生活の中で利用している社会のセイフティネットといえるしくみである。 この授業は、日本に暮らす私たちの日常生活におけるリスクを管理するセイフティネットのしくみ、すなわち、社会保障、公衆衛生、居住、教育など、公共の福祉にかかるテーマをとりあげ、それぞれの制度が生まれた背景を歴史を遡って整理し、その政策効果を考える。 特に、社会保障政策の理念や機能、制度枠組みなど、基礎的な知識を学んだ上で、公的年金、医療保障制度、介護保険制度、公的扶助、社会福祉などを取り上げて、それぞれの政策が策定された背景、現状と現代の課題を学ぶ。	隔年
		比較社会保障論	すべての国民に、「人間らしい生活」(韓国憲法第30条)を保障することはできるだろうか。先進工業諸国の社会保障制度は多くの新しい課題に直面しているが、他方、アジアNIESなどの新興工業諸国では、急速な工業化・都市化を経て、目下、急速な少子高齢化が進行するなかで社会保障制度の構築と改革に取り組んでいる。こうした世界の社会保障制度の構築と改革について、先進諸国と後発・新興諸国との比較考察を通じて、〈自助〉〈共助〉〈公助〉の多様なあり方を考える。主な内容は、(1)戦後福祉国家の形成と揺らぎ、(2)新興工業国から新興福祉国家へ～分断国家韓国の市民福祉革命を中心に、(3)現代福祉政策の国際比較の3部構成となる。	
		経済地理学	私たちの生活や経済活動が営まれる場として、きわめて重要な意味を持つようになった都市について、その立地の動態と理論を学ぶ講義である。全体は二部構成となっている。第一部では、都市の立地について、経済(比較優位と集積の経済)、政治(空間の生産をめぐる政治)、技術(交通・建築・計画)という3つの側面から説明する。第二部では、チューネン・アロンゾモデルやウェーバーの工業立地論、都市システム論などを用いて、都市に立地する個別の産業の動態について学ぶ。	隔年
		自然環境概論	環境保全、持続可能な開発のための地域政策や企業活動に必要な自然環境に関する知識の習得を目指す科目である。主に、気候環境(世界の気候、日本の気候、地球温暖化)に関する領域を扱う。気候の地域差をもたらす要因について基礎的な知識を習得し、気候の特徴をグローバルスケールからより小スケールへと解説し、各スケールにおける地域差、地域差をもたらす要因について理解を深める。日本の気候、長野県の気候の特徴も概観する。地域によって気候は多様であるとともに、共通性もあること、気候は人間生活にどのように影響するのか、逆に、人間活動が環境を改変し、ヒートアイランド現象や地球温暖化をもたらしたことについて考察する。	
		自然環境フィールドワークの理論と実践	われわれ人間は、いわゆる自然という環境からたくさんの恩恵を受けている。そのことが自然環境にとって、また人間にとってどのような意味をもつのであろうか。この講義では、「自然環境の中での人間のあり方」、「自然環境とは」をテーマに、「自然環境における人間の営み」について考えることをねらいとしている。具体的には、自然環境の中での人間の諸活動が及ぼす影響(環境問題)、また自然環境からの恩恵(レジャー活動や心身の健康づくりへの寄与)について考える。講義は自然環境と人間の関係を実際に体感するために、信州の自然を活動場所として休日を利用したフィールドワークを実施する。フィールドワークにあたっては、その計画立案から実施にいたるまでグループワークにより進め、それに必要な知識・態度・ルール・マナーを学習する。そしてフィールドワークから感じとったことなどをテーマにグループでの研究発表を行い、自然環境と人間の営みについて理解を深める。	
	医療社会学	この講義では、近現代社会で生まれ育ち、若い、病み、死ぬという高度に医療化された経験を、社会学が提供する社会と個の関係を読み解く視点からとらえなおしていく。とりあがるテーマには、病氣行動、死亡率/有病率、QOL、社会支援、社会関係資本、慢性疾患、根拠に基づく医療(EBM)と語りに基づく医療(NBM)、精神疾患、逸脱、スティグマ、患者中心の医療、監視医療、医師-患者関係、セルフケア、家族ケア、コミュニティケア、セルフヘルプグループ、医療体制、資源の配分、政府による医療への介入、社会統制などが含まれる。		

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 法と企業の経済分析コース 専門科目Ⅱ	健康政策論	<p>健康づくりに関する諸施策は、個人の健康面の改善効果のみならず、日本の社会保障制度を持続可能なものに変えていくためにも、現在重要な位置づけにあるといえる。さらに、健康づくりに関する諸施策は、個別の社会保障制度が対象とする課題を超えて、ソーシャルキャピタルの育成にかかる基礎自治体を始めとするまちづくりや地域づくりに関する諸政策に強い影響を及ぼしつつある。</p> <p>健康政策論では、健康づくりに関する諸施策の今日的課題のいくつかについてテーマを絞り、健康づくりと福祉のまちづくりにおける公共政策が抱える現状と課題を学ぶ。</p> <p>この授業は、専任教員2名（井上信宏、増原宏明）、兼任教員3名（古屋顯一教授〔総合法律学科〕、中澤勇一准教授〔医学部医学科地域医療推進学講座〕、関口健二特任教授〔医学部附属病院総合診療科〕）がオムニバス方式で担当し、途中でゲスト講師を招聘する。それぞれの担当は、次の通りである。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(8 井上信宏/3回) イントロダクション、福祉のまちづくり等 (13 増原宏明/3回) イントロダクション、医療と介護の連携による社会保障コストの削減等 (29 古屋顯一/2回) ヘルスプロモーションにおけるスポーツの役割 (45 中澤勇一/2回) 地域医療推進の現状と課題 (42 関口健二/2回) 総合診療の促進における現状と課題</p> <p>このほかに、基礎自治体における健康政策の推進について（ゲスト講師、1回）、基礎自治体におけるソーシャルキャピタル育成の取り組みについて（ゲスト講師、1回）、高齢者の在宅介護の推進の現状と課題（ゲスト講師、1回）などを実施する。ゲスト講師の回は、専任教員が担当する。</p>	隔年 オムニバス方式
	都市政策論	<p>本講義は、人口減少、脱工業化、環境志向、グローバル化、東京一極集中といった時代の趨勢のなかで生じている現代の都市問題に対して、どのような都市政策が望ましいのか論理的に思考できるようにすることを目的としている。全体は三部構成となっている。第一部では、都市政策がなぜ必要となったのかについて、市場経済の出現と都市問題の拡大を背景として近代都市計画が成立したことを説明し、官僚主義や計画主義によって多様に展開していくことを、海外諸都市などを事例に整理する。第二部では、戦災復興を契機とした都市計画によって、先進国の諸都市が近代化していく過程について、主に日本の都市政策を中心に説明する。第三部では、現在の都市政策の趨勢について、コンパクトシティやクリエイティブシティなどの議論をふまえて説明する。</p>	
	経営労務論	<p>この講義の達成目標は、経営労務の基礎的な知識を習得し、経営労務の問題を解決する方法論を考えることにある。経営労務は、企業だけでなく、医療や福祉政策などのより広範な社会との関係も深い。例えば、従業員のストレスや長時間労働は、過労死・過労自殺などの過労による疾患に結びつき、医療との関係が深い。また、従業員の待遇に関する議論は賃金や福利厚生との制度に関係するだけでなく、セーフティネットなどの福祉政策にも影響を与える。したがって、経営労務の視点から広く社会への問題にもアプローチする。</p>	隔年
	生保数理	<p>この講義では、生命保険を題材に保険数理の基礎を学ぶことができる。他の講義で予定されている年金数理あるいは損保数理にも共通の概念、表現形式を扱う。この概念、表現形式を正確に理解しておくことは、保険数理を取扱うアクチュアリー資格を目指すものとして必須のものと言えよう。講義で取り扱う主な内容には、利息、割引、現価、終価および死亡率の概念、保険料、責任準備金、基数表の計算技術、保険数理記号の習得などが含まれる。</p>	
	年金数理	<p>アクチュアリアルな数理の分野には生命保険数理、年金数理、損害保険数理の3分野があるが、この講義の対象は年金数理である。講義では確率統計の手法をベースとして、年金制度に対して数学的側面からアプローチをし、年金の数理的構造、年金財政をアクチュアリアルに理解することを目的とし、年金数理の基礎的知識の体系的、年金財政の仕組み、年金の概論的な理解を目指す。本講義では、年金数理の基礎、年金財政の概要、財政計算、年金財政の検証、等を講義する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	法と企業の経済分析コース専門科目Ⅱ	損保数理	損害保険数理は確率・統計・経済における条件付確率、統計的推測・決定問題、確率過程、リスク評価の実務的側面もあり、本講義ではその応用数理的な基礎知識について学ぶ。併せて興味を持った学生が日本アクチュアリー会で課している「損保数理」を受験できるための基礎知識の習得も目指す。具体的には損害保険の仕組み、損害保険料率算定、支払保険金分析、リスクセオリー(破産確率等)、リスク評価(リスクの計量化)について講義する。	集中
		数理モデル論	この講義では、実世界における種々の現象の本質を失わない範囲で簡明かつ厳密な数学的なモデルを構築し、それを数学的に解析し、導かれた結果を実世界の現象と比較してその現象の本質的な構造を明らかにする手法である数理モデルの考え方を講義する。講義においては、具体的な対象として株価変動の2項モデルを中心に扱い、オプションの価格付けや複製ポートフォリオの構成を扱う。必要となる確率論の基礎事項についても講義中に解説する。	
		確率論基礎	世の中にはランダムな現象が多く存在する。確率論は様々なランダムな現象を数学モデルに定式化するための重要な理論である。この授業では、初等確率モデルで記述される具体例の紹介に基づき、確率論における基本的な諸概念、例えば、確率変数、確率分布を解説し、それから期待値、分散、標準偏差なども説明し、演習問題を通じ、理解度を高める。なお、それらの応用として、確率変数列の収束に関する話題を紹介し、独立同分布な確率変数列に関する基本定理、大数の法則や中心極限定理を紹介する。	隔年
		数理統計学	「統計学Ⅰ」「統計学Ⅱ」の授業で学んだ幾つかの知識を、より精密に理解することを目的にしている。上記科目で学んだことの範囲をさらに広げるといっても、そこで直感的に、漠然と理解した事柄のいくつかについて、数学(数Ⅱ・Ⅲ程度の微積分)を用いて、厳密な理論展開をしていく。個々の統計的手法よりも、その背後にある基本的な原理を中心に学習する。内容に関する講義と並行して、毎回課題として指定される教科書の練習問題を解くことで、証明力や数理的な思考力を磨いていく。	
実践教育科目		実証日本経済論	この授業は、日本経済のデータを使った分析演習を行いながら、利用するデータへの理解、分析ツールの習得、日本経済の特徴への適切な理解を同時に獲得することを目標とする。授業で扱うテーマには、マクロ経済指標からみた日本経済の構造変化、財政再建の条件、成長会計と成長戦略目標の達成条件、地域間格差、産業連関による産業波及、企業規模間格差などを含む。授業で取り上げるデータには、国民経済計算、財政の現状、産業連関表、法人企業統計などのほかに、授業担当者が作成に参加し一般公開されている2つのデータベース(日本産業生産性データベース、都道府県別産業生産性データベース)も使う。授業の進め方は、データと分析方法を説明する回と、前回出された宿題に沿って学生自らがデータ分析を行ってきてそれを発表する回を交互に行い、そのなかにより発展的な分析事例の紹介を差し挟む。学生が宿題に使う分析ツールとしては、ほとんどのパソコンに標準装備されているExcelと、統計分析のためのフリーソフトウェアであるRを使う。	
		行動・実験経済学	実験経済学的手法を理解した上で、理論検証に適した実験をデザインできるようになることを目的とする。実験で採取したデータを使い、それをどのように統計的に扱うか、そこからどのような結果を読み取れるかを学習し、自分で適切な統計手法を選んで分析できるようになることを目標とする。 実験経済学では、実験室のなかで経済モデルと整合的な状況を作り、そこで実験参加者に行動してもらい、それをデータとする。その結果に基づいて、理論モデルと現実との対応関係を把握し、理論をより有効に現実へ応用させるてがかりとする。 この授業はグループワークを使った演習形式で行う。各自PCを利用し、実験実施及びデータ解析を体験する。	
		計量分析	計量分析では、線形回帰モデルなどの基礎的な計量経済学の理論を学んだ学生に対し、実証分析を行う上で必要な発展的な計量経済学の理論とコンピュータを用いた分析手法内容を扱う。いくつかの実証分析を紹介し、そこで扱われている統計学的手法とRと呼ばれる統計ソフトを用いたプログラミングについて講義する。受講者は統計学の演習問題を解き、プログラムを書くことが求められる。この授業では、発展的な統計学の理論を理解し、シミュレーションや実際のデータの分析を自力で行う能力を身につけることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 実践教育科目	地域調査法	本演習では、地域活性化や地域的課題の解決の基礎として、地域の実態を分析する手法を身につけることがねらいである。全体は二部構成となっている。第一部では、地域分析の概念や公開統計の入手方法を学んだ上で、地域統計データを利用して、コーホート分析やシフトシェア分析、修正ウィーバー法などの分析手法を学ぶ。第二部では、実際に地域に出向いて、観察調査や関係主体へのインタビューなどを通じて、都市の構造や経済活動の実態を理解するためのフィールドワークを行う。	隔年 演習 27時間 実習 6時間
	地域包括ケアシステム論	医療-介護の連携による高齢者の在宅介護の推進は、持続可能な医療保険制度、介護保険制度を作るだけではなく、サービスを利用する高齢者等のQOL向上のために欠かせない取り組みであり、その実現には「他職種連携」が重要だと指摘されている。 この授業は、「地域包括ケアシステム」に直接関わる、行政、医療、介護、地域福祉等の支援セクターが抱える課題をグループワークでリサーチし、そこで得られた仮説を携えてそれぞれのセクターに参与観察に入り、それらの成果をもとにグループワークを通じて課題の解決策をまとめ、プレゼンテーションを行なう、演習形式をとる。 この授業は、事前学習(5回)+現場実習(1日4時間を3日間)+事後学習(5回)の構成である。事前学習では、実習先の担当者による講義、グループワーク等を実施する。現場実習は、日中の就業時間中に実習現場に入り参与観察を行なうと共に、担当者との意見交換の中で現場の抱える課題を明らかにする。事後学習は、グループワークでそれぞれの施設等の課題を整理、その解決策を考え、プレゼンテーションを行なう。 担当者2名(8 井上信宏, 13 増原宏明)は、事前学習、事後学習を中心に、この授業全般の統括運営を担う。 確保済みの実習先は、松本市役所(3名)、松本市社会福祉協議会(9名)、信州大学医学部附属病院(6名)、国立病院機構 まつもと医療センター(3名)、相澤病院(3名)である。	隔年 共同 演習 24時間 実習 12時間
	地域社会統計分析	ヘルスケア領域をはじめ、データ分析の有効活用可能な分野で活躍できる人材育成のために、保健・医療政策などに関連する地域社会統計(人口動態統計、国勢調査など)の情報処理能力を開発することを目標とする。すなわち、GIS(地理情報システム)利用のための知識の習得、GIS活用のための実践的な技能の育成を目指す科目である。具体的には、特定地域を対象とした空間情報データの入手、オープンソースGISを用いた情報処理、結果分析、分析結果のプレゼンテーションを講義・実習を交えながら実施する。	隔年
	経済規制の実務	財務省、経済産業省、長野県庁、松本市役所などで、規制の策定・実施に携わる実務家を招き、事例紹介・意見交換を行うことで現実の規制の実務を考察する機会を提供する。規制の経済的役割について、講義で得た専門知識と規制の現場で必要となるスキルとの関係を確認し、専門知識を実務へ応用する術を学習することを目的とする。授業の進行は、最初に具体的事例紹介のために実務家を招き、意見交換等を行う講義を5回程度実施する。そして、事例紹介等で得た規制の現場の情報を基に、規制の実施による問題改善の可能性をグループワークで検討・整理する。検討結果を最終レポートとしてまとめ、研究報告を行う。研究報告には、外部講師や報告に関連する機関のスタッフ等を招く予定である。	
	会計事例	財務会計で学習した基礎知識をもとに、EDINETなどから有価証券報告書を入手し、定量・定性情報の両面から企業分析を行うことで理論の理解力を高め、近年盛んに発生している粉飾決算といった企業事例についても分析する。さらに社会人になってからは企業運営・経営に関連した管理会計の理論・実践の知識も不可欠であり、会計理論と実務の密接な関わりを理解するため、会計事務所での実習も実施する。	隔年 演習 27時間 実習 6時間
法学系選択科目	憲法	日本国憲法の「第三章 国民の権利及び義務」に関する基礎理論を取り扱う。この講義では、各種の基本的な人権を保障するために、日本国憲法がどのような構造を有しているのかを体系的に理解させることを目的とする。具体的には、次の二つのことに重点を置く。第一は、基本的な人権に関する基本条文、基本概念を正しく理解させることである。第二は、基本的な人権を保障するための構造に対する理解を通して、立憲主義という考え方に対する理解を深めさせることである。民法、刑法の基礎知識があることを前提に進める。	

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	法学系 選 択 科 目	統治機構論	日本国憲法の規定する順序に沿って、日本国の統治構造を解説する。憲法の統治機構の条文解釈は、憲法の抛ってたつ原理からその規範内容が導きだされなければならないが、その原理の理解は学説の立場によって異なり、その差異が個々の条文解釈の差異となってあらわれる。重要なのは、統治機構の条文解釈は、解釈者の理解する憲法原理と整合しなければならないということである。受講生が、代表的な憲法学説と判例の立場を十分に理解し、日本国の統治構造を立憲主義の観点から整合的に解釈する能力を身につけることができるように配慮する。	
		行政救済法	行政法に属する領域のうち、行政救済法の部分を取り扱う。具体的には、行政訴訟の仕組みについて行政不服審査法、行政事件訴訟法の基本的な考え方と条文を理解させ、さらに国家補償の仕組みについて国家賠償法等の基本的な考え方と条文を理解させることを通じて、国民の立場から違法・不当な行政活動を是正し、行政活動に起因する損害・損失を填補するためにいかなる手法を取るべきか、行政の立場からこれにいかに対応すべきかについて具体的場面に即して考えられるようになることを目的とする。	
		民法総則	民法典第1編(民法総則)について講義する。民法に触れる最初の講義であることから、まず私法の一般法である民法の基本原則や基本的な概念に触れ、そのうえで、民法総則が規定する権利能力、行為能力、意思表示とその取消、代理、時効といった各制度について講義を行う。この講義は、この領域に関する条文・判例に基づく基本的な知識と法律的な考え方を修得することを目的とするものである。また、これらの概念や制度が、民法全体の中でどのような意義をも持ち、民法を扱う他の講義内容とどのように関連しているのかを理解し、民法の全体像を掴むことを目的とする。	
		契約法Ⅰ	法律効果の発生(権利変動)原因となる当事者間の合意を契約といい、民法には、13種類の契約類型が規定されている。この講義は、各種契約類型に共通する問題として、契約が拘束力を有するのはなぜか、契約が成立するための事実的条件は何か、債務者が契約上の債務を履行しなかった場合に債権者はいかなる措置をとり得るか等の諸問題について検討する。民法典の体系に則して言えば、この講義で扱う領域は、債権総則の一部(債権の目的、債務不履行に基づく損害賠償)と契約総則に相当する。民法起草過程における議論状況を踏まえつつ、歴史的背景と関連付けながら現在の解釈論を伝える。	
		契約法Ⅱ	我々の日常生活と密接に関わる民法の契約法のうち、契約各則の部分に置かれた諸制度を取り上げ、各制度の基礎にある考え方及び具体的な制度内容について解説する。具体的には、典型契約である贈与、売買、交換、消費貸借、使用貸借、賃貸借、請負、委任、寄託、組合及び和解を取り上げ、また、民法典に規定されていない契約も取り上げる。そして、各制度の基礎にある考え方及び基本問題を具体的な場面に関係付けて理解できるようになることを目標とする。	
		契約法Ⅲ	債権者が債務者に対して債権を有していたとしても、債務者がこれを弁済しない又は弁済するだけの財産を有していない場合には、どのようにして債権の回収を図るかが問題となりうる。そこで、民法上の債権回収に関わる諸制度を取り上げ、各制度の基礎にある考え方及び具体的な制度内容について解説する。具体的には、弁済、相殺、債権譲渡、債権者代位権、債権者取消権を取り上げ、主要な論点について設例を用いるなどして詳しく解説する。そして、各制度の基礎にある考え方及び基本問題を具体的な場面に関係付けて理解できるようになることを目標とする。	
		不法行為法	民法典第3編(債権)のうち、法定債権と呼ばれる法領域、すなわち第3章(事務管理)・第4章(不当利得)・第5章(不法行為)について講義する。民法体系におけるこの法領域の位置づけや基本概念を理解したうえで、条文・判例に基づく要件及び効果に関する基本的な知識を修得することを目的とする。また、この法領域においては判例が重要であることを踏まえ、とくに主要論点に関する判例については、具体的な事案内容や判例の変遷を把握し、そのうえで判例法理を理解することを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 法学系選択科目	担保法	一般の債権者は、債務者の資産状況の悪化により、債権を回収できなくなるリスクを負っており、このような債務者無資力のリスクに備える方法を担保という。この講義は、各種担保の成立のための条件、担保権者及び担保設定者間の権利関係、他人のために担保を引受けた者の地位等について検討する。民法典の体系に則して言えば、この講義で扱う領域は、債権総則の一部（連帯債務、保証）と、物権の一部（留置権、先取特権、質権、抵当権）に相当する。民法起草過程における議論状況を踏まえつつ、歴史的背景と関連付けながら現在の解釈を伝える。	
	民事執行・保全法	民事訴訟法で修得した権利の観念的形成過程についての基本的理解を前提に、判決等を債務名義としてなされる権利の事後的形成過程について、基本的な知識と理解を獲得することができるよう講義を行う。計15回の講義では、強制執行を中心に、担保権実行、執行の暫定的措置たる保全手続を取り上げ、この全体を通して、民法が規定する権利・義務が、民事訴訟手続を経て、現実にもどのように具体化していくのかを理解し、民事法全体についての体系的な理解と知見の獲得を図る。	
	刑法Ⅰ	刑法学の犯罪論のうち、総論（共犯、刑罰論を除く）および各論（個人の重要法益）を取り扱い、刑法の犯罪論の基礎を身につけることを目的とする。受講生が具体的にイメージしやすいよう、まず犯罪論の基本的な考え方を理解させた上で、刑法各論、刑法総論と講義を進める。授業では、判例や学説の検討を中心に行うが、受講生が講義を聞きながら主体的に考える力を養えるように、講義前には毎回問題を提示することとする。最終的には、判例と同種の事案解決だけでなく、未知の事案をも解決し得る思考力を獲得できるようにすることを目標とする。	
	刑法Ⅱ	刑法Ⅰに引き続き、刑法Ⅰで取り扱えなかった共犯論、刑法各論の残りと刑罰論について取り扱う。刑法Ⅰでは、単独犯を予定した構成要件の理解が中心となるが、刑法Ⅱでは、修正された構成要件である共犯について理解できるようにする。また、社会的法益・国家的法益や、犯罪論のゴールである刑罰論についても取り扱う予定である。刑法Ⅱでは応用力が問われる場面もあるので、必要に応じて刑法Ⅰでの基礎知識を確認しつつ、授業を進めることにしたい。また、刑法Ⅰと同様、授業前に毎回問題を提示し、受講生の知識の定着と、主体的な思考力の獲得を目指す。	
	市民税法	所得税法、消費税法及び国税通則法から、一般的な市民生活の中で生じる租税法律関係に関する部分を取り上げ、基礎となる考え方を理解させることを目的とする。 包括的所得概念を基礎概念として視座に据え、事業所得と譲渡所得に対する所得税法の原則的な課税を理解させたい。市民生活に深く関わる給与所得や利子・配当所得に対する源泉徴収課税、寄附金、医療費や社会保険料などの所得控除、事業者と消費税の課税を理解させる。権利救済手続を中心に、租税手続法の全体像についても理解を得させる。	
	法人税法	わが国の法人税法のうち、課税標準及びその計算（第二編第一章第一節）における基本的事項を扱い、法人所得計算の基礎となる考え方を理解させることを目的とする。 企業会計における利益計算を法人所得概念の基礎としてイメージさせながら、二重課税や課税繰延べ、法人成りなど法人課税に固有な問題の存在を認識させ、実現主義と評価損益、資産概念と取得価額の機能、損金算入制限と課税ベース、損失控除と債務確定要件について、基本的な考え方を理解させる。	
	租税法実務	この授業は、関東信越税理士会長野県支部連合会との学術協定に基づき、税理士をゲスト講師としてオムニバス方式で講義を行うものである。 実務上の具体的な事例に関する租税法の適用関係について講義する。実社会では、一個の経済的取引について、所得税法、法人税法、相続税法が同時に適用され、様々な課税関係を生じさせることが珍しくはない。また、租税法適用の前提として、民商法の適用関係が問題となることも多い。この講義は、実務上の具体的事例においては、このように多面的な法適用の検討が必要であることを理解し、租税法や民商法の知識を統合し、法律問題についての総合的な応用能力、実践的な解決能力を身につけることを目的とする。 ゲスト講師のコーディネーターと成績評価は学部専任教員（34 池田秀敏、77 橋本彩）が担当する。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	法学系選択科目	知的財産法基礎	知的財産法がなぜ重要なのか、日本経済を取り巻く歴史的な変化を踏まえて解説し、その上で、内外の最近の事象を素材に、知的財産法の基本的な考え方を講義する。法律学の初学者が興味を持って知的財産法に入門できるようにすることが目的である。想定される素材は、アップル対サムスン、途上国における医薬品の普及と特許権、環太平洋経済連携協定(TPP)交渉、職務発明、孤児著作物問題、並行輸入、著名標識の保護、営業秘密などである。	
		知的財産法Ⅰ	技術的創作に経済的な価値を与える法制度について講義する。その中核をなすのは出願により公開された発明に対して特許権を付与する特許制度であるが、秘匿された技術に対して法的保護を与える営業秘密制度(不正競争防止法)にも説き及ぶ。また、医薬品・バイオ、化学、機械、電気・電子、情報技術といった、技術分野別の特徴にも注意する。知的財産法の国際的側面などにも、必要に応じて触れる。	
		知的財産法Ⅱ	創作的表現について権利を与える著作権制度について講義する。美術や出版などを対象とする古典的な著作権法制が、コンピュータ・プログラムを制度の対象として取り込み、さらにインターネットの発達によって大きな変容を遂げつつある様相を解説する。また、営業上の信用に対して法的保護を与える制度(不正競争防止法・商標法など)にも説き及ぶ。	
		危機管理法務	架空循環取引など、企業不祥事は後を絶たない。企業は、不祥事を抑止するために、その業態に応じ、コンプライアンス体制を適切に整備することを求められている。コンプライアンス体制を実質的に機能させるためには、関連法令の知識のみならず、事前・事後対応を含む危機管理のノウハウを身につけた人材が不可欠である。本講義においては、企業等において危機管理を担う人材の育成を目的として、主要な不正類型について、過去の具体的な事例を取り上げて関連法令や当該不正事例の原因・再発防止策等を解説する。	
キャリアアデベロップメント科目		ボランティア	安全で平穏な社会生活には近隣などの助け合いも不可欠である。また自分にできる社会貢献を見出すことは自己発見でもある。東北震災復興支援、信大附属託児所、自然保全活動、福祉関連NPO法人などさまざまな地域・社会課題に取り組む非営利団体・活動にボランティア人材として自発的に関わることを通じて、<共助>を理解し自己発見にもいたることを目的とする。「交流系科目部会」教員が指導・運営(単位認定)にあたる。合同説明会(4月)に出席し、事前レポート登録を経て、夏期などに原則60～80時間、ボランティア活動に従事し(無償)、ボランティア活動実施証明を付したレポート(4000字)に合格し、発表会(12月)に参加することを義務付ける。	共同
		インターンシップ	企業・公務職場などの組織における就業体験をもとに単位を認定する。「交流系科目部会」教員がその指導・運営(単位認定)にあたる。合同説明会(4月)を経て、事前レポート登録を行い、夏期などに原則60～80時間、体験就業(無償)に従事し、インターンシップ修了証明を付した事後レポート(4000字)に合格し、発表会(12月)に参加することを要する。	共同
		Global Political Economy	グローバル化の進展の中で、国際社会が直面する課題について学習する重要性が増している。また、社会で仕事をする上で、実用的な能力としての英語力を向上させる必要性も増している。この授業では、貧困と開発、国際経済秩序、安全保障、環境問題など国際政治経済の課題について、主に英語教材を使用し学習する。基礎的な国際社会の課題を理解すると共に、社会科学を学ぶための英語能力の向上を目的とする。少人数の参加型の授業を通じて、情報収集・分析、プレゼンテーション、文章作成能力を向上させる。	
		Global Business	本演習は、グローバルビジネスにおいて重要視されている概念、分析手法、戦略、戦術などを、主にマーケティングの観点から学ぶことを目的とする。本演習ではまた、グローバル市場で活躍する上で不可欠な概念の理解と、スキルの構築に焦点を置く。履修者はこの演習を通じて、日本および世界で活躍している組織および個人による最新のビジネス活動について学び、事例研究を行う。毎回の演習に備えて履修者は、学内および学外における多岐にわたる調査活動、ディスカッションに向けた事前学習の実施が必要となる。この演習では、履修者個々の文化的・経済的・社会的観点を生かし、共に学ぶ履修者とネットワークを構築しながら、様々なグループ活動を通じて学ぶことが期待される。毎回の演習は、講師による講義、質疑応答、講義内容に基づくディスカッション、プレゼンテーションの実施、小テストと期末テストから構成されている。	

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部応用経済学科 法と企業の経済分析コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	キャリアアデベロップメント科目	American Law and Society	アメリカの法と公共政策について学ぶ。日本社会とは異なる法・政策の体系とアプローチを学ぶことにより、日本社会の法・政策の特徴を理解する。学術研究教育交流協定を結んでいるハワイ大学ロースクールと行政学プログラム (Public Administration Program) より客員教授を招聘し、夏期の集中講義期間に行う。講師は毎年交代し、様々な法と公共政策の専門分野の科目を開講する。英語で授業を行い、英語での学習能力を向上させる。授業は、アメリカの法や公共政策教育で行われる参加型のアクティブ・ラーニングスタイルで行う。授業のコーディネーター、ガイダンス、学生に対するサポートは、学部専任教員（◎ 美甘信吾）が担当する。	集中
		海外短期演習	ハワイ（アメリカ）社会・政治経済制度について学び、地域振興や多文化共生など地域社会が直面する課題について理解を深める。海外の大学での学習体験を通じ、異文化理解を促進し、英語学習を奨励する。海外研修の効果を高めるために英語学習や日本語での基礎知識の習得など事前学習を行う。ハワイ大学での授業、フィールドトリップ、報告書作成を通じて、経済学・政治学の基礎知識の体系的理解、社会における課題発見力と行動力、言語（英語）能力、コミュニケーション能力、自己管理能力、チームワーク力、リーダーシップを身につける。	集中 演習 54時間 実習 12時間

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 教養ゼミナール群	環境問題を化学者と考えるゼミ	第1回目の講義時に各種環境問題を教員から問題提起し、2回目以降のテーマを担当する発表者を決定する。主発表者は毎回1～2名でA4レポート用紙2枚にまとめてレジメを作り15分程発表(プレゼンテーション)する。発表者以外の人はその小テーマについて調べておく。そして4～5人のグループに分かれ、発表者の発表後、全員で20分ほど討論する。(コミュニケーション能力の向上) そして、その結果をレポートにする。(言語能力の向上) さらに、それらの結果を基に各グループが意見を交換する。(コミュニケーション能力の向上) 「一人一人が自分で調べ、考え、自分なりの考え方を持つ」ということがこのゼミのキーワードであり最終目標である。	
	生態資源論ゼミ	各人(班)はそれぞれ関心をもった生態資源について、まずは文献資料にあたり、報告する。それをもとに、受講者全員で質疑応答を行う。 各班の調査方法としては、各種文献やインターネットの参照のほか、関係者への聞きとりを行う(メールや電話での聞きとりも可とする)。また各報告に対して質疑応答を行う。 また、授業期間内に1度、受講者全員が参加する学外見学・体験の機会を設ける。	
	地球白書ゼミ	本授業では、地球が直面している問題群を比較的平易な英文とそこに挿入されている図表から学ぶ。各人はそれぞれ関心のある項目について、テキストの読解を行い、発表・報告する。それをもとに、受講者全員で質疑応答を行う。授業の目標は、鍵となる単語や表現を覚えることに加え、問題の背景や構造を理解し、さらに私たちに求められる「かかわり」について議論することである。	
	環境マインドを現場で体験するゼミ	(1)水生生物の基づく環境調査、(2)地下水利用をめぐる聞きとり調査、(3)成果発表と討論を行う。 まず、ナノ水車発電の技術の体験的学習では、工学部における技術開発の現場と、エネルギーの地産地消を目指した応用現場に立ち会い、討論を通してこれからのエネルギー生産と消費のあり方を考えさせる。 次に、環境調査会社(株式会社 環境アセスメントセンター)によって環境保全の作業が行われている現場を訪問する。ここでは、実際に水生生物の調査を担当することによって実際の調査を体験するとともに、協同作業を進める方法を工夫してほしい。 さらに、地下水利用の現状と課題について、地下水開発会社(株)サクセン、飲料メーカー、わさび農園、住民などへの聞きとりを通じて、体験的に理解する。地域の水資源を活用しながら、同時にその水環境をまもっていく方策について議論する。 (オムニバス方式/全16回) (57 金澤謙太郎/8回) 水生生物の基づく環境調査 成果発表と討論 (28 大塚勉/8回) 地下水利用をめぐる聞きとり調査 成果発表と討論	オムニバス方式 集中
	「時」について考えるゼミ	「時」についての理解を深める。主として輪講形式。「時」をキーワードとしたいろいろなテーマを取り上げ、受講生主体の自由な討論を行いたい。対象学生は文理所属を問わない。教材は受講生の興味や予備知識に合わせて調整する。	
原書で読むシャーロック・ホームズゼミ	4つの長篇と56の短篇からなるホームズ物語のうち、『ストランド・マガジン』への連載をきっかけに一躍人気を博した代表的短篇をとりあげる。シドニー・パジェットによる挿し絵が添えられたテキストを読み解く作業を中心に授業を進めるが、英語特有の表現、構文など、形式的・文法的な知識の確認と同時に、文化的文脈を踏まえた、テキストの内容の正確な解釈・理解にも意を用いたい。その際、英文の内容と味わいを達意の日本語で表現するために、英和辞典、国語辞典をはじめ、各種の辞典類を充分に活用してもらいたい。また随時、英国のグラナダテレビによって製作された定評ある映像化作品も視聴し、原作テキストとの比較も試みたい。		

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 教養ゼミナール群	現代ドイツの言語と日常ゼミ	既習言語であるドイツ語を実際に用いて、ドイツ語を通してしか得られない現代ドイツ語圏の日常・文化生活に触れ、異文化に直に触れることにより、より高度な国際理解感覚を身につけつつ、ドイツ語運用能力を高める。 到達目標： 1. 辞書を用いれば、現代ドイツのアクチュアルな文章を読むことができるレベルのドイツ語読解能力を身につける。 2. 文章を読む際に、日本語の感覚ではなく、ドイツ語の感覚で読む習慣を身につける。 3. 日本語に頼ることなく、外国語から直接外国の情報を入手し、それを処理する国際理解感覚を身につける。 4. 独検秋季試験で2級に合格するドイツ語力の習得を目指す。	
	現代ドイツ事情ゼミ	現代のドイツ語圏の事情は、日本の新聞や雑誌ではなかなか目にすることがない。そのようなアクチュアルな文章を読む際には、テキストの文字だけを見ていても、その背景にあるドイツの現状を知らなければ、理解するのは難しいだろう。（もちろんこれは、ドイツ語に限ったことではなく、英語でも同じことが言える。） そのような意味で、異文化理解や国際感覚というものをより高度なものにするために必要な視点や姿勢を、しっかりと身につけてもらいたい。	
	異文化研究ゼミ	本ゼミでは、各受講生が関心を持っている異文化について学び、学んだことを発表することを通じて、自ら課題を探索し、自分の主張を的確に表現する能力を養う。 はじめに各受講生が関心を持っていることについて話してもらい、その関心をどのように深めてゆけばよいか話し合う。 最終的にはレポートを執筆し提出する。その上で、アカデミック・ライティングの指導を行う。随時グループワークを実施することで、コミュニケーション能力を高めるとともに、受講生どうしの相互理解を深める。	
	感覚で攻める英文法ゼミ～ 覚える英文法から感じる英文法へ	本ゼミでは、英文法のトピックを取り上げ、受講者の理解度に合わせゆくり進めていく。 まず、各トピックの基本事項を講義し、そのトピックを理解するのに必要な事項を概観し全体像を把握する。その後、グループワーク・ディスカッションやプレゼンテーションを通して受講者全員でそのトピックにまつわる「なぜ」という疑問や「どうして」という関心を自由で大胆且つ独創的な発想を交え積極的に話し合い、受講者全員の共同作業により各自が「英文法」を体感し、「使える英文法」を体得する。	
	スポーツ・ホスピタリティゼミ 秋冬編(松本山雅FC連携ゼミ)	本ゼミではスポーツ・ホスピタリティ、具体的には地域密着型スポーツクラブ、プロスポーツ、一般市民のスポーツ施設、あるいはレジャー施設におけるボランティアの望ましいあり方をアカデミックかつ実践的に理解する。本講では主に信州におけるサッカーを中心としたスポーツクラブやその他のトップスポーツや、近隣のスポーツ施設や公園が直接の対象となるが、海外におけるホスピタリティ事情も文献やインターネットで検討する。そこでのホスピタリティがどのような歴史社会的背景、教育的、政治的、経済的要因で成立し、受容されて（あるいは忌み嫌われて）いるのかを実際のフィールドワークも取り入れながら検討してゆく。 フィールドワークは2012年シーズンからJリーグ入りを果たした松本山雅FCの試合運営にボランティアとして関わること及びその他スポーツスタジアムやスポーツイベントのホスピタリティ体験を通じて望ましいあり方を学習する予定である。	
	スポーツ・ホスピタリティゼミ 春夏編(松本山雅FC連携ゼミ)	本ゼミではスポーツ・ボランティア、具体的には地域密着型スポーツクラブ、プロスポーツ、一般市民のスポーツ施設、あるいはレジャー施設におけるボランティアの望ましいあり方をアカデミックかつ実践的に理解する。本講では主に信州におけるサッカーを中心としたスポーツクラブやその他のトップスポーツや、近隣のスポーツ施設が直接の対象となるが、海外におけるホスピタリティ事情も文献やインターネットで検討する。そこでのホスピタリティがどのような歴史社会的背景、教育的、政治的、経済的要因で成立し、受容されて（あるいは忌み嫌われて）いるのかを実際のフィールドワークも取り入れながら検討してゆく。 フィールドワークは2012年シーズンからJリーグ入りを果たした松本山雅FCの試合運営にボランティアとして関わることを通じて望ましいあり方を学習する予定である。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 教養ゼミナール群	スポーツ観戦文化論ゼミ	ここでの観戦学とはいわゆるスポーツの戦略やスキルの専門的知識を追求することではない。スポーツの生観戦，スポーツのテレビ観戦のアカデミックな理解にあたって，まず，チームやクラブのエンブレムやユニフォーム，愛称，サポーターズ・ソング，等の諸シンボルが対象となる。それらが支持・愛される理由・要因を，歴史社会的背景，教育的，政治的，経済的要因などに注目しながら検討する。また，同様に，観戦にあたってよいスタジアムとは何か，サポーター&サポーターズカルチャーとはいかなるものかについても，実際のフィールドワークも取り入れながら検討してゆく。	
	テレビのメディアリテラシー（テレビ信州参与ゼミ）	この講義はテレビ信州の全面的協力の下に開講するもので，ニュースや技術，カメラ，アナウンスなどの担当者をゲストスピーカーとして迎える。現場での経験，経験の中からの学び，喜怒哀楽等々，ナマの声に耳を傾け，質疑応答の中で，テレビメディアの今を知る。併せてミニ番組を制作し，作品はテレビ信州の番組と長野市インターネット放送局「愛テレビながの」の中でOAする道も開かれている。ただし，この制作実習は，テクニックの習得というより，むしろ，送り手と受け手の双方の立場を体験し感じ取り，討論することを通じて，メディアリテラシー向上に資することを主眼としている。	
	「考える」ゼミ	「考える力」や「伝える力」は，受身的な学習により身に付くものではない。「考える力」と「伝える力」を獲得するためには，実際に「考える」そして「伝える」という“実践トレーニング”が欠かせない。 「考える」ゼミ(以下考ゼミ)では，その「考える」「伝える」ことを実践するために，トレーニングの【場】となる様々な仕掛けや素材が毎回用意されている。そして，普段はできないような新鮮な経験となりそうな機会を提供する。この【場】や【経験】は，教室内とは限らず，街場(地域)に繰り出し体験型の活動を行う。その【場】では，様々な“指令(〇〇しなさい)”が出され，それら指令をこなすことで，新鮮な経験を得つつ「考える力」「伝える力」を鍛え上げていく。 このように，受講者は，毎回毎時，“考える”そして「伝える」実践トレーニングを行う。	
	化学計算入門ゼミ	表計算ソフトは基本的なソフトであり，種々の分野において広く使われている。本ゼミでは，この表計算ソフトを化学実験の結果の解析や種々の化学計算等を行なうことにより，基礎知識を進展させ，理解を深める。本ゼミでは，以下の点を目標にする。 1. 表計算ソフトExcelの基本的な操作を覚える。 2. 化学計算ができる。 3. 実験結果の解析ができる。	
	文系学生のための野外地質学ゼミ	前期の土・日曜日を利用して野外に3回，学内で1回の授業に臨む。 信州には多くの活断層が存在し，近い将来地震災害をもたらすのではないかと心配されている。また，山岳地域であるため，常に自然災害に見舞われている。そのように判断される根拠となる野外地質現象を訪ねる。 信州の地質を特徴づけるフォッサマグナとはなんだろうか。フォッサマグナを特徴付ける岩石が露出している地点と，そこから産出した化石を収蔵する博物館を訪れる。さらに，身近にある河川-女鳥羽川を歩き，地質学的な自然現象が語っていることを学ぶ。 各内容では，かなりの距離を歩くことになる。現地では地質現象を観察して記録をとり，後でレポートを作成する。現地で観察して議論し，考えたことを発表してもらう。	集中
統計図解ゼミ	身近な状況の中から，数値情報の現れている課題あるいは欠落している課題などを，コンピュータを活用してグラフなどに図解していく。各自が図解に作成したファイルを，大学提供の学習システムeALPS上に提出することにより毎回の演習は完結する。 処理する題材はインターネット上で公開されている数値情報を中心に扱い，とくに環境，教育，地域，ジェンダーおよびスポーツに関係した資料を多く扱う。 表計算の利用においては，とくに作業効率に関係したスキルを中心に扱う。 実習の進め方は，個人活動を中心に進め，課題によってはグループでの作業とする。 なお表計算Excelをよく使う人も多いが，このツールに関するいくつかの問題点も同時に演習を通じて指摘していく。		

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 教養ゼミナール群	アナログ再発見ゼミ	単純に数えること、あるいは私たちの身体感覚を通じて測定できるいくつかの課題に取り組むことを通じてアナログ量やデジタル量の測定について体験し、それらのデータを計算処理を通じて表現する。 課題内容に応じて、個人またはグループで取り組む。 数値情報の表現においては、有効数字や誤差の扱いも学ぶ。	
	情報社会論ゼミ	ここ数年のコンピュータと情報通信技術の普及によって、コミュニケーションのあり方、意思決定・判断の方法を含めて私たちの生活スタイルは大きく変化した。私たちが記憶しなればならなかった事柄のかなりの部分は、携帯電話やコンピュータが担うようになっていく。かつて調べるのに大変な労力を要した事柄も、いくつかのキーワードを入力するだけで簡単に調べることができるようになった。しかし負担が減った分、私たちの脳はより良い使われ方をしているだろうか。 このゼミでは、情報社会に関する様々なテーマについて検討することを通して、ネットワーク社会の光と陰について理解を深めてもらいたいと思う。	
	大学生基礎力ゼミ	受講生が学ぶのは、信州大学に関する知識と、大学生として4年間必要になる基礎的な知識・技術・態度である。そのために、授業と授業外で、自分たちが大学生になっていく過程を観察し、記録し、分析していく作業を繰り返すが、そこで学生が実際に体験し、練習するのは、 (1)受講している学生および教員との信頼関係および生産的関係の構築 (2)大学の学びに必要な諸技術（聞く・話す・読む・書く・分析する・協働する・受け入れる・主張する・異議を唱える・働きかける、等々） (3)信州大学の環境の理解と施設や支援の利用 (4)異なる人々や新しい価値体系の受容と、自分の視野と度量の拡張の4つである。 この経験を記録し、分析し、今後に生かすために、学生は毎週ふりかえりを書き、大学の施設を学びながら協働して課題に取り組み、それらをポートフォリオとして保存して、はじめての学期の経験を総括するレポートを書く。授業ではこれらの経験を話し合うことで理解を深め、大学生として生活を組み立て、学習を深めるための基礎力を身につける作業を繰り返す。	
	グローバルに生きるゼミ	この授業は、「グループワーク」、「ディスカッション」、「プレゼンテーション」が中心となる。「知識を得る」のではなく、情報を得て、それについて考え、自分の問題として発信することを要求する。 毎回の授業の大まかな流れは、以下のようなものである。 1. 資料あるいは短いレクチャーを通して、テーマごとの問題点を明確にする。 2. その問題点についてグループワークやディスカッションを通して理解を深めつつ、自分以外の視点についても触れ、自分の問題として考える。 3. ディスカッションの結果をグループで（あるいは個人で）まとめて発表する。 4. 授業内容のまとめとして、毎回短い文章を提出してもらう。 (オムニバス方式／全15回) (50 松岡幸司／13回) オリエンテーション：「グローバル（に生きる）とは何か？」 グローバルな人材とは？（自分の問題として考える） 海外へ行く、海外で暮らす/学ぶとは？(1) グループ発表 様々なテーマで「グローバル」ということについて、自分の問題として考える。 個人発表 (47 RUZICKA DAVID EDWARD／2回) 海外へ行く、海外で暮らす/学ぶとは？(2)	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	教養ゼミナール群	新聞をつくろう！（タウン情報制作ゼミ）	『松本平タウン情報』は、松本、安曇野、塩尻市など中信地方で11万8700部を発行するタブロイド判16ページの地域情報紙であり、毎週3回発行され、信濃毎日新聞の朝刊に折り込まれている。その紙面づくりに学生自身が加わることを通じ、「地域におけるメディアとは何か」を学び、その過程で、分かりやすい文章の書き方、コミュニケーションの方法などを身に付けることを目的とする。 ゼミでは、新聞をつくるための基礎知識を学び、実際の紙面をつくる。メディアのあり方、取材の仕方、写真の撮り方、新聞の組み方などを講義する。以上のことは編集会議を重ねながら、実際に取材、執筆、整理制作を進める。	
		スポーツ活動論ゼミⅠ	身体の健康を図ることは人生を通しての課題といえる。本ゼミは「人間の身体は素晴らしい」をテーマに運動をとおして人間の生活習慣やスポーツ活動について、学生諸君とともに考えていくことをねらいとしている。またゼミではスポーツの理論と実践を重視するため、問題発見、問題解決能力が身に付く。学生の自主性により内容を決定するので、ゼミの運営を行うことによるコミュニケーション能力の向上を目指す。様々なスポーツ活動を調べ、学んだ上で、実際にスポーツを体験する。 また、信州の自然を生かしたスポーツ活動を行うため、休業期間を利用し、合宿形式でのゼミを実施する。 ゼミの時間帯にはその活動に必要な知識、技術、ルール・マナーをグループ発表により学習する。 なお、本年度より、体育スポーツの授業の信大マラソンの管理運営にかかわり、スポーツマネジメントの基礎についても学び、実際にマラソンの大会運営に携わる。	
		スポーツ活動論ゼミⅡ	身体の健康を図ることは人生を通しての課題といえる。本ゼミは「人間の身体は素晴らしい」をテーマに運動をとおして人間の生活習慣やスポーツ活動について、学生諸君とともに考えていくことをねらいとしている。またゼミではスポーツの理論と実践を重視するため、問題発見、問題解決能力が身に付く。また、学生の自主性により内容を決定するので、ゼミの運営を行うことによるコミュニケーション能力の向上を目指す。さまざまなスポーツ活動を調べ、学んだ上で、実際にスポーツを体験する。 また、信州の自然を生かしたスポーツ活動（スノースポーツなど）を行うため、休業期間を利用し、合宿形式でのゼミを実施する。 ゼミの時間帯にはその活動に必要な知識、技術、ルール・マナーをグループ発表により学習する。	
		ドイツ環境ゼミ	中心になるのは、2～3月に行われる「短期ドイツ研修」である。これは、「語学学校において2週間のドイツ語コースに参加」した後、「1週間程度、環境関連施設等を訪問・視察」するものである。 そのために、11月から2月初旬にかけて、eALPSを併用しつつ、月に1・2回程度の事前学習のための授業を行う。その際に、自分のテーマを決め、理解を深めていく。 また帰国後には、自分のテーマに従って視察内容をまとめ、「公開報告会」を行い、レポートを提出するとともに、「ドイツ語技能検定試験3級」の合格を義務づける。	集中
		社会科学の方法ゼミ	1年次生が高校の社会科（「地理歴史」「公民」あるいは「総合学習」）を学ぶことから社会科学を学ぶことへの円滑な移行を図れるよう、社会学、経済学、経営学、政治学等のさまざまな学問領域の文献を読解することを通じて、広く社会科学の先人たちがどのような方法を用いて社会事象を読み解いてきたのか、を跡づける。	
	環境科学群	環境社会学入門	主な論点として、第一に環境問題の加害・被害構造、制度・組織の特性、第二に環境行動・運動の契機とその結果、集団行動の困難・障害、第三に環境の歴史・価値・思想、生業とのかかわり、などについて、世界中で起こっているさまざまな環境問題を例に考えていく。また、環境社会学は、人間が作り出した環境問題の解決を志向する「行動する社会学」でもある。 受講生には、この講義を通じて、自らの生活実践への示唆についても積極的に学びとってくれることを期待する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 環境科学群	熱帯雨林と社会	熱帯産のさまざまなモノを切り口として、熱帯雨林の自然と人間の暮らしについて理解を深める。主な事例を東マレーシア、サラワク州（ボルネオ島）のパラム河流域からとり上げる。授業計画の前半では、サゴヤシ、陸稲、沈香などの生態資源を例に、熱帯雨林に暮らす狩猟採集民の生活や生業の様式を概観し、彼らの食糧の確保、資源やエネルギーの利用にみられる諸特徴を理解する。後半は、木材、パーム油、バナナ、エビ、コーヒーなどの一次産品を例に、社会経済的なグローバル化をめぐる問題群について考える。 この講義を通じて、東南アジアの熱帯雨林と私たちとの関係や両者が抱える現代的課題を追究しながら、他人や地球をできるだけ傷つけない社会への手がかりや可能性を探っていく。	
	環境～その人文・社会科学的方法的アプローチ	人文・社会科学的な環境マインドを構築するにあたり、スポーツ社会学、環境社会学、文化人類学、ドイツ文学、脳神経科学など、様々なパースペクティブから環境を検討・理解する。 ここで扱う環境は、自然環境のみでなく、人間が人間として活動する生活環境全般が対象となる。 (オムニバス方式／全15回) (57 金澤謙太郎／3回) 環境社会学の視点から (63 分藤大翼／3回) 文化人類学の視点から (50 松岡幸司／3回) ドイツ文学の視点から (64 有路憲一／3回) 生活環境における脳神経科学 (27 橋本純一／3回) スポーツ社会学の視点から	オムニバス方式
	ライフサイクルアセスメント入門	LCAは製品やサービスの資源採取から廃棄に至るまでのライフサイクル(一生)における環境負荷量や環境影響量を客観的に、且つ、定量的に評価する手法である。その評価手法を修得するため、生活の身近な製品を例題にしてLCA演習を行う。そして、LCA結果を用いた新たなCO2削減のためのカーボンフットプリント制度やタイプⅢ環境ラベルなどを理解し、さらに、今後のLCA展開および新たな環境指標について講述する。また、信州大学の全てのキャンパス・学部・学科で取り組んでいる環境マネジメントシステム(EMS: Environmental Management System)について解説し、LCAとEMSを両立させた新たな環境保全活動について考える。	
	環境と生活とのかかわり	環境調和型社会の形成は、製品やサービスの提供側と消費者の協同で行われなければならない。そのため地球環境問題の取り組みを概観しながら、生活に身近な環境法規、製品やサービスの環境影響評価手法、組織と利害関係者のインターフェースになる環境報告書・環境ラベルなど環境情報の見方、身近な製品やサービスにおける環境への取り組み事例、カーボンオフセットなどを中心に講述し、環境と日常生活とのかかわりについて考える。また、信州大学の全てのキャンパス・学部・学科で取り組んでいる環境マネジメントシステムと環境保全活動について解説する。	
	地球環境の歴史	環境マインドを備えた人材を育成するための教養科目である。同時に、グループ学習を通して、コミュニケーション力やチームワーク力を養う。 地球の過去の調べ方、年代測定法、地球の誕生、大気組成の変遷、生命の誕生と進化、大陸移動とプレートテクトニクス、気候変動といったテーマを、地球の歴史に沿って、トピックを取り上げながら授業を展開する。授業では、必要に応じてビデオ教材を用いる。 授業では、地球環境に関するテーマについて各学生が書物によって学習した結果に基づいてグループ間で意見を交換し、最終的にどのような意見をもつに至ったかを発表する。	
	ネイチャーライティングのすすめ(環境文学Ⅰ)	自然や環境について語る際、「こころの問題」として、つまり自分との関係で語ることはあまり多くない。本講義ではこの観点から自然や環境にアプローチしていく。 最初の3回で自然・環境・人間の関係について概観した後、個々の文学作品、特にネイチャーライティング作品を通して、上記三者の関係について考えていく。扱う作品は、H.D.ソロー、レイチェル・カーソン、シュティフター、サン＝テグジュペリ、ギッシン、ヘルマン・ヘッセなどの作品を予定しており、少なくとも該当部分に関して授業前に読んでおく必要がある。講義では、毎回「授業内容確認課題」を書くことにより簡単なまとめを行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	環境科学群	環境文学のすすめ(環境文学Ⅱ)	自然や環境について語る際、「このころの問題」として、つまり自分との関係で語ることはあまり多くない。本講義ではこの観点から自然や環境にアプローチしていく。 最初の3回で自然・環境・人間の関係について概観した後、個々の文学作品、特に環境文学作品を通して、上記三者の関係について考えていく。扱う作品は、宮沢賢治『注文の多い料理店』彭見明『山の郵便配達』をはじめ様々な作品を予定しており、少なくとも該当部分に関して授業前に読んでおく必要がある。講義では、毎回「授業内容確認課題」を書くことにより簡単なまとめを行う。	
		自然環境と文化	はじめに人類学とは何かということ概説する。その上で、人類学的な知見にもとづいて、食文化、健康と病、病と癒し、死と儀礼、音楽・舞踊、装いとといった項目について自然環境と密接に関わりながら生きている人々の文化を紹介する。また同じ項目について、私たちの文化のありようについても紹介し、今後の私たちの生き方、自然環境との望ましい関わり方について考える。	
		生物と環境	私たち人類も含めてすべての生物は地球上の環境から影響を受け、また環境に対して影響を及ぼしながら生活している。そうしたさまざまな環境における生物個体群の分布や生活様式、生物群集における個体群間の相互作用、生物群集とそれを取り巻く環境から構成される生態系の構造と機能について基礎知識や基本概念を解説する。さらに私たちの身の回りから地球規模に至るまでの生物と環境にかかわる問題について、具体的な事例を取り上げてパワーポイントやビデオ教材を用いて講義を行う。	
		自然災害と環境	信州は火山が集中している地域でもある。火山活動が起きる場所にはある法則性がある。そのことをまず理解した上で、火山活動の起こる仕組み、火山活動の種類、火山活動への対処方法などを事例に即して講述する。 また、人間の生活の場となっている平地は河川や海洋によって直接的な影響を受ける場所である。地球が温暖化する中で、川や海で起こる現象やしみをよく理解し、将来予測や対策に役立てる必要がある。 松本は大地震発生の確率がとくに高いとされている。信州では、最近、多くの活断層が身近に存在していることが明らかになってきている。地震はこれらの活断層の運動の結果生じるものである。信州の特殊な地質条件と予想される災害との関係を知ってほしい。 さらに、このような環境の中で、人間は自然を利用して社会や文化を維持している。自然利用の方法やその失敗の事例を学ぶ。	
		生活の中の科学	高校までに習っていた化学などの自然科学は理系の研究を行う上で必要不可欠な知識という点において極めて重要である。しかし日常生活を続けていく上で、あまりその科学的知識との関連について詳しく教えられてこなかった事が多いのが現実である。本授業では科学をより身近なものとして実感し、各自の今後の人生に活かせるよう、日常生活で利用、体験している事柄で科学と深く関連している事柄をピックアップしてそれを解説する。 さらに地球温暖化などの社会問題にも言及するので、信大の環境マインドを理解した社会人として考え、行動するステップとしてほしい。	
		環境法入門	環境問題へのアプローチの方法は数多くあるが、問題を実際に発見し、解決していくためには法学の知見が不可欠である。この講義では、①環境問題を法的に考える際に不可欠な必要最小限度の法学の知識を学んだ上で、②環境問題に法的にアプローチする場合の基本的な考え方、手法、組織、紛争解決手法を概観し、③自然保護、廃棄物・リサイクル、大気汚染・温暖化といった個別のトピックスについて、法的にいかなる点が問題となり、どのような法的手法が用意されているのか考えていく。	
	人文科学群	日本学入門	ヨーロッパと日本の出会いは、マルコ・ポーロによるジバングの紹介に始まり、宣教師の渡来によって前進した。しかし、本格的には19世紀以降、日本の開国で交流が加速する。なかでも芸術の中心地フランスには日本の物や人が集まり、日本文化の流行が起こった。その歴史を学び、ヨーロッパで受け入れられた日本の価値観や美意識とはいかなるものだったのか、美術・文学・音楽等の事例をたどりながら考察する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 人文科学群	日本近代文学入門	日本の近代作家にとって外国経験（留学・遊学・旅行等）は大きな問題の一つで、それを綴った作品も数多く存在する。そのなかから代表的な例を取り上げ、作家たちが外国に行くまでの経緯や時代背景、文化交流、旅の様子を知ると共に、どのような問題にぶつかり、悩み、それをいかに解決したり克服したりしたのかを、作品（小説、エッセー、短歌等）を通して学んでいく。	
	映像・人類学	人類学は異文化との出会いから始まる。言い換えると、人類学者は異文化に生きる人々との出会いから、その学問的な営みを始める。本授業では、異文化に生きる人々との出会いを表現するために、主にドキュメンタリー映画を視聴する。スクリーンを介して様々な人々と遭遇することを通じて、人の生き方や考え方について学ぶ。	
	Top Level English (トップレベルイングリッシュ)	(英文) The content of the class will be decided according to the needs of the students enrolled. Possible activities include the following: presentations; structured discussions and debates; and practice for the interview in international tests of English such as IELTS or Cambridge ESOL. (和訳) 授業内容については、受講生の要望に応じて柔軟に対応する。プレゼンテーション、ディスカッションやディベート、IELTSやケンブリッジ英語検定などの面接試験に向けた練習を行う予定である。	
	「田園環境健康都市須坂」を「共創」（須坂市寄附講義）	全国的に、人口減少、超少子高齢化、厳しい経済状況、雇用状況など課題が山積しており、課題解決に対する基礎自治体である市町村と住民の役割は増大している。 本講義では、課題解決のために、市民と行政が第五次須坂市総合計画（平成23年4月策定）に沿ったまちづくりを「共創（同じ目的に向かって、確かな信頼関係の上で、分野の異なる人々が、お互いの特性をいかし、連携し、創造していくこと）」により行っている須坂市の事例を、携わっている本人自身が説明することによって、地域づくりの現状を理解し、広く参考にしていく。	
	韓国の文化（食文化）	韓国食文化に関するビデオ教材を用いて、様々な韓国の食文化とその背景や街の様子を紹介していく。合わせて日本の食文化も一緒に考えてみる。毎回の授業の流れは次の通りである。①前回の授業内容に対する学生の感想や意見を紹介した後、質問に答える ②その日に取り上げる食文化を理解する ③感想や意見、質問を出席シートに書く。	
	韓国の文化（映画で学ぶ）	映画の背景にある韓国の文化、歴史、習慣を説明した後、映画を観る。映画を観た後、意見交換をする。映画は一回の授業では最後まで観られないので一本の映画を授業二回にわたって鑑賞する。授業の流れは次の通りである。①前回の授業内容に対する学生の感想や意見を紹介した後、質問に答える ②その日に取り上げる韓国文化を理解する ③感想や意見、質問を出席シートに書く。	
	韓国の文化（若者の世界）	韓国の若者の文化（音楽・映画・恋愛事情など）を、ビデオ教材や資料を用いて紹介していく。韓国の若者の話も聞く。毎回の授業の流れは次の通りである。①前回の授業内容に対する学生の感想や意見を紹介した後、質問に答える ②その日に取り上げる若者文化を理解する ③感想や意見、質問を出席シートに書く。	
	韓国の文化（メディア）	韓国の様々なメディアを用いて韓国文化や現在の社会の様子を紹介し、それについての意見を交換する。次の授業に備えて事前に予習が必要な事項に関しては、eALPSにアップするので、常に確認が必要である。毎回の授業の流れは次の通りである。①前回の授業内容に対する学生の感想や意見を紹介した後、質問に答える ②その日に取り上げる韓国文化を理解する ③感想や意見、質問を出席シートに書く。	
フランスの文化 I	この講義では、ヨーロッパの文化を率いてきた国のひとつであるフランスについて様々な角度から学んでいく。 具体的にはテキストに沿って、視聴覚資料もまじえながら、フランスの言語、風土、歳時記、歴史、文化などに関する理解を深める。また、関連する芸術作品（美術、音楽、舞踊など）や文学作品の紹介も行う。こうした知識を踏まえて、各自関心のある分野を調査し、レポートにまとめる。		

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	教養科目 人文科学群	フランスの文化Ⅱ	この講義では、ヨーロッパの文化を率いてきた国のひとつであるフランスについて様々な角度から学んでいく。 具体的には、フランスの食文化、カフェと公園、マルシェ（市場）、ファッション、教育制度、家族事情、宗教事情などの文化、社会に関する理解を深めるとともに、政治や産業技術についてもとりあげる。こうした知識を踏まえて、各自関心のある分野を調査し、レポートにまとめる。	
		ドイツ語圏の文化Ⅰ	本講義では、ドイツ語圏文化を通して、国際理解・異文化理解の促進を目標とし、言語と文化の関連を常に意識しつつ、単なる情報ではない、息づくドイツの文化を学んでいく。 具体的には、ドイツ概観、ドイツ人と森、オーストリア、ドイツの環境についてとりあげる。教員からの情報提供の他にグループワークやプレゼンテーションなども取り入れる。	
		ドイツ語圏の文化Ⅱ	本講義では、ドイツ語圏文化を通して、国際理解・異文化理解の促進を目標とし、言語と文化の関連を常に意識しつつ、単なる情報ではない、息づくドイツの文化を学んでいく。 具体的には、ドイツ語圏の歴史、ドイツ語圏の文学、ドイツの音楽（グレゴリオ聖歌から交響曲まで）、ドイツの教育、シュタイナー教育についてとりあげる。教員からの情報提供の他にグループワークやプレゼンテーションなども取り入れる。	
		アフリカ文化論	アフリカは、約3030万平方キロメートル（日本の約80倍）の大陸であり、約10億の人々が55の国や地域に暮らしている。本講義では、この広大で豊かな地域の文化的な魅力と現代的な問題を紹介し、アフリカ文化の可能性と課題について考える。また、アフリカの文化を紹介することを通じて、世界の文化的な多様性と、その多様性を失いつつある世界の両方を考察する手がかりを提供する。	
社会科学群	スポーツ考現学	本講では、スポーツにまつわる様々な現象を、特に、観戦学、スペクタクル、権力、ナショナリズム、グローバリズム、メディア、ジェンダー、人種、階級、テクノロジー、コモディティズムといった視点から、写真、ビデオ映像などのヴィジュアル化された資料を適宜混じえて検討・理解する。		
	スポーツ文化を考える	スポーツ文化、身体文化に関してのさまざまな文献を読むことを前提として講義は展開される。国内外のスポーツ文化や身体文化に関する諸事情や考え方をビデオ映像なども混じえて検討する。 オリジナルテキストまたはプリントを用意するので受講生は毎回それを深く、クリティカルに読み込み、読後コメントを提出する。その上で講義や映像により知見を広め、小グループに分かれてテーマに関するディスカッションを行う《グループワーク》。ディスカッションは、毎回コーディネーター、書記、発表（報告）者の役割を決めてから行う。最後に全体討論を行う。		
	新聞と私たちの社会（信濃毎日新聞社寄附講義）	毎回、信濃毎日新聞社の方をゲストスピーカーとして招き、新聞の作られ方や読み方、社会的な役割について講演していただく。また、講演後に質疑応答を行い、受講生に新聞社の方々と直接対話する機会を設ける。さらに感想と質問を書いて提出してもらうことによって対話を深める。 本授業を通じて養う能力を試す上で、「新聞スクラップ」を2回提出してもらう。この課題は、受講生に新聞と用紙を配布し、一つの記事を選んで用紙に貼り付け、選択した理由や感想を書くというものである。また最後には、日本新聞協会の「HAPPY NEWS」に応募してもらう。		
	数を読む技術	情報化社会における数値情報の適切な扱い方はますます必要となっている。この授業では数値情報の利用に関する社会的状況を踏まえて、その適切な扱い方への理解を深めていく。 具体的には、図表資料の解釈、代表値（平均値でなく中央値を使うことの勧め）、散布度（分散、四分位範囲、幹葉図、箱ヒゲ図）、データの図示（ヒストグラム）、データの図示（二次元の分布；散布図）、比率の推定（世論調査など各首長さ）と解釈、行列待ち現象の分析、ランダムな現象とそうでない現象の違い、コンピュータによるデータ処理、その他身近な数値現象にまつわる話題についてとりあげる。		

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	教養科目 社会科学群	電子出版の現代	紙媒体以外のインターネットやCD-ROMを通じた出版を総じて電子出版と呼ぶ。この授業では電子出版が生まれた社会背景を踏まえうえで現代の状況に対する総合的な理解を深めていく。 具体的には、書くことの歴史と現在、グーテンベルクの印刷革命と現在、インターネット百科事典Wikipediaについて、書物の歴史と現在、インターネットの歴史と現在、読書端末の歴史と現在、知的財産権(主に著作権)と電子書籍、DTPの誕生と現在の電子出版、電子出版で扱う素材(文書、画像など)、文字の歴史と現在(コンピュータ上の扱いを含む)、日本語入力の話、これからの出版とウェブページの編集(とくにEPUB)、その他身近な電子出版にまつわる話題についてとりあげる。	
		世界経済の歩み	この講義では、世界経済の現状を、その歴史的発展を振り返りながら概観する。講義の主要な内容としては、16世紀から19世紀におけるイギリス資本主義の勃興とバックス・ブリタニカの成立、19世紀後半から20世紀初頭にかけてのドイツ等の後発諸国の台頭を見た後、強力な耐久消費財産型重化学工業を有するアメリカを中心とした世界編成・世界システムであるバックス・アメリカナの成立、展開、崩壊という視点より第2次世界大戦後の世界経済の歩みを押さえたうえで、世界経済の現状を論じていく。	
		ミクロ経済学入門	この講義では、消費者、企業などの経済行動を分析対象とするミクロ経済学の基礎知識を身に付け、経済現象を経済理論に基づいて分析する基礎を養うことを目的とする。授業は5人の教員が分担してオムニバス方式で行う。具体的内容は、まず、経済学的な考え方に関する基礎知識として、機会費用や比較優位、トレード・オフなどの概念を解説する。その上で、経済学の考え方の基本である、需要と供給の理論について説明する。これを基に、価格変化や所得変化への消費者の反応など、市場取引の特徴について理解を深める。最後に、需要と供給の理論に基づいて、市場の効率性についての経済学的考え方を解説した上で、参入規制や輸入規制など現実に行われた政府の政策の効果を検討する。 (オムニバス方式/全15回) (35 西村直子/3回) ミクロ経済学の基礎概念として、市場メカニズムを通じた資源配分の問題や、機会費用や比較優位、トレード・オフ、インセンティブといった経済学特有の概念を解説する。 (73 海老名剛/3回) 需要と供給の基礎理論として、需要曲線と供給曲線の基本概念を説明し、価格以外の要因変化が、需要曲線・供給曲線をシフトさせることなどを解説する。 (42 廣瀬純夫/3回) 価格変化や所得変化への消費者の反応を弾力性の概念で整理するなど、市場取引の特徴を解説する。 (69 増原宏明/3回) 消費者余剰と生産余剰の概念を説明し、余剰分析を通じて、市場メカニズムが効率的な資源配分を実現することを解説する。 (71 大野太郎/3回) 余剰分析の手法を応用して、参入規制や輸入規制などの経済政策が、市場の効率性に及ぼす影響について解説する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 社会科学群	マクロ経済学入門	<p>この授業は、マクロ経済学の分野と、この分野に関係が深い経済データの見方に焦点を当てた経済学入門科目である。授業は5人の教員が分担してオムニバス方式で行う。授業の前半は、マクロ経済学の観点から経済現象をみる見方について解説する。授業の後半では、経済データがどのような形で収集・活用されているか、またどのような特徴をもっているかについて解説する。各担当教員の担当内容は次の通りである。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (34 徳井丞次/3回) 景気循環の指標、GDPを通して見えてくる世界、消費関数を巡る論争を取り上げて解説しながら、マクロ経済学の眼鏡を通して社会をみることの面白さを紹介する。</p> <p>(33 山沖義和/3回) 日本の財政制度・税制・国債制度を巡る議論を取り上げて解説しながら、これらの問題がマクロ経済とも密接に関係していることを説明する。</p> <p>(70 青木周平/3回) 近年、「経済成長」や「所得格差」を巡り論争が活発になっている。経済データとマクロ経済学を使ってこれらの論争を整理し、「経済成長」や「所得格差」に関する理解を深める。</p> <p>(37 椎名洋/3回) 統計データは官公庁を中心に様々な種類のもので作成されている。どんな種類の統計データがあるか、どのような方法でそれらが収集されているか、データの処理に関して注意すべき点を学ぶことで、経済学における実証分析のための予備知識を獲得する。</p> <p>(74 加藤恭/3回) 金融・ファイナンスにおけるデータは様々な特徴を持っている。例えば金融機関の損失データはファットテール性を持つ事が知られており、統計的手法の適用の際には注意が必要である。また近年の株式取引等に関する高頻度データの活用の際にも多くの課題が残されている。これらのデータの特徴や利用方法について学ぶ。</p>	オムニバス方式
	大学生が出会う経済・経営問題	<p>大学生が日常生活を営む上で実際に遭遇する幾つかの問題をとりあげ、それを経済学や経営学の視点で見るとどうなるかを、わかりやすく解説する。経済学・経営学がどのような学問であるかを、具体的な問題を通して知ることで、学部の専門的な教育への導入を図る。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (43 井上信宏/3回) 生活を支える制度の話として、社会保障の体系と課題について以下の三点を中心に解説する。①社会保障というしくみが生み出された背景、②社会保険、社会扶助、社会福祉の3つの制度、③「社会保障と税の一体改革」に見られる社会保障の課題。</p> <p>(31 金早雪/3回) 経済発展をとりあげ、先進国と後進国のせめぎあいを、以下の三点を中心に解説する。①経済発展の要因とそこから生まれるひずみや不均衡、②先進国型の産業にキャッチアップするための方策、③世界の貿易構造。</p> <p>(67 武者忠彦/3回) 都市空間の「近代化」と「空洞化」について、以下の三点を中心に解説する。①近代化による都市空間の画一化、②売らない、貸さない、直さないことによる空洞化、③場所についての社会的な記憶の蓄積の欠如。</p> <p>(2 関利恵子/3回) 会社がどんな経営状態にあるかを知るための方法を、以下の三点を中心に解説する。①就職活動で企業の経営状態を調べたいときにどうするか、②企業の経営成績や財政状態はどうすればわかるか、③安全な起業かどうか、儲かっているかどうかをどうやって調べるか。</p> <p>(3 岩田一哲/3回) 人間が働く時にやる気が上がったりがったりする状況を考えるために、以下の三点を中心に解説する。①人はどのような欲求を持っているのか、②企業は人をどのように管理すべきか、③上司は部下をどのように管理すべきか。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	教養科目 社会科学群	公法入門	この講義では、自律的で責任感のある市民の育成という見地から、主として憲法学の基本的な諸概念を理解すること、また、法的なものの方を見方を学ぶことをねらいとする。このねらいを達成するために、日本国憲法を支えている立憲主義という考え方について、また、基本的人権について説明する。この講義を通じて、日本国憲法に関する基本的な知識を習得すること、法的な思考方法を身につけること、自らの考えを正確に表現する力を養うことを目的とする。	
		法学入門	この講義では、法学の勉強を始めるにあたってまず知っておいた方がよいと思われる事項について学習する。具体的には、法学にはどのような分野があるのか（公法・民事法・刑事法等）、法律とはなにか、法律の役割とはなにか、どうして法律ができるのか、判例とは何かなどについて、解説する。この講義を通じて、法的なものの方や考え方とはなにかを学び、今後、それぞれの法分野に関する科目を学習するための下地を築くことを目的とする。	
		大学生が出会う法律問題	大学生が生活をする上では、交通事故を起こしたり、自転車を盗まれたり、アルバイトで休憩なしに7時間以上働かされる等々、さまざまなトラブルに遭うことがある。これらのトラブルは、すべて法律問題であり、法学の知識を有することによって解決、あるいは防止できるものが多い。そこで、この講義では、それぞれの法分野を専門とする教員がオムニバス方式で、学生生活に関連する法律問題について解説する。学生生活を送る上で必要な法学に関する知識を学び、トラブルに対処する力を身につけることを目的とする。 (オムニバス方式/全15回) (12 丸橋昌太郎/2回) ガイダンス・総括 (10 赤川理/1回) 憲法分野 (13 大江裕幸/2回) 行政法分野 (5 池田秀敏/1回) 民法分野—契約一般、賃貸借、交通事故等 (11 栗田晶/1回) 民法分野—契約一般、賃貸借、交通事故等 (14 山代忠邦/1回) 民法分野—契約一般、賃貸借、交通事故等 (17 寺前慎太郎/2回) 商法分野 (16 濱田新/2回) 刑法分野 (9 小林寛/1回) 環境法分野 (15 島村暁代/2回) 労働法分野、社会保障法分野	オムニバス方式
		現代政治分析	日本の政治課題をどのように解決していくか、現代の政治課題に関する情報を収集分析し理解を深め、解決を考える技法を学ぶ。グローバル化が進展する中で、少子高齢化への対応、地方再生、環境やエネルギー問題、社会福祉や経済改革、外交や安全保障問題など政治課題は多岐にわたる。具体的な政策課題を取り上げ、現実的な課題解決方法を考察していく。毎回、課題を課し、授業の中で議論し理解を深めていく。自ら主体的に学び考え、それを口頭または文章で伝える能力を向上させる。	
自然科学群	数と形	古くから積み上げられてきた人類の英知を学び、また日常生活における数学の応用例を見ることで数学に対する見方が変わり、楽しさを知ることができる。授業名「数と形」のように前半では日常使用している「数」特に整数の性質について学び、その不思議さ深遠さを理解する。後半ではグラフ理論のように数と形の両方の概念をもつ具体的な問題等、いくつかの話題を取り上げて数名でのグループ作業を取り入れながら性質や応用について考える。		
	伝えておきたい数学	数学の基礎科目（微積分学や線形代数学）では伝えられないが、教養として是非おさえておきたい数学について、様々な観点から紹介する。数学の身近さ、創造の世界を感じ取ることで、数学の世界への理解を深めることをねらいとする。講義形式、討論形式、発表形式などを取り入れながら行っていく。講義形式では教養としての数学の知識を、討論形式ではグループに分かれて自分の考えを異分野の人にもわかりやすく話す能力を、発表形式ではプレゼンテーション能力を身につけられるようにする。		
	素数の不思議	この講義では素数という根源的な不思議な存在について、図書の識別記号である(JP)ISBN記号、RSA公開鍵暗号を主な題材として、いくつかの話題を提供する。素数はなぜ重要か、科学的な面からも、生活上の面からも考えてみたい。参加型の講義である。実際に手を動かして計算を行い、共に考え、話し合いを行う。講義の途上で2人組を作り、互いに課題（例えば数当てなど）を解決し合う取り組みも行う。これらの活動に積極的に取り組むことによって理解を深め、興味を喚起できる。		

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 自然科学群	教養としての物理学	物理学がどのようなものかを知り、自然を論理的に把握する立場を学ぶ。扱うテーマは、物理学の中の区分けで言うと「力学」「電磁気学」「相対論」である。それぞれにつき取り上げる話題は限られるが、単なる知識の寄せ集めにならないよう、話の流れを大切にしていきたい。物体の運動、電磁気現象、時間と空間、の各テーマについて、それぞれ数回ずつの授業をあてて解説して行く。レポートの作成は、物理学に対して、多面的、重層的な視点をもってもらうことを企図した、この授業の重要な構成要素、活動である。	
	観測天文学入門	最初に天体観測の概要に触れたあと、基本的に講義の大部分は教養としての天文学を学ぶことに割かれる（観測手法が主題ではないので注意して欲しい）。過去数年間に話題になった研究成果のうち、毎回ひとつのトピックを選び、それらがどのような着想および観測事実に基づいたものであるのかについて考えを深める。期間中に興味深い発見があった場合は適宜講義で扱う可能性がある。宇宙に興味のある、あらゆる学生の履修を歓迎する。	
	生活のなかの天文学	宇宙の始まりであるビッグバンから地球上の生命の起源にいたるまで、宇宙の進化の歴史を幅広く学ぶ。その知識をもとに、現代社会の諸問題と天文学のつながりを、毎回テーマを絞って考えを深める。講義では、基礎科学（物理、化学、生物、地学）から、それらと現代社会（社会活動、人間活動）との関係まで幅広く扱う。星々の世界は、さらに身近な存在になりつつある。分野横断研究（学際的研究）に興味を持つ、あらゆる学生の履修を歓迎する。	
	生態学入門	生物は環境からさまざまな影響を受けて生活しているが、生物の構造や機能、さらに生活様式にはその生息環境への適応が広く認められる。そうした生物の生活をその環境との関係で解き明かす科学が生態学である。この講義では生態学の基礎知識や基本概念を学ぶことを目的として、生物の多様性と進化、生物の集団（個体群）の性質、生物群集での個体群間のさまざまな相互関係、生態系の構造と機能について、パワーポイントやプリントなどを用いて講義を行う。	
	地域から学ぶ地球	山岳県である信州は多様な地質現象が観察される場所であり、そこに見られる地質現象を紹介し、それらが地球のどのような動きの結果かたち作られたのか、現場の現象からどのような地球の姿が明らかにされてきたのかについて学ぶ。この授業を通して、自然の見方、地球に関する研究の方法、さらに信州の自然の魅力を知ることができる。地球を調べる方法、日本最古の化石と地層、熱帯・火山島・深海の証拠、プレート運動、フォッサマグナ、火山、活断層と地震、災害などについて、実体験に基づく信州の地質の状況と、野外の現象から地球のどのような構造や動きが読み取れるかを解説する。	
	教養としての物質科学	物質をミクロな立場から考える視点を学び、我々が日常何気なく目にし、利用している物質・材料の背後にある科学、技術の一端を知る。鉄鋼材料や半導体など、我々の文明を支えている様々な物質・材料に焦点をあてる。また、そうした話題を通じて、「結晶学」「金属物理」「熱・統計力学」「量子論」等の学問分野の雰囲気も副次的に伝えたい。物質の構造、状態の変化、電子の振る舞いの各テーマについて、それぞれ数回の授業をあてて解説して行く。	
	ネットワーク社会における情報科学	高度情報化社会、ネットワーク社会と呼ばれる今日、情報処理やコンピュータに関する知識は社会生活を送る上で必要不可欠なものになっている。コンピュータの普及が私たちの生活に何をもたらしたのか、また将来的にはどのようなことが可能になるのだろうか。ここではコンピュータの動作原理を平易に解説する他、コンピュータ・ネットワークの基礎技術、情報社会の現状と問題点について講義する。コンピュータの歴史と進歩、コンピュータの動作原理、情報社会を支える様々な技術的背景、コンピュータネットワークの普及がもたらす意味について理解し、説明することができるようになることを目指す。	
	統計学の基礎	人間の行動を対象とした研究に携わる上で必要になる統計的なデータ解析手法を理解し、効果的な研究計画をたてるための知識を習得する。この授業を受講することで、数値データの整理法、統計学的検定の考え方や活用法などの知識を獲得することができる。各回の授業は、各種統計手法について解説した後、パソコンを用いてデータ解析の実際を学ぶ。データ解析には表計算ソフトを用いるが、基本的な使い方は説明しないので、各自復習しておいて欲しい。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 自然科学群	検索の科学	検索サイトGoogleを実際に多角的に活用した事例の紹介を通じてインターネット上の検索技術の概要を把握する。その後、検索の各技術の背景にある科学的側面の理解を進めていく。単なる検索操作では終わらない、その背後にある統計学や情報科学の学習まで進める。検索技術は現在進行中のものであり、また世の中で常用される技術を対象としていることを踏まえて、環境、教育、地域、ジェンダーの問題など、なるべくタイムリーな話題を扱いながら授業の展開を進める。	
	脳の不思議を探る（認知神経科学入門）	脳の謎を材料とし、自分で考え・探ることで、「考える力」そして「問題を解決する力」を磨き、納得解を得ること、「知識」ではなく「知恵」を獲得することを狙いとする。 「脳」についての基本知識のみは講義しておき、「脳の不思議」にまつわる理・情・欲、軽率な脳、騙される脳その他様々なトピックを基に、各自の独創的で大胆な発想に基づいた積極的な議論を重ねることによって受講者全員で理解を深める「受講者参加型」の形式を取る。受講者は受身ではなく、自ら疑問を持ち主体的に考えることが必要である。	
	脳の不思議をもっと探る（認知神経科学入門）	脳の謎を材料とし、受講者の関心を交えつつ、前期に扱わなかった中からトピックを抽出して進めていく。自分で考え・探ることで、「考える力」そして「問題を解決する力」を磨き、納得解を得ること、「知識」ではなく「知恵」を獲得することを狙いとする。 前期同様、「脳」についての基本知識のみは講義しておき、「脳の不思議」にまつわる理・情・欲、軽率な脳、騙される脳その他様々なトピックを基に、各自の独創的で大胆な発想に基づいた積極的な議論を重ねることによって受講者全員で理解を深める「受講者参加型」の形式を取る。受講者は受身ではなく、自ら疑問を持ち主体的に考えることが必要である。	
	宇宙から原子への旅	私たちを取り巻く世界を大きさに注目して、宇宙から原子にいたる様々な現象を全学教育機構の自然科学系の複数の教員が分担して解き明かす。文系の学生にも配慮した内容である。 (オムニバス方式/全15回) (26 佐々木洋城/3回) 導入 世界のスケール、通信と数学 (66 三澤透/2回) 銀河系と第2の地球探し、天地明察－天文編－ (59 片長敦子/1回) 天地明察－和算編－ (28 大塚勉/1回) 地球環境の変遷 (30 湯田彰夫/1回) アルゴリズムとヒューリスティックス (39 高野嘉寿彦/1回) 円周率の歴史をみてみよう (32 鈴木治郎/1回) スケールフリーの世界 自己相似の幾何学 (49 今津道夫/1回) 微生物の世界 (52 伊藤靖夫/1回) 身の回りの問いと生命の存在理由 (20 村上好成/1回) 高分子の鎖 (40 勝木明夫/1回) 光の化学、磁気の科学 (56 安達弘通/1回) 原子から宇宙へ	オムニバス方式
体育・スポーツ群	ソフトボール	本実践演習はグループ毎のディスカッションを通して問題や課題を発見し、その解決法を探りながら学習していく。まず2人組でキャッチ・ボールしながら「ウインドミル投法」の体験、4人組での「トスとフリー・バッティング」の技術獲得。更にチーム毎に打撃、守備、走塁等の基本技術を磨き戦術を考え、効果的な運動処方を書き出しながら「ゲーム」を中心とした授業を展開していく。	
	テニス	本実践演習は、技術的に経験知が少ない者でも早い段階からゲーム感覚に親しみ、「硬式テニス」に必要な基本的技術を分解練習しながら学び取っていく。また、リーダー中心に個人の欠点など「課題」を見つけ、仲間と共に協力しながら探求していく。加えて、「ゲームでの戦術」も考え、基礎練習と応用練習とを織り交ぜながら実際場面に対応できる感覚と積極的な行動力を養っていく。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 体育・スポーツ群	アダプテッドスポーツ	この授業は、アダプテッドスポーツの体験を通して、障害のある人との関わり方や、新しいスポーツについて考えていくものである。車いすやアイマスクを使用した校内移動や、アダプテッドスポーツの体験を通して、スポーツの楽しさの広がりや、特別なニーズのある人との関わり方を学ぶ。さらに、設定に応じたアダプテッドスポーツをグループで考え、発表し共有していく。そのため、毎回体を動かしながら学習していくとともに、誰でも楽しめる新しいスポーツを考える柔軟な思考と積極性を必要とする。	
	弓道	本授業では日本古来の武道として、また現代社会における生涯スポーツとしての弓道の基礎を体験することによって、文化としての弓道および身体と精神の相互作用を学ぶ。全日本弓道連盟制定の射法を基準に、射術及び競技方法やルール、弓具の扱い方を習得する。徐々に的との距離を伸ばしながら練習していき、正しい姿勢や心構え、射術等を習得していく。最後にまとめとして、射会を行い、射会の運営も含めて弓道の楽しさを味わえるようにする。多くの学生にとって初めての競技であるため、技術向上のために授業中の積極的な取り組みと、自主練習を必要とする。	
	コーディネーションエクササイズ	本授業では、四肢の協調や思考と行動の連動に注意を向けた運動ができるようになることを目的として、身体の動かし方に対する「気づき」と総合的な体力向上の獲得を目指す。種々の用具を用い、簡単に実践できるエクササイズから少し専門的なエクササイズを行う。例えば、バランスマットを使用したバランスエクササイズや、ジャンプ系と敏捷系を組み合わせた複合エクササイズを行う。また、子どもの頃から慣れ親しんできた遊びの中からピックアップしたものをアレンジし、授業のねらいを達成するための「オリジナルエクササイズ」を考案する。オリジナルエクササイズの考案と実践はグループ単位で行う。	
	剣道形の世界	本授業では、日本の伝統的運動文化である武道の学習法の一つ、形の実践を行う。形稽古を通して武道の礼法・作法を学ぶ中で、日本の伝統的運動文化の価値について理解を深めることを目的とする。「木刀による剣道基本技稽古法」と「日本剣道形」を習得する。グループで学習を進め、「木刀による剣道基本技稽古法」の成果を演武会で披露し、「日本剣道形」の成果を演武大会でグループ毎に競い合う。日本剣道形は、習熟度に応じて小太刀の形の学習も行う予定である。また、素振りや足さばき等の剣道の基本動作も行い、動きの質の向上を目指す。	
	バドミントン	本授業ではバドミントン競技の特性を理解し、ゲームとグループ活動の実践を通して技能・戦術等の個人的資質やコミュニケーション能力を向上させ、自己実現を図るとともに、生涯スポーツのリーダーとして、具体的実践方法を習得することを目指す。具体的には、バドミントン競技の技能・戦術とその応用力並びにルール・スコアリングについて習得し、グループ毎に練習計画を立案し、チーム力の向上を図る。授業ではグループ学習を多く取り入れ、8人のグループ毎に課題を設定してグループ対抗戦を行う。	
	コンディショニングバレエ	バレエダンサーの均整のとれた身体、美しい姿勢はどのようなトレーニングによりつくられているかを学ぶことにより、自身の身体への認識を高め、日常姿勢の癖を矯正するためのトレーニング方法を見出すことを目的とする。実際に身体を使って表現し踊り、バレエ動作と自己表現のつながりについて（踊ると動くの違い）を学び、ダンサーの動きを体感し、自身の身体との違いを発見する。バレエストレッチ、トレーニングを実践し、自身の身体（筋肉、関節）の左右のバランスを確認し問題を解決するためのトレーニング方法を学ぶ。グループに分かれて各々のトレーニング方法についてディスカッションを行う。最終課題として、グループごとに音楽に合わせた作品を創り（ストレッチ・トレーニング方法やダンス）発表する。	
	サッカー	本講座は、ミニゲームを展開し、サッカーの基本技術や基本戦術の習得に取り組む。基本的には身方や敵の動きに応じて適切な状況判断ができるようにし、周囲とのコミュニケーションを図り、互いに協力してカバーしあい、全員で行うゲームの楽しさを理解することを目指す。グループ毎にミニゲームの問題点を挙げ、その解決方法を考える。チームを作り、ポジションの役割を理解し、学生が主体的にフォーメーションを決めて、11対11のゲームを行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 体育・スポーツ群	バレーボール	本講座は、バレーボールの基礎技術の習得に簡単に楽しく取り組み、ミニゲームを展開して学生が主体的にゲーム運営にかかわることで、他者とのコミュニケーションを図り、互いがカバーしあうこと、全員で楽しむことができるゲーム環境を作ることを学ぶ。スポーツを楽しむ喜びを感じ、生涯スポーツへの導入を目指す。ボールコントロールからスタートし基礎技術のコツをつかみながら応用技術を加えチームを作り、学生が主体となりコンビネーションやフォーメーションを決める。男子は6人制中心に女子はソフトバレーボールを中心にゲームを楽しむ。	
	トレッキング	本授業では「信州の自然体感」をテーマに、トレッキングを通して自己の身体を再確認し、歩行運動の重要性の認識と生涯学習への導入を図るとともに、信州の自然環境を体感することにより環境問題についての理解を深めることをねらいとする。グループ活動を導入し、コミュニケーション能力の向上も目指す。夏期休暇中に4日間の集中形式で実施する。松本市周辺の自然に恵まれた地域(安曇野、白馬八方尾根、上高地、乗鞍高原)を訪れ、約8kmから15kmのトレッキングを行い、信州の豊かな自然を体感する。幾つかのグループを編成し、歩行のペース、休憩の取り方等について各グループで検討し実践するとともに、環境問題についても考える。また、宿泊を伴うので生活マナーについても学習する。	集中
	ゴルフ	ゴルフのスイング、道具の選び方を学ぶ。またコースに出ることによって、実際のプレーを体験し、将来社会人の持つべき教養の一つとしてのゴルフを身につける。また、グループでゴルフの練習方法などのディスカッションを通して深くゴルフを理解するとともに、ゴルフ場でのマナーを学び、生涯にわたってゴルフを楽しむ素養を養う。大学でスイングの基礎を習得した後、ゴルフ練習場(松本中央ゴルフ場)で、練習を行い、その後、松本カントリークラブで、ハーフラウンドと1ラウンドの実習を行う。	集中
	スポーツフィッシング	本授業は、信州の自然を生かした溪流釣り(えさ釣り、フライフィッシング)を体験し、自然との関わりの中でどのように自己をコントロールするか学ぶとともに、生涯にわたってレジャー活動を楽しむための導入を図る。また、併せて、信州の自然に接することによって環境に対する意識を高めることも目的とする。3泊4日の集中授業で行い、溪流つりの実践方法を学ぶとともに、グループごとに自然との協調性をどのようにしたら育むことができるかについてディスカッションと発表を行い、環境への意識を高める。(場所:伊那市周辺の河川)	集中
	マリンスポーツ	本授業は、信州の自然を生かしたマリンスポーツのうち、ヨット、カヌー、ボードセーリングといった種目を体験し、それぞれの種目の特性やルール、マナーおよびその考え方について学び、生涯スポーツへの導入を図ることを目的とする。8月に3泊4日の集中授業で、ヨット、カヌー、ボードセーリングの基礎を学び、協力してマリンスポーツを行うにはどうすれば良いか、グループワークによるディスカッションを行う。また、役割分担によって各グループでの自己の責務を自覚させ、積極的に実習に取り組むよう仕向ける。(場所:高遠湖)	集中
	信大マラソン	生涯スポーツとして人気のある「マラソン」について、心身への負荷、トレーニング法などについて栄養学、生理学、トレーニング科学などの面から学習し、その実践としてスカイパークでのマラソン完走を目標にする。講義と実践を通し、生涯スポーツとしてのマラソンの価値と可能性について考察する。授業は1ヶ月に一日ごと4日間の集中授業として行う。当然、授業時間だけでは完走できる体力はつかないため、授業時間以外の自主トレーニングが前提となる。また、走力に応じてグループ分けを行うので、自分のできる範囲での完走を目指す。	集中
	アウトドアの達人	本授業は、信州の自然(特に乗鞍高原)における野外活動の体験をとおして「アウトドアの達人」になるために必要な野外活動の基礎的知識、技術、ルール・マナーとその考え方について学び、生涯スポーツへの導入を図ることをねらいとする。全てのプログラムはグループワークをとおして行うため、コミュニケーション能力・チームワーク力・リーダーシップ力・フォロアシップ力を養うことができる。2泊3日の集中形式で2回実施し、夏期には説図、コンパスワーク、溪流釣り、ロープワーク、夏のソロ活動の知識と技術の習得を図る。活動を、冬期にはクロスカントリースキーツアー体験、アニマルトラッキング、氷瀑観察、灯籠作りの知識と技術の習得を図る活動を行う。	集中

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 体育・スポーツ群	サバイバル活動	本授業は、海浜での主に『食』に関するサバイバル活動をとおして野外活動に必要な知識、技術とその考え方を実践的に学び、生涯スポーツへの導入を図ることをねらいとする。活動の計画立案・実施に至るまでグループワークをとおして行うため、コミュニケーション能力・チームワーク力・リーダーシップ力・フォロアーシップ力を養うことができる。夏季休業期間中に4泊5日の集中形式で実施し、食（特にタンパク質）のサバイバルをとおして生きる力を養う。到達目標の概要は、スキンドайビングの知識と技術の習得、狩猟活動の知識と技術の習得、野外料理の知識と技術の習得、野外活動に必要な知識と技術の習得、グループワーク力の習得である。	集中
	スクーバダイビング	本授業は、海洋スポーツの一つであるスクーバダイビングに必要な基礎的知識、技術、ルール・マナーとその考え方について学び、生涯スポーツへの導入を図ることをねらいとする。全てのプログラムはグループワークをとおして行うため、コミュニケーション能力・チームワーク力・リーダーシップ力・フォロアーシップ力を養うことができる。3泊4日の集中形式で実施し、主にスクーバダイビングのCカード取得のための理論講習と実技講習を行う。到達目標は、スキンドайビングの知識と技術の習得、スクーバダイビングの知識と技術の習得、海洋生物の知識の習得、海洋環境の知識の習得、グループワーク力の習得である。	集中
	レジャースポーツ	本授業は、『水・空・雪』をテーマに、信州の自然を活かした様々なレジャースポーツを体験する。それらの体験をとおして、それぞれの種目に必要な基礎的知識、技術、ルール・マナーとその考え方について学び、生涯スポーツへの導入を図ることをねらいとする。全てのプログラムはグループワークをとおして行うため、コミュニケーション能力・チームワーク力・リーダーシップ力・フォロアーシップ力を養うことができる。『水・空・雪』をテーマに、1泊2日の集中形式で3回実施する。到達目標は、それぞれテーマ別に、『水』：カヌー、ヨット、ボードセイリングの基礎理論と技術の習得、『空』：パラグライダーの基礎理論と技術の習得、『雪』：クロスカントリースキーの基礎知識と技術の習得である。	集中
	スポーツボウリング	本授業は、ボウリングのルール、マナーおよびその技術について学び、生涯スポーツへの導入を図ることを目的とする。ゲームを通して、学生のコミュニケーション能力の向上を図り、ボウリングを通して、身体を用いた自己表現、自己実現や問題解決の方法を学ぶことを目的とする。ゲームの運営を分担して行い、リーダーシップ力を養うとともに、グループでのディスカッションを通して、身体感覚と実際の運動結果との相違について理解を深め、運動学習の方法の理解を高める。	
	ニュースポーツ	ニュースポーツは、老若男女問わず誰もが楽しめるスポーツであり、数多くの種目が考案され、世界的な広がりとなっている。本授業では、いくつかのニュースポーツを取り上げて実践する。基本ルールを理解し、仲間とコミュニケーションを図りながら取り組み、最終的には生涯スポーツを実践するきっかけとなることを目的とする。はじめにニュースポーツの各種目を紹介する。各種目でルールを理解しながら実践し、さらには技術レベルも向上するように進めていく。ニュースポーツは単純明快なルールであるにも関わらず、その実奥深いものであることを認識させ、実践にあたっては、各種目が考案されてきた歴史的背景についても学ぶ。小テスト1回、小レポート1回を課す。	
	アスレティックトレーニング	スポーツは体力を保持増進し健康な日々を送るのに効果的であるが、それと同時にスポーツを原因とした外傷および障害の発生により、健康を害する要因ともなり得る。本授業では、スポーツ外傷・障害を予防するトレーニングや競技力向上の基礎となるトレーニングを体験し、総合的な体力向上とトレーニングを計画・実施できる力を身に付けることをねらいとする。競技スポーツ現場にて運動能力の向上を目的として行なわれる様々なトレーニングを体験する。また、授業の最初と最後でフィットネスチェックおよびフィールドテストを実施し、自身の能力がどのように変化するかを体験する。グループでコミュニケーションをとりながら授業を進める。	

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	教養科目 体育・スポーツ群	バスケットボール	本授業では、グループに分かれディスカッションを通して問題や課題を発見し、その解決法を探りながら学習していく。バスケットボールのファンダメンタルを習得しながら個人技術を磨き、本場の「スリー・オン・スリー」なども楽しむ。チーム編成の中でリーダーを中心に各個人の役割を考え、効果的な人材を模索する。さらに、チーム力を高めながら「戦術」を考え、駆け引きのある「ゲーム」を楽しみ、運動量の確保と共に経験知の質を一層高めていく。	
		ネイチャースキー	ネイチャースキーとは、整備されていない雪山や森の中を、踵が固定されていないスキー用具を使って移動(歩く・登る・滑る)する活動である。この授業では、信州の冬の間や森を楽しく安全に移動できるようにすることを旨とし、登坂や滑降(テレマーク技術)に必要な技能を学ぶとともに、地図や方位磁石の使い方などを実践的に学ぶ。自然の中での活動を通して、健全な身体的感性を育み、自己の健康観を確立するとともに、人と人とのコミュニケーション能力を育てることを目的とする。スキー場周辺において3泊4日の集中形式で実施する。	集中
		スノー・スポーツ	本授業では、信州の自然に触れ、対話しながら思い通りのシュプールを描き、みずから環境的な心を深め理解できるようになること、スノー・スポーツに関する知識・技術・ルール・マナーを身につけ、生涯にわたる運動習慣の形成を考えられるようになること、グループ・ワークを通してコミュニケーション能力、チームワーク力、リーダーシップを身に付け、本学の学生・卒業生として期待される人間像を表現し、活力ある健全な社会の形成に貢献できるようになることを目指し、総じて「ひとり立ち出来るスキーヤー」となることをねらいとするアルペンスキーのグループ・ワーク授業である。技術レベル毎に分かれてディスカッションを行い、問題や課題を発見し解決法を探りながら学習していく。	集中
		フライングディスク	本授業はフライングディスクを通して、身体を用いた自己表現、自己実現や問題解決の方法を学ぶことを目的とする。生涯スポーツとして最適なフライングディスクの種目の様々な特定を学ぶ。フライングディスクの競技のうちチームスポーツであるアルティメットを通じて、コミュニケーション能力の向上も図る。生涯にわたって実践できる健康づくり・体力作りへの意識作りと方法について学習する。アルティメットのリーグ戦を通してコミュニケーション能力の習得を目指す。	
基礎科目	外国語科目	英語 フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅠ(上級)	文法、コロケーション、語彙や構文に配慮しながら、正しい英文が書けるようになるように演習を行う。リーディングに関しては、文レベルできちんと英文が理解できるようになるように演習を行う。これらの演習は、英語の読解力および作文力のみならず、スピーキング力や英語によるディスカッション力の養成にも資するものである。なお、テキストは上級レベルに対応したものを使用する。	
		フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅠ(中級)	文法、コロケーション、語彙や構文に配慮しながら、正しい英文が書けるようになるように演習を行う。リーディングに関しては、文レベルできちんと英文が理解できるようになるように演習を行う。これらの演習は、英語の読解力および作文力のみならず、スピーキング力や英語によるディスカッション力の養成にも資するものである。なお、テキストは中級レベルに対応したものを使用する。	
		フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅠ(初級)	文法、コロケーション、語彙や構文に配慮しながら、正しい英文が書けるようになるように演習を行う。リーディングに関しては、文レベルできちんと英文が理解できるようになるように演習を行う。これらの演習は、英語の読解力および作文力のみならず、スピーキング力や英語によるディスカッション力の養成にも資するものである。なお、テキストは初級レベルに対応したものを使用する。	
		フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅡ(上級)	パラグラフレベルのライティングに対応したテキストを用い、原因と結果、記述、議論など、様々な種類のパラグラフの構成や、リスティング・クラスタリングなどのアイデア推敲作業を学び、きちんとした英語のパラグラフが書けるように演習を行う。リーディングに関しては、パラグラフレベルできちんと英文が理解できるようになるように演習を行う。これらの演習は、英語の読解力および作文力のみならず、スピーキング力や英語によるディスカッション力の養成にも資するものである。なお、テキストは上級レベルに対応したものを使用する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基礎科目 外国語科目	フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅡ (中級)	パラグラフレベルのライティングに対応したテキストを用い、原因と結果、記述、議論など、様々な種類のパラグラフの構成や、リスニング・クラスタリングなどのアイディア推敲作業を学び、きちんとした英語のパラグラフが書けるように演習を行う。リーディングに関しては、パラグラフレベルできちんと英文が理解できるようになるように演習を行う。これらの演習は、英語の読解力および作文力のみならず、スピーキング力や英語によるディスカッション力の養成にも資するものである。なお、テキストは中級レベルに対応したものを使用する。	
	フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅡ (初級)	パラグラフレベルのライティングに対応したテキストを用い、原因と結果、記述、議論など、様々な種類のパラグラフの構成や、リスニング・クラスタリングなどのアイディア推敲作業を学び、きちんとした英語のパラグラフが書けるように演習を行う。リーディングに関しては、パラグラフレベルできちんと英文が理解できるようになるように演習を行う。これらの演習は、英語の読解力および作文力のみならず、スピーキング力や英語によるディスカッション力の養成にも資するものである。なお、テキストは初級レベルのものを使用する。	
	リスニング&リーディングⅠ (上級)	上級レベルにおいて、バラエティに富んだ題材を扱った英文を用いて、ジャンルに応じた読解法・聴解法を修得する。また、語彙やイディオムなどの確認・整理も行う。 学部や学科によっては、求められるものや興味などが異なる場合があるので、それらにも配慮する。 なお、必要に応じて、専門に関連した教材や資格試験対策教材などの補助教材も適宜使用する場合がある。 初回時にテキストや内容についてガイダンスを行う。	
	リスニング&リーディングⅠ (中級)	中級レベルにおいて、バラエティに富んだ題材を扱った英文を用いて、ジャンルに応じた読解法・聴解法を修得する。また、語彙やイディオムなどの確認・整理も行う。 学部や学科によっては、求められるものや興味などが異なる場合があるので、それらにも配慮する。 なお、必要に応じて、専門に関連した教材や資格試験対策教材などの補助教材も適宜使用する場合がある。 初回時にテキストや内容についてガイダンスを行う。	
	リスニング&リーディングⅠ (初級)	初級レベルにおいて、バラエティに富んだ題材を扱った英文を用いて、ジャンルに応じた読解法・聴解法を修得する。また、語彙やイディオムなどの確認・整理も行う。 学部や学科によっては、求められるものや興味などが異なる場合があるので、それらにも配慮する。 なお、必要に応じて、専門に関連した教材や資格試験対策教材などの補助教材も適宜使用する場合がある。 初回時にテキストや内容についてガイダンスを行う。	
	リスニング&リーディングⅡ (上級)	Iで学んだ内容を踏まえ、上級レベルにおいて、バラエティに富んだ題材を扱った英文を用いて、ジャンルに応じた読解法・聴解法を修得する。また、語彙やイディオムなどの確認・整理も行う。 学部や学科によっては、求められるものや興味などが異なる場合があるので、それらにも配慮する。 なお、必要に応じて、専門に関連した教材や資格試験対策教材などの補助教材も適宜使用する場合がある。 初回時にテキストや内容についてガイダンスを行う。	
	リスニング&リーディングⅡ (中級)	Iで学んだ内容を踏まえ、中級レベルにおいて、バラエティに富んだ題材を扱った英文を用いて、ジャンルに応じた読解法・聴解法を修得する。また、語彙やイディオムなどの確認・整理も行う。 学部や学科によっては、求められるものや興味などが異なる場合があるので、それらにも配慮する。 なお、必要に応じて、専門に関連した教材や資格試験対策教材などの補助教材も適宜使用する場合がある。 初回時にテキストや内容についてガイダンスを行う。	
	リスニング&リーディングⅡ (初級)	Iで学んだ内容を踏まえ、初級レベルにおいて、バラエティに富んだ題材を扱った英文を用いて、ジャンルに応じた読解法・聴解法を修得する。また、語彙やイディオムなどの確認・整理も行う。 学部や学科によっては、求められるものや興味などが異なる場合があるので、それらにも配慮する。 なお、必要に応じて、専門に関連した教材や資格試験対策教材などの補助教材も適宜使用する場合がある。 初回時にテキストや内容についてガイダンスを行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	基礎科目 外国語科目	英語 アカデミック・イングリッシュ I (上級)	上級レベルにおいて、エッセイ・ライティング用のテキストを用いて演習を行うが、1年次に引き続き、パラグラフの構成の学習から始める。リーディングに関しては、パラグラフ単位で意味をつかみ、かつパラグラフ間の整合性に注意を向けつつ、一定の長さの英文を読む練習を行う。	
		アカデミック・イングリッシュ I (中級)	中級レベルにおいて、エッセイ・ライティング用のテキストを用いて演習を行うが、1年次に引き続き、パラグラフの構成の学習から始める。リーディングに関しては、パラグラフ単位で意味をつかみ、かつパラグラフ間の整合性に注意を向けつつ、一定の長さの英文を読む練習を行う。	
		アカデミック・イングリッシュ I (初級)	初級レベルにおいて、エッセイ・ライティング用のテキストを用いて演習を行うが、1年次に引き続き、パラグラフの構成の学習から始める。リーディングに関しては、パラグラフ単位で意味をつかみ、かつパラグラフ間の整合性に注意を向けつつ、一定の長さの英文を読む練習を行う。	
		アカデミック・イングリッシュ II (上級)	上級レベルにおいて、エッセイ・ライティング用のテキストを用いて演習を行うが、前期に引き続き、パラグラフの構成の学習から始める。リーディングに関しては、パラグラフ単位で意味をつかみ、かつパラグラフ間の整合性に注意を向けつつ、一定の長さの英文を読む練習を行う。	
		アカデミック・イングリッシュ II (中級)	中級レベルにおいて、エッセイ・ライティング用のテキストを用いて演習を行うが、前期に引き続き、パラグラフの構成の学習から始める。リーディングに関しては、パラグラフ単位で意味をつかみ、かつパラグラフ間の整合性に注意を向けつつ、一定の長さの英文を読む練習を行う。	
		アカデミック・イングリッシュ II (初級)	初級レベルにおいて、エッセイ・ライティング用のテキストを用いて演習を行うが、前期に引き続き、パラグラフの構成の学習から始める。リーディングに関しては、パラグラフ単位で意味をつかみ、かつパラグラフ間の整合性に注意を向けつつ、一定の長さの英文を読む練習を行う。	
	ドイツ語	ドイツ語初級(総合) I	ドイツ語の構造について:「学習」した個々の項目を自由自在に組み合わせ、読み・書き・話し・聞くことができるようになるのが目標である。そのためには、授業で扱った内容を次の授業までしっかりと復習し、疑問点を明確にし、定着させて進んでいかなければならない。 発音について:ドイツ語の発音の出発点は「ローマ字読み」である。その例外となる発音に着目して習得を目指してほしい。そのためには、目で読むだけでなく、常に音読して、ドイツ語のリズムを共に身につけていく必要がある。 授業の全体像:最初の数回の授業で発音の基礎を学習するが、その後も引き続いてチェックを行う。数詞の暗唱や短い文章の朗読といった口頭テストも行う。 基本的に1課終了ごとに確認テストを行うことで、自己評価(チェック)に役立ててもらう。その他に、発音チェックの口頭試験、期末試験を行う。	
		ドイツ語初級(総合) II	文法学習について:前期に習得したことを土台として、さらに「学習」した個々の項目を自由自在に組み合わせ、読み・書き・話し・聞くための能力を伸ばすことが目標である。そのためには、授業で扱った内容を次の授業までしっかりと復習し、疑問点を明確にし、定着させて進んでいかなければならない。 発音について:前期に引き続き、重点をおく。 授業の全体像:最初の2回の授業で前期の復習を行うが、以後、授業内で既習事項の確認を行う。積極的な自習によって新規学習事項との関連を確認するように。 基本的に1課終了ごとに確認テストを行うことで、自己評価(チェック)に役立ててもらう。その他に、発音チェックの口頭試験、期末試験を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基礎科目 外国語科目 ドイツ語	ドイツ語初級（文法）Ⅰ	国際化が進む現代社会で生きていくために、多様なものの見かたができるようになることを目指し、英語以外の外国語（この授業ではドイツ語）の基礎を習得する。言語の基本は「音」であるので、発音も重視しつつ、使えるドイツ語の基礎を習得してもらいたい。夏休み中も自主学習を続けることで、独検4級の秋期試験に合格する程度のドイツ語力をつけることも目標の一つである。 学ぶべきこと： 1. ドイツ語の基本的な構造 2. ドイツ語の発音 3. 言語を媒介としたグローバル感覚	
	ドイツ語初級（文法）Ⅱ	ドイツ語初級（文法）Ⅰに引き続き、国際化が進む現代社会で生きていくために、多様なものの見かたができるようになることを目指し、英語以外の外国語（この授業ではドイツ語）の基礎を習得する。言語の基本は「音」であるので、発音も重視しつつ、使えるドイツ語の基礎を習得してもらいたい。夏休み中も自主学習を続けることで、進級後の独検3級の春季試験に合格する程度のドイツ語力をつけることも目標の一つである。 学ぶべきこと： 1. ドイツ語の基本的な構造 2. ドイツ語の発音 3. 言語を媒介としたグローバル感覚	
	ドイツ語初級（読解・会話）Ⅰ	この授業では、初級レベルにおいて口頭でドイツ語のセンテンスを作ることに重点を置いて、授業を行う。 授業中、発音練習、グループワーク、インタビュー活動等の口頭でのやりとりに、多くの時間を費やす。しっかりとした基礎的なドイツ語のレベルを目指すため、授業では他の3つの言語能力（聞く、書く、読む）も訓練する。また、文法の要素も重要不可欠である。 受講者には授業への積極的な参加が要求される。また、授業ではほぼ毎回復習小テストを行い、小さな宿題を出す。セメスターの期間中、各課終了後の小テストも行う。各課終了後の小テストや期末試験は、筆記試験と口答試験からなる。	
	ドイツ語初級（読解・会話）Ⅱ	この授業では、Ⅰで学んだ内容を踏まえ、初級レベルにおいて口頭でドイツ語のセンテンスを作ることに重点を置いて、授業を行う。 授業中、発音練習、グループワーク、インタビュー活動等の口頭でのやりとりに、多くの時間を費やす。しっかりとした基礎的なドイツ語のレベルを目指すため、授業では他の4つの言語能力（聞く、書く、読む）も訓練する。また、文法の要素も重要不可欠である。 受講者には授業への積極的な参加が要求される。また、授業ではほぼ毎回復習小テストを行い、小さな宿題を出す。セメスターの期間中、各課終了後の小テストも行う。各課終了後の小テストや期末試験は、筆記試験と口答試験からなる。	
	ドイツ語中級（読解）Ⅰ	ドイツ語読解能力について：外国語は、単なる学ぶ対象ではなく、実際に用いてこそ初めて学習する価値が生まれる。そのためにも、既習事項とその習熟度を自ら理解し、統合的に用いる能力を身につけるトレーニングを行う。また、辞書をひく際も、最初の訳語を見て用いるのではなく、納得がいくまでしっかりと調べて、実際に書かれている内容が腑に落ちるまで考える習慣をつけてほしい。 国際理解感覚について：異文化理解は、外国語の文章を読む際にも問題になる。日本語の感覚だけで読もうとしても書き手の論や感覚を受けとめることはできない。自分がすでに持っている情報で処理しようとするのではなく、常に新しいものを求め、わからないことは納得するまで調べ、自分の中の国際感覚の奥行きを広げる意識を身につける。 授業全体について：学期の前半は、1年次の学習事項の復習と補足を行いつつ、読解に慣れていってもらおう。 Lektionが終わるごとに確認の小テストを行い、自己確認・復習に役立ててもらおう。 後半では、「学習のために作られたのではないドイツ語文」を読み、ドイツ語のテキストに慣れていってもらおう。	

授 業 科 目 の 概 要						
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)						
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考		
共通教育科目	基礎科目	外国語科目	ドイツ語	ドイツ語中級（読解）Ⅱ	この授業はドイツ語中級（読解）Ⅰの継続であり、Ⅰで学んだ内容を踏まえ、初級ドイツ語文法の復習と、新たに初中級ドイツ語文法の習得を目指す。さらに、この授業は、和文独訳、聞き取り・書き取り練習、会話表現練習によって、初中級のドイツ語運用能力の獲得と、「外国語を用い、的確に読み、書き、聞き、他者に伝えることができる言語能力」と、「対話を通じて他者と協力し、目標実現のために方向性を示すことができるコミュニケーション能力」を持つ教養人育成を目指す。ドイツ語の日常的言い回しによるテキストを読み、和訳できるようにする。	
			ドイツ語中級（会話）Ⅰ	ドイツ語のセンテンスを中級レベルにおいて口頭と筆記で作ることに重点をおいて授業を行う。授業中、発音練習、グループワーク、インタビュー活動等の口頭でのやりとりに、多くの時間を費やす。しっかりとした基礎的なドイツ語のレベルを目指すため、授業では他の3つの言語能力（聞く、書く、読む）も訓練する。また、文法の要素も重要不可欠である。 受講者には授業への積極的な参加が要求される。また、授業ではほぼ毎回復習小テストを行い、小さな宿題を出します。セメスターの期間中、各課終了後の小テストも行う。各課終了後の小テストや期末試験の内容は筆記試験と口答試験からなる。		
			ドイツ語中級（会話）Ⅱ	ドイツ語のセンテンスをⅠで学んだ内容を踏まえ、中級レベルにおいて口頭と筆記で作ることに重点をおいて授業を行う。授業中、発音練習、グループワーク、インタビュー活動等の口頭でのやりとりに、多くの時間を費やす。しっかりとした基礎的なドイツ語のレベルを目指すため、授業では他の3つの言語能力（聞く、書く、読む）も訓練する。また、文法の要素も重要不可欠である。 受講者には授業への積極的な参加が要求される。また、授業ではほぼ毎回復習小テストを行い、小さな宿題を出します。セメスターの期間中、各課終了後の小テストも行う。各課終了後の小テストや期末試験の内容は筆記試験と口答試験からなる。		
			フランス語	フランス語初級（総合）Ⅰ	フランス語の基礎文法を理解したうえで、日常においてよく使われる会話文の発音・語彙・表現を学ぶ。それらを踏まえて、リスニング力も磨いていく。また、視聴覚資料を取り入れながら、フランスの生活や文化も紹介する。 「フランス語初級（総合）Ⅰ」においては、フランス語のルールを学んだうえで、視聴覚資料等を通じて、生活や文化について解説する。	
	フランス語初級（総合）Ⅱ	フランス語の基礎文法を理解したうえで、日常においてよく使われる会話文の発音・語彙・表現を学ぶ。それらを踏まえて、リスニング力も磨いていく。また、視聴覚資料を取り入れながら、フランスの生活や文化も紹介する。 「フランス語初級（総合）Ⅱ」においては、Ⅰで学んだ内容を踏まえ、日常的な行動の中において正しい発音で基本的なコミュニケーションがとれる運用能力を学ぶ。さらに、国や文化についての知識を得て、国際感覚を養う。				
	フランス語初級（文法）Ⅰ	定評のある教科書を使い、教員による解説、受講生による演習を行うことによってフランス語文法の基礎をしっかりと身につける。文法は外国語学習の根幹である。言葉とは複雑であり、その勉強は楽なものではない。しかし、だからといって特別難しいものでもない。努力に応じて着実に実力はついていくものである。できるだけわかりやすい授業の展開を目指す。				
	フランス語初級（文法）Ⅱ	定評のある教科書を使い、Ⅰで学んだ内容を踏まえ、教員による解説、受講生による演習を行うことによってフランス語文法の基礎をしっかりと身につける。文法は外国語学習の根幹である。言葉とは複雑であり、その勉強は楽なものではない。しかし、だからといって特別難しいものでもない。努力に応じて着実に実力はついていくものである。できるだけわかりやすい授業の展開を目指す。				
	フランス語初級（読解・会話）Ⅰ	日常的なコミュニケーションのなかで出会う様々な読解および会話のパターンを集中的に学ぶ。発音練習、リスニング、ペアもしくはグループによる会話練習にも力を入れていく。また、視聴覚資料を取り入れながら、フランスの生活や文化も紹介していく。 「フランス語初級（読解・会話）Ⅰ」においては、挨拶・自身の紹介・各場面における尋ねる力等を学び、練習を通じて会話パターンが身につくよう進める。				

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基礎科目 外国語科目	フランス語 フランス語初級（読解・会話）Ⅱ	日常的なコミュニケーションのなかで出会う様々な読解および会話のパターンを集中的に学ぶ。発音練習、リスニング、ペアもしくはグループによる会話練習にも力を入れていく。また、視聴覚資料を取り入れながら、フランスの生活や文化も紹介していく。 「フランス語初級（読解・会話）Ⅱ」においては、Ⅰで学んだ内容を踏まえ、自身で発信できる力を身につけるよう目指す。さらに、国や文化についての知識を得て、国際感覚を養う。	
	フランス語中級（読解・会話）Ⅰ	授業で得られる要素を達成するために、テキストはフランス庶民社会で起る様々なドラマを扱った短編小説を使用する。本授業は初級から中級への橋渡しの位置づけであるので、単なる訳読にとどまらず、文法の復習も積極的に行う。	
	フランス語中級（読解・会話）Ⅱ	授業で得られる要素を達成するために、テキストはフランス庶民社会で起る様々なドラマを扱った短編小説を使用する。本授業は初級から中級への橋渡しの位置づけであるので、Ⅰで学んだ内容を踏まえ、単なる訳読にとどまらず、文法の復習も積極的に行う。	
	中国語 中国語初級（総合）Ⅰ	テキスト1課につき2回のペースで、解説に加えて、課題の練習（音読・翻訳）、小テスト（音声・筆記）による復習といった構成で、初歩的な中国語を読み・書き・聞き・話す練習を反復しながら授業を進める。 中国語の発音・聞き取りの練習から始め、基本的な文法、語彙の学習にあわせてやさしいテキストを読み、総合的な力を養う。	
	中国語初級（総合）Ⅱ	教科書を中心に行う。前期「中国語初級（総合）Ⅰ」で学んだ内容を踏まえ、引き続き中国語の基本的な文法、語彙を学んでいく。各課終了後に小テストを実施する。また、必要に応じて中国の社会事情や文化なども紹介する。	
	中国語初級（文法）Ⅰ	テキストに沿って授業を進める。まず最初の一か月間は「発音編」を学ぶ。ここで発音と発音記号を習得し、中国語学習の土台を築き上げる。「発音編」は一つの大きな山である。これを頑張って乗り越えれば次の「文法編」の理解も容易になる。「文法編」は一時間に一課の進捗で進む。毎回の授業では文法事項の確認をした後、日本語訳、音読、練習問題などに取り組み理解を深めていく。	
	中国語初級（文法）Ⅱ	テキストに沿って、一時間に一課、授業を進める。本授業では、前期からの学習に続き第十三課から始まる予定である。毎回の授業では文法事項の確認をした後、日本語訳、音読、練習問題などに取り組み理解を深めていく。まとめでは、中国語で書かれた「桃太郎」を読み、またその音読の発表を一人ずつしてもらい予定である。	
	中国語初級（読解・会話）Ⅰ	中国語の背景にある中国の社会、文化を紹介しながら中国語の発音、基本的な構文を学び、練習する。授業中初修者にとって区別しにくい音の把握に重点を置き、解説するだけでなく、十分な練習の時間を設ける。本文は会話形式なので、その役割練習を行うことによって自然に単語の用法と中国語による問いかけと答え方を把握するように授業を進める。中国語検定を参考に、使用頻度の高い語彙の運用能力を身につけるように目指す。中国の歴史、文化に関する参考書についての感想を話し合う時間も設け、中国への関心を高める。	
	中国語初級（読解・会話）Ⅱ	「中国語初級（読解・会話）Ⅱ」においては、Ⅰで学んだ内容を復習し、中国語の背景にある中国の社会、文化を紹介しながら中国語の発音、基本的な構文を学び、練習する。授業中初修者にとって区別しにくい音の把握に重点を置き、解説するだけでなく、十分な練習の時間を設ける。本文は会話形式なので、その役割練習を行うことによって自然に単語の用法と中国語による問いかけと答え方を把握するように授業を進める。中国語検定を参考に、使用頻度の高い語彙の運用能力を身につけるように目指す。中国の歴史、文化に関する参考書についての感想を話し合う時間も設け、中国への関心を高める。	
	中国語演習Ⅰ	中国語の背景にある中国の社会、文化を紹介し、会話練習のために、まず本文の朗読から始まるが、その後ペアで会話の発表を行う。会話能力の向上とともに読解・作文の能力を培うことを目指す。教科書の短い文章には日本人学生が中国へ留学した場合によく使う語彙が盛り込まれているので、留学時の発信力に自信を持つように授業を進める。中国の歴史、文化に関する参考書についての感想を話し合う時間も設け、中国への関心を高める。	

授 業 科 目 の 概 要					
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)					
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	基礎科目 外国語科目	中国語	中国語演習Ⅱ	「中国語演習Ⅱ」においては、Ⅰで学んだ内容を踏まえ、中国語の背景にある中国の社会、文化を紹介し、会話練習のために、まず本文の朗読から始まるが、その後ペアで会話の発表を行う。会話能力の向上とともに読解・作文の能力を培うことを目指す。教科書の短い文章には日本人学生が中国へ留学した場合によく使う語彙が盛り込まれているので、留学時の発信力に自信を持つように授業を進める。中国の歴史、文化に関する参考書についての感想を話し合う時間も設け、中国への関心を高める。	
		ハンゲル	ハンゲル初級（総合）Ⅰ	韓国語の文字、発音、初級文法を説明する。初期段階での韓国語の発音は日本語母語話者にとっては難しいかも知れないが、日本語の発音と関連付けて分かりやすく解説をしながら発音の練習をしていく。文字や発音をマスターした後は基礎文法を勉強する。韓国語の文法は日本語と似ているため理解しやすいが、誤用の危険性もあるので、その点もしっかり説明する。文字と基礎文法をマスターすれば簡単な会話がすぐ出来るようになる。そのような会話力が確実に定着するように、話すことに時間をかけて授業を進める。授業の後半（約15分間）にはビデオ教材を取り入れて、聞き取りの力がつくようにする。	
		ハンゲル	ハンゲル初級（総合）Ⅱ	「ハンゲル初級（総合）Ⅰ」の続きとして、韓国語の初級文法を説明し、その文法知識がしっかり身につくように練習問題を解いた後、応用文を作り、それをもとに会話練習をしていく。韓国語コミュニケーション能力をしっかりと身につけるためには、たくさん話すことが何より大事なことで、たくさん話すことに時間をかけて授業を進めていく。またビデオ教材をたくさん利用して聴き取りの力をつけていく。そして、言葉の背景にある韓国文化も紹介する。	
		ハンゲル	ハンゲル初級（文法）Ⅰ	韓国語の文字、発音、初級文法を説明する。初期段階での韓国語の発音は、日本語母語話者にとっては難しいかも知れないが、日本語の発音と関連付けて分かりやすく解説をしながら発音の練習をしていく。文字や発音をマスターした後は基礎文法を勉強する。韓国語の文法は日本語と似ているので、日本語と比較しながらわかりやすく説明する。そして毎回授業の後半（約15分間）にビデオ教材を取り入れて、聞き取りの力がつくようにする。また復習がしっかり出来るように復習シートを使って、確実に韓国語文法がマスターできるように進める。そして言葉の背景にある韓国文化も紹介する。	
		ハンゲル	ハンゲル初級（文法）Ⅱ	発音の面では、正確な発音が出来るように練習する。文法の面では、初級文法を説明していく。初級文法をマスターし、単語力を増やせば、応用会話が出来るようになる。そのような会話力が確実に定着するように話すことに時間をかけて授業を進めていく。そして、毎回授業の後半（約15分間）にビデオ教材を取り入れて、聞き取りの力をつけていく。復習がしっかり出来るように復習シートを使って、確実に韓国語能力が身につくように進める。そして言葉の背景にある韓国文化も紹介する。	
		ハンゲル	ハンゲル初級（読解・会話）Ⅰ	韓国語の文字、発音、基礎文法を説明する。韓国語の読解力と会話力を養うことに重点を置いて授業を進める。初期段階での韓国語の発音は日本語母語話者にとっては、難しいかも知れないが、日本語の発音と関連付けて分かりやすく解説をしながら発音の練習をしていく。毎回残り15分間は、ビデオ教材を取り入れつつ聞き取りの力をつけていく。そして、言葉の背景にある文化も紹介する。	
		ハンゲル	ハンゲル初級（読解・会話）Ⅱ	韓国語でコミュニケーションを取る際には、正確な発音で話すことが大事である。前期に続き、正確な発音が出来るように練習する。そしてテキストに沿って会話のペースとなる初級文法を説明する。全体的には韓国語の読解力と会話力を養うことに重点を置いて授業を進める。ビデオ教材もたくさん取り入れつつ聞き取りの力をつけていく。そして、言葉の背景にある文化も紹介する。	
		ハンゲル	ハンゲル中級（読解・会話）Ⅰ	1年次に学習した内容を元に、テキストに沿って韓国語の正しい発音、文法、言い回しなどを説明していく。そして、毎回授業の後半（約15分間）にビデオ教材を取り入れて、聞き取りの力をつけていく。復習がしっかり出来るように復習シートを使って、確実に韓国語能力が身につくように進める。そして言葉の背景にある韓国文化も紹介する。	

授 業 科 目 の 概 要					
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)					
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	基礎科目	外国語科目 ハングル	ハングル中級（読解・会話）Ⅱ	正しい発音とより高いレベルの文法、言い回しなどを説明していく。韓国語会話能力をしっかりと定着させるために最も重要なことは、たくさん話すことなので、授業で与えた知識を利用して、十分な会話練習ができるように授業を進めていく。毎回授業の後半（約15分間）にビデオ教材を取り入れて、聞き取りの力もつけていく。そして言葉の背景にある韓国文化も紹介する。	
		健康科学科目 健康科学・理論と実践	健康科学・理論と実践	◆理論7回、実践8回で構成される。 (オムニバス方式/全15回) 【理論】(7回) 健康は個人、社会、地球環境にまたがる大きな課題である。この科目は心身の健康、キャンパスにおける安全、社会における望ましい人間関係、環境と健康、などについての知識と行動規範の修得を目標とし、以下の7つのカテゴリーから構成されている。 (19 川茂幸/1回) カテゴリー1 インTRODクッション、健康なキャンパスライフのために (75 金子稔/1回) カテゴリー2 メンタルヘルス概論 (44 杉本光公/1回) カテゴリー3 ライフスキルアップ (72 速水達也/1回) カテゴリー4 健康を守る（スポーツと健康、AIDS 予防、性感染症予防、地球環境と健康） (19 川茂幸/1回) カテゴリー5 生活習慣病を予防する（肥満、糖尿病、喫煙、アルコール） (77 内田満夫/1回) カテゴリー6 薬物乱用の予防 (19 川茂幸/1回) カテゴリー7 性感染症予防・正しい性の知識 【実践】(8回) (80 加藤彩乃/8回) (79 廣野準一/8回) 半セメスターの期間中に、体力測定及びウォーキング、ジョギング、エクササイズの方法などを実践し、運動習慣獲得のための導入を行う。身体に障害のある学生は別メニューとなるため、ガイダンスの日程等を4月初めに全学教育機構<公用掲示板>で確認すること。	オムニバス方式 講義 14時間 実技 16時間
	新入生ゼミナール科目	新入生ゼミナール	新入生ゼミナールⅠ	新入生のために、大学での学習や生活のオリエンテーションとケアを目的として開講する。大学生活における学習に関する諸問題を中心に、学習の基本的な方法の修得、生活習慣、人間関係の構築方法、卒業後の就職に向けて必要な事柄を学ぶ。これらの今後の学生生活に必要な基礎的なスキルを身につけることを授業の目的とする。授業は、1クラス20人程度の少人数に分かれて演習形式で行い、一部の内容については大教室を使って行う。同時開講の各クラスは別々の教員が担当するが、教員間で緊密に打合せを行い授業内容と成績評価の統一化を図る。	
		新入生ゼミナール	新入生ゼミナールⅡ	少人数・学生主体型の授業で、文章読解（クリティカルリーディング）、情報収集と分析、プレゼンテーション、グループ討論、レポート作成等を行う。社会科学を学ぶために必要な基礎的なスキルを身につけることを授業の目的とする。少数の学生が集まって、積極的に討議を行う学生参加型の授業により、学生が主体的に学ぶ姿勢を身につけ、コミュニケーション能力を向上させることが期待される。授業は、1クラス20人程度の少人数に分かれて演習形式で行う。同時開講の各クラスは別々の教員が担当するが、教員間で緊密に打合せを行い授業内容と成績評価の統一化を図る。	
日本語・日本事情	日本語・日本事情科目	日本語	読解（日本語）Ⅰ	本講義の目的は、日本語で書かれた様々な資料を読んで理解し、多くの知識が得られるようになることを目指す。読むためのテクニック、戦略（ストラテジー）、知識などを身につける。授業の最初はあまり難しくない文章を読み、その日の読解のポイントを勉強・練習し、最後に少し長い文章を読む。	
		日本語	読解（日本語）Ⅱ	学期最初は、読解の基本的な考え方や戦略（ストラテジー）を学ぶ。その後、論文を読んでから、「構造」、「読むための文法」、「言葉の練習」を勉強する。論文は次第に長くなっていく。内容は、いじめ、製品からみる人間工学、ガン告知、雨の中の無機成分の特徴、入社後研修における文化摩擦など広範囲にわたる。	

授 業 科 目 の 概 要					
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)					
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	日本語・日本事情	日本語	作文(日本語)Ⅰ	作文でよく使われる語彙や表現の練習をする。次にそれらを用いて短文作成をする。さらに、自由度が大きくやや長い文章を書く。学期の前半には意見文、アピール文など様々なタイプの文の練習をし、後半にはレポートの書き方を練習する。時々、学習者が書いた課題作文や構成メモを他の学習者たちと一緒に見ながら、どこがいいか、間違っているか考える活動もする。	
		日本語	作文(日本語)Ⅱ	論文で使われる語彙および表現をしっかり学習・練習する。その後、論文の構成を要素ごとに学び、深く理解する。最後に自分のテーマと構成メモを作成し、それに基づいて論文を執筆する。時々、学習者が書いた課題作文や構成メモを他の学習者たちと一緒に見ながら、どこがいいか、間違っているか考える活動もする。	
		日本語	ビジネス・ジャパニーズⅠ	前半では、敬語の学習を深めつつビジネス会話のパターンを数多く練習する。また、ビジネス文書の書き方も、単純から複雑なものへと練習を重ねる。後半では、ビジネス上の適切な対処と、相手の立場に立って考えつつ会話を組み立てる練習をする。また、文書形式を身につけ、ビジネスメールの基本的な言葉使いを練習する。ディスカッションを行う。	
		日本語	ビジネス・ジャパニーズⅡ	前半では、敬語の練習を深めつつ、社内・社外における会話を多く練習する。 ビジネス文書は、さらに言葉づかいに注意を払い、要点を押さえ、よく伝わる書き方を練習する。 後半では、受け答えだけに終わらず能動的に会話を組み立てる練習をする。文書作成は、誤解を生じず心遣いのある文章の読解と練習を多く行う。 また、日本人の働く姿を見るためにDVDを2回程度視聴し、ディスカッションを行う。	
		日本語	科学技術日本語Ⅰ	配布資料により、科学技術特有な表現語彙の習得、用例の学習により語彙力を高める。更に、一般紙・専門紙などの科学技術関連記事、科学技術に関する評論・解説文などの題材を通じて読解力を高めてゆく。また、ケースに応じてグループディスカッションによる論理的思考力を鍛える。	
		日本語	科学技術日本語Ⅱ	配布資料により、科学技術特有な表現語彙の習得、用例の学習により語彙力を高め、科学技術論文の読解力、レポート・論文作成能力を演習により高めてゆく。また、ケースに応じてグループディスカッションによる論理的思考力を鍛える。	
	日本事情	日本語	日本社会と日本人Ⅰ	日本社会の特徴を、家族と福祉、国土と中央・地方、企業と企業モデル、温暖化によるさまざまな環境問題、などの特定の問題設定のもとで理解する。 よく話題に上る現代社会の特徴や社会問題をビデオ教材を通して見、毎回配布する資料を参考にして、ビデオ内容についての課題にこたえる。その課題への答えとしてのレポートを授業毎に提出する。	
		日本語	日本社会と日本人Ⅱ	日本の産業構造の特徴を、自動車・電機などの製造業、スーパー・百貨店などの流通・小売り、不動産・金融業などの業種毎にとらえる。 講義とディスカッションにより日本の産業構造を概観し、ビデオ教材、新聞・雑誌記事などにより、日本企業の業務内容、対外戦略、経営方針を具体的にみる。毎回参考資料を配布し、課題を与える。ビデオ教材の内容を理解しているかどうかを課題によって確認する。	
		日本語	武道・伝統文化実習Ⅰ	武道の授業では、日本の伝統的運動文化である武道の歴史と現状を紹介し、スポーツとの相違点と共通点を探しながら、日本の伝統的な運動をより深く理解してもらおう。伝統文化の授業では、日本人でもなかなか接する機会が少ない伝統文化を、実習を通じてより深く勉強・体験する。 授業は、ビデオやスライドを使っての武道・伝統文化の説明と、指導教員のもとで実際に体験する実習授業からなる。 (オムニバス方式/全16回) (46 村田明/9回) 日本の伝統文化(茶道、そば打ち、箏)の授業を担当する。 (79 廣野準一/7回) 日本の伝統的な運動(柔道、剣道、空手道、合気道、相撲、剣道)の授業を担当する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要								
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)								
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考				
共通教育科目	日本語・日本事情	日本語・日本事情科目	日本事情	武道・伝統文化実習Ⅱ	<p>前期に続き、外国人留学生に武道と日本の伝統文化を教える。武道の授業では、日本の伝統的運動文化である武道の歴史と現状を紹介し、スポーツとの相違点と共通点を探しながら、日本の伝統的な運動をより深く理解してもらう。伝統文化の授業では、日本人でもなかなか接する機会の少ない伝統文化を、実習を通じてより深く勉強・体験する。</p> <p>授業は、ビデオやスライドを使つての武道・伝統文化の説明と、指導教員のもとで実際に体験する実習授業からなる。</p> <p>(オムニバス方式/全16回) (46 村田明/9回) 日本の伝統文化(茶道、華道、書道、日本の建築)の授業を担当する。 (79 廣野準一/7回) 日本の伝統的な運動(銃剣道、なぎなた、弓道、少林寺拳法、鍛刀)の授業を担当する。</p>	オムニバス方式		
				専攻科目	法律基礎科目	憲法	<p>日本国憲法の「第三章 国民の権利及び義務」に関する基礎理論を取り扱う。この講義では、各種の基本的な人権を保障するために、日本国憲法がどのような構造を有しているのかを体系的に理解させることを目的とする。具体的には、次の二つのことに重点を置く。第一は、基本的な人権に関する基本条文、基本概念を正しく理解させることである。第二は、基本的な人権を保障するための構造に対する理解を通して、立憲主義という考え方に対する理解を深めさせることである。民法、刑法の基礎知識があることを前提に進める。</p>	
						刑法Ⅰ	<p>刑法学の犯罪論のうち、総論(共犯、刑罰論を除く)および各論(個人の重要法益)を取り扱い、刑法の犯罪論の基礎を身につけることを目的とする。受講生が具体的にイメージしやすいよう、まず犯罪論の基本的な考え方を理解させた上で、刑法各論、刑法総論と講義を進める。授業では、判例や学説の検討を中心に行うが、受講生が講義を聞きながら主体的に考える力を養えるように、講義前には毎回問題を提示することとする。最終的には、判例と同種の事案解決だけでなく、未知の事案をも解決し得る思考力を獲得できるようになることを目標とする。</p>	
						刑法Ⅱ	<p>刑法Ⅰに引き続き、刑法Ⅰで取り扱えなかった共犯論、刑法各論の残りとして刑罰論について取り扱う。刑法Ⅰでは、単独犯を予定した構成要件の理解が中心となるが、刑法Ⅱでは、修正された構成要件である共犯について理解できるようにする。また、社会的法益・国家的法益や、犯罪論のゴールである刑罰論についても取り扱う予定である。刑法Ⅱでは応用力が問われる場面もあるので、必要に応じて刑法Ⅰでの基礎知識を確認しつつ、授業を進めることにしたい。また、刑法Ⅰと同様、授業前に毎回問題を提示し、受講生の知識の定着と、主体的な思考力の獲得を目指す。</p>	
						民法総則	<p>民法第1編(民法総則)について講義する。民法に触れる最初の講義であることから、まず私法の一般法である民法の基本原則や基本的な概念に触れ、そのうえで、民法総則が規定する権利能力、行為能力、意思表示とその取消、代理、時効といった各制度について講義を行う。この講義は、この領域に関する条文・判例に基づく基本的な知識と法律的な考え方を修得することを目的とするものである。また、これらの概念や制度が、民法全体の中でどのような意義をも持ち、民法を扱う他の講義内容とどのように関連しているのかを理解し、民法の全体像を掴むことを目的とする。</p>	
		物権法	<p>民法第2編「物権」のうち、第1章「総則」、第2章「占有権」、第3章「所有権」を中心としたいわゆる「物権総論」の部分(第1編「総則」の「物」「取得時効」などを含む)について、基礎的な構造の理解と、基本的な論点・争点の整理を試みる。とりわけ物権変動論は、民法総則の法律行為論・意思表示論とならんで民法を理解する上でのコアとなる部分であり、時間をかけて考察する。制度趣旨および条文解釈が中心となるが、日本法の解釈論の特質を知るために、必要に応じて比較法についても触れる。</p>					

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	法律基礎科目	契約法Ⅰ	法律効果の発生(権利変動)原因となる当事者間の合意を契約といい、民法には、13種類の契約類型が規定されている。この講義は、各種契約類型に共通する問題として、契約が拘束力を有するのはなぜか、契約が成立するための事実的条件は何か、債務者が契約上の債務を履行しなかった場合に債権者はいかなる措置をとり得るか等の諸問題について検討する。民法典の体系に則して言えば、この講義で扱う領域は、債権総則の一部(債権の目的、債務不履行に基づく損害賠償)と契約総則に相当する。民法起草過程における議論状況を踏まえつつ、歴史的背景と関連付けながら現在の解釈論を伝える。
		契約法Ⅱ	我々の日常生活と密接に関わる民法の契約法のうち、契約各則の部分に置かれた諸制度を取り上げ、各制度の基礎にある考え方及び具体的な制度内容について解説する。具体的には、典型契約である贈与、売買、交換、消費貸借、使用貸借、貸借、請負、委任、寄託、組合及び和解を取り上げ、また、民法典に規定されていない契約も取り上げる。そして、各制度の基礎にある考え方及び基本問題を具体的な場面に関係付けて理解できるようになることを目標とする。
		契約法Ⅲ	債権者が債務者に対して債権を有していたとしても、債務者がこれを弁済しない又は弁済するだけの財産を有していない場合には、どのようにして債権の回収を図るかが問題となりうる。そこで、民法上の債権回収に関わる諸制度を取り上げ、各制度の基礎にある考え方及び具体的な制度内容について解説する。具体的には、弁済、相殺、債権譲渡、債権者代位権、債権者取消権を取り上げ、主要な論点について設例を用いるなどして詳しく解説する。そして、各制度の基礎にある考え方及び基本問題を具体的な場面に関係付けて理解できるようになることを目標とする。
		不法行為法	民法典第3編(債権)のうち、法定債権と呼ばれる法領域、すなわち第3章(事務管理)・第4章(不当利得)・第5章(不法行為)について講義する。民法体系におけるこの法領域の位置づけや基本概念を理解したうえで、条文・判例に基づく要件及び効果に関する基本的な知識を修得することを目的とする。また、この法領域においては判例が重要であることを踏まえ、とくに主要論点に関する判例については、具体的な事案内容や判例の変遷を把握し、そのうえで判例法理を理解することを目的とする。
		会社法Ⅰ	本講義は、わが国の会社法のうち、総則、設立、会社の経営機構、計算、組織再編、持分会社に関する法ルールを解説するものであり、会社の経営と法ルールの基本的な関わりを受講生に理解してもらうことを目的とする。 条文や判例の基礎的な内容を中心に説明するが、受講生が具体的なイメージをもって学習できるように、適宜、新聞報道や実際の紛争事例などを説明に組み込むことを予定している。なお、必要に応じて、会社法のみならず、商法(第一編)や金融商品取引法の内容にも言及する。
		刑事訴訟法	わが国の刑事訴訟法のうち、第一編総則および第二編第一章捜査、第二編ないし第六編(第二編第一章を除く)に関わる基礎理論を取り扱い、刑法を実現していく手続論の基礎を身につけさせることを目的とする。 前半は、主として捜査を取り扱い、後半は、主として公判を取り扱う。捜査では、刑事手続の全体像をイメージさせながら、捜査の基本構造を理解させようとして、任意捜査各論、強制捜査各論を見る。公判では、公判手続、公訴の基本原則、訴因制度、証拠法、上訴、裁判員法を理解させる。その際には、基本条文、基礎概念を理解させることを中心とする。
		民事訴訟法	本講義では、民事紛争を解決するための最も強力かつ最終的な手段である民事訴訟について、民事訴訟法及び同規則が定める基本的なルールを知り、それらを論理整合的に解釈するための基本理論について正確な理解を獲得することを第一的な目的とし、この作業をとおして、法的思考能力を涵養することを目指す。計15回の講義では、民事裁判権論に始まり、裁判所、当事者(多数当事者訴訟を含む)、審理における原則、証明、判決といった第一審の手続を重点的に説明したうえで、上訴・再審の手続、簡略訴訟の特則を取り上げる。

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	法律基礎科目	民事執行・保全法	民事訴訟法で修得した権利の観念的形成過程についての基本的理解を前提に、判決等を債務名義としてなされる権利の事実的形成過程について、基本的な知識と理解を獲得することができるよう講義を行う。計15回の講義では、強制執行を中心に、担保権実行、執行の暫定的措置たる保全手続を取り上げ、この全体を通して、民法が規定する権利・義務が、民事訴訟手続を経て、現実にもどのように具体化していくのかを理解し、民事法全体についての体系的な理解と知見の獲得を図る。
		行政法	行政法に属する領域のうち、総論部分と行政組織法の部分を取り扱う。具体的には、標準的な体系に基づいて、行政法の基本原理、行政組織法、行政過程論（行政の行為形式、一般的制度）についての基本的な考え方と行政手続法、国家行政組織法等の通則的な法律についての基本的な条文を理解させようとして、行政組織、行政活動にいかなる法的な規律が及んでおり、いかなる形で行政組織を構築し、行政活動を行うべきかについて具体的場面に即して考えられるようになることを目的とする。
		政治学基礎	多様な価値と利害を調整し、どのように社会の課題を解決していくか。複雑な公共政策の課題を理解するために必要な政治学の基礎的な知識と概念を理解する。社会の一員として、投票行動や様々な社会的な活動に主体的に参加するために必要な政治・政策分析能力、メディア・リテラシーを向上させる。 社会科学とは何か。政治学とはどのような特徴を持っているのか。まず、政治権力、公共性、デモクラシーなど、政治学の基礎的な概念を解説する。次に政治のルール（制度）と政治主体に関する問題を考察する。さらに経済・社会・外交政策など重要な公共政策課題を理解するための基礎知識を整理する。 レスポンスシートを利用し、授業の理解度を確認し、質問を把握する。論述試験を課し、自分の考えを適切に文章にまとめる能力を向上させる。
		自然環境概論	環境保全、持続可能な開発のための地域政策や企業活動に必要な自然環境に関する知識の習得を目指す科目である。主に、気候環境（世界の気候、日本の気候、地球温暖化）に関する領域を扱う。気候の地域差をもたらす要因について基礎的な知識を習得し、気候の特徴をグローバルスケールからより小スケールへと解説し、各スケールにおける地域差、地域差をもたらす要因について理解を深める。日本の気候、長野県の気候の特徴も概観する。地域によって気候は多様であるとともに、共通性もあること、気候は人間生活にどのように影響するのか、逆に、人間活動が環境を改変し、ヒートアイランド現象や地球温暖化をもたらしたことについて考察する。
		知的財産法基礎	知的財産法がなぜ重要なのか、日本経済を取り巻く歴史的な変化を踏まえて解説し、その上で、内外の最近の事象を素材に、知的財産法の基本的な考え方を講義する。法律学の初学者が興味を持って知的財産法に入門できるようにすることが目的である。想定される素材は、アップル対サムスン、途上国における医薬品の普及と特許権、環太平洋経済連携協定（TPP）交渉、職務発明、孤児著作物問題、並行輸入、著名標識の保護、営業秘密などである。
コース専門科目	環境法務科目	環境法Ⅰ	わが国の環境法について総論的事項に関する基礎的理解を得られるようにすることを目的とする。 すなわち、具体的には、環境法の生成・展開の経緯（公害対策、環境行政の停滞、その後の新たな展開）、環境法の特徴・基本理念・原則（持続可能な発展概念、未然防止原則・予防原則、汚染者負担原則等）、環境政策の手法（規制的手法、経済的手法、情報的手法、合意的手法等）、環境基本法（環境基本計画を含む）、環境影響評価法等を取り上げて、環境法Ⅱに進む前に環境法の基本的理解が身につけられるようにする。
		環境法Ⅱ	環境法Ⅰに引き続き、わが国の環境法に関する基礎的理解を深化させるべく、環境法の個別具体的な内容に対する理解を得られるようにすることを目的とする。 すなわち、具体的には、自然保護のための法制度（自然公園法等）、廃棄物の適正処理に関する法制度（廃棄物処理法等）、リサイクルに関連する法制度（容リ法等）、化学物質の管理に関する法制度（PRTR法等）、環境汚染の防止・対策に関する法制度（大気汚染防止法等）、地球環境問題に関する法制度（地球温暖化対策推進法等）を取り上げ、各事項に関する基礎的理解を得られるようにする。

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目 コース専門科目	環境法務科目 水環境法	水循環基本法が制定されるなど水環境への注目が高まっていることを受けて、水環境という切り口から環境法、法政策について学ぶことを目的とする。具体的には、水環境について法的にアプローチするために必要となる公物管理法制の基礎知識、水環境に関する法制度(水循環基本法、流域管理法、地下水法、沿岸域管理法等)、関連する法制度(森林法、土地利用規制等)、政策法学の基礎と水環境に関する法的課題の解決の方向性などを取り上げ、水環境に関する法的問題の現状と課題を把握した上で法政策として課題解決の方法を提言できるようになることを目的とする。		
	国際環境法	前提知識として、国際法の基本的な考え方と重要な概念についての概説を行った上で、地球環境問題に対応するために条約、国際慣習法を中心に形成されてきた国際環境法の展開と現状について概観し、その国内実施措置を通じて国際環境法が国内法に及ぼす影響を与えているのかについての理解を得ることを目的とする。国内実施措置を通じて国際環境法と国内環境法との関わりについては、地球温暖化問題、生物多様性の保全等の個別的な問題をいくつか取り上げ、現代的な重要性を有する具体的なテーマについての理解が深められるようにする。 国際法の基礎部分(5コマ)について、東京大学法学部教授(⑦ 森肇志)が担当し、環境条約およびその国内実施(10コマ)について神戸大学法学部教授(⑥ 角松生史)が担当する。	集中 オムニバス方式	
	都市環境と行政法	環境法(環境影響評価法、廃棄物処理法、水質汚濁防止法等)、都市法(都市計画法、建築基準法、土地収用法等)の仕組みを概説した上で、これらを素材に、行政法総論、行政救済法で扱う考え方が具体的にはどのような形で登場し、どのような形で問題となるのかについて講義を行う。環境法、都市法という行政法各論に属する領域の理解を得るとともに、総論と各論の関係を理解することを通じて行政法、行政救済法の理解を深めることを目的とする。		
	環境と刑法	本講義では、環境刑法の総論的部分(講義計画の第1回から第7回)を刑法の基本的知識を前提に講義する。環境刑法の概念や知識のみならず歴史的背景にも触れて環境刑法の在り方について検討する。第8回では、環境刑法の国際社会の現状を把握し、わが国の状況と比較しながら考察・検討する。これらを前提に、環境刑法の各論部分(講義計画の第9回から第14回)に於いてわが国の環境法規に於ける環境刑法の機能と役割について具体的に各環境法規を検討する。第15回では、国際社会に於ける環境刑法の新たな動向を踏まえて今後の環境刑法の方向性を検討する。講義は、事前に配付するレジュメの予習を前提に、質疑応答形式でおこなう。講義の進行に応じて随時、小テストを実施し、質疑応答、期末試験と総合的に評価する。		
	環境経済学Ⅰ	本講義では、経済と環境の関係性について、ミクロ経済学的な側面から学ぶ。現在や過去の環境問題が何故引き起こされたか、そしてそれらの問題を我々はどのようにやって解決してきたのか、またどのようにやって解決していこうとしているのか。本講義では、これらの課題について、ミクロ経済学理論を用いた手法によって分析することで、受講者がなぜ環境問題が発生するのかを理解し、その発生原因と政策的解決手段を経済学的見地から論理的に説明できるようになることを目標とする。		
	環境経済学Ⅱ	環境経済学Ⅰでは、環境問題の発生メカニズムと、問題解決のための経済的手法として有効な政策手段について学んだ。環境経済学ⅡではⅠの応用として、現在、環境経済学の研究と中心となっている課題について、単純な事例をもとに最先端の研究に触れる。具体的には、環境被害額と対策費用の割引現在価値、環境影響評価、ライフサイクル評価等を扱うことで、受講者は最先端の研究手法の論理を理解し、卒業研究等での課題を見つけることを目標とする。		
	環境テクノロジー	環境問題に対して、テクノロジーが果たしている役割を理解することを通じて、工学的アプローチを身につけることを目的とする。 全国をみても小水力の潜在的エネルギーが高い長野県において、小水力発電は、エネルギー問題を考える上で、きわめて重要である。小水力発電テクノロジーを工学的に理解するとともに、その普及と設置に関して発生する他の環境問題について、どのような問題が発生し、どのように解決し、どのように実用化してきたかについて学ぶ。		

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 コース専門科目	環境理学概論	我々の住む環境がどのように成り立っているのかを理学的な観点から理解できるようになり、また、現在、あるいはこれまで人々が直面してきた環境問題にどのような問題、どのような解決法があるのかを知り、それらを生かして新たな問題点に直面した時、それをどのように解決するかを考えることができるようになることを目的とする。地球規模から身近な自然環境までの様々なスケールで、特に生態学の視点から環境を見ていく。環境の評価や保全の問題にも触れる。	
	環境社会学概論	環境社会学の理論的思考や実践的研究方法を学んだ上で、社会学の観点から、環境問題に対する考察や批判ができることを目標とする。主な論点として、第一に環境問題の加害・被害構造、制度・組織の特性、第二に環境行動・運動の契機とその結果、集団行動の困難・障害、第三に環境の歴史・価値・思想、生業とのかかわり、などについて、世界中で起こっているさまざまな環境問題を例に考えていく。	
	環境教育概論	環境教育は、現代社会が直面する環境問題を解決するために大きく期待されている。環境教育のテーマは自然から社会、心理まで幅広く、各教科の中で横断的に学習することになっており、本授業を通して、学校教育の一環としての環境教育や自然教育の基礎とその指導法について基礎的な知識と技法を修得する。環境問題の基礎的な知識から学校や組織での環境管理手法としてのISO14001の運用、学校教育の一環としての環境教育や自然教育の指導法、環境教育の必要性や目的、学校現場での教科や生活上での指導方法などを解説する。	
	環境農学概論	農生産過程における環境負荷（化学肥料、地球温暖化、除草剤、殺虫剤、殺菌剤）を概観した上で、水田、草地、農耕地などにおいて、どのような要因で生物の多様性が維持されているかについて解説する。また微生物の多様性と環境保全、農地の多面的機能と里山の保全などにも触れながら、農業生態系において、農業生産活動を維持する上で、環境保全と有害生物管理の両立を目指すIPMが提唱された背景についても取り上げる。	
	環境と憲法訴訟	日本国憲法において、憲法上の権利を侵害された者は司法裁判所に救済を求めることができる。そのための訴訟を憲法訴訟という。憲法訴訟が成立するためには、憲法上の権利が制約されている必要があり、実体的権利について理解が不可欠である。また、憲法訴訟は、民事訴訟、刑事訴訟、行政訴訟を入り口にして展開されるので、これらの訴訟についての基本的な知識が必要である。本講義では、日本国憲法における憲法訴訟について概説し、その実践例としての環境権訴訟を素材にして、憲法上の権利が裁判で実現されるということの意味を探究する。	
	自然環境フィールドワークの理論と実践	われわれ人間は、いわゆる自然という環境からたくさんの恩恵を受けている。そのことが自然環境にとって、また人間にとってどのような意味をもつのであろうか。この講義では、「自然環境の中での人間のあり方」、「自然環境とは」をテーマに、「自然環境における人間の営み」について考えることをねらいとしている。具体的には、自然環境の中での人間の諸活動が及ぼす影響（環境問題）、また自然環境からの恩恵（レジャー活動や心身の健康づくりへの寄与）について考える。講義は自然環境と人間の関係を実際に体感するために、信州の自然を活動場所として休日を利用したフィールドワークを実施する。フィールドワークにあたっては、その計画立案から実施にいたるまでグループワークにより進め、それに必要な知識・態度・ルール・マナーを学習する。そしてフィールドワークから感じとったことなどをテーマにグループでの研究発表を行い、自然環境と人間の営みについて理解を深める。	
国際政治	国際社会の課題である貧困と開発、環境問題、平和構築などのグローバル・イシューズについての基礎的な知識を身につけ、その歴史的経緯、解決への模索及びその問題点について理解を深めていく。講義を通じて、時事問題への関心を高め、基礎的な学習能力と問題解決のための思考力を養う。全体は、以下の3つに大きく分けられる。まず第I部では、貧困と開発に関する問題について理解を深める。第II部では、紛争と平和に関する課題について考察する。第III部では、グローバル・イシューズに対応するための国際社会のあり方やグローバル・ガバナンスの課題に焦点を当てる。レスポンスシートやグループ・ディスカッション、発表を取り入れ授業への参加を促す。		

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 コース専門科目	経済・企業法務科目 労働法	労働法では、急速に変化しているわが国の雇用慣行と法政策について、個別的労働関係法と集団的労働関係法を主たる範囲として講義する(労働市場法や紛争処理法についても必要に応じて言及する)。具体的に個別的労働関係法では、労働基準法と労働契約法の解釈を中心に、基本的な条文や基本的な概念を整理し、理解させる。集団的労働関係法では、労働組合や労働協約などの基本的な概念を押さえた上で、労働組合法の解釈を中心的に扱う。最新の法改正や理論状況、判例法理の動向を見据えて、労働法に関する基礎的な知識や思考方法を体得することを目的とする。	
	企業取引法	本講義は、企業の活動に伴う各種取引に関する法ルールを解説するものであり、このような企業取引と法ルールの基本的な関わりを受講生に理解してもらうことを目的とする。 本講義では、商法第二編で規律されている各種取引に加えて、消費者契約、証券契約、ファイナンス・リース契約、投資契約、M&A契約を取り上げ、それに関連する条文や判例の基礎的な内容について説明する。その際、受講生が具体的なイメージをもって学習できるように、約款や契約のひな形、実際の紛争事例などを説明に組み込むことを予定している。	
	会社法Ⅱ	本講義は、会社法Ⅰに続いて、わが国の会社法のうち、株式、新株予約権、社債に関する法ルールを解説するものであり、株式会社の資金調達と法ルールの基本的な関わりを受講生に理解してもらうことを目的とする。 条文や判例の基礎的な内容を中心に説明するが、受講生が具体的なイメージをもって学習できるように、適宜、新聞報道や実際の紛争事例などを説明に組み込むことを予定している。なお、上場会社の資金調達は、金融商品取引法や取引所の上場規則によっても規律されるため、必要に応じて、これらの内容にも言及する。	
	担保法	一般の債権者は、債務者の資産状況の悪化により、債権を回収できなくなるリスクを負っており、このような債務者無資力のリスクに備える方法を担保という。この講義は、各種担保の成立のための条件、担保権者及び担保設定者間の権利関係、他人のために担保を引受けた者の地位等について検討する。民法典の体系に則して言えば、この講義で扱う領域は、債権総則の一部(連帯債務、保証)と、物権の一部(留置権、先取特権、質権、抵当権)に相当する。民法起草過程における議論状況を踏まえつつ、歴史的背景と関連付けながら現在の解釈を伝える。	
	親族・相続法	民法典のうち、第4編「親族」・第5編「相続」の規律する夫婦、親子、親権・後見、扶養、遺産分割、遺言・遺留分等のいわゆる家族法の部分につき、基礎的な理解と基本的な論点・争点の整理を試みる。制度趣旨および条文解釈が中心となるが、日本法の解釈論的特質を知るために、必要に応じて比較法についても触れる。また、パートナーシップ関係(同性パートナーシップを含む)、生殖補助医療による出生子の親子関係等、親族法分野を中心に、新たな視点からの再検討が求められる問題も多いが、これらについても極力考察する。	
	倒産法	本講義では、清算型倒産処理と再建型倒産処理のそれぞれの一般法である破産法及び民事再生法を中心に、日本の倒産法制についての基礎的な知識及び体系的な理解の習得を図る。さらに、倒産法は平時の民事法秩序の実現が不可能となった非常事態の処理を定めるものであることから、倒産法の学習をとおして、民事法体系全体についての理解の深化・進展が期待される。計15回の講義では、倒産法の基本法である破産法をテーマに9～10回、その応用である民事再生法につき3回、そして残る数回で会社更生法等の特別倒産法を取り上げる。	
	簿記・会計入門	企業規模に関わらず日々の経営活動を記録する技術が簿記であり、企業会計を理解するためには、簿記の知識は不可欠である。 そこで本講義では、簿記の基本的な仕組みの説明からはじめ、各種取引(商品売買、現金預金取引、手形取引、有価証券取引、固定資産取引、その他取引など)、そして決算手続きを経て財務諸表が作成されるまでの内容を講義する。本講義によって、日々の活動の記録から財務諸表作成までの一連の流れを理解し、把握することによって企業会計を理解することが可能になる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 コース専門科目	経済・企業法務科目 管理会計	管理会計は、財務会計と異なり、主に企業内部の経営者や管理者が利用する会計である。具体的には、企業をマネジメントするための会計が管理会計であり、企業経営と管理会計は表裏一体な関係にある。管理会計の主な手法は、業績管理、コスト管理、意思決定である。本講義では、管理会計手法の理論的習得を目指す一方で、実際の企業経営にどのように管理会計が関わっているのかを事例を取り上げながら説明する。	
	経営学	この講義の達成目標は、経営学の基礎的な知識の習得と、習得した経営学の知識をもとに、実際の経営の現場に生かす方法を考えることの2点である。経営学で検討する内容は、企業運営の仕組みや、利益との関係を検討することである。講義の概要は、まず、経営学とは何か、企業とは何かといった、企業経営にまつわる基礎理論を検討した後、経営戦略、経営組織、経営管理、経営課題といった、さらに詳細な内容へと進める。前半は組織レベルの議論、後半は個人レベルの議論であり、組織レベルと個人レベルの両者から経営学の諸問題に接近する。	
	法人税法	わが国の法人税法のうち、課税標準及びその計算（第二編第一章第一節）における基本的事項を扱い、法人所得計算の基礎となる考え方を理解させることを目的とする。 企業会計における利益計算を法人所得概念の基礎としてイメージさせながら、二重課税や課税繰延べ、法人成りなど法人課税に固有な問題の存在を認識させ、実現主義と評価損益、資産概念と取得価額の機能、損金算入制限と課税ベース、損失控除と債務確定要件について、基本的な考え方を理解させる。	
	テクノロジー概論	知的財産の管理を行うにあたっては、知的財産の対象となるテクノロジーの工学的理解が求められる。わが国のテクノロジーについて、広く全体を見渡しながら概括的に理解することを目的とする。 具体的には、機械、電気、化学、土木、建築、環境の工学分野の基礎を概括的に学んだうえで、各分野における具体的発明例について取り扱い、知的財産の工学的理解を身につける。	
	知的財産法Ⅰ	技術的創作に経済的な価値を与える法制度について講義する。その中核をなすのは出願により公開された発明に対して特許権を付与する特許制度であるが、秘匿された技術に対して法的保護を与える営業秘密制度（不正競争防止法）にも説き及ぶ。また、医薬品・バイオ、化学、機械、電気・電子、情報技術といった、技術分野別の特徴にも注意する。知的財産法の国際的側面などにも、必要に応じて触れる。	
	知的財産法Ⅱ	創作的表現について権利を与える著作権制度について講義する。美術や出版などを対象とする古典的な著作権法が、コンピュータ・プログラムを制度の対象として取り込み、さらにインターネットの発達によって大きな変容を遂げつつある様相を解説する。また、営業上の信用に対して法的保護を与える制度（不正競争防止法・商標法など）にも説き及ぶ。	
	経済法	本講義は、経済法の基本法である独占禁止法の理解を通じて、市場における企業等の競争を促進する仕組みについて、理論と実務の両面から理解することを目的とする。本講義では、独占禁止法の規制の柱である不当な取引制限、私的独占、不公正な取引方法、企業結合について、これらの基本的な考え方に加え、公正取引委員会の調査・処分やそれに対する争訟の手続、さらには差止めや損害賠償といった事業者間の民事訴訟まで含めて、実体面と手続面を横断した解説を行う。必要に応じて、下請法や景品表示法にも触れる。	
	危機管理法務	架空循環取引など、企業不祥事は後を絶たない。企業は、不祥事を抑止するために、その業態に応じ、コンプライアンス体制を適切に整備することを求められている。コンプライアンス体制を実質的に機能させるためには、関連法令の知識のみならず、事前・事後対応を含む危機管理のノウハウを身につけた人材が不可欠である。本講義においては、企業等において危機管理を担う人材の育成を目的として、主要な不正類型について、過去の具体的な事例を取り上げて関連法令や当該不正事例の原因・再発防止策等を解説する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 コース専門科目	都市・行政法務科目 統治機構論	日本国憲法の規定する順序に沿って、日本国の統治構造を解説する。憲法の統治機構の条文解釈は、憲法の抛ってたつ原理からその規範内容が導きだされなければならないが、その原理の理解は学説の立場によって異なり、その差異が個々の条文解釈の差異となってあらわれる。重要なのは、統治機構の条文解釈は、解釈者の理解する憲法原理と整合しなければならないということである。受講生が、代表的な憲法学説と判例の立場を十分に理解し、日本国の統治構造を立憲主義の観点から整合的に解釈する能力を身につけることができるように配慮する。	
	行政救済法	行政法に属する領域のうち、行政救済法の部分を取り扱う。具体的には、行政争訟の仕組みについて行政不服審査法、行政事件訴訟法の基本的な考え方と条文を理解させ、さらに国家補償の仕組みについて国家賠償法等の基本的な考え方と条文を理解させることを通じて、国民の立場から違法・不当な行政活動を是正し、行政活動に起因する損害・損失を填補するためにいかなる手法を取るべきか、行政の立場からこれにいかに対応すべきかについて具体的場面に即して考えられるようになることを目的とする。	
	自治体法	行政法に属する領域のうち、地方自治法の部分を取り扱う。具体的には、日本国憲法第8章（92条～95条）と地方自治法を主たる対象として、日本国憲法92条にいう「地方自治の本旨」がどのように具体化されているかについて基本的な考え方と基本的条文を理解させ、地方公共団体の組織と活動の法的側面と地方自治の法的構造についての基礎的な理解を前提に、地方公務員としての立場、住民としての立場からいかなる形で地方自治を担っていくべきかについて具体的場面に即して考えられるようになることを目的とする。	
	都市行政と刑法	都市は、その規模が大きくなるにつれて犯罪発生率も高くなる。都市犯罪の典型的なものとしては、少年犯罪、組織犯罪、薬物犯罪そして経済犯罪がある。多様な犯罪現象は、都市行政に多大なる影響を与え、都市発展に大きな弊害（課題）となる。本講義は、まず、都市行政の弊害となりうる都市独自の犯罪形態にスポットを当て、刑法理論での具体的対応と刑事的対応策を検討する。次に、都市行政の主体である公務員自身が犯す公務員犯罪について、刑法規定（賄賂罪、業務上横領罪など）と対応して理解・検討していく。講義は、刑法の基礎知識をベースに、事前に配付されたレジュメを中心に質疑応答形式でおこなうことから予習は重要である。講義の進行に応じて随時、小テストを実施し、期末試験と総合的に評価する。	
	社会保障法	社会保障法では、わが国の社会保障法をめぐる制度を概観し、各制度における法律問題について学習する。具体的には、健康保険法や医療法等を主たる対象とする医療保障制度や、国民年金法や厚生年金保険法等を対象とする年金制度、労働災害や雇用保険を対象とする労働保険制度や、生活保護法をはじめとする公的扶助制度などを取り扱う。社会保障法に関する制度の全体像を掴むと共に、これら社会に出て働く上で理解しておいた方がいいと思われる制度について、基本的な仕組みと法的紛争についての知識を得ることを目的とする。基本的な概念を押さえることと関連する裁判例をとりあげることを重視する。	
	行政学概論	この講義では、学習する対象をNational Government、そのうち国の行政府の制度と運用を中心にすえている。国の行政府の「制度」については、他の講義（憲法、行政法等）においても学ぶことになる。この講義においても「制度」を理解してもらうためのメニューを用意しているが、学習の重心は「運用」の方においている。 というのは、しばしば「行政とは法の執行である」という説明のされ方がなされるが、そうした定義のしかたは「行政」というものを理解するうえでまったく不十分なのであって、むしろ行政の運営は法令以外のルールー予算、計画、行政規則そして慣行ーに統制されているからである。 講義では明治維新、戦後改革に次ぐ「第三の改革」ともいわれている「中央省庁等改革」をはじめとする近年の行政改革を材料として扱い、省庁制、内閣制、稟議制、行政職員の裁量、行政責任等を検討する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 コース専門科目	都市・行政法務科目 自治行政	<p>地方分権推進一括法の制定にともなって地方制度の大改革が実現した。この分権改革のねらいは、都道府県や市町村の裁量の範囲を拡大することによって、地域の問題はその自治体、住民の力で自ら解決できるようにしくみにしようというものである。</p> <p>この改革によって、自治体がどのような仕事をどういうふうにするかによって、私たちの生活がよくなるか、そうならないかが決まるようになる、といっても必ずしも過言ではない。それだけに、私たちが今後、自治体にどうかかわっていくかということを考えることがより重要になる。</p> <p>講義ではまず、地方自治の基礎知識を身につけてもらう。そのうえで、これまで地方自治のあり方の何が問題とされているのかを明らかにする。また、地方自治に関連する最近の事件をとりあげ、私たちの身の回りに起こっていることが、自治体とどのようにかかわっているかを検討する。</p>	
	都市テクノロジー	<p>土木工学の対象は何か、どのような役割があり、市民生活にどのように関わっているのか、などを理解して、都市行政に必要な都市工学の基礎を身につけることを目的とする。</p> <p>都市機能を維持するために必要となる道路・鉄道・上下水道など（インフラという）と、その都市との関わりといった、都市を取り巻く環境を通じて、都市およびその周辺を土木工学的に説明する。</p>	
	統計学 I	<p>今日の高度情報化社会のなかで、データを統計的に処理し、解析する機会は増加し続けており、日常生活の場においても統計的知識がさまざまな用いられている。この授業では次の二つを学習する。</p> <p>1) 確率的なモデルを前提とせずに、データから有益な情報を抽出するための手法（記述統計）に関する基本的事項を習得する。具体的には、平均値、分散、標準偏差、回帰、相関等について学ぶ。</p> <p>2) 確率的なモデルを前提とした統計手法（推測統計学）の基礎となる確率論のうち、初歩的な概念を習得する。具体的には、順列・組合せ、加法定理、乗法定理等について学ぶ。</p>	
	都市政策論	<p>本講義は、人口減少、脱工業化、環境志向、グローバル化、東京一極集中といった時代の趨勢のなかで生じている現代の都市問題に対して、どのような都市政策が望ましいのか論理的に思考できるようにすることを目的としている。全体は三部構成となっている。第一部では、都市政策がなぜ必要となったのかについて、市場経済の出現と都市問題の拡大を背景として近代都市計画が成立したことを説明し、官僚主義や計画主義によって多様に展開していくことを、海外諸都市などを事例に整理する。第二部では、震災復興を契機とした都市計画によって、先進国の諸都市が近代化していく過程について、主に日本の都市政策を中心に説明する。第三部では、現在の都市政策の趨勢について、コンパクトシティやクリエイティブシティなどの議論をふまえて説明する。</p>	
	ミクロ経済学 I	<p>「ミクロ経済学 I」では、個々の消費者や生産者の意思決定プロセスの分析から出発し、市場での「価格」シグナルがいかに資源配分・所得配分を決定するかを解説する。この講義では、市場機能の有効性と限界を説明し、市場機能はその市場特定の取引ルールに敏感に依存することを解説する。また、ゲーム理論の基礎を概観し、それに基づいてブランド（寡占）市場の分析や、株式市場における入札分析など、初歩的な応用へ導く。ミクロ経済学 II、産業組織・公共経済学等で扱うミクロ経済学の発展的領域をはじめ、マクロ経済学の各分野にも及ぶ近代経済学の土台部分を理解するための最初の一步となる。</p>	
	マクロ経済学 I	<p>マクロ経済学は、一国の経済全体の景気変動や経済成長の要因を分析する学問である。この講義では、短期の景気変動に関する理論を中心にマクロ経済学の入門的内容を講義していく。最初にGDPなどの基本的なマクロ経済指標が、どのような概念であるのかを学習する。次に、現実のマクロ経済に関するものの見方・考え方として、ケインジアンと新古典派という2つの見解があるが、これらがどのようなものかを経済モデルに基づいて理解していく。最初は簡単なモデルを分析することから始めて、徐々に現実経済の様々な要素をモデルに取り入れて拡張していく。この作業を通じて、現実のマクロ経済をより深く理解できるようになることを目指す。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	都市・行政法務科目	計量経済学	<p>経済学にはさまざまな理論が存在するが、それらの理論がどれくらい現実の経済を説明することができるかについては、経済理論から導かれるモデルが経済データにどれくらいあてはまり、説明力を持ったモデルであるかを、データを用いて検証する必要がある。あるいは逆に、データから帰納的に適合する経済モデルを見つけ構築していくことも経済学の発展にとっては不可欠の作業である。このように理論から導かれる数学モデルと経済データからの双方向のやり取りの中で、現実の経済に対して説明力のある経済モデルを構築して、経済の現状を分析することが計量経済学の課題である。</p> <p>この授業では、計量経済学の基礎理論を学び、経済モデルを構築し、データをあてはめ、経済理論を検証し、経済の実証分析を行うために基本となる手法を学ぶ。</p>	
		市民税法	<p>所得税法、消費税法及び国税通則法から、一般的な市民生活の中で生じる租税法律関係に関する部分を取り上げ、基礎となる考え方を理解させることを目的とする。</p> <p>包括的所得概念を基礎概念として視座に据え、事業所得と譲渡所得に対する所得税法の原則的な課税を理解させたいうえで、市民生活に深く関わる給与所得や利子・配当所得に対する源泉徴収課税、寄附金、医療費や社会保険料などの所得控除、事業者と消費税の課税を理解させる。権利救済手続を中心に、租税手続法の全体像についても理解を得させる。</p>	
実務系科目	実務講義科目	行政実務	<p>大学で学ぶ法律科目のさらなる理解に結びつけることを目的として、本学教員がコーディネーターとなり、国・自治体の機関で行政に携わる幹部・中堅職員をゲスト講師として招き、各機関の業務の概要やそれぞれの抱える行政上の課題についての講義を行う。国の機関については財務省、厚生労働省、消費者庁、公正取引委員会等、自治体の機関については長野県庁、松本市役所からゲスト講師を派遣していただく予定である。</p> <p>ゲスト講師のコーディネートと成績評価は学部専任教員(13 大江裕幸)が担当する。</p>	
		現代法務	<p>第一線で活躍する法律実務家の仕事や問題意識を理解することを目的とする。現代社会を支える法制度やその運用について、実際に実務に携わっている複数名の実務家が各法分野ごとに講義をする。身近に生じている問題や現代的な問題に関して、法と実社会がどのように関わっているのか、より具体的・実践的な理解を深める。</p> <p>ゲスト講師として、地域法曹、法務省職員、刑事弁護士、労働関係弁護士、外国人問題弁護士などを招へいする。</p> <p>ゲスト講師のコーディネートと成績評価は学部専任教員(12 丸橋昌太郎)が担当する。</p>	
		租税法実務	<p>この授業は、関東信越税理士会長野県支部連合会との学術協定に基づき、税理士をゲスト講師としてオムニバス方式で講義を行うものである。</p> <p>実務上の具体的な事例に関する租税法の適用関係について講義する。実社会では、一個の経済的取引について、所得税法、法人税法、相続税法が同時に適用され、様々な課税関係を生じさせることが珍しくはない。また、租税法適用の前提として、民商法の適用関係が問題となることも多い。この講義は、実務上の具体的事例においては、このように多面的な法適用の検討が必要であることを理解し、租税法や民商法の知識を統合し、法律問題についての総合的な応用能力、実践的な解決能力を身につけることを目的とする。</p> <p>ゲスト講師のコーディネートと成績評価は学部専任教員(5 池田秀敏、18 橋本彩)が担当する。</p>	共同
	法務実習科目	行政法務実習	<p>行政実務における実際上の課題を理解するとともに、大学での法学の学習と現場の結びつきの理解を深めることを目的とし、2~3名の学生を1グループとし、担当教員と受入先との事前調整の上、①担当教員の指導のもとでの大学での事前学習、②受入先での実習(3日間)、③担当教員の指導のもとでの大学での事後学習、④事後学習の成果についての受入先による講評を実施する。受入先としては長野県庁、松本市役所を予定している。</p> <p>事前・事後学習、実習のコーディネート、成績評価は、学部専任教員(13 大江裕幸)が担当する。</p>	実習 20時間 演習 20時間

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	実 務 系 科 目	法務実習科目 環境法務実習	環境法ⅠおよびⅡにおける座学中心の授業を前提として、環境法が現場でどのように実践されているかを理解させ、実践力を身につけさせることを目的とする。 具体的には、環境事件に携わった経験を有する法曹関係者に対する聴取調査、一般廃棄物の中間処理施設・最終処分場等といった環境関連施設に赴き職員等に対して聴取調査を行うことによって、環境法が現場でどのように生かされているかを体現し、環境保護の意義について実践的理解を得られるようにすることをねらいとする。 事前・事後学習、実習のコーディネート、成績評価は、学部専任教員(9 小林寛)が担当する。	実習 20時間 演習 20時間
		税務実習	税務署の協力のもと、税務に関する法理論を実践させることを通じて、理論と実務のかかわりについて理解させ、実践力を身につけさせることを目的とする。具体的には、税務署の組織に関する概要を学ぶとともに、模擬事例をもとに実際に確定申告等の資料を作成する等の実習を行う。こうした実習を通じて、税務の現場を実体験し、税務が社会においてどのような役割を果たすのか、また、税務に関連する職種にはどのようなものがあるかを学ぶ。実習地は松本税務署を予定している。 事前・事後学習、成績評価は、学部専任教員(5 池田秀敏)が担当する。また実習のコーディネート、実習補助を学部専任教員(18 橋本彩)が担当する。	共同 実習 20時間 演習 20時間
		労働法務実習	長野労働局と連合長野の協力のもと、労働法に関連する法理論を実践させることを通じて、理論と実務のかかわりについて理解させ、実践力を身につけさせることを目的とする。 まず学生は、労働局の指導のもと、労働行政に関わる法務について、グループワークを交えつつ、実習を行う。次に、連合長野の指導のもと、チームに分かれて、模擬の資料をもとに、労働相談と団体交渉を体験する。実習地は、長野労働局管内の施設と連合長野管内の施設を予定している。 事前・事後学習、実習のコーディネート、成績評価は、学部専任教員(15 島村暁代)が担当する。	実習 20時間 演習 20時間
		契約法務実習	地域の法曹関係者の協力のもと、模擬資料を用いて、履修者に、契約に関する民法理論を実践させることによって、理論と実務の関わりについて理解させ、実践力を身につけさせることを目的とする。実務家の指導のもと、履修者は、まず、課題の契約締結に必要な情報及びその収集方法を考える。そして、履修者は、模擬資料を分析したうえで契約書を作成し、さらに、契約締結に必要な手続きを検討する。その後は、紛争が生じたと仮定して、履修者は、その紛争への対処方法を検討する。実習に際しては、適宜、関係施設の見学を実施する。 事前・事後学習、実習のコーディネート、成績評価は、学部専任教員(14 山代忠邦)が担当する。	実習 20時間 演習 20時間
		知財法務実習	知的財産法に関わる実際の活動を通して、知的財産法がビジネスに関わり社会で生きる実態について、理解を深める。学生数名でチームを編成し、エレクトロニクス、医薬品、化学などの企業や官公庁のほか、著作権管理団体、醸造業、ブランド企業などに取材を行うこととし、準備状況と成果を報告する形式で進める。状況が許せば、国際機関や外国の企業や政府機関への取材を取り込む。 事前・事後学習、実習のコーディネート、成績評価は、兼任の教員として、東京大学教授(86 玉井克哉)が担当する。	実習 20時間 演習 20時間
		裁判法務実習	地域の法曹関係者の協力のもと、模擬裁判資料を用いて、公判に関する刑事訴訟法の理論を実践させることで、理論と実務のかかわりについて理解させて、実践力を身につけさせることを目的とする。 学生は、裁判チーム、検察チーム、弁護チームに分かれて、模擬資料を基に、起訴すべき罪名、立証すべき事実、争点の整理などを行ったうえで、関係資料(起訴状、証拠等関係カード、冒頭陳述書)を作成する。模擬裁判当日は、実務家立会のもと、公判手続を進めて、証拠調べ終了後には、論告、弁論を作成し、結審後は、裁判チーム主体で評議を行い、判決を言い渡すところまで行う。 実習地は、基本的に演習室を法廷に見立てて行い、適宜、裁判傍聴を実施する。 事前・事後学習、実習のコーディネート、成績評価は、学部専任教員(12 丸橋昌太郎)が担当する。	実習 20時間 演習 20時間

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	実務系科目 法務実習科目	捜査法務実習 長野県警察本部と長野地方検察庁の協力のもと、模擬捜査資料を用いて、学生に、捜査に関する刑事訴訟法の理論を実践させることで、理論と実務の関わりについて理解させて、実践力を身につけさせることを目的とする。 まず、学生は、長野県警の指導の下、実況見分の作成、指紋採取を行う。そして、吉開多一国土館大学教授(元検事)の指導の下、勾留状の作成、証拠物の確認、参考人の聴取、被疑者の取調べを行う。長野地方検察庁の施設の見学も併せて行う。 実習地は、演習室を取調室に見立てて行い、実況見分調書の作成は、信州大学構内の施設を対象にして行う。 事前・事後学習、実習のコーディネート、成績評価は、兼任の教員として、国土館大学教授(88 吉開多一)が担当する。	実習 20時間 演習 20時間
演習系科目	基礎演習 I	憲法分野、民法分野(商法含む)、刑法分野の基礎法律分野について、演習形式で理解を深めつつ、プレゼンテーション能力やディスカッション能力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。学生は、各分野に分かれて、現代社会における基本的な問題、時事的な問題を素材に、法的な観点から分析、検討し、自分の意見を整理した上で、他のゼミ生と議論し、最終的には自分の意見を文章の形でまとめる能力を養う。	
	基礎演習 II	基礎専門演習 I に引き継ぎ、憲法分野、民法分野(商法含む)、刑法分野について、演習形式で理解を深めつつ、プレゼンテーション能力やディスカッション能力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。学生は、各分野に分かれて、現代社会における基本的な問題、時事的な問題を素材に、法的な観点から分析、検討し、自分の意見を整理した上で、他のゼミ生と議論し、最終的には自分の意見を文章の形でまとめる能力を養う。	
発展演習科目	行政法演習	行政法分野について、演習形式で発展的な理解を深めつつ、プレゼンテーション能力やディスカッション能力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。 学生は、行政法分野に関する判例、事例問題を素材に、調査・研究、報告をした上で、議論を行うことを通じて、行政法分野に関する理解を深める。	
	刑事訴訟法演習	刑事訴訟法分野について、演習形式で発展的な理解を深めつつ、プレゼンテーション能力やディスカッション能力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。 学生は、刑事訴訟法分野に関する判例、事例問題を素材に、調査・研究、報告をした上で、議論を行うことを通じて、刑事訴訟法分野に関する理解を深める。	
	民事訴訟法演習	民事訴訟法分野について、演習形式で発展的な理解を深めつつ、プレゼンテーション能力やディスカッション能力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。 学生は、民事訴訟法分野に関する判例、事例問題を素材に、調査・研究、報告をした上で、議論を行うことを通じて、民事訴訟法分野に関する理解を深める。	
	倒産法演習	倒産法分野について、演習形式で発展的な理解を深めつつ、プレゼンテーション能力やディスカッション能力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。 学生は、倒産法分野に関する判例、事例問題を素材に、調査・研究、報告をした上で、議論を行うことを通じて、倒産法分野に関する理解を深める。	
	労働法演習	労働法分野について、演習形式で発展的な理解を深めつつ、プレゼンテーション能力やディスカッション能力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。 学生は、労働法分野に関する判例、事例問題を素材に、調査・研究、報告をした上で、議論を行うことを通じて、労働法分野に関する理解を深める。	
	社会保障法演習	社会保障法分野について、演習形式で発展的な理解を深めつつ、プレゼンテーション能力やディスカッション能力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。 学生は、社会保障法分野に関する判例、事例問題を素材に、調査・研究、報告をした上で、議論を行うことを通じて、社会保障法分野に関する理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 演習系科目 発展演習科目	環境法演習 I	環境法分野について、演習形式で発展的な理解を深めつつ、プレゼンテーション能力やディスカッション能力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。 学生は、環境法分野に関する判例、事例問題を素材に、調査・研究、報告をした上で、議論を行うことを通じて、環境法分野に関する理解を深める。	
	環境法演習 II	環境法演習 I に引き続き、環境法分野について、演習形式で発展的な理解を深めつつ、プレゼンテーション能力やディスカッション能力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。 学生は、環境法分野に関する判例、事例問題を素材に、調査・研究、報告をした上で、議論を行うことを通じて、環境法分野に関する理解を深める。	
	国際政治演習	国際政治経済及び国際開発の分野について、演習形式で発展的な理解を深める。さらにプレゼンテーション能力やディスカッション能力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。学生は、国際社会の課題に関する図書及び雑誌記事・論文などの日本語及び英語文献や報告書を元に、調査・研究、報告をした上で、議論を行うことを通じて、国際政治経済及び国際開発分野に関する理解を深める。外部講師なども依頼し、実務的な能力への理解を深め、インタビュースキルなども身につける。また、英語による学習能力やコミュニケーション能力の向上を目指す。	
	行政学演習	行政学分野について、演習形式で発展的な理解を深めつつ、調査能力、文章作成能力、プレゼンテーション能力やディスカッション能力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。 学生は、行政学分野に関する政策課題を素材に、調査・研究、報告をした上で、議論を行うことを通じて、行政学分野に関する理解を深める。	
	健康・スポーツ・自然演習 I	本演習は、「心身の積極的健康づくり」をテーマに、健康づくりのための運動・スポーツ、また自然環境の中でのレジャー諸活動の理論と実践について演習形式で理解を深めつつ、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力、コミュニケーション能力、そしてコーディネート力を身につけることを目的とする。学生は、健康づくりのための方策を如何にコーディネートすれば人々に実践してもらえるかを調査・研究・報告をし、議論を行うことを通じて、健康・スポーツ・自然に関する理解を深める。	演習 20時間 実習 20時間
	健康・スポーツ・自然演習 II	本演習は、健康・スポーツ・自然演習 I に引き続き、「心身の積極的健康づくり」をテーマに、健康づくりのための運動・スポーツ、また自然環境の中でのレジャー諸活動の理論と実践について演習形式で発展的な理解を深めつつ、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力、コミュニケーション能力、そしてコーディネート力を身につけることを目的とする。学生は、健康づくりのための方策を如何にコーディネートすれば人々に実践してもらえるかを調査・研究・報告をし、議論を行うことを通じて、健康・スポーツ・自然に関する理解を深める。	演習 20時間 実習 20時間
	総合法律学演習 I	本演習では、一つの学問分野に限らず、総合的に解決する力を身につけることを目的とする。 学生は、特定の課題に対して、調査・研究、報告をした上で、議論を行いながら、総合的な解決を目指す。課題は、主として私人間において生じているものを取り上げて、多角的な検討を行う。	
	総合法律学演習 II	本演習では、総合法律学特別演習 I に引き続き、一つの学問分野に限らず、総合的に解決する力を身につけることを目的とする。 学生は、特定の課題に対して、調査・研究、報告をした上で、議論を行いながら、総合的な解決を目指す。課題は、主として都市行政において生じているものを取り上げて、多角的な検討を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 演習系科目 論文科目	卒業論文	学生には大学での勉学の集大成として卒業論文の作成が推奨される。総合法律学科の学生の卒業論文作成の指導は、原則として「基礎演習Ⅱ」または「発展演習科目」の指導教員が務める。4年次に進級した学生で卒業論文の作成を希望するものは、年度の始めに「卒業論文」の履修登録を行い、指導教員と相談して卒業論文作成計画書を作成する。学生は、この計画書のスケジュールに従って卒業論文の進捗状況を定期的に指導教員に報告しながら指導を受け、卒業論文を完成させる。卒業論文の形式要件としては、2万字程度を原則とし、研究領域・内容の性格上字数がこの目安から大きく乖離する場合には、卒業論文作成計画書を作成する段階で事前に指導教員の承諾を得ておく必要がある。その他書式の詳細については、学生便覧で指示する。	
経済系選択科目	ミクロ経済学Ⅱ	「ミクロ経済学Ⅱ」では、市場メカニズムが、効率的資源配分を実現することを学ぶ。しかし、現実の経済社会では、市場メカニズムに調整を委ねるだけで効率的資源配分が実現するとは限らない。その理由は、市場メカニズムの円滑な機能を妨げる要因があるからである。代表的な障害要因の一つが、「情報の非対称性」の問題である。情報の非対称性の問題は、大きく2つに分けられる。「取引前」の情報の非対称性である「逆淘汰」と、「取引後」の情報の非対称性である「モラル・ハザード」である。講義の初めでは、これらの問題を取り上げる上で必要となる「期待効用」や「不確実性下の意思決定」について解説する。その上で、情報の非対称性が引き起こす問題や、その問題を解決するメカニズムについて説明する。	
	マクロ経済学Ⅱ	この講義では、「マクロ経済学Ⅰ」の内容を前提として、長期の経済成長を分析する理論である新古典派成長理論を中心に、マクロ経済学のより上級のトピックを講義していく。最初にソロー・モデル、成長会計を説明し、これらを使って、1950年代から60年代の日本の高度経済成長や、「失われた20年」ともいわれる最近の日本の経済停滞の原因を分析する。次に、家計の消費の最適化の初歩を説明し、これを組み入れた新古典派成長理論が、日本のマクロ経済の動きを上手く説明できるかを分析する。講義を通じて、データを用いてマクロ経済理論を検証することや、理論を用いて現実のマクロ経済を解釈することができるようになることを目指す。	
	ゲーム理論入門	本講義は、ゲーム理論の基礎を身につけることを目的としている。「ゲーム理論」とは、経済や社会におけるさまざまな意思決定と行動の相互依存状況を数理的なモデルと論理を用いて分析する学問である。本講義の目的は、以下の2点を習得することである。1つは日常のビジネスや政策決定の場に応用できる「戦略的思考の技法」として、ゲーム理論を身につけること。もう1つは、近年、経済学や法学を含む社会科学の多くの分野に用いられているゲーム理論を理解できるようになることで、それらの分野の理解を一層深められるようになること。特に、ゲーム理論の基礎である完備情報ゲームとその応用を中心として講義を進める。	
	経営組織論	この講義の達成目標は、経営組織の基礎的な知識の習得と、習得した知識をもとに、組織での意思決定や実際の活動を円滑に行う方法を考えることの2点である。講義ではまず、組織とは何かといった根本の議論からスタートし、組織図を中心とする組織構造、従業員の意識を中心とする組織過程、組織の性格を表す組織文化、組織が変わる瞬間を捉える組織変革などを検討する。さらに、実際の組織での仕事を想定したチームでの仕事についての内容を深めることで、より実践的な講義を行う。	
	財務会計	財務会計は、企業の経営成績や財政状態について財務諸表を通じて、企業外部の利害関係者に報告することを目的としている。本講義では、財務会計の機能、企業会計を取り巻く制度や会計基準について説明したうえで、適正な期間損益計算をするための収益と費用の認識・測定や利益測定、資産評価の基準などの概念について学ぶ。そのうえで、資産、負債、純資産の各項目や連結財務諸表などをとりあげ、企業会計の仕組みの全体像を把握していく。 また、会計は経営と密接な関係にある。そこで本講義では、企業経営と会計との関係がイメージしやすいように、適宜、企業事例や新聞記事をとりあげて説明する。なお、本講義履修にあたっては、「簿記・会計入門」の履修を前提とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	経済系選択科目	公認会計士実務	公認会計士実務は、現場で活躍する公認会計士によって、企業を取り巻く会計監査に関する実践的な講義が展開される。講義内容は、公認会計士法及びディスクロージャー制度の概要、会計監査に必要な監査論と監査実務について、公認会計士の具体的な業務(監査・FA・税務)などである。	
		社会保障政策論	現在の日本において、政府支出の最も大きな割合を占めているのが社会保障関係費であることは良く知られている。社会保障に限らず、公共の福祉にかかる様々な社会的サービスは、私たちが日常生活の中で利用している社会のセイフティネットといえるしくみである。 この授業は、日本に暮らす私たちの日常生活におけるリスクを管理するセイフティネットのしくみ、すなわち、社会保障、公衆衛生、居住、教育など、公共の福祉にかかるテーマをとりあげ、それぞれの制度が生まれた背景を歴史を遡って整理し、その政策効果を考える。 特に、社会保障政策の理念や機能、制度枠組みなど、基礎的な知識を学んだ上で、公的年金、医療保障制度、介護保険制度、公的扶助、社会福祉などを取り上げて、それぞれの政策が策定された背景、現状と現代の課題を学ぶ。	隔年
		財政学	・現代の経済社会において重要な役割を果たしている財政分野を中心とした経済政策について、その制度の概要と課題を取り上げ、現実の問題点を経済理論と関連付けて解説する。 ・そのため、財政に関する経済理論について解説した上で、我が国における政府活動の諸制度の概要や財政的な課題を紹介し、これらの諸課題について経済理論を応用して説明する。 ・政府活動・財政政策とは何かという問題から、社会保障と税の一体改革やアベノミクスなど時事的な課題まで取り上げる。	
		地方財政	日本の地方財政をテーマに、その経済学的な分析について解説する。地方財政に関する「実態・制度」と、政策の機能等を捉える「理論」双方を扱い、政策の意義や課題について考察する。まず家計・企業などの自由な取引に基づく経済社会の中で「政府の果たすべき役割は何か」(財政の3機能)、さらに「国と地方自治体の役割分担をどのように行うべきか」(機能配分論)に関して基本的な考え方を整理する。その後、歳出面では地方自治体が担うべき政策、歳入面では地方自治体に賦与されるべき税源や、目的に応じた補助金のあり方などについて扱う。	
		経済史	この講義では、経済社会の歴史を主に資本主義経済の勃興と発展を中心に概観する。 現代の経済は、過去から受け継いできた経済の発展の上にある。今日、われわれがそのもとで暮らしている資本主義経済を正確に理解するためには、何よりも過去の経済をある程度知っておく必要がある。この講義では、そうした過去に存在した様々な経済社会を大きな史的枠組み、すなわち1)資本主義社会以前の諸社会、2)16世紀の「大航海時代」からの資本主義経済の勃興、3)19世紀における資本主義経済の確立、4)19世紀後半から第1次世界大戦までの資本主義経済の変容、5)第1次世界大戦以降の現代資本主義、という歴史的な流れに沿って論じる。 講義では、教材として配付資料・教科書を中心に、スライド等も併用する。	隔年
		経営労務論	この講義の達成目標は、経営労務の基礎的な知識を習得し、経営労務の問題を解決する方法論を考えることにある。経営労務は、企業だけでなく、医療や福祉政策などのより広範な社会との関係も深い。例えば、従業員のストレスや長時間労働は、過労死・過労自殺などの過労による疾患に結びつき、医療との関係が深い。また、従業員の待遇に関する議論は賃金や福利厚生制度に関係するだけでなく、セイフティネットなどの福祉政策にも影響を与える。したがって、経営労務の視点から広く社会への問題にもアプローチする。	隔年
		独占禁止法の経済学	この講義は、独占禁止法の概要、および、競争的な市場環境を維持・促進する観点からより望ましい経済政策を実現する政策について学習を進める。独占禁止法は、経済活動を規律する経済法の核をなす基本法であり、その目的は、競争の促進・維持、消費者の利益保護、および経済の発展にある。そこで本講義では、マイクロ経済学、ゲーム理論、および産業組織の理論で学習する経済学的手法を用いて、望ましい競争政策を見出すことを目的とする。そのうえで、海外および日本の産業構造、競争政策に対して理論的・実証的に分析できるようなこと、また、ニュース・新聞・雑誌などで報じられる記事に対して経済学の視点から分析し、自分の言葉で説明できるようになることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	経済系 選 択 科 目	法と経済学Ⅰ	この講義では、経済学が提供する社会現象・企業行動等に関する理論を用いて、法制度に関わる諸問題を考えることで、直感に頼らず、論理的に社会問題への対応策を検討できるようになることを目指す。商法、会社法といった経済活動に直接関わる法律は、経済学的視点による解釈が、従来の法解釈へ影響を与え始めている。また、従業員の解雇に関連して、解雇規制の存在が雇用環境や企業活動全般へ、どのような影響を及ぼすのか、経済学分野で議論が展開されている。そこで、情報の経済学やゲーム理論といったミクロ経済理論の分析手法を用いて、企業金融や企業統治、解雇規制、知的所有権などのトピックスを取り上げ、法制度解釈への経済学の応用例を紹介していく予定である。	
	法と経済学Ⅱ	「法と経済学Ⅰ」で学んだ基礎知識を応用して、社会が直面している法的問題について検討を行う。社会的な問題の解決策を探る上で、経済学を基にする利点は、経済学的分析の特徴として、目の前の問題に対する直接的な解決策を考えるだけでなく、一つの解決策が周辺に及ぼす波及効果・副作用までも含めて検討できることにある。具体的に取り上げるトピックスは、株主保護の問題に関連して、買収防衛策導入の影響、少数株主保護、株主代表訴訟の効果、また、債権者保護と倒産処理法制の在り方、さらに、解雇権濫用の法理が労働市場にもたらした影響などである。この講義を通じて、ミクロ経済学の分析手法を活用することで、現実の事例の解決策を探る応用力を養うことを目指す。	隔年	
	医療制度論	医療は情報の非対称性を回避することができないので、さまざまな規制が存在する。そこで本講義では、医療サービスの需要側、供給側に対する規制を紹介し、それらを整理しながら望ましい医療制度のあり方を考察する。具体的には、需要側の規制として、まず全国民が強制的に加入させられる医療保険制度と、高齢者の医療制度の仕組みを概説する。次に、供給側に対して課される規制として、医療法・医師法、医療職の免許制度と、施設基準、診療報酬制度・薬価基準を議論し、それらの長所短所を整理する。		
	社会政策論	社会政策とは、個人のみでは解決できない社会問題を解決するための公共政策であり、社会保障、社会福祉、労働問題、労使関係をはじめ、教育学やジェンダー研究、生活問題といった課題群(カテゴリー)から構成されている。この授業では、少子高齢化が社会問題化することになった1970年代以降を射程に、主に日本における社会問題の実情を知り、問題解決に向けた社会政策の制度体系を学ぶことになる。 この授業は、1.社会政策が直面する少子高齢化の現状と課題、社会政策の体系、福祉国家の類型を概観し(社会政策概論)、2.典型的な労働問題を取り上げながら労働市場政策を学び(労働問題と社会政策)、3.制度ごとに構成された生活支援の基本的な枠組みを学ぶ(生活保障と社会政策)、以上の3部構成となる。		

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 経済系選択科目	健康政策論	<p>健康づくりに関する諸施策は、個人の健康面の改善効果のみならず、日本の社会保障制度を持続可能なものに変えていくためにも、現在重要な位置づけにあるといえる。さらに、健康づくりに関する諸施策は、個別の社会保障制度が対象とする課題を超えて、ソーシャルキャピタルの育成にかかる基礎自治体を始めとするまちづくりや地域づくりに関する諸政策に強い影響を及ぼしつつある。</p> <p>健康政策論では、健康づくりに関する諸施策の今日的課題のいくつかにテーマを絞り、健康づくりと福祉のまちづくりにおける公共政策が抱える現状と課題を学ぶ。</p> <p>この授業は、専任教員2名（井上信宏、増原宏明）、兼任教員3名（古屋顯一教授〔総合法律学科〕、中澤勇一准教授〔医学部医学科地域医療推進学講座〕、関口健二特任教授〔医学部附属病院総合診療科〕）がオムニバス方式で担当し、途中でゲスト講師を招聘する。それぞれの担当は、次の通りである。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(43 井上信宏/3回) イントロダクション、福祉のまちづくり等</p> <p>(69 増原宏明/3回) イントロダクション、医療と介護の連携による社会保障コストの削減等</p> <p>(2 古屋顯一/2回) ヘルスプロモーションにおけるスポーツの役割</p> <p>(48 中澤勇一/2回) 地域医療推進の現状と課題</p> <p>(45 関口健二/2回) 総合診療の促進における現状と課題</p> <p>このほかに、基礎自治体における健康政策の推進について（ゲスト講師、1回）、基礎自治体におけるソーシャルキャピタル育成の取り組みについて（ゲスト講師、1回）、高齢者の在宅介護の推進の現状と課題（ゲスト講師、1回）などを実施する。ゲスト講師の回は、専任教員が担当する。</p>	隔年 オムニバス方式
	情報処理A	<p>社会の様々な分野で有用な表計算ソフトをより高度に使いこなすことを目指す科目である。具体的には、現在のde facto standard表計算ソフトであるExcelのマクロを記述するプログラミング言語VBAの文法について学ぶ。現在、VBAの使用頻度は非常に高いと言われている。VBAで記述するExcelマクロを使用することで、定型化した処理の自動実行、条件分岐処理、反復処理などの利用が可能となり、表計算ソフトの利便性が向上する。VBAの文法を学ぶとともに、具体的なデータへの適用を、学生が所持するノートパソコンを使って確認しながら、より段階的に高度な内容へと進行する。</p>	
	情報処理B	<p>コンピュータの高度な活用を通して、デジタル情報処理の仕組みが理解できる。</p> <p>多くのプログラミング言語の基本となった言語がC言語であり、現在も実用的に使用される場面が多く、最も普及している言語の一つである。また、プログラミングの学習用にも適した言語と言われている。本科目の目的は、C言語によるプログラミングの基本を学ぶことである。この科目で基本文法を習得すれば、他の言語への応用も可能となる。文法を習得しながら、学生が所持するノートパソコンにインストールしたCコンパイラを使用して入力から実行までの操作も行い、理解を深める。</p>	
	現代産業論	<p>この講義は前身の信州大学経済学部時代の1988年から「産業論特論」の名称で毎年開講してきた講義で、平成26年度までで27年目の開講を数えた。新学部でもこれを引き継ぎ、新たに「現代産業論」の名称で開講するものである。この講義の内容は、毎年現代産業に係るテーマを設定し、そのテーマに関して日本の産業活動をリードする企業人や政府等の政策担当者からオムニバス方式形式で講義を組み立てる方法で開講するものである。対象となる産業分野はその年度のテーマによるが、これまでの累積では製造業のほかに、建設業、不動産業、流通業、食品産業、エネルギー産業、金融業などと多岐に渡っている。近年のこの講義で取り上げたテーマとしては、平成24年度が「大災害の経験と教訓」、平成25年度が「企業のグローバル化戦略と経済連携協定の課題」、平成26年度が「リスク社会への備えー保険と社会保障を中心として」であった。講義の進め方は、前半がゲスト講師による講義、後半が質疑応答、レポート作成となっている。授業のコーディネイトと毎回のレポート採点による成績評価は学部専任教員（33 山沖義和、34 徳井丞次）が担当する。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	経済系選択科目	現代職業論	実社会において職業上担うべき責務とは何か、求められる役割とモチベーションの持続を以下に継続し得るかについて、現実直面する前に真摯に検討させる。その一助として、本学部卒業生をゲスト講師に迎え、在学時の学習状況、就職活動及び実社会に出てからの職業体験、現在の職場・仕事内容等を披歴することで、キャリア形成観の育成を涵養するとともに、本学部の目標とする、学士として得た能力を即戦的に現場で応用できる職業人のイメージを喚起する。ゲスト講師は多岐に亘る産業、職種の中から活躍の場を広げている有意な人物を選出する。	
		経営者と企業	本講義は、信州大学が所在する長野県を拠点に活躍する企業の経営者から自社の発展と今後の課題を語ってもらい、学生に地元企業の魅力とそれを指揮する経営トップの活力に触れてもらうことを目的として、前身の経済学部時代(2000年)から開設し毎年継続してきた科目である。長野県内には40社ほどの上場企業と裾野の広い中堅・中小企業が多数存在し、そのなかには最近注目されているグローバル・ニッチトップ企業と呼べるような会社や、業態を変えながら数百年事業を継承してきた会社など特色ある企業が多数含まれる。学生がこの科目を履修することによって、こうした地域や世界で活躍する地元企業経営者から経営課題を聴いて経済学・経営学分野の諸科目で学んだ概念やものの見方の具体的な応用場面に気づくことができる教育効果に加えて、地元企業の「隠れた」魅力に接することによって将来地域創成を担う人材育成にも資するところがあるものと期待される。この授業は、長野県経営者協会からの協力を得て複数の企業に依頼し、その経営者をゲスト講師としてオムニバス方式形式で講義を行うものである。毎回の授業は講師による講義、質疑応答、講義内容に基づくレポート提出からなる。授業のコーディネートと毎回のレポート採点による成績評価は学部専任教員(34 徳井丞次, ② 関利恵子)が担当する。	共同
キャリアデベロップメント科目		ボランティア	安全で平穏な社会生活には近隣などの助け合いも不可欠である。また自分にできる社会貢献を見出すことは自己発見でもある。東北震災復興支援、信大附属託児所、自然保全活動、福祉関連NPO法人などさまざまな地域・社会課題に取り組む非営利団体・活動にボランティア人材として自発的に関わることを通じて、<共助>を理解し自己発見にもいたることを目的とする。「交流系科目部会」教員が指導・運営(単位認定)にあたる。合同説明会(4月)に出席し、事前レポート登録を経て、夏期などに原則60~80時間、ボランティア活動に従事し(無償)、ボランティア活動実施証明を付したレポート(4000字)に合格し、発表会(12月)に参加することを義務付ける。	共同
		インターンシップ	企業・公務職場などの組織における就業体験をもとに単位を認定する。「交流系科目部会」教員がその指導・運営(単位認定)にあたる。合同説明会(4月)を経て、事前レポート登録を行い、夏期などに原則60~80時間、体験就業(無償)に従事し、インターンシップ修了証明を付した事後レポート(4000字)に合格し、発表会(12月)に参加することを要する。	共同
		Global Political Economy	グローバル化の進展の中で、国際社会が直面する課題について学習する重要性が増している。また、社会で仕事をする上で、実用的な能力としての英語力を向上させる必要性も増している。この授業では、貧困と開発、国際経済秩序、安全保障、環境問題など国際政治経済の課題について、主に英語教材を使用し学習する。基礎的な国際社会の課題を理解すると共に、社会科学を学ぶための英語能力の向上を目的とする。少人数の参加型の授業を通じて、情報収集・分析、プレゼンテーション、文章作成能力を向上させる。	
	Global Business	本演習は、グローバルビジネスにおいて重要視されている概念、分析手法、戦略、戦術などを、主にマーケティングの観点から学ぶことを目的とする。本演習ではまた、グローバル市場で活躍する上で不可欠な概念の理解と、スキルの構築に焦点を置く。履修者はこの演習を通じて、日本および世界で活躍している組織および個人による最新のビジネス活動について学び、事例研究を行う。毎回の演習に備えて履修者は、学内および学外における多岐にわたる調査活動、ディスカッションに向けた事前学習の実施が必要となる。この演習では、履修者個々の文化的・経済的・社会的観点を生かし、共に学ぶ履修者とネットワークを構築しながら、様々なグループ活動を通じて学ぶことが期待される。毎回の演習は、講師による講義、質疑応答、講義内容に基づくディスカッション、プレゼンテーションの実施、小テストと期末テストから構成されている。		

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 環境法務コース)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	キャリア ア デ ベ ロ ッ プ メ ン ト 科 目	American Law and Society	アメリカの法と公共政策について学ぶ。日本社会とは異なる法・政策の体系とアプローチを学ぶことにより、日本社会の法・政策の特徴を理解する。学術研究教育交流協定を結んでいるハワイ大学ロースクールと行政学プログラム (Public Administration Program) より客員教授を招聘し、夏期の集中講義期間に行う。講師は毎年交代し、様々な法と公共政策の専門分野の科目を開講する。英語で授業を行い、英語での学習能力を向上させる。授業は、アメリカの法や公共政策教育で行われる参加型のアクティブ・ラーニングスタイルで行う。授業のコーディネーター、ガイダンス、学生に対するサポートは、学部専任教員 (① 美甘信吾) が担当する。	集中
		海外短期演習	ハワイ (アメリカ) 社会・政治経済制度について学び、地域振興や多文化共生など地域社会が直面する課題について理解を深める。海外の大学での学習体験を通じ、異文化理解を促進し、英語学習を奨励する。海外研修の効果を高めるために英語学習や日本語での基礎知識の習得など事前学習を行う。ハワイ大学での授業、フィールドトリップ、報告書作成を通じて、経済学・政治学の基礎知識の体系的理解、社会における課題発見力と行動力、言語 (英語) 能力、コミュニケーション能力、自己管理能力、チームワーク力、リーダーシップを身につける。	集中 演習 54時間 実習 12時間

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目 教養ゼミ ナール群	環境問題を化学者と考えるゼミ 第1回目の講義時に各種環境問題を教員から問題提起し、2回目以降のテーマを担当する発表者を決定する。主発表者は毎回1～2名でA4レポート用紙2枚にまとめてレジメを作り15分程発表(プレゼンテーション)する。発表者以外の人はその小テーマについて調べておく。そして4～5人のグループに分かれ、発表者の発表後、全員で20分ほど討論する。(コミュニケーション能力の向上) そして、その結果をレポートにする。(言語能力の向上) さらに、それらの結果を基に各グループが意見を交換する。(コミュニケーション能力の向上) 「一人一人が自分で調べ、考え、自分なりの考えを持つ」ということがこのゼミのキーワードであり最終目標である。	
	生態資源論ゼミ	各人(班)はそれぞれ関心をもった生態資源について、まずは文献資料にあたり、報告する。それをもとに、受講者全員で質疑応答を行う。 各班の調査方法としては、各種文献やインターネットの参照のほか、関係者への聞きとりを行う(メールや電話での聞きとりも可とする)。また各報告に対して質疑応答を行う。 また、授業期間内に1度、受講者全員が参加する学外見学・体験の機会を設ける。	
	地球白書ゼミ	本授業では、地球が直面している問題群を比較的平易な英文とそこに挿入されている図表から学ぶ。各人はそれぞれ関心のある項目について、テキストの読解を行い、発表・報告する。それをもとに、受講者全員で質疑応答を行う。授業の目標は、鍵となる単語や表現を覚えることに加え、問題の背景や構造を理解し、さらに私たちに求められる「かかわり」について議論することである。	
	環境マインドを現場で体験するゼミ	(1)水生生物の基づく環境調査、(2)地下水利用をめぐる聞きとり調査、(3)成果発表と討論を行う。 まず、ナノ水車発電の技術の体験的学習では、工学部における技術開発の現場と、エネルギーの地産地消を目指した応用現場に立ち会い、討論を通してこれからのエネルギー生産と消費のあり方を考えさせる。 次に、環境調査会社(株式会社 環境アセスメントセンター)によって環境保全の作業が行われている現場を訪問する。ここでは、実際に水生生物の調査を担当することによって実際の調査を体験するとともに、協同作業を進める方法を工夫してほしい。 さらに、地下水利用の現状と課題について、地下水開発会社(株)サクセン、飲料メーカー、わさび農園、住民などへの聞きとりを通じて、体験的に理解する。地域の水資源を活用しながら、同時にその水環境をまもっていく方策について議論する。 (オムニバス方式/全16回) (57 金澤謙太郎/8回) 水生生物の基づく環境調査 成果発表と討論 (28 大塚勉/8回) 地下水利用をめぐる聞きとり調査 成果発表と討論	オムニバス方式 集中
	「時」について考えるゼミ	「時」についての理解を深める。主として輪講形式。「時」をキーワードとしたいろいろなテーマを取り上げ、受講生主体の自由な討論を行いたい。対象学生は文理所属を問わない。教材は受講生の興味や予備知識に合わせて調整する。	
原書で読むシャーロック・ホームズゼミ	4つの長篇と56の短篇からなるホームズ物語のうち、『ストランド・マガジン』への連載をきっかけに一躍人気を博した代表的短篇をとりあげる。シドニー・バジェットによる挿し絵が添えられたテキストを読み解く作業を中心に授業を進めるが、英語特有の表現、構文など、形式的・文法的な知識の確認と同時に、文化的文脈を踏まえた、テキストの内容の正確な解釈・理解にも意を用いたい。その際、英文の内容と味わいを達意の日本語で表現するために、英和辞典、国語辞典をはじめ、各種の辞典類を充分に活用してもらいたい。また随時、英国のグラナダテレビによって製作された定評ある映像化作品も視聴し、原作テキストとの比較も試みたい。		

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 教養ゼミナール群	現代ドイツの言語と日常ゼミ	<p>既習言語であるドイツ語を実際に用いて、ドイツ語を通してしか得られない現代ドイツ語圏の日常・文化生活に触れ、異文化に直に触れることにより、より高度な国際理解感覚を身につけつつ、ドイツ語運用能力を高める。</p> <p>到達目標： 1. 辞書を用いれば、現代ドイツのアクチュアルな文章を読むことができるレベルのドイツ語読解能力を身につける。 2. 文章を読む際に、日本語の感覚ではなく、ドイツ語の感覚で読む習慣を身につける。 3. 日本語に頼ることなく、外国語から直接外国の情報を入手し、それを処理する国際理解感覚を身につける。 4. 独検秋季試験で2級に合格するドイツ語力の習得を目指す。</p>	
	現代ドイツ事情ゼミ	<p>現代のドイツ語圏の事情は、日本の新聞や雑誌ではなかなか目にすることがない。そのようなアクチュアルな文章を読む際には、テキストの文字だけを見ていても、その背景にあるドイツの現状を知らなければ、理解するのは難しいだろう。(もちろんこれは、ドイツ語に限ったことではなく、英語でも同じことが言える。)</p> <p>そのような意味で、異文化理解や国際感覚というものをより高度なものにするために必要な視点や姿勢を、しっかりと身につけてもらいたい。</p>	
	異文化研究ゼミ	<p>本ゼミでは、各受講生が関心を持っている異文化について学び、学んだことを発表することを通じて、自ら課題を探索し、自分の主張を的確に表現する能力を養う。</p> <p>はじめに各受講生が関心を持っていることについて話してもらい、その関心をどのように深めてゆけばよいか話し合う。</p> <p>最終的にはレポートを執筆し提出する。その上で、アカデミック・ライティングの指導を行う。随時グループワークを実施することで、コミュニケーション能力を高めるとともに、受講生どうしの相互理解を深める。</p>	
	感覚で攻める英文法ゼミ～ 覚える英文法から感じる英文法へ	<p>本ゼミでは、英文法のトピックを取り上げ、受講者の理解度に合わせゆくり進めていく。</p> <p>まず、各トピックの基本事項を講義し、そのトピックを理解するのに必要な事項を概観し全体像を把握する。その後、グループワーク・ディスカッションやプレゼンテーションを通して受講者全員でそのトピックにまつわる「なぜ」という疑問や「どうして」という関心を自由で大胆且つ独創的な発想を交え積極的に話し合い、受講者全員の共同作業により各自が「英文法」を体感し、「使える英文法」を体得する。</p>	
	スポーツ・ホスピタリティゼミ 秋冬編(松本山雅FC連携ゼミ)	<p>本ゼミではスポーツ・ホスピタリティ、具体的には地域密着型スポーツクラブ、プロスポーツ、一般市民のスポーツ施設、あるいはレジャー施設におけるボランティアの望ましいあり方をアカデミックかつ実践的に理解する。本講では主に信州におけるサッカーを中心としたスポーツクラブやその他のトップスポーツや、近隣のスポーツ施設や公園が直接の対象となるが、海外におけるホスピタリティ事情も文献やインターネットで検討する。そこでのホスピタリティがどのような歴史社会的背景、教育的、政治的、経済的要因で成立し、受容されて(あるいは忌み嫌われて)いるのかを実際のフィールドワークも取り入れながら検討してゆく。</p> <p>フィールドワークは2012年シーズンからJリーグ入りを果たした松本山雅FCの試合運営にボランティアとして関わること及びその他スポーツスタジアムやスポーツイベントのホスピタリティ体験を通じて望ましいあり方を学習する予定である。</p>	
	スポーツ・ホスピタリティゼミ 春夏編(松本山雅FC連携ゼミ)	<p>本ゼミではスポーツ・ボランティア、具体的には地域密着型スポーツクラブ、プロスポーツ、一般市民のスポーツ施設、あるいはレジャー施設におけるボランティアの望ましいあり方をアカデミックかつ実践的に理解する。本講では主に信州におけるサッカーを中心としたスポーツクラブやその他のトップスポーツや、近隣のスポーツ施設が直接の対象となるが、海外におけるホスピタリティ事情も文献やインターネットで検討する。そこでのホスピタリティがどのような歴史社会的背景、教育的、政治的、経済的要因で成立し、受容されて(あるいは忌み嫌われて)いるのかを実際のフィールドワークも取り入れながら検討してゆく。</p> <p>フィールドワークは2012年シーズンからJリーグ入りを果たした松本山雅FCの試合運営にボランティアとして関わることを通じて望ましいあり方を学習する予定である。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 教養ゼミナール群	スポーツ観戦文化論ゼミ	ここでの観戦学とはいわゆるスポーツの戦略やスキルの専門的知識を追求することではない。スポーツの生観戦、スポーツのテレビ観戦のアカデミックな理解にあたって、まず、チームやクラブのエンブレムやユニフォーム、愛称、サポーターズ・ソング、等の諸シンボルが対象となる。それらが支持・愛される理由・要因を、歴史社会的背景、教育的、政治的、経済的要因などに注目しながら検討する。また、同様に、観戦にあたってよいスタジアムとは何か、サポーター&サポーターズカルチャーとはいかなるものかについても、実際のフィールドワークも取り入れながら検討してゆく。	
	テレビのメディアリテラシー(テレビ信州参与ゼミ)	この講義はテレビ信州の全面的協力の下に開講するもので、ニュースや技術、カメラ、アナウンスなどの担当者をゲストスピーカーとして迎える。現場での経験、経験の中からの学び、喜怒哀楽等々、ナマの声を耳を傾け、質疑応答の中で、テレビメディアの今を知る。併せてミニ番組を制作し、作品はテレビ信州の番組と長野市インターネット放送局「愛テレビながの」の中でOAする道も開かれている。ただし、この制作実習は、テクニックの習得というより、むしろ、送り手と受け手の双方の立場を体験し感じ取り、討論することを通じて、メディアリテラシー向上に資することを主眼としている。	
	「考える」ゼミ	「考える力」や「伝える力」は、受身的な学習により身に付くものではない。「考える力」と「伝える力」を獲得するためには、実際に「考える」そして「伝える」という“実践トレーニング”が欠かせない。 「考える」ゼミ(以下考ゼミ)では、その「考える」「伝える」ことを実践するために、トレーニングの【場】となる様々な仕掛けや素材が毎回用意されている。そして、普段はできないような新鮮な経験となりそうな機会を提供する。この【場】や【経験】は、教室内とは限らず、街場(地域)に繰り出し体験型の活動を行う。その【場】では、様々な“指令(〇〇しなさい)”が出され、それら指令をこなすことで、新鮮な経験を得つつ「考える力」「伝える力」を鍛え上げていく。 このように、受講者は、毎回毎時、「考える」そして「伝える」実践トレーニングを行う。	
	化学計算入門ゼミ	表計算ソフトは基本的なソフトであり、種々の分野において広く使われている。本ゼミでは、この表計算ソフトを化学実験の結果の解析や種々の化学計算等を行なうことにより、基礎知識を発展させ、理解を深める。本ゼミでは、以下の点を目標にする。 1. 表計算ソフトExcelの基本的な操作を覚える。 2. 化学計算ができる。 3. 実験結果の解析ができる。	
	文系学生のための野外地質学ゼミ	前期の土・日曜日を利用して野外に3回、学内で1回の授業に臨む。 信州には多くの活断層が存在し、近い将来地震災害をもたらすのではないかと心配されている。また、山岳地域であるため、常に自然災害に見舞われている。そのように判断される根拠となる野外地質現象を訪ねる。 信州の地質を特徴づけるフォッサマグナとはなんだろうか。フォッサマグナを特徴付ける岩石が露出している地点と、そこから産出した化石を収蔵する博物館を訪れる。さらに、身近にある河川-女鳥羽川を歩き、地質学的な自然現象が語っていることを学ぶ。 各内容では、かなりの距離を歩くことになる。現地では地質現象を観察して記録をとり、後でレポートを作成する。現地で観察して議論し、考えたことを発表してもらう。	集中
	統計図解ゼミ	身近な状況の中から、数値情報の現れている課題あるいは欠落している課題などを、コンピュータを活用してグラフなどに図解していく。各自が図解に作成したファイルを、大学提供の学習システムeALPS上に提出することにより毎回の演習は完結する。 処理する題材はインターネット上で公開されている数値情報を中心に扱い、とくに環境、教育、地域、ジェンダーおよびスポーツに関係した資料を多く扱う。 表計算の利用においては、とくに作業効率に関係したスキルを中心に扱う。 実習の進め方は、個人活動を中心に進め、課題によってはグループでの作業とする。 なお表計算Excelをよく使う人も多いが、このツールに関するいくつかの問題点も同時に演習を通じて指摘していく。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	アナログ再発見ゼミ	単純に数えること、あるいは私たちの身体感覚を通じて測定できるいくつかの課題に取り組むことを通じてアナログ量やデジタル量の測定について体験し、それらのデータを計算処理を通じて表現する。 課題内容に応じて、個人またはグループで取り組む。 数値情報の表現においては、有効数字や誤差の扱いも学ぶ。
	教養ゼミナール群	情報社会論ゼミ	ここ数年のコンピュータと情報通信技術の普及によって、コミュニケーションのあり方、意思決定・判断の方法を含めて私たちの生活スタイルは大きく変化した。私たちが記憶しなければならなかった事柄のかなりの部分は、携帯電話やコンピュータが担うようになっていく。かつて調べるのに大変な労力を要した事柄も、いくつかのキーワードを入力するだけで簡単に調べることができるようになった。しかし負担が減った分、私たちの脳はより良い使われ方をしているだろうか。 このゼミでは、情報社会に関する様々なテーマについて検討することを通して、ネットワーク社会の光と陰について理解を深めてもらいたいと思う。
		大学生基礎力ゼミ	受講生が学ぶのは、信州大学に関する知識と、大学生として4年間必要になる基礎的な知識・技術・態度である。そのために、授業と授業外で、自分たちが大学生になっていく過程を観察し、記録し、分析していく作業を繰り返すが、そこで学生が実際に体験し、練習するのは、 (1) 受講している学生および教員との信頼関係および生産的関係の構築 (2) 大学の学びに必要な諸技術（聞く・話す・読む・書く・分析する・協働する・受け入れる・主張する・異議を唱える・働きかける、等々） (3) 信州大学の環境の理解と施設や支援の利用 (4) 異なる人々や新しい価値体系の受容と、自分の視野と度量の拡張の4つである。 この経験を記録し、分析し、今後に生かすために、学生は毎週ふりかえりを書き、大学の施設を学びながら協働して課題に取り組み、それらをポートフォリオとして保存して、はじめての学期の経験を総括するレポートを書く。授業ではこれらの経験を話し合うことで理解を深め、大学生として生活を組み立て、学習を深めるための基礎力を身につける作業を繰り返す。
	グローバルに生きるゼミ	この授業は、「グループワーク」、「ディスカッション」、「プレゼンテーション」が中心となる。「知識を得る」のではなく、情報を得て、それについて考え、自分の問題として発信することを要求する。 毎回の授業の大まかな流れは、以下のようなものである。 1. 資料あるいは短いレクチャーを通して、テーマごとの問題点を明確にする。 2. その問題点についてグループワークやディスカッションを通して理解を深めつつ、自分以外の視点についても触れ、自分の問題として考える。 3. ディスカッションの結果をグループで（あるいは個人で）まとめて発表する。 4. 授業内容のまとめとして、毎回短い文章を提出してもらう。 (オムニバス方式／全15回) (50 松岡幸司／13回) オリエンテーション：「グローバル（に生きる）とは何か？」 グローバルな人材とは？（自分の問題として考える） 海外へ行く、海外で暮らす/学ぶとは？(1) グループ発表 様々なテーマで「グローバル」ということについて、自分の問題として考える。 個人発表 (47 RUZICKA DAVID EDWARD／2回) 海外へ行く、海外で暮らす/学ぶとは？(2)	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	教養ゼミナール群	新聞をつくろう!(タウン情報制作ゼミ)	『松本平タウン情報』は、松本、安曇野、塩尻市など中信地方で11万8700部を発行するタブロイド判16ページの地域情報紙であり、毎週3回発行され、信濃毎日新聞の朝刊に折り込まれている。その紙面づくりに学生自身が加わることを通じ、「地域におけるメディアとは何か」を学び、その過程で、分かりやすい文章の書き方、コミュニケーションの方法などを身に付けることを目的とする。 ゼミでは、新聞をつくるための基礎知識を学び、実際の紙面をつくる。メディアのあり方、取材の仕方、写真の撮り方、新聞の組み方などを講義する。以上のことは編集会議を重ねながら、実際に取材、執筆、整理制作を進める。	
		スポーツ活動論ゼミⅠ	身体の健康を図ることは人生を通しての課題といえる。本ゼミは「人間の身体は素晴らしい」をテーマに運動をとおして人間の生活習慣やスポーツ活動について、学生諸君とともに考えていくことをねらいとしている。またゼミではスポーツの理論と実践を重視するため、問題発見、問題解決能力が身に付く。学生の自主性により内容を決定するので、ゼミの運営を行うことによるコミュニケーション能力の向上を目指す。様々なスポーツ活動を調べ、学んだ上で、実際にスポーツを体験する。 また、信州の自然を生かしたスポーツ活動を行うため、休業期間を利用し、合宿形式でのゼミを実施する。 ゼミの時間帯にはその活動に必要な知識、技術、ルール・マナーをグループ発表により学習する。 なお、本年度より、体育スポーツの授業の信大マラソンの管理運営にかかわり、スポーツマネジメントの基礎についても学び、実際にマラソンの大会運営に携わる。	
		スポーツ活動論ゼミⅡ	身体の健康を図ることは人生を通しての課題といえる。本ゼミは「人間の身体は素晴らしい」をテーマに運動をとおして人間の生活習慣やスポーツ活動について、学生諸君とともに考えていくことをねらいとしている。またゼミではスポーツの理論と実践を重視するため、問題発見、問題解決能力が身に付く。また、学生の自主性により内容を決定するので、ゼミの運営を行うことによるコミュニケーション能力の向上を目指す。さまざまなスポーツ活動を調べ、学んだ上で、実際にスポーツを体験する。 また、信州の自然を生かしたスポーツ活動(スノースポーツなど)を行うため、休業期間を利用し、合宿形式でのゼミを実施する。 ゼミの時間帯にはその活動に必要な知識、技術、ルール・マナーをグループ発表により学習する。	
		ドイツ環境ゼミ	中心になるのは、2～3月に行われる「短期ドイツ研修」である。これは、「語学学校において2週間のドイツ語コースに参加」した後、「1週間程度、環境関連施設等を訪問・視察」するものである。 そのために、11月から2月初旬にかけて、eALPSを併用しつつ、月に1・2回程度の事前学習のための授業を行う。その際に、自分のテーマを決め、理解を深めていく。 また帰国後には、自分のテーマに従って視察内容をまとめ、「公開報告会」を行い、レポートを提出するとともに、「ドイツ語技能検定試験3級」の合格を義務づける。	集中
		社会科学の方法ゼミ	1年次生が高校の社会科(「地理歴史」「公民」あるいは「総合学習」)を学ぶことから社会科学を学ぶことへの円滑な移行を図れるよう、社会学、経済学、経営学、政治学等のさまざまな学問領域の文献を読解することを通じて、広く社会科学の先人たちがどのような方法を用いて社会事象を読み解いてきたのか、を跡づける。	
	環境科学群	環境社会学入門	主な論点として、第一に環境問題の加害・被害構造、制度・組織の特性、第二に環境行動・運動の契機とその結果、集団行動の困難・障害、第三に環境の歴史・価値・思想、生業とのかかわり、などについて、世界中で起こっているさまざまな環境問題を例に考えていく。また、環境社会学は、人間が作り出した環境問題の解決を志向する「行動する社会学」でもある。 受講生には、この講義を通じて、自らの生活実践への示唆についても積極的に学びとってくれることを期待する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 環境科学群	熱帯雨林と社会	熱帯産のさまざまなモノを切り口として、熱帯雨林の自然と人間の暮らしについて理解を深める。主な事例を東マレーシア、サラワク州（ボルネオ島）のパラム河流域からとり上げる。授業計画の前半では、サゴヤシ、陸稲、沈香などの生態資源を例に、熱帯雨林に暮らす狩猟採集民の生活や生業の様式を概観し、彼らの食糧の確保、資源やエネルギーの利用にみられる諸特徴を理解する。後半は、木材、パーム油、バナナ、エビ、コーヒーなどの一次産品を例に、社会経済的なグローバル化をめぐる問題群について考える。 この講義を通じて、東南アジアの熱帯雨林と私たちとの関係や両者が抱える現代的課題を追究しながら、他人や地球をできるだけ傷つけない社会への手がかりや可能性を探っていく。	
	環境～その人文・社会科学的アプローチ	人文・社会科学的な環境マインドを構築するにあたり、スポーツ社会学、環境社会学、文化人類学、ドイツ文学、脳神経科学など、様々なパースペクティブから環境を検討・理解する。 ここで扱う環境は、自然環境のみでなく、人間が人間として活動する生活環境全般が対象となる。 (オムニバス方式／全15回) (57 金澤謙太郎／3回) 環境社会学の視点から (63 分藤大翼／3回) 文化人類学の視点から (50 松岡幸司／3回) ドイツ文学の視点から (64 有路憲一／3回) 生活環境における脳神経科学 (27 橋本純一／3回) スポーツ社会学の視点から	オムニバス方式
	ライフサイクルアセスメント入門	LCAは製品やサービスの資源採取から廃棄に至るまでのライフサイクル(一生涯)における環境負荷量や環境影響量を客観的に、且つ、定量的に評価する手法である。その評価手法を修得するため、生活の身近な製品を例題にしてLCA演習を行う。そして、LCA結果を用いた新たなCO2削減のためのカーボンフットプリント制度やタイプⅢ環境ラベルなどを理解し、さらに、今後のLCA展開および新たな環境指標について講述する。また、信州大学の全てのキャンパス・学部・学科で取り組んでいる環境マネジメントシステム(EMS: Environmental Management System)について解説し、LCAとEMSを両立させた新たな環境保全活動について考える。	
	環境と生活とのかかわり	環境調和型社会の形成は、製品やサービスの提供側と消費者の協同で行われなければならない。そのため地球環境問題の取り組みを概観しながら、生活に身近な環境法規、製品やサービスの環境影響評価手法、組織と利害関係者のインターフェースになる環境報告書・環境ラベルなど環境情報の見方、身近な製品やサービスにおける環境への取り組み事例、カーボンオフセットなどを中心に講述し、環境と日常生活とのかかわりについて考える。また、信州大学の全てのキャンパス・学部・学科で取り組んでいる環境マネジメントシステムと環境保全活動について解説する。	
	地球環境の歴史	環境マインドを備えた人材を育成するための教養科目である。同時に、グループ学習を通して、コミュニケーション力やチームワーク力を養う。 地球の過去の調べ方、年代測定法、地球の誕生、大気組成の変遷、生命の誕生と進化、大陸移動とプレートテクトニクス、気候変動といったテーマを、地球の歴史に沿って、トピックを取り上げながら授業を展開する。授業では、必要に応じてビデオ教材を用いる。 授業では、地球環境に関するテーマについて各学生が書物によって学習した結果に基づいてグループ間で意見を交換し、最終的にどのような意見をもつに至ったかを発表する。	
	ネイチャーライティングのすすめ(環境文学Ⅰ)	自然や環境について語る際、「こころの問題」として、つまり自分との関係で語ることはあまり多くない。本講義ではこの観点から自然や環境にアプローチしていく。 最初の3回で自然・環境・人間の関係について概観した後、個々の文学作品、特にネイチャーライティング作品を通して、上記三者の関係について考えていく。扱う作品は、H.D. ソロー、レイチェル・カーソン、シュティフター、サン＝テグジュペリ、ギッシン、ヘルマン・ヘッセなどの作品を予定しており、少なくとも該当部分に関して授業前に読んでおく必要がある。講義では、毎回「授業内容確認課題」を書くことにより簡単なまとめを行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	環境科学群	環境文学のすすめ（環境文学Ⅱ）	自然や環境について語る際、「このころの問題」として、つまり自分との関係で語ることはあまり多くない。本講義ではこの観点から自然や環境にアプローチしていく。 最初の3回で自然・環境・人間の関係について概観した後、個々の文学作品、特に環境文学作品を通して、上記三者の関係について考えていく。扱う作品は、宮沢賢治『注文の多い料理店』彭見明『山の郵便配達』をはじめ様々な作品を予定しており、少なくとも該当部分に関して授業前に読んでおく必要がある。講義では、毎回「授業内容確認課題」を書くことにより簡単なまとめを行う。
		自然環境と文化	はじめに人類学とは何かということ概説する。その上で、人類学的な知見にもとづいて、食文化、健康と病、病と癒し、死と儀礼、音楽・舞踊、装いとといった項目について自然環境と密接に関わりながら生きている人々の文化を紹介する。また同じ項目について、私たちの文化のありようについても紹介し、今後の私たちの生き方、自然環境との望ましい関わり方について考える。
		生物と環境	私たち人類も含めてすべての生物は地球上の環境から影響を受け、また環境に対して影響を及ぼしながら生活している。そうしたさまざまな環境における生物個体群の分布や生活様式、生物群集における個体群間の相互作用、生物群集とそれを取り巻く環境から構成される生態系の構造と機能について基礎知識や基本概念を解説する。さらに私たちの身の回りから地球規模に至るまでの生物と環境にかかわる問題について、具体的な事例を取り上げてパワーポイントやビデオ教材を用いて講義を行う。
		自然災害と環境	信州は火山が集中している地域でもある。火山活動が起きる場所にはある法則性がある。そのことをまず理解した上で、火山活動の起こる仕組み、火山活動の種類、火山活動への対処方法などを事例に即して講述する。 また、人間の生活の場となっている平地は河川や海洋によって直接的な影響を受ける場所である。地球が温暖化する中で、川や海で起こる現象やしみをよく理解し、将来予測や対策に役立てる必要がある。 松本は大地震発生の確率がとくに高いとされている。信州では、最近、多くの活断層が身近に存在していることが明らかになってきている。地震はこれらの活断層の運動の結果生じるものである。信州の特殊な地質条件と予想される災害との関係を知ってほしい。 さらに、このような環境の中で、人間は自然を利用して社会や文化を維持している。自然利用の方法やその失敗の事例を学ぶ。
		生活の中の科学	高校までに習っていた化学などの自然科学は理系の研究を行う上で必要不可欠な知識という点において極めて重要である。しかし日常生活を続けていく上で、あまりその科学的知識との関連について詳しく教えられてこなかった事が多いのが現実である。本授業では科学をより身近なものとして実感し、各自の今後の人生に活かせるよう、日常生活で利用、体験している事柄で科学と深く関連している事柄をピックアップしてそれを解説する。 さらに地球温暖化などの社会問題にも言及するので、信大の環境マインドを理解した社会人として考え、行動するステップとしてほしい。
		環境法入門	環境問題へのアプローチの方法は数多くあるが、問題を実際に発見し、解決していくためには法律学の知見が不可欠である。この講義では、①環境問題を法的に考える際に不可欠な必要最小限度の法律学の知識を学んだ上で、②環境問題に法的にアプローチする場合の基本的な考え方、手法、組織、紛争解決手法を概観し、③自然保護、廃棄物・リサイクル、大気汚染・温暖化といった個別のトピックスについて、法的にいかなる点が問題となり、どのような法的手法が用意されているのか考えていく。
	人文科学群	日本学入門	ヨーロッパと日本の出会いは、マルコ・ポーロによるジバングの紹介に始まり、宣教師の渡来によって前進した。しかし、本格的には19世紀以降、日本の開国で交流が加速する。なかでも芸術の中心地フランスには日本の物や人が集まり、日本文化の流行が起こった。その歴史を学び、ヨーロッパで受け入れられた日本の価値観や美意識とはいかなるものだったのか、美術・文学・音楽等の事例をたどりながら考察する。

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 人文科学群	日本近代文学入門	日本の近代作家にとって外国経験(留学・遊学・旅行等)は大きな問題の一つで、それを綴った作品も数多く存在する。そのなかから代表的な例を取り上げ、作家たちが外国に行くまでの経緯や時代背景、文化交流、旅の様子を知ると共に、どのような問題にぶつかり、悩み、それをいかに解決したり克服したりしたのかを、作品(小説、エッセイ、短歌等)を通して学んでいく。	
	映像・人類学	人類学は異文化との出会いから始まる。言い換えると、人類学者は異文化に生きる人々との出会いから、その学問的な営みを始める。本授業では、異文化に生きる人々との出会いを表現するために、主にドキュメンタリー映画を視聴する。スクリーンを介して様々な人々と遭遇することを通じて、人の生き方や考え方について学ぶ。	
	Top Level English (トップレベルイングリッシュ)	(英文) The content of the class will be decided according to the needs of the students enrolled. Possible activities include the following: presentations; structured discussions and debates; and practice for the interview in international tests of English such as IELTS or Cambridge ESOL. (和訳) 授業内容については、受講生の要望に応じて柔軟に対応する。プレゼンテーション、ディスカッションやディベート、IELTSやケンブリッジ英語検定などの面接試験に向けた練習を行う予定である。	
	「田園環境健康都市須坂」を「共創」(須坂市寄附講義)	全国的に、人口減少、超少子高齢化、厳しい経済状況、雇用状況など課題が山積しており、課題解決に対する基礎自治体である市町村と住民の役割は増大している。 本講義では、課題解決のために、市民と行政が第五次須坂市総合計画(平成23年4月策定)に沿ったまちづくりを「共創(同じ目的に向かって、確かな信頼関係の上で、分野の異なる人々が、お互いの特性をいかし、連携し、創造していくこと)」により行っている須坂市の事例を、携わっている本人自身が説明することによって、地域づくりの現状を理解し、広く参考にしていく。	
	韓国の文化(食文化)	韓国食文化に関するビデオ教材を用いて、様々な韓国の食文化とその背景や街の様子を紹介していく。合わせて日本の食文化も一緒に考えてみる。毎回の授業の流れは次の通りである。①前回の授業内容に対する学生の感想や意見を紹介した後、質問に答える ②その日に取り上げる食文化を理解する ③感想や意見、質問を出席シートに書く。	
	韓国の文化(映画で学ぶ)	映画の背景にある韓国の文化、歴史、習慣を説明した後、映画を観る。映画を観た後、意見交換をする。映画は一回の授業では最後まで観られないので一本の映画を授業二回にわたって鑑賞する。授業の流れは次の通りである。①前回の授業内容に対する学生の感想や意見を紹介した後、質問に答える ②その日に取り上げる韓国文化を理解する ③感想や意見、質問を出席シートに書く。	
	韓国の文化(若者の世界)	韓国の若者の文化(音楽・映画・恋愛事情など)を、ビデオ教材や資料を用いて紹介していく。韓国の若者の話も聞く。毎回の授業の流れは次の通りである。①前回の授業内容に対する学生の感想や意見を紹介した後、質問に答える ②その日に取り上げる若者文化を理解する ③感想や意見、質問を出席シートに書く。	
	韓国の文化(メディア)	韓国の様々なメディアを用いて韓国文化や現在の社会の様子を紹介し、それについての意見を交換する。次の授業に備えて事前に予習が必要な事項に関しては、eALPSにアップするので、常に確認が必要である。毎回の授業の流れは次の通りである。①前回の授業内容に対する学生の感想や意見を紹介した後、質問に答える ②その日に取り上げる韓国文化を理解する ③感想や意見、質問を出席シートに書く。	
フランスの文化I	この講義では、ヨーロッパの文化を率いてきた国のひとつであるフランスについて様々な角度から学んでいく。 具体的にはテキストに沿って、視聴覚資料もまじえながら、フランスの言語、風土、歳時記、歴史、文化などに関する理解を深める。また、関連する芸術作品(美術、音楽、舞踊など)や文学作品の紹介も行う。こうした知識を踏まえて、各自関心のある分野を調査し、レポートにまとめる。		

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	教養科目 人文科学群	フランスの文化Ⅱ	この講義では、ヨーロッパの文化を率いてきた国のひとつであるフランスについて様々な角度から学んでいく。 具体的には、フランスの食文化、カフェと公園、マルシェ（市場）、ファッション、教育制度、家族事情、宗教事情などの文化、社会に関する理解を深めるとともに、政治や産業技術についてもとりあげる。こうした知識を踏まえて、各自関心のある分野を調査し、レポートにまとめる。	
		ドイツ語圏の文化Ⅰ	本講義では、ドイツ語圏文化を通して、国際理解・異文化理解の促進を目標とし、言語と文化の関連を常に意識しつつ、単なる情報ではない、息づくドイツの文化を学んでいく。 具体的には、ドイツ概観、ドイツ人と森、オーストリア、ドイツの環境についてとりあげる。教員からの情報提供の他にグループワークやプレゼンテーションなども取り入れる。	
		ドイツ語圏の文化Ⅱ	本講義では、ドイツ語圏文化を通して、国際理解・異文化理解の促進を目標とし、言語と文化の関連を常に意識しつつ、単なる情報ではない、息づくドイツの文化を学んでいく。 具体的には、ドイツ語圏の歴史、ドイツ語圏の文学、ドイツの音楽（グレゴリオ聖歌から交響曲まで）、ドイツの教育、シュタイナー教育についてとりあげる。教員からの情報提供の他にグループワークやプレゼンテーションなども取り入れる。	
		アフリカ文化論	アフリカは、約3030万平方キロメートル（日本の約80倍）の大陸であり、約10億の人々が55の国や地域に暮らしている。本講義では、この広大で豊かな地域の文化的な魅力と現代的な問題を紹介し、アフリカ文化の可能性と課題について考える。また、アフリカの文化を紹介することを通じて、世界の文化的な多様性と、その多様性を失いつつある世界の両方を考察する手がかりを提供する。	
社会科学群	スポーツ考現学	本講では、スポーツにまつわる様々な現象を、特に、観戦学、スペクタクル、権力、ナショナリズム、グローバリズム、メディア、ジェンダー、人種、階級、テクノロジー、コモディティズムといった視点から、写真、ビデオ映像などのヴィジュアル化された資料を適宜混じえて検討・理解する。		
	スポーツ文化を考える	スポーツ文化、身体文化に関してのさまざまな文献を読むことを前提として講義は展開される。国内外のスポーツ文化や身体文化に関する諸事情や考え方をビデオ映像なども混じえて検討する。 オリジナルテキストまたはプリントを用意するので受講生は毎回それを深く、クリティカルに読み込み、読後コメントを提出する。その上で講義や映像により知見を広め、小グループに分かれてテーマに関するディスカッションを行う《グループワーク》。ディスカッションは、毎回コーディネーター、書記、発表（報告）者の役割を決めてから行う。最後に全体討論を行う。		
	新聞と私たちの社会（信濃毎日新聞社寄附講義）	毎回、信濃毎日新聞社の方をゲストスピーカーとして招き、新聞の作られ方や読み方、社会的な役割について講演していただく。また、講演後に質疑応答を行い、受講生に新聞社の方々と直接対話する機会を設ける。さらに感想と質問を書いて提出してもらうことによって対話を深める。 本授業を通じて養う能力を試す上で、「新聞スクラップ」を2回提出してもらう。この課題は、受講生に新聞と用紙を配布し、一つの記事を選んで用紙に貼り付け、選択した理由や感想を書くというものである。また最後には、日本新聞協会の「HAPPY NEWS」に応募してもらう。		
	数を読む技術	情報化社会における数値情報の適切な扱い方はますます必要となっている。この授業では数値情報の利用に関する社会的状況を踏まえて、その適切な扱い方への理解を深めていく。 具体的には、図表資料の解釈、代表値（平均値でなく中央値を使うことの勧め）、散布度（分散、四分位範囲、幹葉図、箱ヒゲ図）、データの図示（ヒストグラム）、データの図示（二次元の分布；散布図）、比率の推定（世論調査など各首長さ）と解釈、行列待ち現象の分析、ランダムな現象とそうでない現象の違い、コンピュータによるデータ処理、その他身近な数値現象にまつわる話題についてとりあげる。		

授 業 科 目 の 概 要					
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
共通教育科目	教養科目	社会科学群	電子出版の現代	紙媒体以外のインターネットやCD-ROMを通じた出版を総じて電子出版と呼ぶ。この授業では電子出版が生まれた社会背景を踏まえううえで現代の状況に対する総合的な理解を深めていく。 具体的には、書くことの歴史と現在、グーテンベルクの印刷革命と現在、インターネット百科事典Wikipediaについて、書物の歴史と現在、インターネットの歴史と現在、読書端末の歴史と現在、知的財産権（主に著作権）と電子書籍、DTPの誕生と現在の電子出版、電子出版で扱う素材（文書、画像など）、文字の歴史と現在（コンピュータ上の扱いを含む）、日本語入力の話、これからの出版とウェブページの編集（とくにEPUB）、その他身近な電子出版にまつわる話題についてとりあげる。	
			世界経済の歩み	この講義では、世界経済の現状を、その歴史的発展を振り返りながら概観する。講義の主要な内容としては、16世紀から19世紀におけるイギリス資本主義の勃興とバックス・ブリタニカの成立、19世紀後半から20世紀初頭にかけてのドイツ等の後発諸国の台頭を見た後、強力な耐久消費財産型重化学工業を有するアメリカを中心とした世界編成・世界システムであるバックス・アメリカナの成立、展開、崩壊という視点より第2次世界大戦後の世界経済の歩みを押さえたうえで、世界経済の現状を論じていく。	
			ミクロ経済学入門	この講義では、消費者、企業などの経済行動を分析対象とするミクロ経済学の基礎知識を身に付け、経済現象を経済理論に基づいて分析する基礎を養うことを目的とする。授業は5人の教員が分担してオムニバス方式で行う。具体的内容は、まず、経済学的な考え方に関する基礎知識として、機会費用や比較優位、トレード・オフなどの概念を解説する。その上で、経済学の考え方の基本である、需要と供給の理論について説明する。これを基に、価格変化や所得変化への消費者の反応など、市場取引の特徴について理解を深める。最後に、需要と供給の理論に基づいて、市場の効率性についての経済学的考え方を解説した上で、参入規制や輸入規制など現実に行われた政府の政策の効果を検討する。 (オムニバス方式/全15回) (35 西村直子/3回) ミクロ経済学の基礎概念として、市場メカニズムを通じた資源配分の問題や、機会費用や比較優位、トレード・オフ、インセンティブといった経済学特有の概念を解説する。 (73 海老名剛/3回) 需要と供給の基礎理論として、需要曲線と供給曲線の基本概念を説明し、価格以外の要因変化が、需要曲線・供給曲線をシフトさせることなどを解説する。 (42 廣瀬純夫/3回) 価格変化や所得変化への消費者の反応を弾力性の概念で整理するなど、市場取引の特徴を解説する。 (69 増原宏明/3回) 消費者余剰と生産余剰の概念を説明し、余剰分析を通じて、市場メカニズムが効率的な資源配分を実現することを解説する。 (71 大野太郎/3回) 余剰分析の手法を応用して、参入規制や輸入規制などの経済政策が、市場の効率性に及ぼす影響について解説する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 社会科学群	マクロ経済学入門	<p>この授業は、マクロ経済学の分野と、この分野に関係が深い経済データの見方に焦点を当てた経済学入門科目である。授業は5人の教員が分担してオムニバス方式で行う。授業の前半は、マクロ経済学の観点から経済現象をみる見方について解説する。授業の後半では、経済データがどのような形で収集・活用されているか、またどのような特徴をもっているかについて解説する。各担当教員の担当内容は次の通りである。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (34 徳井丞次/3回) 景気循環の指標、GDPを通して見えてくる世界、消費関数を巡る論争を取り上げて解説しながら、マクロ経済学の眼鏡を通して社会をみることの面白さを紹介する。</p> <p>(33 山沖義和/3回) 日本の財政制度・税制・国債制度を巡る議論を取り上げて解説しながら、これらの問題がマクロ経済とも密接に関係していることを説明する。</p> <p>(70 青木周平/3回) 近年、「経済成長」や「所得格差」を巡り論争が活発になっている。経済データとマクロ経済学を使ってこれらの論争を整理し、「経済成長」や「所得格差」に関する理解を深める。</p> <p>(37 椎名洋/3回) 統計データは官公庁を中心に様々な種類のもので作成されている。どんな種類の統計データがあるか、どのような方法でそれらが収集されているか、データの処理に関して注意すべき点を学ぶことで、経済学における実証分析のための予備知識を獲得する。</p> <p>(74 加藤恭/3回) 金融・ファイナンスにおけるデータは様々な特徴を持っている。例えば金融機関の損失データはファットテール性を持つ事が知られており、統計的手法の適用の際には注意が必要である。また近年の株式取引等に関する高頻度データの活用の際にも多くの課題が残されている。これらのデータの特徴や利用方法について学ぶ。</p>	オムニバス方式
	大学生が出会う経済・経営問題	<p>大学生が日常生活を営む上で実際に遭遇する幾つかの問題をとりあげ、それを経済学や経営学の視点で見るとどうなるかを、わかりやすく解説する。経済学・経営学がどのような学問であるかを、具体的な問題を通して知ることで、学部の専門的な教育への導入を図る。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (43 井上信宏/3回) 生活を支える制度の話として、社会保障の体系と課題について以下の三点を中心に解説する。①社会保障というしくみが生み出された背景、②社会保険、社会扶助、社会福祉の3つの制度、③「社会保障と税の一体改革」に見られる社会保障の課題。</p> <p>(31 金早雪/3回) 経済発展をとりあげ、先進国と後進国のせめぎあいを、以下の三点を中心に解説する。①経済発展の要因とそこから生まれるひずみや不均衡、②先進国型の産業にキャッチアップするための方策、③世界の貿易構造。</p> <p>(67 武者忠彦/3回) 都市空間の「近代化」と「空洞化」について、以下の三点を中心に解説する。①近代化による都市空間の画一化、②売らない、貸さない、直さないことによる空洞化、③場所についての社会的な記憶の蓄積の欠如。</p> <p>(2 関利恵子/3回) 会社がどんな経営状態にあるかを知るための方法を、以下の三点を中心に解説する。①就職活動で企業の経営状態を調べたいときにどうするか、②企業の経営成績や財政状態はどうすればわかるか、③安全な起業かどうか、儲かっているかどうかをどうやって調べるか。</p> <p>(3 岩田一哲/3回) 人間が働く時にやる気が上がったり下がったりする状況を考えるために、以下の三点を中心に解説する。①人はどのような欲求を持っているのか、②企業は人をどのように管理すべきか、③上司は部下をどのように管理すべきか。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	教養科目 社会科学群	公法入門	この講義では、自律的で責任感のある市民の育成という見地から、主として憲法学の基本的な諸概念を理解すること、また、法的なものの方を見方を学ぶことをねらいとする。このねらいを達成するために、日本国憲法を支えている立憲主義という考え方について、また、基本的人権について説明する。この講義を通じて、日本国憲法に関する基本的な知識を習得すること、法的な思考方法を身につけること、自らの考えを正確に表現する力を養うことを目的とする。	
		法学入門	この講義では、法学の勉強を始めるにあたってまず知っておいた方がよいと思われる事項について学習する。具体的には、法学にはどのような分野があるのか（公法・民事法・刑事法等）、法律とはなにか、法律の役割とはなにか、どうして法律ができるのか、判例とは何かなどについて、解説する。この講義を通じて、法的なものの方や考え方とはなにかを学び、今後、それぞれの法分野に関する科目を学習するための下地を築くことを目的とする。	
		大学生が出会う法律問題	大学生が生活をする上では、交通事故を起こしたり、自転車を盗まれたり、アルバイトで休憩なしに7時間以上働かされる等々、さまざまなトラブルに遭うことがある。これらのトラブルは、すべて法律問題であり、法学の知識を有することによって解決、あるいは防止できるものが多い。そこで、この講義では、それぞれの法分野を専門とする教員がオムニバス方式で、学生生活に関連する法律問題について解説する。学生生活を送る上で必要な法学に関する知識を学び、トラブルに対処する力を身につけることを目的とする。 (オムニバス方式/全15回) (12 丸橋昌太郎/2回) ガイダンス・総括 (10 赤川理/1回) 憲法分野 (13 大江裕幸/2回) 行政法分野 (5 池田秀敏/1回) 民法分野—契約一般、賃貸借、交通事故等 (11 栗田晶/1回) 民法分野—契約一般、賃貸借、交通事故等 (14 山代忠邦/1回) 民法分野—契約一般、賃貸借、交通事故等 (17 寺前慎太郎/2回) 商法分野 (16 濱田新/2回) 刑法分野 (9 小林寛/1回) 環境法分野 (15 島村暁代/2回) 労働法分野、社会保障法分野	オムニバス方式
		現代政治分析	日本の政治課題をどのように解決していくか、現代の政治課題に関する情報を収集分析し理解を深め、解決を考える技法を学ぶ。グローバル化が進展する中で、少子高齢化への対応、地方再生、環境やエネルギー問題、社会福祉や経済改革、外交や安全保障問題など政治課題は多岐にわたる。具体的な政策課題を取り上げ、現実的な課題解決方法を考察していく。毎回、課題を課し、授業の中で議論し理解を深めていく。自ら主体的に学び考え、それを口頭または文章で伝える能力を向上させる。	
自然科学群	数と形	古くから積み上げられてきた人類の英知を学び、また日常生活における数学の応用例を見ることで数学に対する見方が変わり、楽しさを知ることができる。授業名「数と形」のように前半では日常使用している「数」特に整数の性質について学び、その不思議さ深遠さを理解する。後半ではグラフ理論のように数と形の両方の概念をもつ具体的な問題等、いくつかの話題を取り上げて数名でのグループ作業を取り入れながら性質や応用について考える。		
	伝えておきたい数学	数学の基礎科目（微積分学や線形代数）では伝えられないが、教養として是非おさえておきたい数学について、様々な観点から紹介する。数学の身近さ、創造の世界を感じ取ることで、数学の世界への理解を深めることをねらいとする。講義形式、討論形式、発表形式などを取り入れながら行っていく。講義形式では教養としての数学の知識を、討論形式ではグループに分かれて自分の考えを異分野の人にもわかりやすく話す能力を、発表形式ではプレゼンテーション能力を身につけられるようにする。		
	素数の不思議	この講義では素数という根源的な不思議な存在について、図書の識別記号である(JP)ISBN記号、RSA公開鍵暗号を主な題材として、いくつかの話題を提供する。素数はなぜ重要か、科学的な面からも、生活上の面からも考えてみたい。参加型の講義である。実際に手を動かして計算を行い、共に考え、話し合いを行う。講義の途上で2人組を作り、互いに課題（例えば数当てなど）を解決し合う取り組みも行う。これらの活動に積極的に取り組むことによって理解を深め、興味を喚起できる。		

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 自然科学群	教養としての物理学	物理学がどのようなものかを知り、自然を論理的に把握する立場を学ぶ。扱うテーマは、物理学の中の区分けで言うと「力学」「電磁気学」「相対論」である。それぞれにつき取り上げる話題は限られるが、単なる知識の寄せ集めにならないよう、話の流れを大切にしていきたい。物体の運動、電磁気現象、時間と空間、の各テーマについて、それぞれ数回ずつの授業をあてて解説して行く。レポートの作成は、物理学に対して、多面的、重層的な視点をもってもらうことを企図した、この授業の重要な構成要素、活動である。	
	観測天文学入門	最初に天体観測の概要に触れたあと、基本的に講義の大部分は教養としての天文学を学ぶことに割かれる（観測手法が主題ではないので注意して欲しい）。過去数年間に話題になった研究成果のうち、毎回ひとつのトピックを選び、それらがどのような着想および観測事実に基づいたものであるのかについて考えを深める。期間中に興味深い発見があった場合は適宜講義で扱う可能性がある。宇宙に興味のある、あらゆる学生の履修を歓迎する。	
	生活のなかの天文学	宇宙の始まりであるビッグバンから地球上の生命の起源にいたるまで、宇宙の進化の歴史を幅広く学ぶ。その知識をもとに、現代社会の諸問題と天文学のつながりを、毎回テーマを絞って考えを深める。講義では、基礎科学（物理、化学、生物、地学）から、それらと現代社会（社会活動、人間活動）との関係まで幅広く扱う。星々の世界は、さらに身近な存在になりつつある。分野横断研究（学際的研究）に興味を持つ、あらゆる学生の履修を歓迎する。	
	生態学入門	生物は環境からさまざまな影響を受けて生活しているが、生物の構造や機能、さらに生活様式にはその生息環境への適応が広く認められる。そうした生物の生活をその環境との関係で解き明かす科学が生態学である。この講義では生態学の基礎知識や基本概念を学ぶことを目的として、生物の多様性と進化、生物の集団（個体群）の性質、生物群集での個体群間のさまざまな相互関係、生態系の構造と機能について、パワーポイントやプリントなどを用いて講義を行う。	
	地域から学ぶ地球	山岳県である信州は多様な地質現象が観察される場所であり、そこに見られる地質現象を紹介し、それらが地球のどのような動きの結果かたち作られたのか、現場の現象からどのような地球の姿が明らかにされてきたのかについて学ぶ。この授業を通して、自然の見方、地球に関する研究の方法、さらに信州の自然の魅力を知ることができる。地球を調べる方法、日本最古の化石と地層、熱帯・火山島・深海の証拠、プレート運動、フォッサマグナ、火山、活断層と地震、災害などについて、実体験に基づく信州の地質の状況と、野外の現象から地球のどのような構造や動きが読み取れるかを解説する。	
	教養としての物質科学	物質をミクロな立場から考える視点を学び、我々が日常何気なく目にし、利用している物質・材料の背後にある科学、技術の一端を知る。鉄鋼材料や半導体など、我々の文明を支えている様々な物質・材料に焦点をあてる。また、そうした話題を通じて、「結晶学」「金属物理」「熱・統計力学」「量子論」等の学問分野の雰囲気も副次的に伝えたい。物質の構造、状態の変化、電子の振る舞いの各テーマについて、それぞれ数回の授業をあてて解説して行く。	
	ネットワーク社会における情報科学	高度情報化社会、ネットワーク社会と呼ばれる今日、情報処理やコンピュータに関する知識は社会生活を送る上で必要不可欠なものになっている。コンピュータの普及が私たちの生活に何をもたらしたのか、また将来的にはどのようなことが可能になるのだろうか。ここではコンピュータの動作原理を平易に解説する他、コンピュータ・ネットワークの基礎技術、情報社会の現状と問題点について講義する。コンピュータの歴史と進歩、コンピュータの動作原理、情報社会を支える様々な技術的背景、コンピュータネットワークの普及がもたらす意味について理解し、説明することができるようになることを目指す。	
	統計学の基礎	人間の行動を対象とした研究に携わる上で必要になる統計的なデータ解析手法を理解し、効果的な研究計画をたてるための知識を習得する。この授業を受講することで、数値データの整理法、統計学的検定の考え方や活用法などの知識を獲得することができる。各回の授業は、各種統計手法について解説した後、パソコンを用いてデータ解析の実際を学ぶ。データ解析には表計算ソフトを用いるが、基本的な使い方は説明しないので、各自復習しておいて欲しい。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 自然科学群	検索の科学	検索サイトGoogleを実際に多角的に活用した事例の紹介を通じてインターネット上の検索技術の概要を把握する。その後、検索の各技術の背景にある科学的側面の理解を進めていく。単なる検索操作では終わらない、その背後にある統計学や情報科学の学習まで進める。検索技術は現在進行中のものであり、また世の中で常用される技術を対象としていることを踏まえて、環境、教育、地域、ジェンダーの問題など、なるべくタイムリーな話題を扱いながら授業の展開を進める。	
	脳の不思議を探る(認知神経科学入門)	脳の謎を材料とし、自分で考え・探ることで、「考える力」そして「問題を解決する力」を磨き、納得解を得ること、「知識」ではなく「知恵」を獲得することを狙いとする。 「脳」についての基本知識のみは講義しておき、「脳の不思議」にまつわる理・情・欲、軽率な脳、騙される脳その他様々なトピックを基に、各自の独創的で大胆な発想に基づいた積極的な議論を重ねることによって受講者全員で理解を深める「受講者参加型」の形式を取る。受講者は受身ではなく、自ら疑問を持ち主体的に考えることが必要である。	
	脳の不思議をもっと探る(認知神経科学入門)	脳の謎を材料とし、受講者の関心を交えつつ、前期に扱わなかった中からトピックを抽出して進めていく。自分で考え・探ることで、「考える力」そして「問題を解決する力」を磨き、納得解を得ること、「知識」ではなく「知恵」を獲得することを狙いとする。 前期同様、「脳」についての基本知識のみは講義しておき、「脳の不思議」にまつわる理・情・欲、軽率な脳、騙される脳その他様々なトピックを基に、各自の独創的で大胆な発想に基づいた積極的な議論を重ねることによって受講者全員で理解を深める「受講者参加型」の形式を取る。受講者は受身ではなく、自ら疑問を持ち主体的に考えることが必要である。	
	宇宙から原子への旅	私たちを取り巻く世界を大きさに注目して、宇宙から原子にいたる様々な現象を全学教育機構の自然科学系の複数の教員が分担して解き明かす。文系の学生にも配慮した内容である。 (オムニバス方式/全15回) (26 佐々木洋城/3回) 導入 世界のスケール、通信と数学 (66 三澤透/2回) 銀河系と第2の地球探し、天地明察-天文編- (59 片長敦子/1回) 天地明察-和算編- (28 大塚勉/1回) 地球環境の変遷 (30 湯田彰夫/1回) アルゴリズムとヒューリスティックス (39 高野嘉寿彦/1回) 円周率の歴史をみてみよう (32 鈴木治郎/1回) スケールフリーの世界 自己相似の幾何学 (49 今津道夫/1回) 微生物の世界 (52 伊藤靖夫/1回) 身の回りの問いと生命の存在理由 (20 村上好成/1回) 高分子の鎖 (40 勝木明夫/1回) 光の化学、磁気の科学 (56 安達弘通/1回) 原子から宇宙へ	オムニバス方式
体育・スポーツ群	ソフトボール	本実践演習はグループ毎のディスカッションを通して問題や課題を発見し、その解決法を探りながら学習していく。まず2人組でキャッチ・ボールしながら「ウインドミル投法」の体験、4人組での「トスとフリー・バッティング」の技術獲得。更にチーム毎に打撃、守備、走塁等の基本技術を磨き戦術を考え、効果的な運動処方を書き出しながら「ゲーム」を中心とした授業を展開していく。	
	テニス	本実践演習は、技術的に経験知が少ない者でも早い段階からゲーム感覚に親しみ、「硬式テニス」に必要な基本的技術を分解練習しながら学び取っていく。また、リーダー中心に個人の欠点など「課題」を見つけ、仲間と共に協力しながら探求していく。加えて、「ゲームでの戦術」も考え、基礎練習と応用練習とを織り交ぜながら実際場面に対応できる感覚と積極的な行動力を養っていく。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 体育・スポーツ群	アダプテッドスポーツ	この授業は、アダプテッドスポーツの体験を通して、障害のある人との関わり方や、新しいスポーツについて考えていくものである。車いすやアイマスクを使用したの校内移動や、アダプテッドスポーツの体験を通して、スポーツの楽しさの広がりや、特別なニーズのある人との関わり方を学ぶ。さらに、設定に応じたアダプテッドスポーツをグループで考え、発表し共有していく。そのため、毎回体を動かしながら学習していくとともに、誰でも楽しめる新しいスポーツを考える柔軟な思考と積極性を必要とする。	
	弓道	本授業では日本古来の武道として、また現代社会における生涯スポーツとしての弓道の基礎を体験することによって、文化としての弓道および身体と精神の相互作用を学ぶ。全日本弓道連盟制定の射法を基準に、射術及び競技方法やルール、弓具の扱い方を習得する。徐々に的との距離を伸ばしながら練習していき、正しい姿勢や心構え、射術等を習得していく。最後にまとめとして、射会を行い、射会の運営も含めて弓道の楽しさを味わえるようにする。多くの学生にとって初めての競技であるため、技術向上のために授業中の積極的な取り組みと、自主練習を必要とする。	
	コーディネーションエクササイズ	本授業では、四肢の協調や思考と行動の連動に注意を向けた運動ができるようになることを目的として、身体の動かし方に対する「気づき」と総合的な体力向上の獲得を目指す。種々の用具を用い、簡単に実践できるエクササイズから少し専門的なエクササイズを行う。例えば、バランスマットを使用したバランスエクササイズや、ジャンプ系と敏捷系を組み合わせた複合エクササイズを行う。また、子どもの頃から慣れ親しんできた遊びの中からピックアップしたものをアレンジし、授業のねらいを達成するための「オリジナルエクササイズ」を考案する。オリジナルエクササイズの考案と実践はグループ単位で行う。	
	剣道形の世界	本授業では、日本の伝統的運動文化である武道の学習法の一つ、形の実践を行う。形稽古を通して武道の礼法・作法を学ぶ中で、日本の伝統的運動文化の価値について理解を深めることを目的とする。「木刀による剣道基本技稽古法」と「日本剣道形」を習得する。グループで学習を進め、「木刀による剣道基本技稽古法」の成果を演武会で披露し、「日本剣道形」の成果を演武大会でグループ毎に競い合う。日本剣道形は、習熟度に応じて小太刀の形の学習も行う予定である。また、素振りや足さばき等の剣道の基本動作も行い、動きの質の向上を目指す。	
	バドミントン	本授業ではバドミントン競技の特性を理解し、ゲームとグループ活動の実践を通して技能・戦術等の個人的資質やコミュニケーション能力を向上させ、自己実現を図るとともに、生涯スポーツのリーダーとして、具体的実践方法を習得することを目指す。具体的には、バドミントン競技の技能・戦術とその応用力並びにルール・スコアリングについて習得し、グループ毎に練習計画を立案し、チーム力の向上を図る。授業ではグループ学習を多く取り入れ、8人のグループ毎に課題を設定してグループ対抗戦を行う。	
	コンディショニングバレエ	バレエダンサーの均整のとれた身体、美しい姿勢はどのようなトレーニングによりつくられているかを学ぶことにより、自身の身体への認識を高め、日常姿勢の癖を矯正するためのトレーニング方法を見出すことを目的とする。実際に身体を使って表現し踊り、バレエ動作と自己表現のつながりについて（踊ると動くの違い）を学び、ダンサーの動きを体感し、自身の身体との違いを発見する。バレエストレッチ、トレーニングを実践し、自身の身体（筋肉、関節）の左右のバランスを確認し問題を解決するためのトレーニング方法を学ぶ。グループに分かれて各々のトレーニング方法についてディスカッションを行う。最終課題として、グループごとに音楽に合わせた作品を創り（ストレッチ・トレーニング方法やダンス）発表する。	
	サッカー	本講座は、ミニゲームを展開し、サッカーの基本技術や基本戦術の習得に取り組む。基本的には身方や敵の動きに応じて適切な状況判断ができるようにし、周囲とのコミュニケーションを図り、互いに協力してカバーしあい、全員で行うゲームの楽しさを理解することを目指す。グループ毎にミニゲームの問題点を挙げ、その解決方法を考える。チームを作り、ポジションの役割を理解し、学生が主体的にフォーメーションを決めて、11対11のゲームを行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通 教育 科目	教 養 科 目 体 育 ・ ス ポ ー ツ 群	バレーボール	本講座は、バレーボールの基礎技術の習得に簡単に楽しく取り組み、ミニゲームを展開して学生が主体的にゲーム運営にかかわることで、他者とのコミュニケーションを図り、互いがカバーしあうこと、全員で楽しむことができるゲーム環境を作ることを学ぶ。スポーツを楽しむ喜びを感じ、生涯スポーツへの導入を目指す。ボールコントロールからスタートし基礎技術のコツをつかみながら応用技術を加えチームを作り、学生が主体となりコンビネーションやフォーメーションを決める。男子は6人制中心に女子はソフトバレーボールを中心にゲームを楽しむ。	
		トレッキング	本授業では「信州の自然体感」をテーマに、トレッキングを通して自己の身体を再確認し、歩行運動の重要性の認識と生涯学習への導入を図るとともに、信州の自然環境を体感することにより環境問題についての理解を深めることをねらいとする。グループ活動を導入し、コミュニケーション能力の向上も目指す。夏期休暇中に4日間の集中形式で実施する。松本市周辺の自然に恵まれた地域(安曇野、白馬八方尾根、上高地、乗鞍高原)を訪れ、約8kmから15kmのトレッキングを行い、信州の豊かな自然を体感する。幾つかのグループを編成し、歩行のペース、休憩の取り方等について各グループで検討し実践するとともに、環境問題についても考える。また、宿泊を伴うので生活マナーについても学習する。	集中
		ゴルフ	ゴルフのスイング、道具の選び方を学ぶ。またコースに出ることによって、実際のプレーを体験し、将来社会人の持つべき教養の一つとしてのゴルフを身につける。また、グループでゴルフの練習方法などのディスカッションを通して深くゴルフを理解するとともに、ゴルフ場でのマナーを学び、生涯にわたってゴルフを楽しむ素養を養う。大学でスイングの基礎を習得した後、ゴルフ練習場(松本中央ゴルフ場)で、練習を行い、その後、松本カントリークラブで、ハーフラウンドと1ラウンドの実習を行う。	集中
		スポーツフィッシング	本授業は、信州の自然を生かした溪流釣り(えさ釣り、フライフィッシング)を体験し、自然との関わりの中でどのように自己をコントロールするか学ぶとともに、生涯にわたってレジャー活動を楽しむための導入を図る。また、併せて、信州の自然に接することによって環境に対する意識を高めることも目的とする。3泊4日の集中授業で行い、溪流つりの実践方法を学ぶとともに、グループごとに自然との協調性をどのようにしたら育むことができるかについてディスカッションと発表を行い、環境への意識を高める。(場所:伊那市周辺の河川)	集中
		マリンスポーツ	本授業は、信州の自然を生かしたマリンスポーツのうち、ヨット、カヌー、ボードセーリングといった種目を体験し、それぞれの種目の特性やルール、マナーおよびその考え方について学び、生涯スポーツへの導入を図ることを目的とする。8月に3泊4日の集中授業で、ヨット、カヌー、ボードセーリングの基礎を学び、協力してマリンスポーツを行うにはどうすれば良いか、グループワークによるディスカッションを行う。また、役割分担によって各グループでの自己の責務を自覚させ、積極的に実習に取り組むよう仕向ける。(場所:高遠湖)	集中
		信大マラソン	生涯スポーツとして人気のある「マラソン」について、心身への負荷、トレーニング法などについて栄養学、生理学、トレーニング科学などの面から学習し、その実践としてスカイパークでのマラソン完走を目標にする。講義と実践を通し、生涯スポーツとしてのマラソンの価値と可能性について考察する。授業は1ヶ月に一日ごと4日間の集中授業として行う。当然、授業時間だけでは完走できる体力はつかないため、授業時間以外の自主トレーニングが前提となる。また、走力に応じてグループ分けを行うので、自分のできる範囲での完走を目指す。	集中
		アウトドアの達人	本授業は、信州の自然(特に乗鞍高原)における野外活動の体験をとおして「アウトドアの達人」になるために必要な野外活動の基礎的知識、技術、ルール・マナーとその考え方について学び、生涯スポーツへの導入を図ることをねらいとする。全てのプログラムはグループワークをとおして行うため、コミュニケーション能力・チームワーク力・リーダーシップ力・フォロアシップ力を養うことができる。2泊3日の集中形式で2回実施し、夏期には説図、コンパスワーク、溪流釣り、ロープワーク、夏のソロ活動の知識と技術の習得を図る活動を行い、冬期にはクロスカントリースキーツアー体験、アニマルトラッキング、氷瀑観察、灯籠作りの知識と技術の習得を図る活動を行う。	集中

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目 教養科目 体育・スポーツ群	サバイバル活動	本授業は、海浜での主に『食』に関するサバイバル活動をとおして野外活動に必要な知識、技術とその考え方を実践的に学び、生涯スポーツへの導入を図ることをねらいとする。活動の計画立案・実施に至るまでグループワークをとおして行うため、コミュニケーション能力・チームワーク力・リーダーシップ力・フォロアーシップ力を養うことができる。夏季休業期間中に4泊5日の集中形式で実施し、食（特にタンパク質）のサバイバルをとおして生きる力を養う。到達目標の概要は、スキンドайビングの知識と技術の習得、狩猟活動の知識と技術の習得、野外料理の知識と技術の習得、野外活動に必要な知識と技術の習得、グループワーク力の習得である。	集中	
	スクーバダイビング	本授業は、海洋スポーツの一つであるスクーバダイビングに必要な基礎的知識、技術、ルール・マナーとその考え方について学び、生涯スポーツへの導入を図ることをねらいとする。全てのプログラムはグループワークをとおして行うため、コミュニケーション能力・チームワーク力・リーダーシップ力・フォロアーシップ力を養うことができる。3泊4日の集中形式で実施し、主にスクーバダイビングのCカード取得のための理論講習と実技講習を行う。到達目標は、スキンドайビングの知識と技術の習得、スクーバダイビングの知識と技術の習得、海洋生物の知識の習得、海洋環境の知識の習得、グループワーク力の習得である。	集中	
	レジャースポーツ	本授業は、『水・空・雪』をテーマに、信州の自然を活かした様々なレジャースポーツを体験する。それらの体験をとおして、それぞれの種目に必要な基礎的知識、技術、ルール・マナーとその考え方について学び、生涯スポーツへの導入を図ることをねらいとする。全てのプログラムはグループワークをとおして行うため、コミュニケーション能力・チームワーク力・リーダーシップ力・フォロアーシップ力を養うことができる。『水・空・雪』をテーマに、1泊2日の集中形式で3回実施する。到達目標は、それぞれテーマ別に、『水』：カヌー、ヨット、ボードセイリングの基礎理論と技術の習得、『空』：パラグライダーの基礎理論と技術の習得、『雪』：クロスカントリースキーの基礎知識と技術の習得である。	集中	
	スポーツボウリング	本授業は、ボウリングのルール、マナーおよびその技術について学び、生涯スポーツへの導入を図ることを目的とする。ゲームを通して、学生のコミュニケーション能力の向上を図り、ボウリングを通して、身体を用いた自己表現、自己実現や問題解決の方法を学ぶことを目的とする。ゲームの運営を分担して行い、リーダーシップ力を養うとともに、グループでのディスカッションを通して、身体感覚と実際の運動結果との相違について理解を深め、運動学習の方法の理解を高める。		
	ニュースポーツ	ニュースポーツは、老若男女問わず誰もが楽しめるスポーツであり、数多くの種目が考案され、世界的な広がりとなっている。本授業では、いくつかのニュースポーツを取り上げて実践する。基本ルールを理解し、仲間とコミュニケーションを図りながら取り組み、最終的には生涯スポーツを実践するきっかけとなることを目的とする。はじめにニュースポーツの各種目を紹介する。各種目でルールを理解しながら実践し、さらには技術レベルも向上するように進めていく。ニュースポーツは単純明快なルールであるにも関わらず、その実奥深いものであることを認識させ、実践にあたっては、各種目が考案されてきた歴史的背景についても学ぶ。小テスト1回、小レポート1回を課す。		
	アスレティックトレーニング	スポーツは体力を保持増進し健康な日々を送るのに効果的であるが、それと同時にスポーツを原因とした外傷および障害の発生により、健康を害する要因ともなり得る。本授業では、スポーツ外傷・障害を予防するトレーニングや競技力向上の基礎となるトレーニングを体験し、総合的な体力向上とトレーニングを計画・実施できる力を身に付けることをねらいとする。競技スポーツ現場にて運動能力の向上を目的として行なわれる様々なトレーニングを体験する。また、授業の最初と最後でフィットネスチェックおよびフィールドテストを実施し、自身の能力がどのように変化するかを体験する。グループでコミュニケーションをとりながら授業を進める。		

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	教養科目 体育・スポーツ群	バスケットボール	本授業では、グループに分かれディスカッションを通して問題や課題を発見し、その解決法を探りながら学習していく。バスケットボールのファンダメンタルを習得しながら個人技術を磨き、本場の「スリー・オン・スリー」なども楽しむ。チーム編成の中でリーダーを中心に各個人の役割を考え、効果的な人材を模索する。さらに、チーム力を高めながら「戦術」を考え、駆け引きのある「ゲーム」を楽しむ、運動量の確保と共に経験知の質を一層高めていく。	
		ネイチャースキー	ネイチャースキーとは、整備されていない雪山や森の中を、踵が固定されていないスキー用具を使って移動(歩く・登る・滑る)する活動である。この授業では、信州の冬の間山や森を楽しく安全に移動できるようにすることを目指し、登坂や滑降(テレマーク技術)に必要な技能を学ぶとともに、地図や方位磁石の使い方などを実践的に学ぶ。自然の中での活動を通して、健全な身体的感性を育み、自己の健康観を確立するとともに、人と人とのコミュニケーション能力を育てることを目的とする。スキー場周辺において3泊4日の集中形式で実施する。	集中
		スノー・スポーツ	本授業では、信州の自然に触れ、対話しながら思い通りのシュプールを描き、みずから環境的な心を深め理解できるようになること、スノー・スポーツに関する知識・技術・ルール・マナーを身につけ、生涯にわたる運動習慣の形成を考えられるようになること、グループ・ワークを通してコミュニケーション能力、チームワーク力、リーダーシップを身につけ、本学の学生・卒業生として期待される人間像を表現し、活力ある健全な社会の形成に貢献できるようになることを目指し、総じて「ひとり立ち出来るスキーヤー」となることをねらいとするアルペンスキーのグループ・ワーク授業である。技術レベル毎に分かれてディスカッションを行い、問題や課題を発見し解決法を探りながら学習していく。	集中
		フライングディスク	本授業はフライングディスクを通して、身体を用いた自己表現、自己実現や問題解決の方法を学ぶことを目的とする。生涯スポーツとして最適なフライングディスクの種目の様々な特定を学ぶ。フライングディスクの競技のうちチームスポーツであるアルティメットを通じて、コミュニケーション能力の向上も図る。生涯にわたって実践できる健康づくり・体力作りへの意識作りと方法について学習する。アルティメットのリーグ戦を通してコミュニケーション能力の習得を目指す。	
基礎科目	外国語科目	英語 フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅠ(上級)	文法、コロケーション、語彙や構文に配慮しながら、正しい英文が書けるようになるように演習を行う。リーディングに関しては、文レベルできちんと英文が理解できるようになるように演習を行う。これらの演習は、英語の読解力および作文力のみならず、スピーキング力や英語によるディスカッション力の養成にも資するものである。なお、テキストは上級レベルに対応したものを使用する。	
		フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅠ(中級)	文法、コロケーション、語彙や構文に配慮しながら、正しい英文が書けるようになるように演習を行う。リーディングに関しては、文レベルできちんと英文が理解できるようになるように演習を行う。これらの演習は、英語の読解力および作文力のみならず、スピーキング力や英語によるディスカッション力の養成にも資するものである。なお、テキストは中級レベルに対応したものを使用する。	
		フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅠ(初級)	文法、コロケーション、語彙や構文に配慮しながら、正しい英文が書けるようになるように演習を行う。リーディングに関しては、文レベルできちんと英文が理解できるようになるように演習を行う。これらの演習は、英語の読解力および作文力のみならず、スピーキング力や英語によるディスカッション力の養成にも資するものである。なお、テキストは初級レベルに対応したものを使用する。	
		フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅡ(上級)	パラグラフレベルのライティングに対応したテキストを用い、原因と結果、記述、議論など、様々な種類のパラグラフの構成や、リスティング・クラスタリングなどのアイデア推敲作業を学び、きちんとした英語のパラグラフが書けるように演習を行う。リーディングに関しては、パラグラフレベルできちんと英文が理解できるようになるように演習を行う。これらの演習は、英語の読解力および作文力のみならず、スピーキング力や英語によるディスカッション力の養成にも資するものである。なお、テキストは上級レベルに対応したものを使用する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基礎科目 外国語科目	フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅡ (中級)	パラグラフレベルのライティングに対応したテキストを用い、原因と結果、記述、議論など、様々な種類のパラグラフの構成や、リスニング・クラスタリングなどのアイディア推敲作業を学び、きちんとした英語のパラグラフが書けるように演習を行う。リーディングに関しては、パラグラフレベルできちんと英文が理解できるようになるように演習を行う。これらの演習は、英語の読解力および作文力のみならず、スピーキング力や英語によるディスカッション力の養成にも資するものである。なお、テキストは中級レベルに対応したものを使用する。	
	フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅡ (初級)	パラグラフレベルのライティングに対応したテキストを用い、原因と結果、記述、議論など、様々な種類のパラグラフの構成や、リスニング・クラスタリングなどのアイディア推敲作業を学び、きちんとした英語のパラグラフが書けるように演習を行う。リーディングに関しては、パラグラフレベルできちんと英文が理解できるようになるように演習を行う。これらの演習は、英語の読解力および作文力のみならず、スピーキング力や英語によるディスカッション力の養成にも資するものである。なお、テキストは初級レベルのものを使用する。	
	リスニング&リーディングⅠ (上級)	上級レベルにおいて、バラエティに富んだ題材を扱った英文を用いて、ジャンルに応じた読解法・聴解法を修得する。また、語彙やイディオムなどの確認・整理も行う。 学部や学科によっては、求められるものや興味などが異なる場合があるので、それらにも配慮する。 なお、必要に応じて、専門に関連した教材や資格試験対策教材などの補助教材も適宜使用する場合がある。 初回時にテキストや内容についてガイダンスを行う。	
	リスニング&リーディングⅠ (中級)	中級レベルにおいて、バラエティに富んだ題材を扱った英文を用いて、ジャンルに応じた読解法・聴解法を修得する。また、語彙やイディオムなどの確認・整理も行う。 学部や学科によっては、求められるものや興味などが異なる場合があるので、それらにも配慮する。 なお、必要に応じて、専門に関連した教材や資格試験対策教材などの補助教材も適宜使用する場合がある。 初回時にテキストや内容についてガイダンスを行う。	
	リスニング&リーディングⅠ (初級)	初級レベルにおいて、バラエティに富んだ題材を扱った英文を用いて、ジャンルに応じた読解法・聴解法を修得する。また、語彙やイディオムなどの確認・整理も行う。 学部や学科によっては、求められるものや興味などが異なる場合があるので、それらにも配慮する。 なお、必要に応じて、専門に関連した教材や資格試験対策教材などの補助教材も適宜使用する場合がある。 初回時にテキストや内容についてガイダンスを行う。	
	リスニング&リーディングⅡ (上級)	Iで学んだ内容を踏まえ、上級レベルにおいて、バラエティに富んだ題材を扱った英文を用いて、ジャンルに応じた読解法・聴解法を修得する。また、語彙やイディオムなどの確認・整理も行う。 学部や学科によっては、求められるものや興味などが異なる場合があるので、それらにも配慮する。 なお、必要に応じて、専門に関連した教材や資格試験対策教材などの補助教材も適宜使用する場合がある。 初回時にテキストや内容についてガイダンスを行う。	
	リスニング&リーディングⅡ (中級)	Iで学んだ内容を踏まえ、中級レベルにおいて、バラエティに富んだ題材を扱った英文を用いて、ジャンルに応じた読解法・聴解法を修得する。また、語彙やイディオムなどの確認・整理も行う。 学部や学科によっては、求められるものや興味などが異なる場合があるので、それらにも配慮する。 なお、必要に応じて、専門に関連した教材や資格試験対策教材などの補助教材も適宜使用する場合がある。 初回時にテキストや内容についてガイダンスを行う。	
	リスニング&リーディングⅡ (初級)	Iで学んだ内容を踏まえ、初級レベルにおいて、バラエティに富んだ題材を扱った英文を用いて、ジャンルに応じた読解法・聴解法を修得する。また、語彙やイディオムなどの確認・整理も行う。 学部や学科によっては、求められるものや興味などが異なる場合があるので、それらにも配慮する。 なお、必要に応じて、専門に関連した教材や資格試験対策教材などの補助教材も適宜使用する場合がある。 初回時にテキストや内容についてガイダンスを行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	基礎科目 外国語科目	英語 アカデミック・イングリッシュ I (上級)	上級レベルにおいて、エッセイ・ライティング用のテキストを用いて演習を行うが、1年次に引き続き、パラグラフの構成の学習から始める。リーディングに関しては、パラグラフ単位で意味をつかみ、かつパラグラフ間の整合性に注意を向けつつ、一定の長さの英文を読む練習を行う。	
		アカデミック・イングリッシュ I (中級)	中級レベルにおいて、エッセイ・ライティング用のテキストを用いて演習を行うが、1年次に引き続き、パラグラフの構成の学習から始める。リーディングに関しては、パラグラフ単位で意味をつかみ、かつパラグラフ間の整合性に注意を向けつつ、一定の長さの英文を読む練習を行う。	
		アカデミック・イングリッシュ I (初級)	初級レベルにおいて、エッセイ・ライティング用のテキストを用いて演習を行うが、1年次に引き続き、パラグラフの構成の学習から始める。リーディングに関しては、パラグラフ単位で意味をつかみ、かつパラグラフ間の整合性に注意を向けつつ、一定の長さの英文を読む練習を行う。	
		アカデミック・イングリッシュ II (上級)	上級レベルにおいて、エッセイ・ライティング用のテキストを用いて演習を行うが、前期に引き続き、パラグラフの構成の学習から始める。リーディングに関しては、パラグラフ単位で意味をつかみ、かつパラグラフ間の整合性に注意を向けつつ、一定の長さの英文を読む練習を行う。	
		アカデミック・イングリッシュ II (中級)	中級レベルにおいて、エッセイ・ライティング用のテキストを用いて演習を行うが、前期に引き続き、パラグラフの構成の学習から始める。リーディングに関しては、パラグラフ単位で意味をつかみ、かつパラグラフ間の整合性に注意を向けつつ、一定の長さの英文を読む練習を行う。	
		アカデミック・イングリッシュ II (初級)	初級レベルにおいて、エッセイ・ライティング用のテキストを用いて演習を行うが、前期に引き続き、パラグラフの構成の学習から始める。リーディングに関しては、パラグラフ単位で意味をつかみ、かつパラグラフ間の整合性に注意を向けつつ、一定の長さの英文を読む練習を行う。	
	ドイツ語	ドイツ語初級(総合) I	ドイツ語の構造について：「学習」した個々の項目を自由自在に組み合わせ、読み・書き・話し・聞くことができるようになるのが目標である。そのためには、授業で扱った内容を次の授業までしっかりと復習し、疑問点を明確にし、定着させて進んでいかなければならない。 発音について：ドイツ語の発音の出発点は「ローマ字読み」である。その例外となる発音に着目して習得を目指してほしい。そのためには、目で読むだけでなく、常に音読して、ドイツ語のリズムを共に身につけていく必要がある。 授業の全体像：最初の数回の授業で発音の基礎を学習するが、その後も引き続いてチェックを行う。数詞の暗唱や短い文章の朗読といった口頭テストも行う。 基本的に1課終了ごとに確認テストを行うことで、自己評価(チェック)に役立ててもらおう。その他に、発音チェックの口頭試験、期末試験を行う。	
		ドイツ語初級(総合) II	文法学習について：前期に習得したことを土台として、さらに「学習」した個々の項目を自由自在に組み合わせ、読み・書き・話し・聞くための能力を延ばすことが目標である。そのためには、授業で扱った内容を次の授業までしっかりと復習し、疑問点を明確にし、定着させて進んでいかなければならない。 発音について：前期に引き続き、重点をおく。 授業の全体像：最初の2回の授業で前期の復習を行うが、以後、授業内で既習事項の確認を行う。積極的な自習によって新規学習事項との関連を確認するように。 基本的に1課終了ごとに確認テストを行うことで、自己評価(チェック)に役立ててもらおう。その他に、発音チェックの口頭試験、期末試験を行う。	

授 業 科 目 の 概 要						
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)						
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考		
共通 教育 科目	基礎 科目	外国 語科 目	ドイ ツ語	ドイツ語初級(文法) I	国際化が進む現代社会で生きていくために、多様なものの見かたができるようになることを目指し、英語以外の外国語(この授業ではドイツ語)の基礎を習得する。言語の基本は「音」であるので、発音も重視しつつ、使えるドイツ語の基礎を習得してもらいたい。夏休み中も自主学習を続けることで、独検4級の秋期試験に合格する程度のドイツ語力をつけることも目標の一つである。 学ぶべきこと： 1. ドイツ語の基本的な構造 2. ドイツ語の発音 3. 言語を媒介としたグローバル感覚	
				ドイツ語初級(文法) II	ドイツ語初級(文法) Iに引き続き、国際化が進む現代社会で生きていくために、多様なものの見かたができるようになることを目指し、英語以外の外国語(この授業ではドイツ語)の基礎を習得する。言語の基本は「音」であるので、発音も重視しつつ、使えるドイツ語の基礎を習得してもらいたい。夏休み中も自主学習を続けることで、進級後の独検3級の春季試験に合格する程度のドイツ語力をつけることも目標の一つである。 学ぶべきこと： 1. ドイツ語の基本的な構造 2. ドイツ語の発音 3. 言語を媒介としたグローバル感覚	
				ドイツ語初級(読解・会話) I	この授業では、初級レベルにおいて口頭でドイツ語のセンテンスを作ることに重点を置いて、授業を行う。 授業中、発音練習、グループワーク、インタビュー活動等の口頭でのやりとりに、多くの時間を費やす。しっかりとした基礎的なドイツ語のレベルを目指すため、授業では他の3つの言語能力(聞く、書く、読む)も訓練する。また、文法の要素も重要不可欠である。 受講者には授業への積極的な参加が要求される。また、授業ではほぼ毎回復習小テストを行い、小さな宿題を出す。セメスターの期間中、各課終了後の小テストも行う。各課終了後の小テストや期末試験は、筆記試験と口答試験からなる。	
				ドイツ語初級(読解・会話) II	この授業では、Iで学んだ内容を踏まえ、初級レベルにおいて口頭でドイツ語のセンテンスを作ることに重点を置いて、授業を行う。 授業中、発音練習、グループワーク、インタビュー活動等の口頭でのやりとりに、多くの時間を費やす。しっかりとした基礎的なドイツ語のレベルを目指すため、授業では他の4つの言語能力(聞く、書く、読む)も訓練する。また、文法の要素も重要不可欠である。 受講者には授業への積極的な参加が要求される。また、授業ではほぼ毎回復習小テストを行い、小さな宿題を出す。セメスターの期間中、各課終了後の小テストも行う。各課終了後の小テストや期末試験は、筆記試験と口答試験からなる。	
			ドイツ語中級(読解) I	ドイツ語読解能力について：外国語は、単なる学ぶ対象ではなく、実際に用いてこそ初めて学習する価値が生まれる。そのためにも、既習事項とその習熟度を自ら理解し、統合的に用いる能力を身につけるトレーニングを行う。また、辞書をひく際も、最初の訳語を見て用いるのではなく、納得がいくまでしっかりと調べて、実際に書かれている内容が腑に落ちるまで考える習慣をつけてほしい。 国際理解感覚について：異文化理解は、外国語の文章を読む際にも問題になる。日本語の感覚だけで読もうとしても書き手の論や感覚を受けとめることはできない。自分がすでに持っている情報で処理しようとするのではなく、常に新しいものを求め、わからないことは納得するまで調べ、自分の中の国際感覚の奥行きを広げる意識を身につける。 授業全体について：学期の前半は、1年次の学習事項の復習と補足を行いつつ、読解に慣れていってもらおう。 Lektionが終わるごとに確認の小テストを行い、自己確認・復習に役立ててもらおう。 後半では、「学習のために作られたのではないドイツ語文」を読み、ドイツ語のテキストに慣れていってもらおう。		

授 業 科 目 の 概 要						
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)						
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考		
共通教育科目	基礎科目	外国語科目	ドイツ語	ドイツ語中級（読解）Ⅱ	この授業はドイツ語中級（読解）Ⅰの継続であり、Ⅰで学んだ内容を踏まえ、初級ドイツ語文法の復習と、新たに初中級ドイツ語文法の習得を目指す。さらに、この授業は、和文独訳、聞き取り・書き取り練習、会話表現練習によって、初中級のドイツ語運用能力の獲得と、「外国語を用い、的確に読み、書き、聞き、他者に伝えることができる言語能力」と、「対話を通じて他者と協力し、目標実現のために方向性を示すことができるコミュニケーション能力」を持つ教養人育成を目指す。ドイツ語の日常的言い回しによるテキストを読み、和訳できるようにする。	
			ドイツ語中級（会話）Ⅰ	ドイツ語のセンテンスを中級レベルにおいて口頭と筆記で作ることに重点をおいて授業を行う。授業中、発音練習、グループワーク、インタビュー活動等の口頭でのやりとりに、多くの時間を費やす。しっかりとした基礎的なドイツ語のレベルを目指すため、授業では他の3つの言語能力（聞く、書く、読む）も訓練する。また、文法の要素も重要不可欠である。 受講者には授業への積極的な参加が要求される。また、授業ではほぼ毎回復習小テストを行い、小さな宿題を出します。セメスターの期間中、各課終了後の小テストも行う。各課終了後の小テストや期末試験の内容は筆記試験と口答試験からなる。		
			ドイツ語中級（会話）Ⅱ	ドイツ語のセンテンスをⅠで学んだ内容を踏まえ、中級レベルにおいて口頭と筆記で作ることに重点をおいて授業を行う。授業中、発音練習、グループワーク、インタビュー活動等の口頭でのやりとりに、多くの時間を費やす。しっかりとした基礎的なドイツ語のレベルを目指すため、授業では他の3つの言語能力（聞く、書く、読む）も訓練する。また、文法の要素も重要不可欠である。 受講者には授業への積極的な参加が要求される。また、授業ではほぼ毎回復習小テストを行い、小さな宿題を出します。セメスターの期間中、各課終了後の小テストも行う。各課終了後の小テストや期末試験の内容は筆記試験と口答試験からなる。		
	フランス語			フランス語初級（総合）Ⅰ	フランス語の基礎文法を理解したうえで、日常においてよく使われる会話文の発音・語彙・表現を学ぶ。それらを踏まえて、リスニング力も磨いていく。また、視聴覚資料を取り入れながら、フランスの生活や文化も紹介する。 「フランス語初級（総合）Ⅰ」においては、フランス語のルールを学んだうえで、視聴覚資料等を通じて、生活や文化について解説する。	
				フランス語初級（総合）Ⅱ	フランス語の基礎文法を理解したうえで、日常においてよく使われる会話文の発音・語彙・表現を学ぶ。それらを踏まえて、リスニング力も磨いていく。また、視聴覚資料を取り入れながら、フランスの生活や文化も紹介する。 「フランス語初級（総合）Ⅱ」においては、Ⅰで学んだ内容を踏まえ、日常的な行動の中において正しい発音で基本的なコミュニケーションがとれる運用能力を学ぶ。さらに、国や文化についての知識を得て、国際感覚を養う。	
				フランス語初級（文法）Ⅰ	定評のある教科書を使い、教員による解説、受講生による演習を行うことによってフランス語文法の基礎をしっかりと身につける。文法は外国語学習の根幹である。言葉とは複雑であり、その勉強は楽なものではない。しかし、だからといって特別難しいものでもない。努力に応じて着実に実力はついていくものである。できるだけわかりやすい授業の展開を目指す。	
				フランス語初級（文法）Ⅱ	定評のある教科書を使い、Ⅰで学んだ内容を踏まえ、教員による解説、受講生による演習を行うことによってフランス語文法の基礎をしっかりと身につける。文法は外国語学習の根幹である。言葉とは複雑であり、その勉強は楽なものではない。しかし、だからといって特別難しいものでもない。努力に応じて着実に実力はついていくものである。できるだけわかりやすい授業の展開を目指す。	
				フランス語初級（読解・会話）Ⅰ	日常的なコミュニケーションのなかで出会う様々な読解および会話のパターンを集中的に学ぶ。発音練習、リスニング、ペアもしくはグループによる会話練習にも力を入れていく。また、視聴覚資料を取り入れながら、フランスの生活や文化も紹介していく。 「フランス語初級（読解・会話）Ⅰ」においては、挨拶・自身の紹介・各場面における尋ねる力等を学び、練習を通じて会話パターンが身につくよう進める。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	基礎科目 外国語科目	フランス語初級(読解・会話)Ⅱ	日常的なコミュニケーションのなかで出会う様々な読解および会話のパターンを集中的に学ぶ。発音練習、リスニング、ペアもしくはグループによる会話練習にも力を入れていく。また、視聴覚資料を取り入れながら、フランスの生活や文化も紹介していく。 「フランス語初級(読解・会話)Ⅱ」においては、Ⅰで学んだ内容を踏まえ、自身で発信できる力を身につけるよう目指す。さらに、国や文化についての知識を得て、国際感覚を養う。
		フランス語中級(読解・会話)Ⅰ	授業で得られる要素を達成するために、テキストはフランス庶民社会で起る様々なドラマを扱った短編小説を使用する。本授業は初級から中級への橋渡しの位置づけであるので、単なる訳読にとどまらず、文法の復習も積極的に行う。
		フランス語中級(読解・会話)Ⅱ	授業で得られる要素を達成するために、テキストはフランス庶民社会で起る様々なドラマを扱った短編小説を使用する。本授業は初級から中級への橋渡しの位置づけであるので、Ⅰで学んだ内容を踏まえ、単なる訳読にとどまらず、文法の復習も積極的に行う。
	中国語	中国語初級(総合)Ⅰ	テキスト1課につき2回のペースで、解説に加えて、課題の練習(音読・翻訳)、小テスト(音声・筆記)による復習といった構成で、初歩的な中国語を読み・書き・聞き・話す練習を反復しながら授業を進める。 中国語の発音・聞き取りの練習から始め、基本的な文法、語彙の学習にあわせてやさしいテキストを読み、総合的な力を養う。
		中国語初級(総合)Ⅱ	教科書を中心に行う。前期「中国語初級(総合)Ⅰ」で学んだ内容を踏まえ、引き続き中国語の基本的な文法、語彙を学んでいく。各課終了後に小テストを実施する。また、必要に応じて中国の社会事情や文化なども紹介する。
		中国語初級(文法)Ⅰ	テキストに沿って授業を進める。まず最初の一か月間は「発音編」を学ぶ。ここで発音と発音記号を習得し、中国語学習の土台を築き上げる。「発音編」は一つの大きな山である。これを頑張って乗り越えれば次の「文法編」の理解も容易になる。「文法編」は一時間に一課の進捗で進む。毎回の授業では文法事項の確認をした後、日本語訳、音読、練習問題などに取り組み理解を深めていく。
		中国語初級(文法)Ⅱ	テキストに沿って、一時間に一課、授業を進める。本授業では、前期からの学習に続き第十三課から始まる予定である。毎回の授業では文法事項の確認をした後、日本語訳、音読、練習問題などに取り組み理解を深めていく。まとめでは、中国語で書かれた「桃太郎」を読み、またその音読の発表を一人ずつしてもらい予定である。
		中国語初級(読解・会話)Ⅰ	中国語の背景にある中国の社会、文化を紹介しながら中国語の発音、基本的な構文を学び、練習する。授業中初修者にとって区別しにくい音の把握に重点を置き、解説するだけではなく、十分な練習の時間を設ける。本文は会話形式なので、その役割練習を行うことによって自然に単語の用法と中国語による問いかけと答え方を把握するように授業を進める。中国語検定を参考に、使用頻度の高い語彙の運用能力を身につけるように目指す。中国の歴史、文化に関する参考書についての感想を話し合う時間も設け、中国への関心を高める。
		中国語初級(読解・会話)Ⅱ	「中国語初級(読解・会話)Ⅱ」においては、Ⅰで学んだ内容を復習し、中国語の背景にある中国の社会、文化を紹介しながら中国語の発音、基本的な構文を学び、練習する。授業中初修者にとって区別しにくい音の把握に重点を置き、解説するだけではなく、十分な練習の時間を設ける。本文は会話形式なので、その役割練習を行うことによって自然に単語の用法と中国語による問いかけと答え方を把握するように授業を進める。中国語検定を参考に、使用頻度の高い語彙の運用能力を身につけるように目指す。中国の歴史、文化に関する参考書についての感想を話し合う時間も設け、中国への関心を高める。
		中国語演習Ⅰ	中国語の背景にある中国の社会、文化を紹介し、会話練習のために、まず本文の朗読から始まるが、その後ペアで会話の発表を行う。会話能力の向上とともに読解・作文の能力を培うことを目指す。教科書の短い文章には日本人学生が中国へ留学した場合によく使う語彙が盛り込まれているので、留学時の発信力に自信を持つように授業を進める。中国の歴史、文化に関する参考書についての感想を話し合う時間も設け、中国への関心を高める。

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基礎科目 外国語科目	中国語	中国語演習Ⅱ	「中国語演習Ⅱ」においては、Ⅰで学んだ内容を踏まえ、中国語の背景にある中国の社会、文化を紹介し、会話練習のために、まず本文の朗読から始まるが、その後ペアで会話の発表を行う。会話能力の向上とともに読解・作文の能力を培うことを目指す。教科書の短い文章には日本人学生が中国へ留学した場合によく使う語彙が盛り込まれているので、留学時の発信力に自信を持つように授業を進める。中国の歴史、文化に関する参考書についての感想を話し合う時間も設け、中国への関心を高める。
	ハンゲル	ハンゲル初級（総合）Ⅰ	韓国語の文字、発音、初級文法を説明する。初期段階での韓国語の発音は日本語母語話者にとっては難しいかも知れないが、日本語の発音と関連付けて分かりやすく解説をしながら発音の練習をしていく。文字や発音をマスターした後は基礎文法を勉強する。韓国語の文法は日本語と似ているため理解しやすいが、誤用の危険性もあるので、その点もしっかり説明する。文字と基礎文法をマスターすれば簡単な会話がすぐ出来るようになる。そのような会話力が確実に定着するように、話すことに時間をかけて授業を進める。授業の後半（約15分間）にはビデオ教材を取り入れて、聞き取りの力がつくようにする。
	ハンゲル	ハンゲル初級（総合）Ⅱ	「ハンゲル初級（総合）Ⅰ」の続きとして、韓国語の初級文法を説明し、その文法知識がしっかり身につくように練習問題を解いた後、応用文を作り、それをもとに会話練習をしていく。韓国語コミュニケーション能力をしっかりと身につけるためには、たくさん話すことが何より大事なことで、たくさん話すことに時間をかけて授業を進めていく。またビデオ教材をたくさん利用して聴き取りの力をつけていく。そして、言葉の背景にある韓国文化も紹介する。
	ハンゲル	ハンゲル初級（文法）Ⅰ	韓国語の文字、発音、初級文法を説明する。初期段階での韓国語の発音は、日本語母語話者にとっては難しいかも知れないが、日本語の発音と関連付けて分かりやすく解説をしながら発音の練習をしていく。文字や発音をマスターした後は基礎文法を勉強する。韓国語の文法は日本語と似ているので、日本語と比較しながらわかりやすく説明する。そして毎回授業の後半（約15分間）にビデオ教材を取り入れて、聞き取りの力がつくようにする。また復習がしっかり出来るように復習シートを使って、確実に韓国語文法がマスターできるように進める。そして言葉の背景にある韓国文化も紹介する。
	ハンゲル	ハンゲル初級（文法）Ⅱ	発音の面では、正確な発音が出来るように練習する。文法の面では、初級文法を説明していく。初級文法をマスターし、単語力を増やせば、応用会話が出来るようになる。そのような会話力が確実に定着するように話すことに時間をかけて授業を進めていく。そして、毎回授業の後半（約15分間）にビデオ教材を取り入れて、聞き取りの力をつけていく。復習がしっかり出来るように復習シートを使って、確実に韓国語能力が身につくように進める。そして言葉の背景にある韓国文化も紹介する。
	ハンゲル	ハンゲル初級（読解・会話）Ⅰ	韓国語の文字、発音、基礎文法を説明する。韓国語の読解力と会話力を養うことに重点を置いて授業を進める。初期段階での韓国語の発音は日本語母語話者にとっては、難しいかも知れないが、日本語の発音と関連付けて分かりやすく解説をしながら発音の練習をしていく。毎回残り15分間は、ビデオ教材を取り入れつつ聞き取りの力をつけていく。そして、言葉の背景にある文化も紹介する。
	ハンゲル	ハンゲル初級（読解・会話）Ⅱ	韓国語でコミュニケーションを取る際には、正確な発音で話すことが大事である。前期に続き、正確な発音が出来るように練習する。そしてテキストに沿って会話のペースとなる初級文法を説明する。全体的には韓国語の読解力と会話力を養うことに重点を置いて授業を進める。ビデオ教材もたくさん取り入れつつ聞き取りの力をつけていく。そして、言葉の背景にある文化も紹介する。
	ハンゲル	ハンゲル中級（読解・会話）Ⅰ	1年次に学習した内容を元に、テキストに沿って韓国語の正しい発音、文法、言い回しなどを説明していく。そして、毎回授業の後半（約15分間）にビデオ教材を取り入れて、聞き取りの力をつけていく。復習がしっかり出来るように復習シートを使って、確実に韓国語能力が身につくように進める。そして言葉の背景にある韓国文化も紹介する。

授 業 科 目 の 概 要					
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)					
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	基礎科目	外国語科目	ハングル中級（読解・会話）Ⅱ	正しい発音とより高いレベルの文法、言い回しなどを説明していく。韓国語会話能力をしっかりと定着させるために最も重要なことは、たくさん話すことなので、授業で与えた知識を利用して、十分な会話練習ができるように授業を進めていく。毎回授業の後半（約15分間）にビデオ教材を取り入れて、聞き取りの力もつけていく。そして言葉の背景にある韓国文化も紹介する。	
		健康科学科目	健康科学・理論と実践	◆理論7回、実践8回で構成される。 (オムニバス方式/全15回) 【理論】(7回) 健康は個人、社会、地球環境にまたがる大きな課題である。この科目は心身の健康、キャンパスにおける安全、社会における望ましい人間関係、環境と健康、などについての知識と行動規範の修得を目標とし、以下の7つのカテゴリーから構成されている。 (19 川茂幸/1回) カテゴリー1 イントロダクション、健康なキャンパスライフのために (75 金子稔/1回) カテゴリー2 メンタルヘルス概論 (44 杉本光公/1回) カテゴリー3 ライフスキルアップ (72 速水達也/1回) カテゴリー4 健康を守る（スポーツと健康、AIDS 予防、性感染症予防、地球環境と健康） (19 川茂幸/1回) カテゴリー5 生活習慣病を予防する（肥満、糖尿病、喫煙、アルコール） (77 内田満夫/1回) カテゴリー6 薬物乱用の予防 (19 川茂幸/1回) カテゴリー7 性感染症予防・正しい性の知識 【実践】(8回) (80 加藤彩乃/8回) (79 廣野準一/8回) 半セメスターの期間中に、体力測定及びウォーキング、ジョギング、エクササイズの方法などを実践し、運動習慣獲得のための導入を行う。身体に障害のある学生は別メニューとなるため、ガイダンスの日程等を4月初めに全学教育機構<公用掲示板>で確認すること。	オムニバス方式 講義 14時間 実技 16時間
	新入生ゼミナール科目	新入生ゼミナールⅠ	新入生のために、大学での学習や生活のオリエンテーションとケアを目的として開講する。大学生活における学習に関する諸問題を中心に、学習の基本的な方法の修得、生活習慣、人間関係の構築方法、卒業後の就職に向けて必要な事柄を学ぶ。これらの今後の学生生活に必要な基礎的なスキルを身につけることを授業の目的とする。授業は、1クラス20人程度の少人数に分かれて演習形式で行い、一部の内容については大教室を使って行う。同時開講の各クラスは別々の教員が担当するが、教員間で緊密に打合せを行い授業内容と成績評価の統一化を図る。		
		新入生ゼミナールⅡ	少人数・学生主体型の授業で、文章読解（クリティカルリーディング）、情報収集と分析、プレゼンテーション、グループ討論、レポート作成等を行う。社会科学を学ぶために必要な基礎的なスキルを身につけることを授業の目的とする。少数の学生が集まって、積極的に討議を行う学生参加型の授業により、学生が主体的に学ぶ姿勢を身につけ、コミュニケーション能力を向上させることが期待される。授業は、1クラス20人程度の少人数に分かれて演習形式で行う。同時開講の各クラスは別々の教員が担当するが、教員間で緊密に打合せを行い授業内容と成績評価の統一化を図る。		
日本語・日本事情	日本語・日本事情科目	日本語	読解（日本語）Ⅰ	本講義の目的は、日本語で書かれた様々な資料を読んで理解し、多くの知識が得られるようになることを目指す。読むためのテクニック、戦略（ストラテジー）、知識などを身につける。授業の最初はあまり難しくない文章を読み、その日の読解のポイントを勉強・練習し、最後に少し長い文章を読む。	
		読解（日本語）Ⅱ	学期最初は、読解の基本的な考え方や戦略（ストラテジー）を学ぶ。その後、論文を読んでから、「構造」、「読むための文法」、「言葉の練習」を勉強する。論文は次第に長くなっていく。内容は、いじめ、製品からみる人間工学、ガン告知、雨の中の無機成分の特徴、入社後研修における文化摩擦など広範囲にわたる。		

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	日本語・日本事情科目	作文(日本語)Ⅰ	作文でよく使われる語彙や表現の練習をする。次にそれらを用いて短文作成をする。さらに、自由度が大きくやや長い文章を書く。学期の前半には意見文、アピール文など様々なタイプの文の練習をし、後半にはレポートの書き方を練習する。時々、学習者が書いた課題作文や構成メモを他の学習者たちと一緒に見ながら、どこがいいか、間違っているか考える活動もする。	
		作文(日本語)Ⅱ	論文で使われる語彙および表現をしっかり学習・練習する。その後、論文の構成を要素ごとに学び、深く理解する。最後に自分のテーマと構成メモを作成し、それに基づいて論文を執筆する。時々、学習者が書いた課題作文や構成メモを他の学習者たちと一緒に見ながら、どこがいいか、間違っているか考える活動もする。	
		ビジネス・ジャパニーズⅠ	前半では、敬語の学習を深めつつビジネス会話のパターンを数多く練習する。また、ビジネス文書の書き方も、単純から複雑なものへと練習を重ねる。後半では、ビジネス上の適切な対処と、相手の立場に立って考えつつ会話を組み立てる練習をする。また、文書形式を身につけ、ビジネスメールの基本的な言葉使いを練習する。ディスカッションを行う。	
		ビジネス・ジャパニーズⅡ	前半では、敬語の練習を深めつつ、社内・社外における会話を多く練習する。 ビジネス文書は、さらに言葉づかいに注意を払い、要点を押さえ、よく伝わる書き方を練習する。 後半では、受け答えだけに終わらず能動的に会話を組み立てる練習をする。文書作成は、誤解を生じず心遣いのある文章の読解と練習を多く行う。 また、日本人の働く姿を見るためにDVDを2回程度視聴し、ディスカッションを行う。	
		科学技術日本語Ⅰ	配布資料により、科学技術特有な表現語彙の習得、用例の学習により語彙力を高める。更に、一般紙・専門紙などの科学技術関連記事、科学技術に関する評論・解説文などの題材を通じて読解力を高めてゆく。また、ケースに応じてグループディスカッションによる論理的思考力を鍛える。	
		科学技術日本語Ⅱ	配布資料により、科学技術特有な表現語彙の習得、用例の学習により語彙力を高め、科学技術論文の読解力、レポート・論文作成能力を演習により高めてゆく。また、ケースに応じてグループディスカッションによる論理的思考力を鍛える。	
	日本事情	日本社会と日本人Ⅰ	日本社会の特徴を、家族と福祉、国土と中央・地方、企業と企業モデル、温暖化によるさまざまな環境問題、などの特定の問題設定のもとで理解する。 よく話題に上る現代社会の特徴や社会問題をビデオ教材を通して見、毎回配布する資料を参考にして、ビデオ内容についての課題にこたえる。その課題への答えとしてのレポートを授業毎に提出する。	
		日本社会と日本人Ⅱ	日本の産業構造の特徴を、自動車・電機などの製造業、スーパー・百貨店などの流通・小売り、不動産・金融業などの業種毎にとらえる。 講義とディスカッションにより日本の産業構造を概観し、ビデオ教材、新聞・雑誌記事などにより、日本企業の業務内容、対外戦略、経営方針を具体的にみる。毎回参考資料を配布し、課題を与える。ビデオ教材の内容を理解しているかどうかを課題によって確認する。	
		武道・伝統文化実習Ⅰ	武道の授業では、日本の伝統的運動文化である武道の歴史と現状を紹介し、スポーツとの相違点と共通点を探しながら、日本の伝統的な運動をより深く理解してもらおう。伝統文化の授業では、日本人でもなかなか接する機会が少ない伝統文化を、実習を通じてより深く勉強・体験する。 授業は、ビデオやスライドを使っての武道・伝統文化の説明と、指導教員のもとで実際に体験する実習授業からなる。 (オムニバス方式/全16回) (46 村田明/9回) 日本の伝統文化(茶道、そば打ち、箏)の授業を担当する。 (79 廣野準一/7回) 日本の伝統的な運動(柔道、剣道、空手道、合気道、相撲、剣道)の授業を担当する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	日本語・日本事情	日本語・日本事情科目	日本事情	武道・伝統文化実習Ⅱ
			前期に続き、外国人留学生に武道と日本の伝統文化を教える。武道の授業では、日本の伝統的運動文化である武道の歴史と現状を紹介し、スポーツとの相違点と共通点を探しながら、日本の伝統的運動をより深く理解してもらう。伝統文化の授業では、日本人でもなかなか接する機会の少ない伝統文化を、実習を通じてより深く勉強・体験する。授業は、ビデオやスライドを使つての武道・伝統文化の説明と、指導教員のもとで実際に体験する実習授業からなる。 (オムニバス方式/全16回) (46 村田明/9回) 日本の伝統文化(茶道、華道、書道、日本の建築)の授業を担当する。 (79 廣野準一/7回) 日本の伝統的運動(銃剣道、なぎなた、弓道、少林寺拳法、鍛刀)の授業を担当する。	オムニバス方式
専門科目	法律基礎科目	憲法	日本国憲法の「第三章 国民の権利及び義務」に関する基礎理論を取り扱う。この講義では、各種の基本的人権を保障するために、日本国憲法がどのような構造を有しているのかを体系的に理解させることを目的とする。具体的には、次の二つのことに重点を置く。第一は、基本的人権に関する基本条文、基本概念を正しく理解させることである。第二は、基本的人権を保障するための構造に対する理解を通して、立憲主義という考え方に対する理解を深めさせることである。民法、刑法の基礎知識があることを前提に進める。	
		刑法Ⅰ	刑法学の犯罪論のうち、総論(共犯、刑罰論を除く)および各論(個人の重要法益)を取り扱い、刑法の犯罪論の基礎を身につけることを目的とする。受講生が具体的にイメージしやすいよう、まず犯罪論の基本的な考え方を理解させた上で、刑法各論、刑法総論と講義を進める。授業では、判例や学説の検討を中心に行うが、受講生が講義を聞きながら主体的に考える力を養えるように、講義前には毎回問題を提示することとする。最終的には、判例と同種の事案解決だけでなく、未知の事案をも解決し得る思考力を獲得できるようになることを目標とする。	
		刑法Ⅱ	刑法Ⅰに引き続き、刑法Ⅰで取り扱えなかった共犯論、刑法各論の残りとして刑罰論について取り扱う。刑法Ⅰでは、単独犯を予定した構成要件の理解が中心となるが、刑法Ⅱでは、修正された構成要件である共犯について理解できるようにする。また、社会的法益・国家的法益や、犯罪論のゴールである刑罰論についても取り扱う予定である。刑法Ⅱでは応用力が問われる場面もあるので、必要に応じて刑法Ⅰでの基礎知識を確認しつつ、授業を進めることにしたい。また、刑法Ⅰと同様、授業前に毎回問題を提示し、受講生の知識の定着と、主体的な思考力の獲得を目指す。	
		民法総則	民法第1編(民法総則)について講義する。民法に触れる最初の講義であることから、まず私法の一般法である民法の基本原則や基本的な概念に触れ、そのうえで、民法総則が規定する権利能力、行為能力、意思表示とその取消、代理、時効といった各制度について講義を行う。この講義は、この領域に関する条文・判例に基づく基本的な知識と法律的な考え方を修得することを目的とするものである。また、これらの概念や制度が、民法全体の中でどのような意義をも持ち、民法を扱う他の講義内容とどのように関連しているのかを理解し、民法の全体像を掴むことを目的とする。	
		物権法	民法第2編「物権」のうち、第1章「総則」、第2章「占有権」、第3章「所有権」を中心としたいわゆる「物権総論」の部分(第1編「総則」の「物」「取得時効」などを含む)について、基礎的な構造の理解と、基本的な論点・争点の整理を試みる。とりわけ物権変動論は、民法総則の法律行為論・意思表示論とならんで民法を理解する上でのコアとなる部分であり、時間をかけて考察する。制度趣旨および条文解釈が中心となるが、日本法の解釈論の特質を知るために、必要に応じて比較法についても触れる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	法律 基 礎 科 目	契約法Ⅰ	法律効果の発生(権利変動)原因となる当事者間の合意を契約といい、民法には、13種類の契約類型が規定されている。この講義は、各種契約類型に共通する問題として、契約が拘束力を有するのはなぜか、契約が成立するための事実的条件は何か、債務者が契約上の債務を履行しなかった場合に債権者はいかなる措置をとり得るか等の諸問題について検討する。民法典の体系に則して言えば、この講義で扱う領域は、債権総則の一部(債権の目的、債務不履行に基づく損害賠償)と契約総則に相当する。民法起草過程における議論状況を踏まえつつ、歴史的背景と関連付けながら現在の解釈論を伝える。
	契約法Ⅱ	我々の日常生活と密接に関わる民法の契約法のうち、契約各則の部分に置かれた諸制度を取り上げ、各制度の基礎にある考え方及び具体的な制度内容について解説する。具体的には、典型契約である贈与、売買、交換、消費貸借、使用貸借、賃貸借、請負、委任、寄託、組合及び和解を取り上げ、また、民法典に規定されていない契約も取り上げる。そして、各制度の基礎にある考え方及び基本問題を具体的な場面に関係付けて理解できるようになることを目標とする。	
	契約法Ⅲ	債権者が債務者に対して債権を有していたとしても、債務者がこれを弁済しない又は弁済するだけの財産を有していない場合には、どのようにして債権の回収を図るかが問題となりうる。そこで、民法上の債権回収に関わる諸制度を取り上げ、各制度の基礎にある考え方及び具体的な制度内容について解説する。具体的には、弁済、債権譲渡、債権者代位権、債権者取消権を取り上げ、主要な論点について設例を用いるなどして詳しく解説する。そして、各制度の基礎にある考え方及び基本問題を具体的な場面に関係付けて理解できるようになることを目標とする。	
	不法行為法	民法典第3編(債権)のうち、法定債権と呼ばれる法領域、すなわち第3章(事務管理)・第4章(不当利得)・第5章(不法行為)について講義する。民法体系におけるこの法領域の位置づけや基本概念を理解したうえで、条文・判例に基づく要件及び効果に関する基本的な知識を修得することを目的とする。また、この法領域においては判例が重要であることを踏まえ、とくに主要論点に関する判例については、具体的な事案内容や判例の変遷を把握し、そのうえで判例法理を理解することを目的とする。	
	会社法Ⅰ	本講義は、わが国の会社法のうち、総則、設立、会社の経営機構、計算、組織再編、持分会社に関する法ルールを解説するものであり、会社の経営と法ルールの基本的な関わりを受講生に理解してもらうことを目的とする。 条文や判例の基礎的な内容を中心に説明するが、受講生が具体的なイメージをもって学習できるように、適宜、新聞報道や実際の紛争事例などを説明に組み込むことを予定している。なお、必要に応じて、会社法のみならず、商法(第一編)や金融商品取引法の内容にも言及する。	
	刑事訴訟法	わが国の刑事訴訟法のうち、第一編総則および第二編第一章捜査、第二編ないし第六編(第二編第一章を除く)に関わる基礎理論を取り扱い、刑法を実現していく手続論の基礎を身につけさせることを目的とする。 前半は、主として捜査を取り扱い、後半は、主として公判を取り扱う。捜査では、刑事手続の全体像をイメージさせながら、捜査の基本構造を理解させようとして、任意捜査各論、強制捜査各論を見る。公判では、公判手続、公訴の基本原則、訴因制度、証拠法、上訴、裁判員法を理解させる。その際には、基本条文、基礎概念を理解させることを中心とする。	
	民事訴訟法	本講義では、民事紛争を解決するための最も強力かつ最終的な手段である民事訴訟について、民事訴訟法及び同規則が定める基本的なルールを知り、それらを論理整合的に解釈するための基本理論について正確な理解を獲得することを第一的な目的とし、この作業をとおして、法的思考能力を涵養することを目指す。計15回の講義では、民事裁判権論に始まり、裁判所、当事者(多数当事者訴訟を含む)、審理における原則、証明、判決といった第一審の手続を重点的に説明したうえで、上訴・再審の手続、簡略訴訟の特則を取り上げる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	法律基礎科目	民事執行・保全法	民事訴訟法で修得した権利の観念的形成過程についての基本的理解を前提に、判決等を債務名義としてなされる権利の事実的形成過程について、基本的な知識と理解を獲得することができるよう講義を行う。計15回の講義では、強制執行を中心に、担保権実行、執行の暫定的措置たる保全手続を取り上げ、この全体を通して、民法が規定する権利・義務が、民事訴訟手続を経て、現実にもどのように具体化していくのかを理解し、民事法全体についての体系的な理解と知見の獲得を図る。
		行政法	行政法に属する領域のうち、総論部分と行政組織法の部分を取り扱う。具体的には、標準的な体系に基づいて、行政法の基本原理、行政組織法、行政過程論（行政の行為形式、一般的制度）についての基本的な考え方と行政手続法、国家行政組織法等の通則的な法律についての基本的な条文を理解させようとして、行政組織、行政活動にいかなる法的な規律が及んでおり、いかなる形で行政組織を構築し、行政活動を行うべきかについて具体的場面に即して考えられるようになることを目的とする。
		政治学基礎	多様な価値と利害を調整し、どのように社会の課題を解決していくか。複雑な公共政策の課題を理解するために必要な政治学の基礎的な知識と概念を理解する。社会の一員として、投票行動や様々な社会的な活動に主体的に参加するために必要な政治・政策分析能力、メディア・リテラシーを向上させる。 社会科学とは何か。政治学とはどのような特徴を持っているのか。まず、政治権力、公共性、デモクラシーなど、政治学の基礎的な概念を解説する。次に政治のルール（制度）と政治主体に関する問題を考察する。さらに経済・社会・外交政策など重要な公共政策課題を理解するための基礎知識を整理する。 レスポンスシートを利用し、授業の理解度を確認し、質問を把握する。論述試験を課し、自分の考えを適切に文章にまとめる能力を向上させる。
		自然環境概論	環境保全、持続可能な開発のための地域政策や企業活動に必要な自然環境に関する知識の習得を目指す科目である。主に、気候環境（世界の気候、日本の気候、地球温暖化）に関する領域を扱う。気候の地域差をもたらす要因について基礎的な知識を習得し、気候の特徴をグローバルスケールからより小スケールへと解説し、各スケールにおける地域差、地域差をもたらす要因について理解を深める。日本の気候、長野県の気候の特徴も概観する。地域によって気候は多様であるとともに、共通性もあること、気候は人間生活にどのように影響するのか、逆に、人間活動が環境を改変し、ヒートアイランド現象や地球温暖化をもたらしたことについて考察する。
		知的財産法基礎	知的財産法がなぜ重要なのか、日本経済を取り巻く歴史的な変化を踏まえて解説し、その上で、内外の最近の事象を素材に、知的財産法の基本的な考え方を講義する。法律学の初学者が興味を持って知的財産法に入門できるようにすることが目的である。想定される素材は、アップル対サムスン、途上国における医薬品の普及と特許権、環太平洋経済連携協定（TPP）交渉、職務発明、孤児著作物問題、並行輸入、著名標識の保護、営業秘密などである。
コース専門科目	環境法務科目	環境法Ⅰ	わが国の環境法について総論的事項に関する基礎的理解を得られるようにすることを目的とする。 すなわち、具体的には、環境法の生成・展開の経緯（公害対策、環境行政の停滞、その後の新たな展開）、環境法の特徴・基本理念・原則（持続可能な発展概念、未然防止原則・予防原則、汚染者負担原則等）、環境政策の手法（規制的手法、経済的手法、情報的手法、合意的手法等）、環境基本法（環境基本計画を含む）、環境影響評価法等を取り上げて、環境法Ⅱに進む前に環境法の基本的理解が身につけられるようにする。
		環境法Ⅱ	環境法Ⅰに引き続き、わが国の環境法に関する基礎的理解を深化させるべく、環境法の個別具体的な内容に対する理解を得られるようにすることを目的とする。 すなわち、具体的には、自然保護のための法制度（自然公園法等）、廃棄物の適正処理に関する法制度（廃棄物処理法等）、リサイクルに関連する法制度（容リ法等）、化学物質の管理に関する法制度（PRTTR法等）、環境汚染の防止・対策に関する法制度（大気汚染防止法等）、地球環境問題に関する法制度（地球温暖化対策推進法等）を取り上げ、各事項に関する基礎的理解を得られるようにする。

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目 コ ー ス 専 門 科 目	環境法務科目 水環境法	水循環基本法が制定されるなど水環境への注目が高まっていることを受けて、水環境という切り口から環境法、法政策について学ぶことを目的とする。具体的には、水環境について法的にアプローチするために必要となる公物管理法制の基礎知識、水環境に関する法制度（水循環基本法、流域管理法、地下水法制、沿岸域管理法等）、関連する法制度（森林法、土地利用規制等）、政策法学の基礎と水環境に関する法的課題の解決の方向性などを取り上げ、水環境に関する法的問題の現状と課題を把握した上で法政策として課題解決の方法を提言できるようになることを目的とする。		
	国際環境法	前提知識として、国際法の基本的な考え方と重要な概念についての概説を行った上で、地球環境問題に対応するために条約、国際慣習法を中心に形成されてきた国際環境法の展開と現状について概観し、その国内実施措置を通じて国際環境法が国内法に及ぼす影響を与えているのかについての理解を得ることを目的とする。国内実施措置を通じて国際環境法と国内環境法との関わりについては、地球温暖化問題、生物多様性の保全等の個別的な問題をいくつか取り上げ、現代的な重要性を有する具体的なテーマについての理解が深められるようにする。 国際法の基礎部分（5コマ）について、東京大学法学部教授（㊦ 森肇志）が担当し、環境条約およびその国内実施（10コマ）について神戸大学法学部教授（㊦ 角松生史）が担当する。	集中 オムニバス方式	
	都市環境と行政法	環境法（環境影響評価法、廃棄物処理法、水質汚濁防止法等）、都市法（都市計画法、建築基準法、土地収用法等）の仕組みを概説した上で、これらを素材に、行政法総論、行政救済法で扱う考え方が具体的にはどのような形で登場し、どのような形で問題となるのかについて講義を行う。環境法、都市法という行政法各論に属する領域の理解を得るとともに、総論と各論の関係を理解することを通じて行政法、行政救済法の理解を深めることを目的とする。		
	環境と刑法	本講義では、環境刑法の総論的部分（講義計画の第1回から第7回）を刑法の基本的知識を前提に講義する。環境刑法の概念や知識のみならず歴史的背景にも触れて環境刑法の在り方について検討する。第8回では、環境刑法の国際社会の現状を把握し、わが国の状況と比較しながら考察・検討する。これらを前提に、環境刑法の各論部分（講義計画の第9回から第14回）に於いてわが国の環境法規に於ける環境刑法の機能と役割について具体的に各環境法規を検討する。第15回では、国際社会に於ける環境刑法の新たな動向を踏まえて今後の環境刑法の方向性を検討する。講義は、事前に配付するレジュメの予習を前提に、質疑応答形式でおこなう。講義の進行に応じて随時、小テストを実施し、質疑応答、期末試験と総合的に評価する。		
	環境経済学Ⅰ	本講義では、経済と環境の関係性について、ミクロ経済学的な側面から学ぶ。現在や過去の環境問題が何故引き起こされたか、そしてそれらの問題を我々はどのようにやって解決してきたのか、またどのようにやって解決していこうとしているのか。本講義では、これらの課題について、ミクロ経済学理論を用いた手法によって分析することで、受講者がなぜ環境問題が発生するのかを理解し、その発生原因と政策的解決手段を経済学的見地から論理的に説明できるようになることを目標とする。		
	環境経済学Ⅱ	環境経済学Ⅰでは、環境問題の発生メカニズムと、問題解決のための経済的手法として有効な政策手段について学んだ。環境経済学ⅡではⅠの応用として、現在、環境経済学の研究と中心となっている課題について、単純な事例をもとに最先端の研究に触れる。具体的には、環境被害額と対策費用の割引現在価値、環境影響評価、ライフサイクル評価等を扱うことで、受講者は最先端の研究手法の論理を理解し、卒業研究等での課題を見つけることを目標とする。		
	環境テクノロジー	環境問題に対して、テクノロジーが果たしている役割を理解することを通じて、工学的アプローチを身につけることを目的とする。 全国をみても小水力の潜在的エネルギーが高い長野県において、小水力発電は、エネルギー問題を考える上で、きわめて重要である。小水力発電テクノロジーを工学的に理解するとともに、その普及と設置に関して発生する他の環境問題について、どのような問題が発生し、どのように解決し、どのように実用化してきたかについて学ぶ。		

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 コース専門科目	環境法務科目 環境理学概論	我々の住む環境がどのように成り立っているのかを理学的な観点から理解できるようになり、また、現在、あるいはこれまで人々が直面してきた環境問題にどのような問題、どのような解決法があるのかを知り、それらを生かして新たな問題点に直面した時、それをどのように解決するかを考えることができるようになることを目的とする。地球規模から身近な自然環境までの様々なスケールで、特に生態学の視点から環境を見ていく。環境の評価や保全の問題にも触れる。	
	環境社会学概論	環境社会学の理論的思考や実践的研究方法を学んだ上で、社会学の観点から、環境問題に対する考察や批判ができることを目標とする。主な論点として、第一に環境問題の加害・被害構造、制度・組織の特性、第二に環境行動・運動の契機とその結果、集団行動の困難・障害、第三に環境の歴史・価値・思想、生業とのかかわり、などについて、世界中で起こっているさまざまな環境問題を例に考えていく。	
	環境教育概論	環境教育は、現代社会が直面する環境問題を解決するために大きく期待されている。環境教育のテーマは自然から社会、心理まで幅広く、各教科の中で横断的に学習することになっており、本授業を通して、学校教育の一環としての環境教育や自然教育の基礎とその指導法について基礎的な知識と技法を修得する。環境問題の基礎的な知識から学校や組織での環境管理手法としてのISO14001の運用、学校教育の一環としての環境教育や自然教育の指導法、環境教育の必要性や目的、学校現場での教科や生活上での指導方法などを解説する。	
	環境農学概論	農生産過程における環境負荷(化学肥料、地球温暖化、除草剤、殺虫剤、殺菌剤)を概観した上で、水田、草地、農耕地などにおいて、どのような要因で生物の多様性が維持されているかについて解説する。また微生物の多様性と環境保全、農地の多面的機能と里山の保全などにも触れながら、農業生態系において、農業生産活動を維持する上で、環境保全と有害生物管理の両立を目指すIPMが提唱された背景についても取り上げる。	
	環境と憲法訴訟	日本国憲法において、憲法上の権利を侵害された者は司法裁判所に救済を求めることができる。そのための訴訟を憲法訴訟という。憲法訴訟が成立するためには、憲法上の権利が制約されている必要があり、実体的権利について理解が不可欠である。また、憲法訴訟は、民事訴訟、刑事訴訟、行政訴訟を入り口にして展開されるので、これらの訴訟についての基本的な知識が必要である。本講義では、日本国憲法における憲法訴訟について概説し、その実践例としての環境権訴訟を素材にして、憲法上の権利が裁判で実現されるということの意味を探究する。	
	自然環境フィールドワークの理論と実践	われわれ人間は、いわゆる自然という環境からたくさんの恩恵を受けている。そのことが自然環境にとって、また人間にとってどのような意味をもつのであろうか。この講義では、「自然環境の中での人間のあり方」、「自然環境とは」をテーマに、「自然環境における人間の営み」について考えることをねらいとしている。具体的には、自然環境の中での人間の諸活動が及ぼす影響(環境問題)、また自然環境からの恩恵(レジャー活動や心身の健康づくりへの寄与)について考える。講義は自然環境と人間の関係を実際に体感するために、信州の自然を活動場所として休日を利用したフィールドワークを実施する。フィールドワークにあたっては、その計画立案から実施にいたるまでグループワークにより進め、それに必要な知識・態度・ルール・マナーを学習する。そしてフィールドワークから感じとったことなどをテーマにグループでの研究発表を行い、自然環境と人間の営みについて理解を深める。	
国際政治	国際社会の課題である貧困と開発、環境問題、平和構築などのグローバル・イシューズについての基礎的な知識を身につけ、その歴史の経緯、解決への模索及びその問題点について理解を深めていく。講義を通じて、時事問題への関心を高め、基礎的な学習能力と問題解決のための思考力を養う。全体は、以下の3つに大きく分けられる。まず第I部では、貧困と開発に関する問題について理解を深める。第II部では、紛争と平和に関する課題について考察する。第III部では、グローバル・イシューズに対応するための国際社会のあり方やグローバル・ガバナンスの課題に焦点を当てる。レスポンスシートやグループ・ディスカッション、発表を取り入れ授業への参加を促す。		

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	コ ー ス 専 門 科 目	経済・企業法務科目 労働法	労働法では、急速に変化しているわが国の雇用慣行と法政策について、個別的労働関係法と集団的労働関係法を主たる範囲として講義する（労働市場法や紛争処理法についても必要に応じて言及する）。具体的に個別的労働関係法では、労働基準法と労働契約法の解釈を中心に、基本的な条文や基本的な概念を整理し、理解させる。集団的労働関係法では、労働組合や労働協約などの基本的な概念を押さえた上で、労働組合法の解釈を中心的に扱う。最新の法改正や理論状況、判例法理の動向を見据えて、労働法に関する基礎的な知識や思考方法を体得することを目的とする。	
		企業取引法	本講義は、企業の活動に伴う各種取引に関する法ルールを解説するものであり、このような企業取引と法ルールの基本的な関わりを受講生に理解してもらうことを目的とする。 本講義では、商法第二編で規律されている各種取引に加えて、消費者契約、証券契約、ファイナンス・リース契約、投資契約、M&A契約を取り上げ、それに関連する条文や判例の基礎的な内容について説明する。その際、受講生が具体的なイメージをもって学習できるように、約款や契約のひな形、実際の紛争事例などを説明に組み込むことを予定している。	
		会社法Ⅱ	本講義は、会社法Ⅰに続いて、わが国の会社法のうち、株式、新株予約権、社債に関する法ルールを解説するものであり、株式会社の資金調達と法ルールの基本的な関わりを受講生に理解してもらうことを目的とする。 条文や判例の基礎的な内容を中心に説明するが、受講生が具体的なイメージをもって学習できるように、適宜、新聞報道や実際の紛争事例などを説明に組み込むことを予定している。なお、上場会社の資金調達は、金融商品取引法や取引所の上場規則によっても規律されるため、必要に応じて、これらの内容にも言及する。	
		担保法	一般の債権者は、債務者の資産状況の悪化により、債権を回収できなくなるリスクを負っており、このような債務者無資力のリスクに備える方法を担保という。この講義は、各種担保の成立のための条件、担保権者及び担保設定者間の権利関係、他人のために担保を引受けた者の地位等について検討する。民法典の体系に則して言えば、この講義で扱う領域は、債権総則の一部（連帯債務、保証）と、物権の一部（留置権、先取特権、質権、抵当権）に相当する。民法起草過程における議論状況を踏まえつつ、歴史的背景と関連付けながら現在の解釈を伝える。	
		親族・相続法	民法典のうち、第4編「親族」・第5編「相続」の規律する夫婦、親子、親権・後見、扶養、遺産分割、遺言・遺留分等のいわゆる家族法の部分につき、基礎的な理解と基本的な論点・争点の整理を試みる。制度趣旨および条文解釈が中心となるが、日本法の解釈論的特質を知るために、必要に応じて比較法についても触れる。また、パートナーシップ関係(同性パートナーシップを含む)、生殖補助医療による出生子の親子関係等、親族法分野を中心に、新たな視点からの再検討が求められる問題も多いが、これらについても極力考察する。	
		倒産法	本講義では、清算型倒産処理と再建型倒産処理のそれぞれの一般法である破産法及び民事再生法を中心に、日本の倒産法制についての基礎的な知識及び体系的な理解の習得を図る。さらに、倒産法は平時の民事法秩序の実現が不可能となった非常事態の処理を定めるものであることから、倒産法の学習をとおして、民事法体系全体についての理解の深化・進展が期待される。計15回の講義では、倒産法の基本法である破産法をテーマに9～10回、その応用である民事再生法につき3回、そして残る数回で会社更生法等の特別倒産法を取り上げる。	
		簿記・会計入門	企業規模に関わらず日々の経営活動を記録する技術が簿記であり、企業会計を理解するためには、簿記の知識は不可欠である。 そこで本講義では、簿記の基本的な仕組みの説明からはじめ、各種取引（商品売買、現金預金取引、手形取引、有価証券取引、固定資産取引、その他取引など）、そして決算手続きを経て財務諸表が作成されるまでの内容を講義する。本講義によって、日々の活動の記録から財務諸表作成までの一連の流れを理解し、把握することによって企業会計を理解することが可能になる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 コース専門科目	経済・企業法務科目 管理会計	管理会計は、財務会計と異なり、主に企業内部の経営者や管理者が利用する会計である。具体的には、企業をマネジメントするための会計が管理会計であり、企業経営と管理会計は表裏一体な関係にある。管理会計の主な手法は、業績管理、コスト管理、意思決定である。本講義では、管理会計手法の理論的習得を目指す一方で、実際の企業経営にどのように管理会計が関わっているのかを事例を取り上げながら説明する。	
	経営学	この講義の達成目標は、経営学の基礎的な知識の習得と、習得した経営学の知識をもとに、実際の経営の現場に生かす方法を考えることの2点である。経営学で検討する内容は、企業運営の仕組みや、利益との関係を検討することである。講義の概要は、まず、経営学とは何か、企業とは何かといった、企業経営にまつわる基礎理論を検討した後、経営戦略、経営組織、経営管理、経営課題といった、さらに詳細な内容へと進める。前半は組織レベルの議論、後半は個人レベルの議論であり、組織レベルと個人レベルの両者から経営学の諸問題に接近する。	
	法人税法	わが国の法人税法のうち、課税標準及びその計算（第二編第一章第一節）における基本的事項を扱い、法人所得計算の基礎となる考え方を理解させることを目的とする。 企業会計における利益計算を法人所得概念の基礎としてイメージさせながら、二重課税や課税繰延べ、法人成りなど法人課税に固有な問題の存在を認識させ、実現主義と評価損益、資産概念と取得価額の機能、損金算入制限と課税ベース、損失控除と債務確定要件について、基本的な考え方を理解させる。	
	テクノロジー概論	知的財産の管理を行うにあたっては、知的財産の対象となるテクノロジーの工学的理解が求められる。わが国のテクノロジーについて、広く全体を見渡しながら概括的に理解することを目的とする。 具体的には、機械、電気、化学、土木、建築、環境の工学分野の基礎を概括的に学んだうえで、各分野における具体的発明例について取り扱い、知的財産の工学的理解を身につける。	
	知的財産法Ⅰ	技術的創作に経済的な価値を与える法制度について講義する。その中核をなすのは出願により公開された発明に対して特許権を付与する特許制度であるが、秘匿された技術に対して法的保護を与える営業秘密制度（不正競争防止法）にも説き及ぶ。また、医薬品・バイオ、化学、機械、電気・電子、情報技術といった、技術分野別の特徴にも注意する。知的財産法の国際的側面などにも、必要に応じて触れる。	
	知的財産法Ⅱ	創作的表現について権利を与える著作権制度について講義する。美術や出版などを対象とする古典的な著作権法が、コンピュータ・プログラムを制度の対象として取り込み、さらにインターネットの発達によって大きな変容を遂げつつある様相を解説する。また、営業上の信用に対して法的保護を与える制度（不正競争防止法・商標法など）にも説き及ぶ。	
	経済法	本講義は、経済法の基本法である独占禁止法の理解を通じて、市場における企業等の競争を促進する仕組みについて、理論と実務の両面から理解することを目的とする。本講義では、独占禁止法の規制の柱である不当な取引制限、私的独占、不公正な取引方法、企業結合について、これらの基本的な考え方に加え、公正取引委員会の調査・処分やそれに対する争訟の手続、さらには差止めや損害賠償といった事業者間の民事訴訟まで含めて、実体面と手続面を横断した解説を行う。必要に応じて、下請法や景品表示法にも触れる。	
	危機管理法務	架空循環取引など、企業不祥事は後を絶たない。企業は、不祥事を抑止するために、その業態に応じ、コンプライアンス体制を適切に整備することを求められている。コンプライアンス体制を実質的に機能させるためには、関連法令の知識のみならず、事前・事後対応を含む危機管理のノウハウを身につけた人材が不可欠である。本講義においては、企業等において危機管理を担う人材の育成を目的として、主要な不正類型について、過去の具体的な事例を取り上げて関連法令や当該不正事例の原因・再発防止策等を解説する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 コース専門科目	都市・行政法務科目 統治機構論	日本国憲法の規定する順序に沿って、日本国の統治構造を解説する。憲法の統治機構の条文解釈は、憲法の抛ってたつ原理からその規範内容が導きだされなければならないが、その原理の理解は学説の立場によって異なり、その差異が個々の条文解釈の差異となってあらわれる。重要なのは、統治機構の条文解釈は、解釈者の理解する憲法原理と整合しなければならないということである。受講生が、代表的な憲法学説と判例の立場を十分に理解し、日本国の統治構造を立憲主義の観点から整合的に解釈する能力を身につけることができるように配慮する。	
	行政救済法	行政法に属する領域のうち、行政救済法の部分を取り扱う。具体的には、行政争訟の仕組みについて行政不服審査法、行政事件訴訟法の基本的な考え方と条文を理解させ、さらに国家補償の仕組みについて国家賠償法等の基本的な考え方と条文を理解させることを通じて、国民の立場から違法・不当な行政活動を是正し、行政活動に起因する損害・損失を填補するためにいかなる手法を取るべきか、行政の立場からこれにいかに対応すべきかについて具体的場面に即して考えられるようになることを目的とする。	
	自治体法	行政法に属する領域のうち、地方自治法の部分を取り扱う。具体的には、日本国憲法第8章（92条～95条）と地方自治法を主たる対象として、日本国憲法92条にいう「地方自治の本旨」がどのように具体化されているかについて基本的な考え方と基本的条文を理解させ、地方公共団体の組織と活動の法的側面と地方自治の法的構造についての基礎的な理解を前提に、地方公務員としての立場、住民としての立場からいかなる形で地方自治を担っていくべきかについて具体的場面に即して考えられるようになることを目的とする。	
	都市行政と刑法	都市は、その規模が大きくなるにつれて犯罪発生率も高くなる。都市犯罪の典型的なものとしては、少年犯罪、組織犯罪、薬物犯罪そして経済犯罪がある。多様な犯罪現象は、都市行政に多大なる影響を与え、都市発展に大きな弊害（課題）となる。本講義は、まず、都市行政の弊害となりうる都市独自の犯罪形態にスポットを当て、刑法理論での具体的対応と刑事的対応策を検討する。次に、都市行政の主体である公務員自身が犯す公務員犯罪について、刑法規定（賄賂罪、業務上横領罪など）と対応して理解・検討していく。講義は、刑法の基礎知識をベースに、事前に配付されたレジュメを中心に質疑応答形式でおこなうことから予習は重要である。講義の進行に応じて随時、小テストを実施し、期末試験と総合的に評価する。	
	社会保障法	社会保障法では、わが国の社会保障法をめぐる制度を概観し、各制度における法律問題について学習する。具体的には、健康保険法や医療法等を主たる対象とする医療保障制度や、国民年金法や厚生年金保険法等を対象とする年金制度、労働災害や雇用保険を対象とする労働保険制度や、生活保護法をはじめとする公的扶助制度などを取り扱う。社会保障法に関する制度の全体像を掴むと共に、これら社会に出て働く上で理解しておいた方がいいと思われる制度について、基本的な仕組みと法的紛争についての知識を得ることを目的とする。基本的な概念を押さえることと関連する裁判例をとりあげることを重視する。	
	行政学概論	この講義では、学習する対象をNational Government、そのうち国の行政府の制度と運用を中心にすえている。国の行政府の「制度」については、他の講義（憲法、行政法等）においても学ぶことになる。この講義においても「制度」を理解してもらうためのメニューを用意しているが、学習の重心は「運用」の方においている。 というのは、しばしば「行政とは法の執行である」という説明のされ方がなされるが、そうした定義のしかたは「行政」というものを理解するうえでまったく不十分なのであって、むしろ行政の運営は法令以外のルールー予算、計画、行政規則そして慣行ーに統制されているからである。 講義では明治維新、戦後改革に次ぐ「第三の改革」ともいわれている「中央省庁等改革」をはじめとする近年の行政改革を材料として扱い、省庁制、内閣制、稟議制、行政職員の裁量、行政責任等を検討する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 コース専門科目	都市・行政法務科目 自治行政	<p>地方分権推進一括法の制定にともなって地方制度の大改革が実現した。この分権改革のねらいは、都道府県や市町村の裁量の範囲を拡大することによって、地域の問題はその自治体、住民の力で自ら解決できるようにしくみにしようというものである。</p> <p>この改革によって、自治体がどういう仕事をどういうふうにするかによって、私たちの生活がよくなるか、そうならないかが決まるようになる、といっても必ずしも過言ではない。それだけに、私たちが今後、自治体にどうかかわっていくかということを考えることがより重要になる。</p> <p>講義ではまず、地方自治の基礎知識を身につけてもらう。そのうえで、これまで地方自治のあり方の何が問題とされているのかを明らかにする。また、地方自治に関連する最近の事件をとりあげ、私たちの身の回りに起こっていることが、自治体とどのようにかかわっているかを検討する。</p>	
	都市テクノロジー	<p>土木工学の対象は何か、どのような役割があり、市民生活にどのように関わっているのか、などを理解して、都市行政に必要な都市工学の基礎を身につけることを目的とする。</p> <p>都市機能を維持するために必要となる道路・鉄道・上下水道など（インフラという）と、その都市との関わりといった、都市を取り巻く環境を通じて、都市およびその周辺を土木工学的に説明する。</p>	
	統計学 I	<p>今日の高度情報化社会のなかで、データを統計的に処理し、解析する機会は増加し続けており、日常生活の場においても統計的知識がさまざまな用いられている。この授業では次の二つを学習する。</p> <p>1) 確率的なモデルを前提とせずに、データから有益な情報を抽出するための手法（記述統計）に関する基本的事項を習得する。具体的には、平均値、分散、標準偏差、回帰、相関等について学ぶ。</p> <p>2) 確率的なモデルを前提とした統計手法（推測統計学）の基礎となる確率論のうち、初歩的な概念を習得する。具体的には、順列・組合せ、加法定理、乗法定理等について学ぶ。</p>	
	都市政策論	<p>本講義は、人口減少、脱工業化、環境志向、グローバル化、東京一極集中といった時代の趨勢のなかで生じている現代の都市問題に対して、どのような都市政策が望ましいのか論理的に思考できるようにすることを目的としている。全体は三部構成となっている。第一部では、都市政策がなぜ必要となったのかについて、市場経済の出現と都市問題の拡大を背景として近代都市計画が成立したことを説明し、官僚主義や計画主義によって多様に展開していくことを、海外諸都市などを事例に整理する。第二部では、震災復興を契機とした都市計画によって、先進国の諸都市が近代化していく過程について、主に日本の都市政策を中心に説明する。第三部では、現在の都市政策の趨勢について、コンパクトシティやクリエイティブシティなどの議論をふまえて説明する。</p>	
	ミクロ経済学 I	<p>「ミクロ経済学 I」では、個々の消費者や生産者の意思決定プロセスの分析から出発し、市場での「価格」シグナルがいかに資源配分・所得配分を決定するかを解説する。この講義では、市場機能の有効性と限界を説明し、市場機能はその市場特定の取引ルールに敏感に依存することを解説する。また、ゲーム理論の基礎を概観し、それに基づいてブランド（寡占）市場の分析や、株式市場における入札分析など、初歩的な応用へ導く。ミクロ経済学 II、産業組織・公共経済学等で扱うミクロ経済学の発展的領域をはじめ、マクロ経済学の各分野にも及ぶ近代経済学の土台部分を理解するための最初の一步となる。</p>	
	マクロ経済学 I	<p>マクロ経済学は、一国の経済全体の景気変動や経済成長の要因を分析する学問である。この講義では、短期の景気変動に関する理論を中心にマクロ経済学の入門的内容を講義していく。最初にGDPなどの基本的なマクロ経済指標が、どのような概念であるのかを学習する。次に、現実のマクロ経済に関するものの見方・考え方として、ケインジアンと新古典派という2つの見解があるが、これらがどのようなものかを経済モデルに基づいて理解していく。最初は簡単なモデルを分析することから始めて、徐々に現実経済の様々な要素をモデルに取り入れて拡張していく。この作業を通じて、現実のマクロ経済をより深く理解できるようになることを目指す。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	都市・行政法務科目	計量経済学	<p>経済学にはさまざまな理論が存在するが、それらの理論がどれくらい現実の経済を説明することができるかについては、経済理論から導かれるモデルが経済データにどれくらいあてはまり、説明力を持ったモデルであるかを、データを用いて検証する必要がある。あるいは逆に、データから帰納的に適合する経済モデルを見つけ構築していくことも経済学の発展にとっては不可欠の作業である。このように理論から導かれる数学モデルと経済データからの双方向のやり取りの中で、現実の経済に対して説明力のある経済モデルを構築して、経済の現状を分析することが計量経済学の課題である。</p> <p>この授業では、計量経済学の基礎理論を学び、経済モデルを構築し、データをあてはめ、経済理論を検証し、経済の実証分析を行うために基本となる手法を学ぶ。</p>	
		市民税法	<p>所得税法、消費税法及び国税通則法から、一般的な市民生活の中で生じる租税法律関係に関する部分を取り上げ、基礎となる考え方を理解させることを目的とする。</p> <p>包括的所得概念を基礎概念として視座に据え、事業所得と譲渡所得に対する所得税法の原則的な課税を理解させたいうえで、市民生活に深く関わる給与所得や利子・配当所得に対する源泉徴収課税、寄附金、医療費や社会保険料などの所得控除、事業者と消費税の課税を理解させる。権利救済手続を中心に、租税手続法の全体像についても理解を得させる。</p>	
実務系科目	実務講義科目	行政実務	<p>大学で学ぶ法律科目のさらなる理解に結びつけることを目的として、本学教員がコーディネーターとなり、国・自治体の機関で行政に携わる幹部・中堅職員をゲスト講師として招き、各機関の業務の概要やそれぞれの抱える行政上の課題についての講義を行う。国の機関については財務省、厚生労働省、消費者庁、公正取引委員会等、自治体の機関については長野県庁、松本市役所からゲスト講師を派遣していただく予定である。</p> <p>ゲスト講師のコーディネートと成績評価は学部専任教員(13 大江裕幸)が担当する。</p>	
		現代法務	<p>第一線で活躍する法律実務家の仕事や問題意識を理解することを目的とする。現代社会を支える法制度やその運用について、実際に実務に携わっている複数名の実務家が各法分野ごとに講義をする。身近に生じている問題や現代的な問題に関して、法と実社会がどのように関わっているのか、より具体的・実践的な理解を深める。</p> <p>ゲスト講師として、地域法曹、法務省職員、刑事弁護士、労働関係弁護士、外国人問題弁護士などを招へいする。</p> <p>ゲスト講師のコーディネートと成績評価は学部専任教員(12 丸橋昌太郎)が担当する。</p>	
		租税法実務	<p>この授業は、関東信越税理士会長野県支部連合会との学術協定に基づき、税理士をゲスト講師としてオムニバス方式で講義を行うものである。</p> <p>実務上の具体的な事例に関する租税法の適用関係について講義する。実社会では、一個の経済的取引について、所得税法、法人税法、相続税法が同時に適用され、様々な課税関係を生じさせることが珍しくはない。また、租税法適用の前提として、民商法の適用関係が問題となることも多い。この講義は、実務上の具体的事例においては、このように多面的な法適用の検討が必要であることを理解し、租税法や民商法の知識を統合し、法律問題についての総合的な応用能力、実践的な解決能力を身につけることを目的とする。</p> <p>ゲスト講師のコーディネートと成績評価は学部専任教員(5 池田秀敏、18 橋本彩)が担当する。</p>	共同
		法務実習科目	行政法務実習	<p>行政実務における実際上の課題を理解するとともに、大学での法学の学習と現場の結びつきの理解を深めることを目的とし、2~3名の学生を1グループとし、担当教員と受入先との事前調整の上、①担当教員の指導のもとでの大学での事前学習、②受入先での実習(3日間)、③担当教員の指導のもとでの大学での事後学習、④事後学習の成果についての受入先による講評を実施する。受入先としては長野県庁、松本市役所を予定している。</p> <p>事前・事後学習、実習のコーディネート、成績評価は、学部専任教員(13 大江裕幸)が担当する。</p>

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	実 務 系 科 目	法務実習科目 環境法務実習	環境法ⅠおよびⅡにおける座学中心の授業を前提として、環境法が現場でどのように実践されているかを理解させ、実践力を身につけさせることを目的とする。 具体的には、環境事件に携わった経験を有する法曹関係者に対する聴取調査、一般廃棄物の中間処理施設・最終処分場等といった環境関連施設に赴き職員等に対して聴取調査を行うことによって、環境法が現場でどのように生かされているかを体現し、環境保護の意義について実践的理解を得られるようにすることをねらいとする。 事前・事後学習、実習のコーディネート、成績評価は、学部専任教員(9 小林寛)が担当する。	実習 20時間 演習 20時間
		税務実習	税務署の協力のもと、税務に関する法理論を実践させることを通じて、理論と実務のかかわりについて理解させ、実践力を身につけさせることを目的とする。具体的には、税務署の組織に関する概要を学ぶとともに、模擬事例をもとに実際に確定申告等の資料を作成する等の実習を行う。こうした実習を通じて、税務の現場を実体験し、税務が社会においてどのような役割を果たすのか、また、税務に関連する職種にはどのようなものがあるかを学ぶ。実習地は松本税務署を予定している。 事前・事後学習、成績評価は、学部専任教員(5 池田秀敏)が担当する。また実習のコーディネート、実習補助を学部専任教員(18 橋本彩)が担当する。	共同 実習 20時間 演習 20時間
		労働法務実習	長野労働局と連合長野の協力のもと、労働法に関連する法理論を実践させることを通じて、理論と実務のかかわりについて理解させ、実践力を身につけさせることを目的とする。 まず学生は、労働局の指導のもと、労働行政に関わる法務について、グループワークを交えつつ、実習を行う。次に、連合長野の指導のもと、チームに分かれて、模擬の資料をもとに、労働相談と団体交渉を体験する。実習地は、長野労働局管内の施設と連合長野管内の施設を予定している。 事前・事後学習、実習のコーディネート、成績評価は、学部専任教員(15 島村暁代)が担当する。	実習 20時間 演習 20時間
		契約法務実習	地域の法曹関係者の協力のもと、模擬資料を用いて、履修者に、契約に関する民法理論を実践させることによって、理論と実務の関わりについて理解させ、実践力を身につけさせることを目的とする。実務家の指導のもと、履修者は、まず、課題の契約締結に必要な情報及びその収集方法を考える。そして、履修者は、模擬資料を分析したうえで契約書を作成し、さらに、契約締結に必要な手続きを検討する。その後は、紛争が生じたと仮定して、履修者は、その紛争への対処方法を検討する。実習に際しては、適宜、関係施設の見学を実施する。 事前・事後学習、実習のコーディネート、成績評価は、学部専任教員(14 山代忠邦)が担当する。	実習 20時間 演習 20時間
		知財法務実習	知的財産法に関わる実際の活動を通して、知的財産法がビジネスに関わり社会で生きる実態について、理解を深める。学生数名でチームを編成し、エレクトロニクス、医薬品、化学などの企業や官公庁のほか、著作権管理団体、醸造業、ブランド企業などに取材を行うこととし、準備状況と成果を報告する形式で進める。状況が許せば、国際機関や外国の企業や政府機関への取材を取り込む。 事前・事後学習、実習のコーディネート、成績評価は、兼任の教員として、東京大学教授(86 玉井克哉)が担当する。	実習 20時間 演習 20時間
		裁判法務実習	地域の法曹関係者の協力のもと、模擬裁判資料を用いて、公判に関する刑事訴訟法の理論を実践させることで、理論と実務のかかわりについて理解させて、実践力を身につけさせることを目的とする。 学生は、裁判チーム、検察チーム、弁護チームに分かれて、模擬資料を基に、起訴すべき罪名、立証すべき事実、争点の整理などを行ったうえで、関係資料(起訴状、証拠等関係カード、冒頭陳述書)を作成する。模擬裁判当日は、実務家立会のもと、公判手続を進めて、証拠調べ終了後には、論告、弁論を作成し、結審後は、裁判チーム主体で評議を行い、判決を言い渡すところまで行う。 実習地は、基本的に演習室を法廷に見立てて行い、適宜、裁判傍聴を実施する。 事前・事後学習、実習のコーディネート、成績評価は、学部専任教員(12 丸橋昌太郎)が担当する。	実習 20時間 演習 20時間

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	実務系科目 法務実習科目	捜査法務実習 長野県警察本部と長野地方検察庁の協力のもと、模擬捜査資料を用いて、学生に、捜査に関する刑事訴訟法の理論を実践させることで、理論と実務の関わりについて理解させて、実践力を身につけさせることを目的とする。 まず、学生は、長野県警の指導の下、実況見分の作成、指紋採取を行う。そして、吉開多一国土館大学教授(元検事)の指導の下、勾留状の作成、証拠物の確認、参考人の聴取、被疑者の取調べを行う。長野地方検察庁の施設の見学も併せて行う。 実習地は、演習室を取調室に見立てて行い、実況見分調書の作成は、信州大学構内の施設を対象にして行う。 事前・事後学習、実習のコーディネーター、成績評価は、兼任の教員として、国土館大学教授(88 吉開多一)が担当する。	実習 20時間 演習 20時間
演習系科目	基礎演習 I	憲法分野、民法分野(商法含む)、刑法分野の基礎法律分野について、演習形式で理解を深めつつ、プレゼンテーション能力やディスカッション能力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。学生は、各分野に分かれて、現代社会における基本的な問題、時事的な問題を素材に、法的な観点から分析、検討し、自分の意見を整理した上で、他のゼミ生と議論し、最終的には自分の意見を文章の形でまとめる能力を養う。	
	基礎演習 II	基礎専門演習 I に引き継ぎ、憲法分野、民法分野(商法含む)、刑法分野について、演習形式で理解を深めつつ、プレゼンテーション能力やディスカッション能力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。学生は、各分野に分かれて、現代社会における基本的な問題、時事的な問題を素材に、法的な観点から分析、検討し、自分の意見を整理した上で、他のゼミ生と議論し、最終的には自分の意見を文章の形でまとめる能力を養う。	
発展演習科目	行政法演習	行政法分野について、演習形式で発展的な理解を深めつつ、プレゼンテーション能力やディスカッション能力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。 学生は、行政法分野に関する判例、事例問題を素材に、調査・研究、報告をした上で、議論を行うことを通じて、行政法分野に関する理解を深める。	
	刑事訴訟法演習	刑事訴訟法分野について、演習形式で発展的な理解を深めつつ、プレゼンテーション能力やディスカッション能力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。 学生は、刑事訴訟法分野に関する判例、事例問題を素材に、調査・研究、報告をした上で、議論を行うことを通じて、刑事訴訟法分野に関する理解を深める。	
	民事訴訟法演習	民事訴訟法分野について、演習形式で発展的な理解を深めつつ、プレゼンテーション能力やディスカッション能力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。 学生は、民事訴訟法分野に関する判例、事例問題を素材に、調査・研究、報告をした上で、議論を行うことを通じて、民事訴訟法分野に関する理解を深める。	
	倒産法演習	倒産法分野について、演習形式で発展的な理解を深めつつ、プレゼンテーション能力やディスカッション能力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。 学生は、倒産法分野に関する判例、事例問題を素材に、調査・研究、報告をした上で、議論を行うことを通じて、倒産法分野に関する理解を深める。	
	労働法演習	労働法分野について、演習形式で発展的な理解を深めつつ、プレゼンテーション能力やディスカッション能力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。 学生は、労働法分野に関する判例、事例問題を素材に、調査・研究、報告をした上で、議論を行うことを通じて、労働法分野に関する理解を深める。	
	社会保障法演習	社会保障法分野について、演習形式で発展的な理解を深めつつ、プレゼンテーション能力やディスカッション能力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。 学生は、社会保障法分野に関する判例、事例問題を素材に、調査・研究、報告をした上で、議論を行うことを通じて、社会保障法分野に関する理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 演習系科目 発展演習科目	環境法演習 I	環境法分野について、演習形式で発展的な理解を深めつつ、プレゼンテーション能力やディスカッション能力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。 学生は、環境法分野に関する判例、事例問題を素材に、調査・研究、報告をした上で、議論を行うことを通じて、環境法分野に関する理解を深める。	
	環境法演習 II	環境法演習 I に引き続き、環境法分野について、演習形式で発展的な理解を深めつつ、プレゼンテーション能力やディスカッション能力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。 学生は、環境法分野に関する判例、事例問題を素材に、調査・研究、報告をした上で、議論を行うことを通じて、環境法分野に関する理解を深める。	
	国際政治演習	国際政治経済及び国際開発の分野について、演習形式で発展的な理解を深める。さらにプレゼンテーション能力やディスカッション能力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。学生は、国際社会の課題に関する図書及び雑誌記事・論文などの日本語及び英語文献や報告書を元に、調査・研究、報告をした上で、議論を行うことを通じて、国際政治経済及び国際開発分野に関する理解を深める。外部講師なども依頼し、実務的な能力への理解を深め、インタビュースキルなども身につける。また、英語による学習能力やコミュニケーション能力の向上を目指す。	
	行政学演習	行政学分野について、演習形式で発展的な理解を深めつつ、調査能力、文章作成能力、プレゼンテーション能力やディスカッション能力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。 学生は、行政学分野に関する政策課題を素材に、調査・研究、報告をした上で、議論を行うことを通じて、行政学分野に関する理解を深める。	
	健康・スポーツ・自然演習 I	本演習は、「心身の積極的健康づくり」をテーマに、健康づくりのための運動・スポーツ、また自然環境の中でのレジャー諸活動の理論と実践について演習形式で理解を深めつつ、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力、コミュニケーション能力、そしてコーディネート力を身につけることを目的とする。学生は、健康づくりのための方策を如何にコーディネートすれば人々に実践してもらえるかを調査・研究・報告をし、議論を行うことを通じて、健康・スポーツ・自然に関する理解を深める。	演習 20時間 実習 20時間
	健康・スポーツ・自然演習 II	本演習は、健康・スポーツ・自然演習 I に引き続き、「心身の積極的健康づくり」をテーマに、健康づくりのための運動・スポーツ、また自然環境の中でのレジャー諸活動の理論と実践について演習形式で発展的な理解を深めつつ、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力、コミュニケーション能力、そしてコーディネート力を身につけることを目的とする。学生は、健康づくりのための方策を如何にコーディネートすれば人々に実践してもらえるかを調査・研究・報告をし、議論を行うことを通じて、健康・スポーツ・自然に関する理解を深める。	演習 20時間 実習 20時間
	総合法律学演習 I	本演習では、一つの学問分野に限らず、総合的に解決する力を身につけることを目的とする。 学生は、特定の課題に対して、調査・研究、報告をした上で、議論を行いながら、総合的な解決を目指す。課題は、主として私人間において生じているものを取り上げて、多角的な検討を行う。	
	総合法律学演習 II	本演習では、総合法律学特別演習 I に引き続き、一つの学問分野に限らず、総合的に解決する力を身につけることを目的とする。 学生は、特定の課題に対して、調査・研究、報告をした上で、議論を行いながら、総合的な解決を目指す。課題は、主として都市行政において生じているものを取り上げて、多角的な検討を行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 科目	演習系 科目	論文	卒業論文	学生には大学での勉学の集大成として卒業論文の作成が推奨される。総合法律学科の学生の卒業論文作成の指導は、原則として「基礎演習Ⅱ」または「発展演習科目」の指導教員が務める。4年次に進級した学生で卒業論文の作成を希望するものは、年度の始めに「卒業論文」の履修登録を行い、指導教員と相談して卒業論文作成計画書を作成する。学生は、この計画書のスケジュールに従って卒業論文の進捗状況を定期的に指導教員に報告しながら指導を受け、卒業論文を完成させる。卒業論文の形式要件としては、2万字程度を原則とし、研究領域・内容の性格上字数がこの目安から大きく乖離する場合には、卒業論文作成計画書を作成する段階で事前に指導教員の承諾を得ておく必要がある。その他書式の詳細については、学生便覧で指示する。
	経済系 選択 科目	ミクロ経済学Ⅱ	「ミクロ経済学Ⅱ」では、市場メカニズムが、効率的資源配分を実現することを学ぶ。しかし、現実の経済社会では、市場メカニズムに調整を委ねるだけで効率的資源配分が実現するとは限らない。その理由は、市場メカニズムの円滑な機能を妨げる要因があるからである。代表的な障害要因の一つが、「情報の非対称性」の問題である。情報の非対称性の問題は、大きく2つに分けられる。「取引前」の情報の非対称性である「逆淘汰」と、「取引後」の情報の非対称性である「モラル・ハザード」である。講義の初めでは、これらの問題を取り上げる上で必要となる「期待効用」や「不確実性下の意思決定」について解説する。その上で、情報の非対称性が引き起こす問題や、その問題を解決するメカニズムについて説明する。	
		マクロ経済学Ⅱ	この講義では、「マクロ経済学Ⅰ」の内容を前提として、長期の経済成長を分析する理論である新古典派成長理論を中心に、マクロ経済学のより上級のトピックを講義していく。最初にソロー・モデル、成長会計を説明し、これらを使って、1950年代から60年代の日本の高度経済成長や、「失われた20年」ともいわれる最近の日本の経済停滞の原因を分析する。次に、家計の消費の最適化の初歩を説明し、これを組み入れた新古典派成長理論が、日本のマクロ経済の動きを上手く説明できるかを分析する。講義を通じて、データを用いてマクロ経済理論を検証することや、理論を用いて現実のマクロ経済を解釈することができるようになることを目指す。	
		ゲーム理論入門	本講義は、ゲーム理論の基礎を身につけることを目的としている。「ゲーム理論」とは、経済や社会におけるさまざまな意思決定と行動の相互依存状況を数理的なモデルと論理を用いて分析する学問である。本講義の目的は、以下の2点を習得することである。1つは日常のビジネスや政策決定の場に応用できる「戦略的思考の技法」として、ゲーム理論を身につけること。もう1つは、近年、経済学や法学を含む社会科学の多くの分野に用いられているゲーム理論を理解できるようになることで、それらの分野の理解を一層深められるようになること。特に、ゲーム理論の基礎である完備情報ゲームとその応用を中心として講義を進める。	
		経営組織論	この講義の達成目標は、経営組織の基礎的な知識の習得と、習得した知識をもとに、組織での意思決定や実際の活動を円滑に行う方法を考えることの2点である。講義ではまず、組織とは何かといった根本の議論からスタートし、組織図を中心とする組織構造、従業員の意識を中心とする組織過程、組織の性格を表す組織文化、組織が変わる瞬間を捉える組織変革などを検討する。さらに、実際の組織での仕事を想定したチームでの仕事についての内容を深めることで、より実践的な講義を行う。	
		財務会計	財務会計は、企業の経営成績や財政状態について財務諸表を通じて、企業外部の利害関係者に報告することを目的としている。本講義では、財務会計の機能、企業会計を取り巻く制度や会計基準について説明したうえで、適正な期間損益計算をするための収益と費用の認識・測定や利益測定、資産評価の基準などの概念について学ぶ。そのうえで、資産、負債、純資産の各項目や連結財務諸表などをとりあげ、企業会計の仕組みの全体像を把握していく。 また、会計は経営と密接な関係にある。そこで本講義では、企業経営と会計との関係がイメージしやすいように、適宜、企業事例や新聞記事をとりあげて説明する。なお、本講義履修にあたっては、「簿記・会計入門」の履修を前提とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	経済系 選 択 科 目	公認会計士実務	公認会計士実務は、現場で活躍する公認会計士によって、企業を取り巻く会計監査に関する実践的な講義が展開される。講義内容は、公認会計士法及びディスクロージャー制度の概要、会計監査に必要な監査論と監査実務について、公認会計士の具体的な業務(監査・FA・税務)などである。	
		社会保障政策論	現在の日本において、政府支出の最も大きな割合を占めているのが社会保障関係費であることは良く知られている。社会保障に限らず、公共の福祉にかかる様々な社会的サービスは、私たちが日常生活の中で利用している社会のセイフティネットといえるしくみである。 この授業は、日本に暮らす私たちの日常生活におけるリスクを管理するセイフティネットのしくみ、すなわち、社会保障、公衆衛生、居住、教育など、公共の福祉にかかるテーマをとりあげ、それぞれの制度が生まれた背景を歴史を遡って整理し、その政策効果を考える。 特に、社会保障政策の理念や機能、制度枠組みなど、基礎的な知識を学んだ上で、公的年金、医療保障制度、介護保険制度、公的扶助、社会福祉などを取り上げて、それぞれの政策が策定された背景、現状と現代の課題を学ぶ。	隔年
		財政学	・現代の経済社会において重要な役割を果たしている財政分野を中心とした経済政策について、その制度の概要と課題を取り上げ、現実の問題点を経済理論と関連付けて解説する。 ・そのため、財政に関する経済理論について解説した上で、我が国における政府活動の諸制度の概要や財政的な課題を紹介し、これらの諸課題について経済理論を応用して説明する。 ・政府活動・財政政策とは何かという問題から、社会保障と税の一体改革やアベノミクスなど時事的な課題まで取り上げる。	
		地方財政	日本の地方財政をテーマに、その経済学的な分析について解説する。地方財政に関する「実態・制度」と、政策の機能等を捉える「理論」双方を扱い、政策の意義や課題について考察する。まず家計・企業などの自由な取引に基づく経済社会の中で「政府の果たすべき役割は何か」(財政の3機能)、さらに「国と地方自治体の役割分担をどのように行うべきか」(機能配分論)に関して基本的な考え方を整理する。その後、歳出面では地方自治体が担うべき政策、歳入面では地方自治体に賦与されるべき税源や、目的に応じた補助金のあり方などについて扱う。	
		経済史	この講義では、経済社会の歴史を主に資本主義経済の勃興と発展を中心に概観する。 現代の経済は、過去から受け継いできた経済の発展の上にある。今日、われわれがそのもとで暮らしている資本主義経済を正確に理解するためには、何よりも過去の経済をある程度知っておく必要がある。この講義では、そうした過去に存在した様々な経済社会を大きな史的枠組み、すなわち1)資本主義社会以前の諸社会、2)16世紀の「大航海時代」からの資本主義経済の勃興、3)19世紀における資本主義経済の確立、4)19世紀後半から第1次世界大戦までの資本主義経済の変容、5)第1次世界大戦以降の現代資本主義、という歴史的な流れに沿って論じる。 講義では、教材として配付資料・教科書を中心に、スライド等も併用する。	隔年
		経営労務論	この講義の達成目標は、経営労務の基礎的な知識を習得し、経営労務の問題を解決する方法論を考えることにある。経営労務は、企業だけでなく、医療や福祉政策などのより広範な社会との関係も深い。例えば、従業員のストレスや長時間労働は、過労死・過労自殺などの過労による疾患に結びつき、医療との関係が深い。また、従業員の待遇に関する議論は賃金や福利厚生にのみ関係するだけでなく、セイフティネットなどの福祉政策にも影響を与える。したがって、経営労務の視点から広く社会への問題にもアプローチする。	隔年
		独占禁止法の経済学	この講義は、独占禁止法の概要、および、競争的な市場環境を維持・促進する観点からより望ましい経済政策を実現する政策について学習を進める。独占禁止法は、経済活動を規律する経済法の核をなす基本法であり、その目的は、競争の促進・維持、消費者の利益保護、および経済の発展にある。そこで本講義では、マイクロ経済学、ゲーム理論、および産業組織の理論で学習する経済学的手法を用いて、望ましい競争政策を見出すことを目的とする。そのうえで、海外および日本の産業構造、競争政策に対して理論的・実証的に分析できるようなこと、また、ニュース・新聞・雑誌などで報じられる記事に対して経済学の視点から分析し、自分の言葉で説明できるようになることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	経済系 選 択 科 目	法と経済学Ⅰ	この講義では、経済学が提供する社会現象・企業行動等に関する理論を用いて、法制度に関わる諸問題を考えることで、直感に頼らず、論理的に社会問題への対応策を検討できるようになることを目指す。商法、会社法といった経済活動に直接関わる法律は、経済学的視点による解釈が、従来の法解釈へ影響を与え始めている。また、従業員の解雇に関連して、解雇規制の存在が雇用環境や企業活動全般へ、どのような影響を及ぼすのか、経済学分野で議論が展開されている。そこで、情報の経済学やゲーム理論といったミクロ経済理論の分析手法を用いて、企業金融や企業統治、解雇規制、知的所有権などのトピックスを取り上げ、法制度解釈への経済学の応用例を紹介していく予定である。	
	法と経済学Ⅱ	「法と経済学Ⅰ」で学んだ基礎知識を応用して、社会が直面している法的問題について検討を行う。社会的な問題の解決策を探る上で、経済学を基にする利点は、経済学的分析の特徴として、目の前の問題に対する直接的な解決策を考えるだけでなく、一つの解決策が周辺に及ぼす波及効果・副作用までも含めて検討できることにある。具体的に取り上げるトピックスは、株主保護の問題に関連して、買収防衛策導入の影響、少数株主保護、株主代表訴訟の効果、また、債権者保護と倒産処理法制の在り方、さらに、解雇権濫用の法理が労働市場にもたらした影響などである。この講義を通じて、ミクロ経済学の分析手法を活用することで、現実の事例の解決策を探る応用力を養うことを目指す。	隔年	
	医療制度論	医療は情報の非対称性を回避することができないので、さまざまな規制が存在する。そこで本講義では、医療サービスの需要側、供給側に対する規制を紹介し、それらを整理しながら望ましい医療制度のあり方を考察する。具体的には、需要側の規制として、まず全国民が強制的に加入させられる医療保険制度と、高齢者の医療制度の仕組みを概説する。次に、供給側に対して課される規制として、医療法・医師法、医療職の免許制度と、施設基準、診療報酬制度・薬価基準を議論し、それらの長所短所を整理する。		
	社会政策論	社会政策とは、個人のみでは解決できない社会問題を解決するための公共政策であり、社会保障、社会福祉、労働問題、労使関係をはじめ、教育学やジェンダー研究、生活問題といった課題群(カテゴリー)から構成されている。この授業では、少子高齢化が社会問題化することになった1970年代以降を射程に、主に日本における社会問題の実情を知り、問題解決に向けた社会政策の制度体系を学ぶことになる。 この授業は、1.社会政策が直面する少子高齢化の現状と課題、社会政策の体系、福祉国家の類型を概観し(社会政策概論)、2.典型的な労働問題を取り上げながら労働市場政策を学び(労働問題と社会政策)、3.制度ごとに構成された生活支援の基本的な枠組みを学ぶ(生活保障と社会政策)、以上の3部構成となる。		

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 経済系選択科目	健康政策論	<p>健康づくりに関する諸施策は、個人の健康面の改善効果のみならず、日本の社会保障制度を持続可能なものに変えていくためにも、現在重要な位置づけにあるといえる。さらに、健康づくりに関する諸施策は、個別の社会保障制度が対象とする課題を超えて、ソーシャルキャピタルの育成にかかる基礎自治体を始めとするまちづくりや地域づくりに関する諸政策に強い影響を及ぼしつつある。</p> <p>健康政策論では、健康づくりに関する諸施策の今日的課題のいくつかについてテーマを絞り、健康づくりと福祉のまちづくりにおける公共政策が抱える現状と課題を学ぶ。</p> <p>この授業は、専任教員2名（井上信宏、増原宏明）、兼任教員3名（古屋顯一教授〔総合法律学科〕、中澤勇一准教授〔医学部医学科地域医療推進学講座〕、関口健二特任教授〔医学部附属病院総合診療科〕）がオムニバス方式で担当し、途中でゲスト講師を招聘する。それぞれの担当は、次の通りである。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(43 井上信宏/3回) イントロダクション、福祉のまちづくり等</p> <p>(69 増原宏明/3回) イントロダクション、医療と介護の連携による社会保障コストの削減等</p> <p>(2 古屋顯一/2回) ヘルスプロモーションにおけるスポーツの役割</p> <p>(48 中澤勇一/2回) 地域医療推進の現状と課題</p> <p>(45 関口健二/2回) 総合診療の促進における現状と課題</p> <p>このほかに、基礎自治体における健康政策の推進について（ゲスト講師、1回）、基礎自治体におけるソーシャルキャピタル育成の取り組みについて（ゲスト講師、1回）、高齢者の在宅介護の推進の現状と課題（ゲスト講師、1回）などを実施する。ゲスト講師の回は、専任教員が担当する。</p>	隔年 オムニバス方式
	情報処理A	<p>社会の様々な分野で有用な表計算ソフトをより高度に使いこなすことを目指す科目である。具体的には、現在のde facto standard表計算ソフトであるExcelのマクロを記述するプログラミング言語VBAの文法について学ぶ。現在、VBAの使用頻度は非常に高いと言われている。VBAで記述するExcelマクロを使用することで、定型化した処理の自動実行、条件分岐処理、反復処理などの利用が可能となり、表計算ソフトの利便性が向上する。VBAの文法を学ぶとともに、具体的なデータへの適用を、学生が所持するノートパソコンを使って確認しながら、より段階的に高度な内容へと進行する。</p>	
	情報処理B	<p>コンピュータの高度な活用を通して、デジタル情報処理の仕組みが理解できる。</p> <p>多くのプログラミング言語の基本となった言語がC言語であり、現在も実用的に使用される場面が多く、最も普及している言語の一つである。また、プログラミングの学習用にも適した言語と言われている。本科目の目的は、C言語によるプログラミングの基本を学ぶことである。この科目で基本文法を習得すれば、他の言語への応用も可能となる。文法を習得しながら、学生が所持するノートパソコンにインストールしたCコンパイラを使用して入力から実行までの操作も行い、理解を深める。</p>	
	現代産業論	<p>この講義は前身の信州大学経済学部時代の1988年から「産業論特論」の名称で毎年開講してきた講義で、平成26年度までで27年目の開講を数えた。新学部でもこれを引き継ぎ、新たに「現代産業論」の名称で開講するものである。この講義の内容は、毎年現代産業に係るテーマを設定し、そのテーマに関して日本の産業活動をリードする企業人や政府等の政策担当者からオムニバス方式形式で講義を組み立てる方法で開講するものである。対象となる産業分野はその年度のテーマによるが、これまでの累積では製造業のほかに、建設業、不動産業、流通業、食品産業、エネルギー産業、金融業などと多岐に渡っている。近年のこの講義で取り上げたテーマとしては、平成24年度が「大災害の経験と教訓」、平成25年度が「企業のグローバル化戦略と経済連携協定の課題」、平成26年度が「リスク社会への備えー保険と社会保障を中心として」であった。講義の進め方は、前半がゲスト講師による講義、後半が質疑応答、レポート作成となっている。授業のコーディネーターと毎回のレポート採点による成績評価は学部専任教員（33 山沖義和、34 徳井丞次）が担当する。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	経済系選択科目	現代職業論	実社会において職業上担うべき責務とは何か、求められる役割とモチベーションの持続を以下に継続し得るかについて、現実直面する前に真摯に検討させる。その一助として、本学部卒業生をゲスト講師に迎え、在学時の学習状況、就職活動及び実社会に出てからの職業体験、現在の職場・仕事内容等を披歴することで、キャリア形成観の育成を涵養するとともに、本学部の目標とする、学士として得た能力を即戦的に現場で応用できる職業人のイメージを喚起する。ゲスト講師は多岐に亘る産業、職種の中から活躍の場を広げている有意な人物を選出する。	
		経営者と企業	本講義は、信州大学が所在する長野県を拠点に活躍する企業の経営者から自社の発展と今後の課題を語ってもらい、学生に地元企業の魅力とそれを指揮する経営トップの活力に触れてもらうことを目的として、前身の経済学部時代(2000年)から開設し毎年継続してきた科目である。長野県内には40社ほどの上場企業と裾野の広い中堅・中小企業が多数存在し、そのなかには最近注目されているグローバル・ニッチトップ企業と呼べるような会社や、業態を変えながら数百年事業を継承してきた会社など特色ある企業が多数含まれる。学生がこの科目を履修することによって、こうした地域や世界で活躍する地元企業経営者から経営課題を聴いて経済学・経営学分野の諸科目で学んだ概念やものの見方の具体的な応用場面に気づくことができる教育効果に加えて、地元企業の「隠れた」魅力に接することによって将来地域創成を担う人材育成にも資するところがあるものと期待される。この授業は、長野県経営者協会からの協力を得て複数の企業に依頼し、その経営者をゲスト講師としてオムニバス方式形式で講義を行うものである。毎回の授業は講師による講義、質疑応答、講義内容に基づくレポート提出からなる。授業のコーディネートと毎回のレポート採点による成績評価は学部専任教員(34 徳井丞次, ② 関利恵子)が担当する。	共同
キャリアデベロップメント科目		ボランティア	安全で平穏な社会生活には近隣などの助け合いも不可欠である。また自分にできる社会貢献を見出すことは自己発見でもある。東北震災復興支援、信大附属託児所、自然保全活動、福祉関連NPO法人などさまざまな地域・社会課題に取り組む非営利団体・活動にボランティア人材として自発的に関わることを通じて、<共助>を理解し自己発見にもいたることを目的とする。「交流系科目部会」教員が指導・運営(単位認定)にあたる。合同説明会(4月)に出席し、事前レポート登録を経て、夏期などに原則60～80時間、ボランティア活動に従事し(無償)、ボランティア活動実施証明を付したレポート(4000字)に合格し、発表会(12月)に参加することを義務付ける。	共同
		インターンシップ	企業・公務職場などの組織における就業体験をもとに単位を認定する。「交流系科目部会」教員がその指導・運営(単位認定)にあたる。合同説明会(4月)を経て、事前レポート登録を行い、夏期などに原則60～80時間、体験就業(無償)に従事し、インターンシップ修了証明を付した事後レポート(4000字)に合格し、発表会(12月)に参加することを要する。	共同
		Global Political Economy	グローバル化の進展の中で、国際社会が直面する課題について学習する重要性が増している。また、社会で仕事をする上で、実用的な能力としての英語力を向上させる必要性も増している。この授業では、貧困と開発、国際経済秩序、安全保障、環境問題など国際政治経済の課題について、主に英語教材を使用し学習する。基礎的な国際社会の課題を理解すると共に、社会科学を学ぶための英語能力の向上を目的とする。少人数の参加型の授業を通じて、情報収集・分析、プレゼンテーション、文章作成能力を向上させる。	
	Global Business	本演習は、グローバルビジネスにおいて重要視されている概念、分析手法、戦略、戦術などを、主にマーケティングの観点から学ぶことを目的とする。本演習ではまた、グローバル市場で活躍する上で不可欠な概念の理解と、スキルの構築に焦点を置く。履修者はこの演習を通じて、日本および世界で活躍している組織および個人による最新のビジネス活動について学び、事例研究を行う。毎回の演習に備えて履修者は、学内および学外における多岐にわたる調査活動、ディスカッションに向けた事前学習の実施が必要となる。この演習では、履修者個々の文化的・経済的・社会的観点を生かし、共に学ぶ履修者とネットワークを構築しながら、様々なグループ活動を通じて学ぶことが期待される。毎回の演習は、講師による講義、質疑応答、講義内容に基づくディスカッション、プレゼンテーションの実施、小テストと期末テストから構成されている。		

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 経済・企業法務コース)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	キャリア ア デ ベ ロ ッ プ メ ン ト 科 目	American Law and Society アメリカの法と公共政策について学ぶ。日本社会とは異なる法・政策の体系とアプローチを学ぶことにより、日本社会の法・政策の特徴を理解する。学術研究教育交流協定を結んでいるハワイ大学ロースクールと行政学プログラム(Public Administration Program)より客員教授を招聘し、夏期の集中講義期間に行う。講師は毎年交代し、様々な法と公共政策の専門分野の科目を開講する。英語で授業を行い、英語での学習能力を向上させる。授業は、アメリカの法や公共政策教育で行われる参加型のアクティブ・ラーニングスタイルで行う。授業のコーディネーター、ガイダンス、学生に対するサポートは、学部専任教員(① 美甘信吾)が担当する。	集中
	海外短期演習	ハワイ(アメリカ)社会・政治経済制度について学び、地域振興や多文化共生など地域社会が直面する課題について理解を深める。海外の大学での学習体験を通じ、異文化理解を促進し、英語学習を奨励する。海外研修の効果を高めるために英語学習や日本語での基礎知識の習得など事前学習を行う。ハワイ大学での授業、フィールドトリップ、報告書作成を通じて、経済学・政治学の基礎知識の体系的理解、社会における課題発見力と行動力、言語(英語)能力、コミュニケーション能力、自己管理能力、チームワーク力、リーダーシップを身につける。	集中 演習 54時間 実習 12時間

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目 教養ゼミ ナール群	環境問題を化学者と考えるゼミ 第1回目の講義時に各種環境問題を教員から問題提起し、2回目以降のテーマを担当する発表者を決定する。主発表者は毎回1～2名でA4レポート用紙2枚にまとめてレジメを作り15分程発表(プレゼンテーション)する。発表者以外の人はその小テーマについて調べておく。そして4～5人のグループに分かれ、発表者の発表後、全員で20分ほど討論する。(コミュニケーション能力の向上) そして、その結果をレポートにする。(言語能力の向上) さらに、それらの結果を基に各グループが意見を交換する。(コミュニケーション能力の向上) 「一人一人が自分で調べ、考え、自分なりの考えを持つ」ということがこのゼミのキーワードであり最終目標である。	
	生態資源論ゼミ	各人(班)はそれぞれ関心をもった生態資源について、まずは文献資料にあたり、報告する。それをもとに、受講者全員で質疑応答を行う。 各班の調査方法としては、各種文献やインターネットの参照のほか、関係者への聞きとりを行う(メールや電話での聞きとりも可とする)。また各報告に対して質疑応答を行う。 また、授業期間内に1度、受講者全員が参加する学外見学・体験の機会を設ける。	
	地球白書ゼミ	本授業では、地球が直面している問題群を比較的平易な英文とそこに挿入されている図表から学ぶ。各人はそれぞれ関心のある項目について、テキストの読解を行い、発表・報告する。それをもとに、受講者全員で質疑応答を行う。授業の目標は、鍵となる単語や表現を覚えることに加え、問題の背景や構造を理解し、さらに私たちに求められる「かかわり」について議論することである。	
	環境マインドを現場で体験するゼミ	(1)水生生物の基づく環境調査、(2)地下水利用をめぐる聞きとり調査、(3)成果発表と討論を行う。 まず、ナノ水車発電の技術の体験的学習では、工学部における技術開発の現場と、エネルギーの地産地消を目指した応用現場に立ち会い、討論を通してこれからのエネルギー生産と消費のあり方を考えさせる。 次に、環境調査会社(株式会社 環境アセスメントセンター)によって環境保全の作業が行われている現場を訪問する。ここでは、実際に水生生物の調査を担当することによって実際の調査を体験するとともに、協同作業を進める方法を工夫してほしい。 さらに、地下水利用の現状と課題について、地下水開発会社(株)サクセン、飲料メーカー、わさび農園、住民などへの聞きとりを通じて、体験的に理解する。地域の水資源を活用しながら、同時にその水環境をまもっていく方策について議論する。	オムニバス方式 集中
	「時」について考えるゼミ	「時」についての理解を深める。主として輪講形式。「時」をキーワードとしたいろいろなテーマを取り上げ、受講生主体の自由な討論を行いたい。対象学生は文理所属を問わない。教材は受講生の興味や予備知識に合わせて調整する。	
原書で読むシャーロック・ホームズゼミ	4つの長篇と56の短篇からなるホームズ物語のうち、『ストランド・マガジン』への連載をきっかけに一躍人気を博した代表的短篇をとりあげる。シドニー・バジェットによる挿し絵が添えられたテキストを読み解く作業を中心に授業を進めるが、英語特有の表現、構文など、形式的・文法的な知識の確認と同時に、文化的文脈を踏まえた、テキストの内容の正確な解釈・理解にも意を用いたい。その際、英文の内容と味わいを達意の日本語で表現するために、英和辞典、国語辞典をはじめ、各種の辞典類を充分に活用してもらいたい。また随時、英国のグラナダテレビによって製作された定評ある映像化作品も視聴し、原作テキストとの比較も試みたい。		

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目 教養ゼミナール群	現代ドイツの言語と日常ゼミ 既習言語であるドイツ語を実際に用いて、ドイツ語を通してしか得られない現代ドイツ語圏の日常・文化生活に触れ、異文化に直に触れることにより、より高度な国際理解感覚を身につけつつ、ドイツ語運用能力を高める。 到達目標： 1. 辞書を用いれば、現代ドイツのアクチュアルな文章を読むことができるレベルのドイツ語読解能力を身につける。 2. 文章を読む際に、日本語の感覚ではなく、ドイツ語の感覚で読む習慣を身につける。 3. 日本語に頼ることなく、外国語から直接外国の情報を入手し、それを処理する国際理解感覚を身につける。 4. 独検秋季試験で2級に合格するドイツ語力の習得を目指す。	
	現代ドイツ事情ゼミ	現代のドイツ語圏の事情は、日本の新聞や雑誌ではなかなか目にすることがない。そのようなアクチュアルな文章を読む際には、テキストの文字だけを見ていても、その背景にあるドイツの現状を知らなければ、理解するのは難しいだろう。（もちろんこれは、ドイツ語に限ったことではなく、英語でも同じことが言える。） そのような意味で、異文化理解や国際感覚というものをより高度なものにするために必要な視点や姿勢を、しっかりと身につけてもらいたい。	
	異文化研究ゼミ	本ゼミでは、各受講生が関心を持っている異文化について学び、学んだことを発表することを通じて、自ら課題を探索し、自分の主張を的確に表現する能力を養う。 はじめに各受講生が関心を持っていることについて話してもらい、その関心をどのように深めてゆけばよいか話し合う。 最終的にはレポートを執筆し提出する。その上で、アカデミック・ライティングの指導を行う。随時グループワークを実施することで、コミュニケーション能力を高めるとともに、受講生どうしの相互理解を深める。	
	感覚で攻める英文法ゼミ～ 覚える英文法から感じる英文法へ	本ゼミでは、英文法のトピックを取り上げ、受講者の理解度に合わせゆくり進めていく。 まず、各トピックの基本事項を講義し、そのトピックを理解するのに必要な事項を概観し全体像を把握する。その後、グループワーク・ディスカッションやプレゼンテーションを通して受講者全員でそのトピックにまつわる「なぜ」という疑問や「どうして」という関心を自由で大胆且つ独創的な発想を交え積極的に話し合い、受講者全員の共同作業により各自が「英文法」を体感し、「使える英文法」を体得する。	
	スポーツ・ホスピタリティゼミ 秋冬編(松本山雅FC連携ゼミ)	本ゼミではスポーツ・ホスピタリティ、具体的には地域密着型スポーツクラブ、プロスポーツ、一般市民のスポーツ施設、あるいはレジャー施設におけるボランティアの望ましいあり方をアカデミックかつ実践的に理解する。本講では主に信州におけるサッカーを中心としたスポーツクラブやその他のトップスポーツや、近隣のスポーツ施設や公園が直接の対象となるが、海外におけるホスピタリティ事情も文献やインターネットで検討する。そこでのホスピタリティがどのような歴史社会的背景、教育的、政治的、経済的要因で成立し、受容されて（あるいは忌み嫌われて）いるのかを実際のフィールドワークも取り入れながら検討してゆく。 フィールドワークは2012年シーズンからJリーグ入りを果たした松本山雅FCの試合運営にボランティアとして関わること及びその他スポーツスタジアムやスポーツイベントのホスピタリティ体験を通じて望ましいあり方を学習する予定である。	
	スポーツ・ホスピタリティゼミ 春夏編(松本山雅FC連携ゼミ)	本ゼミではスポーツ・ボランティア、具体的には地域密着型スポーツクラブ、プロスポーツ、一般市民のスポーツ施設、あるいはレジャー施設におけるボランティアの望ましいあり方をアカデミックかつ実践的に理解する。本講では主に信州におけるサッカーを中心としたスポーツクラブやその他のトップスポーツや、近隣のスポーツ施設が直接の対象となるが、海外におけるホスピタリティ事情も文献やインターネットで検討する。そこでのホスピタリティがどのような歴史社会的背景、教育的、政治的、経済的要因で成立し、受容されて（あるいは忌み嫌われて）いるのかを実際のフィールドワークも取り入れながら検討してゆく。 フィールドワークは2012年シーズンからJリーグ入りを果たした松本山雅FCの試合運営にボランティアとして関わることを通じて望ましいあり方を学習する予定である。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 教養ゼミナール群	スポーツ観戦文化論ゼミ	ここでの観戦学とはいわゆるスポーツの戦略やスキルの専門的知識を追求することではない。スポーツの生観戦，スポーツのテレビ観戦のアカデミックな理解にあたって，まず，チームやクラブのエンブレムやユニフォーム，愛称，サポーターズ・ソング，等の諸シンボルが対象となる。それらが支持・愛される理由・要因を，歴史社会的背景，教育的，政治的，経済的要因などに注目しながら検討する。また，同様に，観戦にあたってよいスタジアムとは何か，サポーター&サポーターズカルチャーとはいかなるものかについても，実際のフィールドワークも取り入れながら検討してゆく。	
	テレビのメディアリテラシー（テレビ信州参与ゼミ）	この講義はテレビ信州の全面的協力の下に開講するもので，ニュースや技術，カメラ，アナウンスなどの担当者をゲストスピーカーとして迎える。現場での経験，経験の中からの学び，喜怒哀楽等々，ナマの声に耳を傾け，質疑応答の中で，テレビメディアの今を知る。併せてミニ番組を制作し，作品はテレビ信州の番組と長野市インターネット放送局「愛テレビながの」の中でOAする道も開かれている。ただし，この制作実習は，テクニックの習得というより，むしろ，送り手と受け手の双方の立場を体験し感じ取り，討論することを通じて，メディアリテラシー向上に資することを主眼としている。	
	「考える」ゼミ	「考える力」や「伝える力」は，受身的な学習により身に付くものではない。「考える力」と「伝える力」を獲得するためには，実際に「考える」そして「伝える」という“実践トレーニング”が欠かせない。 「考える」ゼミ(以下考ゼミ)では，その「考える」「伝える」ことを実践するために，トレーニングの【場】となる様々な仕掛けや素材が毎回用意されている。そして，普段はできないような新鮮な経験となりそうな機会を提供する。この【場】や【経験】は，教室内とは限らず，街場(地域)に繰り出し体験型の活動を行う。その【場】では，様々な“指令(〇〇しなさい)”が出され，それら指令をこなすことで，新鮮な経験を得つつ「考える力」「伝える力」を鍛え上げていく。 このように，受講者は，毎回毎時，“考える”そして「伝える」実践トレーニングを行う。	
	化学計算入門ゼミ	表計算ソフトは基本的なソフトであり，種々の分野において広く使われている。本ゼミでは，この表計算ソフトを化学実験の結果の解析や種々の化学計算等を行なうことにより，基礎知識を発展させ，理解を深める。本ゼミでは，以下の点を目標にする。 1. 表計算ソフトExcelの基本的な操作を覚える。 2. 化学計算ができる。 3. 実験結果の解析ができる。	
	文系学生のための野外地質学ゼミ	前期の土・日曜日を利用して野外に3回，学内で1回の授業に臨む。 信州には多くの活断層が存在し，近い将来地震災害をもたらすのではないかと心配されている。また，山岳地域であるため，常に自然災害に見舞われている。そのように判断される根拠となる野外地質現象を訪ねる。 信州の地質を特徴づけるフォッサマグナとはなんだろうか。フォッサマグナを特徴付ける岩石が露出している地点と，そこから産出した化石を収蔵する博物館を訪れる。さらに，身近にある河川-女鳥羽川を歩き，地質学的な自然現象が語っていることを学ぶ。 各内容では，かなりの距離を歩くことになる。現地では地質現象を観察して記録をとり，後でレポートを作成する。現地で観察して議論し，考えたことを発表してもらう。	集中
統計図解ゼミ	身近な状況の中から，数値情報の現れている課題あるいは欠落している課題などを，コンピュータを活用してグラフなどに図解していく。各自が図解に作成したファイルを，大学提供の学習システムeALPS上に提出することにより毎回の演習は完結する。 処理する題材はインターネット上で公開されている数値情報を中心に扱い，とくに環境，教育，地域，ジェンダーおよびスポーツに関係した資料を多く扱う。 表計算の利用においては，とくに作業効率に関係したスキルを中心に扱う。 実習の進め方は，個人活動を中心に進め，課題によってはグループでの作業とする。 なお表計算Excelをよく使う人も多いが，このツールに関するいくつかの問題点も同時に演習を通じて指摘していく。		

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養科目	アナログ再発見ゼミ	単純に数えること、あるいは私たちの身体感覚を通じて測定できるいくつかの課題に取り組むことを通じてアナログ量やデジタル量の測定について体験し、それらのデータを計算処理を通じて表現する。 課題内容に応じて、個人またはグループで取り組む。 数値情報の表現においては、有効数字や誤差の扱いも学ぶ。
	教養ゼミナール群	情報社会論ゼミ	ここ数年のコンピュータと情報通信技術の普及によって、コミュニケーションのあり方、意思決定・判断の方法を含めて私たちの生活スタイルは大きく変化した。私たちが記憶しなければならなかった事柄のかなりの部分は、携帯電話やコンピュータが担うようになっていく。かつて調べるのに大変な労力を要した事柄も、いくつかのキーワードを入力するだけで簡単に調べることができるようになった。しかし負担が減った分、私たちの脳はより良い使われ方をしているだろうか。 このゼミでは、情報社会に関する様々なテーマについて検討することを通して、ネットワーク社会の光と陰について理解を深めてもらいたいと思う。
		大学生基礎力ゼミ	受講生が学ぶのは、信州大学に関する知識と、大学生として4年間必要になる基礎的な知識・技術・態度である。そのために、授業と授業外で、自分たちが大学生になっていく過程を観察し、記録し、分析していく作業を繰り返すが、そこで学生が実際に体験し、練習するのは、 (1)受講している学生および教員との信頼関係および生産的関係の構築 (2)大学の学びに必要な諸技術（聞く・話す・読む・書く・分析する・協働する・受け入れる・主張する・異議を唱える・働きかける、等々） (3)信州大学の環境の理解と施設や支援の利用 (4)異なる人々や新しい価値体系の受容と、自分の視野と度量の拡張の4つである。 この経験を記録し、分析し、今後に生かすために、学生は毎週ふりかえりを書き、大学の施設を学びながら協働して課題に取り組み、それらをポートフォリオとして保存して、はじめての学期の経験を総括するレポートを書く。授業ではこれらの経験を話し合うことで理解を深め、大学生として生活を組み立て、学習を深めるための基礎力を身につける作業を繰り返す。
	グローバルに生きるゼミ	この授業は、「グループワーク」、「ディスカッション」、「プレゼンテーション」が中心となる。「知識を得る」のではなく、情報を得て、それについて考え、自分の問題として発信することを要求する。 毎回の授業の大まかな流れは、以下のようなものである。 1. 資料あるいは短いレクチャーを通して、テーマごとの問題点を明確にする。 2. その問題点についてグループワークやディスカッションを通して理解を深めつつ、自分以外の視点についても触れ、自分の問題として考える。 3. ディスカッションの結果をグループで（あるいは個人で）まとめて発表する。 4. 授業内容のまとめとして、毎回短い文章を提出してもらう。 (オムニバス方式／全15回) (50 松岡幸司／13回) オリエンテーション：「グローバル（に生きる）とは何か？」 グローバルな人材とは？（自分の問題として考える） 海外へ行く、海外で暮らす/学ぶとは？(1) グループ発表 様々なテーマで「グローバル」ということについて、自分の問題として考える。 個人発表 (47 RUZICKA DAVID EDWARD／2回) 海外へ行く、海外で暮らす/学ぶとは？(2)	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	教養ゼミナール群	新聞をつくろう!(タウン情報制作ゼミ)	『松本平タウン情報』は、松本、安曇野、塩尻市など中信地方で11万8700部を発行するタブロイド判16ページの地域情報紙であり、毎週3回発行され、信濃毎日新聞の朝刊に折り込まれている。その紙面づくりに学生自身が加わることを通じ、「地域におけるメディアとは何か」を学び、その過程で、分かりやすい文章の書き方、コミュニケーションの方法などを身に付けることを目的とする。 ゼミでは、新聞をつくるための基礎知識を学び、実際の紙面をつくる。メディアのあり方、取材の仕方、写真の撮り方、新聞の組み方などを講義する。以上のことは編集会議を重ねながら、実際に取材、執筆、整理制作を進める。	
		スポーツ活動論ゼミⅠ	身体の健康を図ることは人生を通しての課題といえる。本ゼミは「人間の身体は素晴らしい」をテーマに運動をとおして人間の生活習慣やスポーツ活動について、学生諸君とともに考えていくことをねらいとしている。またゼミではスポーツの理論と実践を重視するため、問題発見、問題解決能力が身に付く。学生の自主性により内容を決定するので、ゼミの運営を行うことによるコミュニケーション能力の向上を目指す。様々なスポーツ活動を調べ、学んだ上で、実際にスポーツを体験する。 また、信州の自然を生かしたスポーツ活動を行うため、休業期間を利用し、合宿形式でのゼミを実施する。 ゼミの時間帯にはその活動に必要な知識、技術、ルール・マナーをグループ発表により学習する。 なお、本年度より、体育スポーツの授業の信大マラソンの管理運営にかかわり、スポーツマネジメントの基礎についても学び、実際にマラソンの大会運営に携わる。	
		スポーツ活動論ゼミⅡ	身体の健康を図ることは人生を通しての課題といえる。本ゼミは「人間の身体は素晴らしい」をテーマに運動をとおして人間の生活習慣やスポーツ活動について、学生諸君とともに考えていくことをねらいとしている。またゼミではスポーツの理論と実践を重視するため、問題発見、問題解決能力が身に付く。また、学生の自主性により内容を決定するので、ゼミの運営を行うことによるコミュニケーション能力の向上を目指す。さまざまなスポーツ活動を調べ、学んだ上で、実際にスポーツを体験する。 また、信州の自然を生かしたスポーツ活動(スノースポーツなど)を行うため、休業期間を利用し、合宿形式でのゼミを実施する。 ゼミの時間帯にはその活動に必要な知識、技術、ルール・マナーをグループ発表により学習する。	
		ドイツ環境ゼミ	中心になるのは、2～3月に行われる「短期ドイツ研修」である。これは、「語学学校において2週間のドイツ語コースに参加」した後、「1週間程度、環境関連施設他を訪問・視察」するものである。 そのために、11月から2月初旬にかけて、eALPSを併用しつつ、月に1・2回程度の事前学習のための授業を行う。その際に、自分のテーマを決め、理解を深めていく。 また帰国後には、自分のテーマに従って視察内容をまとめ、「公開報告会」を行い、レポートを提出するとともに、「ドイツ語技能検定試験3級」の合格を義務づける。	集中
		社会科学の方法ゼミ	1年次生が高校の社会科(「地理歴史」「公民」あるいは「総合学習」)を学ぶことから社会科学を学ぶことへの円滑な移行を図れるよう、社会学、経済学、経営学、政治学等のさまざまな学問領域の文献を読解することを通じて、広く社会科学の先人たちがどのような方法を用いて社会事象を読み解いてきたのか、を跡づける。	
	環境科学群	環境社会学入門	主な論点として、第一に環境問題の加害・被害構造、制度・組織の特性、第二に環境行動・運動の契機とその結果、集団行動の困難・障害、第三に環境の歴史・価値・思想、生業とのかかわり、などについて、世界中で起こっているさまざまな環境問題を例に考えていく。また、環境社会学は、人間が作り出した環境問題の解決を志向する「行動する社会学」でもある。 受講生には、この講義を通じて、自らの生活実践への示唆についても積極的に学びとってくれることを期待する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 環境科学群	熱帯雨林と社会	熱帯産のさまざまなモノを切り口として、熱帯雨林の自然と人間の暮らしについて理解を深める。主な事例を東マレーシア、サラワク州（ボルネオ島）のパラム河流域からとり上げる。授業計画の前半では、サゴヤシ、陸稲、沈香などの生態資源を例に、熱帯雨林に暮らす狩猟採集民の生活や生業の様式を概観し、彼らの食糧の確保、資源やエネルギーの利用にみられる諸特徴を理解する。後半は、木材、パーム油、バナナ、エビ、コーヒーなどの一次産品を例に、社会経済的なグローバル化をめぐる問題群について考える。 この講義を通じて、東南アジアの熱帯雨林と私たちとの関係や両者が抱える現代的課題を追究しながら、他人や地球をできるだけ傷つけない社会への手がかりや可能性を探っていく。	
	環境～その人文・社会科学的アプローチ	人文・社会科学的な環境マインドを構築するにあたり、スポーツ社会学、環境社会学、文化人類学、ドイツ文学、脳神経科学など、様々なパースペクティブから環境を検討・理解する。 ここで扱う環境は、自然環境のみでなく、人間が人間として活動する生活環境全般が対象となる。 (オムニバス方式／全15回) (57 金澤謙太郎／3回) 環境社会学の視点から (63 分藤大翼／3回) 文化人類学の視点から (50 松岡幸司／3回) ドイツ文学の視点から (64 有路憲一／3回) 生活環境における脳神経科学 (27 橋本純一／3回) スポーツ社会学の視点から	オムニバス方式
	ライフサイクルアセスメント入門	LCAは製品やサービスの資源採取から廃棄に至るまでのライフサイクル(一生涯)における環境負荷量や環境影響量を客観的に、且つ、定量的に評価する手法である。その評価手法を修得するため、生活の身近な製品を例題にしてLCA演習を行う。そして、LCA結果を用いた新たなCO2削減のためのカーボンフットプリント制度やタイプⅢ環境ラベルなどを理解し、さらに、今後のLCA展開および新たな環境指標について講述する。また、信州大学の全てのキャンパス・学部・学科で取り組んでいる環境マネジメントシステム(EMS: Environmental Management System)について解説し、LCAとEMSを両立させた新たな環境保全活動について考える。	
	環境と生活とのかかわり	環境調和型社会の形成は、製品やサービスの提供側と消費者の協同で行われなければならない。そのため地球環境問題の取り組みを概観しながら、生活に身近な環境法規、製品やサービスの環境影響評価手法、組織と利害関係者のインターフェースになる環境報告書・環境ラベルなど環境情報の見方、身近な製品やサービスにおける環境への取り組み事例、カーボンオフセットなどを中心に講述し、環境と日常生活とのかかわりについて考える。また、信州大学の全てのキャンパス・学部・学科で取り組んでいる環境マネジメントシステムと環境保全活動について解説する。	
	地球環境の歴史	環境マインドを備えた人材を育成するための教養科目である。同時に、グループ学習を通して、コミュニケーション力やチームワーク力を養う。 地球の過去の調べ方、年代測定法、地球の誕生、大気組成の変遷、生命の誕生と進化、大陸移動とプレートテクトニクス、気候変動といったテーマを、地球の歴史に沿って、トピックを取り上げながら授業を展開する。授業では、必要に応じてビデオ教材を用いる。 授業では、地球環境に関するテーマについて各学生が書物によって学習した結果に基づいてグループ間で意見を交換し、最終的にどのような意見をもつに至ったかを発表する。	
	ネイチャーライティングのすすめ(環境文学Ⅰ)	自然や環境について語る際、「こころの問題」として、つまり自分との関係で語ることはあまり多くない。本講義ではこの観点から自然や環境にアプローチしていく。 最初の3回で自然・環境・人間の関係について概観した後、個々の文学作品、特にネイチャーライティング作品を通して、上記三者の関係について考えていく。扱う作品は、H.D. ソロー、レイチェル・カーソン、シュティフター、サン＝テグジュペリ、ギッシン、ヘルマン・ヘッセなどの作品を予定しており、少なくとも該当部分に関して授業前に読んでおく必要がある。講義では、毎回「授業内容確認課題」を書くことにより簡単なまとめを行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	環境科学群	環境文学のすすめ（環境文学Ⅱ）	自然や環境について語る際、「こころの問題」として、つまり自分との関係で語ることはあまり多くない。本講義ではこの観点から自然や環境にアプローチしていく。 最初の3回で自然・環境・人間の関係について概観した後、個々の文学作品、特に環境文学作品を通して、上記三者の関係について考えていく。扱う作品は、宮沢賢治『注文の多い料理店』彭見明『山の郵便配達』をはじめ様々な作品を予定しており、少なくとも該当部分に関して授業前に読んでおく必要がある。講義では、毎回「授業内容確認課題」を書くことにより簡単なまとめを行う。
		自然環境と文化	はじめに人類学とは何かということ概説する。その上で、人類学的な知見にもとづいて、食文化、健康と病、病と癒し、死と儀礼、音楽・舞踊、装いとといった項目について自然環境と密接に関わりながら生きている人々の文化を紹介する。また同じ項目について、私たちの文化のありようについても紹介し、今後の私たちの生き方、自然環境との望ましい関わり方について考える。
		生物と環境	私たち人類も含めてすべての生物は地球上の環境から影響を受け、また環境に対して影響を及ぼしながら生活している。そうしたさまざまな環境における生物個体群の分布や生活様式、生物群集における個体群間の相互作用、生物群集とそれを取り巻く環境から構成される生態系の構造と機能について基礎知識や基本概念を解説する。さらに私たちの身の回りから地球規模に至るまでの生物と環境にかかわる問題について、具体的な事例を取り上げてパワーポイントやビデオ教材を用いて講義を行う。
		自然災害と環境	信州は火山が集中している地域でもある。火山活動が起きる場所にはある法則性がある。そのことをまず理解した上で、火山活動の起こる仕組み、火山活動の種類、火山活動への対処方法などを事例に即して講述する。 また、人間の生活の場となっている平地は河川や海洋によって直接的な影響を受ける場所である。地球が温暖化する中で、川や海で起こる現象やしみをよく理解し、将来予測や対策に役立てる必要がある。 松本は大地震発生の確率がとくに高いとされている。信州では、最近、多くの活断層が身近に存在していることが明らかになってきている。地震はこれらの活断層の運動の結果生じるものである。信州の特殊な地質条件と予想される災害との関係を知ってほしい。 さらに、このような環境の中で、人間は自然を利用して社会や文化を維持している。自然利用の方法やその失敗の事例を学ぶ。
		生活の中の科学	高校までに習っていた化学などの自然科学は理系の研究を行う上で必要不可欠な知識という点において極めて重要である。しかし日常生活を続けていく上で、あまりその科学的知識との関連について詳しく教えられてこなかった事が多いのが現実である。本授業では科学をより身近なものとして実感し、各自の今後の人生に活かせるよう、日常生活で利用、体験している事柄で科学と深く関連している事柄をピックアップしてそれを解説する。 さらに地球温暖化などの社会問題にも言及するので、信大の環境マインドを理解した社会人として考え、行動するステップとしてほしい。
		環境法入門	環境問題へのアプローチの方法は数多くあるが、問題を実際に発見し、解決していくためには法学の知見が不可欠である。この講義では、①環境問題を法的に考える際に不可欠な必要最小限度の法学の知識を学んだ上で、②環境問題に法的にアプローチする場合の基本的な考え方、手法、組織、紛争解決手法を概観し、③自然保護、廃棄物・リサイクル、大気汚染・温暖化といった個別のトピックスについて、法的にいかなる点が問題となり、どのような法的手法が用意されているのか考えていく。
	人文科学群	日本学入門	ヨーロッパと日本の出会いは、マルコ・ポーロによるジパングの紹介に始まり、宣教師の渡来によって前進した。しかし、本格的には19世紀以降、日本の開国で交流が加速する。なかでも芸術の中心地フランスには日本の物や人が集まり、日本文化の流行が起こった。その歴史を学び、ヨーロッパで受け入れられた日本の価値観や美意識とはいかなるものだったのか、美術・文学・音楽等の事例をたどりながら考察する。

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 人文科学群	日本近代文学入門	日本の近代作家にとって外国経験（留学・遊学・旅行等）は大きな問題の一つで、それを綴った作品も数多く存在する。そのなかから代表的な例を取り上げ、作家たちが外国に行くまでの経緯や時代背景、文化交流、旅の様子を知ると共に、どのような問題にぶつかり、悩み、それをいかに解決したり克服したりしたのかを、作品（小説、エッセー、短歌等）を通して学んでいく。	
	映像・人類学	人類学は異文化との出会いから始まる。言い換えると、人類学者は異文化に生きる人々との出会いから、その学問的な営みを始める。本授業では、異文化に生きる人々との出会いを表現するために、主にドキュメンタリー映画を視聴する。スクリーンを介して様々な人々と遭遇することを通じて、人の生き方や考え方について学ぶ。	
	Top Level English (トップレベルイングリッシュ)	(英文) The content of the class will be decided according to the needs of the students enrolled. Possible activities include the following: presentations; structured discussions and debates; and practice for the interview in international tests of English such as IELTS or Cambridge ESOL. (和訳) 授業内容については、受講生の要望に応じて柔軟に対応する。プレゼンテーション、ディスカッションやディベート、IELTSやケンブリッジ英語検定などの面接試験に向けた練習を行う予定である。	
	「田園環境健康都市須坂」を「共創」（須坂市寄附講義）	全国的に、人口減少、超少子高齢化、厳しい経済状況、雇用状況など課題が山積しており、課題解決に対する基礎自治体である市町村と住民の役割は増大している。 本講義では、課題解決のために、市民と行政が第五次須坂市総合計画（平成23年4月策定）に沿ったまちづくりを「共創（同じ目的に向かって、確かな信頼関係の上で、分野の異なる人々が、お互いの特性をいかし、連携し、創造していくこと）」により行っている須坂市の事例を、携わっている本人自身が説明することによって、地域づくりの現状を理解し、広く参考にしていく。	
	韓国の文化（食文化）	韓国食文化に関するビデオ教材を用いて、様々な韓国の食文化とその背景や街の様子を紹介していく。合わせて日本の食文化も一緒に考えてみる。毎回の授業の流れは次の通りである。①前回の授業内容に対する学生の感想や意見を紹介した後、質問に答える ②その日に取り上げる食文化を理解する ③感想や意見、質問を出席シートに書く。	
	韓国の文化（映画で学ぶ）	映画の背景にある韓国の文化、歴史、習慣を説明した後、映画を観る。映画を観た後、意見交換をする。映画は一回の授業では最後まで観られないので一本の映画を授業二回にわたって鑑賞する。授業の流れは次の通りである。①前回の授業内容に対する学生の感想や意見を紹介した後、質問に答える ②その日に取り上げる韓国文化を理解する ③感想や意見、質問を出席シートに書く。	
	韓国の文化（若者の世界）	韓国の若者の文化（音楽・映画・恋愛事情など）を、ビデオ教材や資料を用いて紹介していく。韓国の若者の話も聞く。毎回の授業の流れは次の通りである。①前回の授業内容に対する学生の感想や意見を紹介した後、質問に答える ②その日に取り上げる若者文化を理解する ③感想や意見、質問を出席シートに書く。	
	韓国の文化（メディア）	韓国の様々なメディアを用いて韓国文化や現在の社会の様子を紹介し、それについての意見を交換する。次の授業に備えて事前に予習が必要な事項に関しては、eALPSにアップするので、常に確認が必要である。毎回の授業の流れは次の通りである。①前回の授業内容に対する学生の感想や意見を紹介した後、質問に答える ②その日に取り上げる韓国文化を理解する ③感想や意見、質問を出席シートに書く。	
フランスの文化 I	この講義では、ヨーロッパの文化を率いてきた国のひとつであるフランスについて様々な角度から学んでいく。 具体的にはテキストに沿って、視聴覚資料もまじえながら、フランスの言語、風土、歳時記、歴史、文化などに関する理解を深める。また、関連する芸術作品（美術、音楽、舞踊など）や文学作品の紹介も行う。こうした知識を踏まえて、各自関心のある分野を調査し、レポートにまとめる。		

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	人文科学群	フランスの文化Ⅱ	この講義では、ヨーロッパの文化を率いてきた国のひとつであるフランスについて様々な角度から学んでいく。 具体的には、フランスの食文化、カフェと公園、マルシェ(市場)、ファッション、教育制度、家族事情、宗教事情などの文化、社会に関する理解を深めるとともに、政治や産業技術についてもとりあげる。こうした知識を踏まえて、各自関心のある分野を調査し、レポートにまとめる。	
		ドイツ語圏の文化Ⅰ	本講義では、ドイツ語圏文化を通して、国際理解・異文化理解の促進を目標とし、言語と文化の関連を常に意識しつつ、単なる情報ではない、息づくドイツの文化を学んでいく。 具体的には、ドイツ概観、ドイツ人と森、オーストリア、ドイツの環境についてとりあげる。教員からの情報提供の他にグループワークやプレゼンテーションなども取り入れる。	
		ドイツ語圏の文化Ⅱ	本講義では、ドイツ語圏文化を通して、国際理解・異文化理解の促進を目標とし、言語と文化の関連を常に意識しつつ、単なる情報ではない、息づくドイツの文化を学んでいく。 具体的には、ドイツ語圏の歴史、ドイツ語圏の文学、ドイツの音楽(グレゴリオ聖歌から交響曲まで)、ドイツの教育、シュタイナー教育についてとりあげる。教員からの情報提供の他にグループワークやプレゼンテーションなども取り入れる。	
		アフリカ文化論	アフリカは、約3030万平方キロメートル(日本の約80倍)の大陸であり、約10億の人々が55の国や地域に暮らしている。本講義では、この広大で豊かな地域の文化的な魅力と現代的な問題を紹介し、アフリカ文化の可能性と課題について考える。また、アフリカの文化を紹介することを通じて、世界の文化的な多様性と、その多様性を失いつつある世界の両方を考察する手がかりを提供する。	
	社会科学群	スポーツ考現学	本講では、スポーツにまつわる様々な現象を、特に、観戦学、スペクタクル、権力、ナショナリズム、グローバリズム、メディア、ジェンダー、人種、階級、テクノロジー、コモディティズムといった視点から、写真、ビデオ映像などのヴィジュアル化された資料を適宜混じえて検討・理解する。	
		スポーツ文化を考える	スポーツ文化、身体文化に関してのさまざまな文献を読むことを前提として講義は展開される。国内外のスポーツ文化や身体文化に関する諸事情や考え方をビデオ映像なども混じえて検討する。 オリジナルテキストまたはプリントを用意するので受講生は毎回それを深く、クリティカルに読み込み、読後コメントを提出する。その上で講義や映像により知見を広め、小グループに分かれてテーマに関するディスカッションを行う《グループワーク》。ディスカッションは、毎回コーディネーター、書記、発表(報告)者の役割を決めてから行う。最後に全体討論を行う。	
		新聞と私たちの社会(信濃毎日新聞社寄附講義)	毎回、信濃毎日新聞社の方をゲストスピーカーとして招き、新聞の作られ方や読み方、社会的な役割について講演していただく。また、講演後に質疑応答を行い、受講生に新聞社の方々と直接対話する機会を設ける。さらに感想と質問を書いて提出してもらうことによって対話を深める。 本授業を通じて養う能力を試す上で、「新聞スクラップ」を2回提出してもらう。この課題は、受講生に新聞と用紙を配布し、一つの記事を選んで用紙に貼り付け、選択した理由や感想を書くというものである。また最後には、日本新聞協会の「HAPPY NEWS」に応募してもらう。	
	数を読む技術	情報化社会における数値情報の適切な扱い方はますます必要となっている。この授業では数値情報の利用に関する社会的状況を踏まえて、その適切な扱い方への理解を深めていく。 具体的には、図表資料の解釈、代表値(平均値でなく中央値を使うことの勧め)、散布度(分散、四分位範囲、幹葉図、箱ヒゲ図)、データの図示(ヒストグラム)、データの図示(二次元の分布; 散布図)、比率の推定(世論調査など各首長さ)と解釈、行列待ち現象の分析、ランダムな現象とそうでない現象の違い、コンピュータによるデータ処理、その他身近な数値現象にまつわる話題についてとりあげる。		

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	教養科目 社会科学群	電子出版の現代	紙媒体以外のインターネットやCD-ROMを通じた出版を総じて電子出版と呼ぶ。この授業では電子出版が生まれた社会背景を踏まえうえで現代の状況に対する総合的な理解を深めていく。 具体的には、書くことの歴史と現在、グーテンベルクの印刷革命と現在、インターネット百科事典Wikipediaについて、書物の歴史と現在、インターネットの歴史と現在、読書端末の歴史と現在、知的財産権(主に著作権)と電子書籍、DTPの誕生と現在の電子出版、電子出版で扱う素材(文書、画像など)、文字の歴史と現在(コンピュータ上の扱いを含む)、日本語入力の話、これからの出版とウェブページの編集(とくにEPUB)、その他身近な電子出版にまつわる話題についてとりあげる。	
		世界経済の歩み	この講義では、世界経済の現状を、その歴史的発展を振り返りながら概観する。講義の主要な内容としては、16世紀から19世紀におけるイギリス資本主義の勃興とバックス・ブリタニカの成立、19世紀後半から20世紀初頭にかけてのドイツ等の後発諸国の台頭を見た後、強力な耐久消費財産型重化学工業を有するアメリカを中心とした世界編成・世界システムであるバックス・アメリカナの成立、展開、崩壊という視点より第2次世界大戦後の世界経済の歩みを押さえたうえで、世界経済の現状を論じていく。	
		ミクロ経済学入門	この講義では、消費者、企業などの経済行動を分析対象とするミクロ経済学の基礎知識を身に付け、経済現象を経済理論に基づいて分析する基礎を養うことを目的とする。授業は5人の教員が分担してオムニバス方式で行う。具体的内容は、まず、経済学的な考え方に関する基礎知識として、機会費用や比較優位、トレード・オフなどの概念を解説する。その上で、経済学の考え方の基本である、需要と供給の理論について説明する。これを基に、価格変化や所得変化への消費者の反応など、市場取引の特徴について理解を深める。最後に、需要と供給の理論に基づいて、市場の効率性についての経済学的考え方を解説した上で、参入規制や輸入規制など現実に行われた政府の政策の効果を検討する。 (オムニバス方式/全15回) (35 西村直子/3回) ミクロ経済学の基礎概念として、市場メカニズムを通じた資源配分の問題や、機会費用や比較優位、トレード・オフ、インセンティブといった経済学特有の概念を解説する。 (73 海老名剛/3回) 需要と供給の基礎理論として、需要曲線と供給曲線の基本概念を説明し、価格以外の要因変化が、需要曲線・供給曲線をシフトさせることなどを解説する。 (42 廣瀬純夫/3回) 価格変化や所得変化への消費者の反応を弾力性の概念で整理するなど、市場取引の特徴を解説する。 (69 増原宏明/3回) 消費者余剰と生産余剰の概念を説明し、余剰分析を通じて、市場メカニズムが効率的な資源配分を実現することを解説する。 (71 大野太郎/3回) 余剰分析の手法を応用して、参入規制や輸入規制などの経済政策が、市場の効率性に及ぼす影響について解説する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 社会科学群	マクロ経済学入門	<p>この授業は、マクロ経済学の分野と、この分野に関係が深い経済データの見方に焦点を当てた経済学入門科目である。授業は5人の教員が分担してオムニバス方式で行う。授業の前半は、マクロ経済学の観点から経済現象をみる見方について解説する。授業の後半では、経済データがどのような形で収集・活用されているか、またどのような特徴をもっているかについて解説する。各担当教員の担当内容は次の通りである。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (34 徳井丞次/3回) 景気循環の指標、GDPを通して見えてくる世界、消費関数を巡る論争を取り上げて解説しながら、マクロ経済学の眼鏡を通して社会をみることの面白さを紹介する。</p> <p>(33 山沖義和/3回) 日本の財政制度・税制・国債制度を巡る議論を取り上げて解説しながら、これらの問題がマクロ経済とも密接に関係していることを説明する。</p> <p>(70 青木周平/3回) 近年、「経済成長」や「所得格差」を巡り論争が活発になっている。経済データとマクロ経済学を使ってこれらの論争を整理し、「経済成長」や「所得格差」に関する理解を深める。</p> <p>(37 椎名洋/3回) 統計データは官公庁を中心に様々な種類のもので作成されている。どんな種類の統計データがあるか、どのような方法でそれらが収集されているか、データの処理に関して注意すべき点を学ぶことで、経済学における実証分析のための予備知識を獲得する。</p> <p>(74 加藤恭/3回) 金融・ファイナンスにおけるデータは様々な特徴を持っている。例えば金融機関の損失データはファットテール性を持つ事が知られており、統計的手法の適用の際には注意が必要である。また近年の株式取引等に関する高頻度データの活用の際にも多くの課題が残されている。これらのデータの特徴や利用方法について学ぶ。</p>	オムニバス方式
	大学生が出会う経済・経営問題	<p>大学生が日常生活を営む上で実際に遭遇する幾つかの問題をとりあげ、それを経済学や経営学の視点で見るとどうなるかを、わかりやすく解説する。経済学・経営学がどのような学問であるかを、具体的な問題を通して知ることで、学部の専門的な教育への導入を図る。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (43 井上信宏/3回) 生活を支える制度の話として、社会保障の体系と課題について以下の三点を中心に解説する。①社会保障というしくみが生み出された背景、②社会保険、社会扶助、社会福祉の3つの制度、③「社会保障と税の一体改革」に見られる社会保障の課題。</p> <p>(31 金早雪/3回) 経済発展をとりあげ、先進国と後進国のせめぎあいを、以下の三点を中心に解説する。①経済発展の要因とそこから生まれるひずみや不均衡、②先進国型の産業にキャッチアップするための方策、③世界の貿易構造。</p> <p>(67 武者忠彦/3回) 都市空間の「近代化」と「空洞化」について、以下の三点を中心に解説する。①近代化による都市空間の画一化、②売らない、貸さない、直さないことによる空洞化、③場所についての社会的な記憶の蓄積の欠如。</p> <p>(2 関利恵子/3回) 会社がどんな経営状態にあるかを知るための方法を、以下の三点を中心に解説する。①就職活動で企業の経営状態を調べたいときにどうするか、②企業の経営成績や財政状態はどうすればわかるか、③安全な起業かどうか、儲かっているかどうかをどうやって調べるか。</p> <p>(3 岩田一哲/3回) 人間が働く時にやる気が上がったり下がったりする状況を考えるために、以下の三点を中心に解説する。①人はどのような欲求を持っているのか、②企業は人をどのように管理すべきか、③上司は部下をどのように管理すべきか。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	教養科目 社会科学群	公法入門	この講義では、自律的で責任感のある市民の育成という見地から、主として憲法学の基本的な諸概念を理解すること、また、法的なものの方を見方を学ぶことをねらいとする。このねらいを達成するために、日本国憲法を支えている立憲主義という考え方について、また、基本的人権について説明する。この講義を通じて、日本国憲法に関する基本的な知識を習得すること、法的な思考方法を身につけること、自らの考えを正確に表現する力を養うことを目的とする。	
		法学入門	この講義では、法学の勉強を始めるにあたってまず知っておいた方がよいと思われる事項について学習する。具体的には、法学にはどのような分野があるのか（公法・民事法・刑事法等）、法律とはなにか、法律の役割とはなにか、どうして法律ができるのか、判例とは何かなどについて、解説する。この講義を通じて、法的なものの方や考え方とはなにかを学び、今後、それぞれの法分野に関する科目を学習するための下地を築くことを目的とする。	
		大学生が出会う法律問題	大学生が生活をする上では、交通事故を起こしたり、自転車を盗まれたり、アルバイトで休憩なしに7時間以上働かされる等々、さまざまなトラブルに遭うことがある。これらのトラブルは、すべて法律問題であり、法学の知識を有することによって解決、あるいは防止できるものが多い。そこで、この講義では、それぞれの法分野を専門とする教員がオムニバス方式で、学生生活に関連する法律問題について解説する。学生生活を送る上で必要な法学に関する知識を学び、トラブルに対処する力を身につけることを目的とする。 (オムニバス方式/全15回) (12 丸橋昌太郎/2回) ガイダンス・総括 (10 赤川理/1回) 憲法分野 (13 大江裕幸/2回) 行政法分野 (5 池田秀敏/1回) 民法分野—契約一般、賃貸借、交通事故等 (11 栗田晶/1回) 民法分野—契約一般、賃貸借、交通事故等 (14 山代忠邦/1回) 民法分野—契約一般、賃貸借、交通事故等 (17 寺前慎太郎/2回) 商法分野 (16 濱田新/2回) 刑法分野 (9 小林寛/1回) 環境法分野 (15 島村暁代/2回) 労働法分野、社会保障法分野	オムニバス方式
		現代政治分析	日本の政治課題をどのように解決していくか、現代の政治課題に関する情報を収集分析し理解を深め、解決を考える技法を学ぶ。グローバル化が進展する中で、少子高齢化への対応、地方再生、環境やエネルギー問題、社会福祉や経済改革、外交や安全保障問題など政治課題は多岐にわたる。具体的な政策課題を取り上げ、現実的な課題解決方法を考察していく。毎回、課題を課し、授業の中で議論し理解を深めていく。自ら主体的に学び考え、それを口頭または文章で伝える能力を向上させる。	
自然科学群	数と形	古くから積み上げられてきた人類の英知を学び、また日常生活における数学の応用例を見ることで数学に対する見方が変わり、楽しさを知ることができる。授業名「数と形」のように前半では日常使用している「数」特に整数の性質について学び、その不思議さ深遠さを理解する。後半ではグラフ理論のように数と形の両方の概念をもつ具体的な問題等、いくつかの話題を取り上げて数名でのグループ作業を取り入れながら性質や応用について考える。		
	伝えておきたい数学	数学の基礎科目（微積分学や線形代数学）では伝えられないが、教養として是非おさえておきたい数学について、様々な観点から紹介する。数学の身近さ、創造の世界を感じ取ることで、数学の世界への理解を深めることをねらいとする。講義形式、討論形式、発表形式などを取り入れながら行っていく。講義形式では教養としての数学の知識を、討論形式ではグループに分かれて自分の考えを異分野の人にもわかりやすく話す能力を、発表形式ではプレゼンテーション能力を身につけられるようにする。		
	素数の不思議	この講義では素数という根源的な不思議な存在について、図書の識別記号である(JB) ISBN記号、RSA公開鍵暗号を主な題材として、いくつかの話題を提供する。素数はなぜ重要か、科学的な面からも、生活上の面からも考えてみたい。参加型の講義である。実際に手を動かして計算を行い、共に考え、話し合いを行う。講義の途上で2人組を作り、互いに課題（例えば数当てなど）を解決し合う取り組みを行う。これらの活動に積極的に取り組むことによって理解を深め、興味を喚起できる。		

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 自然科学群	教養としての物理学	物理学がどのようなものかを知り、自然を論理的に把握する立場を学ぶ。扱うテーマは、物理学の中の区分けで言うと「力学」「電磁気学」「相対論」である。それぞれにつき取り上げる話題は限られるが、単なる知識の寄せ集めにならないよう、話の流れを大切にしていきたい。物体の運動、電磁気現象、時間と空間、の各テーマについて、それぞれ数回ずつの授業をあてて解説して行く。レポートの作成は、物理学に対して、多面的、重層的な視点をもってもらうことを企図した、この授業の重要な構成要素、活動である。	
	観測天文学入門	最初に天体観測の概要に触れたあと、基本的に講義の大部分は教養としての天文学を学ぶことに割かれる（観測手法が主題ではないので注意して欲しい）。過去数年間に話題になった研究成果のうち、毎回ひとつのトピックを選び、それらがどのような着想および観測事実に基づいたものであるのかについて考えを深める。期間中に興味深い発見があった場合は適宜講義で扱う可能性がある。宇宙に興味のある、あらゆる学生の履修を歓迎する。	
	生活のなかの天文学	宇宙の始まりであるビッグバンから地球上の生命の起源にいたるまで、宇宙の進化の歴史を幅広く学ぶ。その知識をもとに、現代社会の諸問題と天文学のつながりを、毎回テーマを絞って考えを深める。講義では、基礎科学（物理、化学、生物、地学）から、それらと現代社会（社会活動、人間活動）との関係まで幅広く扱う。星々の世界は、さらに身近な存在になりつつある。分野横断研究（学際的研究）に興味を持つ、あらゆる学生の履修を歓迎する。	
	生態学入門	生物は環境からさまざまな影響を受けて生活しているが、生物の構造や機能、さらに生活様式にはその生息環境への適応が広く認められる。そうした生物の生活をその環境との関係で解き明かす科学が生態学である。この講義では生態学の基礎知識や基本概念を学ぶことを目的として、生物の多様性と進化、生物の集団（個体群）の性質、生物群集での個体群間のさまざまな相互関係、生態系の構造と機能について、パワーポイントやプリントなどを用いて講義を行う。	
	地域から学ぶ地球	山岳県である信州は多様な地質現象が観察される場所であり、そこに見られる地質現象を紹介し、それらが地球のどのような動きの結果かたち作られたのか、現場の現象からどのような地球の姿が明らかにされてきたのかについて学ぶ。この授業を通して、自然の見方、地球に関する研究の方法、さらに信州の自然の魅力を知ることができる。地球を調べる方法、日本最古の化石と地層、熱帯・火山島・深海の証拠、プレート運動、フォッサマグナ、火山、活断層と地震、災害などについて、実体験に基づく信州の地質の状況と、野外の現象から地球のどのような構造や動きが読み取れるかを解説する。	
	教養としての物質科学	物質をミクロな立場から考える視点を学び、我々が日常何気なく目にし、利用している物質・材料の背後にある科学、技術の一端を知る。鉄鋼材料や半導体など、我々の文明を支えている様々な物質・材料に焦点をあてる。また、そうした話題を通じて、「結晶学」「金属物理」「熱・統計力学」「量子論」等の学問分野の雰囲気も副次的に伝えたい。物質の構造、状態の変化、電子の振る舞いの各テーマについて、それぞれ数回の授業をあてて解説して行く。	
	ネットワーク社会における情報科学	高度情報化社会、ネットワーク社会と呼ばれる今日、情報処理やコンピュータに関する知識は社会生活を送る上で必要不可欠なものになっている。コンピュータの普及が私たちの生活に何をもたらしたのか、また将来的にはどのようなことが可能になるのだろうか。ここではコンピュータの動作原理を平易に解説する他、コンピュータ・ネットワークの基礎技術、情報社会の現状と問題点について講義する。コンピュータの歴史と進歩、コンピュータの動作原理、情報社会を支える様々な技術的背景、コンピュータネットワークの普及がもたらす意味について理解し、説明することができるようになることを目指す。	
	統計学の基礎	人間の行動を対象とした研究に携わる上で必要になる統計的なデータ解析手法を理解し、効果的な研究計画をたてるための知識を習得する。この授業を受講することで、数値データの整理法、統計学的検定の考え方や活用法などの知識を獲得することができる。各回の授業は、各種統計手法について解説した後、パソコンを用いてデータ解析の実際を学ぶ。データ解析には表計算ソフトを用いるが、基本的な使い方は説明しないので、各自復習しておいて欲しい。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 自然科学群	検索の科学	検索サイトGoogleを実際に多角的に活用した事例の紹介を通じてインターネット上の検索技術の概要を把握する。その後、検索の各技術の背景にある科学的側面の理解を進めていく。単なる検索操作では終わらない、その背後にある統計学や情報科学の学習まで進める。検索技術は現在進行中のものであり、また世の中で常用される技術を対象としていることを踏まえて、環境、教育、地域、ジェンダーの問題など、なるべくタイムリーな話題を扱いながら授業の展開を進める。	
	脳の不思議を探る(認知神経科学入門)	脳の謎を材料とし、自分で考え・探ることで、「考える力」そして「問題を解決する力」を磨き、納得解を得ること、「知識」ではなく「知恵」を獲得することを狙いとする。 「脳」についての基本知識のみは講義しておき、「脳の不思議」にまつわる理・情・欲、軽率な脳、騙される脳その他様々なトピックを基に、各自の独創的で大胆な発想に基づいた積極的な議論を重ねることによって受講者全員で理解を深める「受講者参加型」の形式を取る。受講者は受身ではなく、自ら疑問を持ち主体的に考えることが必要である。	
	脳の不思議をもっと探る(認知神経科学入門)	脳の謎を材料とし、受講者の関心を交えつつ、前期に扱わなかった中からトピックを抽出して進めていく。自分で考え・探ることで、「考える力」そして「問題を解決する力」を磨き、納得解を得ること、「知識」ではなく「知恵」を獲得することを狙いとする。 前期同様、「脳」についての基本知識のみは講義しておき、「脳の不思議」にまつわる理・情・欲、軽率な脳、騙される脳その他様々なトピックを基に、各自の独創的で大胆な発想に基づいた積極的な議論を重ねることによって受講者全員で理解を深める「受講者参加型」の形式を取る。受講者は受身ではなく、自ら疑問を持ち主体的に考えることが必要である。	
	宇宙から原子への旅	私たちを取り巻く世界を大きさに注目して、宇宙から原子にいたる様々な現象を全学教育機構の自然科学系の複数の教員が分担して解き明かす。文系の学生にも配慮した内容である。 (オムニバス方式/全15回) (26 佐々木洋城/3回) 導入 世界のスケール、通信と数学 (66 三澤透/2回) 銀河系と第2の地球探し、天地明察-天文編- (59 片長敦子/1回) 天地明察-和算編- (28 大塚勉/1回) 地球環境の変遷 (30 湯田彰夫/1回) アルゴリズムとヒューリスティックス (39 高野嘉寿彦/1回) 円周率の歴史をみてみよう (32 鈴木治郎/1回) スケールフリーの世界 自己相似の幾何学 (49 今津道夫/1回) 微生物の世界 (52 伊藤靖夫/1回) 身の回りの問いと生命の存在理由 (20 村上好成/1回) 高分子の鎖 (40 勝木明夫/1回) 光の化学、磁気科学 (56 安達弘通/1回) 原子から宇宙へ	オムニバス方式
体育・スポーツ群	ソフトボール	本実践演習はグループ毎のディスカッションを通して問題や課題を発見し、その解決法を探りながら学習していく。まず2人組でキャッチ・ボールしながら「ウインドミル投法」の体験、4人組での「トスとフリー・バッティング」の技術獲得。更にチーム毎に打撃、守備、走塁等の基本技術を磨き戦術を考え、効果的な運動処方を書き出しながら「ゲーム」を中心とした授業を展開していく。	
	テニス	本実践演習は、技術的に経験知が少ない者でも早い段階からゲーム感覚に親しみ、「硬式テニス」に必要な基本的技術を分解練習しながら学び取っていく。また、リーダー中心に個人の欠点など「課題」を見つけ、仲間と共に協力しながら探求していく。加えて、「ゲームでの戦術」も考え、基礎練習と応用練習とを織り交ぜながら実際場面に対応できる感覚と積極的な行動力を養っていく。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 体育・スポーツ群	アダプテッドスポーツ	この授業は、アダプテッドスポーツの体験を通して、障害のある人との関わり方や、新しいスポーツについて考えていくものである。車いすやアイマスクを使用したの校内移動や、アダプテッドスポーツの体験を通して、スポーツの楽しさの広がりや、特別なニーズのある人との関わり方を学ぶ。さらに、設定に応じたアダプテッドスポーツをグループで考え、発表し共有していく。そのため、毎回体を動かしながら学習していくとともに、誰でも楽しめる新しいスポーツを考える柔軟な思考と積極性を必要とする。	
	弓道	本授業では日本古来の武道として、また現代社会における生涯スポーツとしての弓道の基礎を体験することによって、文化としての弓道および身体と精神の相互作用を学ぶ。全日本弓道連盟制定の射法を基準に、射術及び競技方法やルール、弓具の扱い方を習得する。徐々に的との距離を伸ばしながら練習していき、正しい姿勢や心構え、射術等を習得していく。最後にまとめとして、射会を行い、射会の運営も含めて弓道の楽しさを味わえるようにする。多くの学生にとって初めての競技であるため、技術向上のために授業中の積極的な取り組みと、自主練習を必要とする。	
	コーディネーションエクササイズ	本授業では、四肢の協調や思考と行動の連動に注意を向けた運動ができるようになることを目的として、身体の動かし方に対する「気づき」と総合的な体力向上の獲得を目指す。種々の用具を用い、簡単に実践できるエクササイズから少し専門的なエクササイズを行う。例えば、バランスマットを使用したバランスエクササイズや、ジャンプ系と敏捷系を組み合わせた複合エクササイズを行う。また、子どもの頃から慣れ親しんできた遊びの中からピックアップしたものをアレンジし、授業のねらいを達成するための「オリジナルエクササイズ」を考案する。オリジナルエクササイズの考案と実践はグループ単位で行う。	
	剣道形の世界	本授業では、日本の伝統的運動文化である武道の学習法の一つ、形の実践を行う。形稽古を通して武道の礼法・作法を学ぶ中で、日本の伝統的運動文化の価値について理解を深めることを目的とする。「木刀による剣道基本技稽古法」と「日本剣道形」を習得する。グループで学習を進め、「木刀による剣道基本技稽古法」の成果を演武会で披露し、「日本剣道形」の成果を演武大会でグループ毎に競い合う。日本剣道形は、習熟度に応じて小太刀の形の学習も行う予定である。また、素振りや足さばき等の剣道の基本動作も行い、動きの質の向上を目指す。	
	バドミントン	本授業ではバドミントン競技の特性を理解し、ゲームとグループ活動の実践を通して技能・戦術等の個人的資質やコミュニケーション能力を向上させ、自己実現を図るとともに、生涯スポーツのリーダーとして、具体的実践方法を習得することを目指す。具体的には、バドミントン競技の技能・戦術とその応用力並びにルール・スコアリングについて習得し、グループ毎に練習計画を立案し、チーム力の向上を図る。授業ではグループ学習を多く取り入れ、8人のグループ毎に課題を設定してグループ対抗戦を行う。	
	コンディショニングバレエ	バレエダンサーの均整のとれた身体、美しい姿勢はどのようなトレーニングによりつくられているかを学ぶことにより、自身の身体への認識を高め、日常姿勢の癖を矯正するためのトレーニング方法を見出すことを目的とする。実際に身体を使って表現し踊り、バレエ動作と自己表現のつながりについて（踊ると動くの違い）を学び、ダンサーの動きを体感し、自身の身体との違いを発見する。バレエストレッチ、トレーニングを実践し、自身の身体（筋肉、関節）の左右のバランスを確認し問題を解決するためのトレーニング方法を学ぶ。グループに分かれて各々のトレーニング方法についてディスカッションを行う。最終課題として、グループごとに音楽に合わせた作品を創り（ストレッチ・トレーニング方法やダンス）発表する。	
	サッカー	本講座は、ミニゲームを展開し、サッカーの基本技術や基本戦術の習得に取り組む。基本的には身方や敵の動きに応じて適切な状況判断ができるようにし、周囲とのコミュニケーションを図り、互いに協力してカバーしあい、全員で行うゲームの楽しさを理解することを目指す。グループ毎にミニゲームの問題点を挙げ、その解決方法を考える。チームを作り、ポジションの役割を理解し、学生が主体的にフォーメーションを決めて、11対11のゲームを行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 体育・スポーツ群	バレーボール	本講座は、バレーボールの基礎技術の習得に簡単に楽しく取り組み、ミニゲームを展開して学生が主体的にゲーム運営にかかわることで、他者とのコミュニケーションを図り、互いがカバーしあうこと、全員で楽しむことができるゲーム環境を作ることを学ぶ。スポーツを楽しむ喜びを感じ、生涯スポーツへの導入を目指す。ボールコントロールからスタートし基礎技術のコツをつかみながら応用技術を加えチームを作り、学生が主体となりコンビネーションやフォーメーションを決める。男子は6人制中心に女子はソフトバレーボールを中心にゲームを楽しむ。	
	トレッキング	本授業では「信州の自然体感」をテーマに、トレッキングを通して自己の身体を再確認し、歩行運動の重要性の認識と生涯学習への導入を図るとともに、信州の自然環境を体感することにより環境問題についての理解を深めることをねらいとする。グループ活動を導入し、コミュニケーション能力の向上も目指す。夏期休暇中に4日間の集中形式で実施する。松本市周辺の自然に恵まれた地域(安曇野、白馬八方尾根、上高地、乗鞍高原)を訪れ、約8kmから15kmのトレッキングを行い、信州の豊かな自然を体感する。幾つかのグループを編成し、歩行のペース、休憩の取り方等について各グループで検討し実践するとともに、環境問題についても考える。また、宿泊を伴うので生活マナーについても学習する。	集中
	ゴルフ	ゴルフのスイング、道具の選び方を学ぶ。またコースに出ることによって、実際のプレーを体験し、将来社会人の持つべき教養の一つとしてのゴルフを身につける。また、グループでゴルフの練習方法などのディスカッションを通して深くゴルフを理解するとともに、ゴルフ場でのマナーを学び、生涯にわたってゴルフを楽しむ素養を養う。大学でスイングの基礎を習得した後、ゴルフ練習場(松本中央ゴルフ場)で、練習を行い、その後、松本カントリークラブで、ハーフラウンドと1ラウンドの実習を行う。	集中
	スポーツフィッシング	本授業は、信州の自然を生かした溪流釣り(えさ釣り、フライフィッシング)を体験し、自然との関わりの中でどのように自己をコントロールするか学ぶとともに、生涯にわたってレジャー活動を楽しむための導入を図る。また、併せて、信州の自然に接することによって環境に対する意識を高めることも目的とする。3泊4日の集中授業で行い、溪流つりの実践方法を学ぶとともに、グループごとに自然との協調性をどのようにしたら育むことができるかについてディスカッションと発表を行い、環境への意識を高める。(場所:伊那市周辺の河川)	集中
	マリンスポーツ	本授業は、信州の自然を生かしたマリンスポーツのうち、ヨット、カヌー、ボードセーリングといった種目を体験し、それぞれの種目の特性やルール、マナーおよびその考え方について学び、生涯スポーツへの導入を図ることを目的とする。8月に3泊4日の集中授業で、ヨット、カヌー、ボードセーリングの基礎を学び、協力してマリンスポーツを行うにはどうすれば良いか、グループワークによるディスカッションを行う。また、役割分担によって各グループでの自己の責務を自覚させ、積極的に実習に取り組むよう仕向ける。(場所:高遠湖)	集中
	信大マラソン	生涯スポーツとして人気のある「マラソン」について、心身への負荷、トレーニング法などについて栄養学、生理学、トレーニング科学などの面から学習し、その実践としてスカイパークでのマラソン完走を目標にする。講義と実践を通し、生涯スポーツとしてのマラソンの価値と可能性について考察する。授業は1ヶ月に一日ごと4日間の集中授業として行う。当然、授業時間だけでは完走できる体力はつかないの、授業時間以外の自主トレーニングが前提となる。また、走力に応じてグループ分けを行うので、自分のできる範囲での完走を目指す。	集中
	アウトドアの達人	本授業は、信州の自然(特に乗鞍高原)における野外活動の体験をとおして「アウトドアの達人」になるために必要な野外活動の基礎的知識、技術、ルール・マナーとその考え方について学び、生涯スポーツへの導入を図ることをねらいとする。全てのプログラムはグループワークをとおして行うため、コミュニケーション能力・チームワーク力・リーダーシップ力・フォロアシップ力を養うことができる。2泊3日の集中形式で2回実施し、夏期には説図、コンパスワーク、溪流釣り、ロープワーク、夏のソロ活動の知識と技術の習得を図る活動を、冬期にはクロスカントリースキーツアー体験、アニマルトラッキング、氷瀑観察、灯籠作りの知識と技術の習得を図る活動を行う。	集中

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養科目 体育・スポーツ群	サバイバル活動	本授業は、海浜での主に『食』に関するサバイバル活動をとおして野外活動に必要な知識、技術とその考え方を実践的に学び、生涯スポーツへの導入を図ることをねらいとする。活動の計画立案・実施に至るまでグループワークをとおして行うため、コミュニケーション能力・チームワーク力・リーダーシップ力・フォロアーシップ力を養うことができる。夏季休業期間中に4泊5日の集中形式で実施し、食（特にタンパク質）のサバイバルをとおして生きる力を養う。到達目標の概要は、スキндаイビングの知識と技術の習得、狩猟活動の知識と技術の習得、野外料理の知識と技術の習得、野外活動に必要な知識と技術の習得、グループワーク力の習得である。	集中
	スクーバダイビング	本授業は、海洋スポーツの一つであるスクーバダイビングに必要な基礎的知識、技術、ルール・マナーとその考え方について学び、生涯スポーツへの導入を図ることをねらいとする。全てのプログラムはグループワークをとおして行うため、コミュニケーション能力・チームワーク力・リーダーシップ力・フォロアーシップ力を養うことができる。3泊4日の集中形式で実施し、主にスクーバダイビングのCカード取得のための理論講習と実技講習を行う。到達目標は、スキндаイビングの知識と技術の習得、スクーバダイビングの知識と技術の習得、海洋生物の知識の習得、海洋環境の知識の習得、グループワーク力の習得である。	集中
	レジャースポーツ	本授業は、『水・空・雪』をテーマに、信州の自然を活かした様々なレジャースポーツを体験する。それらの体験をとおして、それぞれの種目に必要な基礎的知識、技術、ルール・マナーとその考え方について学び、生涯スポーツへの導入を図ることをねらいとする。全てのプログラムはグループワークをとおして行うため、コミュニケーション能力・チームワーク力・リーダーシップ力・フォロアーシップ力を養うことができる。『水・空・雪』をテーマに、1泊2日の集中形式で3回実施する。到達目標は、それぞれテーマ別に、『水』：カヌー、ヨット、ボードセイリングの基礎理論と技術の習得、『空』：パラグライダーの基礎理論と技術の習得、『雪』：クロスカントリースキーの基礎知識と技術の習得である。	集中
	スポーツボウリング	本授業は、ボウリングのルール、マナーおよびその技術について学び、生涯スポーツへの導入を図ることを目的とする。ゲームを通して、学生のコミュニケーション能力の向上を図り、ボウリングを通して、身体を用いた自己表現、自己実現や問題解決の方法を学ぶことを目的とする。ゲームの運営を分担して行い、リーダーシップ力を養うとともに、グループでのディスカッションを通して、身体感覚と実際の運動結果との相違について理解を深め、運動学習の方法の理解を高める。	
	ニュースポーツ	ニュースポーツは、老若男女問わず誰もが楽しめるスポーツであり、数多くの種目が考案され、世界的な広がりとなっている。本授業では、いくつかのニュースポーツを取り上げて実践する。基本ルールを理解し、仲間とコミュニケーションを図りながら取り組み、最終的には生涯スポーツを実践するきっかけとなることを目的とする。はじめにニュースポーツの各種目を紹介する。各種目でルールを理解しながら実践し、さらには技術レベルも向上するように進めていく。ニュースポーツは単純明快なルールであるにも関わらず、その実奥深いものであることを認識させ、実践にあたっては、各種目が考案されてきた歴史的背景についても学ぶ。小テスト1回、小レポート1回を課す。	
	アスレティックトレーニング	スポーツは体力を保持増進し健康な日々を送るのに効果的であるが、それと同時にスポーツを原因とした外傷および障害の発生により、健康を害する要因ともなり得る。本授業では、スポーツ外傷・障害を予防するトレーニングや競技力向上の基礎となるトレーニングを体験し、総合的な体力向上とトレーニングを計画・実施できる力を身に付けることをねらいとする。競技スポーツ現場にて運動能力の向上を目的として行なわれる様々なトレーニングを体験する。また、授業の最初と最後でフィットネスチェックおよびフィールドテストを実施し、自身の能力がどのように変化するかを体験する。グループでコミュニケーションをとりながら授業を進める。	

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	教養科目 体育・スポーツ群	バスケットボール	本授業では、グループに分かれディスカッションを通して問題や課題を発見し、その解決法を探りながら学習していく。バスケットボールのファンダメンタルを習得しながら個人技術を磨き、本場の「スリー・オン・スリー」なども楽しむ。チーム編成の中でリーダーを中心に各個人の役割を考え、効果的な人材を模索する。さらに、チーム力を高めながら「戦術」を考え、駆け引きのある「ゲーム」を楽しむ、運動量の確保と共に経験知の質を一層高めていく。	
		ネイチャースキー	ネイチャースキーとは、整備されていない雪山や森の中を、踵が固定されていないスキー用具を使って移動(歩く・登る・滑る)する活動である。この授業では、信州の冬の間や森を楽しく安全に移動できるようにすることを旨とし、登坂や滑降(テレマーク技術)に必要な技能を学ぶとともに、地図や方位磁石の使い方などを実践的に学ぶ。自然の中での活動を通して、健全な身体的感性を育み、自己の健康観を確立するとともに、人と人とのコミュニケーション能力を育てることを目的とする。スキー場周辺において3泊4日の集中形式で実施する。	集中
		スノー・スポーツ	本授業では、信州の自然に触れ、対話しながら思い通りのシュプールを描き、みずから環境的な心を深め理解できるようになること、スノー・スポーツに関する知識・技術・ルール・マナーを身につけ、生涯にわたる運動習慣の形成を考えられるようになること、グループ・ワークを通してコミュニケーション能力、チームワーク力、リーダーシップを身に付け、本学の学生・卒業生として期待される人間像を表現し、活力ある健全な社会の形成に貢献できるようになることを目指し、総じて「ひとり立ち出来るスキーヤー」となることをねらいとするアルペンスキーのグループ・ワーク授業である。技術レベル毎に分かれてディスカッションを行い、問題や課題を発見し解決法を探りながら学習していく。	集中
		フライングディスク	本授業はフライングディスクを通して、身体を用いた自己表現、自己実現や問題解決の方法を学ぶことを目的とする。生涯スポーツとして最適なフライングディスクの種目の様々な特定を学ぶ。フライングディスクの競技のうちチームスポーツであるアルティメットを通じて、コミュニケーション能力の向上も図る。生涯にわたって実践できる健康づくり・体力作りへの意識作りと方法について学習する。アルティメットのリーグ戦を通してコミュニケーション能力の習得を目指す。	
基礎科目	外国語科目	英語 フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅠ(上級)	文法、コロケーション、語彙や構文に配慮しながら、正しい英文が書けるようになるように演習を行う。リーディングに関しては、文レベルできちんと英文が理解できるようになるように演習を行う。これらの演習は、英語の読解力および作文力のみならず、スピーキング力や英語によるディスカッション力の養成にも資するものである。なお、テキストは上級レベルに対応したものを使用する。	
		フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅠ(中級)	文法、コロケーション、語彙や構文に配慮しながら、正しい英文が書けるようになるように演習を行う。リーディングに関しては、文レベルできちんと英文が理解できるようになるように演習を行う。これらの演習は、英語の読解力および作文力のみならず、スピーキング力や英語によるディスカッション力の養成にも資するものである。なお、テキストは中級レベルに対応したものを使用する。	
		フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅠ(初級)	文法、コロケーション、語彙や構文に配慮しながら、正しい英文が書けるようになるように演習を行う。リーディングに関しては、文レベルできちんと英文が理解できるようになるように演習を行う。これらの演習は、英語の読解力および作文力のみならず、スピーキング力や英語によるディスカッション力の養成にも資するものである。なお、テキストは初級レベルに対応したものを使用する。	
		フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅡ(上級)	パラグラフレベルのライティングに対応したテキストを用い、原因と結果、記述、議論など、様々な種類のパラグラフの構成や、リスティング・クラスタリングなどのアイデア推敲作業を学び、きちんとした英語のパラグラフが書けるように演習を行う。リーディングに関しては、パラグラフレベルできちんと英文が理解できるようになるように演習を行う。これらの演習は、英語の読解力および作文力のみならず、スピーキング力や英語によるディスカッション力の養成にも資するものである。なお、テキストは上級レベルに対応したものを使用する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基礎科目 外国語科目	フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅡ (中級)	パラグラフレベルのライティングに対応したテキストを用い、原因と結果、記述、議論など、様々な種類のパラグラフの構成や、リスニング・クラスタリングなどのアイディア推敲作業を学び、きちんとした英語のパラグラフが書けるように演習を行う。リーディングに関しては、パラグラフレベルできちんと英文が理解できるようになるように演習を行う。これらの演習は、英語の読解力および作文力のみならず、スピーキング力や英語によるディスカッション力の養成にも資するものである。なお、テキストは中級レベルに対応したものを使用する。	
	フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅡ (初級)	パラグラフレベルのライティングに対応したテキストを用い、原因と結果、記述、議論など、様々な種類のパラグラフの構成や、リスニング・クラスタリングなどのアイディア推敲作業を学び、きちんとした英語のパラグラフが書けるように演習を行う。リーディングに関しては、パラグラフレベルできちんと英文が理解できるようになるように演習を行う。これらの演習は、英語の読解力および作文力のみならず、スピーキング力や英語によるディスカッション力の養成にも資するものである。なお、テキストは初級レベルのものを使用する。	
	リスニング&リーディングⅠ (上級)	上級レベルにおいて、バラエティに富んだ題材を扱った英文を用いて、ジャンルに応じた読解法・聴解法を修得する。また、語彙やイディオムなどの確認・整理も行う。 学部や学科によっては、求められるものや興味などが異なる場合があるので、それらにも配慮する。 なお、必要に応じて、専門に関連した教材や資格試験対策教材などの補助教材も適宜使用する場合がある。 初回時にテキストや内容についてガイダンスを行う。	
	リスニング&リーディングⅠ (中級)	中級レベルにおいて、バラエティに富んだ題材を扱った英文を用いて、ジャンルに応じた読解法・聴解法を修得する。また、語彙やイディオムなどの確認・整理も行う。 学部や学科によっては、求められるものや興味などが異なる場合があるので、それらにも配慮する。 なお、必要に応じて、専門に関連した教材や資格試験対策教材などの補助教材も適宜使用する場合がある。 初回時にテキストや内容についてガイダンスを行う。	
	リスニング&リーディングⅠ (初級)	初級レベルにおいて、バラエティに富んだ題材を扱った英文を用いて、ジャンルに応じた読解法・聴解法を修得する。また、語彙やイディオムなどの確認・整理も行う。 学部や学科によっては、求められるものや興味などが異なる場合があるので、それらにも配慮する。 なお、必要に応じて、専門に関連した教材や資格試験対策教材などの補助教材も適宜使用する場合がある。 初回時にテキストや内容についてガイダンスを行う。	
	リスニング&リーディングⅡ (上級)	Iで学んだ内容を踏まえ、上級レベルにおいて、バラエティに富んだ題材を扱った英文を用いて、ジャンルに応じた読解法・聴解法を修得する。また、語彙やイディオムなどの確認・整理も行う。 学部や学科によっては、求められるものや興味などが異なる場合があるので、それらにも配慮する。 なお、必要に応じて、専門に関連した教材や資格試験対策教材などの補助教材も適宜使用する場合がある。 初回時にテキストや内容についてガイダンスを行う。	
	リスニング&リーディングⅡ (中級)	Iで学んだ内容を踏まえ、中級レベルにおいて、バラエティに富んだ題材を扱った英文を用いて、ジャンルに応じた読解法・聴解法を修得する。また、語彙やイディオムなどの確認・整理も行う。 学部や学科によっては、求められるものや興味などが異なる場合があるので、それらにも配慮する。 なお、必要に応じて、専門に関連した教材や資格試験対策教材などの補助教材も適宜使用する場合がある。 初回時にテキストや内容についてガイダンスを行う。	
	リスニング&リーディングⅡ (初級)	Iで学んだ内容を踏まえ、初級レベルにおいて、バラエティに富んだ題材を扱った英文を用いて、ジャンルに応じた読解法・聴解法を修得する。また、語彙やイディオムなどの確認・整理も行う。 学部や学科によっては、求められるものや興味などが異なる場合があるので、それらにも配慮する。 なお、必要に応じて、専門に関連した教材や資格試験対策教材などの補助教材も適宜使用する場合がある。 初回時にテキストや内容についてガイダンスを行う。	

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	基礎科目 外国語科目	英語 アカデミック・イングリッシュ I (上級)	上級レベルにおいて、エッセイ・ライティング用のテキストを用いて演習を行うが、1年次に引き続き、パラグラフの構成の学習から始める。リーディングに関しては、パラグラフ単位で意味をつかみ、かつパラグラフ間の整合性に注意を向けつつ、一定の長さの英文を読む練習を行う。	
		アカデミック・イングリッシュ I (中級)	中級レベルにおいて、エッセイ・ライティング用のテキストを用いて演習を行うが、1年次に引き続き、パラグラフの構成の学習から始める。リーディングに関しては、パラグラフ単位で意味をつかみ、かつパラグラフ間の整合性に注意を向けつつ、一定の長さの英文を読む練習を行う。	
		アカデミック・イングリッシュ I (初級)	初級レベルにおいて、エッセイ・ライティング用のテキストを用いて演習を行うが、1年次に引き続き、パラグラフの構成の学習から始める。リーディングに関しては、パラグラフ単位で意味をつかみ、かつパラグラフ間の整合性に注意を向けつつ、一定の長さの英文を読む練習を行う。	
		アカデミック・イングリッシュ II (上級)	上級レベルにおいて、エッセイ・ライティング用のテキストを用いて演習を行うが、前期に引き続き、パラグラフの構成の学習から始める。リーディングに関しては、パラグラフ単位で意味をつかみ、かつパラグラフ間の整合性に注意を向けつつ、一定の長さの英文を読む練習を行う。	
		アカデミック・イングリッシュ II (中級)	中級レベルにおいて、エッセイ・ライティング用のテキストを用いて演習を行うが、前期に引き続き、パラグラフの構成の学習から始める。リーディングに関しては、パラグラフ単位で意味をつかみ、かつパラグラフ間の整合性に注意を向けつつ、一定の長さの英文を読む練習を行う。	
		アカデミック・イングリッシュ II (初級)	初級レベルにおいて、エッセイ・ライティング用のテキストを用いて演習を行うが、前期に引き続き、パラグラフの構成の学習から始める。リーディングに関しては、パラグラフ単位で意味をつかみ、かつパラグラフ間の整合性に注意を向けつつ、一定の長さの英文を読む練習を行う。	
	ドイツ語	ドイツ語初級(総合) I	ドイツ語の構造について:「学習」した個々の項目を自由自在に組み合わせ、読み・書き・話し・聞くことができるようになるのが目標である。そのためには、授業で扱った内容を次の授業までしっかりと復習し、疑問点を明確にし、定着させて進んでいかなければならない。 発音について:ドイツ語の発音の出発点は「ローマ字読み」である。その例外となる発音に着目して習得を目指してほしい。そのためには、目で読むだけでなく、常に音読して、ドイツ語のリズムを共に身につけていく必要がある。 授業の全体像:最初の数回の授業で発音の基礎を学習するが、その後も引き続いてチェックを行う。数詞の暗唱や短い文章の朗読といった口頭テストも行う。 基本的に1課終了ごとに確認テストを行うことで、自己評価(チェック)に役立ててもらおう。その他に、発音チェックの口頭試験、期末試験を行う。	
		ドイツ語初級(総合) II	文法学習について:前期に習得したことを土台として、さらに「学習」した個々の項目を自由自在に組み合わせ、読み・書き・話し・聞くための能力を延ばすことが目標である。そのためには、授業で扱った内容を次の授業までしっかりと復習し、疑問点を明確にし、定着させて進んでいかなければならない。 発音について:前期に引き続き、重点をおく。 授業の全体像:最初の2回の授業で前期の復習を行うが、以後、授業内で既習事項の確認を行う。積極的な自習によって新規学習事項との関連を確認するように。 基本的に1課終了ごとに確認テストを行うことで、自己評価(チェック)に役立ててもらおう。その他に、発音チェックの口頭試験、期末試験を行う。	

授 業 科 目 の 概 要						
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)						
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考		
共通 教育 科目	基礎 科目	外国 語科 目	ドイ ツ語	ドイツ語初級(文法) I	国際化が進む現代社会で生きていくために、多様なもの見かたができるようになることを目指し、英語以外の外国語(この授業ではドイツ語)の基礎を習得する。言語の基本は「音」であるので、発音も重視しつつ、使えるドイツ語の基礎を習得してもらいたい。夏休み中も自主学習を続けることで、独検4級の秋期試験に合格する程度のドイツ語力をつけることも目標の一つである。 学ぶべきこと： 1. ドイツ語の基本的な構造 2. ドイツ語の発音 3. 言語を媒介としたグローバル感覚	
				ドイツ語初級(文法) II	ドイツ語初級(文法) Iに引き続き、国際化が進む現代社会で生きていくために、多様なもの見かたができるようになることを目指し、英語以外の外国語(この授業ではドイツ語)の基礎を習得する。言語の基本は「音」であるので、発音も重視しつつ、使えるドイツ語の基礎を習得してもらいたい。夏休み中も自主学習を続けることで、進級後の独検3級の春季試験に合格する程度のドイツ語力をつけることも目標の一つである。 学ぶべきこと： 1. ドイツ語の基本的な構造 2. ドイツ語の発音 3. 言語を媒介としたグローバル感覚	
				ドイツ語初級(読解・会話) I	この授業では、初級レベルにおいて口頭でドイツ語のセンテンスを作ることに重点を置いて、授業を行う。 授業中、発音練習、グループワーク、インタビュー活動等の口頭でのやりとりに、多くの時間を費やす。しっかりとした基礎的なドイツ語のレベルを目指すため、授業では他の3つの言語能力(聞く、書く、読む)も訓練する。また、文法の要素も重要不可欠である。 受講者には授業への積極的な参加が要求される。また、授業ではほぼ毎回復習小テストを行い、小さな宿題を出す。セメスターの期間中、各課終了後の小テストも行う。各課終了後の小テストや期末試験は、筆記試験と口答試験からなる。	
				ドイツ語初級(読解・会話) II	この授業では、Iで学んだ内容を踏まえ、初級レベルにおいて口頭でドイツ語のセンテンスを作ることに重点を置いて、授業を行う。 授業中、発音練習、グループワーク、インタビュー活動等の口頭でのやりとりに、多くの時間を費やす。しっかりとした基礎的なドイツ語のレベルを目指すため、授業では他の4つの言語能力(聞く、書く、読む)も訓練する。また、文法の要素も重要不可欠である。 受講者には授業への積極的な参加が要求される。また、授業ではほぼ毎回復習小テストを行い、小さな宿題を出す。セメスターの期間中、各課終了後の小テストも行う。各課終了後の小テストや期末試験は、筆記試験と口答試験からなる。	
			ドイツ語中級(読解) I	ドイツ語読解能力について：外国語は、単なる学ぶ対象ではなく、実際に用いてこそ初めて学習する価値が生まれる。そのためにも、既習事項とその習熟度を自ら理解し、統合的に用いる能力を身につけるトレーニングを行う。また、辞書をひく際も、最初の訳語を見て用いるのではなく、納得がいくまでしっかりと調べて、実際に書かれている内容が腑に落ちるまで考える習慣をつけてほしい。 国際理解感覚について：異文化理解は、外国語の文章を読む際にも問題になる。日本語の感覚だけで読もうとしても書き手の論や感覚を受けとめることはできない。自分がすでに持っている情報で処理しようとするのではなく、常に新しいものを求め、わからないことは納得するまで調べ、自分の中の国際感覚の奥行きを広げる意識を身につける。 授業全体について：学期の前半は、1年次の学習事項の復習と補足を行いつつ、読解に慣れていってもらおう。 Lektionが終わるごとに確認の小テストを行い、自己確認・復習に役立ててもらおう。 後半では、「学習のために作られたのではないドイツ語文」を読み、ドイツ語のテキストに慣れていってもらおう。		

授 業 科 目 の 概 要						
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)						
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考		
共通教育科目	基礎科目	外国語科目	ドイツ語	ドイツ語中級（読解）Ⅱ	この授業はドイツ語中級（読解）Ⅰの継続であり、Ⅰで学んだ内容を踏まえ、初級ドイツ語文法の復習と、新たに初中級ドイツ語文法の習得を目指す。さらに、この授業は、和文独訳、聞き取り・書き取り練習、会話表現練習によって、初中級のドイツ語運用能力の獲得と、「外国語を用い、的確に読み、書き、聞き、他者に伝えることができる言語能力」と、「対話を通じて他者と協力し、目標実現のために方向性を示すことができるコミュニケーション能力」を持つ教養人育成を目指す。ドイツ語の日常的言い回しによるテキストを読み、和訳できるようにする。	
			ドイツ語中級（会話）Ⅰ	ドイツ語のセンテンスを中級レベルにおいて口頭と筆記で作ることに重点をおいて授業を行う。授業中、発音練習、グループワーク、インタビュー活動等の口頭でのやりとりに、多くの時間を費やす。しっかりとした基礎的なドイツ語のレベルを目指すため、授業では他の3つの言語能力（聞く、書く、読む）も訓練する。また、文法の要素も重要不可欠である。 受講者には授業への積極的な参加が要求される。また、授業ではほぼ毎回復習小テストを行い、小さな宿題を出します。セメスターの期間中、各課終了後の小テストも行う。各課終了後の小テストや期末試験の内容は筆記試験と口答試験からなる。		
			ドイツ語中級（会話）Ⅱ	ドイツ語のセンテンスをⅠで学んだ内容を踏まえ、中級レベルにおいて口頭と筆記で作ることに重点をおいて授業を行う。授業中、発音練習、グループワーク、インタビュー活動等の口頭でのやりとりに、多くの時間を費やす。しっかりとした基礎的なドイツ語のレベルを目指すため、授業では他の3つの言語能力（聞く、書く、読む）も訓練する。また、文法の要素も重要不可欠である。 受講者には授業への積極的な参加が要求される。また、授業ではほぼ毎回復習小テストを行い、小さな宿題を出します。セメスターの期間中、各課終了後の小テストも行う。各課終了後の小テストや期末試験の内容は筆記試験と口答試験からなる。		
	フランス語			フランス語初級（総合）Ⅰ	フランス語の基礎文法を理解したうえで、日常においてよく使われる会話文の発音・語彙・表現を学ぶ。それらを踏まえて、リスニング力も磨いていく。また、視聴覚資料を取り入れながら、フランスの生活や文化も紹介する。 「フランス語初級（総合）Ⅰ」においては、フランス語のルールを学んだうえで、視聴覚資料等を通じて、生活や文化について解説する。	
				フランス語初級（総合）Ⅱ	フランス語の基礎文法を理解したうえで、日常においてよく使われる会話文の発音・語彙・表現を学ぶ。それらを踏まえて、リスニング力も磨いていく。また、視聴覚資料を取り入れながら、フランスの生活や文化も紹介する。 「フランス語初級（総合）Ⅱ」においては、Ⅰで学んだ内容を踏まえ、日常的な行動の中において正しい発音で基本的なコミュニケーションがとれる運用能力を学ぶ。さらに、国や文化についての知識を得て、国際感覚を養う。	
				フランス語初級（文法）Ⅰ	定評のある教科書を使い、教員による解説、受講生による演習を行うことによってフランス語文法の基礎をしっかりと身につける。文法は外国語学習の根幹である。言葉とは複雑であり、その勉強は楽なものではない。しかし、だからといって特別難しいものでもない。努力に応じて着実に実力はついていくものである。できるだけわかりやすい授業の展開を目指す。	
				フランス語初級（文法）Ⅱ	定評のある教科書を使い、Ⅰで学んだ内容を踏まえ、教員による解説、受講生による演習を行うことによってフランス語文法の基礎をしっかりと身につける。文法は外国語学習の根幹である。言葉とは複雑であり、その勉強は楽なものではない。しかし、だからといって特別難しいものでもない。努力に応じて着実に実力はついていくものである。できるだけわかりやすい授業の展開を目指す。	
			フランス語初級（読解・会話）Ⅰ	日常的なコミュニケーションのなかで出会う様々な読解および会話のパターンを集中的に学ぶ。発音練習、リスニング、ペアもしくはグループによる会話練習にも力を入れていく。また、視聴覚資料を取り入れながら、フランスの生活や文化も紹介していく。 「フランス語初級（読解・会話）Ⅰ」においては、挨拶・自身の紹介・各場面における尋ねる力等を学び、練習を通じて会話パターンが身につくよう進める。		

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基礎科目 外国語科目	フランス語 フランス語初級（読解・会話）Ⅱ	日常的なコミュニケーションのなかで出会う様々な読解および会話のパターンを集中的に学ぶ。発音練習、リスニング、ペアもしくはグループによる会話練習にも力を入れていく。また、視聴覚資料を取り入れながら、フランスの生活や文化も紹介していく。 「フランス語初級（読解・会話）Ⅱ」においては、Ⅰで学んだ内容を踏まえ、自身で発信できる力を身につけるよう目指す。さらに、国や文化についての知識を得て、国際感覚を養う。	
	フランス語中級（読解・会話）Ⅰ	授業で得られる要素を達成するために、テキストはフランス庶民社会で起る様々なドラマを扱った短編小説を使用する。本授業は初級から中級への橋渡しの位置づけであるので、単なる訳読にとどまらず、文法の復習も積極的に行う。	
	フランス語中級（読解・会話）Ⅱ	授業で得られる要素を達成するために、テキストはフランス庶民社会で起る様々なドラマを扱った短編小説を使用する。本授業は初級から中級への橋渡しの位置づけであるので、Ⅰで学んだ内容を踏まえ、単なる訳読にとどまらず、文法の復習も積極的に行う。	
	中国語 中国語初級（総合）Ⅰ	テキスト1課につき2回のペースで、解説に加えて、課題の練習（音読・翻訳）、小テスト（音声・筆記）による復習といった構成で、初歩的な中国語を読み・書き・聞き・話す練習を反復しながら授業を進める。 中国語の発音・聞き取りの練習から始め、基本的な文法、語彙の学習にあわせてやさしいテキストを読み、総合的な力を養う。	
	中国語初級（総合）Ⅱ	教科書を中心に行う。前期「中国語初級（総合）Ⅰ」で学んだ内容を踏まえ、引き続き中国語の基本的な文法、語彙を学んでいく。各課終了後に小テストを実施する。また、必要に応じて中国の社会事情や文化なども紹介する。	
	中国語初級（文法）Ⅰ	テキストに沿って授業を進める。まず最初の一か月間は「発音編」を学ぶ。ここで発音と発音記号を習得し、中国語学習の土台を築き上げる。「発音編」は一つの大きな山である。これを頑張って乗り越えれば次の「文法編」の理解も容易になる。「文法編」は一時間に一課の進捗で進む。毎回の授業では文法事項の確認をした後、日本語訳、音読、練習問題などに取り組み理解を深めていく。	
	中国語初級（文法）Ⅱ	テキストに沿って、一時間に一課、授業を進める。本授業では、前期からの学習に続き第十三課から始まる予定である。毎回の授業では文法事項の確認をした後、日本語訳、音読、練習問題などに取り組み理解を深めていく。まとめでは、中国語で書かれた「桃太郎」を読み、またその音読の発表を一人ずつしてもらい予定である。	
	中国語初級（読解・会話）Ⅰ	中国語の背景にある中国の社会、文化を紹介しながら中国語の発音、基本的な構文を学び、練習する。授業中初修者にとって区別しにくい音の把握に重点を置き、解説するだけではなく、十分な練習の時間を設ける。本文は会話形式なので、その役割練習を行うことによって自然に単語の用法と中国語による問いかけと答え方を把握するように授業を進める。中国語検定を参考に、使用頻度の高い語彙の運用能力を身につけるように目指す。中国の歴史、文化に関する参考書についての感想を話し合う時間も設け、中国への関心を高める。	
	中国語初級（読解・会話）Ⅱ	「中国語初級（読解・会話）Ⅱ」においては、Ⅰで学んだ内容を復習し、中国語の背景にある中国の社会、文化を紹介しながら中国語の発音、基本的な構文を学び、練習する。授業中初修者にとって区別しにくい音の把握に重点を置き、解説するだけではなく、十分な練習の時間を設ける。本文は会話形式なので、その役割練習を行うことによって自然に単語の用法と中国語による問いかけと答え方を把握するように授業を進める。中国語検定を参考に、使用頻度の高い語彙の運用能力を身につけるように目指す。中国の歴史、文化に関する参考書についての感想を話し合う時間も設け、中国への関心を高める。	
	中国語演習Ⅰ	中国語の背景にある中国の社会、文化を紹介し、会話練習のために、まず本文の朗読から始まるが、その後ペアで会話の発表を行う。会話能力の向上とともに読解・作文の能力を培うことを目指す。教科書の短い文章には日本人学生が中国へ留学した場合によく使う語彙が盛り込まれているので、留学時の発信力に自信を持つように授業を進める。中国の歴史、文化に関する参考書についての感想を話し合う時間も設け、中国への関心を高める。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 基礎科目 外国語科目	中国語	中国語演習Ⅱ	「中国語演習Ⅱ」においては、Ⅰで学んだ内容を踏まえ、中国語の背景にある中国の社会、文化を紹介し、会話練習のために、まず本文の朗読から始まるが、その後ペアで会話の発表を行う。会話能力の向上とともに読解・作文の能力を培うことを目指す。教科書の短い文章には日本人学生が中国へ留学した場合によく使う語彙が盛り込まれているので、留学時の発信力に自信を持つように授業を進める。中国の歴史、文化に関する参考書についての感想を話し合う時間も設け、中国への関心を高める。
	ハンゲル	ハンゲル初級（総合）Ⅰ	韓国語の文字、発音、初級文法を説明する。初期段階での韓国語の発音は日本語母語話者にとっては難しいかも知れないが、日本語の発音と関連付けて分かりやすく解説をしながら発音の練習をしていく。文字や発音をマスターした後は基礎文法を勉強する。韓国語の文法は日本語と似ているため理解しやすいが、誤用の危険性もあるので、その点もしっかり説明する。文字と基礎文法をマスターすれば簡単な会話がすぐ出来るようになる。そのような会話力が確実に定着するように、話すことに時間をかけて授業を進める。授業の後半（約15分間）にはビデオ教材を取り入れて、聞き取りの力がつくようにする。
	ハンゲル	ハンゲル初級（総合）Ⅱ	「ハンゲル初級（総合）Ⅰ」の続きとして、韓国語の初級文法を説明し、その文法知識がしっかり身につくように練習問題を解いた後、応用文を作り、それをもとに会話練習をしていく。韓国語コミュニケーション能力をしっかりと身につけるためには、たくさん話すことが何より大事なことで、たくさん話すことに時間をかけて授業を進めていく。またビデオ教材をたくさん利用して聴き取りの力をつけていく。そして、言葉の背景にある韓国文化も紹介する。
	ハンゲル	ハンゲル初級（文法）Ⅰ	韓国語の文字、発音、初級文法を説明する。初期段階での韓国語の発音は、日本語母語話者にとっては難しいかも知れないが、日本語の発音と関連付けて分かりやすく解説をしながら発音の練習をしていく。文字や発音をマスターした後は基礎文法を勉強する。韓国語の文法は日本語と似ているので、日本語と比較しながらわかりやすく説明する。そして毎回授業の後半（約15分間）にビデオ教材を取り入れて、聞き取りの力がつくようにする。また復習がしっかり出来るように復習シートを使って、確実に韓国語文法がマスターできるように進める。そして言葉の背景にある韓国文化も紹介する。
	ハンゲル	ハンゲル初級（文法）Ⅱ	発音の面では、正確な発音が出来るように練習する。文法の面では、初級文法を説明していく。初級文法をマスターし、単語力を増やせば、応用会話が出来るようになる。そのような会話力が確実に定着するように話すことに時間をかけて授業を進めていく。そして、毎回授業の後半（約15分間）にビデオ教材を取り入れて、聞き取りの力をつけていく。復習がしっかり出来るように復習シートを使って、確実に韓国語能力が身につくように進める。そして言葉の背景にある韓国文化も紹介する。
	ハンゲル	ハンゲル初級（読解・会話）Ⅰ	韓国語の文字、発音、基礎文法を説明する。韓国語の読解力と会話力を養うことに重点を置いて授業を進める。初期段階での韓国語の発音は日本語母語話者にとっては、難しいかも知れないが、日本語の発音と関連付けて分かりやすく解説をしながら発音の練習をしていく。毎回残り15分間は、ビデオ教材を取り入れつつ聞き取りの力をつけていく。そして、言葉の背景にある文化も紹介する。
	ハンゲル	ハンゲル初級（読解・会話）Ⅱ	韓国語でコミュニケーションを取る際には、正確な発音で話すことが大事である。前期に続き、正確な発音が出来るように練習する。そしてテキストに沿って会話のペースとなる初級文法を説明する。全体的には韓国語の読解力と会話力を養うことに重点を置いて授業を進める。ビデオ教材もたくさん取り入れつつ聞き取りの力をつけていく。そして、言葉の背景にある文化も紹介する。
	ハンゲル	ハンゲル中級（読解・会話）Ⅰ	1年次に学習した内容を元に、テキストに沿って韓国語の正しい発音、文法、言い回しなどを説明していく。そして、毎回授業の後半（約15分間）にビデオ教材を取り入れて、聞き取りの力をつけていく。復習がしっかり出来るように復習シートを使って、確実に韓国語能力が身につくように進める。そして言葉の背景にある韓国文化も紹介する。

授 業 科 目 の 概 要					
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)					
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	基礎科目	外国語科目 ハングル	ハングル中級（読解・会話）Ⅱ	正しい発音とより高いレベルの文法、言い回しなどを説明していく。韓国語会話能力をしっかりと定着させるために最も重要なことは、たくさん話すことなので、授業で与えた知識を利用して、十分な会話練習ができるように授業を進めていく。毎回授業の後半（約15分間）にビデオ教材を取り入れて、聞き取りの力もつけていく。そして言葉の背景にある韓国文化も紹介する。	
		健康科学科目 健康科学・理論と実践	健康科学・理論と実践	◆理論7回、実践8回で構成される。 (オムニバス方式/全15回) 【理論】(7回) 健康は個人、社会、地球環境にまたがる大きな課題である。この科目は心身の健康、キャンパスにおける安全、社会における望ましい人間関係、環境と健康、などについての知識と行動規範の修得を目標とし、以下の7つのカテゴリーから構成されている。 (19 川茂幸/1回) カテゴリー1 イントロダクション、健康なキャンパスライフのために (75 金子稔/1回) カテゴリー2 メンタルヘルス概論 (44 杉本光公/1回) カテゴリー3 ライフスキルアップ (72 速水達也/1回) カテゴリー4 健康を守る（スポーツと健康、AIDS 予防、性感染症予防、地球環境と健康） (19 川茂幸/1回) カテゴリー5 生活習慣病を予防する（肥満、糖尿病、喫煙、アルコール） (77 内田満夫/1回) カテゴリー6 薬物乱用の予防 (19 川茂幸/1回) カテゴリー7 性感染症予防・正しい性の知識 【実践】(8回) (80 加藤彩乃/8回) (79 廣野準一/8回) 半セメスターの期間中に、体力測定及びウォーキング、ジョギング、エクササイズの方法などを実践し、運動習慣獲得のための導入を行う。身体に障害のある学生は別メニューとなるため、ガイダンスの日程等を4月初めに全学教育機構<公用掲示板>で確認すること。	オムニバス方式 講義 14時間 実技 16時間
	新入生ゼミナール科目	新入生ゼミナール	新入生ゼミナールⅠ	新入生のために、大学での学習や生活のオリエンテーションとケアを目的として開講する。大学生活における学習に関する諸問題を中心に、学習の基本的な方法の修得、生活習慣、人間関係の構築方法、卒業後の就職に向けて必要な事柄を学ぶ。これらの今後の学生生活に必要な基礎的なスキルを身につけることを授業の目的とする。授業は、1クラス20人程度の少人数に分かれて演習形式で行い、一部の内容については大教室を使って行う。同時開講の各クラスは別々の教員が担当するが、教員間で緊密に打合せを行い授業内容と成績評価の統一化を図る。	
		新入生ゼミナール	新入生ゼミナールⅡ	少人数・学生主体型の授業で、文章読解（クリティカルリーディング）、情報収集と分析、プレゼンテーション、グループ討論、レポート作成等を行う。社会科学を学ぶために必要な基礎的なスキルを身につけることを授業の目的とする。少数の学生が集まって、積極的に討議を行う学生参加型の授業により、学生が主体的に学ぶ姿勢を身につけ、コミュニケーション能力を向上させることが期待される。授業は、1クラス20人程度の少人数に分かれて演習形式で行う。同時開講の各クラスは別々の教員が担当するが、教員間で緊密に打合せを行い授業内容と成績評価の統一化を図る。	
日本語・日本事情	日本語・日本事情科目	日本語	読解（日本語）Ⅰ	本講義の目的は、日本語で書かれた様々な資料を読んで理解し、多くの知識が得られるようになることを目指す。読むためのテクニック、戦略（ストラテジー）、知識などを身につける。授業の最初はあまり難しくない文章を読み、その日の読解のポイントを勉強・練習し、最後に少し長い文章を読む。	
		日本語	読解（日本語）Ⅱ	学期最初は、読解の基本的な考え方や戦略（ストラテジー）を学ぶ。その後、論文を読んでから、「構造」、「読むための文法」、「言葉の練習」を勉強する。論文は次第に長くなっていく。内容は、いじめ、製品からみる人間工学、ガン告知、雨の中の無機成分の特徴、入社後研修における文化摩擦など広範囲にわたる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 日本語・日本事情	日本語 日本語 日本語	作文（日本語）Ⅰ	作文でよく使われる語彙や表現の練習をする。次にそれらを用いて短文作成をする。さらに、自由度が大きくやや長い文章を書く。学期の前半には意見文、アピール文など様々なタイプの文の練習をし、後半にはレポートの書き方を練習する。時々、学習者が書いた課題作文や構成メモを他の学習者たちと一緒に見ながら、どこがいいか、間違っているか考える活動もする。
		作文（日本語）Ⅱ	論文で使われる語彙および表現をしっかり学習・練習する。その後、論文の構成を要素ごとに学び、深く理解する。最後に自分のテーマと構成メモを作成し、それに基づいて論文を執筆する。時々、学習者が書いた課題作文や構成メモを他の学習者たちと一緒に見ながら、どこがいいか、間違っているか考える活動もする。
		ビジネス・ジャパニーズⅠ	前半では、敬語の学習を深めつつビジネス会話のパターンを数多く練習する。また、ビジネス文書の書き方も、単純から複雑なものへと練習を重ねる。後半では、ビジネス上の適切な対処と、相手の立場に立って考えつつ会話を組み立てる練習をする。また、文書形式を身につけ、ビジネスメールの基本的な言葉使いを練習する。ディスカッションを行う。
		ビジネス・ジャパニーズⅡ	前半では、敬語の練習を深めつつ、社内・社外における会話を多く練習する。 ビジネス文書は、さらに言葉づかいに注意を払い、要点を押さえ、よく伝わる書き方を練習する。 後半では、受け答えだけに終わらず能動的に会話を組み立てる練習をする。文書作成は、誤解を生じず心遣いのある文章の読解と練習を多く行う。 また、日本人の働く姿を見るためにDVDを2回程度視聴し、ディスカッションを行う。
		科学技術日本語Ⅰ	配布資料により、科学技術特有な表現語彙の習得、用例の学習により語彙力を高める。更に、一般紙・専門紙などの科学技術関連記事、科学技術に関する評論・解説文などの題材を通じて読解力を高めてゆく。また、ケースに応じてグループディスカッションによる論理的思考力を鍛える。
		科学技術日本語Ⅱ	配布資料により、科学技術特有な表現語彙の習得、用例の学習により語彙力を高め、科学技術論文の読解力、レポート・論文作成能力を演習により高めてゆく。また、ケースに応じてグループディスカッションによる論理的思考力を鍛える。
		日本社会と日本人Ⅰ	日本社会の特徴を、家族と福祉、国土と中央・地方、企業と企業モデル、温暖化によるさまざまな環境問題、などの特定の問題設定のもとで理解する。 よく話題に上る現代社会の特徴や社会問題をビデオ教材を通して見、毎回配布する資料を参考にして、ビデオ内容についての課題にこたえる。その課題への答えとしてのレポートを授業毎に提出する。
		日本社会と日本人Ⅱ	日本の産業構造の特徴を、自動車・電機などの製造業、スーパー・百貨店などの流通・小売り、不動産・金融業などの業種毎にとらえる。 講義とディスカッションにより日本の産業構造を概観し、ビデオ教材、新聞・雑誌記事などにより、日本企業の業務内容、対外戦略、経営方針を具体的にみる。毎回参考資料を配布し、課題を与える。ビデオ教材の内容を理解しているかどうかを課題によって確認する。
		武道・伝統文化実習Ⅰ	武道の授業では、日本の伝統的運動文化である武道の歴史と現状を紹介し、スポーツとの相違点と共通点を探しながら、日本の伝統的な運動をより深く理解してもらおう。伝統文化の授業では、日本人でもなかなか接する機会の少ない伝統文化を、実習を通じてより深く勉強・体験する。 授業は、ビデオやスライドを使っての武道・伝統文化の説明と、指導教員のもとで実際に体験する実習授業からなる。 (オムニバス方式／全16回) (46 村田明／9回) 日本の伝統文化（茶道、そば打ち、箏）の授業を担当する。 (79 廣野準一／7回) 日本の伝統的な運動（柔道、剣道、空手道、合気道、相撲、剣道）の授業を担当する。

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	日本語・日本事情	日本語・日本事情科目	日本事情	武道・伝統文化実習Ⅱ
			前期に続き、外国人留学生に武道と日本の伝統文化を教える。武道の授業では、日本の伝統的運動文化である武道の歴史と現状を紹介し、スポーツとの相違点と共通点を探しながら、日本の伝統的運動をより深く理解してもらう。伝統文化の授業では、日本人でもなかなか接する機会の少ない伝統文化を、実習を通じてより深く勉強・体験する。授業は、ビデオやスライドを使つての武道・伝統文化の説明と、指導教員のもとで実際に体験する実習授業からなる。 (オムニバス方式/全16回) (46 村田明/9回) 日本の伝統文化(茶道、華道、書道、日本の建築)の授業を担当する。 (79 廣野準一/7回) 日本の伝統的運動(銃剣道、なぎなた、弓道、少林寺拳法、鍛刀)の授業を担当する。	オムニバス方式
専門科目	法律基礎科目	憲法	日本国憲法の「第三章 国民の権利及び義務」に関する基礎理論を取り扱う。この講義では、各種の基本的人権を保障するために、日本国憲法がどのような構造を有しているのかを体系的に理解させることを目的とする。具体的には、次の二つのことに重点を置く。第一は、基本的人権に関する基本条文、基本概念を正しく理解させることである。第二は、基本的人権を保障するための構造に対する理解を通して、立憲主義という考え方に対する理解を深めさせることである。民法、刑法の基礎知識があることを前提に進める。	
		刑法Ⅰ	刑法学の犯罪論のうち、総論(共犯、刑罰論を除く)および各論(個人の重要法益)を取り扱い、刑法の犯罪論の基礎を身につけることを目的とする。受講生が具体的にイメージしやすいよう、まず犯罪論の基本的な考え方を理解させた上で、刑法各論、刑法総論と講義を進める。授業では、判例や学説の検討を中心に行うが、受講生が講義を聞きながら主体的に考える力を養えるように、講義前には毎回問題を提示することとする。最終的には、判例と同種の事案解決だけでなく、未知の事案をも解決し得る思考力を獲得できるようになることを目標とする。	
		刑法Ⅱ	刑法Ⅰに引き続き、刑法Ⅰで取り扱えなかった共犯論、刑法各論の残りとして刑罰論について取り扱う。刑法Ⅰでは、単独犯を予定した構成要件の理解が中心となるが、刑法Ⅱでは、修正された構成要件である共犯について理解できるようにする。また、社会的法益・国家的法益や、犯罪論のゴールである刑罰論についても取り扱う予定である。刑法Ⅱでは応用力が問われる場面もあるので、必要に応じて刑法Ⅰでの基礎知識を確認しつつ、授業を進めることにしたい。また、刑法Ⅰと同様、授業前に毎回問題を提示し、受講生の知識の定着と、主体的な思考力の獲得を目指す。	
		民法総則	民法第1編(民法総則)について講義する。民法に触れる最初の講義であることから、まず私法の一般法である民法の基本原則や基本的な概念に触れ、そのうえで、民法総則が規定する権利能力、行為能力、意思表示とその取消、代理、時効といった各制度について講義を行う。この講義は、この領域に関する条文・判例に基づく基本的な知識と法律的な考え方を修得することを目的とするものである。また、これらの概念や制度が、民法全体の中でどのような意義をも持ち、民法を扱う他の講義内容とどのように関連しているのかを理解し、民法の全体像を掴むことを目的とする。	
		物権法	民法第2編「物権」のうち、第1章「総則」、第2章「占有権」、第3章「所有権」を中心としたいわゆる「物権総論」の部分(第1編「総則」の「物」「取得時効」などを含む)について、基礎的な構造の理解と、基本的な論点・争点の整理を試みる。とりわけ物権変動論は、民法総則の法律行為論・意思表示論とならんで民法を理解する上でのコアとなる部分であり、時間をかけて考察する。制度趣旨および条文解釈が中心となるが、日本法の解釈論の特質を知るために、必要に応じて比較法についても触れる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	法律 基 礎 科 目	契約法Ⅰ	法律効果の発生(権利変動)原因となる当事者間の合意を契約といい、民法には、13種類の契約類型が規定されている。この講義は、各種契約類型に共通する問題として、契約が拘束力を有するのはなぜか、契約が成立するための事実的条件は何か、債務者が契約上の債務を履行しなかった場合に債権者はいかなる措置をとり得るか等の諸問題について検討する。民法典の体系に則して言えば、この講義で扱う領域は、債権総則の一部(債権の目的、債務不履行に基づく損害賠償)と契約総則に相当する。民法起草過程における議論状況を踏まえて、歴史的背景と関連付けながら現在の解釈論を伝える。
	契約法Ⅱ	我々の日常生活と密接に関わる民法の契約法のうち、契約各則の部分に置かれた諸制度を取り上げ、各制度の基礎にある考え方及び具体的な制度内容について解説する。具体的には、典型契約である贈与、売買、交換、消費貸借、使用貸借、貸借、請負、委任、寄託、組合及び和解を取り上げ、また、民法典に規定されていない契約も取り上げる。そして、各制度の基礎にある考え方及び基本問題を具体的な場面に関係付けて理解できるようになることを目標とする。	
	契約法Ⅲ	債権者が債務者に対して債権を有していたとしても、債務者がこれを弁済しない又は弁済するだけの財産を有していない場合には、どのようにして債権の回収を図るかが問題となりうる。そこで、民法上の債権回収に関わる諸制度を取り上げ、各制度の基礎にある考え方及び具体的な制度内容について解説する。具体的には、弁済、相殺、債権譲渡、債権者代位権、債権者取消権を取り上げ、主要な論点について設例を用いるなどして詳しく解説する。そして、各制度の基礎にある考え方及び基本問題を具体的な場面に関係付けて理解できるようになることを目標とする。	
	不法行為法	民法典第3編(債権)のうち、法定債権と呼ばれる法領域、すなわち第3章(事務管理)・第4章(不当利得)・第5章(不法行為)について講義する。民法体系におけるこの法領域の位置づけや基本概念を理解したうえで、条文・判例に基づく要件及び効果に関する基本的な知識を修得することを目的とする。また、この法領域においては判例が重要であることを踏まえ、とくに主要論点に関する判例については、具体的な事案内容や判例の変遷を把握し、そのうえで判例法理を理解することを目的とする。	
	会社法Ⅰ	本講義は、わが国の会社法のうち、総則、設立、会社の経営機構、計算、組織再編、持分会社に関する法ルールを解説するものであり、会社の経営と法ルールの基本的な関わりを受講生に理解してもらうことを目的とする。 条文や判例の基礎的な内容を中心に説明するが、受講生が具体的なイメージをもって学習できるように、適宜、新聞報道や実際の紛争事例などを説明に組み込むことを予定している。なお、必要に応じて、会社法のみならず、商法(第一編)や金融商品取引法の内容にも言及する。	
	刑事訴訟法	わが国の刑事訴訟法のうち、第一編総則および第二編第一章捜査、第二編ないし第六編(第二編第一章を除く)に関わる基礎理論を取り扱い、刑法を実現していく手続論の基礎を身につけさせることを目的とする。 前半は、主として捜査を取り扱い、後半は、主として公判を取り扱う。捜査では、刑事手続の全体像をイメージさせながら、捜査の基本構造を理解させようとして、任意捜査各論、強制捜査各論を見る。公判では、公判手続、公訴の基本原則、訴因制度、証拠法、上訴、裁判員法を理解させる。その際には、基本条文、基礎概念を理解させることを中心とする。	
	民事訴訟法	本講義では、民事紛争を解決するための最も強力かつ最終的な手段である民事訴訟について、民事訴訟法及び同規則が定める基本的なルールを知り、それらを論理整合的に解釈するための基本理論について正確な理解を獲得することを第一的な目的とし、この作業をとおして、法的思考能力を涵養することを目指す。計15回の講義では、民事裁判権論に始まり、裁判所、当事者(多数当事者訴訟を含む)、審理における原則、証明、判決といった第一審の手続を重点的に説明したうえで、上訴・再審の手続、簡略訴訟の特則を取り上げる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	法律基礎科目	民事執行・保全法	民事訴訟法で修得した権利の観念的形成過程についての基本的理解を前提に、判決等を債務名義としてなされる権利の事実的形成過程について、基本的な知識と理解を獲得することができるよう講義を行う。計15回の講義では、強制執行を中心に、担保権実行、執行の暫定的措置たる保全手続を取り上げ、この全体を通して、民法が規定する権利・義務が、民事訴訟手続を経て、現実にもどのように具体化していくのかを理解し、民事法全体についての体系的な理解と知見の獲得を図る。
		行政法	行政法に属する領域のうち、総論部分と行政組織法の部分を取り扱う。具体的には、標準的な体系に基づいて、行政法の基本原理、行政組織法、行政過程論（行政の行為形式、一般的制度）についての基本的な考え方と行政手続法、国家行政組織法等の通則的な法律についての基本的な条文を理解させようとして、行政組織、行政活動にいかなる法的な規律が及んでおり、いかなる形で行政組織を構築し、行政活動を行うべきかについて具体的場面に即して考えられるようになることを目的とする。
		政治学基礎	多様な価値と利害を調整し、どのように社会の課題を解決していくか。複雑な公共政策の課題を理解するために必要な政治学の基礎的な知識と概念を理解する。社会の一員として、投票行動や様々な社会的な活動に主体的に参加するために必要な政治・政策分析能力、メディア・リテラシーを向上させる。 社会科学とは何か。政治学とはどのような特徴を持っているのか。まず、政治権力、公共性、デモクラシーなど、政治学の基礎的な概念を解説する。次に政治のルール（制度）と政治主体に関する問題を考察する。さらに経済・社会・外交政策など重要な公共政策課題を理解するための基礎知識を整理する。 レスポンスシートを利用し、授業の理解度を確認し、質問を把握する。論述試験を課し、自分の考えを適切に文章にまとめる能力を向上させる。
		自然環境概論	環境保全、持続可能な開発のための地域政策や企業活動に必要な自然環境に関する知識の習得を目指す科目である。主に、気候環境（世界の気候、日本の気候、地球温暖化）に関する領域を扱う。気候の地域差をもたらす要因について基礎的な知識を習得し、気候の特徴をグローバルスケールからより小スケールへと解説し、各スケールにおける地域差、地域差をもたらす要因について理解を深める。日本の気候、長野県の気候の特徴も概観する。地域によって気候は多様であるとともに、共通性もあること、気候は人間生活にどのように影響するのか、逆に、人間活動が環境を改変し、ヒートアイランド現象や地球温暖化をもたらしたことについて考察する。
		知的財産法基礎	知的財産法がなぜ重要なのか、日本経済を取り巻く歴史的な変化を踏まえて解説し、その上で、内外の最近の事象を素材に、知的財産法の基本的な考え方を講義する。法律学の初学者が興味を持って知的財産法に入門できるようにすることが目的である。想定される素材は、アップル対サムスン、途上国における医薬品の普及と特許権、環太平洋経済連携協定（TPP）交渉、職務発明、孤児著作物問題、並行輸入、著名標識の保護、営業秘密などである。
コース専門科目	環境法務科目	環境法Ⅰ	わが国の環境法について総論的事項に関する基礎的理解を得られるようにすることを目的とする。 すなわち、具体的には、環境法の生成・展開の経緯（公害対策、環境行政の停滞、その後の新たな展開）、環境法の特徴・基本理念・原則（持続可能な発展概念、未然防止原則・予防原則、汚染者負担原則等）、環境政策の手法（規制的手法、経済的手法、情報的手法、合意的手法等）、環境基本法（環境基本計画を含む）、環境影響評価法等を取り上げて、環境法Ⅱに進む前に環境法の基本的理解が身につけられるようにする。
		環境法Ⅱ	環境法Ⅰに引き続き、わが国の環境法に関する基礎的理解を深化させるべく、環境法の個別具体的な内容に対する理解を得られるようにすることを目的とする。 すなわち、具体的には、自然保護のための法制度（自然公園法等）、廃棄物の適正処理に関する法制度（廃棄物処理法等）、リサイクルに関連する法制度（容リ法等）、化学物質の管理に関する法制度（PRTTR法等）、環境汚染の防止・対策に関する法制度（大気汚染防止法等）、地球環境問題に関する法制度（地球温暖化対策推進法等）を取り上げ、各事項に関する基礎的理解を得られるようにする。

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目 コ ー ス 専 門 科 目	環境法務科目 水環境法	水循環基本法が制定されるなど水環境への注目が高まっていることを受けて、水環境という切り口から環境法、法政策について学ぶことを目的とする。具体的には、水環境について法的にアプローチするために必要となる公物管理法制の基礎知識、水環境に関する法制度（水循環基本法、流域管理法、地下水法、沿岸域管理法等）、関連する法制度（森林法、土地利用規制等）、政策法学の基礎と水環境に関する法的課題の解決の方向性などを取り上げ、水環境に関する法的問題の現状と課題を把握した上で法政策として課題解決の方法を提言できるようになることを目的とする。		
	国際環境法	前提知識として、国際法の基本的な考え方と重要な概念についての概説を行った上で、地球環境問題に対応するために条約、国際慣習法を中心に形成されてきた国際環境法の展開と現状について概観し、その国内実施措置を通じて国際環境法が国内法に及ぼす影響を与えているのかについての理解を得ることを目的とする。国内実施措置を通じて国際環境法と国内環境法との関わりについては、地球温暖化問題、生物多様性の保全等の個別的な問題をいくつか取り上げ、現代的な重要性を有する具体的なテーマについての理解が深められるようにする。 国際法の基礎部分（5コマ）について、東京大学法学部教授（㊦ 森肇志）が担当し、環境条約およびその国内実施（10コマ）について神戸大学法学部教授（㊦ 角松生史）が担当する。	集中 オムニバス方式	
	都市環境と行政法	環境法（環境影響評価法、廃棄物処理法、水質汚濁防止法等）、都市法（都市計画法、建築基準法、土地収用法等）の仕組みを概説した上で、これらを素材に、行政法総論、行政救済法で扱う考え方が具体的にはどのような形で登場し、どのような形で問題となるのかについて講義を行う。環境法、都市法という行政法各論に属する領域の理解を得るとともに、総論と各論の関係を理解することを通じて行政法、行政救済法の理解を深めることを目的とする。		
	環境と刑法	本講義では、環境刑法の総論的部分（講義計画の第1回から第7回）を刑法の基本的知識を前提に講義する。環境刑法の概念や知識のみならず歴史的背景にも触れて環境刑法の在り方について検討する。第8回では、環境刑法の国際社会の現状を把握し、わが国の状況と比較しながら考察・検討する。これらを前提に、環境刑法の各論部分（講義計画の第9回から第14回）に於いてわが国の環境法規に於ける環境刑法の機能と役割について具体的に各環境法規を検討する。第15回では、国際社会に於ける環境刑法の新たな動向を踏まえて今後の環境刑法の方向性を検討する。講義は、事前に配付するレジュメの予習を前提に、質疑応答形式でおこなう。講義の進行に応じて随時、小テストを実施し、質疑応答、期末試験と総合的に評価する。		
	環境経済学Ⅰ	本講義では、経済と環境の関係性について、ミクロ経済学的な側面から学ぶ。現在や過去の環境問題が何故引き起こされたか、そしてそれらの問題を我々はどのようにやって解決してきたのか、またどのようにやって解決していこうとしているのか。本講義では、これらの課題について、ミクロ経済学理論を用いた手法によって分析することで、受講者がなぜ環境問題が発生するのかを理解し、その発生原因と政策的解決手段を経済学的見地から論理的に説明できるようになることを目標とする。		
	環境経済学Ⅱ	環境経済学Ⅰでは、環境問題の発生メカニズムと、問題解決のための経済的手法として有効な政策手段について学んだ。環境経済学ⅡではⅠの応用として、現在、環境経済学の研究と中心となっている課題について、単純な事例をもとに最先端の研究に触れる。具体的には、環境被害額と対策費用の割引現在価値、環境影響評価、ライフサイクル評価等を扱うことで、受講者は最先端の研究手法の論理を理解し、卒業研究等での課題を見つけることを目標とする。		
	環境テクノロジー	環境問題に対して、テクノロジーが果たしている役割を理解することを通じて、工学的アプローチを身につけることを目的とする。 全国をみても小水力の潜在的エネルギーが高い長野県において、小水力発電は、エネルギー問題を考える上で、きわめて重要である。小水力発電テクノロジーを工学的に理解するとともに、その普及と設置に関して発生する他の環境問題について、どのような問題が発生し、どのように解決し、どのように実用化してきたかについて学ぶ。		

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 コース専門科目	環境法務科目 環境理学概論	我々の住む環境がどのように成り立っているのかを理学的な観点から理解できるようになり、また、現在、あるいはこれまで人々が直面してきた環境問題にどのような問題、どのような解決法があるのかを知り、それらを生かして新たな問題点に直面した時、それをどのように解決するかを考えることができるようになることを目的とする。 地球規模から身近な自然環境までの様々なスケールで、特に生態学の視点から環境を見ていく。環境の評価や保全の問題にも触れる。	
	環境社会学概論	環境社会学の理論的思考や実践的研究方法を学んだ上で、社会学の観点から、環境問題に対する考察や批判ができることを目標とする。 主な論点として、第一に環境問題の加害・被害構造、制度・組織の特性、第二に環境行動・運動の契機とその結果、集団行動の困難・障害、第三に環境の歴史・価値・思想、生業とのかかわり、などについて、世界中で起こっているさまざまな環境問題を例に考えていく。	
	環境教育概論	環境教育は、現代社会が直面する環境問題を解決するために大きく期待されている。環境教育のテーマは自然から社会、心理まで幅広く、各教科の中で横断的に学習することになっており、本授業を通して、学校教育の一環としての環境教育や自然教育の基礎とその指導法について基礎的な知識と技法を修得する。 環境問題の基礎的な知識から学校や組織での環境管理手法としてのISO14001の運用、学校教育の一環としての環境教育や自然教育の指導法、環境教育の必要性や目的、学校現場での教科や生活上での指導方法などを解説する。	
	環境農学概論	農生産過程における環境負荷（化学肥料、地球温暖化、除草剤、殺虫剤、殺菌剤）を概観した上で、水田、草地、農耕地などにおいて、どのような要因で生物の多様性が維持されているかについて解説する。 また微生物の多様性と環境保全、農地の多面的機能と里山の保全などにも触れながら、農業生態系において、農業生産活動を維持する上で、環境保全と有害生物管理の両立を目指すIPMが提唱された背景についても取り上げる。	
	環境と憲法訴訟	日本国憲法において、憲法上の権利を侵害された者は司法裁判所に救済を求めることができる。そのための訴訟を憲法訴訟という。憲法訴訟が成立するためには、憲法上の権利が制約されている必要があり、実体的権利について理解が不可欠である。また、憲法訴訟は、民事訴訟、刑事訴訟、行政訴訟を入り口にして展開されるので、これらの訴訟についての基本的な知識が必要である。本講義では、日本国憲法における憲法訴訟について概説し、その実践例としての環境権訴訟を素材にして、憲法上の権利が裁判で実現されるということの意味を探究する。	
	自然環境フィールドワークの理論と実践	われわれ人間は、いわゆる自然という環境からたくさんの恩恵を受けている。そのことが自然環境にとって、また人間にとってどのような意味をもつのであろうか。この講義では、「自然環境の中での人間のあり方」、「自然環境とは」をテーマに、「自然環境における人間の営み」について考えることをねらいとしている。具体的には、自然環境の中での人間の諸活動が及ぼす影響（環境問題）、また自然環境からの恩恵（レジャー活動や心身の健康づくりへの寄与）について考える。講義は自然環境と人間の関係を実際に体感するために、信州の自然を活動場所として休日を利用したフィールドワークを実施する。フィールドワークにあたっては、その計画立案から実施にいたるまでグループワークにより進め、それに必要な知識・態度・ルール・マナーを学習する。そしてフィールドワークから感じとったことなどをテーマにグループでの研究発表を行い、自然環境と人間の営みについて理解を深める。	
国際政治	国際社会の課題である貧困と開発、環境問題、平和構築などのグローバル・イシューズについての基礎的な知識を身につけ、その歴史的経緯、解決への模索及びその問題点について理解を深めていく。講義を通じて、時事問題への関心を高め、基礎的な学習能力と問題解決のための思考力を養う。全体は、以下の3つに大きく分けられる。まず第I部では、貧困と開発に関する問題について理解を深める。第II部では、紛争と平和に関する課題について考察する。第III部では、グローバル・イシューズに対応するための国際社会のあり方やグローバル・ガバナンスの課題に焦点を当てる。レスポンスシートやグループ・ディスカッション、発表を取り入れ授業への参加を促す。		

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 コース専門科目	経済・企業法務科目 労働法	労働法では、急速に変化しているわが国の雇用慣行と法政策について、個別的労働関係法と集団的労働関係法を主たる範囲として講義する(労働市場法や紛争処理法についても必要に応じて言及する)。具体的に個別的労働関係法では、労働基準法と労働契約法の解釈を中心に、基本的な条文や基本的な概念を整理し、理解させる。集団的労働関係法では、労働組合や労働協約などの基本的な概念を押さえた上で、労働組合法の解釈を中心的に扱う。最新の法改正や理論状況、判例法理の動向を見据えて、労働法に関する基礎的な知識や思考方法を体得することを目的とする。	
	企業取引法	本講義は、企業の活動に伴う各種取引に関する法ルールを解説するものであり、このような企業取引と法ルールの基本的な関わりを受講生に理解してもらうことを目的とする。 本講義では、商法第二編で規律されている各種取引に加えて、消費者契約、証券契約、ファイナンス・リース契約、投資契約、M&A契約を取り上げ、それに関連する条文や判例の基礎的な内容について説明する。その際、受講生が具体的なイメージをもって学習できるように、約款や契約のひな形、実際の紛争事例などを説明に組み込むことを予定している。	
	会社法Ⅱ	本講義は、会社法Ⅰに続いて、わが国の会社法のうち、株式、新株予約権、社債に関する法ルールを解説するものであり、株式会社の資金調達と法ルールの基本的な関わりを受講生に理解してもらうことを目的とする。 条文や判例の基礎的な内容を中心に説明するが、受講生が具体的なイメージをもって学習できるように、適宜、新聞報道や実際の紛争事例などを説明に組み込むことを予定している。なお、上場会社の資金調達は、金融商品取引法や取引所の上場規則によっても規律されるため、必要に応じて、これらの内容にも言及する。	
	担保法	一般の債権者は、債務者の資産状況の悪化により、債権を回収できなくなるリスクを負っており、このような債務者無資力のリスクに備える方法を担保という。この講義は、各種担保の成立のための条件、担保権者及び担保設定者間の権利関係、他人のために担保を引受けた者の地位等について検討する。民法典の体系に則して言えば、この講義で扱う領域は、債権総則の一部(連帯債務、保証)と、物権の一部(留置権、先取特権、質権、抵当権)に相当する。民法起草過程における議論状況を踏まえつつ、歴史的背景と関連付けながら現在の解釈を伝える。	
	親族・相続法	民法典のうち、第4編「親族」・第5編「相続」の規律する夫婦、親子、親権・後見、扶養、遺産分割、遺言・遺留分等のいわゆる家族法の部分につき、基礎的な理解と基本的な論点・争点の整理を試みる。制度趣旨および条文解釈が中心となるが、日本法の解釈論的特質を知るために、必要に応じて比較法についても触れる。また、パートナーシップ関係(同性パートナーシップを含む)、生殖補助医療による出生子の親子関係等、親族法分野を中心に、新たな視点からの再検討が求められる問題も多いが、これらについても極力考察する。	
	倒産法	本講義では、清算型倒産処理と再建型倒産処理のそれぞれの一般法である破産法及び民事再生法を中心に、日本の倒産法制についての基礎的な知識及び体系的な理解の習得を図る。さらに、倒産法は平時の民事法秩序の実現が不可能となった非常事態の処理を定めるものであることから、倒産法の学習をとおして、民事法体系全体についての理解の深化・進展が期待される。計15回の講義では、倒産法の基本法である破産法をテーマに9～10回、その応用である民事再生法につき3回、そして残る数回で会社更生法等の特別倒産法を取り上げる。	
	簿記・会計入門	企業規模に関わらず日々の経営活動を記録する技術が簿記であり、企業会計を理解するためには、簿記の知識は不可欠である。 そこで本講義では、簿記の基本的な仕組みの説明からはじめ、各種取引(商品売買、現金預金取引、手形取引、有価証券取引、固定資産取引、その他取引など)、そして決算手続きを経て財務諸表が作成されるまでの内容を講義する。本講義によって、日々の活動の記録から財務諸表作成までの一連の流れを理解し、把握することによって企業会計を理解することが可能になる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	コ ー ス 専 門 科 目	経済・企業法務科目 管理会計	管理会計は、財務会計と異なり、主に企業内部の経営者や管理者が利用する会計である。具体的には、企業をマネジメントするための会計が管理会計であり、企業経営と管理会計は表裏一体な関係にある。管理会計の主な手法は、業績管理、コスト管理、意思決定である。本講義では、管理会計手法の理論的習得を目指す一方で、実際の企業経営にどのように管理会計が関わっているのかを事例を取り上げながら説明する。
		経営学	この講義の達成目標は、経営学の基礎的な知識の習得と、習得した経営学の知識をもとに、実際の経営の現場に生かす方法を考えることの2点である。経営学で検討する内容は、企業運営の仕組みや、利益との関係を検討することである。講義の概要は、まず、経営学とは何か、企業とは何かといった、企業経営にまつわる基礎理論を検討した後、経営戦略、経営組織、経営管理、経営課題といった、さらに詳細な内容へと進める。前半は組織レベルの議論、後半は個人レベルの議論であり、組織レベルと個人レベルの両者から経営学の諸問題に接近する。
		法人税法	わが国の法人税法のうち、課税標準及びその計算(第二編第一章第一節)における基本的事項を扱い、法人所得計算の基礎となる考え方を理解させることを目的とする。 企業会計における利益計算を法人所得概念の基礎としてイメージさせながら、二重課税や課税繰延べ、法人成りなど法人課税に固有な問題の存在を認識させ、実現主義と評価損益、資産概念と取得価額の機能、損金算入制限と課税ベース、損失控除と債務確定要件について、基本的な考え方を理解させる。
		テクノロジー概論	知的財産の管理を行うにあたっては、知的財産の対象となるテクノロジーの工学的理解が求められる。わが国のテクノロジーについて、広く全体を見渡しながら概括的に理解することを目的とする。 具体的には、機械、電気、化学、土木、建築、環境の工学分野の基礎を概括的に学んだうえで、各分野における具体的発明例について取り扱い、知的財産の工学的理解を身につける。
		知的財産法Ⅰ	技術的創作に経済的な価値を与える法制度について講義する。その中核をなすのは出願により公開された発明に対して特許権を付与する特許制度であるが、秘匿された技術に対して法的保護を与える営業秘密制度(不正競争防止法)にも説き及ぶ。また、医薬品・バイオ、化学、機械、電気・電子、情報技術といった、技術分野別の特徴にも注意する。知的財産法の国際的側面などにも、必要に応じて触れる。
		知的財産法Ⅱ	創作的表現について権利を与える著作権制度について講義する。美術や出版などを対象とする古典的な著作権法が、コンピュータ・プログラムを制度の対象として取り込み、さらにインターネットの発達によって大きな変容を遂げつつある様相を解説する。また、営業上の信用に対して法的保護を与える制度(不正競争防止法・商標法など)にも説き及ぶ。
		経済法	本講義は、経済法の基本法である独占禁止法の理解を通じて、市場における企業等の競争を促進する仕組みについて、理論と実務の両面から理解することを目的とする。本講義では、独占禁止法の規制の柱である不当な取引制限、私的独占、不公正な取引方法、企業結合について、これらの基本的な考え方に加え、公正取引委員会の調査・処分やそれに対する争訟の手続、さらには差止めや損害賠償といった事業者間の民事訴訟まで含めて、実体面と手続面を横断した解説を行う。必要に応じて、下請法や景品表示法にも触れる。
		危機管理法務	架空循環取引など、企業不祥事は後を絶たない。企業は、不祥事を抑止するために、その業態に応じ、コンプライアンス体制を適切に整備することを求められている。コンプライアンス体制を実質的に機能させるためには、関連法令の知識のみならず、事前・事後対応を含む危機管理のノウハウを身につけた人材が不可欠である。本講義においては、企業等において危機管理を担う人材の育成を目的として、主要な不正類型について、過去の具体的な事例を取り上げて関連法令や当該不正事例の原因・再発防止策等を解説する。

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 コース専門科目	都市・行政法務科目	統治機構論	日本国憲法の規定する順序に沿って、日本国の統治構造を解説する。憲法の統治機構の条文解釈は、憲法の抛ってたつ原理からその規範内容が導きだされなければならないが、その原理の理解は学説の立場によって異なり、その差異が個々の条文解釈の差異となってあらわれる。重要なのは、統治機構の条文解釈は、解釈者の理解する憲法原理と整合しなければならないということである。受講生が、代表的な憲法学説と判例の立場を十分に理解し、日本国の統治構造を立憲主義の観点から整合的に解釈する能力を身につけることができるように配慮する。
		行政救済法	行政法に属する領域のうち、行政救済法の部分を取り扱う。具体的には、行政争訟の仕組みについて行政不服審査法、行政事件訴訟法の基本的な考え方と条文を理解させ、さらに国家補償の仕組みについて国家賠償法等の基本的な考え方と条文を理解させることを通じて、国民の立場から違法・不当な行政活動を是正し、行政活動に起因する損害・損失を填補するためにいかなる手法を取るべきか、行政の立場からこれにいかに対応すべきかについて具体的場面に即して考えられるようになることを目的とする。
		自治体法	行政法に属する領域のうち、地方自治法の部分を取り扱う。具体的には、日本国憲法第8章(92条～95条)と地方自治法を主たる対象として、日本国憲法92条にいう「地方自治の本旨」がどのように具体化されているかについて基本的な考え方と基本的条文を理解させ、地方公共団体の組織と活動の法的側面と地方自治の法的構造についての基礎的な理解を前提に、地方公務員としての立場、住民としての立場からいかなる形で地方自治を担っていくべきかについて具体的場面に即して考えられるようになることを目的とする。
		都市行政と刑法	都市は、その規模が大きくなるにつれて犯罪発生率も高くなる。都市犯罪の典型的なものとしては、少年犯罪、組織犯罪、薬物犯罪そして経済犯罪がある。多様な犯罪現象は、都市行政に多大なる影響を与え、都市発展に大きな弊害(課題)となる。本講義は、まず、都市行政の弊害となりうる都市独自の犯罪形態にスポットを当て、刑法理論での具体的対応と刑事的対応策を検討する。次に、都市行政の主体である公務員自身が犯す公務員犯罪について、刑法規定(賄賂罪、業務上横領罪など)と対応して理解・検討していく。講義は、刑法の基礎知識をベースに、事前に配付されたレジュメを中心に質疑応答形式でおこなうことから予習は重要である。講義の進行に応じて随時、小テストを実施し、期末試験と総合的に評価する。
		社会保障法	社会保障法では、わが国の社会保障法をめぐる制度を概観し、各制度における法律問題について学習する。具体的には、健康保険法や医療法等を主たる対象とする医療保障制度や、国民年金法や厚生年金保険法等を対象とする年金制度、労働災害や雇用保険を対象とする労働保険制度や、生活保護法をはじめとする公的扶助制度などを取り扱う。社会保障法に関する制度の全体像を掴むと共に、これら社会に出て働く上で理解しておいた方がいいと思われる制度について、基本的な仕組みと法的紛争についての知識を得ることを目的とする。基本的な概念を押さえることと関連する裁判例をとりあげることを重視する。
		行政学概論	この講義では、学習する対象をNational Government、そのうち国の行政府の制度と運用を中心にすえている。国の行政府の「制度」については、他の講義(憲法、行政法等)においても学ぶことになる。この講義においても「制度」を理解してもらうためのメニューを用意しているが、学習の重心は「運用」の方においている。 というのは、しばしば「行政とは法の執行である」という説明のされ方がなされるが、そうした定義のしかたは「行政」というものを理解するうえでまったく不十分なのであって、むしろ行政の運営は法令以外のルールー予算、計画、行政規則そして慣行に統制されているからである。 講義では明治維新、戦後改革に次ぐ「第三の改革」ともいわれている「中央省庁等改革」をはじめとする近年の行政改革を材料として扱い、省庁制、内閣制、稟議制、行政職員の裁量、行政責任等を検討する。

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 コース専門科目	都市・行政法務科目 自治行政	<p>地方分権推進一括法の制定にともなって地方制度の大改革が実現した。この分権改革のねらいは、都道府県や市町村の裁量の範囲を拡大することによって、地域の問題はその自治体、住民の力で自ら解決できるようにしくみにしようというものである。</p> <p>この改革によって、自治体がどのような仕事をどういうふうにするかによって、私たちの生活がよくなるか、そうならないかが決まるようになる、といっても必ずしも過言ではない。それだけに、私たちが今後、自治体にどうかかわっていくかということを考えることがより重要になる。</p> <p>講義ではまず、地方自治の基礎知識を身につけてもらう。そのうえで、これまで地方自治のあり方の何が問題とされているのかを明らかにする。また、地方自治に関連する最近の事件をとりあげ、私たちの身の回りに起こっていることが、自治体とどのようにかかわっているかを検討する。</p>	
	都市テクノロジー	<p>土木工学の対象は何か、どのような役割があり、市民生活にどのように関わっているのか、などを理解して、都市行政に必要な都市工学の基礎を身につけることを目的とする。</p> <p>都市機能を維持するために必要となる道路・鉄道・上下水道など（インフラという）と、その都市との関わりといった、都市を取り巻く環境を通じて、都市およびその周辺を土木工学的に説明する。</p>	
	統計学 I	<p>今日の高度情報化社会のなかで、データを統計的に処理し、解析する機会は増加し続けており、日常生活の場においても統計的知識がさまざまなに用いられている。この授業では次の二つを学習する。</p> <p>1) 確率的なモデルを前提とせずに、データから有益な情報を抽出するための手法（記述統計）に関する基本的事項を習得する。具体的には、平均値、分散、標準偏差、回帰、相関等について学ぶ。</p> <p>2) 確率的なモデルを前提とした統計手法（推測統計学）の基礎となる確率論のうち、初歩的な概念を習得する。具体的には、順列・組合せ、加法定理、乗法定理等について学ぶ。</p>	
	都市政策論	<p>本講義は、人口減少、脱工業化、環境志向、グローバル化、東京一極集中といった時代の趨勢のなかで生じている現代の都市問題に対して、どのような都市政策が望ましいのか論理的に思考できるようになることを目的としている。全体は三部構成となっている。第一部では、都市政策がなぜ必要となったのかについて、市場経済の出現と都市問題の拡大を背景として近代都市計画が成立したことを説明し、官僚主義や計画主義によって多様に展開していくことを、海外諸都市などを事例に整理する。第二部では、震災復興を契機とした都市計画によって、先進国の諸都市が近代化していく過程について、主に日本の都市政策を中心に説明する。第三部では、現在の都市政策の趨勢について、コンパクトシティやクリエイティブシティなどの議論をふまえて説明する。</p>	
	ミクロ経済学 I	<p>「ミクロ経済学 I」では、個々の消費者や生産者の意思決定プロセスの分析から出発し、市場での「価格」シグナルがいかに資源配分・所得配分を決定するかを解説する。この講義では、市場機能の有効性と限界を説明し、市場機能はその市場特定の取引ルールに敏感に依存することを解説する。また、ゲーム理論の基礎を概観し、それに基づいてブランド（寡占）市場の分析や、株式市場における入札分析など、初歩的な応用へ導く。ミクロ経済学 II、産業組織・公共経済学等で扱うミクロ経済学の発展的領域をはじめ、マクロ経済学の各分野にも及ぶ近代経済学の土台部分を理解するための最初の一步となる。</p>	
	マクロ経済学 I	<p>マクロ経済学は、一国の経済全体の景気変動や経済成長の要因を分析する学問である。この講義では、短期の景気変動に関する理論を中心にマクロ経済学の入門的内容を講義していく。最初にGDPなどの基本的なマクロ経済指標が、どのような概念であるのかを学習する。次に、現実のマクロ経済に関するものの見方・考え方として、ケインジアンと新古典派という2つの見解があるが、これらがどのようなものかを経済モデルに基づいて理解していく。最初は簡単なモデルを分析することから始めて、徐々に現実経済の様々な要素をモデルに取り入れて拡張していく。この作業を通じて、現実のマクロ経済をより深く理解できるようになることを目指す。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	都市・行政法務科目	計量経済学	<p>経済学にはさまざまな理論が存在するが、それらの理論がどれくらい現実の経済を説明することができるかについては、経済理論から導かれるモデルが経済データにどれくらいあてはまり、説明力を持ったモデルであるかを、データを用いて検証する必要がある。あるいは逆に、データから帰納的に適合する経済モデルを見つけ構築していくことも経済学の発展にとっては不可欠の作業である。このように理論から導かれる数学モデルと経済データからの双方向のやり取りの中で、現実の経済に対して説明力のある経済モデルを構築して、経済の現状を分析することが計量経済学の課題である。</p> <p>この授業では、計量経済学の基礎理論を学び、経済モデルを構築し、データをあてはめ、経済理論を検証し、経済の実証分析を行うために基本となる手法を学ぶ。</p>	
		市民税法	<p>所得税法、消費税法及び国税通則法から、一般的な市民生活の中で生じる租税法律関係に関する部分を取り上げ、基礎となる考え方を理解させることを目的とする。</p> <p>包括的所得概念を基礎概念として視座に据え、事業所得と譲渡所得に対する所得税法の原則的な課税を理解させたいうえで、市民生活に深く関わる給与所得や利子・配当所得に対する源泉徴収課税、寄附金、医療費や社会保険料などの所得控除、事業者と消費税の課税を理解させる。権利救済手続を中心に、租税手続法の全体像についても理解を得させる。</p>	
実務系科目	実務講義科目	行政実務	<p>大学で学ぶ法律科目のさらなる理解に結びつけることを目的として、本学教員がコーディネーターとなり、国・自治体の機関で行政に携わる幹部・中堅職員をゲスト講師として招き、各機関の業務の概要やそれぞれの抱える行政上の課題についての講義を行う。国の機関については財務省、厚生労働省、消費者庁、公正取引委員会等、自治体の機関については長野県庁、松本市役所からゲスト講師を派遣していただく予定である。</p> <p>ゲスト講師のコーディネートと成績評価は学部専任教員(13 大江裕幸)が担当する。</p>	
		現代法務	<p>第一線で活躍する法律実務家の仕事や問題意識を理解することを目的とする。現代社会を支える法制度やその運用について、実際に実務に携わっている複数名の実務家が各法分野ごとに講義をする。身近に生じている問題や現代的な問題に関して、法と実社会がどのように関わっているのか、より具体的・実践的な理解を深める。</p> <p>ゲスト講師として、地域法曹、法務省職員、刑事弁護士、労働関係弁護士、外国人問題弁護士などを招へいする。</p> <p>ゲスト講師のコーディネートと成績評価は学部専任教員(12 丸橋昌太郎)が担当する。</p>	
		租税法実務	<p>この授業は、関東信越税理士会長野県支部連合会との学術協定に基づき、税理士をゲスト講師としてオムニバス方式で講義を行うものである。</p> <p>実務上の具体的な事例に関する租税法の適用関係について講義する。実社会では、一個の経済的取引について、所得税法、法人税法、相続税法が同時に適用され、様々な課税関係を生じさせることが珍しくはない。また、租税法適用の前提として、民商法の適用関係が問題となることも多い。この講義は、実務上の具体的事例においては、このように多面的な法適用の検討が必要であることを理解し、租税法や民商法の知識を統合し、法律問題についての総合的な応用能力、実践的な解決能力を身につけることを目的とする。</p> <p>ゲスト講師のコーディネートと成績評価は学部専任教員(5 池田秀敏、18 橋本彩)が担当する。</p>	共同
	法務実習科目	行政法務実習	<p>行政実務における実際上の課題を理解するとともに、大学での法学の学習と現場の結びつきの理解を深めることを目的とし、2~3名の学生を1グループとし、担当教員と受入先との事前調整の上、①担当教員の指導のもとでの大学での事前学習、②受入先での実習(3日間)、③担当教員の指導のもとでの大学での事後学習、④事後学習の成果についての受入先による講評を実施する。受入先としては長野県庁、松本市役所を予定している。</p> <p>事前・事後学習、実習のコーディネート、成績評価は、学部専任教員(13 大江裕幸)が担当する。</p>	実習 20時間 演習 20時間

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 実務系科目	法務実習科目 環境法務実習	環境法ⅠおよびⅡにおける座学中心の授業を前提として、環境法が現場でどのように実践されているかを理解させ、実践力を身につけさせることを目的とする。 具体的には、環境事件に携わった経験を有する法曹関係者に対する聴取調査、一般廃棄物の中間処理施設・最終処分場等といった環境関連施設に赴き職員等に対して聴取調査を行うことによって、環境法が現場でどのように生かされているかを体現し、環境保護の意義について実践的理解を得られるようにすることをねらいとする。 事前・事後学習、実習のコーディネート、成績評価は、学部専任教員(9 小林寛)が担当する。	実習 20時間 演習 20時間
	税務実習	税務署の協力のもと、税務に関する法理論を実践させることを通じて、理論と実務のかかわりについて理解させ、実践力を身につけさせることを目的とする。具体的には、税務署の組織に関する概要を学ぶとともに、模擬事例をもとに実際に確定申告等の資料を作成する等の実習を行う。こうした実習を通じて、税務の現場を実体験し、税務が社会においてどのような役割を果たすのか、また、税務に関連する職種にはどのようなものがあるかを学ぶ。実習地は松本税務署を予定している。 事前・事後学習、成績評価は、学部専任教員(5 池田秀敏)が担当する。また実習のコーディネート、実習補助を学部専任教員(18 橋本彩)が担当する。	共同 実習 20時間 演習 20時間
	労働法務実習	長野労働局と連合長野の協力のもと、労働法に関連する法理論を実践させることを通じて、理論と実務のかかわりについて理解させ、実践力を身につけさせることを目的とする。 まず学生は、労働局の指導のもと、労働行政に関わる法務について、グループワークを交えつつ、実習を行う。次に、連合長野の指導のもと、チームに分かれて、模擬の資料をもとに、労働相談と団体交渉を体験する。実習地は、長野労働局管内の施設と連合長野管内の施設を予定している。 事前・事後学習、実習のコーディネート、成績評価は、学部専任教員(15 島村暁代)が担当する。	実習 20時間 演習 20時間
	契約法務実習	地域の法曹関係者の協力のもと、模擬資料を用いて、履修者に、契約に関する民法理論を実践させることによって、理論と実務の関わりについて理解させ、実践力を身につけさせることを目的とする。実務家の指導のもと、履修者は、まず、課題の契約締結に必要な情報及びその収集方法を考える。そして、履修者は、模擬資料を分析したうえで契約書を作成し、さらに、契約締結に必要な手続きを検討する。その後は、紛争が生じたと仮定して、履修者は、その紛争への対処方法を検討する。実習に際しては、適宜、関係施設の見学を実施する。 事前・事後学習、実習のコーディネート、成績評価は、学部専任教員(14 山代忠邦)が担当する。	実習 20時間 演習 20時間
	知財法務実習	知的財産法に関わる実際の活動を通して、知的財産法がビジネスに関わり社会で生きる実態について、理解を深める。学生数名でチームを編成し、エレクトロニクス、医薬品、化学などの企業や官公庁のほか、著作権管理団体、醸造業、ブランド企業などに取材を行うこととし、準備状況と成果を報告する形式で進める。状況が許せば、国際機関や外国の企業や政府機関への取材を取り込む。 事前・事後学習、実習のコーディネート、成績評価は、兼任の教員として、東京大学教授(86 玉井克哉)が担当する。	実習 20時間 演習 20時間
	裁判法務実習	地域の法曹関係者の協力のもと、模擬裁判資料を用いて、公判に関する刑事訴訟法の理論を実践させることで、理論と実務のかかわりについて理解させて、実践力を身につけさせることを目的とする。 学生は、裁判チーム、検察チーム、弁護チームに分かれて、模擬資料を基に、起訴するべき罪名、立証するべき事実、争点の整理などを行ったうえで、関係資料(起訴状、証拠等関係カード、冒頭陳述書)を作成する。模擬裁判当日は、実務家立会のもと、公判手続を進めて、証拠調べ終了後には、論告、弁論を作成し、結審後は、裁判チーム主体で評議を行い、判決を言い渡すところまで行う。 実習地は、基本的に演習室を法廷に見立てて行い、適宜、裁判傍聴を実施する。 事前・事後学習、実習のコーディネート、成績評価は、学部専任教員(12 丸橋昌太郎)が担当する。	実習 20時間 演習 20時間

授 業 科 目 の 概 要					
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)					
科目区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考	
専門科目	実務系科目	法務実習科目	捜査法務実習	長野県警察本部と長野地方検察庁の協力のもと、模擬捜査資料を用いて、学生に、捜査に関する刑事訴訟法の理論を実践させることで、理論と実務の関わりについて理解させて、実践力を身につけさせることを目的とする。 まず、学生は、長野県警の指導の下、実況見分の作成、指紋採取を行う。そして、吉開多一国土館大学教授（元検事）の指導の下、勾留状の作成、証拠物の確認、参考人の聴取、被疑者の取調べを行う。長野地方検察庁の施設の見学も併せて行う。 実習地は、演習室を取調室に見立てて行い、実況見分調書の作成は、信州大学構内の施設を対象にして行う。 事前・事後学習、実習のコーディネート、成績評価は、兼任の教員として、国土館大学教授（88 吉開多一）が担当する。	実習 20時間 演習 20時間
		演習系科目	基礎演習Ⅰ	憲法分野、民法分野（商法含む）、刑法分野の基礎法律分野について、演習形式で理解を深めつつ、プレゼンテーション能力やディスカッション能力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。学生は、各分野に分かれて、現代社会における基本的な問題、時事的な問題を素材に、法的な観点から分析、検討し、自分の意見を整理した上で、他のゼミ生と議論し、最終的には自分の意見を文章の形でまとめる能力を養う。	
基礎演習Ⅱ	基礎専門演習Ⅰに引き継ぎ、憲法分野、民法分野（商法含む）、刑法分野について、演習形式で理解を深めつつ、プレゼンテーション能力やディスカッション能力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。学生は、各分野に分かれて、現代社会における基本的な問題、時事的な問題を素材に、法的な観点から分析、検討し、自分の意見を整理した上で、他のゼミ生と議論し、最終的には自分の意見を文章の形でまとめる能力を養う。				
発展演習科目		行政法演習	行政法分野について、演習形式で発展的な理解を深めつつ、プレゼンテーション能力やディスカッション能力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。 学生は、行政法分野に関する判例、事例問題を素材に、調査・研究、報告をした上で、議論を行うことを通じて、行政法分野に関する理解を深める。		
		刑事訴訟法演習	刑事訴訟法分野について、演習形式で発展的な理解を深めつつ、プレゼンテーション能力やディスカッション能力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。 学生は、刑事訴訟法分野に関する判例、事例問題を素材に、調査・研究、報告をした上で、議論を行うことを通じて、刑事訴訟法分野に関する理解を深める。		
		民事訴訟法演習	民事訴訟法分野について、演習形式で発展的な理解を深めつつ、プレゼンテーション能力やディスカッション能力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。 学生は、民事訴訟法分野に関する判例、事例問題を素材に、調査・研究、報告をした上で、議論を行うことを通じて、民事訴訟法分野に関する理解を深める。		
		倒産法演習	倒産法分野について、演習形式で発展的な理解を深めつつ、プレゼンテーション能力やディスカッション能力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。 学生は、倒産法分野に関する判例、事例問題を素材に、調査・研究、報告をした上で、議論を行うことを通じて、倒産法分野に関する理解を深める。		
		労働法演習	労働法分野について、演習形式で発展的な理解を深めつつ、プレゼンテーション能力やディスカッション能力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。 学生は、労働法分野に関する判例、事例問題を素材に、調査・研究、報告をした上で、議論を行うことを通じて、労働法分野に関する理解を深める。		
		社会保障法演習	社会保障法分野について、演習形式で発展的な理解を深めつつ、プレゼンテーション能力やディスカッション能力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。 学生は、社会保障法分野に関する判例、事例問題を素材に、調査・研究、報告をした上で、議論を行うことを通じて、社会保障法分野に関する理解を深める。		

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 演習系科目 発展演習科目	環境法演習 I	環境法分野について、演習形式で発展的な理解を深めつつ、プレゼンテーション能力やディスカッション能力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。 学生は、環境法分野に関する判例、事例問題を素材に、調査・研究、報告をした上で、議論を行うことを通じて、環境法分野に関する理解を深める。	
	環境法演習 II	環境法演習 I に引き続き、環境法分野について、演習形式で発展的な理解を深めつつ、プレゼンテーション能力やディスカッション能力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。 学生は、環境法分野に関する判例、事例問題を素材に、調査・研究、報告をした上で、議論を行うことを通じて、環境法分野に関する理解を深める。	
	国際政治演習	国際政治経済及び国際開発の分野について、演習形式で発展的な理解を深める。さらにプレゼンテーション能力やディスカッション能力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。学生は、国際社会の課題に関する図書及び雑誌記事・論文などの日本語及び英語文献や報告書を元に、調査・研究、報告をした上で、議論を行うことを通じて、国際政治経済及び国際開発分野に関する理解を深める。外部講師なども依頼し、実務的な能力への理解を深め、インタビュースキルなども身につける。また、英語による学習能力やコミュニケーション能力の向上を目指す。	
	行政学演習	行政学分野について、演習形式で発展的な理解を深めつつ、調査能力、文章作成能力、プレゼンテーション能力やディスカッション能力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。 学生は、行政学分野に関する政策課題を素材に、調査・研究、報告をした上で、議論を行うことを通じて、行政学分野に関する理解を深める。	
	健康・スポーツ・自然演習 I	本演習は、「心身の積極的健康づくり」をテーマに、健康づくりのための運動・スポーツ、また自然環境の中でのレジャー諸活動の理論と実践について演習形式で理解を深めつつ、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力、コミュニケーション能力、そしてコーディネート力を身につけることを目的とする。学生は、健康づくりのための方策を如何にコーディネートすれば人々に実践してもらえるかを調査・研究・報告をし、議論を行うことを通じて、健康・スポーツ・自然に関する理解を深める。	演習 20時間 実習 20時間
	健康・スポーツ・自然演習 II	本演習は、健康・スポーツ・自然演習 I に引き続き、「心身の積極的健康づくり」をテーマに、健康づくりのための運動・スポーツ、また自然環境の中でのレジャー諸活動の理論と実践について演習形式で発展的な理解を深めつつ、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力、コミュニケーション能力、そしてコーディネート力を身につけることを目的とする。学生は、健康づくりのための方策を如何にコーディネートすれば人々に実践してもらえるかを調査・研究・報告をし、議論を行うことを通じて、健康・スポーツ・自然に関する理解を深める。	演習 20時間 実習 20時間
	総合法律学演習 I	本演習では、一つの学問分野に限らず、総合的に解決する力を身につけることを目的とする。 学生は、特定の課題に対して、調査・研究、報告をした上で、議論を行いながら、総合的な解決を目指す。課題は、主として私人間において生じているものを取り上げて、多角的な検討を行う。	
	総合法律学演習 II	本演習では、総合法律学特別演習 I に引き続き、一つの学問分野に限らず、総合的に解決する力を身につけることを目的とする。 学生は、特定の課題に対して、調査・研究、報告をした上で、議論を行いながら、総合的な解決を目指す。課題は、主として都市行政において生じているものを取り上げて、多角的な検討を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 演習系科目 論文科目	卒業論文	学生には大学での勉学の集大成として卒業論文の作成が推奨される。総合法律学科の学生の卒業論文作成の指導は、原則として「基礎演習Ⅱ」または「発展演習科目」の指導教員が務める。4年次に進級した学生で卒業論文の作成を希望するものは、年度の始めに「卒業論文」の履修登録を行い、指導教員と相談して卒業論文作成計画書を作成する。学生は、この計画書のスケジュールに従って卒業論文の進捗状況を定期的に指導教員に報告しながら指導を受け、卒業論文を完成させる。卒業論文の形式要件としては、2万字程度を原則とし、研究領域・内容の性格上字数がこの目安から大きく乖離する場合には、卒業論文作成計画書を作成する段階で事前に指導教員の承諾を得ておく必要がある。その他書式の詳細については、学生便覧で指示する。	
経済系選択科目	ミクロ経済学Ⅱ	「ミクロ経済学Ⅱ」では、市場メカニズムが、効率的資源配分を実現することを学ぶ。しかし、現実の経済社会では、市場メカニズムに調整を委ねるだけで効率的資源配分が実現するとは限らない。その理由は、市場メカニズムの円滑な機能を妨げる要因があるからである。代表的な障害要因の一つが、「情報の非対称性」の問題である。情報の非対称性の問題は、大きく2つに分けられる。「取引前」の情報の非対称性である「逆淘汰」と、「取引後」の情報の非対称性である「モラル・ハザード」である。講義の初めでは、これらの問題を取り上げる上で必要となる「期待効用」や「不確実性下の意思決定」について解説する。その上で、情報の非対称性が引き起こす問題や、その問題を解決するメカニズムについて説明する。	
	マクロ経済学Ⅱ	この講義では、「マクロ経済学Ⅰ」の内容を前提として、長期の経済成長を分析する理論である新古典派成長理論を中心に、マクロ経済学のより上級のトピックを講義していく。最初にソロー・モデル、成長会計を説明し、これらを使って、1950年代から60年代の日本の高度経済成長や、「失われた20年」ともいわれる最近の日本の経済停滞の原因を分析する。次に、家計の消費の最適化の初歩を説明し、これを組み入れた新古典派成長理論が、日本のマクロ経済の動きを上手く説明できるかを分析する。講義を通じて、データを用いてマクロ経済理論を検証することや、理論を用いて現実のマクロ経済を解釈することができるようになることを目指す。	
	ゲーム理論入門	本講義は、ゲーム理論の基礎を身につけることを目的としている。「ゲーム理論」とは、経済や社会におけるさまざまな意思決定と行動の相互依存状況を数理的なモデルと論理を用いて分析する学問である。本講義の目的は、以下の2点を習得することである。1つは日常のビジネスや政策決定の場に応用できる「戦略的思考の技法」として、ゲーム理論を身につけること。もう1つは、近年、経済学や法学を含む社会科学の多くの分野に用いられているゲーム理論を理解できるようになることで、それらの分野の理解を一層深められるようになること。特に、ゲーム理論の基礎である完備情報ゲームとその応用を中心として講義を進める。	
	経営組織論	この講義の達成目標は、経営組織の基礎的な知識の習得と、習得した知識をもとに、組織での意思決定や実際の活動を円滑に行う方法を考えることの2点である。講義ではまず、組織とは何かといった根本の議論からスタートし、組織図を中心とする組織構造、従業員の意識を中心とする組織過程、組織の性格を表す組織文化、組織が変わる瞬間を捉える組織変革などを検討する。さらに、実際の組織での仕事を想定したチームでの仕事についての内容を深めることで、より実践的な講義を行う。	
	財務会計	財務会計は、企業の経営成績や財政状態について財務諸表を通じて、企業外部の利害関係者に報告することを目的としている。本講義では、財務会計の機能、企業会計を取り巻く制度や会計基準について説明したうえで、適正な期間損益計算をするための収益と費用の認識・測定や利益測定、資産評価の基準などの概念について学ぶ。そのうえで、資産、負債、純資産の各項目や連結財務諸表などをとりあげ、企業会計の仕組みの全体像を把握していく。 また、会計は経営と密接な関係にある。そこで本講義では、企業経営と会計との関係がイメージしやすいように、適宜、企業事例や新聞記事をとりあげて説明する。なお、本講義履修にあたっては、「簿記・会計入門」の履修を前提とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	経済系 選 択 科 目	公認会計士実務	公認会計士実務は、現場で活躍する公認会計士によって、企業を取り巻く会計監査に関する実践的な講義が展開される。講義内容は、公認会計士法及びディスクロージャー制度の概要、会計監査に必要な監査論と監査実務について、公認会計士の具体的な業務(監査・FA・税務)などである。	
		社会保障政策論	現在の日本において、政府支出の最も大きな割合を占めているのが社会保障関係費であることは良く知られている。社会保障に限らず、公共の福祉にかかる様々な社会的サービスは、私たちが日常生活の中で利用している社会のセイフティネットといえるしくみである。 この授業は、日本に暮らす私たちの日常生活におけるリスクを管理するセイフティネットのしくみ、すなわち、社会保障、公衆衛生、居住、教育など、公共の福祉にかかるテーマをとりあげ、それぞれの制度が生まれた背景を歴史を遡って整理し、その政策効果を考える。 特に、社会保障政策の理念や機能、制度枠組みなど、基礎的な知識を学んだ上で、公的年金、医療保障制度、介護保険制度、公的扶助、社会福祉などを取り上げて、それぞれの政策が策定された背景、現状と現代の課題を学ぶ。	隔年
		財政学	・現代の経済社会において重要な役割を果たしている財政分野を中心とした経済政策について、その制度の概要と課題を取り上げ、現実の問題点を経済理論と関連付けて解説する。 ・そのため、財政に関する経済理論について解説した上で、我が国における政府活動の諸制度の概要や財政的な課題を紹介し、これらの諸課題について経済理論を応用して説明する。 ・政府活動・財政政策とは何かという問題から、社会保障と税の一体改革やアベノミクスなど時事的な課題まで取り上げる。	
		地方財政	日本の地方財政をテーマに、その経済学的な分析について解説する。地方財政に関する「実態・制度」と、政策の機能等を捉える「理論」双方を扱い、政策の意義や課題について考察する。まず家計・企業などの自由な取引に基づく経済社会の中で「政府の果たすべき役割は何か」(財政の3機能)、さらに「国と地方自治体の役割分担をどのように行うべきか」(機能配分論)に関して基本的な考え方を整理する。その後、歳出面では地方自治体が担うべき政策、歳入面では地方自治体に賦与されるべき税源や、目的に応じた補助金のあり方などについて扱う。	
		経済史	この講義では、経済社会の歴史を主に資本主義経済の勃興と発展を中心に概観する。 現代の経済は、過去から受け継いできた経済の発展の上にある。今日、われわれがそのもとで暮らしている資本主義経済を正確に理解するためには、何よりも過去の経済をある程度知っておく必要がある。この講義では、そうした過去に存在した様々な経済社会を大きな史的枠組み、すなわち1)資本主義社会以前の諸社会、2)16世紀の「大航海時代」からの資本主義経済の勃興、3)19世紀における資本主義経済の確立、4)19世紀後半から第1次世界大戦までの資本主義経済の変容、5)第1次世界大戦以降の現代資本主義、という歴史的な流れに沿って論じる。 講義では、教材として配付資料・教科書を中心に、スライド等も併用する。	隔年
		経営労務論	この講義の達成目標は、経営労務の基礎的な知識を習得し、経営労務の問題を解決する方法論を考えることにある。経営労務は、企業だけでなく、医療や福祉政策などのより広範な社会との関係も深い。例えば、従業員のストレスや長時間労働は、過労死・過労自殺などの過労による疾患に結びつき、医療との関係が深い。また、従業員の待遇に関する議論は賃金や福利厚生に制度に関係するだけでなく、セイフティネットなどの福祉政策にも影響を与える。したがって、経営労務の視点から広く社会への問題にもアプローチする。	隔年
		独占禁止法の経済学	この講義は、独占禁止法の概要、および、競争的な市場環境を維持・促進する観点からより望ましい経済政策を実現する政策について学習を進める。独占禁止法は、経済活動を規律する経済法の核をなす基本法であり、その目的は、競争の促進・維持、消費者の利益保護、および経済の発展にある。そこで本講義では、マイクロ経済学、ゲーム理論、および産業組織の理論で学習する経済学的手法を用いて、望ましい競争政策を見出すことを目的とする。そのうえで、海外および日本の産業構造、競争政策に対して理論的・実証的に分析できるようなこと、また、ニュース・新聞・雑誌などで報じられる記事に対して経済学の視点から分析し、自分の言葉で説明できるようになることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	経済系 選 択 科 目	法と経済学Ⅰ	この講義では、経済学が提供する社会現象・企業行動等に関する理論を用いて、法制度に関わる諸問題を考えることで、直感に頼らず、論理的に社会問題への対応策を検討できるようになることを目指す。商法、会社法といった経済活動に直接関わる法律は、経済学的視点による解釈が、従来の法解釈へ影響を与え始めている。また、従業員の解雇に関連して、解雇規制の存在が雇用環境や企業活動全般へ、どのような影響を及ぼすのか、経済学分野で議論が展開されている。そこで、情報の経済学やゲーム理論といったミクロ経済理論の分析手法を用いて、企業金融や企業統治、解雇規制、知的所有権などのトピックスを取り上げ、法制度解釈への経済学の応用例を紹介していく予定である。	
	法と経済学Ⅱ	「法と経済学Ⅰ」で学んだ基礎知識を応用して、社会が直面している法的問題について検討を行う。社会的な問題の解決策を探る上で、経済学を基にする利点は、経済学的分析の特徴として、目の前の問題に対する直接的な解決策を考えるだけでなく、一つの解決策が周辺に及ぼす波及効果・副作用までも含めて検討できることにある。具体的に取り上げるトピックスは、株主保護の問題に関連して、買収防衛策導入の影響、少数株主保護、株主代表訴訟の効果、また、債権者保護と倒産処理法制の在り方、さらに、解雇権濫用の法理が労働市場にもたらした影響などである。この講義を通じて、ミクロ経済学の分析手法を活用することで、現実の事例の解決策を探る応用力を養うことを目指す。	隔年	
	医療制度論	医療は情報の非対称性を回避することができないので、さまざまな規制が存在する。そこで本講義では、医療サービスの需要側、供給側に対する規制を紹介し、それらを整理しながら望ましい医療制度のあり方を考察する。具体的には、需要側の規制として、まず全国民が強制的に加入させられる医療保険制度と、高齢者の医療制度の仕組みを概説する。次に、供給側に対して課される規制として、医療法・医師法、医療職の免許制度と、施設基準、診療報酬制度・薬価基準を議論し、それらの長所短所を整理する。		
	社会政策論	社会政策とは、個人のみでは解決できない社会問題を解決するための公共政策であり、社会保障、社会福祉、労働問題、労使関係をはじめ、教育学やジェンダー研究、生活問題といった課題群(カテゴリー)から構成されている。この授業では、少子高齢化が社会問題化することになった1970年代以降を射程に、主に日本における社会問題の実情を知り、問題解決に向けた社会政策の制度体系を学ぶことになる。 この授業は、1.社会政策が直面する少子高齢化の現状と課題、社会政策の体系、福祉国家の類型を概観し(社会政策概論)、2.典型的な労働問題を取り上げながら労働市場政策を学び(労働問題と社会政策)、3.制度ごとに構成された生活支援の基本的な枠組みを学ぶ(生活保障と社会政策)、以上の3部構成となる。		

授 業 科 目 の 概 要			
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 経済系選択科目	健康政策論	<p>健康づくりに関する諸施策は、個人の健康面の改善効果のみならず、日本の社会保障制度を持続可能なものに変えていくためにも、現在重要な位置づけにあるといえる。さらに、健康づくりに関する諸施策は、個別の社会保障制度が対象とする課題を超えて、ソーシャルキャピタルの育成にかかる基礎自治体を始めとするまちづくりや地域づくりに関する諸政策に強い影響を及ぼしつつある。</p> <p>健康政策論では、健康づくりに関する諸施策の今日的課題のいくつかにテーマを絞り、健康づくりと福祉のまちづくりにおける公共政策が抱える現状と課題を学ぶ。</p> <p>この授業は、専任教員2名（井上信宏、増原宏明）、兼任教員3名（古屋顯一教授〔総合法律学科〕、中澤勇一准教授〔医学部医学科地域医療推進学講座〕、関口健二特任教授〔医学部附属病院総合診療科〕）がオムニバス方式で担当し、途中でゲスト講師を招聘する。それぞれの担当は、次の通りである。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(43 井上信宏/3回) イントロダクション、福祉のまちづくり等</p> <p>(69 増原宏明/3回) イントロダクション、医療と介護の連携による社会保障コストの削減等</p> <p>(2 古屋顯一/2回) ヘルスプロモーションにおけるスポーツの役割</p> <p>(48 中澤勇一/2回) 地域医療推進の現状と課題</p> <p>(45 関口健二/2回) 総合診療の促進における現状と課題</p> <p>このほかに、基礎自治体における健康政策の推進について（ゲスト講師、1回）、基礎自治体におけるソーシャルキャピタル育成の取り組みについて（ゲスト講師、1回）、高齢者の在宅介護の推進の現状と課題（ゲスト講師、1回）などを実施する。ゲスト講師の回は、専任教員が担当する。</p>	隔年 オムニバス方式
	情報処理A	<p>社会の様々な分野で有用な表計算ソフトをより高度に使いこなすことを目指す科目である。具体的には、現在のde facto standard表計算ソフトであるExcelのマクロを記述するプログラミング言語VBAの文法について学ぶ。現在、VBAの使用頻度は非常に高いと言われている。VBAで記述するExcelマクロを使用することで、定型化した処理の自動実行、条件分岐処理、反復処理などの利用が可能となり、表計算ソフトの利便性が向上する。VBAの文法を学ぶとともに、具体的なデータへの適用を、学生が所持するノートパソコンを使って確認しながら、より段階的に高度な内容へと進行する。</p>	
	情報処理B	<p>コンピュータの高度な活用を通して、デジタル情報処理の仕組みが理解できる。</p> <p>多くのプログラミング言語の基本となった言語がC言語であり、現在も実用的に使用される場面が多く、最も普及している言語の一つである。また、プログラミングの学習用にも適した言語と言われている。本科目の目的は、C言語によるプログラミングの基本を学ぶことである。この科目で基本文法を習得すれば、他の言語への応用も可能となる。文法を習得しながら、学生が所持するノートパソコンにインストールしたCコンパイラを使用して入力から実行までの操作も行い、理解を深める。</p>	
	現代産業論	<p>この講義は前身の信州大学経済学部時代の1988年から「産業論特論」の名称で毎年開講してきた講義で、平成26年度までで27年目の開講を数えた。新学部でもこれを引き継ぎ、新たに「現代産業論」の名称で開講するものである。この講義の内容は、毎年現代産業に係るテーマを設定し、そのテーマに関して日本の産業活動をリードする企業人や政府等の政策担当者からオムニバス方式形式で講義を組み立てる方法で開講するものである。対象となる産業分野はその年度のテーマによるが、これまでの累積では製造業のほかに、建設業、不動産業、流通業、食品産業、エネルギー産業、金融業などと多岐に渡っている。近年のこの講義で取り上げたテーマとしては、平成24年度が「大災害の経験と教訓」、平成25年度が「企業のグローバル化戦略と経済連携協定の課題」、平成26年度が「リスク社会への備えー保険と社会保障を中心として」であった。講義の進め方は、前半がゲスト講師による講義、後半が質疑応答、レポート作成となっている。授業のコーディネイトと毎回のレポート採点による成績評価は学部専任教員（33 山沖義和、34 徳井丞次）が担当する。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	経済系選択科目	現代職業論	<p>実社会において職業上担うべき責務とは何か、求められる役割とモチベーションの持続を以下に継続し得るかについて、現実直面する前に真摯に検討させる。その一助として、本学部卒業生をゲスト講師に迎え、在学時の学習状況、就職活動及び実社会に出てからの職業体験、現在の職場・仕事内容等を披歴することで、キャリア形成観の育成を涵養するとともに、本学部の目標とする、学士として得た能力を即戦的に現場で応用できる職業人のイメージを喚起する。ゲスト講師は多岐に亘る産業、職種の中から活躍の場を広げている有意な人物を選出する。</p>	
	経営者と企業	<p>本講義は、信州大学が所在する長野県を拠点に活躍する企業の経営者から自社の発展と今後の課題を語ってもらい、学生に地元企業の魅力とそれを指揮する経営トップの活力に触れてもらうことを目的として、前身の経済学部時代(2000年)から開設し毎年継続してきた科目である。長野県内には40社ほどの上場企業と裾野の広い中堅・中小企業が多数存在し、そのなかには最近注目されているグローバル・ニッチトップ企業と呼べるような会社や、業態を変えながら数百年事業を継承してきた会社など特色ある企業が多数含まれる。学生がこの科目を履修することによって、こうした地域や世界で活躍する地元企業経営者から経営課題を聴いて経済学・経営学分野の諸科目で学んだ概念やものの見方の具体的な応用場面に気づくことができる教育効果に加えて、地元企業の「隠れた」魅力に接することによって将来地域創成を担う人材育成にも資するところがあるものと期待される。この授業は、長野県経営者協会からの協力を得て複数の企業に依頼し、その経営者をゲスト講師としてオムニバス方式形式で講義を行うものである。毎回の授業は講師による講義、質疑応答、講義内容に基づくレポート提出からなる。授業のコーディネーターと毎回のレポート採点による成績評価は学部専任教員(34 徳井丞次, ② 関利恵子)が担当する。</p>	共同	
キャリアデベロップメント科目	ボランティア	<p>安全で平穏な社会生活には近隣などの助け合いも不可欠である。また自分にできる社会貢献を見出すことは自己発見でもある。東北震災復興支援、信大附属託児所、自然保全活動、福祉関連NPO法人などさまざまな地域・社会課題に取り組む非営利団体・活動にボランティア人材として自発的に関わることを通じて、<共助>を理解し自己発見にもいたることを目的とする。「交流系科目部会」教員が指導・運営(単位認定)にあたる。合同説明会(4月)に出席し、事前レポート登録を経て、夏期などに原則60～80時間、ボランティア活動に従事し(無償)、ボランティア活動実施証明を付したレポート(4000字)に合格し、発表会(12月)に参加することを義務付ける。</p>	共同	
	インターンシップ	<p>企業・公務職場などの組織における就業体験をもとに単位を認定する。「交流系科目部会」教員がその指導・運営(単位認定)にあたる。合同説明会(4月)を経て、事前レポート登録を行い、夏期などに原則60～80時間、体験就業(無償)に従事し、インターンシップ修了証明を付した事後レポート(4000字)に合格し、発表会(12月)に参加することを要する。</p>	共同	
	Global Political Economy	<p>グローバル化の進展の中で、国際社会が直面する課題について学習する重要性が増している。また、社会で仕事をする上で、実用的な能力としての英語力を向上させる必要性も増している。この授業では、貧困と開発、国際経済秩序、安全保障、環境問題など国際政治経済の課題について、主に英語教材を使用し学習する。基礎的な国際社会の課題を理解すると共に、社会科学を学ぶための英語能力の向上を目的とする。少人数の参加型の授業を通じて、情報収集・分析、プレゼンテーション、文章作成能力を向上させる。</p>		
	Global Business	<p>本演習は、グローバルビジネスにおいて重要視されている概念、分析手法、戦略、戦術などを、主にマーケティングの観点から学ぶことを目的とする。本演習ではまた、グローバル市場で活躍する上で不可欠な概念の理解と、スキルの構築に焦点を置く。履修者はこの演習を通じて、日本および世界で活躍している組織および個人による最新のビジネス活動について学び、事例研究を行う。毎回の演習に備えて履修者は、学内および学外における多岐にわたる調査活動、ディスカッションに向けた事前学習の実施が必要となる。この演習では、履修者個々の文化的・経済的・社会的観点を生かし、共に学ぶ履修者とネットワークを構築しながら、様々なグループ活動を通じて学ぶことが期待される。毎回の演習は、講師による講義、質疑応答、講義内容に基づくディスカッション、プレゼンテーションの実施、小テストと期末テストから構成されている。</p>		

授 業 科 目 の 概 要				
(経法学部総合法律学科 都市・行政法務コース)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	キャリア ア デ ベ ロ ッ プ メ ン ト 科 目	American Law and Society	アメリカの法と公共政策について学ぶ。日本社会とは異なる法・政策の体系とアプローチを学ぶことにより、日本社会の法・政策の特徴を理解する。学術研究教育交流協定を結んでいるハワイ大学ロースクールと行政学プログラム (Public Administration Program) より客員教授を招聘し、夏期の集中講義期間に行う。講師は毎年交代し、様々な法と公共政策の専門分野の科目を開講する。英語で授業を行い、英語での学習能力を向上させる。授業は、アメリカの法や公共政策教育で行われる参加型のアクティブ・ラーニングスタイルで行う。授業のコーディネーター、ガイダンス、学生に対するサポートは、学部専任教員 (① 美甘信吾) が担当する。	集中
		海外短期演習	ハワイ (アメリカ) 社会・政治経済制度について学び、地域振興や多文化共生など地域社会が直面する課題について理解を深める。海外の大学での学習体験を通じ、異文化理解を促進し、英語学習を奨励する。海外研修の効果を高めるために英語学習や日本語での基礎知識の習得など事前学習を行う。ハワイ大学での授業、フィールドトリップ、報告書作成を通じて、経済学・政治学の基礎知識の体系的理解、社会における課題発見力と行動力、言語 (英語) 能力、コミュニケーション能力、自己管理能力、チームワーク力、リーダーシップを身につける。	集中 演習 54時間 実習 12時間